

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

石川工業高等専門学校



## 目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	25
	基準3 教員及び教育支援者	61
	基準4 学生の受入	109
	基準5 教育内容及び方法	141
	基準6 教育の成果	309
	基準7 学生支援等	373
	基準8 施設・設備	477
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	523
	基準10 財務	577
	基準11 管理運営	601



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 高等専門学校名 石川工業高等専門学校  
 (2) 所在地 石川県河北郡津幡町北中条タ1  
 (3) 学科等の構成

学科： 機械工学科，電気工学科，電子情報工学科，  
 環境都市工学科，建築学科

専攻科： 電子機械工学専攻，環境建設工学専攻

- (4) 学生数及び教員数 (平成 19 年 5 月 1 日現在)

学生数 単位：人

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	42	41	43	38	41	205
電気工学科	42	43	44	45	42	216
電子情報工学科	42	42	43	40	34	201
環境都市工学科	41	48	38	45	38	210
建築学科	42	40	43	42	42	209
計	209	214	211	210	197	1041

専攻科課程	1年	2年	計		計
電子機械工学専攻	17	13	30	男子	828
環境建設工学専攻	10	11	21	女子	264
計	27	24	51	総計	1092

教員数 単位：人

	教授	准教授	講師	助教	計
一般教育科	9	10	4	0	23
機械工学科	4	4	2	1	11
電気工学科	3	5	0	2	10
電子情報工学科	4	3	3	0	10
環境都市工学科	5	3	2	2	12
建築学科	4	3	2	1	10
計	29	28	13	6	76

### 2 特徴

石川工業高等専門学校は(以下本校という)は、高専制度創設第 4 期校として昭和 40 年 4 月に設置された。開校時は機械工学科，電気工学科，土木工学科の 3 学科であったが昭和 45 年度には建築学科が設置されて 4 学科体制となり，さらに昭和 62 年度には電子情報工学科が設置されて現在の 5 学科体制となった。建築学科は，北陸地区

の高専では唯一本校だけに設置された学科である。

平成 6 年度には土木工学科が環境都市工学科へ改組し，また，高専の特色を生かした高度な実践的工学教育を実施するため平成 12 年度に 2 年間の専攻科を設置した。平成 17 年度には，日本技術者教育認定機構 (JABEE) から，工学(融合複合・新領域)関連分野において，本校の教育プログラムが基準に合致するとして認定された。

本校は教育の基本理念として「人間性に富み，創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」を掲げ，準学士課程においては，理論的な基礎の上に立っての実験・実習，実技を重視した実践的技術者教育，少人数クラス編成によるきめ細かな指導，創造性・積極性ととも国際性等を育む教育を行っている。

また，専攻科課程では，近年の科学技術の高度化，情報化，国際化に対応できるより高度な専門知識と技術を身につけた研究開発型技術者を養成するための教育を行っている。特に，平成 18 年度からは，3 ヶ月の長期インターンシップを，専攻科 1 年生で開始し，事前・事後教育，創造工学演習などによる教育により，専門分野に関するより高度な技術と専門分野以外の幅広い知識を修得し，創造的な技術開発や先端技術にも対応でき，複眼的視野が持てる技術者を育成している。

さらに，総合技術開発能力のある学生の育成と地域産業界等との共同研究・技術交流により，本校の教育研究活動の一層の推進を図ることを目的として，平成 12 年度に，地域共同教育研究施設であるトライアル研究センターを創設した。

平成 18 年 1 月には地元の津幡町と連携協定を結び，産業の発展ならびに地域振興に関すること，生涯学習の推進に関すること，初等，中等教育及び高等教育の推進に関すること，学術・文化活動の充実に関することなどへの貢献の他，河北潟環境対策期成同盟会夢みらい研究会への参画などの活動を展開している。

さらに平成 19 年 1 月には中国の杭州職業技術学院と学術交流に関する連携協定を締結し，国際的にも活動の場を広げている。

学内では e-learning 学習環境の充実や，平成 19 年度における科学研究費補助金の交付額が高専で第 1 位，採択件数で第 2 位になるなど，教育・研究の両分野において優れた成果を残している。

## II 目的

本校の基本理念，教育理念，そして教育目標は，平成 16 年 4 月からの独立行政法人化を前に，中期目標・中期計画策定委員会において確認と見直しを含めた検討が行われた。すなわち，教育研究の高度化，個性化，活性化を目的に導入される競争的環境の中で，高等教育機関として学生に対し，また社会に対して何をどのようになさねばならないかについて原点に立ち返り議論を重ね，本校の基本理念，教育理念，本科および専攻科の教育目標が定められた（自己点検評価書第 4 報）。その後，日本技術者教育認定機構（JABEE），大学評価・学位授与機構が定める評価の動向を睨みながら，平成 18 年度の新たな学習目標の設定に伴い，教育目標は，養成すべき人材像として位置づけることになった。

### 1 石川高専の使命

本校はその使命として「石川工業高等専門学校は，人間性に富み，創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」を基本理念として掲げている。

### 2 石川高専の教育理念および養成すべき人材像

石川高専の教育理念と養成すべき人材像は次の通りである。教育理念は，技術者・工学者としてあるべき姿を示すものとして作成され，本校の教育活動はこれを達成すべく展開されるものである。また，養成すべき人材像は，教育理念をさらに具体的に明示したものであり，これらのうち(1)，(2)は教育理念 1 に，(3)，(4)は教育理念 2 に，(5)～(8)は教育理念 3 に，(9)，(10)は教育理念 4 に対応して定められたものである。

#### ○ 石川工業高等専門学校の教育理念

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

#### ○ 養成すべき人材像

- (1) 幅広い視野を持ち，国際社会や地球環境を理解できる技術者
- (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3) 問題や課題に取り組み完遂するための気概と指導力，協調性を備えた技術者
- (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で，十分な意欲を持つ技術者
- (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解，問題の発見，課題の設定・解決）を持つ技術者
- (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し，発表し，討議する能力を持つ技術者
- (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

### 3 石川高専の学習目標（卒業（修了）時に身に付ける学力，資質・能力）

石川高専の学習目標は教育理念に比して分かりやすく，達成可能，かつ，それを検証できるものとして，平成 18 年 1 月に将来構想計画委員会において提案された。これらは従来の教育目標を踏まえ，本校の教育理念に沿って定め

られたものである。平成 19 年度のアドミッション・ポリシーの策定、入学予定者への周知などは、この新たな学習目標に基づいて行われた。

○ 準学士課程の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

○ 準学士課程の各学科の学習目標

機械工学科： 材料，エネルギー，計測制御，生産加工などの知識と技術を習得し，広い分野における「ものづくり」に応用することができる。

電気工学科： エネルギー，エレクトロニクス，制御，通信，コンピュータなどの知識と技術を習得し，「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

電子情報工学科： 情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し，システム設計・開発を行うことができる。

環境都市工学科： 暮らしを支える施設の整備，防災，環境保全に関する知識を習得し，より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。

建築学科： 建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し，住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

○ 専攻科課程の学習目標

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り，たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し，修得した技術に関する知識や理論によって解析し，解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち，社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして，地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ，論理的な記述・発表ができる。

○ 専攻科課程の各専攻の学習目標

電子機械工学専攻： 機械，電気，電子，情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し，修得した技術を活用することができる。

環境建設工学専攻： 快適な生活空間を設計する居住計画，都市計画などの専門分野に関する生活・住環境に優しい技術と専門以外の幅広い知識を修得し，修得した技術を活用することができる。

この自己評価書の以下の部分は，平成19年4月に行われたアンケート結果など，新たなデータ以外は平成18年4月1日時点の資料に基づいて作成した。平成19年に入っていくつかの委員会の改称があったが，本自己評価書の内容に大きな影響がないものについては昨年度の名称のまま用いた。ここに引用した活動のほとんどが昨年度以前取り組んだものだからである。

## 基準ごとの自己評価

### 基準 1 高等専門学校の目的

#### (1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - 1 : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

#### 1) 石川工業高等専門学校の目的と使命(基本理念)

本校は、その使命として基本理念「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」を掲げている(資料 1-1-1)。

資料 1-1-1 : 石川工業高等専門学校の使命

資料 1-1-1 : 石川工業高等専門学校の使命

#### 1-1 基本理念

人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関

(出典：学校要覧)

#### 2) 石川工業高等専門学校の基本方針(教育理念および養成すべき人材像)

本校の教育上の基本方針は、教育理念によって次のように定められている。

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

この教育理念に沿って、これを具体化した 10 項目の養成すべき人材像が定められている(資料 1-1-2)。

資料 1-1-2 : 石川工業高等専門学校の基本方針



## 資料 1-1-2 : 石川工業高等専門学校の基本方針

## 1-2 教育理念・養成すべき人材像

## 1-2-1 教育理念

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

## 1-2-2 養成すべき人材像

1. 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
2. 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
3. 問題や課題に取り組み完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
4. 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
5. 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
6. 自ら問題を解決する能力（事象の理解，問題の発見，課題の設定・解決）を持つ技術者
7. 学習や研究の成果を論理的に記述し，発表し，討議する能力を持つ技術者
8. 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
9. 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
10. 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

(出典：学校要覧)

## 3) 石川工業高等専門学校が達成しようとしている基本的な成果（準学士課程の学習目標）

教育理念および養成すべき人材像は、教育活動を行う上で各教員が目指すべき指針であり、学生ひとりひとりが身につけるべき資質を含んだ、より包括的かつ高邁なものである。

そこで、教育理念を踏まえて、各学生が卒業までに身につけるべき資質として、達成可能であり、かつ達成状況が把握できるものとして準学士課程の学習目標（資料 1-1-3）、専攻科課程の学習目標（資料 1-1-4）が定められている。準学士課程の学科ごとの学習目標、専攻科課程の専攻ごとの学習目標については基準 2 で述べる。

資料 1-1-3 : 準学士課程の学習目標

資料 1-1-4 : 専攻科課程の学習目標

## 資料 1-1-3 : 準学士課程の学習目標

## 1-3-1 準学士課程の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

(出典：学校要覧)

## 資料1-1-4：専攻科課程の学習目標

## 1-3-3 専攻科課程の学習目標

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(出典：学校要覧)

(注意) 以上の資料はその台帳というべき総務課保管資料から転記したが、出典としてはできるだけ広く公表されている文書を示した。以下、本自己評価書は基本的にその考えで作成する。

## (分析結果とその根拠理由)

以上のように、本校の使命としての基本方針、教育研究活動を実施する上での基本方針としての教育理念および養成すべき人材像、達成しようとしている基本的な成果として準学士課程と専攻科課程の学習目標が明確に定められている。

観点1-1-1：目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

## (観点に係る状況)

## 1) 学校教育法と石川工業高等専門学校の学則

学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」に対して、本校の学則には、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的とする」と定められている(資料1-1-1)。

## 資料1-1-1：学校の目的

## 資料1-1-1：学校の目的

## 第1章 目的

## (目的)

第1条 石川工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和22年法律第26号)及び独立行政法人国立高等専門学校機構法(平成15年法律第113号)に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的とする。

(出典：石川工業高等専門学校学則)

## 2) 本校の教育の目的と学校教育法第 70 条の 2 との対応

本校の教育理念，準学士課程ならびに専攻科課程の学習目標と学校教育法第 70 条の 2 に述べられた内容との対応関係を表に示す。ただしこの表の中の，たとえば準学士課程の学習目標の「1．基礎学力と専門的知識」は深く学芸を教授する目的として分類したが，同時に職業として必要な能力でもあることは明白である。ここでは比重が大きいと思われる方に分類してある。

## 【教育理念】

	深く専門の学芸を教授	職業に必要な能力を育成
1	豊かな教養	誠実な人間性
2	創造的な能力と意欲	
3	高度な科学技術への対応	実践力
4	国際的な視野	地域社会への関心

## 【準学士課程の学習目標】

	深く専門の学芸を教授	職業に必要な能力を育成
1	基礎学力と専門的知識	
2	意欲的・実践的な課題解決への取組	課題解決に最後まで取り組む姿勢
3	幅広い視点からの自らの立場の理解	社会や環境に配慮
4	自分の考えの正しい表現	公正な意見の交換

## 【専攻科課程】

	深く専門の学芸を教授	職業に必要な能力を育成
A	科学技術や情報を利用	デザインし創造する喜びとたゆまない努力
B	技術に関する知識や理論による解析	問題の発見・提起・解決
C	国際社会を多面的に考える教養と語学力	社会や自然環境への配慮
D	実践的な体験	地域の産業や社会が抱える課題への対処
E	チ・ムプロジェクトに必要な計画性	論理的な記述と発表

## (分析結果とその根拠理由)

本校の学則には石川工業高等専門学校が定める目的が学校教育法第 70 条の 2 に沿ったものとして定められ，基本理念および準学士課程と専攻科課程の学習目標のそれぞれが学校教育法第 70 条の 2 に述べられている「深く学芸を教授」し「職業に必要な能力を育成」に適合していることが示されている。したがって本校の目的は，高等専門学校が一般に求められる目的にはずれたものではない。

観点 1 - 2 - : 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

この観点では学内全体に向けた周知方法，教職員への周知方法と周知状況の把握，学生への周知方法と周知状況の把握にしたがって説明する。

1) 学内全体に向けた周知方法

本校の教育の目的は，本校の主要な場所への掲示およびシラバスへの記載によって，本校の教職員ならびに学生への周知を行っている。

学習目標は各クラスや校内各所に掲示され，周知が図られている（資料 1-2-1）。また平成 19 年度のシラバスには学習目標が掲載されている（資料 1-2-2）。さらに，準学士課程の 4 つの学習目標および専攻科課程の 5 つの学習目標は下のように簡潔かつ分かりやすく要約・掲示し，周知を図っている。

【準学士課程】

1. 基礎学力と専門知識
2. 課題の解決
3. 社会と環境
4. 表現と対話

【専攻科課程】

- A. デザインと創造
- B. 問題の提起と解決
- C. 国際性と環境
- D. 地域社会への対処
- E. 計画性と発表

資料 1-2-1：学習目標の学内への周知

資料 1-2-2：学習目標のシラバスへの記載

資料 1-2 - 4 : 学習目標の学内への周知

## 準学士課程の学習目標

### 1. 基礎学力と専門知識

技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける

### 2. 課題の解決

意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる

### 3. 社会と環境

幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる

### 4. 表現と対話

自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる

## 専攻科課程の学習目標

### A. デザインと創造

科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、**たゆまず努力**することができる

### B. 問題の提起と解決

問題を発見・提起し、修得した技術に関する**知識や理論**によって解析し、解決までできる

### C. 国際性と環境

国際社会を**多面的に考えられる**教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる

### D. 地域社会への対処

**実践的な体験**をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる

### E. 計画性と発表

**チームプロジェクト**等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(出典：学習目標揭示用印刷物)

## 資料 1-2- 2: シラバスへの学習目標の記載

## □ 本科（準学士課程）の学習目標

- 1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

## 【機械工学科】

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、広い分野における「ものづくり」に応用することができる。

## 【電気工学科】

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータなどの知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

## 【電子情報工学科】

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。

## 【環境都市工学科】

暮らしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。

## 【建築学科】

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

## □ 専攻科課程の学習目標

- A) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

## 【電子機械工学専攻】

機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

## 【環境建設工学専攻】

快適な生活空間を設計する居住計画、都市計画などの専門分野に関する生活・住環境に優しい技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

(出典：平成19年度シラバス)

2) 本校の教職員への周知

まず総合企画会議において学習目標が定められ（平成 18 年 5 月 10 日，資料 1-2-3），主任会議で了承された（5 月 17 日，資料 1-2-4）。この過程において，各学科主任を通して教員への周知，および各課長を通じて事務職員への周知がなされている。さらに，主任会議の翌週の教員会議において，資料とともに全教員に対して学習目標の決定通達と内容説明がなされた（5 月 24 日，資料 1-2-5）。

平成 19 年度の教員手帳には学習目標を含む本校の目的が明記され（資料 1-2-6），携帯用の教育理念・目標カードも配布された（資料 1-2-7）。

資料 1-2-3：学習目標の制定

資料 1-2-4：主任会議における学習目標の決定

資料 1-2-5：教員会議における学習目標の説明

資料 1-2-6：教員手帳による本校教員への周知

資料 1-2-7：教育理念・目標カードによる本校教職員への周知

資料 1-2-3：学習目標の制定

平成 18 年 5 月 10 日

総合企画会議資料

石川工業高等専門学校の教育理念(養成すべき人材像)及び学習目標について

(経緯)

平成 19 年度に大学評価・学位授与機構による本校の認証評価受審を控え，制定済の本校教育理念・教育目標を見直し，「教育目標」を「養成すべき人材像」に改めるとともに，新たに「学習目標」を設けることとした。（平成 18 年 4 月 12 日開催将来構想計画委員会決定）

(説明)

(略)

石川工業高等専門学校の教育理念

(略)

(養成すべき人材像)

(略)

石川工業高等専門学校の学習目標

(略)

(出典：総合企画会議資料)

## 資料 1-2-4：主任会議における学習目標の決定

平成 18 年度第 2 回主任会議議事要録

日 時：平成 18 年 5 月 17 日（水） 午後 1 時 40 分から午後 5 時 45 分まで

場 所：校長室

（中略）

## ・協議題

(1) (略)

(2) 教育理念及び学習目標について

資料 8 及び配付資料に基づき、阿蘇 認証評価部会長から、「学習目標」設定の経緯及び認証評価についての説明があり、協議の結果、原案どおり了承し、また、次週の教員会議において阿蘇部会長からの説明により周知徹底を図ることとなった。

（出典：主任会議議事録）

## 資料 1-2-5：教員会議における学習目標の周知

平成 18 年度第 2 回教員会議議事要録

日 時 平成 18 年 5 月 24 日（水） 16 時から 17 時 10 分まで

場 所 大会議室

出席者 69 名

欠席者 6 名（在外出張 1 名含む。）

陪席者 事務部長，総務課長，学生課長，企画室長，総務課課長補佐，学生課課長補佐

幹 事 総務係長

（中略）

## ・その他

(1) 認証評価について

一般教育科・阿蘇認証評価部会長から、席上配布資料に基づき、新たな学習目標設定の経緯及び認証評価への対応について、説明及び協力依頼があった。

(主な説明・質問)

- ・ 認証評価自己評価書の作成が特に重要であり、作成に向け様々な形で協力願いたい。
- ・ 試験答案等のエビデンスについては、J A B E E と連動しているため、詳細が決定後に周知する予定である。
- ・ 認証評価関連で講演会を計画しているので参加願いたい。

（出典：教員会議議事録）



## 資料 1-2-6 : 教員手帳による本校教員への周知

## 教育理念・目標

## 1. 教育理念

- (1)豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
- (2)創造的な能力と意欲を育む教育
- (3)高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
- (4)地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

## 2. 養成すべき人材像

- (1)幅広い視野を持ち、国際社会や地域環境を理解できる技術者
- (2)社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3)問題や課題を完遂するための気概と指導

## 3. 本科（準学士課程）の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

## 【機械工学科】

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、広い分野における「ものづくり」に応用することができる。

## 【電気工学科】

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータなどの知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

(出典：教員手帳学習目標(一部))

## 資料 1-2-7 : 教育理念・目標カードによる本校教職員への周知

## 教育理念・目標カード

石川工業高等専門学校  
ISHIKAWA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

## 教育理念

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

## 準学士課程の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

## アドミッション・ポリシー

1. 石川高専に適する人は  
高専は、たくさんの人と協力してものづくりができる人の育成を目指しています。次のような人に向いているといえるでしょう。  
(1) ものづくりに興味があり、与えられた課題などに積極的に取り組む人  
(2) 社会のルールを守り、向上心を持って学生生活を過ごす人  
(3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したいと考えている人
2. 石川高専に入学するには  
石川高専の入学選抜試験には推薦選抜と学力選抜があります。石川高専に入学するには次のことが必要とされています。  
(1) 中学校で学んだことを身につけている人  
(2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人  
(3) いろいろな問題に出会ったとき、自分で答えを探そうとする人

※その他に、学科ごとのアドミッション・ポリシー、編入学や専攻科のアドミッション・ポリシーが定められています。

(出典：教育理念・学習目標カード)

## 3) 本校の教職員への周知状況の把握

本校はすべての科目のシラバスに、学習目標のうちどの資質を身につけさせるべく授業を行うか、ということに記載し、最初の授業において、これを担当教員から学生に説明することになっている（以上の資料は後出 1-2-10, 11）。そのため各教員は、担当科目の学習目標の設定に際して学校の学習目標を理解する必要があり、教員の学習目標の周知度は高いと思われる。同時に事務職員および技術職員についても伝達がなされた。

学校側がその周知度を把握するために学習目標周知状況調査アンケートを行った。アンケート項目とその結果を示す（資料 1-2-8, 9）。非常勤講師の専攻科の学習目標についての認識が低いですが、これは専攻科の科目のほとんどを常勤が担当しているためである。事務職員および技術職員への周知状況は低いと言わざるをえない。昨年度に定めて本格的な周知活動が今年度にずれ込んだ学習目標に比べ、従来から定めてあった基本理念および教育理念の周知状況の方がやや高い数値を示していることを考えると、周知状況が低い理由として学習目標の設定が遅かったためと考えられる。

資料 1-2-8：学習目標の教員への周知状況の把握

資料 1-2-9：目的の本校教職員への周知状況

## 資料 1-2-8：学習目標の教員への周知状況の把握

## 1. 学校の目的の周知について

基本理念，教育理念を「ある程度知っている」はそのうち1ついうことができる程度とし，2つ以上言える場合には「よく知っている」としてください。学習目標を「ある程度知っている」は自分の授業科目に関連した学校の学習目標のキーワードが言える程度として下さい。それ以外のキーワードが言える場合には「よく知っている」としてください。

- (1.1) 本校の基本理念を知っていますか。
- (1.2) 本校の教育理念を知っていますか。
- (1.3) 本校の教育理念を具体的に書き下した10項目の養成すべき人材像を知っていますか。
- (1.4) 準学士課程の学生が卒業時に身に付けるべき4項目の学習目標を知っていますか。
- (1.5) 専攻科課程の学生が修了時に身に付けるべき6項目の学習目標を知っていますか。

以上の項目について次の4つのうちからの選択

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. まったく知らない  | 2. あまり知らない |
| 3. ある程度知っている | 4. よく知っている |

(出典：教職員への学習目標周知度調査項目，平成19年4月)

## 資料 1-2- 9：目的の本校教職員への周知状況

教育の目的等周知状況							
(常勤教員)							
	1	2	3	4	合計	平均	
1.1	基本理念	2	4	30	30	66	3.3
1.2	教育理念	1	1	27	38	67	3.5
1.3	養成すべき人材像		10	36	23	69	3.2
1.4	準学士課程学習目標	1	4	23	40	68	3.5
1.5	専攻科課程学習目標	2	4	34	26	66	3.3
(非常勤教員)							
	1	2	3	4	合計	平均	
1.1	基本理念	2	3	18	4	27	2.9
1.2	教育理念	1	3	19	4	27	3.0
1.3	養成すべき人材像	3	8	15	3	29	2.6
1.4	準学士課程学習目標	1	13	8	5	27	2.6
1.5	専攻科課程学習目標	2	13	8	1	24	2.3
(常勤事務職員)							
	1	2	3	4	回答数	平均	
	基本理念	1	16	13	3	33	2.5
	教育理念	1	14	15	3	33	2.6
	養成すべき人材像	3	17	10	2	32	2.3
	準学士課程学習目標	2	17	11	2	32	2.4
	専攻科課程学習目標	5	17	8	3	33	2.3

(出典：教職員への学習目標周知度調査結果)

## 4) 本校の学生への周知方法

学生への学習目標の周知は、年度当初に配布される学生便覧への明記によっている。すでに説明したように、各クラスへの学習目標の掲示およびシラバスへの記載も行っている。

前述したように、各科目は、学校の学習目標を達成するために科目ごとの学習目標を定めることになっており、各科目のシラバスに明記されている(資料 1-2- 10)。この周知を図るために、年度初めの授業時間において、各科目の学習目標と関連した学校の学習目標の説明をすることになっている(資料 1-2- 11)。このため、科目の目標を設定する作業およびその説明の実施によって、学生ばかりでなく、非常勤講師を含めた教員への学習目標の周知を図った。学生の側から見れば、すべての科目担当教員がそれぞれの科目の学習目標の説明を通して学校の学習目標について説明するので、周知方法としては十分であろうと思われる。

資料 1-2- 10：学習目標のシラバスへの記載

資料 1-2- 11：学習目標の周知の徹底

## 資料 1-2-10：各科目の学習目標のシラバスへの記載

科目名	学年	単位数	区分	開講期	担当教員
環境都市施設工学 Engineering of Environmental Facilities	4年	2 学修単位	必修	通年 50分×2回/週	畑 時男
対象学科	環境都市工学科				
授業目標	環境都市施設工学の対象とする上・下水道は都市の基幹施設であるとともに、環境保全施設でもある。授業を通じてこれら施設の概要を理解し、社会と環境に配慮できる技術者をめざすとともに課題解決の方法を学ぶ。				
<b>■学習・教育目標との対応</b> 本科：3.2 専攻科・創造工学プログラム：A(1), B(1) 専門(土木工学)					

この科目では「準学士課程の学習目標「3．社会と環境」を主目標とし、「2．課題の解決」を副目標としている。授業目標欄および学習・教育目標との対応欄にそれが明記されている。

(出典：平成19年度シラバス)

## 資料 1-2-11：学習目標の周知の徹底

## 授業ガイダンス資料（シラバスの活用・学修単位について）

各年度の最初の授業では、シラバスの活用ならびに学修単位の修得に必要な予習・復習について次のように説明してください。

## 1. 当該および学校の学習目標の説明

当該科目の授業目標はシラバスに記載されているはずですが、それにしたがって、この授業を受けることによってどのような能力を育成しようとしているのか説明してください。また、授業の目標は学校の学習目標と結びついているはずなので、同時に、学生達が卒業するまでに身につけるべき学校の学習目標について触れてください。ただし、後者はすべての授業で重複して行われるので、軽く触れる程度で構いません。

(出典：授業ガイダンス資料)

## 4) 学生の学習目標の周知状況の把握

学生の学習目標の周知度を把握するために調査を行った（平成19年4月）。そのアンケート内容と結果とを示す（資料1-2-12, 13）。この結果、特に準学士課程の第2学年以上の学生には学習目標の周知が徹底されていないことが判明した。

資料 1-2-12：学習目標の学生への周知状況の把握

資料 1-2-13：学習目標の学生への周知状況

## 資料 1-2-12: 学習目標の学生への周知状況の把握

## 1. 石川高専の学習目標について

石川高専は卒業生が身に付けるべき学力、資質・能力として、4項目の学習目標を定めています。これらの学習目標を知っているかどうかについて、4段階で教えてください。「ある程度知っている」というのは4つのキーワードのうち1つ以上、「よく知っている」というのは2つ以上を思い浮かべることができる、という意味です。

① 石川高専の学習目標を知っていますか。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. まったく知らない  | 2. あまり知らない |
| 3. ある程度知っている | 4. よく知っている |

(出典：学生への学習目標周知度調査項目，平成19年4月)

## 資料 1-2-13: 学習目標の学生への周知状況

## 学習目標周知状況(準学士課程在学学生)

学年	周知状況				合計	平均
	1	2	3	4		
1	6	45	103	53	207	3.0
2	58	85	45	8	196	2.0
3	44	93	61	5	203	2.1
4	40	73	56	22	191	2.3
5	33	77	49	11	170	2.2
合計	181	373	314	99	967	2.3

## 学習目標周知状況(専攻科課程在学学生)

全体	1	2	3	4	合計	平均
	3	10	11	9		

(出典：学生への学習目標周知度調査結果)

## (分析結果とその根拠理由)

以上のように、本校の教育理念とともに、学生にとって特に重要な学習目標は、さまざまな方法と機会を通じて周知を徹底している。周知の状況を把握するために教員、事務職員および技術職員、学生を対象とするアンケートを実施している。アンケート結果から教員への周知は十分になされていると判断されるが、学生に対しては周知されているとはいいいがたい面があり、今後、さらに周知度を向上させる取り組みが必要と考えている。

観点1-2- : 目的が、社会に広く公表されているか。

## (観点に係る状況)

## 1) 全般的な公表状況

本校の教育の目的は、それが掲載された学校要覧の配布によって広く社会に対して公表されている(資料1-2-1~5)。学校要覧は他の高等専門学校、文部科学省関連部・課、隣県を含む国立大学、

石川県内教育委員会などに配布されている（資料 1-2- 6, 7）。また，学生募集要項にも掲載され，将来の学生を含めた社会一般に公表されている（資料 1-2- 8）。その他にも，ウェブページへの記載によって一般社会に対し（資料 1-2- 9），また学習目標の達成に関する企業調査によって進路先の企業への公表がなされている（資料 1-2- -10）。

- 資料 1-2- -1：学校要覧による基本理念の公表
- 資料 1-2- -2：学校要覧による教育理念の公表
- 資料 1-2- -3：学校要覧による養成すべき人材像の公表
- 資料 1-2- -4：学校要覧による準学士課程の学習目標の公表
- 資料 1-2- -5：学校要覧による専攻科課程の学習目標の公表
- 資料 1-2- -6：学校要覧配布状況一覧
- 資料 1-2- -7：学校要覧配布先一覧（学外）
- 資料 1-2- -8：募集要項による学習目標の公表
- 資料 1-2- -9：ウェブページによる学習目標の公表
- 資料 1-2- -10：学習目標の企業への公表

資料 1-2- -1：学校要覧による基本理念の公表

**基本理念**

人間性に富み，創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関

（出典：学校要覧「教育理念・目標」）

資料 1-2- -2：学校要覧による教育理念の公表

**教育理念**

- 1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
- 2) 創造的な能力と意欲を育む教育
- 3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
- 4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

（出典：学校要覧「教育理念・目標」）

## 資料 1-2-3：学校要覧による養成すべき人材像の公表

## □ 教育目標（養成すべき人材像）

## 【本科】

- 1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- 2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- 3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- 4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- 5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- 6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- 7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- 8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- 9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- 10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

(出典：学校要覧「教育理念・目標」)

## 資料 1-2-4：学校要覧による準学士課程の学習目標の公表

## (準学士課程)

- 1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

(出典：学校要覧「教育理念・目標」)

## 資料 1-2-5：学校要覧による専攻科課程の学習目標の公表

## (専攻科課程)

- 1) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- 2) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- 3) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- 4) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- 5) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(出典：学校要覧「教育理念・目標」)

## 資料 1-2-6：学校要覧配布状況一覧

名称	発行目的	配布対象	発行回数	委員会/所掌係
学校要覧	本校の沿革、学内組織、学科紹介、施設等について広く紹介する。	他高専、大学、高校、企業、来校者	年1回	広報委員会、庶務課庶務係

(現在の所掌係は総務課総務係)

(出典：自己点検・評価書第4報)

## 資料 1-2-7: 学校要覧配布先一覧(学外)

平成18年度学校要覧配布先一覧

1 高等専門学校(国立, 公立, 私立)	62 部
2 高専機構本部	3 部
3 文部科学省高等教育局専門教育課	3 部
4 文部科学省大臣官房文教施設企画部	2 部
5 国立国会図書館	7 部
6 国立大学財務・経営センター	1 部
7 メディア教育開発センター	1 部
8 北陸先端科学技術大学院大学学生生活課	1 部
9 長岡・豊橋技術科学大学	2 部
10 金沢大学工学部	1 部
11 富山大学工学部	1 部
12 福井大学工学部	1 部
13 石川県立看護大学	1 部
14 石川県立大学	1 部
15 国立能登青少年交流の家総務課	1 部
16 石川県企画振興部企画課	1 部
17 石川県内各教育委員会(石川, 金沢, 小松, 羽咋, 白山, 能美, 七尾, 輪島, 加賀, 津幡, かほく, 珠洲)	12 部
18 石川県立図書館・津幡町立図書館	5 部
19 石川県教育センター	1 部
20 日本学生支援機構金沢支部	1 部
21 名誉教授	26 部
22 予算要求関係資料(財務から送付)	20 部
小 計 154 部	

(出典: 総務課保管資料)

## 資料 1-2-8: 募集要項に記載された学習目標

## 専攻科入学案内

## 1. 教育目的

本専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、創造的な技術開発や先端技術にも対応できる人材を育成し、併せて、産学共同の一環として社会人の再教育等を目的としています。

## 2. 学習目標

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(出典: 平成20年度専攻科学生募集要項)



## 資料1-2- 9: ウェブページによる学習目標の公表

## ◆教育理念・目標 EDUCATIONAL DOCTRINE & GOALS

### ■教育理念

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

### (養成すべき人材像)

1. 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
2. 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
3. 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
4. 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
5. 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
6. 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
7. 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
8. 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
9. 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
10. 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

### ■学習目標

#### (準学士課程)

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

#### (専攻科課程)

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(出典：石川高専ウェブサイト)

資料 1-2 - 10：学習目標の企業への公表

石川高専専攻科の修了生に関するアンケートへのご協力をお願い

石川高専の日頃の活動にご協力いただきありがとうございます。石川高専では、より良い教育への発展に資するために、専攻科のあり方および修了生の学力等について広く意見を求めることになりました。本アンケートは平成 15 年度から 17 年度の専攻科修了生を採用していただいた企業に対して実施させていただいております。よろしくご回答の上、12 月末日までに、同封の封筒にて返信していただきますようお願い申し上げます。

(その他の質問事項・略)

3 . 石川高専専攻科の学習目標について

石川高専専攻科は修了生が身に付けるべき学力、資質・能力として、次のような学習目標を掲げております。

( 学習目標を記載・略 )

(3-1) 専攻科の学習目標についてどうお考えですか。

1. 妥当な目標である    2. 妥当な目標であるとはいえない

(3-2) 貴社としては、5 つの学習目標のうち、どれを身に付けていることを望みますか。望む順に 2 つだけ選び A~E の記号でお答えください。

1. もっとも身に付けて欲しい学習目標 (        )  
2. 次に身に付けて欲しい学習目標 (        )

(3-3) 企業として学生を採用する際に、本校の学習目標以外に望まれる学力、能力・資質についてのご意見があればお書きください。

(以下略)

( 出典：企業への学習目標達成度調査用紙，平成18年12月 )

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育の目的は、学校要覧、学生募集要項、ウェブページを通して、広く社会一般に公表されている。また学生の就職先企業を対象にして行われた学習目標の達成状況調査によっても学習目標の周知を図っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 学校の目的、使命（基本理念）、基本方針（教育理念）、養成すべき人材像に加えて、準学士課程、専攻科課程の学習目標が、高専一般に求められるものとして定められている。
- ・ 準学士課程の4つの学習目標および専攻科課程の5つの学習目標は、観点1-2- に示したように、極めて簡潔に要約でき、理解しやすく、また周知がなされるように工夫されている。
- ・ 学校の学習目標に沿って各科目の学習目標が定められている。これは各科目が学校の学習目標を達成するために構成されていることを示すとともに、教員および学生に対して学習目標を周知させる役割を果たしている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

(3) 基準1の自己評価の概要

本校の使命としての基本方針、教育研究活動を実施する上での基本方針としての教育理念および養成すべき人材像、達成しようとしている基本的な成果として準学士課程と専攻科課程の学習目標が明確に定められている。

本校の学則には石川工業高等専門学校が定める目的が学校教育法第70条の2に沿ったものとして定められ、基本理念および準学士課程と専攻科課程の学習目標のそれぞれが学校教育法第70条の2に述べられている「深く専門の学芸を教授」し「職業に必要な能力を育成」に適合していることが示されている。

本校の教育理念とともに、学生にとって特に重要な学習目標は、さまざまな方法と機会を通じて周知を徹底している。周知の状況を把握するために教員、事務職員および技術職員、学生を対象とするアンケートを実施している。アンケート結果から教員への周知は十分になされていると判断されるが、学生に対しては周知されているとはいいいがたい面があり、今後、さらに周知度を向上させる取り組みが必要と考えている。

本校の教育の目的は、学校要覧、学生募集要項、ウェブページを通して、広く社会一般に公表されている。また学生の就職先企業を対象にして行われた学習目標の達成状況調査によって学習目標の周知を図っている。

## 基準2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

ここでは各学科の内容と学習目標，および，学習目標の適切性について分析する。

## 1) 学科構成，学級数，入学定員および学習目標

本校は機械工学科，電気工学科，電子情報工学科，環境都市工学科，建築学科の5学科で構成されており，学科および学級定員は学則によって定められている（資料2-1-①-1）。また各学科の概要は学校要覧に記載されている（資料2-1-①-2）。その構成はものづくり，システムづくり，環境保全・防災，まちづくりに関連するものとなっている。さらに，各学科にはそれぞれの学習目標が定められている（資料2-1-①-3）。

- 資料2-1-①-1：学科・学級定員一覧
- 資料2-1-①-2：各学科概要（機械工学科の例）
- 資料2-1-①-3：準学士課程の学科の学習目標

## 資料2-1-①-1：学科・学級定員一覧

第7条 学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

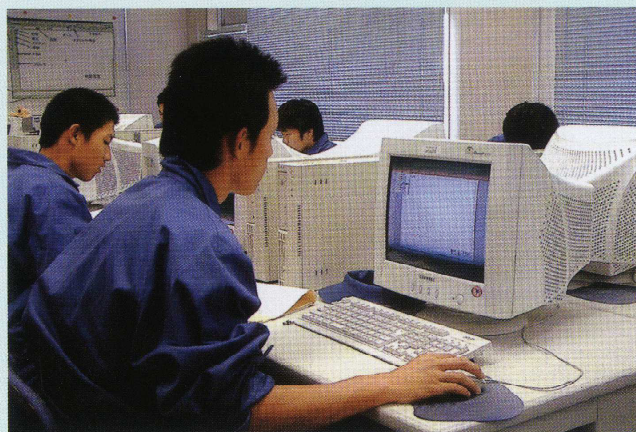
学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40人
電 気 工 学 科	1	40人
電 子 情 報 工 学 科	1	40人
環 境 都 市 工 学 科	1	40人
建 築 学 科	1	40人

（出典：石川工業高等専門学校学則）

資料 2-1-①-2：各学科概要（機械工学科の例）

# 機械工学科

DEPARTMENT OF  
MECHANICAL  
ENGINEERING



CAD 演習

## 地球を守る機械工学

あらゆる工業技術の基幹を成している機械工学であるが、科学技術の進歩は目覚ましいものがある。このような機械化、自動化、さらには高度化する社会情勢に対応すべく、本学科では今日の材料やエネルギー利用に関する理論と実際、そして高度化の進む情報処理技術などについて、講義や実験などを通して体得できるよう万全の指導体制を整えている。そして将来いかなる分野にも適応できる基礎学力と柔軟な応用力をもった機械技術者の育成に努めている。

（出典：学校要覧（機械工学科のページ））

資料 2-1-①-3：準学士課程の学科の学習目標

- 【機械工学科】 材料，エネルギー，計測制御，生産加工などの知識と技術を習得し，広い分野における「ものづくり」に応用することができる。
- 【電気工学科】 エネルギー，エレクトロニクス，制御，通信，コンピュータなどの知識と技術を習得し，「ものづくり」や課題の解決に応用できる。
- 【電子情報工学科】 情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し，システム設計・開発を行うことができる。
- 【環境都市工学科】 暮らしを支える施設の整備，防災，環境保全に関する知識を習得し，より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。
- 【建築学科】 建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し，住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

（出典：学生便覧）

## 2) 学科の内容と目的が設置基準に適合していること

各学科には学科の学習目標が定められており、これらは設置基準にある「深く専門の学芸を教授し」「職業に必要な能力の育成」について、各学科の特性に応じて具体的に示したものである。各学科の学習目標と設置基準に示された教育目標との対応は次のとおりである。

学科	深く専門の学芸を教授	職業に必要な能力を育成
機械工学科	材料，エネルギー，計測制御，生産加工などの知識と技術を習得し	広い分野における「ものづくり」に応用することができる
電気工学科	エネルギー，エレクトロニクス，制御，通信，コンピュータなどの知識と技術を習得し	「ものづくり」や課題の解決に応用できる
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し	システム設計・開発を行うことができる
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備，防災，環境保全に関する知識を習得し	より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し	住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる

また、学科の学習目標は、学校の教育理念「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」にしたがって定められた学校の学習目標のうち、主に次の学習目標の達成を目指すものとして設定され、その教育課程は学習目標の達成のために必要な科目群によって構成されている。

学習目標 1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。

学習目標 2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。

(分析結果とその根拠理由)

学科構成は工学の幅広い分野を網羅する機械工学，電気工学，電子情報工学，環境都市工学，建築学の5学科により体系的に構成され、教育の目的を達成するよう十分配慮したものとなっている。またその内容と目的は高等専門学校設置基準の規定に適合し、本校の準学士課程の学習目標と整合性が取れ、適切なものとなっている。

**観点2-1-②：** 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

## 1) 専攻科の種類とその概要

本校専攻科の設置，およびその目的，入学定員は学則第40条以下に示されている（資料 2-1-②-

1)。また、専攻科の概要は学校要覧に記載されている（資料 2-1-②-2）。専攻科は2つの専攻からなり、電子機械工学専攻は準学士課程の機械工学科、電気工学科、電子情報工学科を基盤とし、環境建設工学専攻は環境都市工学科および建築学科を基盤としている。各専攻に定められた学習目標を示す（資料 2-1-②-3）。

- 資料 2-1-②-1：専攻科定員
- 資料 2-1-②-2：各専攻概要
- 資料 2-1-②-3：各専攻の学習目標

#### 資料 2-1-②-1：専攻科定員

第40条 本校に、専攻科を置く。

（目的）

第41条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第42条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

電子機械工学専攻	12人
環境建設工学専攻	8人

（出典：石川工業高等専門学校学則）

#### 資料 2-1-②-2：専攻科概要



## 専攻科

ADVANCED ENGINEERING COURSES

近年の科学技術の高度化、情報化、国際化に伴い、地域における産業界もこれらを避けての発展は不可能になっている。この流れに対応するため、それまでの実践的中堅技術者の育成に留まることなく、より高度な専門的知識と技術を身につけた研究開発型技術者の育成を目指して教育研究を施す専攻科を設けている。

（出典：学校要覧）

#### 資料 2-1-②-3：専攻科各専攻の学習目標

【電子機械工学専攻】 機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

【環境建設工学専攻】 快適な生活空間を設計する居住計画、都市計画などの専門分野に関する生活・住環境に優しい技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

（出典：学生便覧）

2) 専攻科の内容と目的が学校教育法第70条の6に適合していること

各専攻の学習目標は、学校教育法第70条の6にある「精深な程度において、特別の事項を教授し」

「その研究を指導すること」について、各専攻の特性に応じて具体的に示したものとして定められており、各専攻の内容と目的は設置基準に適合するものとなっている。これらの対応関係を下に示す。

学科	特別の事項を教授	研究を指導する
電子機械工学専攻	機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、	修得した技術を活用することができる
環境建設工学専攻	快適な生活空間を設計する居住計画、都市計画などの専門分野に関する生活・住環境に優しい技術と専門以外の幅広い知識を修得し	修得した技術を活用することができる

両専攻の学習目標は、学校の教育理念「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」にしたがって定められている。各専攻科とも、その学習目標を達成するために、授業、実験・実習、特別研究などすべての教育活動を展開している。また、すべての科目はシラバスにより具体的な教育方針・内容等を公開し、個々の授業では専攻科全体の学習目標のうちいずれかを実現するための教育が行われている。よって各専攻の学習目標は学校の教育理念と整合性がとれているといえることができる。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科を構成する2専攻は、準学士課程の5学科の専門分野を基盤とし、その上に各学科の専門分野を複合・融合する形で体系的に構成されており、専攻科は準学士課程の卒業生を対象にして第70条の6にいう「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的」とした教育研究を行っており、学校教育法に適合している。また、本校における専攻科の学習目標とも整合性がとれている。

**観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

(観点に係る状況)

本校に設置されている全学的なセンターとしては、情報処理センターおよびトライアル研究センター（地域共同テクノセンター）がある。

#### 1) 情報処理センターの概要

情報処理センターは、本校における情報処理教育および電子計算機システムの利用を円滑にするとともに、教育、研究および事務等に関する情報処理の高度化を図ることを目的として設置されており、学術研究や講義、実験実習、卒業研究、公開講座等に学生・教職員を問わず幅広く利用され、充実した教育・研究環境の実現を目指す本校の中核施設として大きな役割を担っている。情報処理センターの規則およびその利用状況を資料に示す（資料 2-1-③-1, 2）。演習室の利用状況については基準8において資料を提示する。



- 資料 2-1-③-1：情報処理センターの運営方針
- 資料 2-1-③-2：情報処理センター利用状況

## 資料 2-1-③-1：情報処理センターの運営方針

## (設置)

第1条 本校における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にするとともに、教育、研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため、本校に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

## (業務)

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機（以下「電算機」という。）の管理、運用に関すること。
- (2) 電算機による情報処理の基礎教育の実施に関すること。
- (3) 電算機による研究に関すること。
- (4) 教育、研究及び事務等の情報処理に関する調査、研究、企画立案及び啓蒙に関すること。
- (5) 学内の情報ネットワークの構築及び管理、運用に関すること。
- (6) 学内・外の情報ネットワークの連絡、調整に関すること。
- (7) 総合的情報処理化に関すること。
- (8) センターの事務に関すること。
- (9) その他電算機及び情報処理に関すること。

(出典：情報処理センター規則)

## 資料 2-1-③-2：情報処理センター利用状況

## 【演習室の利用状況】

各専門科での演習室利用授業が増加しただけでなく、平成 18 年度から語学教育の一部についても、情報処理センターで行うこととなった。そのために、授業時間割におけるセンターの利用時間は、ほぼ埋まっている状況である。

授業以外での演習室の利用状況は以下の通りである。

- \* 建築CAD検定の2次試験会場として指定利用（全2回）
- \* 寮生を対象としたセキュリティ講習会
- \* TOEIC 対策ソフトの利用
- \* 各種コンペやパネルセッションなどの資料作成
- \* 授業後における情報検索および報告書作成の場としてのコンピュータ・ネットワーク環境の提供

## 【無線 LAN の利用状況】

平成 14 年から、教職員だけでなく、通学生ならびに寮生の持ち込みパソコンのネットワーク接続も許可した。利用に際しては、原則として本校がライセンスを保有するウィルス対策ソフトのインストールが義務づけられている。

平成 18 年度は、通学生については、約 280 名、寮生については約 140 名の学生が無線 LAN により、本校ネットワークに接続している。

## 【e-Learning System の利用状況】

平成 15 年度に e-learning system “Web Class”を導入した。本システムは、教職員が作製してコンテンツに基づき、自学自習や簡単な試験が行えるシステムである。利用者は、ユーザ認証を受けることにより、学習履歴や成績などを保存管理することができる。平成 18 年度は、簡単なアンケートなどを含めて、64 コースが開設されている。

(出典：自己点検・評価書第 5 号原稿)

## 2) 情報処理センターの教育に関する役割

情報処理センターは、本校の各学科の対象領域において、高度な科学技術に対応する技術者に必要不可欠な情報処理教育の場として、その機能を十分に果たしている（資料 2-1-③-3）。すなわち、本校の準学士課程および専攻科課程の学習目標に基づく各学科および各専攻の学習目標を達成するための教育を実施し、教育理念にある「高度な科学技術に対応できる実践力」を養成するには情報処理センターの存在は不可欠なものとなっている。さらに、近年に至っては、e-learning システムも導入され、教育に果たす役割は大きくなっている（資料 2-1-③-4）。

- 資料 2-1-③-3：情報処理センターの概要
- 資料 2-1-③-4：情報処理センターの役割

### 資料 2-1-③-3：情報処理センターの概要

情報処理センターは校内共同利用施設として、学術研究や実験実習、卒業研究、さらには公開講座など、学生や教職員をはじめとする多くの方々に利用されています。当センターは利用者の自主性・創造性を尊重し、充実した教育・研究環境の提供を目指しています。

(出典：情報処理センター利用案内パンフレット)

<http://imoon.ishikawa-nct.ac.jp/doc/riyou.pdf>

### 資料 2-1-③-4：情報処理センターの役割

情報処理センターは、校内共同利用施設として学術研究や講義、実験実習、卒業研究、また公開講座等に、学生・教職員を問わず幅広く利用されている。当センターでは、情報処理演習室、主要ネットワークサーバ（メール、WWW、ファイル、ビデオなど）、校内ギガビットネットワーク、無線LANの維持・管理や、情報セキュリティ対策を実施している。

3つの情報処理演習室と小演習室に 140 台の最新パソコンが設置されており、電子メールの閲覧、レポート作成、プレゼンテーション資料の作成、プログラミング実習、数値解析などの様々な教育・研究環境を提供している。また無線LANにより校内どこからでもネットワークが利用でき、一般教室でも情報処理演習が可能である。さらにパソコンやネットワークなどを利用して教育を行う e-learning 環境も整備されており、学校だけでなく自宅からも自学自習できる。

以上のように、当センターは利用者の自主性と創造性を尊重し、充実した教育・研究環境の実現を目指す本校の中枢施設として大きな役割を担っている。

(出典：学校要覧)

## 3) トライアル研究センターの概要

トライアル研究センターは、学内教育の面からみれば総合技術開発能力のある学生の育成に寄与すること、産学連携あるいは地域連携の中核として、高度な科学技術の教育・研究の推進を目的に、全学的な施設として運営されている（資料 2-1-③-5）。

その利用状況は多岐に渡っており（資料 2-1-③-6），教員の研究以外に本科，専攻科の授業，公開講座等の設置目的に合致した教育に使用されている。またトライアル研究センターの利用状況として時間割を示す（資料 2-1-③-7）。

- 資料 2-1-③-5：トライアル研究センターの概要
- 資料 2-1-③-6：トライアル研究センターの利用状況
- 資料 2-1-③-7：トライアル研究センター時間割（平成19年度）

## 資料 2-1-③-5：トライアル研究センターの概要

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、総合技術開発能力のある学生の育成及び地域産業界等との共同研究、技術交流の推進等により、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動の推進を図ることを目的とする。

（業務）

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
- (2) 各学科の枠を超えた横断的な研究協力・支援に関すること。
- (3) 地域産業界等との共同研究等の技術交流の推進に関すること。
- (4) 地域産業界等からの技術相談及び企画相談に関すること。
- (5) 社会人を対象としたリフレッシュ教育に関すること。
- (6) 小中高生を対象とした体験教育に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、センターの目的を達成するために必要な事項

（出典：トライアル研究センター規則）

資料 2-1-③-6：トライアル研究センター利用状況

年度	活動事項名	目的	当該人数	稼働時間	使用者
17	河川水の分析	卒業研究	3	260	環境都市工学科：鈴木洋之、高野典礼、学生
	熱処理	卒業研究・教員研究	13	120	機械工学科：旭吉雅健、学生
	FPGAチップへのプログラム書き込み	卒業研究	2	160	電子情報工学科：金寺登、学生
	資料の構造評価	教員研究	1	15	機械工学科：松田理
	資料の観察	授業	20	36	機械工学科：旭吉雅健、学生
	工学実験	授業	8	30	機械工学科：堀純也、学生
	工学実験	授業	5	5	電気工学科：瀬戸悟、学生
	体験入学	その他	236	6	電気工学科：瀬戸悟、学生
	データ分析	教員研究	1	10	電気工学科：瀬戸悟
	工学実験	授業	2	10	電気工学科：瀬戸悟、学生
	特別研究	特別研究	2	2	機械工学科：堀純也、学生
	特別研究	特別研究	4	2	機械工学科：八田潔、学生
	特別研究	特別研究	3	2	機械工学科：旭吉雅健、学生
	電子解析像の観察	教員研究	1	2	電子情報工学科：山田健二
	能動騒音消去・信号処理に関する研究、特別研究	特別研究・教員研究	8	160	電子情報工学科：山田洋士
	吸収体試料タグの特性測定	共同研究	3	14	電気工学科：深見哲男、(株)キャダック
	フォトルミネッセンス測定のための励起光源	卒業研究	4	120	電気工学科：瀬戸悟、学生
	フォトルミネッセンス測定のための励起光源	共同研究	1	250	電気工学科：瀬戸悟
	浄化槽サンプル水の分析	卒業研究	5	600	環境都市工学科：高野典礼、学生
	室内外住環境測定	卒業研究	4	300	建築学科：石渡博、学生
	データ分析	授業	20	2	電子機械工学専攻1年（音声情報処理）
データ分析	卒業研究	3	320	電子情報工学科：金寺登、学生	
平成17年度小計			349	2,426	
18	河川水の分析	卒業研究	3	270	環境都市工学科：鈴木洋之、高野典礼、学生
	熱処理	卒業研究・教員研究	13	50	機械工学科：旭吉雅健、学生
	FPGAチップへのプログラム書き込み	卒業研究	2	480	電子情報工学科：金寺登、学生
	資料の構造評価	教員研究	1	5	機械工学科：松田理
	工学実験	授業	40	2	電子情報工学科：山田健、学生
	体験入学	その他	367	6	電気工学科：瀬戸悟、学生
	データ分析	教員研究	1	8	環境都市工学科：和田匡司
	データ分析	教員研究	1	2	電気工学科：山田悟
	データ分析	教員研究	1	2	機械工学科：旭吉雅健
	特別研究	特別研究	1	6	電気工学科：瀬戸悟、学生
	電子解析像の観察	卒業研究	1	1	電子情報工学科：山田健二
	能動騒音消去・信号処理に関する研究、特別研究	特別研究	8	20	電子情報工学科：山田洋士
	吸収体試料タグの特性測定	共同研究	3	15	電気工学科：深見哲男、(株)キャダック
	フォトルミネッセンス測定のための励起光源	卒業研究	5	400	電気工学科：瀬戸悟、学生
	浄化槽サンプル水の分析	卒業研究	5	540	環境都市工学科：高野典礼
	浄化槽サンプル水の分析（イブニングセミナー）	産学連携活動	4	6	環境都市工学科：高野典礼
	室内外住環境測定	授業	52	255	建築学科：石渡博、学生
	室内外住環境測定（オープンキャンパス）	その他	40	6	建築学科：石渡博、学生
	データ分析	卒業研究	3	480	電子情報工学科：金寺登、学生
	データ分析	授業	20	2	電子情報工学科：金寺登、学生
	基板加工	産学連携活動	1	56	電気工学科：森田義則
基板加工	卒業研究	2	24	電子情報工学科：金寺登、学生	
中小企業人材育成コース：Cコマ1, 2, 5（試作開発室）	産学連携活動	19	32	電気工学科：森田義則、河合康典、受講者	
平成18年度小計			593	2,668	

(出典：トライアル研究センター保管資料)

資料 2-1-③-7：トライアル研究センター時間割

## トライアル研究センターゼミ室

	月	火	水	木	金
1・2	1EM・ AC 日本語表現	1EM・ AC 環境技術総論	1EM・ AC 線形数学	1EM・ AC 創造工学演習 I	
3・4	1EM・ AC 国際表現	1EM・ AC 生体情報工学	1EM・ AC 住生活文化論	1EM・ AC 創造工学演習 I	1AC 建設材料学
5・6	1AC 建築環境調整論		1AC 応用水文学		1AC 建築・地域空間 形成論
7・8					

## トライアル研究センター基礎情報教育演習室

	月	火	水	木	金
1・2				1I プログラミング I	
3・4					2I プログラミング II
5・6					
7・8					

(出典：トライアル研究センター保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校における全学的なセンターとして、情報処理センターおよびトライアル研究センターが設置され、情報処理教育および総合技術開発能力のある学生の育成の場として活用されており、高度な科学技術の教育・研究推進の中核として必要不可欠なものとなっている。特に情報処理センターでは近年 e-learning システムを導入するなど、同センターは本校の教育の目的を達成するために不可欠なものとなっている。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

1) 教育課程を企画調整し有効に展開するための体制の整備

学校全体の企画運営を立案する組織は校長が総括する総合企画室があり、ここで開催される総合企画会議（資料 2-2-①-1）において教育課程の見直しを提起し、主任会議がこれを決定する（資料 2-2-①-2）。それを受けて、準学士課程の教育課程は教務委員会、専攻科課程の教育課程は専攻科委員会が具体的な作業方針の提案を行う（資料 2-2-①-3, 4）。教育課程の企画調整に関する運営組織図を示す（資料 2-2-①-5）。

- 資料 2-2-①-1：総合企画会議の役割
- 資料 2-2-①-2：主任会議の役割
- 資料 2-2-①-3：教務委員会の役割
- 資料 2-2-①-4：専攻科委員会の役割
- 資料 2-2-①-5：運営組織図

#### 資料 2-2-①-1：総合企画会議の役割

##### （設置）

第1条 石川工業高等専門学校に（以下「本校」という。）、本校の管理運営を円滑に推進するため、本校運営の機能強化を図ることを目的として石川工業高等専門学校総合企画室（以下「総合企画室」という。）を置く。

##### （組織）

第2条 総合企画室は、次の各号に掲げる教職員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事，寮務主事，研究主事及び図書情報主事
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 校長は、総合企画室を総括する。

##### （総合企画会議）

第3条 総合企画室は、総合企画会議を開催する。

- 2 校長は、総合企画会議の議長となる。
- 3 総務課長及び学生課長は総合企画会議に陪席するものとする。

##### （事務）

第4条 総合企画会議の事務は、総務課において処理する。

（出典：総合企画会議規則）

## 資料 2-2-①-2：主任会議の役割

## (設置)

第1条 本校の管理運営に関する重要事項を審議するため主任会議を置く。

## (組織)

第2条 主任会議は、次の教職員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 研究主事
- (6) 図書情報主事
- (7) 一般教育科主任及び各専門学科主任
- (8) 事務部長

## (議長等)

第3条 主任会議は校長が主宰し、その議長となる。

- 2 主任会議は、原則として、毎月1回開催する。
- 3 校長が必要と認めた場合、前条の職員以外の職員を主任会議に出席させることができる。
- 4 各課長は、主任会議に出席する。

## (審議事項)

第4条 主任会議は、次の事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 予算及び概算に関すること。
- (3) 組織、施設の設置及び改廃に関すること。
- (4) 入学、進学及び卒業その他学生の身分に関すること。
- (5) 教務に関すること。
- (6) 厚生補導に関すること。
- (7) 学生寮に関すること。
- (8) その他本校の管理運営に関すること。

## (事務)

第5条 主任会議の事務は、総務課において処理する。

(出典：主任会議規則)

## 資料 2-2-①-3：教務委員会の役割

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の正課教育の運営を円滑にするために、石川工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は次の教職員を委員として組織する。

- (1) 副校長（教務主事）
- (2) 教務主事補佐
- (3) 一般教育科において選出した教員 2人
- (4) 各専門学科において選出した教員 各1人

2 前項第3号及び第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

3 前項の委員は、再任を妨げない。

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長及び委員長代理を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長代理は、前条第1項第2号の委員をもってこれに充てる。

5 委員長は、必要と認めた場合、委員長代理をもって委員長の職務を代行させることができる。

6 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成，実施に関する事。
- (2) 授業科目の履修及び単位の認定に関する事。
- (3) 教務上の企画，実施に関する事。
- (4) 教育支援・指導に関する事。
- (5) 教育機器及び教材に関する事。
- (6) 外国人留学生及び派遣留学に関する事。
- (7) その他教務に関する事。

## (事務)

第5条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：教務委員会規則)



## 資料 2-2-①-4：専攻科委員会の役割

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校学則第 50 条の規定に基づき、石川工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の職員を委員として組織し、委員は校長が委嘱する。

- (1) 専攻科長
- (2) 専攻主任
- (3) 一般教育科及び各専門学科ごとに校長が指名する教員 各 1 人
- (4) 事務部長

2 前項第 3 号の委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

## (委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもってこれに充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

## (委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

## (審議事項)

第5条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 入学者選抜等に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。
- (3) 施設及び設備に関すること。
- (4) その他専攻科の運営に関すること。

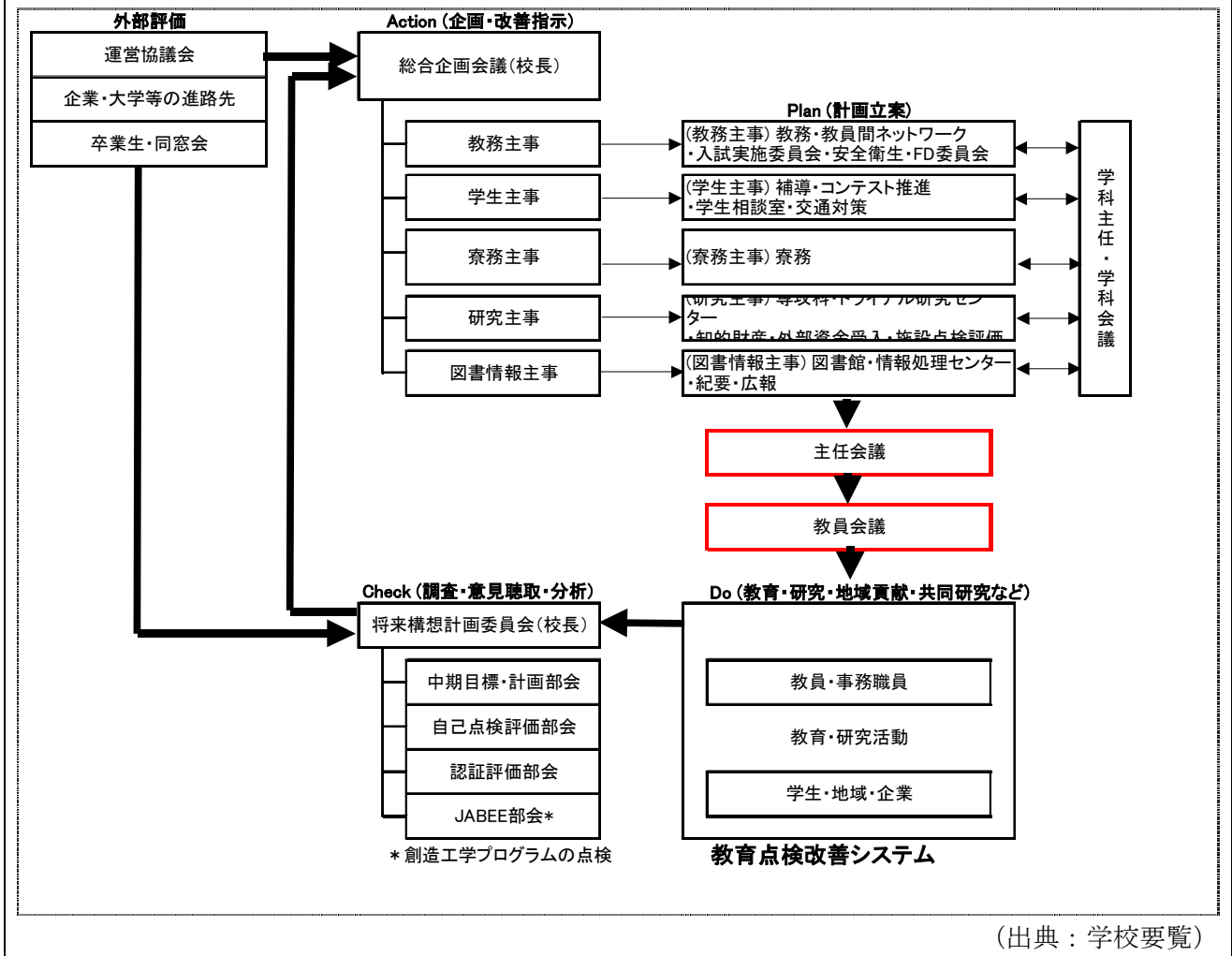
## (幹事)

第6条 委員会の事務を処理するために、幹事を置く。

2 幹事は、学生課教務係長をもってこれに充てる。

(出典：専攻科委員会規則)

資料 2-2-①-5 : 運営組織図



2) 教育課程を企画調整し有効に展開するための体制の活動状況

準学士課程の教育課程の改定は、総合企画会議における改定決定を受け、担当主事である教務主事が教務委員会に検討を指示する。教務委員会では教育課程の立案がなされ、提案された教育課程の方針および具体的な提案は、各学科において審議される。この審議は教務委員会との調整を経て総合企画会議に提案，了承されることになっている。了承された教育課程は主任会議によって決定され，各教員に周知・実行されることになる。

現在の教育課程は平成16年に策定されたが，その際の活動状況を示す資料として，教務委員会の議論を受けて一般教育科会議で協議された内容を例示する（資料 2-2-①-6，7）。

一般的な方針などの基本的な審議・決定は「将来構想計画委員会からの提案」「総合企画会議における方針案等の策定（必要であれば各主事から各委員会・学科会議で協議の上で決定）」「主任会議における決定」「教員会議（または学科会議）における通達」という手順で行われる。この手順は，学習目標の策定過程（平成18年3月～5月）を例にして示す（資料 2-2-①-8～11，以上の資料は学習目標の制定について基準1で示した資料と重複している）。

- 資料 2-2-①-6：教育課程策定についての学科会議の活動
- 資料 2-2-①-7：教育課程策定についての教務委員会と学科会議の活動
- 資料 2-2-①-8：学習目標の設定に係る審議(将来構想計画委員会)
- 資料 2-2-①-9：学習目標の設定に係る審議(総合企画会議)
- 資料 2-2-①-10：学習目標の設定に係る審議(主任会議)
- 資料 2-2-①-11：学習目標の設定に係る審議(教員会議)

資料 2-2-①-6：教育課程策定についての学科会議の活動

第1回 一般教育会議（結果報告）

日時：4月5日（月）午前9時から

場所：グループ演習室

議題：

(1) カリキュラム改定について

(1-1) 第2外国語「前後期1駒開講」を「前後期開講」に変更する件

承認。複数クラス（複数外国語）開講の余地を残す。

ただし卒業に必要な単位に含めること。

その他の科目の開講「コマ数」を「クラス数」に変更。

(1-2) 数学の基礎数学C（仮称，1単位）の開講時期に関する件

数学科は後期開講を希望。（その理由も述べる）

数学科の意見を教務委員会に伝え，専門科目を含めて可能性を検討する。

社会科に1年生の1単位を2年生に振り替えることが難しいかどうか，いくつかの案について検討してもらう。

美術が前期5駒だけの開講が可能かどうか調べる。

（出典：一般教育科会議事録（平成16年4月））

## 資料 2-2-①-7：教育課程策定についての教務委員会と学科会議の活動

第7回 一般教育会議結果報告（正式版）

日時：9月15日（水）午後3時40分から

場所：グループ演習室

議題：（(1)～(5)は省略）

（6）依頼：教務委員会から（各科の教育目標等の提出）

- ・ 新カリキュラムにおける改訂の骨子と各学年の教育目標の作成・提出のお願い。
- ・ 次の事項がわかること。具体的記載事例は会議席上で提示する。

① 本科における各教科の教育目標とその編成・取り組み

② 各学年配当科目の教育目標と講義・演習内容

科目間の連携など

- ・ 各科の主任に依頼。

（7）意見聴取：教務委員会から（科目増，名称変更）

- ・ 新カリキュラムに伴う科目増，名称変更などがあれば報告していただきたい。
- ・ 一般教育科の承認を得て教務委員会に提出する。
- ・ 科目増があればそれに伴って進級規定の協議が行われるとのこと。
- ・ いくつかの変更点が申請された（英語・歴史の名称変更，物理の科目増）

（出典：一般教育科会議事録（平成16年9月））

## 資料 2-2-①-8：学習目標の設定に係る審議(将来構想計画委員会)

## 平成18年度第1回将来構想計画委員会議事要録

日時 平成18年4月5日（水） 13:15～14:00

場所 校長室

出席者 金岡（委員長），前田，松田，西澤，櫻野，高島，阿蘇，黒崎，原田，佐藤，室屋（菊澤，紙田，森田）

欠席者 なし

議事

1. 教育理念・目標，学習目標等への取組について

平成18年度からの本校の教育理念・目標，学習目標等への取組について，原案に一部修正を加え，更に引き続き検討していくこととなった。

2. J A B E E 審査の指摘事項に対する担当部署案の再確認について

J A B E E 審査の指摘事項に対する担当部署について，原案に基づく各部会等の担当部署で指摘事項の改善計画に取り組むこととなった。特に審査結果がWの項目について重点的に取り組んでいくこととなった。

（出典：将来構想計画委員会議事録）

## 資料 2-2-①-9：学習目標の設定に係る審議(総合企画会議)

## 平成18年度第2回総合企画会議議事要録

日 時 平成18年5月10日(水) 13時30分から17時35分まで  
 場 所 校長室  
 出席者 金岡(校長), 前田(副校長), 松田(学生主事), 西澤(寮務主事),  
 櫻野(研究主事), 高島(図書情報主事), 原田(事務部長), 佐藤(総務課長),  
 室屋(学生課長)  
 陪席者 菊澤(企画室長), 紙田(総務課課長補佐) (森田(学生課課長補佐):業務の都合により欠席)  
 幹 事 総務係長

(中略)

2. 総務課長から, 資料2に基づき, 認証評価部会・自己点検評価部会の決定事項報告として, 教育理念及び学習目標について説明があり, 校内周知を行うことを確認した。

(主な説明・意見)

平成18年度は, 新たに設けた「学習目標」の準備・周知期間として位置づけている。

(出典: 総合企画会議議事録)

## 資料 2-2-①-10：学習目標の設定に係る審議(主任会議)

## 平成18年度第2回主任会議議事要録

日 時: 平成18年5月17日(水) 午後1時40分から午後5時45分まで  
 場 所: 校長室  
 出席者: 金岡(校長), 前田(副校長), 松田(学生主事), 西澤(寮務主事),  
 櫻野(研究主事), 高島(図書情報主事), 鈴木(康)(一般, (山岸代理)),  
 鶴崎(機械), 深見(電気), 白山(電子情報), 竹本(環境都市), 石渡(建築),  
 原田(事務部長)  
 陪席者: 総務課長, 学生課長, 企画室長, 総務課課長補佐, 学生課課長補佐  
 幹 事: 総務係長

(中略)

## II. 協議題

## (1) 教育理念及び学習目標について

資料8及び配付資料に基づき, 阿蘇 認証評価部会長から, 「学習目標」設定の経緯及び認証評価についての説明があり, 協議の結果, 原案どおり了承し, また, 次週の教員会議において阿蘇部会長からの説明により周知徹底を図ることとなった。

(出典: 主任会議議事録)

## 資料 2-2-①-11：学習目標の設定に係る審議(教員会議)

平成18年度第2回教員会議議事要録

日 時 平成18年5月24日(水) 16時から17時10分まで  
 場 所 大会議室  
 出席者 69名  
 欠席者 6名(在外出張1名含む。)  
 陪席者 事務部長, 総務課長, 学生課長, 企画室長, 総務課課長補佐, 学生課課長補佐  
 幹 事 総務係長

(中略)

## II. その他

## (1) 認証評価について

一般教育科・阿蘇認証評価部会長から, 席上配布資料に基づき, 新たな学習目標設定の経緯及び認証評価への対応について, 説明及び協力依頼があった。

(出典：教員会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を有効に展開するための企画調整・検討・運営体制として将来構想計画委員会, 総合企画会議をはじめ教務委員会, 専攻科委員会などが整備され, 各種委員会は教育改善プロセスを構成し, 教育・学習の計画, 実施・運用, 点検, 改善・見直しの活動がなされ, 校長を頂点とした組織の責任体制も明確である。委員会は, 毎月定例で会議を開催し, 教育課程などの重要事項の審議をはじめとする活動が適切に行われ, その結果は主任会議で報告され, 教員に周知されている。

以上のことより, 教育課程全体を企画調整し, 有効に展開するための検討・運営体制は適切に整備され, 教育活動に係る重要事項等の審議など必要な活動が行われている。

**観点 2-2-②：** 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が, 機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

## 1) 教員間の連携を行う組織

本校における一般科目および専門科目を担当する教員間の連携に関する活動は, 教員間ネットワーク委員会を中心に行われている(資料 2-2-②-1)。

資料 2-2-②-1：教員間の連携を担当する委員会

## 資料 2-2-②-1：教員間の連携を担当する委員会

## ○石川工業高等専門学校教員間ネットワーク委員会規則

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教員間の連携を推進し、教育効果の改善・向上を図るため、石川工業高等専門学校教員間ネットワーク委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は次の教員を委員として組織し、委員は校長が委嘱する。

- (1) 本校の教員の中から校長が指名する者
- (2) 教務主事
- (3) 教務主事補佐
- (4) 一般教育科及び各専門学科において選出した教員 各1名

2 前項第4号の委員の任期は1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の委員は、再任を妨げない。

## (会議)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は校長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長は、副委員長を委員の中から指名する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代行する。
- 6 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。

## (任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 専門科目と一般科目の連携を図ること。
- (2) 各専門基礎科目の連携を図ること。
- (3) 同系科目間の連携を図ること。
- (4) 非常勤講師との連携を図ること。
- (5) その他教員間ネットワークに関すること。

(出典：教員間ネットワーク委員会規則)

## 2) 教員間の連携が機能していること

この委員会の主催のもとで、数学科教員と専門学科教員との連絡会、英語科教員と専門学科教員間の連絡会、理科教員と専門学科教員間の連絡会、国語科教員と専門学科教員間の連絡会がそれぞれ行われ、科目間の連携や調整等について議論された（資料 2-2-②-2, 3）。

- 資料 2-2-②-2：教員間ネットワーク委員会の開催通知（数学－専門学科）
- 資料 2-2-②-3：一般科目担当教員と専門学科教員の連絡会資料（数学－専門学科）

資料 2-2-②-2 : 教員間ネットワーク委員会の開催通知 (数学一専門学科)

From: 学生課教務係長 <kyomu0@ishikawa-nct.ac.jp>  
To: network@ishikawa-nct.ac.jp, tomiyama@ishikawa-nct.ac.jp, naka@ishikawa-nct.ac.jp, asoka@ishikawa-nct.ac.jp, kawai@ishikawa-nct.ac.jp, matsush@ishikawa-nct.ac.jp, moriken@ishikawa-nct.ac.jp  
Cc: s-somu@ishikawa-nct.ac.jp  
Subject: 第5回ネットワーク委員会開催について

平成18年9月22日

教員間ネットワーク委員会委員 各位  
一般教育科数学科教員 各位

委員長

平成18年度第5回教員間ネットワーク委員会の開催について (通知)

このことについて、下記のとおり開催しますので、ご出席ください。

今回は、数学科教員に出席いただき協議いたします。

また、各学科で数学科との意見交換、情報交換を希望される教員の出席をお願いいたします。学科内への周知方併せてお願いします。

記

日時 平成18年10月5日(木) 9時30分から

場所 大会議室

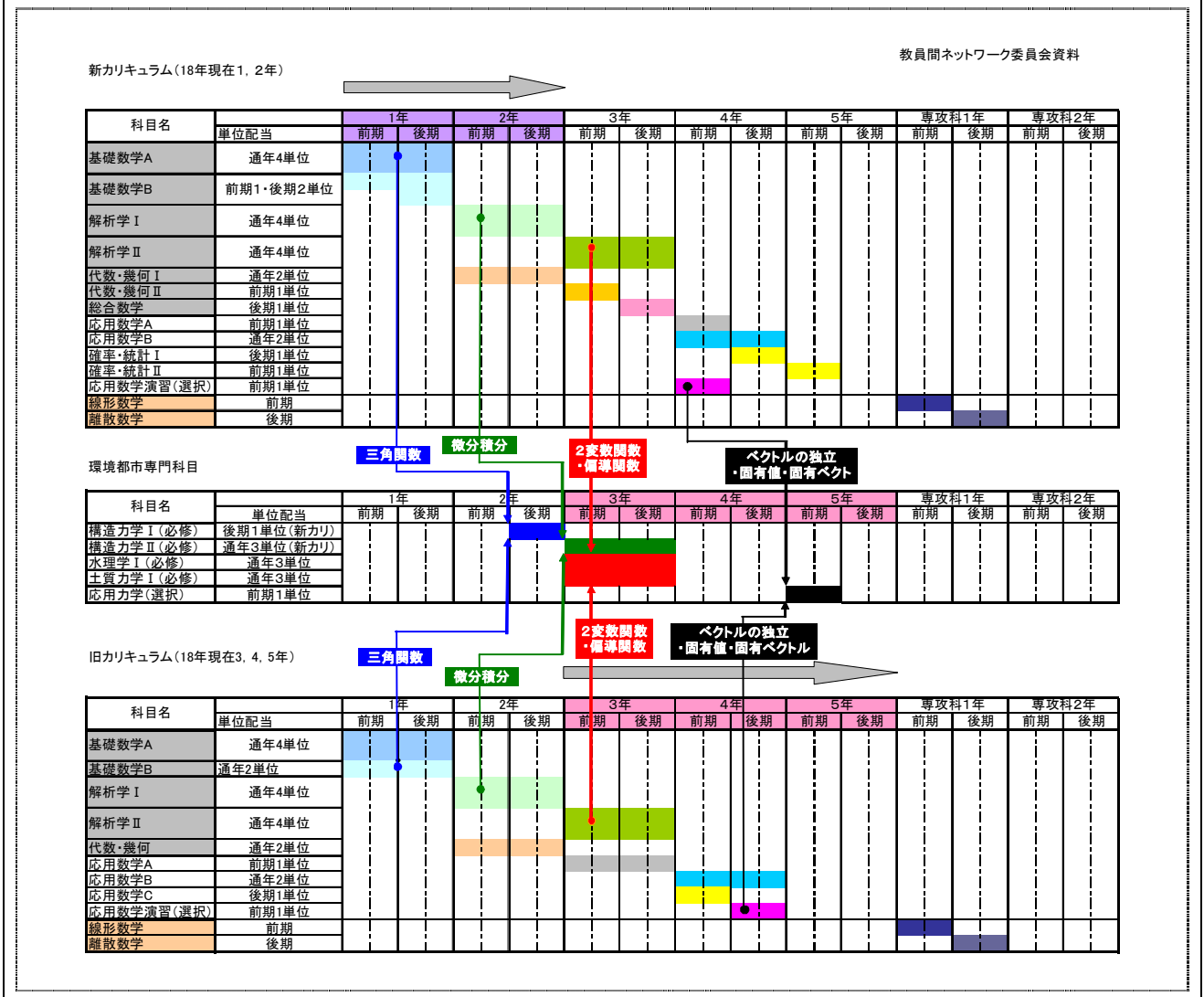
議題 1. 数学に関する習得内容の現状と問題点等について  
2. その他

~~~~~

(出典：開催通知メール)



資料 2-2-②-3 : 一般科目担当教員と専門学科教員の連絡会資料 (数学-専門学科)



(出典：第5回ネットワーク委員会会議資料)

3) 教員間の連携による成果 (教育内容の改善など)

一般科目と専門学科の連絡会の議論をもとに、それぞれの科目の授業内容、進度などが見直され、専門科目とより連携がとれるようシラバスの改定などがなされた。それぞれの連絡会における改善内容を資料として示す(資料 2-2-②-4, 5)。また、それが実際に実現したことを示すために、平成18年度と19年度のシラバスを併置する(資料 2-2-②-6)。

- 資料 2-2-②-4：教育内容の改善の内容(1)
- 資料 2-2-②-5：教育内容の改善の内容(2)
- 資料 2-2-②-6：教育内容の改善事例

## 資料 2-2-②-4：教育内容の改善の内容(1)

## 2. 「その他履修上の注意事項や学習上の助言」欄への記入事項について

数学科目に関するシラバスの「その他履修上の注意事項や学習上の助言」欄への記載案について各学科から報告があり、協議の結果、以下のとおりとなった。なお、記載内容は再度各学科で検討し、12月15日までに学生課へ提出することとなった。

- ・記載するのは直近の科目とし、複数科目に関連する場合は代表的なものとする。
- ・学生がイメージしやすい言葉を使用する。
- ・印刷の文字数に制限がある為、専門科目の記載は200字以内とし、数学担当教員により割愛することもある。

また、シラバスへの記載には文字数に制限がある為、数学と専門科目の関係については配布資料を参考に別表を作成し、学生へ周知することとなり、その周知方法も含めて各学科で検討願うこととなった。

(出典：平成18年度第6回教員間ネットワーク委員会の議事録より抜粋)

## 資料 2-2-②-5：教育内容の改善の内容(2)

本委員会では数学のシラバスへの専門科目に関する記載は200字以内として検討してきたが、数学科目担当教員によって文字数制限の関係により割愛される状況について説明があり、割愛する内容は数学科目担当教員へ一任することとし、割愛した部分等で各科の意図と違う点があれば、来年度以降再度検討し調整していくこととなった。

(出典：平成18年度第7回教員間ネットワーク委員会の議事録より抜粋)

## 資料 2-2-②-6：教育内容の改善事例（数学—専門学科）

## 第3学年解析学IIのシラバス(平成18年度)

## ■評価方法

定期試験の総合的評価(60%)  
 微積分の基礎学力試験(20%)  
 小テスト、宿題、受講態度など学習への取り組みの総合的評価(20%)  
 基礎学力試験は年に4回程度行い、もっともよい点数を得点とする。

## ■その他履修上の注意事項や学習上の助言

平常時の予習・復習が大切である。  
 定期試験は講義内容を十分に理解して受験すること。  
 課題は必ず提出すること。受講するときは講義に集中し、携帯電話の電源を切るなど他の学生に迷惑を掛けないようにすること。  
 分からないことや疑問点などがあれば遠慮なく質問すること。

## ■レポート等

学んだことのまとめの小試験や数学の課題に関するレポート提出を課す。  
 これらの小試験、提出物は年間を通して合計し、成績の20%に相当する。  
 提出状況等が悪かった場合には、年度末に新たな課題を課す場合がある。

## 第3学年解析学IIのシラバス(平成19年度)

## ■評価方法

定期試験の総合的評価(70%)  
 小テスト、レポート、受講態度など学習への取り組みの総合的評価(30%)  
 定期試験には再試験をする場合がある。再試験を行った場合、本試験の点数と、本試験と再試験の点数の平均点のよい方をとる。

## ■その他履修上の注意事項や学習上の助言

関連科目：  
 (1) 土質力学Ⅰ：基本的な微分方程式（圧密の基礎方程式として使用）  
 (2) 水理学Ⅰ・Ⅱ：微分・積分は水理学のほとんどで使用必須事項である  
 (3) 河川工学：基本的な微分方程式（河川水理学の不等流計算で使用）、偏微分とその応用（不定流の基礎方程式として使用）  
 (4) 耐震工学：基本的な微分方程式（振動方程式の解法に使用）  
 (5) 測量学Ⅲ：定積分の応用、重積分とその応用（誤差の処理計算に使用）

## ■レポート等

平常時の予習・復習が大切である。  
 学んだことのまとめの小試験や数学の課題に関するレポート提出を課す。これらの小試験、提出物は年間を通して合計し、成績の30%  
 課題は必ず提出すること。提出状況等が悪かった場合には、年度末に新たな課題を課す場合がある。

その他履修上の注意事項や学習上の助言欄に関連する専門科目を明示。スペースの関係から、そこに書かれていた注意事項は別の欄に記載している工夫が成された。

(出典：平成18, 19年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

教員間ネットワーク委員会を中心に、一般科目担当教員と専門学科教員の間で科目ごとに連絡会が開催され、それぞれの活動がシラバスの改定など教育改善につながっている。

以上のことより、一般科目担当教員と専門学科教員間の連携が機能的に行われている。

観点2-2-③：教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

ここでは学級担任と課外指導教員が職務分掌として定められていること、学級担任の活動、学級担任の活動への支援、課外指導教員の活動とその支援について分析する。

## 1) 学級担任と課外指導教員

学生に対する教育は多岐にわたるが、このうち学級運営等の担任業務は学年主任・学級担任、課外活動は学生課の支援を得て部活動顧問担当教員があたっている。これらの職は教員組織規則に定められている（資料 2-2-③-1）。

□ 資料 2-2-③-1：石川高専教員組織規則

## 資料 2-2-③-1：石川工業高等専門学校教員組織規則

## 第1章 総則

## (趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条及び石川工業高等専門学校学則（昭和40年4月24日制定石川工業高等専門学校規則第1号）（以下「学則」という。）第11条の規定に基づき、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員組織を定めるものとする。

(省略)

## 第2章 職務分掌

## (職)

第3条 本校に次の職を置き、教員はそれぞれの職を分掌するものとする。

((1) ～ (10) は省略)

(11) 学年主任及び学級担任

(12) 課外活動指導教員

(出典：石川工業高等専門学校教員組織規則)

## 2) 学級担任の役割

学生に対する教育活動に関する諸手続き、諸指示は学級担任を通じてなされることが多く、学級担任の活動なくしては円滑な教育活動は実施されない。また、学生自身、学生生活において進路（進学・就職）、勉学、課外活動、友人関係その他多くの問題を抱えており、これらの問題に対して第一線に対応するのが学級担任である。学級担任の役割は教員マニュアル第4.2項に明記されているが、続く第4.3項、第4.4項に記載された指導も学級担任を中心に行われている（資料 2-2-③-2, 3）。

□ 資料 2-2-③-2：学級担任の役割 (1)

□ 資料 2-2-③-3：学級担任の役割 (2)

## 資料 2-2-③-2 : 学級担任の役割 (1)

## 4.2 担任業務

## 4.2.1 学級運営について

## 〈基本姿勢〉

学級担任は学生にとって指導者であるのみならず、学生のよりどころとなる存在でもあります。学生がより良い学校生活をおくり、成長できるよう配慮してください。

## 〈クラス運営〉

- ・クラス運営上で生ずる諸問題については、一人に対応するだけでなく、他学科担任、各科目担当者、学年主任、学科主任、各主事らと連携をとるようにして下さい。
- ・生活面で問題のあると考えられる学生については、必要に応じて保護者と連絡をとり、協力して指導して下さい。精神面に問題を抱える学生については、学生へのプライバシーに配慮しつつ、早期に保健室、学生相談室やカウンセラーなどと連携をとって対応してください。

## 〈学生の緊急連絡網〉

- ・年度初めに所定の書式に従って学生の緊急連絡網を作成し、教務係へ提出してください。学生に連絡を要する緊急事態が生じたとき、この緊急連絡網により連絡が行われることを周知し、連絡に遅滞が生じぬよう考慮してください。また担任教員が不在の場合には教務係から基点者に連絡されることを併せて周知してください。
- ・緊急連絡網に書かれた電話番号は、学級担任と学生課、および連絡の遂行上最小限必要な相手方に開示される旨を、予め学生にご説明してください。

## 〈学級担任の活動記録〉

- ・特別活動の内容、学生への指導等については、学級担任の活動状況報告書に月日、時間、学生氏名及び指導内容を記録してください。  
状況報告書は各定期試験終了後教務係へ提出してください。

## 〈学生の出欠の把握〉

- ・常に欠席の理由を把握するように心掛け、必要な場合には学科主任、授業担当教員と相談し、対応策を協議してください。
- ・欠席、欠課、遅刻等が度重なる学生については、保護者と適宜連絡して家庭と共に学生を指導してください。
- ・欠席、欠課、遅刻等の届の提出については厳しく励行させ、遅くとも一週間以内に学級担任を経て教務係へ提出させてください。
- ・「欠課時数」の算出は各自の教員手帳から行き、「欠席日数」「遅刻日数」「早退日数」「欠課時数」については、出席簿から算出します。出席簿は、これらの正式な記録文書ですから、その取り扱いについては十分注意するように学生に指導を行ってください。

## 〈各種役員の選出とその役割〉

- ・学期の初めには、学級委員の選出をおこない教務係に連絡してください。学級委員は出席簿の管理等の大事な役目を担う委員であることを念頭に置いて選出するようにしてください。
- ・(略)

(出典：教員マニュアル)

## 資料 2-2-③-3：学級担任の役割 (2)

## 4.2.2 学習指導について

- 〈 定期試験 〉 (略)
- 〈 定期試験後の学習指導 〉 (略)
- 〈 単位未修得者への指導 〉 (略)

## 4.3 生活指導について

- 〈 学校における生活指導 〉 (略)
- 〈 教室の美化と清掃 〉 (略)
- 〈 通学方法 〉 (略)
- 〈 事故防止 〉 (略)
- 〈 休日および放課後の指導 〉 (略)

## 4.4 保護者懇談会について

- ・1～4年生は夏季休業中に、5年生については4年次の3～4月中を原則として保護者懇談会を実施してください。(以下略)

## 4.5 奨学金等の制度について

成績が優秀で、かつ家計状況が困窮している学生を対象とした各種の救済制度があります。学生に対して 制度の周知に努めてください。詳細は学生係に問い合わせてください。

- 〈 授業料免除 〉 (略)
- 〈 奨学金制度 〉 (略)

(出典：教員マニュアル)

## 3) 学級担任の活動状況

学級担任が担任業務を円滑に行うための支援策としてより具体的な業務を解説した「教員マニュアル」が作成されている。教員マニュアルに示されるように学級担任の教育活動は多岐にわたっている。学級担任は各期ごとにその活動状況を学生課教務係まで報告することになっている(資料 2-2-③-4)。また、全学年ともに保護者懇談会も実施しており、これを学級担任が行っている(資料 2-2-③-5)。

- 資料 2-2-③-4：学級担任の活動状況 (学級担任活動報告書)
- 資料 2-2-③-5：学級担任の活動状況 (保護者懇談会資料)

## 資料 2-2-③-4 : 学級担任の活動状況 (学級担任活動報告書)

## 学級担任の活動状況報告書 (1) 日常的活動

| 年度       | 学年 | 学科 | 担任名   | 教務記入 |
|----------|----|----|-------|------|
| 2006(前期) | 1  | 〇〇 | 〇〇〇〇〇 |      |

## 1. 日常的指導等

| 期間等   | 時間 | 対象 | 項目   | 詳細                 |
|-------|----|----|------|--------------------|
| 授業期間中 | 10 | 5  | 清掃点検 | 原則として毎日            |
| 随時    | 10 | 全員 | 諸注意  | 連絡等が必要なとき(週2~3回程度) |

## 2. 行事等

| 開始時刻    | 時間 | 対象 | 項目                                | 詳細                                                       |
|---------|----|----|-----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 4/21-22 | 終日 | 全員 | 合宿研修<br>(国立能登青少年交流の家)<br>(詳細は別紙1) | (21日)<br>講話、レクリエーション、学科別ミーティングなど<br>(22日)<br>朝の集い、皿絵付けなど |
| 5/23    | 終日 | 全員 | 春季球技大会<br>(〇〇は2回の会議で中座)           | 球技大会見学と応援<br>一斉清掃指導                                      |
| 7/21-22 | 終日 | 全員 | 保護者懇談会                            |                                                          |

## 3. 定期的指導

| 開始時刻       | 時間  | 対象 | 項目                                     | 詳細                                                                                 |
|------------|-----|----|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 4/10/13:00 | 130 | 全員 | 入学式列席<br>学校生活上の注意(学生)<br>学校生活上の注意(保護者) | 学生としての生活態度<br>今後の日程の説明                                                             |
| 4/11/10:45 | 10  | 全員 | 写真撮影                                   | (雨天のため低学年棟3F リフレッシュルームにて)                                                          |
| 4/11/13:10 | 140 | 全員 | 学生会新入生歓迎会出席<br>ホームルーム                  | 学級委員等選出                                                                            |
| 4/12/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | 合宿研修野外活動種目の決定                                                                      |
| 4/18/16:50 | 20  | 全員 | ホームルーム                                 | 検尿の方法、健康診断の日時と場所など                                                                 |
| 4/19/15:10 | 50  | 全員 | 特活                                     | 非常時の連絡網の作成<br>合宿研修についての説明                                                          |
| 4/26/13:10 | 60  | 全員 | 学生総会                                   | 活動報告・決算案・活動計画・予算案の承認<br>学生主事注意                                                     |
| 4/26/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | 紀友祭に関するアンケート実施<br>サイバー詐欺に関する注意、写真代徴収、連絡網確認                                         |
| 5/10/16:00 | 20  | 全員 | 英語実力試験後の特活                             | 合宿研修での陶芸作品の返却と講評                                                                   |
| 5/17/15:00 | 120 | 全員 | 1年合同特活<br>(〇〇は会議のため60分中)               | 学生相談室講演会<br>「こころ・からだ・性」講師 姉崎昭子氏                                                    |
| 5/24/15:00 | 60  | 全員 | 特活                                     | 作文「高専に入学して」<br>諸注意<br>(健康診断、ゴミ箱、生協、入学動機アンケートなど)                                    |
| 5/31/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | (前期中間)試験上の注意                                                                       |
| 6/14/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | 指導(自転車の放置について)<br>作文「本・読書・図書館」<br>席替え                                              |
| 6/21/15:00 | 50  | 全員 | 1年合同特活                                 | 交通安全講演会                                                                            |
| 6/28/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | 書類の配布およびそれに関する諸注意<br>(成績表、健康診断結果、献血パンフ、<br>情報処理センター利用案内)                           |
| 7/5/15:00  | 100 | 全員 | 高専大会壮行会                                | 高専大会壮行会<br>文化部発表会                                                                  |
| 7/6/12:45  | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 成績と学習について<br>学校で困っていること<br>3つの約束                                                   |
| 7/7/12:45  | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/10/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/11/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/12/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/13/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/14/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/18/10:35 | 5   | 全員 | 連絡事項                                   | 後期授業料免除の面接についての連絡                                                                  |
| 7/18/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/19/12:45 | 20  | 2  | 個人面談(4分×5人)                            | 同上                                                                                 |
| 7/11/15:00 | 25  | 全員 | 特活                                     | 図書館文芸コンクール・利用案内、寮生募集案内、<br>保護者懇談会に関する連絡、<br>電気工学科指導教員制度について<br>(クラスで説明後、指導教員の元で活動) |
| 7/19/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | 夏休みの注意<br>翌日(7/19)の校内一斉清掃について                                                      |
| 9/6/13:10  | 50  | 全員 | 高専大会結果報告会                              | 高専大会結果報告                                                                           |
| 9/6/16:00  | 40  | 全員 | 特活                                     | 英語実力試験、命の大切さについて                                                                   |
| 9/13/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                     | (前期末)試験上の注意、授業アンケート                                                                |
| 9/27/15:00 | 50  | 全員 | 1年~3年合同特活                              | ロボコン校内大会                                                                           |
| 10/2/15:00 | 20  | 全員 | 特活                                     | 秋季休業についての注意                                                                        |

(出典：学級担任活動報告書)

## 資料 2-2-③-5：学級担任の活動状況（保護者懇談会）

平成18年 6月 日

〇〇〇〇工学科 〇年 保護者 各位

石川工業高等専門学校長  
金岡千嘉男  
(公印省略)

## 保護者懇談会(個別面談)の開催について

拝啓 保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では、学校の教育方針や学生の指導等について保護者の皆様と学級担任との意思の疎通を図りたく、下記により保護者懇談会を開催いたします。

つきましては、これを機に今後とも家庭と学校が一体となり学生の教育指導に当たりたいと思っておりますので、お忙しいことと存じますが是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬具

## 記

日時： 7月21日(金)・22日(土) いずれも9時～17時

会場： 石川工業高等専門学校〇〇〇〇棟〇〇号館

〇〇階〇〇〇〇学科 〇〇〇〇教室

出欠： 学生本人を通じ、学級担任にご連絡願います。

又は〇〇〇〇番へFax送信でお知らせください。

担任 〇〇〇〇〇〇

(出典：保護者懇談会資料)

## 4) 学級担任への支援

学生課は教務係、学生係、寮務係で構成され、それぞれが上記の担任業務に関連して、教員と連携し、学級担任のさまざまな教育活動を支援している(資料 2-2-③-6, 7)。また、FD研修会においても学級担任への支援に関する研修を行っている(資料 2-2-③-8)。

- 資料 2-2-③-6：学生課による学級担任への支援
- 資料 2-2-③-7：教務係による学級担任への支援
- 資料 2-2-③-8：FD研修会等による学級担任への支援



資料2-2-③-6：学生課による学級担任への支援

第13条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生の学外実習及び見学に関する事。
- (7) 学生の課外教育及び学生団体に関する事。
- (8) 学生に対する奨学金並びに入学科、授業料及び寄宿料の減免、徴収猶予に関する事。
- (9) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (10) 学生の保健衛生管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (11) 学生の就職に関する事。
- (12) 学生の通学及び旅客運賃割引証に関する事。
- (13) 学生寮の管理運営に関する事。
- (14) 学生の入退寮に関する事。
- (15) 寮生の生活指導に関する事。
- (16) その他教務、学生生活及び寮務に関する事務を処理する事。

(出典：石川工業高等専門学校事務組織規則)

## 資料 2-2-③-7：教務係による学級担任への支援

第11条 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の事務に関し、給括し及び連絡調整すること。
- (2) 学生募集及び入学者選抜に関すること。
- (3) 学生の修学指導に関すること。
- (4) 学生の入学（進級）、復学、休学、退学、卒業及び修了に関すること。
- (5) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (6) 教育改善に関すること。
- (7) 学生の試験及び成績に関すること。
- (8) 学生の進学に関すること。
- (9) 指導要録の作成及び整理保存に関すること。
- (10) 学生、卒業者及び修了者の諸証明に関すること。
- (11) 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生に関すること。
- (12) 外国人留学生の受入れに関すること。
- (13) 学生の留学に関すること。
- (14) 学外実習及び見学に関すること。
- (15) 特別活動に関すること。
- (16) 教室の管理に関すること。
- (17) 教科書及び教材に関すること。
- (18) 授業料の債権の発生等通知に関すること。
- (19) 学生課における公印に関すること。
- (20) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (21) 学科等の事務に関すること。
- (22) その他、学生課の所掌事務で他の係に属しないこと。

(出典：石川工業高等専門学校事務組織規則)

## 資料 2-2-③-8 : FD研修会による学級担任への支援

平成19年2月26日

教職員各位

FD委員長

## 第4回教員研修会の開催について

このことについて、下記のとおり詳細が決定しましたので、必ずご参加願います。

なお、前回と場所を変更しておりますので、ご注意願います。

## 記

日時：平成19年3月8日（木）13：30～17：00

場所：大会議室

内容：1. 講演会（13：30～15：30）

講師 藤田香津恵 氏（親業シニアインストラクター）

演題 教師学

2. 研修会（班別討議）（15：45～17：00）

## （1）討議課題

A班 「50分授業の是非」（場所：大会議室）

B班 「低学年・高学年に対して同一の教育でよいのか」（場所：ゼミ室）

C班 「担任の役割」（場所：専攻科講義室）

（出典：学生課保管資料）

## 5) 課外活動の指導教員の役割

部・同好会活動等の課外活動の指導には、各部活動ごとに1名～3名の顧問教員が定められており、部活動顧問教員は適切な指導にあたるよう定められている（資料 2-2-③-9）。

部活動顧問教員による顧問教員会議が組織されており、部活動等の予算配分、高専大会等の実施に伴う支援体制の打ち合わせなどの他、課外活動指導に伴う問題点・要望などについて協議・検討がなされ、支援体制の改善が図られている。

学生係はその職務として、課外活動の指導にあたる教員の補助としてその支援にあたることが定められている（資料 2-2-③-10）。また、指導手当、旅費などの間接的支援も行われている（資料 2-2-③-11）。

保健室によって救命救急講習会も企画されており、これも課外活動指導教員への支援と位置づけることができる（資料 2-2-③-12）。

- 資料 2-2-③-9：部活動顧問教員一覧
- 資料 2-2-③-10：学生係による指導教員への支援
- 資料 2-2-③-11：指導手当、出張費、遠征費等の規定
- 資料 2-2-③-12：保健室による課外活動顧問教員への支援

資料 2-2-③-9 : 部活動顧問教員一覧

2007/4/11

| 団体名          | 氏名        | 学科・内線   | 団体名        | 氏名                                                      | 学科・内線   |         |
|--------------|-----------|---------|------------|---------------------------------------------------------|---------|---------|
| <b>運動部</b>   |           |         | <b>運動部</b> |                                                         |         |         |
| 1 サッカー       | 富田 充宏     | (C) 659 | 19 空手道     | 割澤 泰                                                    | (M) 505 |         |
|              | 堀 純也      | (M) 506 |            | 小熊 猛                                                    | (G) 400 |         |
|              | 河合 秀泰     | (G) 408 |            | 20 ハンドボール                                               | 川原 繁樹   | (G) 417 |
| 2 バスケットボール   | 鈴木 久博     | (G) 419 | 東 亮一       |                                                         | (E) 551 |         |
|              |           | 河野 顕臣   | (M) 503    | <b>文化部</b>                                              |         |         |
| 3 女子バスケットボール | 山田 悟      | (E) 560 | 21 美術      | 阿蘇 和寿                                                   | (G) 410 |         |
|              | 團野 光晴     | (G) 401 |            | 紺谷 雅樹                                                   | (G) 420 |         |
|              | 4 野球      | 澤田 功    | (G) 405    | 22 写真                                                   | 金木 健    | (A) 703 |
| 5 卓球         |           | 小泉 徹    | (C) 654    | 23 電気                                                   | 徳井 直樹   | (E) 559 |
|              |           | 北田 耕司   | (G) 415    | 24 吹奏楽                                                  | 小熊 猛    | (G) 400 |
|              | 奥田 浩司     | (G) 403 | 記州 智美      |                                                         | (M) 500 |         |
| 6 ラグビー       | 瀬戸 悟      | (E) 557 | 25 英語      | 太田 伸子                                                   | (G) 421 |         |
|              | 藤岡 潤      | (M) 502 |            | スコフィールド*                                                | (G) 422 |         |
| 7 柔道         | 大坪 茂      | (E) 553 | 26 将棋・囲碁部  | 中村 繁                                                    | (G) 409 |         |
|              | 鈴木 康文     | (G) 407 |            | 越野 亮                                                    | (I) 602 |         |
| 8 ソフトテニス     | 畑 時男      | (C) 653 | 27 建築研究    | 内田 伸                                                    | (A) 704 |         |
|              | 高島 要      | (G) 402 |            | 28 電子情報研究                                               | 竹下 哲義   | (I) 609 |
|              | 9 テニス     | 石田 博明   | (M) 510    |                                                         | 越野 亮    | (I) 602 |
| 森原 崇         |           | (A) 705 | 堀 純也       | (M) 506                                                 |         |         |
| 深見 哲男        |           | (E) 556 | 30 新聞部     | 長岡 健一                                                   | (I) 607 |         |
| 10 女子テニス     | 豊田 剛      | (C) 656 |            | 笠松 健一                                                   | (G) 413 |         |
|              |           | 富山 正人   | (G) 418    | 31 ロボット研究部                                              | 八田 潔    | (M) 509 |
|              | 河合 康典     | (E) 550 | 藤岡 潤       |                                                         | (M) 502 |         |
| 11 剣道        | 佐々木 香織    | (G) 404 | <b>同好会</b> |                                                         |         |         |
|              | 北田 幸彦     | (A) 706 | 32 F L     | 大坪 茂                                                    | (E) 553 |         |
| 12 バレーボール    | 松島 敏夫     | (G) 411 | 33 映画      | 徳井 直樹                                                   | (E) 559 |         |
|              | 山田 洋士     | (I) 606 |            | 34 環境都市研究                                               | 鈴木 洋之   | (C) 676 |
| 13 女子バレーボール  | 森田 義則     | (E) 558 | 重松 宏明      |                                                         | (C) 658 |         |
|              | 村田 一也     | (A) 709 | 35 園芸      | 高野 典礼                                                   | (C) 650 |         |
| 14 陸上競技      | 笠松 健一     | (G) 413 |            | 学生主事<br>学生課長<br>学生課長補佐<br>学生係主任<br>学生係主任<br>学生係<br>寮務係長 | 松田 理    | (M) 507 |
|              | 15 バドミントン | 上町 俊幸   | (E) 555    |                                                         | 伊藤 文雄   | (学) 300 |
| 岩竹 淳         |           | (G) 416 | 森田 勉       |                                                         | (学) 305 |         |
| 16 女子バドミントン  | 旭吉 雅健     | (M) 502 | 畑山 啓子      |                                                         | (学) 306 |         |
|              | 長岡 健一     | (I) 607 | 太田 守人      |                                                         | (学) 308 |         |
| 17 水泳        | 熊澤 栄二     | (A) 700 | 古森 純子      |                                                         | (学) 307 |         |
|              | 太田 智加子    | (G) 406 | 永下 和子      |                                                         | (寮) 320 |         |
| 18 ワンダーフォーゲル | 高野 典礼     | (C) 650 |            |                                                         |         |         |
|              | 西澤 辰男     | (C) 657 |            |                                                         |         |         |
|              | 和田 匡司     | (C) 651 |            |                                                         |         |         |
|              | 團野 光晴     | (G) 401 |            |                                                         |         |         |
|              | 重松 宏明     | (C) 658 |            |                                                         |         |         |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 2-2-③-10：学生係による課外活動指導教員への支援

第12条 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育及び学生団体に関すること。
- (2) 学生の規律の保持に関すること。
- (3) 入学科、授業料及び寄宿料の減免、徴収猶予に関すること。
- (4) 学生の奨学金に関すること。
- (5) 学生の表彰並びに懲戒に関すること。
- (6) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (7) 学生の保健衛生管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (8) 学生相談に関すること。
- (9) 学生の就職に関すること。
- (10) 独立行政法人日本スポーツ振興センター法に係る共済給付契約及び給付金の支払請求に関すること。
- (11) 学生の通学及び旅客運賃割引証に関すること。
- (12) 学生の集会、掲示物及び出版物に関すること。
- (13) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (14) その他学生の学生生活に関すること。

(出典：事務分掌細則)

## 資料 2-2-③-11：指導手当，出張費，遠征費等の規定

平成19年3月22日

教職員 各位

校長

非常勤講師等に対する旅費支給基準の制定及び課外活動  
引率に係る旅行命令手続きの変更について（お知らせ）

標記のことについて、経費節減及び旅行命令発出手続きの簡素化を図るため、別紙のとおり非常勤講師等に対する旅費支給基準を定めましたのでお知らせします。

つきましては、本基準の運用について、平成19年4月から適用（非常勤講師に関する旅費については、平成19年10月以降に適用）で下記のとおりとしますので、各教職員におかれましては、手続きに遺漏のないようお願いいたします。特に、課外活動引率に係る旅行命令作成等については、大変手数をお掛けしますが、事務の合理化及び諸経費節減の事情を斟酌いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

課外活動引率関係（教育後援会支弁旅費関係）

- 1 課外活動引率に関する旅費が1ヶ月分取りまとめて支給されます。
- 2 課外活動承認申請書は学生係に提出します。（従来どおり）

（以下略）

(出典：総務課保管資料)

## 資料 2-2-③-12：保健室による学級担任への支援

平成18年5月15日

教職員 各位

学 生 主 事

## 「救急講習会」について

学生や教職員が学内等においてケガをした時や病気で倒れた時に、近くにいる教職員は救急処置を行う必要があります。この処置が予後を大きく左右します。また、本校はAEDを1台以上備え、救命講習修了者が1名以上いる事業所ということで、津幡町消防署から救適マークを認定されています。そこで、AEDの使い方を含め、救急救命の技術を取得するためにも、昨年講習会に参加できなかった方や新しく赴任されてきた方、再度参加したい方など、是非講習会に参加していただくようお願いします。

ついでには、準備の都合上、人数を把握したいので、参加できる方は5月19日（金）までに保健室へメールにて申し込みください。

- ・ 日 時： 平成18年6月7日（水）14：00～17：00
- ・ 場 所： 石川高専 管理棟2階 大会議室
- ・ 講習内容： 応急手当の重要性  
心肺蘇生法  
AEDの使用方法  
異物除去  
止血法

(出典：救命救急講習会資料)

## (分析結果とその根拠理由)

学級担任制度が整備され、教員マニュアルにしたがって適正な活動を行っており、その活動状況は活動報告書によって示されている。

学生課は学生係・教務係を中心として学級担任の補助にあたり、学級担任の役割を定めた教員マニュアルも学級担任の教育活動に対する支援ということができる。

課外活動に対しても顧問教員会議を通じた支援などで教員の部活動顧問の活動に対する検討がなされるなど、その活動が円滑に行われている。また、事務組織においても学生課の各担当係を通じたさまざまな支援体制が整備され、実行されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・ 情報処理センターおよびトライアル研究センターが整備され、情報処理教育は元より、学生の総合技術開発能力の育成など学内共同研究教育施設としてのみならず、地域連携および産学官交流に大いに寄与している。
- ・ 総合企画会議を頂点として教務委員会やその他各種委員会が組織され、教育課程全体を企画調整し、有効に展開するための検討・運営体制は適切に整備され、その責任体制は明確である。

### (改善を要する点)

- ・ 特になし。

## (3) 基準 2 の自己評価の概要

学科構成は工学の幅広い分野を網羅する機械工学、電気工学、電子情報工学、環境都市工学、建築学の5学科により体系的に構成され、教育の目的を達成するよう十分配慮したものとなっており、学校教育法に適合し、またその内容と目的が本校の準学士課程の学習目標と整合性が取れ、適切なものとなっている。専攻科を構成する2専攻は、準学士課程の5学科の専門分野を基盤とし、その上に各学科の専門分野を複合・融合する形で体系的に構成されており、専攻科は準学士課程の卒業生を対象にして「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的」とした教育研究を行っており、学校教育法に適合している。また、本校における専攻科の学習目標とも整合性がとれている。

本校における全学的なセンターとして、情報処理センターおよびトライアル研究センターが設置され、情報処理教育および総合技術開発能力のある学生の育成の場として活用されており、高度な科学技術の教育・研究推進の中核として必要不可欠なものとなっている。特に情報処理センターでは近年e-learning システムを導入するなど、同センターは本校の教育の目的を達成するために不可欠なものとなっている。

教育課程全体を有効に展開するための企画調整・検討・運営体制として将来構想計画委員会、総合企画会議をはじめ教務委員会、専攻科委員会などが整備され、各種委員会は教育改善プロセスを構成し、教育・学習の計画、実施・運用、点検、改善・見直しの活動がなされ、校長を頂点とした組織の責任体制も明確である。委員会は、毎月定例で会議を開催し、教育課程など重要事項を審議はじめてする活動が適切に行われ、その結果は主任会議で報告されるなど、教員に周知されている。

教員間ネットワーク委員会を中心に、一般科目担当教員と専門学科教員の間で科目ごとに連絡会が開催され、それぞれの活動がシラバスの改定など教育改善につながっている。

学級担任制度が整備され、教員マニュアルにしたがって適正な活動を行っており、その活動状況は活動報告書によって示されている。

学生課は学生係・教務係を中心として学級担任の補助にあたり、学級担任の役割を定めた教員マニュアルも学級担任の教育活動に対する支援とすることができる。

課外活動に対しても顧問教員会議を通じた支援などで教員の部活動顧問の活動に対する検討がなされるなど、その活動が円滑に行われている。また、事務組織においても学生課の各担当係を通じたさまざまな支援体制が整備され、実行されている。

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

## 1) 一般科目の教員の配置状況

一般科目担当専任教員は、高等専門学校設置基準（設置基準による定員数は22名）を満たす23名により構成され、その担当教科の内訳は国語3名、倫理・哲学1名、歴史1名、数学6名、物理2名、化学1名、保健体育3名、英語6名であり、これに21名の非常勤講師を加えて、一般教育科の教育課程に設定された科目の教育にあたっている（資料3-1-①-1）。修士以上の学歴を持つ教員の割合が91%（21名/23名）と極めて高く、平成19年度科学研究費補助金の採択率も30%（7名/23名）とかなり高い。一般教育科教員の学位と専門分野、ならびに担当する授業との関係を次に示す（資料3-1-①-2）。

- 資料3-1-①-1：一般教育科教員の数
- 資料3-1-①-2：一般教育科教員の専門分野と担当授業科目一覧

資料3-1-①-1：一般教育科教員の数

|       | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 保健体育 | 芸術 | 外国語 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|------|----|-----|----|
| 教授    | 2  | 1  | 3  | 1  | 1    | 0  | 1   | 9  |
| 准教授   | 1  | 0  | 3  | 1  | 1    | 0  | 4   | 10 |
| 講師    | 0  | 1  | 0  | 1  | 1    | 0  | 1   | 4  |
| 助教    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 0  | 0   | 0  |
| 助手    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 0  | 0   | 0  |
| 計     | 3  | 2  | 6  | 3  | 3    | 0  | 6   | 23 |
| 非常勤講師 | 1  | 6  | 3  | 3  | 1    | 1  | 6   | 21 |
| 合計    | 4  | 8  | 9  | 6  | 4    | 1  | 12  | 44 |

(出典：総務課保管資料)



資料3-1-①-2：一般教育科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名           | 学位         | 専門分野                               | 担当授業科目           |
|-----|--------------|------------|------------------------------------|------------------|
| 教授  | 中村 繁         | 理学修士       | 多変数関数論                             | 数学, 応用数学         |
| 教授  | 山岸 英樹        | 工学博士       | 分析化学, 理科教育                         | 化学               |
| 教授  | 阿蘇 和寿        | 理学修士       | 微分幾何学, 数学教育                        | 数学, 応用数学         |
| 教授  | 太田 伸子        | 英語教授法修士    | 応用言語学, 英語教育                        | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |
| 教授  | 高島 要         | 文学修士       | 日本文学, 和漢比較文学                       | 国語, 日本文学         |
| 教授  | 鈴木 康文        | 博士(文学)     | 現代思想                               | 倫理, 哲学           |
| 教授  | 川原 繁樹        | ---        | スポーツバイオメカニクス, 運動処方                 | 保健体育             |
| 教授  | 奥田 浩司        | 文学修士       | 日本近代文学                             | 国語, 日本文学         |
| 教授  | 松島 敏夫        | 博士(理学)     | 複素解析, 多変数関数論, 幾何学的関数論              | 数学, 応用数学         |
| 准教授 | 河合 秀泰        | 理学修士       | 代数学                                | 数学, 応用数学         |
| 准教授 | 紺谷 雅樹        | 文学修士       | 英米文学                               | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |
| 准教授 | 小熊 猛         | 博士(文学)     | 認知言語学, 認知文法                        | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |
| 准教授 | 鈴木 久博        | 修士(文学)     | ユダヤ系アメリカ文学                         | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |
| 准教授 | 澤田 功         | 博士(理学)     | 物性物理学, 統計物理学, 科学教育                 | 物理学, 数学          |
| 准教授 | 團野 光晴        | 修士(文学)     | 日本近代文学, 大江健三郎研究, 戦後日本文化・思想・社会史     | 国語, 日本文学         |
| 准教授 | 富山 正人        | 博士(数理学)    | 代数的組合せ論                            | 数学, 応用数学         |
| 准教授 | 森田 健二        | 博士(理学)     | 代数学                                | 数学, 応用数学         |
| 准教授 | 北田 耕司        | 修士(体育学)    | 運動生理学, バイオメカニクス                    | 保健体育             |
| 准教授 | 太田 智加子       | 修士(国際文化)   | ベンジャミン・リ・ウォーフの言語思想, 言語意識教育, ジェンダー論 | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |
| 講師  | 佐々木 香織       | 修士(地域研究)   | 日本中世芸能史                            | 歴史               |
| 講師  | 岩竹 淳         | 修士(スポーツ科学) | トレーニング科学, スポーツコーチ学                 | 保健体育             |
| 講師  | 笠松 健一        | 博士(理学)     | 物性理論, 非線形物理                        | 物理学, 数学          |
| 講師  | P. SCHOFIELD | ---        | 英語教育, コンピュータサイエンス                  | 基礎英語, 総合英語, 英語表現 |

(出典：総務課・学生課保管資料)

## 2) 学習目標と一般科目担当教員の配置

一般教育科の教員は、学校が定めた学習目標を達成するために配置された一般科目を担当している。学習目標に対応した一般教育科授業科目（必修科目）とその担当教員（常勤のみ）一覧表を示す（資料3-1-①-3）。ここで◎は主たる学習目標、○は副次的な学習目標である。たとえば基礎数学の場合は専門科目を学ぶための知識や計算力などの基礎学力の養成を目指しつつ、工学的な問題を解決する力や論理的な表現力を養う。また英語科は、平成17年度より外国人の専任教員を配置し実践的な英会話能力修得のための科目の充実を図っている。

## □ 資料3-1-①-3：一般教育科教員授業科目と学習目標

資料3-1-①-3：一般教育科教員授業科目と学習目標

| 授 業 科 目          |                  |              | 単<br>位<br>数                                         | 担<br>当<br>教<br>員                             | 学 習 目 標 ( 準 ) |   |   |   |  |
|------------------|------------------|--------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------------|---|---|---|--|
|                  |                  |              |                                                     |                                              | 1             | 2 | 3 | 4 |  |
| 必<br>修<br>科<br>目 | 国<br>語           | 国 語 I        | 4                                                   | 高島 要<br>奥田浩司<br>團野光晴                         | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  |                  | 国 語 II       | 2                                                   |                                              | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  |                  | 国 語 III      | 2                                                   |                                              | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  |                  | 日 本 文 学      | 1                                                   |                                              | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  | 社<br>会           | 歴 史 I        | 2                                                   | 鈴木康文<br>佐々木香織                                | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  |                  | 歴 史 II       | 1                                                   |                                              |               |   | ◎ | ○ |  |
|                  |                  | 倫 理          | 2                                                   |                                              | ◎             |   |   | ○ |  |
|                  |                  | 地 理          | 1                                                   |                                              | ◎             |   | ○ |   |  |
|                  |                  | 政 治 ・ 経 済    | 1                                                   |                                              | ◎             |   | ○ |   |  |
|                  |                  | 哲 学 と 科 学    | 1                                                   |                                              |               |   | ◎ | ○ |  |
|                  | 数<br>学           | 基 礎 数 学 A    | 4                                                   | 中村 繁<br>阿蘇和寿<br>河合秀泰<br>松島敏夫<br>富山正人<br>森田健二 | ◎             | ○ |   | ○ |  |
|                  |                  | 基 礎 数 学 B    | 3                                                   |                                              | ◎             | ○ |   | ○ |  |
|                  |                  | 解 析 学 I      | 4                                                   |                                              | ◎             | ○ |   | ○ |  |
|                  |                  | 解 析 学 II     | 4                                                   |                                              | ○             | ◎ |   | ○ |  |
|                  |                  | 代 数 ・ 幾 何 I  | 2                                                   |                                              | ◎             | ○ |   | ○ |  |
|                  |                  | 代 数 ・ 幾 何 II | 1                                                   |                                              | ◎             | ○ |   | ○ |  |
|                  |                  | 総 合 数 学      | 1                                                   |                                              | ◎             |   |   |   |  |
|                  | 理<br>科           | 物 理 学 I      | 2                                                   | 沢田 功<br>笠松健一                                 | ◎             |   |   |   |  |
|                  |                  | 物 理 学 II A   | 2                                                   |                                              | ◎             |   |   |   |  |
|                  |                  | 物 理 学 II B   | 2                                                   |                                              | ◎             |   |   |   |  |
|                  |                  | 化 学          | 化 学 I                                               | 2                                            | 山岸英樹          | ◎ | ○ | ○ |  |
|                  |                  |              | 化 学 II                                              | 3                                            |               | ◎ | ○ | ○ |  |
|                  |                  |              | 生 命 の 科 学                                           | 1                                            |               |   |   | ◎ |  |
|                  | 保<br>健<br>体<br>育 | 保 健 体 育 I    | 2                                                   | 川原繁樹<br>北田耕司<br>岩竹 淳                         |               | ◎ | ○ |   |  |
|                  |                  | 保 健 体 育 II   | 2                                                   |                                              |               | ◎ | ○ |   |  |
|                  |                  | 保 健 体 育 III  | 2                                                   |                                              |               | ◎ | ○ |   |  |
|                  |                  | 保 健 体 育 IV   | 2                                                   |                                              |               | ◎ | ○ |   |  |
|                  |                  | 保 健 体 育 V    | 1                                                   |                                              |               | ◎ | ○ |   |  |
| 芸<br>術           | 美 術              | 1            |                                                     | ◎                                            |               |   |   |   |  |
| 外<br>国<br>語      | 基 礎 英 語 I        | 4            | 太田伸子<br>鈴木久博<br>紺谷正樹<br>小熊 猛<br>太田智加子<br>P. スコフィールド |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 基 礎 英 語 II       | 2            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 表 現 I        | 2            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 表 現 II       | 4            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 表 現 III      | 1            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 総 合 英 語          | 1            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 講 読 I        | 2            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 講 読 II       | 2            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |
|                  | 英 語 講 読 III      | 1            |                                                     |                                              |               | ○ | ◎ |   |  |

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当教員は専任教員23名（高等専門学校設置基準による定員数は22名）と非常勤講師21名から構成されており、また、教育課程表に配当された科目構成に対してバランスのとれた専門分野の配置となっている。専任教員にあつては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮している。特に、外国人の専任教員を配置し、実践的な英会話能力修得のための科目に充てるなど、一般科目の教育理念および学習目標達成のために適切な教員配置を行っている。

また修士以上の学歴を持つ教員の割合が極めて高く（91%、21名/23名）、平成19年度科学研究費補助金の採択率も高い（30%、7名/23名）。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点到に係る状況)

1) 専門科目の教員の配置状況

各専門学科の担当専任教員は、高等専門学校設置基準を満たす人数により構成され、機械工学科11名、電気工学科10名、電子情報工学科10名、環境都市工学科12名、建築学科10名を配置している（資料3-1-②-1～6）。さらに専門学科の学位取得者、企業・大学経験者数一覧とその詳細を示す（資料3-1-②-7, 8）。

- 資料3-1-②-1：専門科目担当教員の数
- 資料3-1-②-2：専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械工学科）
- 資料3-1-②-3：専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気工学科）
- 資料3-1-②-4：専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電子情報工学科）
- 資料3-1-②-5：専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（環境都市工学科）
- 資料3-1-②-6：専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（建築学科）
- 資料3-1-②-7：各学科の学位取得者および企業・大学等経験者の配置状況
- 資料3-1-②-8：企業・大学等経験者一覧

資料3-1-②-1：専門科目担当教員の数

|         | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計  | 非常勤講師 | 合計 |
|---------|----|-----|----|----|----|-------|----|
| 機械工学科   | 4  | 4   | 2  | 1  | 11 | 4     | 15 |
| 電気工学科   | 3  | 5   | 0  | 2  | 10 | 6     | 16 |
| 電子情報工学科 | 4  | 3   | 3  | 0  | 10 | 4     | 14 |
| 環境都市工学科 | 5  | 3   | 2  | 2  | 12 | 2     | 14 |
| 建築学科    | 4  | 3   | 2  | 1  | 10 | 5     | 15 |
| 合計      | 20 | 18  | 9  | 6  | 53 | 21    | 74 |

(出典：総務課保管資料)

資料3-1-②-2：機械工学科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野                      | 担当授業科目                                                        |
|-----|-------|--------|---------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 教授  | 黒崎 正大 | 工学博士   | 流体・熱工学,<br>航空・宇宙工学        | 熱力学Ⅰ, 工業英語, 熱機関,<br>機械基礎製図Ⅱ,<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ                     |
| 教授  | 割澤 泰  | 工学修士   | 流体工学,<br>知能機械工学           | 流れ学Ⅰ, 流れ学Ⅱ, 知能機械,<br>流体機械, 機械設計製図Ⅱ,<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ              |
| 教授  | 松田 理  | 工学博士   | 熱工学,<br>伝熱工学              | 機械工学基礎, 熱力学Ⅱ, 伝熱工学,<br>応用伝熱工学, 機械基礎製図Ⅱ,<br>機械設計製図Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ |
| 教授  | 松崎 良男 | 博士(工学) | トライボロジー,<br>設計工学,<br>機械要素 | 機械工作法Ⅰ, 機械工作法Ⅱ,<br>機械要素, 工作機械, 機械実習Ⅲ,<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ            |
| 准教授 | 河野 顕臣 | 工学博士   | 機械材料、材料加工                 | 材料学Ⅰ・Ⅱ、機械実習Ⅲ、<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ                                    |
| 准教授 | 石田 博明 | 博士(理学) | 応用物理学,<br>計算科学            | 応用物理Ⅰ, 応用物理Ⅱ, 情報通信,<br>情報処理Ⅱ, 応用物理演習,<br>応用物理実験, 機械工学実験Ⅰ      |
| 准教授 | 八田 潔  | 博士(工学) | 制御工学,<br>メカトロニクス          | 制御工学, メカトロニクス,<br>機械基礎製図Ⅰ, 機械設計製図Ⅰ,<br>機械実習Ⅰ, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ       |
| 准教授 | 堀 純也  | 博士(工学) | 材料力学,<br>メカトロニクス          | 情報処理Ⅰ, 機構学, 材料力学Ⅱ,<br>システム工学<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ                     |
| 講師  | 旭吉 雅健 | 博士(工学) | 材料力学,<br>材料強度学            | 材料力学Ⅰ, 応用材料力学, 機械実習Ⅱ,<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ, 機械設計製図Ⅰ                   |
| 講師  | 藤岡 潤  | 博士(工学) | ロボット工学,<br>メカトロニクス        | 機械要素, 計測工学, 知能機械,<br>情報処理Ⅱ, 機械実習Ⅰ,<br>機械工学実験Ⅰ・Ⅱ               |
| 助教  | 記州 智美 | 修士(工学) | 機械力学、福祉工学                 | コンピュータリテラシー、<br>機械力学、工業力学、<br>機械基礎製図Ⅱ、機械工学実験Ⅱ                 |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料3-1-②-3：電気工学科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野                         | 担当授業科目                                                        |
|-----|-------|--------|------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 教授  | 櫻野 仁志 | 博士(工学) | 電力工学・<br>電気機器工学              | 電力工学Ⅰ，<br>電気法規，電力工学Ⅱ，電力系統工学，<br>電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ                   |
| 教授  | 深見 哲男 | 博士(工学) | 電波工学，<br>電子機器工学，<br>超高層(電離圏) | 電子回路Ⅱ，電気・電子計測Ⅱ，<br>基礎電波工学，工業英語，通信機器，<br>電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ           |
| 教授  | 瀬戸 悟  | 博士(工学) | 半導体光物性，<br>半導体結晶成長           | 応用物理，半導体デバイス工学Ⅰ・Ⅱ，<br>工業英語，<br>電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ                    |
| 准教授 | 森田 義則 | 博士(工学) | 情報通信工学                       | 電気回路Ⅰ，通信工学，基礎電子通信工学，<br>画像音声工学，電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ                    |
| 准教授 | 大坪 茂  | 学術博士   | 応用物性，<br>量子光工学               | 電気磁気学Ⅱ，電気工学基礎，電気応用，<br>光エレクトロニクス，<br>電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ              |
| 准教授 | 徳井 直樹 | 博士(工学) | デジタル信号処理                     | 計算機工学基礎，電子回路Ⅰ，<br>電子回路設計，数値計算，<br>信号処理基礎，電気電子工学基礎実験Ⅰ・Ⅱ        |
| 准教授 | 山田 悟  | 博士(工学) | 薄膜工学・<br>結晶工学                | 基礎電磁気学，電気材料，<br>プログラミングⅡ，<br>電気電子工学基礎実験Ⅱ，<br>電気電子工学実験Ⅰ        |
| 准教授 | 上町 俊幸 | 博士(工学) | 電気機器工学，<br>パワーエレクトロニクス       | 電気電子計測、電気回路Ⅱ、電気磁気学Ⅰ、<br>パワーエレクトロニクス、<br>電気電子工学基礎実験Ⅱ、電気電子工学実験Ⅰ |
| 助教  | 河合 康典 | 博士(工学) | 制御工学                         | 回路基礎，電気電子工学基礎実験Ⅰ，<br>自動制御，工業英語，電気工学基礎，<br>電気電子工学実験Ⅰ・Ⅱ         |
| 助教  | 東 亮一  | 博士(工学) | 電子計測，<br>宇宙プラズマ              | 電気数学，コンピュータリテラシー，<br>プログラミングⅠ，<br>電気電子工学基礎実験Ⅰ，電気電子工学実験Ⅰ       |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料3-1-②-4：電子情報工学科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名     | 学位     | 専門分野                              | 担当授業科目                                                                             |
|-----|--------|--------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 教授  | 白山 政敏  | 工学博士   | 制御工学,<br>デジタル回路,<br>数値解析学         | 数値解析Ⅱ, 制御工学Ⅰ, 制御工学Ⅱ,<br>情報数学, 電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ                                        |
| 教授  | 岡野 修一  | 工学博士   | 半導体デバイス,<br>集積回路設計,<br>通信ネットワーク応用 | デジタル回路, 電磁気学Ⅱ, 基礎電磁波工学,<br>集積回路工学, 電子物性基礎,<br>電子情報工学実験Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ                        |
| 教授  | 堀田 素志  | 学術博士   | 計測工学                              | 回路基礎, 電気回路Ⅰ, 電子回路Ⅰ,<br>回路工学Ⅱ, 光電子工学,<br>電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ                            |
| 教授  | 金寺 登   | 博士(工学) | 音声情報処理                            | プログラミングⅠ,<br>コンピュータアーキテクチャ,<br>オペレーティングシステム, ソフトウェア工学,<br>パターン認識,<br>電子情報工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ |
| 准教授 | 竹下 哲義  | 博士(工学) | 材料科学,<br>計算科学                     | 電磁気学Ⅰ,<br>シミュレーション, 量子工学,<br>電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ                                       |
| 准教授 | 山田 洋士  | 博士(工学) | デジタル信号処理                          | デジタル信号処理Ⅰ, デジタル信号処理Ⅱ,<br>電子情報工学基礎, プログラミングⅡ,<br>電子情報工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ                    |
| 准教授 | 山田 健二  | 博士(工学) | 表面物性工学                            | 応用物理Ⅰ・Ⅱ, 電子材料分析,<br>電子情報工学基礎, 回路基礎, 符号理論,<br>電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ                         |
| 講師  | 長岡 健一  | 修士(工学) | 情報通信工学                            | 情報基礎, 情報通信Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,<br>電子情報工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ                                                  |
| 講師  | 小村 良太郎 | 博士(工学) | 画像処理,<br>リモートセンシング,<br>GIS        | 電子回路Ⅱ, 画像情報処理,<br>工業英語, 電子情報工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ                                            |
| 講師  | 越野 亮   | 博士(工学) | 人工知能,<br>アルゴリズム                   | プログラミングⅠ・Ⅲ, 数理計画,<br>ソフトウェア工学, データベース,<br>電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ                          |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料3-1-②-5：環境都市工学科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野               | 担当授業科目                                                                   |
|-----|-------|--------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 教授  | 出村 禧典 | 工学博士   | 地盤工学, 耐震工学         | 構造力学Ⅲ, 鋼構造学Ⅰ,<br>応用力学,<br>環境都市工学実験Ⅰ                                      |
| 教授  | 畑 時男  | 博士(工学) | 水工学                | 環境都市施設工学, 河川工学,<br>測量学, 測量学演習                                            |
| 教授  | 小泉 徹  | 工学修士   | 土木材料学,<br>コンクリート工学 | 測量学Ⅰ, 測量学Ⅱ, 測量学Ⅲ,<br>コンクリート構造学Ⅰ・Ⅱ,<br>環境都市工学実験Ⅰ                          |
| 教授  | 竹本 邦夫 | 工学博士   | 土木材料,<br>コンクリート工学  | コンクリート工学, 構造力学Ⅰ,<br>コンクリート工学特論,<br>コンクリート構造学特論,<br>環境都市工学実験Ⅱ・Ⅲ           |
| 教授  | 西澤 辰男 | 工学博士   | 構造工学, 舗装工学         | 計画数理, 計算力学, リモートセンシング,<br>情報処理,<br>プログラミング, 環境都市工学設計製図Ⅰ                  |
| 准教授 | 富田 充宏 | 博士(工学) | 構造工学               | 鋼構造学Ⅱ, 測量学実習Ⅱ,<br>環境都市工学設計製図Ⅰ,<br>環境都市工学設計製図Ⅱ, CAD                       |
| 准教授 | 廣瀬 康之 | 工学修士   | 構造解析学,<br>構造工学     | コンピュータリテラシー、プログラミング、<br>構造力学Ⅱ、耐震工学、<br>環境都市工学設計製図Ⅰ、工業英語                  |
| 准教授 | 重松 宏明 | 博士(工学) | 土質力学, 地盤工学         | 土質力学Ⅰ, 土質力学Ⅱ,<br>地盤工学, 環境都市工学実験Ⅱ・Ⅲ                                       |
| 講師  | 豊田 剛  | 修士(工学) | 交通工学・国土計画          | 都市交通計画, 都市交通工学, 防災工学,<br>都市デザイン, コンピュータリテラシー,<br>情報処理, プログラミング, 測量学実習Ⅱ・Ⅲ |
| 講師  | 鈴木 洋之 | 博士(工学) | 水工学                | 水理学Ⅰ・Ⅱ, 水資源エネルギー工学,<br>環境都市工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ                                     |
| 助教  | 高野 典礼 | 博士(工学) | 環境衛生工学             | 測量学実習Ⅰ・Ⅲ, 環境保全工学,<br>環境都市工学基礎,<br>環境システム工学, 環境都市工学実験Ⅱ                    |
| 助教  | 和田 匡司 | 修士(工学) | 廃棄物工学, 粉体工学        | コンピュータリテラシー, 環境システム工学<br>測量学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, CAD                                 |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料3-1-②-6：建築学科教員の専門分野と担当授業科目一覧

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野                        | 担当授業科目                                                                            |
|-----|-------|--------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 教授  | 金木 健  | 博士(工学) | 農村計画,<br>自治体住宅計画,<br>地域都市計画 | 建築計画学Ⅰ, 地域・都市計画, 住居論,<br>建築学概論, 建築学基礎, 建築設計Ⅱ・Ⅴ,<br>課題演習, 建築計画演習, 測量学演習            |
| 教授  | 石渡 博  | 博士(工学) | 建築環境工学,<br>建築設備工学,<br>住環境   | 建築設備計画, 建築環境工学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,<br>建築環境工学演習, 建築設備計画演習,<br>建築学基礎, コンピュータリテラシー,<br>建築設計Ⅴ, 課題演習 |
| 教授  | 北田 幸彦 | 博士(工学) | 建築構造                        | 鉄骨構造Ⅰ, 鉄骨構造Ⅱ, 土質基礎工学,<br>建築学基礎, 構造力学Ⅱ・Ⅲ,<br>課題演習, 力学演習, 建築材料実験                    |
| 教授  | 河内 浩志 | 博士(工学) | 建築施設整備計画,<br>建築デザイン,<br>建築史 | 建築計画学基礎, 建築計画学Ⅱ,<br>建築計画学各論, 建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,<br>造形演習Ⅰ, 課題演習                            |
| 准教授 | 江口 清  | 博士(工学) | 建築材料・構法                     | 建築学基礎, 力学演習, 建築材料Ⅰ・Ⅱ,<br>建築構法, 建築生産, 材料実験, 建築防災,<br>課題演習                          |
| 准教授 | 永藤 壽宮 | 工学修士   | 橋梁工学, 塑性設計                  | 構造力学Ⅰ, 構造力学Ⅱ, 構造力学Ⅲ,<br>数値解析法, 土質基礎工学, 課題演習                                       |
| 准教授 | 熊澤 栄二 | 博士(工学) | 景観論,<br>建築論,<br>建築史         | 建築CAD応用, 日本建築史,<br>建築デザイン論, 建築学基礎,<br>建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 課題演習                             |
| 講師  | 村田 一也 | 博士(工学) | 建築史,<br>意匠                  | 近代建築史, 建築学基礎,<br>建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,<br>造形演習Ⅱ, 立体造形演習, 課題演習                                |
| 講師  | 内田 伸  | 修士(工学) | 建築歴史・意匠,<br>現代建築,<br>建築設計   | 建築学基礎, 建築設計Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ,<br>造形演習Ⅰ, 課題演習                                                  |
| 助教  | 森原 崇  | 博士(学術) | 建築環境工学                      | 建築環境工学Ⅱ, コンピュータリテラシー,<br>建築学基礎, 建築設計Ⅰ, 課題演習                                       |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料3-1-②-7：各学科の学位取得者および企業・大学等経験者の配置状況

| 学科名     | 学位取得者 |    | 企業・大学等<br>経験者数 | 全教員数 |
|---------|-------|----|----------------|------|
|         | 修士    | 博士 |                |      |
| 機械工学科   | 2     | 9  | 4              | 11   |
| 電気工学科   | 0     | 10 | 4              | 10   |
| 電子情報工学科 | 1     | 9  | 7              | 10   |
| 環境都市工学科 | 4     | 8  | 4              | 12   |
| 建築学科    | 2     | 8  | 4              | 10   |
| 計       | 9     | 44 | 23             | 53   |

(出典：総務課保管資料)



資料3-1-②-8：企業・大学等経験者一覧

|         | 職名  | 氏名     | 学位     | 企業・大学等経験の状況                                                                        |
|---------|-----|--------|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 機械工学科   | 教授  | 黒崎 正大  | 工学博士   | 宇宙開発事業団 4年9月勤務<br>スタンフォード大学 2年3月勤務<br>石川島播磨重工業(株)24年8月勤務<br>(株)ヒューマン・アセット・サポート9月勤務 |
|         | 教授  | 割澤 泰   | 工学修士   | 富山大学 1年勤務                                                                          |
|         | 准教授 | 河野 顕臣  | 工学博士   | (株)日立製作所 34年勤務                                                                     |
|         | 准教授 | 八田 潔   | 博士(工学) | 石川県立工業高等学校 7年11月勤務                                                                 |
| 電気工学科   | 教授  | 深見 哲男  | 博士(工学) | 金沢大学 7年勤務                                                                          |
|         | 教授  | 瀬戸 悟   | 博士(工学) | 住友金属鉱山(株) 4年2月勤務                                                                   |
|         | 准教授 | 森田 義則  | 博士(工学) | 富山大学 13年1月勤務                                                                       |
|         | 准教授 | 大坪 茂   | 学術博士   | 澁谷工業(株) 12年勤務                                                                      |
|         | 准教授 | 上町 俊幸  | 博士(工学) | 仙台電波高等専門学校 12年勤務                                                                   |
| 電子情報工学科 | 教授  | 白山 政敏  | 工学博士   | 富山工業高等専門学校 19年勤務                                                                   |
|         | 教授  | 岡野 修一  | 工学博士   | 金沢大学 14年勤務                                                                         |
|         | 教授  | 堀田 素志  | 学術博士   | 金沢大学 14年勤務                                                                         |
|         | 准教授 | 竹下 哲義  | 博士(工学) | セイコーエプソン(株) 8年4月勤務                                                                 |
|         | 准教授 | 山田 洋士  | 博士(工学) | アンリツ(株) 1年勤務                                                                       |
|         | 講師  | 小村 良太郎 | 博士(工学) | 日本学術振興会特別研究員 6月勤務                                                                  |
|         | 講師  | 越野 亮   | 博士(工学) | 富士通(株) 11月勤務                                                                       |
| 環境都市工学科 | 教授  | 小泉 徹   | 工学修士   | 金沢大学 4年勤務                                                                          |
|         | 教授  | 竹本 邦夫  | 工学博士   | 金沢大学 9年勤務                                                                          |
|         | 教授  | 西澤 辰男  | 工学博士   | 金沢大学 4年勤務                                                                          |
|         | 准教授 | 廣瀬 康之  | 工学修士   | 岐阜高専 18年勤務                                                                         |
|         | 准教授 | 重松 宏明  | 博士(工学) | (株)サンユテクノス 1年6月勤務<br>岐阜大学 9年勤務                                                     |
| 建築学科    | 教授  | 石渡 博   | 博士(工学) | (株)桜井設備設計システムズ10年10月勤務<br>BE計画・設計室 13年2月勤務                                         |
|         | 教授  | 河内 浩志  | 博士(工学) | 広島工業大学 2年勤務                                                                        |
|         | 准教授 | 江口 清   | 博士(工学) | 前田建設工業(株)36年7月勤務                                                                   |
|         | 准教授 | 永藤 壽宮  | 工学修士   | 長野工業高等専門学校 22年勤務                                                                   |
|         | 助教  | 森原 崇   | 博士(学術) | 東京大学 5月勤務                                                                          |

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

専門科目担当教員は助教を含め5学科で53名が配置されている。専門科目では特に学習目標「1. 基礎学力と専門知識」, 「2. 課題の解決」を達成するために構成された教育課程を教えるに十分な資格を持つ教員によって構成されている。また電子情報工学科には第1級無線技術士の資格を持つ者1名,

建築学科には1級建築士の資格を有する者3名および1級建築士と技術士の両資格を有する者1名を配置している。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

1) 専攻科科目の教員の配置状況

本校の専攻科は、機械工学科、電気工学科、電子情報工学科を基盤学科とする電子機械工学専攻および環境都市工学科、建築学科を基盤学科とする環境建設工学専攻の2専攻からなり、平成12年4月に設置された。専攻科には専攻科課程の学習目標が設定され、それらを達成するため、専攻科では一般科目、専門共通科目、専門展開科目を置き、その担当教員を配置している(資料3-1-③-1~3)。専攻科担当教員52名のうち40名(77%)が博士の学位を有している(専門科目を担当する教員に限定すれば94%)(資料3-1-③-4)。なお、平成17年度に大学評価・学位授与機構による再審査を受け、「適」の認定を受けている。この教育課程は、教員の専門分野や担当授業科目数の均衡化等を配慮し、適切な教員配置のもとに実施されている(資料3-1-③-5)。

- 資料3-1-③-1：専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目
- 資料3-1-③-2：専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目(電子機械工学専攻)
- 資料3-1-③-3：専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目(環境建設工学専攻)
- 資料3-1-③-4：特別研究指導教員の学位取得状況および研究テーマ一覧
- 資料3-1-③-5：学位授与機構による専攻科審査結果

資料3-1-③-1：専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

| 職名  | 氏名     | 学位       | 専門分野                                | 担当授業科目           |
|-----|--------|----------|-------------------------------------|------------------|
| 教授  | 高島 要   | 文学修士     | 日本文学, 和漢比較文学                        | 日本語表現            |
| 教授  | 太田 伸子  | 英語教授法修士  | 応用言語学, 英語教育                         | オーラルコミュニケーション I  |
| 教授  | 鈴木 康文  | 博士(文学)   | 現代思想                                | 環境倫理             |
| 教授  | 奥田浩司   | 修士(文学)   | 日本近代文学                              | 日本語表現            |
| 准教授 | 河合秀泰   | 修士(理学)   | 代数学                                 | 線形数学             |
| 准教授 | 小熊 猛   | 博士(文学)   | 認知言語学, 認知文法                         | 国際表現             |
| 准教授 | 太田 智加子 | 修士(国際文化) | ベンジャミン・リー・ウォーフの言語思想, 言語意識教育, ジェンダー論 | オーラルコミュニケーション II |
| 准教授 | 北田 耕司  | 修士(体育学)  | 運動生理学, バイオメカニクス                     | 健康科学             |
| 准教授 | 森田 健二  | 博士(理学)   | 代数学                                 | 離散数学             |
| 講師  | 佐々木 香織 | 修士(地域研究) | 日本中世芸能史                             | 日本文化論            |
| 講師  | 笠松 健一  | 博士(理学)   | 物性理論, 非線形物理                         | 量子力学             |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料 3-1-③-2 : 専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (電子機械工学専攻)

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野                           | 担当授業科目          |
|-----|-------|--------|--------------------------------|-----------------|
| 教授  | 黒崎 正大 | 工学博士   | 流体・熱工学,<br>航空・宇宙工学             | 熱・流体エネルギー変換工学   |
| 教授  | 松田 理  | 工学博士   | 熱工学, 伝熱工学                      | 環境技術総論、移動現象論    |
| 教授  | 松崎 良男 | 博士(工学) | トライボロジー, 設計工学,<br>機械要素         | トライボロジー         |
| 准教授 | 八田 潔  | 博士(工学) | 制御工学, メカトロニクス                  | センサ工学           |
| 准教授 | 石田 博明 | 博士(理学) | 応用物理学, 計算科学                    | 創造工学演習 I        |
| 准教授 | 堀 純也  | 博士(工学) | 材料力学, 機構学                      | 機械機構システム論       |
| 教授  | 櫻野 仁志 | 博士(工学) | 電力工学・電気機器工学                    | 環境技術総論エネルギー伝送工学 |
| 教授  | 深見 哲男 | 博士(工学) | 電波工学, 電子機器工学,<br>超高層(電離圏)      | 環境技術総論、電磁波工学    |
| 教授  | 瀬戸 悟  | 博士(工学) | 半導体光物性, 半導体結晶成長                | 電子物性            |
| 准教授 | 大坪 茂  | 学術博士   | 応用物性, 量子光工学                    | レーザ工学           |
| 准教授 | 森田 義則 | 博士(工学) | 情報通信工学                         | 画像工学            |
| 准教授 | 徳井 直樹 | 博士(工学) | デジタル信号処理                       | 計算機シミュレーション     |
| 准教授 | 山田 悟  | 博士(工学) | 薄膜工学・結晶工学                      | 機能素子工学          |
| 教授  | 白山 政敏 | 工学博士   | 制御工学, デジタル回路,<br>数値解析学         | 計測制御工学          |
| 教授  | 岡野 修一 | 工学博士   | 半導体デバイス, 集積回路設計,<br>通信ネットワーク応用 | 機能素子工学          |
| 教授  | 堀田 素志 | 学術博士   | 計測工学                           | 生体情報工学          |
| 教授  | 金寺 登  | 博士(工学) | 音声情報処理                         | 音声情報処理          |
| 准教授 | 竹下 哲義 | 博士(工学) | 材料科学, 計算科学                     | 電子材料設計          |
| 准教授 | 山田 洋士 | 博士(工学) | デジタル信号処理                       | 現代信号処理論         |
| 准教授 | 山田 健二 | 博士(工学) | 表面物性工学                         | 電子材料設計          |
| 講師  | 小村良太郎 | 博士(工学) | 画像処理,<br>リモートセンシング, GIS        | 環境技術総論          |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料 3-1-③-3 : 専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (環境建設工学専攻)

| 職名  | 氏名    | 学位     | 専門分野                     | 担当授業科目               |
|-----|-------|--------|--------------------------|----------------------|
| 教授  | 出村 禧典 | 工学博士   | 地盤工学, 耐震工学               | 地盤基礎工学               |
| 教授  | 畑 時男  | 博士(工学) | 水工学                      | 基礎雪氷学                |
| 教授  | 小泉 徹  | 工学修士   | 土木材料学, コンクリート工学          | 建設材料学                |
| 教授  | 竹本 邦夫 | 工学博士   | 土木材料, コンクリート工学           | 環境技術総論, コンクリート複合材料工学 |
| 教授  | 西澤 辰男 | 工学博士   | 構造工学, 舗装工学               | 交通地盤工学               |
| 准教授 | 富田 充宏 | 博士(工学) | 構造工学                     | 構造解析学                |
| 准教授 | 重松 宏明 | 博士(工学) | 土質力学, 地盤工学               | 環境地盤工学               |
| 講師  | 鈴木 洋之 | 博士(工学) | 水工学                      | 応用水文学                |
| 教授  | 金木 健  | 博士(工学) | 農村計画, 自治体住宅計画,<br>地域都市計画 | 住生活文化論               |
| 教授  | 石渡 博  | 博士(工学) | 建築環境工学, 建築設備工学,<br>住環境   | 建築環境調整論              |
| 教授  | 河内 浩志 | 博士(工学) | 建築施設整備計画,<br>建築デザイン, 建築史 | 環境技術総論, 人間・環境デザイン論   |
| 教授  | 北田 幸彦 | 博士(工学) | 建築構造                     | 建築構造計算学              |
| 准教授 | 熊澤 栄二 | 博士(工学) | 景観論, 建築論, 建築史            | 環境景観論                |
| 講師  | 村田 一也 | 博士(工学) | 建築史, 意匠                  | 建築・地域空間形成論           |

(出典：総務課・学生課保管資料)

資料 3-1-③-4：特別研究指導教員の学位取得状況および特別研究テーマ一覧

| 氏名    | 所属専攻名    | 学位取得状況 | 主な特別研究テーマ              |
|-------|----------|--------|------------------------|
| 黒崎 正大 | 電子機械工学専攻 | 工学博士   | 圧縮機ストール制御、超小型電動航空機     |
| 松田 理  | 同上       | 工学博士   | ミスト流による伝熱と応用           |
| 松崎 良男 | 同上       | 博士(工学) | 金属ガスケットの密封特性に関する研究     |
| 八田 潔  | 同上       | 博士(工学) | 空気流利用による糸の操作と自動化・省力化   |
| 石田 博明 | 同上       | 博士(理学) | 計算物理学による物性解析と材料設計      |
| 堀 純也  | 同上       | 博士(工学) | 繊維機械の強度・自動化に関する研究      |
| 櫻野 仁志 | 同上       | 博士(工学) | 電気エネルギーの発生・流通環境の研究     |
| 深見 哲男 | 同上       | 博士(工学) | 電磁波環境の計測・評価、電子システム開発   |
| 瀬戸 悟  | 同上       | 博士(工学) | 光デバイス用薄膜の作製と光学的評価      |
| 大坪 茂  | 同上       | 学術博士   | レーザによる光デバイス薄膜の作製       |
| 森田 義則 | 同上       | 博士(工学) | リアルタイム音声画像処理           |
| 徳井 直樹 | 同上       | 博士(工学) | 適応デジタル信号処理に関する研究       |
| 山田 悟  | 同上       | 博士(工学) | P L A法による酸化物薄膜の作製と結晶評価 |
| 白山 政敏 | 同上       | 工学博士   | 遺伝的プログラミングによる移動ロボットの制御 |
| 岡野 修一 | 同上       | 工学博士   | 機能素子の開発とシステム L S I の設計 |
| 堀田 素志 | 同上       | 学術博士   | 心拍・血圧変動による自律神経機能の評価    |
| 金寺 登  | 同上       | 博士(工学) | 音声情報処理に関する研究           |
| 竹下 哲義 | 同上       | 博士(工学) | コンピュータ上での材料評価          |
| 山田 洋士 | 同上       | 博士(工学) | 能動騒音制限装置に関する研究         |
| 山田 健二 | 同上       | 博士(工学) | 半導体材料表面に関する研究          |
| 出村 禧典 | 環境建設工学専攻 | 工学博士   | 軟弱地盤上構造物の不同沈下制御法の開発    |
| 畑 時男  | 同上       | 博士(工学) | 積雪消長モデルの適用に関する研究       |
| 小泉 徹  | 同上       | 工学修士   | 繊維補強コンクリートに関する研究       |
| 竹本 邦夫 | 同上       | 工学博士   | コンクリートの特性と品質評価法について    |
| 西澤 辰男 | 同上       | 工学博士   | 舗装の構造評価とパフォーマンスの予測     |
| 富田 充宏 | 同上       | 博士(工学) | 鉄筋コンクリート部材の非線形解析       |
| 重松 宏明 | 同上       | 博士(工学) | 廃棄物と発生土の地盤工学的有効利用      |
| 鈴木 洋之 | 同上       | 博士(工学) | ダム貯水池流入流量の高精度推定法の開発    |
| 金木 健  | 同上       | 博士(工学) | 消滅集落研究／農山村集落の集落整備計画    |
| 石渡 博  | 同上       | 博士(工学) | 住環境に関する調査／評価・最適設計法の検討  |
| 河内 浩志 | 同上       | 博士(工学) | 建築デザインと地域・都市環境施設整備計画   |
| 北田 幸彦 | 同上       | 博士(工学) | 構造体・地盤の数値解析            |
| 熊澤 栄二 | 同上       | 博士(工学) | 地域の生活空間における景観構造の研究     |
| 村田 一也 | 同上       | 博士(工学) | 建築都市形成理論と社会の関連について     |

(出典：総務課・学生課保管資料)

## 資料 3-1-③-5 : 学位授与機構による専攻科審査結果

評学機構学第192号

平成18年2月10日

石川工業高等専門学校長 殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長

木村 孟



## 認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成17年5月27日付け石高専庶第7号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第9条に規定する審査の結果、「適」と認められたので通知します。

## 記

## 1 名称、専攻及び修業年限

| 名 称        | 専 攻      | 修業年限 |
|------------|----------|------|
| 石川工業高等専門学校 | 電子機械工学専攻 | 2年   |
|            | 環境建設工学専攻 | 2年   |

（出典：総務課保管資料）

## （分析結果とその根拠理由）

専攻科では、一般科目、専門共通科目、専門展開科目などを配備し、専攻科課程の学習目標を十分に達成するための教育課程を構築している。専攻科を担当する教員は博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体であり、平成17年度に大学評価・学位授与機構による再審査を受け、「適」の認定を受けている。この教育課程は、教員の専門分野や担当授業科目数の均衡化等を配慮し、適切な教員配置のもとに実施されている。

以上のことから、本校の専攻科では、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-④：学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

1) 教員の年齢構成の状況

本校の教員は、専門学科53名（機械工学科11名、電気工学科10名、電子情報工学科10名、環境都市工学科12名、建築学科10名）および一般教育科23名の計76名で構成されている。学科の平均年齢は43歳から48歳と幾分異なり、また、20歳台が少ないものの、20歳台から60歳台までの年齢構成は概ね均衡あるものとなっている（資料3-1-④-1）。性別構成では、女性の教員は一般教育科の3名、機械工学科の1名、合計4名と少ないが、教授1名、准教授1名、講師1名、助教1名と均衡がとれており、一般科目で占める割合は14%（3名/23名）となっている。

□ 資料3-1-④-1：教員の年齢構成表

資料3-1-④-1：教員の年齢・性別構成表（女性教員数は（ ）に内数で示す）

|         | 20歳台 | 30歳台  | 40歳台 | 50歳台  | 60歳台 | 計     |
|---------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 一般教育科   | 1    | 8(2)  | 8    | 6(1)  | 0    | 23(3) |
| 機械工学科   | 1(1) | 3     | 2    | 4     | 1    | 11(1) |
| 電気工学科   | 2    | 2     | 3    | 3     | 0    | 10    |
| 電子情報工学科 | 1    | 3     | 2    | 3     | 1    | 10    |
| 環境都市工学科 | 1    | 3     | 3    | 3     | 2    | 12    |
| 建築学科    | 0    | 4     | 0    | 5     | 1    | 10    |
| 計       | 6(1) | 24(2) | 18   | 24(1) | 5    | 77(4) |

（出典：総務課保管資料）

2) 教員の均衡ある年齢構成への配慮

教員の公募採用時には、教員募集項目に年齢基準を明記して（資料3-1-④-2）、年齢構成に配慮している。

□ 資料3-1-④-2：教員の年齢構成表への配慮

## 資料 3-1-④-2：教員の年齢構成表への配慮

## 教員の公募について（依頼）

（中略）

記

## 1. 募集人員：准教授または助教 1名

（准教授：学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で，助教授相当に対応する。）

（助教：学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で，専攻分野について教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であって，学生を教授する。）

## 2. 所属学科：電気工学科

## 3. 専門分野：電気機器／エネルギー変換，または計測工学

## 4. 担当科目：電気工学実験（電気機器，電気エネルギー関連），専門分野の科目，並びに電気回路，電磁気学，電気電子計測等の基礎科目（助教の場合，担当科目には将来的なものを含む。）

## 5. 採用予定日：平成19年4月1日

## 6. 応募資格：(1) 博士の学位を有する方または取得見込みの方

(2) 年齢35歳位までの方

(3) 高等専門学校での教育と学生指導，学術研究に意欲的な方

（出典：教員の公募採用書類）

## 3) 教員の経歴・経験についての分析

本校着任以前に教育経歴および実務経験のある教員数は，各学科で多少の差異はあるが，全体では38名と50%を超えており，教育経歴および実務経験を本校での実践的な教育に生かしている。博士の学位取得専任教員は，全体では50名で66%，各専門学科合計では42名で81%である。その他の有資格者として第1級無線技術士1名，一級建築士3名さらに1級建築士と技術士の両資格を有する専任教員1名がいる。なお専門学科教員を公募する際には，着任時に学位の取得を要件としていることを明記している（上述の資料）。また，学位取得のため，社会人ドクターコース制度を活用して博士号を取得した事例もある。

平成17年度には，英語担当の外国人専任教員1名を公募採用し，学生の国際性の向上を図っている（資料3-1-④-3）。

□ 資料3-1-④-3：外国人教員の採用



## 資料3-1-④-3：外国人教員の採用

## 教員の公募について（依頼）

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では、下記の要領で一般教育科（英語）教員を公募することになりました。

つきましては、関係者への周知方並びに適任者の推薦について御高配の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

## 記

1. 募集人員：助教授又は講師 1名
2. 任期：3年（任期满后、2年を限度として1回の任期更新が可能）
3. 所属学科：一般教育科
4. 担当科目：英語及び英語関連科目
5. 採用予定日：2005年4月1日
6. 応募資格：以下の条件を全て満たす者
  - (1) TESOL, 英語学, 言語学又はそれらと近接領域の人文科学系の分野を専門とする者
  - (2) 修士課程修了以上の学歴又はそれと同程度の業績を有する者
  - (3) 英語のネイティブスピーカーで、日本において英語教育の実務経験を有する者
  - (4) 専攻科の授業・演習を担当可能な者
  - (5) 校務などの諸業務を分担可能な日本語運用能力を有し、授業での英作文指導などが可能な者
  - (6) 高等専門学校の教育・研究及び学生指導（クラブ顧問、学生寮当直 他）に熱意を持つ者
  - (7) 年齢45歳前後までの者（着任時）
7. 提出書類：(1) 履歴書（様式は本校HP (URL <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/guide/koubo/>) からダウンロードして下さい。本人直筆、写真貼付のこと）  
 (2) 個人調書（様式は本校HPからダウンロードして下さい。Word/pdf形式）  
 (3) 主要著書・論文（3編以内）の別刷（コピー可）及び800字程度の概要（A4判 書式自由）  
 (4) 推薦書1通
8. 応募期限：2004年11月30日（火）（必着）
9. 選考方法：第1次審査：書類  
 第2次審査：面接（模擬授業を含む）（日時は未定）
10. 書類提出先：〒929-0392 石川県河北郡津幡町字北中条 石川工業高等専門学校 庶務課人事係  
 TEL. 076-288-8012 E-mail jinji0@ishikawa-nct.ac.jp  
 応募書類は書留とし、「一般教育科（英語）教員応募書類在中」と朱書きのこと。応募書類は返却いたしません。
11. 問い合わせ先：石川工業高等専門学校 一般教育科 主任 阿蘇和寿 TEL. 076-288-8060

（出典：2005年度英語担当の専任教員公募書類）

(分析結果とその根拠理由)

教員組織の活動をより活性化するため、教員採用においては公募制を導入しており、年齢構成や性別による職位の均衡化に配慮した選考が行われている。

また、実践的な教育を施すため、教育経歴および実務経験のある教員採用を行うとともに、博士の学位取得者数を高める努力を行っている。学生の国際性向上を図るため、外国人の専任教員を採用している。

以上のことから、本校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

**観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。**

(観点に係る状況)

教員の採用や昇格については、「教員の任用方針(資料3-2-①-1)」で定められており、教員選考に係る処理フローで示す教員選考諮問委員会が選考にあたる。

1) 教員採用・昇格に関する規定

教員の採用は、原則として一般公募によるものとする(資料3-2-①-2)。学科主任は当該学科の教授をメンバーとする会議によって公募教員の専門分野、経験、年齢、学位などを検討し、校長と人事案件を相談した後、教員選考諮問委員会が開催される。教員選考諮問委員会はこの報告をもとに、高等専門学校設置基準も考慮して選考方針、公募要領を決定する。全国の大学、高等専門学校へ公募書類を郵送するほか、学会誌、研究者人材データベースでも公募する。教員選考諮問委員会は一次選考(書類選考)を経て二次選考(面接)を行うが、ここでは公募分野における模擬授業を義務づけており、面接審査と併せて実施の後、採用者を決定する。そのための処理フローが整備されている(資料3-2-①-3)。

教員の昇格は、教員の採用方針に基づき、教員選考に係る処理フロー(資料3-2-①-4)で示す教員選考諮問委員会が選考にあたる。校長および教員選考諮問委員会による書類選考が行われた後、面接が行われ昇格人事が決定される。書類審査では、教育活動・研究活動・学会および社会活動の実績等が評価され、教員選考諮問委員会は高等専門学校設置基準も考慮して昇格を決定する。

なお、教員人事については、有能な人材を確保し、また、公正かつ厳正な選考を保証するために、教員人事諮問委員会の増員を含めた見直しを図ることとしている(資料3-2-①-5)。

- 資料3-2-①-1：教員の任用方針について
- 資料3-2-①-2：学会誌への公募文章例
- 資料3-2-①-3：教員採用に係る処理フロー
- 資料3-2-①-4：教員昇格に係る処理フロー
- 資料3-2-①-5：教員人事諮問委員会の見直し

## 資料 3-2-①-1 : 教員の任用方針について

## 教員の任用方針について

平成 16 年 9 月 1 日  
校 長 裁 定

- 1 平成17年4月以降，教員の補充人事は，原則として一般公募によるものとする。
- 2 内部昇格させる場合は，次の各号に掲げる条件を満たす者とする。
  - (1) 教授の場合
    - ① 博士の学位を有すること。
    - ② 助教授歴10年程度（他校での経歴を含む）
    - ③ 教授昇格予定日から過去5年間において論文を5本以上（ただし，半数は査読付き論文とする）  
（教授昇格予定日の年齢が45歳以上50歳未満の者にあつては，3本以上，教授昇格予定日の年齢が50歳以上の者にあつては，2本以上）を執筆していること。
  - (2) 助教授の場合
    - ① 博士の学位を有すること。
    - ② 講師・助手歴合計5年程度（他校での経歴を含む）
    - ③ 助教授昇格予定日から過去5年間において論文を5本以上（ただし，半数は査読付き論文とする）  
（助教授昇格予定日の年齢が35歳以上40歳未満の者にあつては，3本以上，助教授昇格予定日の年齢が40歳以上の者にあつては，2本以上）を執筆していること。
  - (3) 講師の場合
    - ① 博士の学位を有すること。
    - ② 助手歴3年以上（他校での経歴を含む）
    - ③ その他前号③に準じた条件
- 3 前項の条件を満たすことが困難であると判断できる場合は，同項各号の条件の一部を緩和することがある。
- 4 教育，地域貢献において，顕著な業績があると校長が認めた場合は，それを評価する。

（出典：総務課保管資料）

## 資料 3-2-①-2 : 学会誌への公募文章例

## 電気学会誌掲載用の公募要領

## ●石川工業高等専門学校電気工学科教員公募●

公募人員 准教授または助教 1名

専門分野 電気機器／エネルギー変換，または計測工学

担当科目 電気工学実験（電気機器，電気エネルギー関連），専門分野の科目，並びに電気回路，電磁気学，電気電子計測等の基礎科目（助教の場合，担当科目には将来的なものを含む）

採用予定日 平成19年4月1日

応募資格 (1) 博士の学位を有する方または取得見込みの方 (2) 年齢35歳位までの方  
(3) 高等専門学校での教育と学生指導，学術研究に意欲的な方

提出書類 (1) 履歴書（本校 HP から DL. 本人直筆，写真貼付）(2) 個人調書（本校 HP から DL. Word/pdf 形式）(3) 主要論文の別刷（コピー可）(4) 推薦書1通（学位取得見込みの方は指導教員）

応募期限 平成18年12月1日（金）（必着）

選考方法 第1次審査：書類 第2次審査：面接（日時未定）

問い合わせ先 石川高専 電気工学科主任 深見哲男

TEL/FAX 076-288-8116/8123 E-mail fukami@ishikawa-nct.ac.jp

HP <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/guide/koubo/>

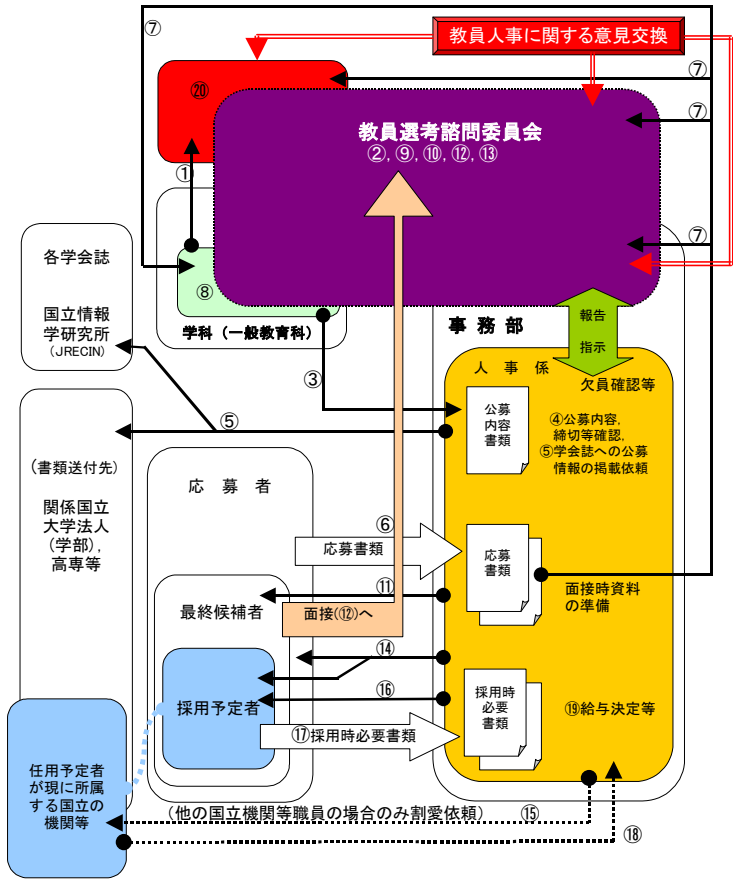
（出典：総務課保管資料）

資料 3-2-①-3 : 教員採用に係る処理フロー

石川工業高等専門学校の教員選考に係る処理フロー

| 処理事項等                     | 担当        | 採用予定日から<br>逆算した期限日 |      |
|---------------------------|-----------|--------------------|------|
| ① 学科主任から校長へ人事案件の相談        | 学科主任      | 220日前              |      |
| ② 教員人事諮問委員会               | 教員選考諮問委員会 | 210日前              |      |
| ③ 公募内容を人事係へ               | 学科主任      | 210日前              |      |
| ④ 公募準備                    | 人事係       | 210日前              | 7月前  |
| ⑤ 公募開始(関係国立機関、学会誌等)       | 人事係       | 190日前              | 約6月前 |
| ⑥ 公募締切                    | 人事係       | 100日前              |      |
| ⑦ 応募書類を校長、教務主事、当該学科主任等へ回送 | 人事係       | 100日前              | 約3月前 |
| ⑧ 学科における予備選考              | 校長        | 100日前              |      |
| ⑨ 教員選考諮問委員会による書類選考(一次選考)  | 教員選考諮問委員会 | 90日前               | 3月前  |
| ⑩ 面接日の設定                  | 校長        | 90日前               | 3月前  |
| ⑪ 候補者への連絡                 | 人事係       | 90日前               | 3月前  |
| ⑫ 教員選考諮問委員会による面接(二次選考)    | 教員選考諮問委員会 | 80日前               |      |
| ⑬ 採用者の決定                  | 教員選考諮問委員会 | 80日前               |      |
| ⑭ 採用通知、不採用通知の発送           | 人事係       | 75日前               | 2月半前 |
| ⑮ 割愛依頼の発送                 | 人事係       | 75日前               | 2月半前 |
| ⑯ 採用時必要書類の取寄せ依頼           | 人事係       | 75日前               | 2月半前 |
| ⑰ 採用時必要書類到着               | 採用予定者     | 50日前               | 約2月前 |
| ⑱ 割愛依頼回答到着                | 人事係       |                    |      |
| ⑲ 学内上申                    | 人事係       | 45日前               | 1月半前 |
| ⑳ 採用                      | 校長        |                    |      |

- ・ 教員選考諮問委員会の日程調整・連絡は、校長らの指示により人事係長が行う。
- ・ 関係国立大学等へ公募書類の郵送及び学会誌への投稿は、人事係が行い、投稿料は校費(中央経費)で負担する。
- ・ 応募書類中、履歴書と個人調書は本校所定の様式による。
- ・ 応募書類は、人事係が保管し、締切後、校長、教務主事、当該学科の主任及び事務部長へ写しを配付する。

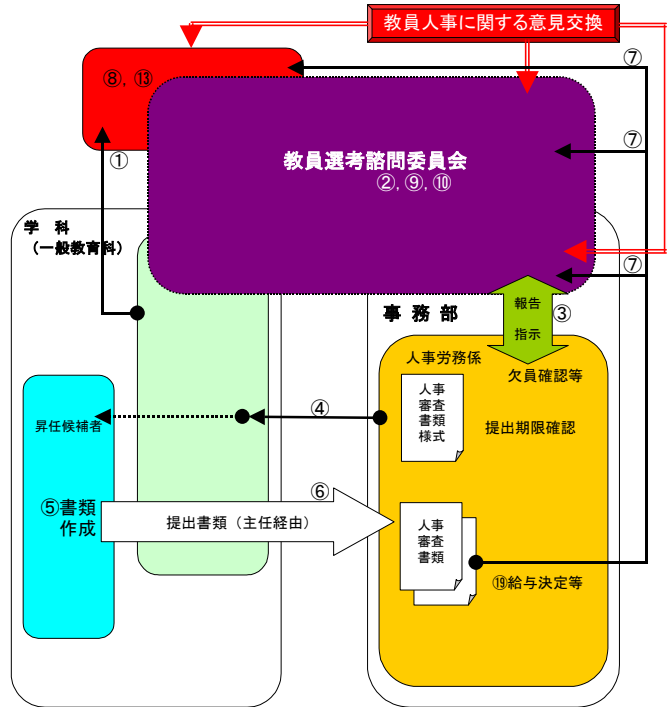


(出典：総務課保管資料)

資料 3-2-①-4 : 教員昇格に係る処理フロー

| 処 理 事 項 等                  | 担 当           | 任用予定日から<br>逆算した期限日 |
|----------------------------|---------------|--------------------|
| ① 学科主任から校長へ人事案件の相談         | 学科主任          | 110日前              |
| ② 教員選考諮問委員会                | 教員選考<br>諮問委員会 | 100日前 約3月前         |
| ③ 教員人事についての指示              | 事務部長          | 100日前 約3月前         |
| ④ 学内昇任候補者の必要書類作成依頼         | 人事労務係         | 100日前 約3月前         |
| ⑤ 昇任候補者書類作成                | 昇任候補者         |                    |
| ⑥ 学内昇任候補者の必要書類の提出 (人事労務係へ) | 学科主任          | 80日前               |
| ⑦ 必要書類校長へ回送                | 人事労務係         | 80日前               |
| ⑧ 校長による書類選考                | 校 長           | 80日前               |
| ⑨ 教員選考諮問委員会による選考           | 教員選考<br>諮問委員会 | 60日前 2月前           |
| ⑩ 昇任人事の決定                  | 教員選考<br>諮問委員会 | 60日前 2月前           |
| ⑪ 上申準備開始                   | 人事労務係         | 45日前 1月半前          |
| ⑫ 学内上申                     | 人事労務係         | 30日前 1月前           |
| ⑬ 発令                       | 校 長           | 0日前                |

- ・ 教員選考諮問委員会の日程調整・連絡は、校長の指示により人事労務係長が行う。
  - ・ 学内昇任の際の人事選考書類は、個人調書及び論文の抜刷とし、本校所定の様式を使用し、FDを併せて提出する。
  - ・ 「選考の経緯補足説明書」は作成しないものとする。
- 人事労務係は、各書類の誤記等を作成者に確認し、内容を整備する。



(出典：総務課保管資料)

資料 3-2-①-5 : 教員人事諮問委員会の見直し

平成19年度第3回総合企画会議議事要録 (案)

日 時 平成19年6月6日 (水) 13時30分から17時20分まで  
 場 所 校長室  
 出席者 金岡 (校長), 櫻野 (副校長), 松田 (学生主事), 西澤 (寮務主事),  
 畑 (研究主事), 高島 (図書情報主事),  
 原田 (事務部長), 佐藤 (総務課長), 伊藤 (学生課長)  
 陪席者 菊澤 (企画室長), 紙田 (総務課課長補佐), 森田 (学生課課長補佐)  
 幹 事 総務係長

(中略)

(5) 校長から、教員人事諮問委員会について、①構成員に主事を加えること、②審査事項に、各学科における審査報告書を加えること、について提案があり、検討の結果、提案どおり了承され、規約改正に向け手続きを進めることとなった。

(出典：総合企画会議議事録)

## 2) 非常勤講師の採用に関する規定

非常勤講師の採用にあたっては非常勤講師任用に関する資格要件を定めている（資料 3-2-①-6）。

□ 資料 3-2-①-6：非常勤講師任用に関する資格要件

## 資料 3-2-①-6：非常勤講師任用に関する資格要件

（趣旨）

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の非常勤講師の採用に関しては、他の法令等に定めるもののほか、この内規に定めるところによる。

（採用人数）

第2条 非常勤講師の採用は、必要最小限の人数とする。

（採用基準）

第3条 非常勤講師は、採用日において満 70 歳未満の者であって、専門分野において優れた識見を持ち、本校の教育方針に沿った教育指導ができ、心身ともに健康で勤務に支障がない者で、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (2) 修士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (3) 大学（短期大学を含む。）において教授・助教授又は専任の講師の経歴のある者
- (4) 高等専門学校において2年以上専任講師以上の経歴のある者
- (5) 学士の学位を有する者にあつては5年以上、短期大学士の学位又は準学士の称号を有する者にあつては8年以上、学校、研究所、試験所、調査所等において教育若しくは研究又は工場その他の事業所において技術に関する業務に従事した者
- (6) 学士の学位を有する者にあつては大学又は高等専門学校において1年以上、短期大学士の学位又は準学士の称号を有する者にあつては高等専門学校において4年以上助手の経歴のある者
- (7) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者
- (8) 技術士の資格を有する者
- (9) 前各号に準ずると校長が認める者

（採用手続）

第4条 非常勤講師の採用は、選考により行う。

- 2 選考は、主任会議の議を経た次年度の非常勤講師にかかる授業計画（以下「授業計画」という。）及び非常勤講師候補者一覧（以下「候補者一覧」という。）に基づき、校長が行う。
- 3 授業計画は、学科主任が 12 月末日までに教務主事に提出する。ただし、前年度から継続して採用を予定する者で、担当科目内容及び身分等に変更がない者を除き、履歴書及び研究業績一覧を添付しなければならない。
- 4 教務主事は、学科主任から提出された授業計画等について教務委員会において審議し、その結果を 1 月末日までに主任会議に提出する。
- 5 年度の途中で非常勤講師を採用すべき特別な必要が生じた場合は、前項までの規定を準用する。
- 6 非常勤講師の採用計画に変更すべき事情が生じた場合は、当該学科主任は速やかに教務主事を経て校長に申し出なければならない。

（出典：石川工業高等専門学校非常勤講師の採用に関する内規）

3) 採用・昇格規定の適切な運用

教員の採用は定められた規定にしたがい、適切に運用されている（資料 3-2-①-7）。

□ 資料 3-2-①-7：採用規定の適切な運用

資料 3-2-①-7：採用規定の適切な運用

**教員選考の記録**

石川工業高等専門学校

1 学科等名 機械工学科

2 職名 教授, 准教授又は助教

3 選考の理由 機械工学科教授の退職に伴う, 当該学科教員の補充

4 補充の方法 公募

5 教員選考諮問委員会等開催状況

10月18日 教員人事諮問委員会

当該学科の現状及び今後の学科運営方針を検討の後, 具体的な補充計画を策定。専門分野(機械力学), 公募の職(教授, 准教授又は助教), 公募条件, 周知方法等を決定。

1月11日 教員選考諮問委員会(一次選考)

応募者(6名)について, 応募書類に基づき, 書類選考実施。  
最終面接審査実施者(3名)を決定。

1月25日 採用候補者(3名)の面接審査及び模擬授業実施

1月26日 教員選考諮問委員会(二次選考)

採用候補者について, 面接審査及び模擬授業結果を元に採用の可否を検討協議, 候補者の採用及び職名を決定。

6 採用予定者 助教

7 採用予定年月日 平成19年4月1日

8 その他  
(参考資料) 石川工業高等専門学校機械工学科(機械力学)公募要領

(出典：総務課保管資料)



4) 採用・昇格に際しての教育能力の評価

教員の教育能力は個人調書で評価される（資料 3-2-①-8）。昇格に際しては所属学科の教授により、その教育能力を評価した上で推薦を行う。採用に際しては模擬授業を課し、面接によって最終的な判断を行う。

□ 資料 3-2-①-8：採用・昇格に際しての教育能力の評価方法

資料 3-2-①-8：採用・昇格に際しての教育能力の評価方法

個人調書

平成 年 月 日現在

|            |              |        |      |     |
|------------|--------------|--------|------|-----|
| ふりがな<br>氏名 | 印            | 男・女    | 現住所  | 〒 ー |
|            |              |        | 電話番号 |     |
| 生年月日（年齢）   | 昭和 年 月 日（ 歳） | E-mail | @    |     |

I. 履 歴 【学外応募者は別様式の履歴書に記入のため下表は空白】

学歴・職歴【和暦で記入】

| 年 月 | 事 項     |
|-----|---------|
| 年 月 | ( 学 歴 ) |
| 年 月 | ( 職 歴 ) |

(注) ・学歴と職歴に分けて記入すること。  
 ・学歴は高専卒業以上から記入すること。  
 ・海外渡航は、外国の機関に在籍したもののみを職歴に加えること。

学位（博士）【和暦で記入】

|     |                |
|-----|----------------|
| 年 月 | 名称・大学（番号）・論文題目 |
| 年 月 |                |

賞 罰 【和暦で記入】

| 年 月 | 事 項 |
|-----|-----|
| 年 月 |     |

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

採用や昇格に関する手続きの規定および教員選考に係る処理フローは明確かつ適切に定められ、適切な運用がなされている。採用に際しては、関係大学・高専・企業・学会誌等へ広く公募している。審査に関する書類選考（一次選考）および面接（二次選考）の手続きは適切に定められており、審査に際しては模擬授業を課して教育能力の評価を行っている。また、昇格に際しても、採用に準じた規定が適用されるほか、所属学科の教授による教育能力の評価が行われている。

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

**観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。**

(観点に係る状況)

1) 教員の教育活動に関する評価体制

教員の教育活動を評価する組織として、校長および5主事から構成される教育業績評価委員会が設置されている(資料 3-2-②-1)。

教員は、年度当初、教育業績評価のための業務申請配点表を提出し(資料 3-2-②-2~4)、年度末には活動実績報告書を教育業績評価委員会へ提出する(資料 3-2-②-5, 6)。教育業績評価委員会はこれを受けて教員の教育業績の評価を行う。さらに校長による授業参観、学科主任からのヒアリングも評価の一部として取り入れている。

- 資料 3-2-②-1：教育業績評価委員会の役割
- 資料 3-2-②-2：教育業績評価の業務申請配点表作成依頼
- 資料 3-2-②-3：教育業績評価の業務申請配点表
- 資料 3-2-②-4：教育業績評価の業務申請配点表照会ファイル
- 資料 3-2-②-5：教育業績評価の活動実績報告書
- 資料 3-2-②-6：活動実績報告書作成依頼

## 資料 3-2-②-1：教育業績評価委員会の役割

## ○石川工業高等専門学校教育業績評価委員会規則

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校に、教員の教育研究活動等の状況及び社会貢献の業績等について点検及び評価を行うため、石川工業高等専門学校教育業績評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次に掲げる教員を委員として組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 研究主事
- (6) 図書情報主事
- (7) その他校長が特に指名する者

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもってこれに充てる。

- 2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、前条第2号の委員がその職務を代行する。
- 4 委員長は、必要と認める場合は、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

## (任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施に関すること。
- (3) その他、教育業績評価に関すること。

## (事務)

第5条 委員会の事務は総務課において処理する。

(出典：教育業績評価委員会規則)

## 資料 3-2-②-2：教育業績評価の業務申請配点表作成依頼

教育業績評価委員会委員長

( 校 長 )

平成18年度における業務配点の申告について (通知)

平成17年度から実施しました教育業績評価に関し、平成18年度についても前年度と同様に、活動状況の事前申告と年度終了時の実績報告により業績評価を実施します。

つきましては、添付ファイル「照会ファイル」を作成の上、平成18年5月26日(金)までに総務課総務係までメール添付により提出してください。

なお、作成に当たっては、下記事項にご留意いただきますようお願いいたします。

## 記

1. 作成いただく「照会ファイル」は、「申請配点表」・「入力シート」・「入力(例)」の三つのシートで構成されており、「入力シート」を「入力(例)」に基づき作成してください。
2. 「入力シート」の割合欄に数字を入力すると、「申請配点表」の申請配点欄が変わるように設定されていますので、「配点の範囲」内で設定してください。
3. 提出ファイル名は、「申請配点表(〇〇)」とし、〇〇には作成者の氏名を入れて提出してください。
4. 「入力シート」の「具体的内容」欄は可能な限り記載いただきますが、表彰等年度当初に計画できないものについては空欄としてください。
5. 平成18年度終了時点で、実績を報告していただきますので、作成したファイルは必ず保存しておいてください。

(出典：総務課保管資料(平成18年5月11日))

## □ 資料 3-2-②-3：教育業績評価の申請配点表

| 番号 | 分野     | 標準配点 | 配点の範囲 | 申請配点 |
|----|--------|------|-------|------|
| 1  | 教育     | 40   | 30～60 | 0    |
| 2  | 研究     | 20   | 10～40 | 0    |
| 3  | 学生生活指導 | 20   | 10～30 | 0    |
| 4  | 学内貢献   | 10   | 5～40  | 0    |
| 5  | 社会貢献   | 10   | 5～30  | 0    |
| 計  |        | 100  | 100   | 0    |

(出典：総務課保管資料)

資料 3-2-②-4 : 教育業績評価の業務申請配点表照会ファイル

|   |    |                             |                    |    |
|---|----|-----------------------------|--------------------|----|
| 1 |    | 教育                          |                    |    |
| 1 | 1  | 授業担当時間数(専攻科を含む。)            | 前期:14時間、後期:16時間    | 30 |
| 1 | 2  | 補習授業の担当(留学生への指導を含む)         | 1学年数学補習授業:10回/年    | 1  |
| 1 | 3  | オフィスアワーの設定と活用               | 毎週木曜日:17時から19時まで   | 1  |
| 1 | 4  | 教育方法の工夫                     |                    | 1  |
| 1 | 5  | 独自の教材等の開発・工夫                |                    |    |
| 1 | 6  | 成績評価方法の工夫                   |                    |    |
| 1 | 7  | 公開講座の実施・評価及び、講演             |                    | 1  |
| 1 | 8  | FD活動への参画                    |                    | 1  |
| 1 | 9  | 教育に関する著書、論文、報告書、講演          |                    |    |
| 1 | 10 | 学生による授業評価                   |                    | 1  |
| 1 | 11 | 顕著な教育成果                     |                    |    |
| 1 | 12 | 教育活動の表彰実績                   |                    |    |
| 1 | 13 | 卒業研究の指導                     | 3名、2テーマ            | 2  |
| 1 | 14 | 専攻科における研究指導                 | 1名、1テーマ            | 2  |
| 1 | 15 | 本科生、専攻科生の学会発表               | 専攻科生1名             | 1  |
| 1 | 16 | 日本工学教育協会(社)認定資格「教育士」申請への取組み | 19年度申請予定           | 1  |
| 1 | 17 | その他                         |                    | 1  |
|   |    | 小計                          |                    | 43 |
| 2 |    | 研究                          |                    |    |
| 2 | 1  | 研究、開発の取組み                   | ○○○の研究             | 15 |
| 2 | 2  | 学会、研究会、セミナー等への参画(会員、委員等)    | ○○○学会会員、△△△研究会会員   | 1  |
| 2 | 3  | 学会、研究会等の役員                  |                    |    |
| 2 | 4  | プロジェクト研究担当(代表者、分担者)         |                    |    |
| 2 | 5  | 共同研究・受託研究の取組み               |                    |    |
| 2 | 6  | 専門に関する研究の著書、論文、報告書、講演       | ○○○学会○○支部大会講演      | 1  |
| 2 | 7  | 特許申請の状況                     |                    |    |
| 2 | 8  | 科学研究費補助金の申請(代表者、分担者)        | 代表者として申請 300万円     | 1  |
| 2 | 9  | 科学研究費補助金の採択(代表者、分担者)        |                    |    |
| 2 | 10 | 寄附金(委任経理金)の受入れ状況            | (株)○○○から50万円       | 1  |
| 2 | 11 | その他の外部資金の獲得                 | 共同研究費 (株)○○○から50万円 | 1  |
| 2 | 12 | 学位の取得                       |                    |    |
| 2 | 13 | 学会賞等の受賞                     |                    |    |
| 2 | 14 | 研究活動の表彰実績                   |                    |    |
| 2 | 15 | 各種学会等が認定する資格取得への取組み         |                    |    |
| 2 | 16 | その他                         |                    | 2  |
|   |    | 小計                          |                    | 22 |
| 3 |    | 学生生活指導                      |                    |    |
| 3 | 1  | 学級担任、学年担任                   |                    |    |
| 3 | 2  | インターンシップ、工業実習の奨励・斡旋         |                    | 3  |
| 3 | 3  | 進路指導                        |                    | 1  |
| 3 | 4  | 課外活動(学生会、運動部、文化部、同好会など)の支援  | ○○部指導教員(平成12年度～ )  | 10 |
| 3 | 5  | 学生寮での宿日直・学生指導               |                    | 2  |
| 3 | 6  | 留学生への生活指導                   |                    |    |
| 3 | 7  | 学生相談室の担当                    |                    |    |
| 3 | 8  | 欠席の多い学生への指導                 |                    | 1  |
| 3 | 9  | 厚生補導の企画・実施                  |                    | 1  |
| 3 | 10 | 学生指導に関する学外行事への参加            |                    |    |
| 3 | 11 | その他                         |                    | 2  |
|   |    | 小計                          |                    | 20 |
| 4 |    | 学内貢献                        |                    |    |
| 4 | 1  | 役職担当(主事、センター長、室長、主任、主事補佐、セン | 寮務主事               | 8  |
| 4 | 2  | 委員会委員への参画(委員長、委員、センター員、室員)  | 寮務委員長              | 1  |
| 4 | 3  | その他管理運営への参画                 |                    |    |
|   |    | 小計                          |                    | 9  |
| 5 |    | 社会貢献                        |                    |    |
| 5 | 1  | 学校開放行事への参画                  | 学校見学               | 1  |
| 5 | 2  | 公開講座の企画・担当                  |                    |    |
| 5 | 3  | 生涯学習のための行事への参画              |                    |    |
| 5 | 4  | 技術相談担当の実績                   | 月1回2時間             | 1  |
| 5 | 5  | 企業、民間団体等への支援                |                    |    |
| 5 | 6  | 産学官連携事業等への参加                |                    |    |
| 5 | 7  | 有識者としての地域審議会等への参加           |                    | 1  |
| 5 | 8  | ボランティア活動の企画・参加              |                    |    |
| 5 | 9  | 社会活動への参画、指導                 |                    | 1  |
| 5 | 10 | 卒業生への支援                     |                    | 1  |
| 5 | 11 | 国際交流への貢献                    |                    |    |
| 5 | 12 | 海外協力貢献(JICA等)               |                    |    |
| 5 | 13 | 地域社会からの表彰実績                 |                    |    |
| 5 | 14 | その他                         |                    | 1  |
|   |    | 小計                          |                    | 6  |

(出典:総務課保管資料)

資料 3-2-②-5 : 教育業績評価の活動実績報告書

平成17年度教育等業績評価のための活動実績報告書(例)

学科 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

| 区分     | 比率(%) |      | 具体的な活動内容                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 申請時   | 実績   |                                                                                                                                                                                                          |
| 教育     |       |      | 授業担当:前期 14時間、後期 16時間<br>補習授業 1学年数学補習授業 10回/年<br>オフィスアワー:毎週木曜日 17時から19時まで<br>教育に関する著書「〇〇〇」(2005.10.1発行)<br>教育活動の表彰実績:教育研究集会 機構理事長賞受賞<br>卒業研究の指導:3名、2テーマ 全員卒業決定<br>専攻科における研究指導:1名 1テーマ<br>指導学生の学会発表:専攻科生1名 |
| 研究     |       |      | 研究:〇〇〇の研究<br>学会等への参画:〇〇〇学会理事、△△△学会会員<br>専門に関する研究の論文等:〇〇学会△△支部大会講演<br>科学研究費補助金の申請:萌芽的研究B 代表者として申請 300万円<br>寄附金の受入状況:(株)〇〇〇から50万円<br>受託研究の受入状況:(株)〇〇〇から50万円 「〇〇の研究」<br>学会賞等の受賞:第10回△△学会奨励賞受賞               |
| 学生生活指導 |       |      | 学級担任:2年〇〇学科担任、2年生学年主任<br>課外活動:〇〇部指導教員(平成12年度~)、平成17年度高専大会地区優勝<br>学生寮宿直:日直 2回/年、宿直 5回/年                                                                                                                   |
| 学内貢献   |       |      | 広報委員会委員                                                                                                                                                                                                  |
| 社会貢献   |       |      | 学校行事への参画:学校見学<br>公開講座:「中学生のための工学教室」企画・担当                                                                                                                                                                 |
| 合計     | 100%  | 100% |                                                                                                                                                                                                          |

比率(%)は、業務申請時のものと併せ、平成17年度の業務実績を自己分析し、記載してください。  
 「具体的な活動内容」は、平成17年度に行った活動を記載してください。特記すべき事項があれば詳しく記載してください。

(出典:総務課保管資料)

## 資料 3-2-②-6：活動実績報告書作成依頼

教育業績評価委員会委員長

( 校 長 )

平成17年度教育業績評価のための活動実績報告書の提出について（依頼）

昨年4月8日締切りで提出していただきました業務配点表に係るこのことについて、添付ファイル「活動実績報告書様式」に必要事項を記載の上、平成18年4月12日（水）までに庶務課庶務係（[syomu0@ishikawa-nct.ac.jp](mailto:syomu0@ishikawa-nct.ac.jp)）にメールにて提出願います。

なお、4月に提出された業務配点比率が判らなくなってしまった方がいる場合は、先のアドレスにその旨連絡願います。

注）記入例（別シート）を参考にできるだけ詳しく記載願います。欄が足りない場合は、適宜、増欄してください。その際に、複数ページに渡っても構いません。

（出典：総務課保管資料（平成18年3月14日））

## 2) 教員の教育活動評価に基づく取組

教育業績評価委員会の評価により、教員顕彰実施要項に基づいて校長推薦による優秀教員賞および候補者選考委員会の選考に基づく特別業績賞により教員を評価し表彰を行っている（資料 3-2-②-7～9）。

なお平成19年度表彰者は、校長が推薦した優秀教員賞候補と特別業績賞選考委員会が選考し推薦した候補者を、6月6日に開催した総合企画会議で審議して各1名の表彰者を決定し、6月20日開催の教員会議において表彰が行われた（資料 3-2-②-10）。

- 資料 3-2-②-7：教員顕彰実施要項（目的と表彰）
- 資料 3-2-②-8：教員顕彰実施要項（選考基準）
- 資料 3-2-②-9：教員顕彰実施要項（特別業績賞候補者推薦書）
- 資料 3-2-②-10：教員顕彰の決定

## 資料 3-2-②-7：教員顕彰実施要項(目的と表彰)

## 1. 目的

本校の教育・研究及びその他の活動の一層の向上を図ることを目的として、特に顕著な功績を挙げた教員を顕彰する。

## 2. 賞の種類

校長賞として次の2種類の賞を授与する。

- (1) 優秀教員賞・・・本校における教育、学生指導、研究、地域貢献等を総合して貢献した教員（原則1名）
- (2) 特別業績賞・・・本校の教育及び学生指導又は地域貢献、研究活動等に関して特に顕著な実績をあげた教員（若干名）

## 3. 被顕彰者の選考及び決定

- (1) 「優秀教員賞」においては、校長が選考基準（1）に基づき候補者を推薦し、総合企画会議に諮り決定する。
- (2) 「特別業績賞」においては、次の手順により選考し、決定する。
  - ① 本校の教員は、選考基準（2）に基づき、別紙様式により候補者を特別業績賞候補者選考委員会に推薦する。（自薦も可とする。）
  - ② 特別業績賞候補者選考委員会は、候補者を選考し、校長に推薦する。
  - ③ 校長は、総合企画会議に諮り決定する。
- (3) 特別業績賞候補者を選考し、校長に推薦するため、次の委員による「特別業績賞候補者選考委員会」を置く。

なお、当該委員が被推薦者となった場合は、選考委員から除外する。

- ① 副校長（教務主事）
- ② 学生主事，寮務主事，研究主事，図書情報主事
- ③ その他校長が必要と認めた者

## 4. 表彰

- (1) 校長から賞状及び副賞を授与する。
- (2) 教員会議の席上で行う。
- (3) 内外に公表する。

(出典：総務課保管資料)



## 資料 3-2-②-8 : 教員顕彰実施要項(選考基準)

## 5. 選考基準

## (1) 優秀教員賞

前年度の「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」並びに活動実績報告書、学生による授業評価結果等を考慮して選考する。

## (2) 特別業績賞

前年度の業績等で、次のいずれかに該当する者を選考する。

- ① 講義、実習、実験において自らの工夫等においてわかりやすく、かつレベルの高い教育を効果的に行った者
- ② 学生の理解度向上につながる教科書の編纂、教材の開発などで、教育効果を高めた者
- ③ FDに関する学会等での発表などFD活動を活発に行い、授業改善に努めた者
- ④ 学級運営に優れた成果を収めた者
- ⑤ クラブ活動を積極的に支援し、顕著な成績を上げることに著しく貢献した者
- ⑥ 公開講座、技術相談、受託試験等で地域に著しく貢献した者
- ⑦ ボランティア活動などを通じて社会貢献に顕著な功績があった者
- ⑧ 共同研究、受託研究等で顕著な業績をあげた者
- ⑨ 発明・特許等の知的財産において顕著な業績をあげた者
- ⑩ 各種委員会において精力的に活動し、その結果優れた成果をあげた者
- ⑪ その他本校の活動及び社会的評価に著しく貢献した者

《補足》1人の教員に対して2年連続しての顕彰は、原則として行わないこととする。

(出典：総務課保管資料)

資料 3-2-②-9 : 教員顕彰実施要項(特別業績賞候補者推薦書)

別紙様式

特別業績賞候補者推薦書

特別業績賞候補者選考委員会 御中

石川工業高等専門学校教員顕彰実施要項に基づき、下記のとおり  
推薦します。

推薦者 所属・氏名

印

記

| 特別業績賞候補者の所属・氏名                        |  |
|---------------------------------------|--|
| 所 属                                   |  |
| 氏 名                                   |  |
| 推薦事由 ※選考基準における番号を記入する。                |  |
|                                       |  |
| 補 足 事 項                               |  |
| ※推薦の具体的理由を簡潔に記載すること。(参考資料として別紙添付でも可。) |  |
|                                       |  |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 3-2-②-10：教員顕彰の決定

## 平成19年度第3回総合企画会議議事要録

日 時 平成19年6月6日（水） 13時30分から17時20分まで  
 場 所 校長室  
 出席者 金岡（校長），櫻野（副校長），松田（学生主事），西澤（寮務主事），  
 畑（研究主事），高島（図書情報主事），  
 原田（事務部長），佐藤（総務課長），伊藤（学生課長）  
 陪席者 菊澤（企画室長），紙田（総務課課長補佐），森田（学生課課長補佐）  
 幹 事 総務係長

## 議 事

## I. 協議題

## 1. 教員顕彰について

総務課長から、資料の確認及び顕彰候補者選考の概略説明があり、次いで資料1に基づき、校長から優秀教員賞候補者、副校長から特別業績賞候補者の推薦について説明があり、検討の結果、次のとおり決定した。次いで校長から副賞及び表彰状文案について提案があり、一部修正のうえ次週主任会議で被表彰者の報告及び教員会議で表彰式を行うこととなった。

優秀教員賞候補者 機械工学科・八田 潔 教員

特別業績賞候補者 電子情報工学科・山田 健二 教員

（主な説明・意見）

- ・ 副賞は校長裁量経費から研究費として優秀教員賞には20万円、特別業績賞には15万円をそれぞれ授与することとしたい。
- ・ 副賞が「研究費」だと誤解を招くので、「研究助成」とし、表彰状からも「副賞を添えて」を除いた方が良いのではないか。

（出典：総合企画会議議事録）

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動を評価する委員会として教育業績評価委員会が設置されている。教員は、自己評価および学生による授業評価などの評価を受けている。また評価結果による優秀教員の表彰を行っている。

以上のことから、教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する体制が整備され、実際に評価が行われている。

観点 3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

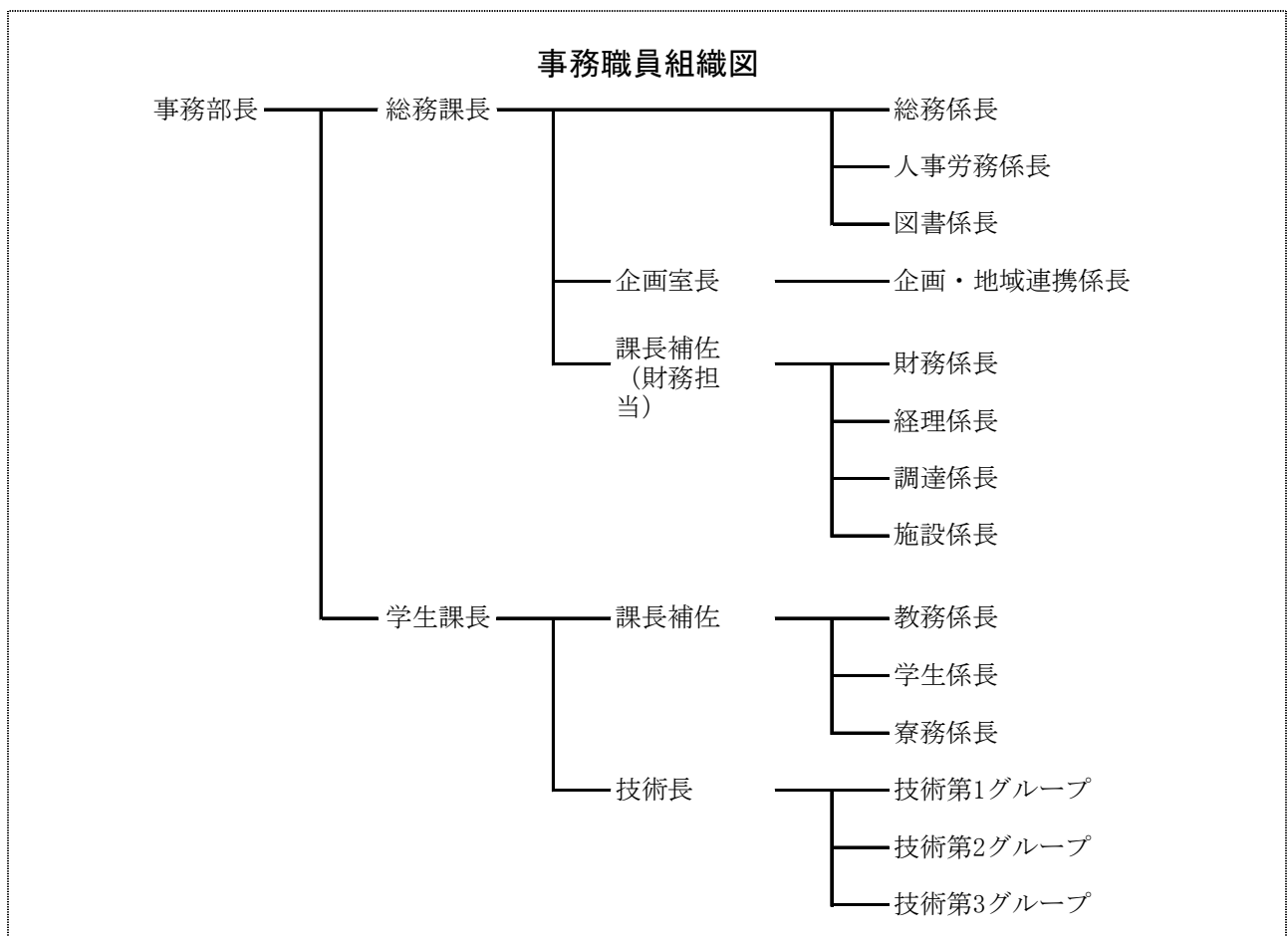
(観点に係る状況)

1) 事務職員の配置状況

事務部は総務課と学生課の2課から構成されている(資料 3-3-①-1)。教育課程の展開に直接的に関係するのは、総務課の図書係、学生課の教務係および技術職員である。図書係には、司書または専門的知識を有する者を配置し、学習・研究に必要な図書の購入と管理、文献検索の便宜を図るなどの支援を行っている。学生課教務係の事務分掌は事務分掌細則に明文化されており(資料 3-3-①-2)、シラバス作成、成績管理、履修管理、インターンシップ管理等を担当している。定期試験の成績報告、シラバス作成などは学内LANを活用したオンラインシステムを構築して効率的な処理を行っている。

- 資料 3-3-①-1：事務職員組織図
- 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(1~12)

資料 3-3-①-1：事務職員組織図



(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(1) 企画室

(趣旨)

第1条 石川工業高等専門学校事務組織規則第14条の規定に基づく企画室及び係の事務分掌は、この細則の定めるところによる。

(企画室)

第2条 企画室においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、重要な企画・調査に関すること。
- (2) 組織の改廃に関すること。
- (3) 自己点検及び評価に関すること。
- (4) 知的財産に関すること。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(2) 総務係

第3条 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 儀式、会議及び諸行事に関すること。
- (3) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
- (4) 身分証明書の発行に関すること。
- (5) 在外研究員、内地研究員等に関すること。
- (6) 職員の出張に関すること。
- (7) 渉外に関すること。
- (8) 法人文書の接受、発送及び保管に関すること。
- (9) 紀要に関すること。
- (10) 学校要覧、石川高専だより、その他広報に関すること。
- (11) 公印の管守に関すること。ただし、他の課の所掌に属することを除く。
- (12) 私事渡航に関すること。
- (13) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (14) 構内の警備取締りに関すること。
- (15) 宿日直勤務に関すること。ただし、学生課の所掌に属することを除く。
- (16) 官用車の維持管理及び運行に関すること。
- (17) 情報公開に関すること。
- (18) 個人情報保護に関すること。
- (19) 国際交流に関すること。(外国人留学生に関するものを除く。)
- (20) その他他の課・係の所掌に属さない事務を処理すること。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(3) 人事労務係

第4条 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教職員の任免，分限，懲戒，服務等に関する事。
- (2) 教職員の給与に関する事。
- (3) 教職員の諸手当に関する事。
- (4) 教職員の人事管理に関する事。
- (5) 教員の資格審査及び教員選考に関する事。
- (6) 教職員の併任及び兼業に関する事。
- (7) 教職員の勤務評定に関する事。
- (8) 教職員の労働時間及び休暇に関する事。
- (9) 教職員の研修に関する事。
- (10) 教職員の安全衛生管理に関する事。ただし、他の係の所掌に属することを除く。
- (11) 教職員の福利厚生に関する事。
- (12) 教職員の災害補償に関する事。
- (13) 長期給付及び退職手当に関する事。
- (14) 教職員の栄典及び表彰に関する事。
- (15) 教職員の雇用保険に関する事。
- (16) 教職員の人事記録に関する事。
- (17) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。
- (18) 労使協定及び労働協約に関する事。
- (19) その他人事労務に関する事。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(4) 図書係

第5条 図書係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書の購入契約に関する事。
- (2) 寄贈図書の受入れに関する事。
- (3) 図書及び図書以外の図書館資料（以下「図書館資料」という。）の分類，目録，作成，配列，製本等整理及び保管に関する事。
- (4) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関する事。
- (5) 文献複写及び学術情報等相互利用に関する事。
- (6) 図書館資料の検索指導及び利用等参考業務に関する事。
- (7) 図書館の広報に関する事。
- (8) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。
- (9) その他図書館の事務に関する事。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(5) 企画・地域連携係

第6条 企画・地域連携係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 補助金に関する事。ただし、経理に関する事を除く。
- (2) 受託研究及び民間等との共同研究に関する事。ただし、経理に関する事を除く。
- (3) 寄附金及び受託試験に関する事。ただし、経理に関する事を除く。
- (4) 地域連携に関する事。
- (5) 公開講座、産学官交流及び学校開放に関する事。
- (6) 学術団体等との連絡に関する事。
- (7) 事務情報化に係る企画立案及び連絡調整に関する事。
- (8) 事務情報システムの管理適用及びセキュリティに関する事。
- (9) 校内LANの事務活用に関する事。
- (10) トライアル研究センターに関する事。
- (11) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(6) 財務係

第7条 財務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 会計部門の事務に関し、総括、連絡調整及び企画・立案する事。
- (2) 予算、決算及び計算証明に関する事。
- (3) 会計の監査に関する事。
- (4) 契約その他収入及び支出となる行為の確認に関する事。
- (5) 受託研究及び民間等との共同研究の経理（出納を除く。）に関する事。
- (6) 寄附金及び受託試験の経理（出納を除く。）に関する事。
- (7) 補助金の経理（出納を除く。）に関する事。
- (8) 共済組合に関する事。ただし、長期給付に関する事を除く。
- (9) 会計の諸規則に関する事。
- (10) 会計機関の異動に関する事。
- (11) 会計機関の公印の管守に関する事。
- (12) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。
- (13) その他会計部門の所掌の事務で他の係に属しない事。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(7) 経理係

第8条 経理係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 債権の管理に関する事。
- (2) 収入、支出に関する事。
- (3) 現金、預金、貯金及び有価証券に関する事。
- (4) 給与、諸手当、諸謝金及び旅費の計算、支給に関する事。
- (5) 所得税、社会保険料等の徴収に関する事。
- (6) 固定資産税に関する事。
- (7) 受託研究及び民間等との共同研究の出納に関する事。
- (8) 寄附金及び受託試験の出納に関する事。
- (9) 補助金の出納に関する事。
- (10) 共済組合の出納に関する事。
- (11) 独立行政法人日本スポーツ振興センター法に係る給付金の出納に関する事。
- (12) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。
- (13) その他出納に関する事。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(8) 調達係

第9条 調達係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 物品の管理に関する事。
- (2) 物品の購入、借上げ及び修理の契約に関する事。
- (3) 物品の貸付及び売払契約に関する事。
- (4) その他の契約に関する事。
- (5) 物品の寄付に関する事。
- (6) 通信費及び光熱水料の取扱いに関する事。
- (7) 構内の除草及び清掃に関する事。
- (8) 共済組合の物品購入その他の契約に関する事。
- (9) 安全衛生管理（機械器具、薬品、研究資材等）に関する事。
- (10) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関する事。
- (11) その他調達に関する事。

(出典：総務課保管資料)



□ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(9) 施設係

第10条 施設係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 施設整備関係の企画及び予算要求に関すること。
- (2) 営繕工事の設計及び施工に関すること。
- (3) 工事請負等の契約に関すること。
- (4) 不動産の管理及び処分に関すること。
- (5) 土地及び建物の貸付及び借入に関すること。
- (6) 土地、建物、構築物及び環境の整備復旧並びに維持保全に関すること。
- (7) 災害防止及び防火等の計画実施に関すること。
- (8) 安全衛生管理（施設、設備、庁舎管理、防火等）に関すること。
- (9) 宿舎に関すること。
- (10) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (11) その他施設に関すること。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(10) 教務係

第11条 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の事務に関し、給括し及び連絡調整すること。
- (2) 学生募集及び入学者選抜に関すること。
- (3) 学生の修学指導に関すること。
- (4) 学生の入学（進級）、復学、休学、退学、卒業及び修了に関すること。
- (5) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (6) 教育改善に関すること。
- (7) 学生の試験及び成績に関すること。
- (8) 学生の進学に関すること。
- (9) 指導要録の作成及び整理保存に関すること。
- (10) 学生、卒業生及び修了者の諸証明に関すること。
- (11) 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生に関すること。
- (12) 外国人留学生の受入れに関すること。
- (13) 学生の留学に関すること。
- (14) 学外実習及び見学に関すること。
- (15) 特別活動に関すること。
- (16) 教室の管理に関すること。
- (17) 教科書及び教材に関すること。
- (18) 授業料の債権の発生等通知に関すること。
- (19) 学生課における公印に関すること。
- (20) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (21) 学科等の事務に関すること。
- (22) その他、学生課の所掌事務で他の係に属しないこと。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(11) 学生係

第12条 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育及び学生団体に関すること。
- (2) 学生の規律の保持に関すること。
- (3) 入学科、授業料及び寄宿料の減免、徴収猶予に関すること。
- (4) 学生の奨学金に関すること。
- (5) 学生の表彰並びに懲戒に関すること。
- (6) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (7) 学生の保健衛生管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (8) 学生相談に関すること。
- (9) 学生の就職に関すること。
- (10) 独立行政法人日本スポーツ振興センター法に係る共済給付契約及び給付金の支払請求に関すること。
- (11) 学生の通学及び旅客運賃割引証に関すること。
- (12) 学生の集会、掲示物及び出版物に関すること。
- (13) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (14) その他学生の学生生活に関すること。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 3-3-①-2：事務分掌細則(12) 寮務係

第13条 寮務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生寮の管理運営に関すること。
- (2) 学生の入退寮に関すること。
- (3) 寮生の生活指導に関すること。
- (4) 学生寮の食事に関すること。
- (5) 寮生の保健衛生管理に関すること。
- (6) 寮生の福利厚生に関すること。
- (7) 寄宿料の債権の発生等通知に関すること。
- (8) 学生寮の宿日直に関すること。
- (9) 所掌事務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他学生寮に関すること。

(出典：総務課保管資料)

## 2) 技術職員の配置状況

学生課の技術職員は、学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談等を担当する。技術職員は、3つのグループに分かれ、専門性（機械系、電気・電子情報系、建設・環境・物質系）を考慮した適切な人員配置が行われている。技術職員の業務内容と実際の活動状況についての資料を示す（資料 3-3-①-3, 4）。

- 資料 3-3-①-3：技術職員組織規則
- 資料 3-3-①-4：技術職員の活動状況

□ 資料 3-3-①-3：技術職員組織規則

(目的)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教室系技術職員（以下「技術職員」という。）に関し、その能力及び資質等の向上と業務の改善を図り、もって本校の教育研究の充実に資するため、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 本校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するため、学生課に次の表に掲げる技術グループを組織して技術職員を置き、教育研究にかかる専門的業務を処理させる。

| 区 分    | 業 務 の 分 野         |
|--------|-------------------|
| 第1グループ | 機 械 系             |
| 第2グループ | 電 気 ・ 電 子 ・ 情 報 系 |
| 第3グループ | 建 設 ・ 環 境 ・ 物 質 系 |

(技術専門員及び技術専門職員)

第3条 本校に、技術専門員及び技術専門職員を置く。

第4条 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

2 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

3 前2項に定める職員の選考は別に定めるところによる。

(技術長)

第5条 技術に関する業務を総括管理するため、技術長を置く。

2 技術長は、技術専門職員の中から校長が任命する。

(グループ長)

第6条 業務遂行に関し連絡調整を行うため、各技術グループにグループ長を置く。

2 グループ長は、技術専門職員の中から校長が任命する。

第7条 この規則の実施に関し必要な事項は別に定める。

(出典：総務課保管資料)

□ 資料 3-3-①-4：技術職員の活動状況

| 平成18年度前期・技術職員実時間割(実配置時間割) |     |       |     |     |     |     |       |      |       |     |       |     | 2006/04/01現在 |     |     |      |       |     |     |     |       |     |       |     |       |  |  |  |
|---------------------------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-------|-----|-------|-----|--------------|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-----|-------|--|--|--|
| <月曜日>                     |     |       |     |     |     |     |       |      |       |     |       |     | <火曜日>        |     |     |      | <水曜日> |     |     |     | <木曜日> |     |       |     | <金曜日> |  |  |  |
| 時間                        | 1・2 | 3・4   | 5・6 | 7・8 | 1・2 | 3・4 | 5・6   | 7・8  | 1・2   | 3・4 | 5・6   | 7・8 | 1・2          | 3・4 | 5・6 | 7・8  | 1・2   | 3・4 | 5・6 | 7・8 | 1・2   | 3・4 | 5・6   | 7・8 |       |  |  |  |
| 1G 荒崎                     | 19  | 1M    |     | 4M  |     |     |       | 1M   |       |     | 5M    |     |              |     | 2M  |      |       |     |     |     |       |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 中田                        | 19  |       |     | 4M  |     |     | 3M    | 1M   |       |     | 5M    |     |              |     | 2M  |      |       |     |     |     |       |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 北山                        | 14  |       |     |     |     |     |       | 1M   |       |     | 5M    |     |              |     | 2M  |      |       |     |     |     |       |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 大門                        | 18  |       |     |     |     |     | 3M    | 1M   |       |     | 5M    |     |              | 4M  | 2M  |      |       |     |     |     |       |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 山下                        | 19  | 1M    |     | 4M  |     |     |       | 1M   |       |     | 5M    |     |              |     | 2M  |      |       |     |     |     |       |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 浦井                        | 21  |       |     | 4M  |     |     |       | 1M   |       |     | 5M    |     |              | 4M  | 2M  |      |       |     |     |     | 4M    |     |       | 3M  |       |  |  |  |
| 2G 山畑                     | 22  | 4A    |     |     |     | 1A  | 5A    | (3A) | 3C    |     |       | 3A  |              |     | 1C  | (3A) | 1A    | 3A  |     |     |       |     | 1M    | 2C  |       |  |  |  |
| 松島                        | 21  |       |     | 2E  |     |     |       | 3E   |       |     |       |     |              | 5E  |     | 1E   |       |     |     |     |       |     | 2E    | 4E  |       |  |  |  |
| 田屋                        | 21  |       |     | 2E  |     |     |       | 3E   |       |     |       |     |              | 5E  |     | 1E   |       |     |     |     |       |     | 2E    | 4E  |       |  |  |  |
| 飯田                        | 19  |       | 1I  | 5I  |     |     | 1E    |      | 4I    |     | 2I    | 1I  |              | 4I  |     | 2I   |       |     |     |     |       |     |       | 3I  |       |  |  |  |
| 田中                        | 19  |       | 1I  | 5I  |     |     |       | 3I   | 4I    |     | 4I    | 3I  | 1I           |     |     | 2I   |       |     |     |     |       |     |       | 3I  |       |  |  |  |
| 3G 高桑                     | 22  | 2C    | 2C  |     |     |     | 4C    | 5C   |       |     |       | 3C  |              |     | 4C  | 4C   |       |     |     |     |       |     | 1C    | 1C  |       |  |  |  |
| 能沢                        | 22  | 2C    | 2C  |     |     |     |       | 5C   |       | 1C  |       | 3C  |              |     | 1C  | 4C   |       |     |     |     |       |     | 1C    | 1C  |       |  |  |  |
| 泉                         | 26  | 1A/2E | 2I  | 2A  |     |     | 2M    | 1C   | 1I/2C |     | 2A    | 2M  |              | 2I  | 1E  | 2E   | 1M    |     |     |     |       |     |       | 2C  |       |  |  |  |
| 福本                        | 18  |       |     |     |     |     | 1C/2C | 2E   | 2I    |     | 1E/2M | 1M  |              |     | 2A  | 1A   |       |     |     |     |       | 2I  | 1I/2E |     |       |  |  |  |

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

事務部は総務課と学生課の2課から構成され、教育課程の展開に直接的に関係するのは、総務課の図書係、学生課の教務係および技術職員である。図書係では教育・研究に必要な文献の管理および貸出、学術情報の提供、教務係では、授業、成績、異動、履修などの教育支援業務を的確に実施するため適切な人員配置を行っている。一部の業務では、学内LANを活用したオンラインシステムを構築し処理の効率化を図っている。技術職員は、学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談等を行うため、専門性を考慮して適切に配属されている。

以上のことから、本校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- 一般教育科においては修士以上の学歴を持つ教員の割合が 91% (21名/23名)、専門学科においては博士の学位を有する教員の割合が 83% (44名/53名) と極めて高い。また平成19年度科学研究費補助金の採択率は、一般教育科で30% (7名/23名)、専門学科で 21% (11名/53名) と高い数値を示している。また、技術職員も2名が奨励研究を採択されている。
- 外国人の専任教員を公募採用し、学生の国際性の向上を図っている。
- 教育経歴や企業経験がある教員採用数は全体の半数を超えている。

- ・ 教員の活動報告書提出による自己評価と学内評価，教員相互評価，学生による授業アンケートなど，教員の教育活動に関する評価活動を行っている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし。

### (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目担当教員は専任教員23名（高等専門学校設置基準による定員数は22名）と非常勤講師21名から構成されており，また，教育課程表に配当された科目構成に対してバランスのとれた専門分野の配置となっている。専任教員にあつては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮している。特に，外国人の専任教員を配置し，実践的な英会話能力修得のための科目に充てるなど，一般科目の学習目標達成のために適切な教員配置を行っている。修士以上の学歴を持つ教員の割合が極めて高く（91%，21名/23名），平成19年度科学研究費補助金の採択率も高い（30%，7名/23名）。

専門科目担当教員は助教を含め5学科で53名が配置されている。専門科目では特に学習目標「1. 基礎学力と専門知識」，「2. 課題の解決」を達成するために構成された教育課程を教えるに十分な資格を持つ教員によって構成されている。また電子情報工学科には第1級無線技術士の資格を持つ者1名，建築学科には1級建築士の資格を有する者3名および1級建築士と技術士の両資格を有する者1名を配属している。

専攻科では，一般科目，専門共通科目，専門展開科目を配備し，専攻科課程の学習目標を十分に達成するための教育課程を構築している。専攻科を担当する教員は博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体であり，平成17年度に大学評価・学位授与機構による再審査を受け，「適」の認定を受けている。この教育課程は，教員の専門分野や担当授業科目数の均衡化等を配慮し，適切な教員配置のもとに実施されている。

教員組織の活動をより活性化するため，教員採用においては公募制を導入しており，年齢構成や性別による職位の均衡化に配慮した選考が行われている。また，実践的な教育を施すため，教育経歴および実務経験のある教員採用を行うとともに，博士の学位取得者数を高める努力を行っている。学生の国際性向上を図るため，外国人の専任教員を採用している。

採用や昇格に関する手続きの規定および教員選考に係る処理フローは明確かつ適切に定められ，適切な運用がなされている。審査に際しては模擬授業を課して教育能力の評価を行っている。昇格に際しても，採用に準じた規定が適用されるほか，所属学科の教授による教育能力の評価が行われている。

教員の教育活動を評価する委員会として教育業績評価委員会が設置されており，評価結果による優秀教員の表彰を行っている。

事務部は総務課と学生課の2課から構成され，教育課程の展開に直接的に関係するのは，総務課の図書係，学生課の教務係および技術職員である。図書係では教育・研究に必要な文献の管理および貸出，学術情報の提供，教務係では，授業，成績，異動，履修などの教育支援業務を的確に実施するため適切な人員配置を行っている。一部の業務では，学内LANを活用したオンラインシステムを構築し処理の効率化を図っている。技術職員は，学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談等を行うため，専門性を考慮して適切に配属されている。

以上のことから，本校において編成された教育課程を展開するのに必要な教員および教育支援者が適切に配置されている。



## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到に係る状況）

#### 1) 石川高専のアドミッション・ポリシー

本校においては、推薦および学力による準学士課程入学試験、4年次編入学試験、推薦および学力による専攻科課程入学試験を行っており、それぞれに対応したアドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料 4-1-①-1～3）。特に重要と思われる準学士課程の推薦・学力選抜のアドミッション・ポリシーについては、その必要性に対応して、入学生が本校に適さないということがないように「石川高専に適する人は」、本校にとって望ましい学生を受け入れるために「5つの学科が求める人は」を定め、さらに、本校の入学要件を明示するものとして「石川高専に入学するには」を明確に定めている。

- 資料 4-1-①-1：準学士課程のアドミッション・ポリシー
- 資料 4-1-①-2：編入学のアドミッション・ポリシー
- 資料 4-1-①-3：専攻科課程のアドミッション・ポリシー



## 資料 4-1-①-1：準学士課程のアドミッション・ポリシー

## 準学士課程のアドミッション・ポリシー

## 1. 石川高専に適する人は

高専は、たくさんの人と協力してものづくりができる人の育成を目指しています。

次のような人に向いているといえるでしょう。

1. ものづくりに興味があり、与えられた課題などに取り組める人
2. 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を過ごす人
3. 将来、技術者として社会の発展に貢献したいと考えている人

## 2. 5つの学科が求める人は

石川高専には5つの学科があります。それぞれの学科では、次のような人を求めています。

自分にあった学科を選んでください。

## 【機械工学科】

1. ものづくりが好きで、想像力の豊かな技術者になりたい人
2. 自動車・飛行機・ロボットなどの機械やしくみに興味がある人
3. 機械の仕事を通して、エネルギー・環境・福祉などの分野で社会に貢献したい人

## 【電気工学科】

1. ロボット・コンピュータなどのしくみに興味がある人
2. エネルギー・通信・ITなどの生活を支える技術に関心がある人
3. 最先端技術に関心があり、社会の発展に貢献にしたい人

## 【電子情報工学科】

1. コンピュータの原理やプログラミング開発などに興味がある人
2. 情報・電子・通信の融合技術を身につけたい人
3. 情報化社会に貢献したい人

## 【環境都市工学科】

1. 道路・橋・空港・上下水道などの都市づくりに興味がある人
2. 都市づくりを通じて地域社会に貢献したい人
3. くらしと自然を守る都市づくりに熱意がもてる人

## 【建築学科】

1. 建築の材料や構造、環境やデザインに興味がある人
2. 建築を作る過程（設計・施工・管理）に興味がある人
3. 建築を通じて生活環境づくりに貢献したい人

## 3. 石川高専に入学するには

石川高専の入学者選抜試験には推薦選抜と学力選抜があります。

石川高専に入学するには次のことが必要とされています。

1. 中学校の学んだことを身につけている人
2. 特に、数学・理科の基礎学力がある人
3. いろいろな問題に出会ったとき、自分で考えて答を探そうとする人

(出典：主任会議資料)

## 資料 4-1-①-2：編入学のアドミッション・ポリシー

## 編入学のアドミッションポリシー

1. 高等学校において学んだ工学の基礎を身につけている人
2. 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人
3. 自主性と協調性を持ち、自分の行動に責任を持てる人

(出典：主任会議資料)

## 資料 4-1-①-3：専攻科課程のアドミッション・ポリシー

## 専攻科課程のアドミッションポリシー

1. 高等専門学校の卒業学科において工学の基礎を習得した人
2. 幅広い分野の工学知識について学習する意欲のある人
3. 国際的に通用する技術者として、社会貢献する意欲のある人

(出典：主任会議資料)

## 2) アドミッション・ポリシーの学校の教職員への周知状況

本校のアドミッション・ポリシーは教員会議での報告、および入学試験の実施に関する会議において教職員への周知を図っている。資料中の説明はアドミッション・ポリシーの内容についての説明である(資料 4-1-①-4)。また、全教職員に配布する教育理念・教育目標カードにも記載し、つねに参照できるよう配慮している(資料 4-1-①-5)。さらに、平成19年5月にアドミッション・ポリシーの認知度を確認する教職員アンケートを実施したところ、教員に関しては、調査結果が示すとおり、よく認知されているといえる(資料 4-1-①-6, 7)。職員に関しては、なお認知度は十分とは言えない部分もあるものの、概ね認知されていると言えよう。

- 資料 4-1-①-4：アドミッション・ポリシーの教職員への周知
- 資料 4-1-①-5：アドミッション・ポリシーの教育理念・目標カードへの記載
- 資料 4-1-①-6：アドミッション・ポリシーの周知度調査項目
- 資料 4-1-①-7：教職員のアドミッション・ポリシーの周知状況

## 資料 4-1-①-4 : アドミッション・ポリシーの教職員への周知

## 平成18年度第8回教員会議議事要録

日 時 平成18年12月20日(水) 16時から17時25分まで  
場 所 大会議室  
出席者 58名  
欠席者 17名(在外出張1名含む。)  
陪席者 事務部長, 総務課長, 学生課長, 企画室長, 総務課課長補佐, 学生課課長補佐  
幹 事 総務係長

## I. 報告事項

1. 校長所掌事項 (略)

2. 副校長所掌事項

(1) (略)

(2) (略)

(3) アドミッション・ポリシーについて

資料2に基づき, 将来構想計画委員会等関係部門と調整を行い, 主任会議で承認されたアドミッション・ポリシーについて説明があり, ホームページにより公開する旨報告があった。

(以下略)

(出典:平成18年度第8回教員会議議事要録)

## 資料 4-1-①-5 : アドミッション・ポリシーの教育理念・目標カードへの記載

## 教育理念・目標カード

石川工業高等専門学校  
ISHIKAWA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

## 教育理念

1. 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
2. 創造的な能力と意欲を育む教育
3. 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
4. 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

## 準学士課程の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

## アドミッション・ポリシー

1. 石川高専に適する人は  
高専は、たくさんの人と協力してものづくりができる人の育成を目指しています。  
次のような人に向いているといえるでしょう。  
(1) ものづくりに興味があり、与えられた課題などに積極的に取り組む人  
(2) 社会のルールを守り、向上心を持って学生生活を過ごす人  
(3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したいと考えている人
2. 石川高専に入学するには  
石川高専の入学選抜試験には推薦選抜と学力選抜があります。  
石川高専に入学するには次のことが必要とされています。  
(1) 中学校で学んだことを身につけている人  
(2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人  
(3) いろいろな問題に出会ったとき、自分で答えを探そうとする人

※その他に、学科ごとのアドミッション・ポリシー、編入学や専攻科のアドミッション・ポリシーが定められています。

(出典：アドミッション・ポリシーの教職員への周知度調査結果)

## 資料 4-1-①-6 : アドミッション・ポリシーの周知度調査項目

## 3. アドミッション・ポリシーの周知について

「ある程度知っている」はアドミッション・ポリシーのうち1つということが出来る程度とし、2つ以上言える場合には「よく知っている」としてください。

(3.1) 準学士課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。

(3.2) 専攻科課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。

(3.2) 編入学試験のアドミッション・ポリシーを知っていますか。

以上の問に対して次の4段階で回答。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. まったく知らない  | 2. あまり知らない |
| 3. ある程度知っている | 4. よく知っている |

(出典：教員アンケート調査用紙)

## 資料 4-1-①-7：教職員のアドミッション・ポリシーの周知状況

## アドミッション・ポリシー周知状況

| (常勤教員) |           | 1 | 2  | 3  | 4  | 合計 | 平均   |
|--------|-----------|---|----|----|----|----|------|
| 3.1    | 準学士課程A.P. | 1 | 7  | 28 | 31 | 67 | 3.33 |
| 3.2    | 専攻科課程A.P. | 2 | 11 | 31 | 26 | 70 | 3.16 |
| 3.3    | 編入学試験A.P. | 4 | 19 | 29 | 15 | 67 | 2.82 |

| (常勤事務職員) |            | 1 | 2  | 3  | 4 | 回答数 | 平均   |
|----------|------------|---|----|----|---|-----|------|
|          | 準学士課程 A.P. | 3 | 15 | 13 | 2 | 33  | 2.42 |
|          | 専攻科課程 A.P. | 4 | 19 | 8  | 2 | 33  | 2.24 |
|          | 編入学試験 A.P. | 6 | 17 | 8  | 2 | 33  | 2.18 |

(出典：アドミッション・ポリシーの教員への周知度調査結果)

## 3) アドミッション・ポリシーの社会への周知

アドミッション・ポリシーは、中学校訪問に際して配布している学校紹介リーフレットによって、将来の学生（受験生）を含めた受験関係者に周知を図っている（資料 4-1-①-8）。学校要覧および本校ウェブページに入学者の選抜方針を明記して、将来の学生を含めた社会に公表している（資料 4-1-①-9）。また、学生募集要項、専攻科学生募集要項、編入学生募集要項等にアドミッション・ポリシーを明記してそれを各方面に配布して周知がなされている（資料 4-1-①-10）。編入学生向けには県下の工業高校などへ資料の配付を行った。

平成18年度までの本校のアドミッション・ポリシーは「本校の教育目標を理解できるもの」という、やや明確性を欠いたものであり、現在のアドミッション・ポリシーを定めたのは、すでに資料に示したとおり、平成18年12月であった。この新しいアドミッション・ポリシーについては、特に将来の学生に対して、石川県および富山県の中学校訪問、中学校教員との懇談会、体験入学（オープンカレッジ）、学校説明会、中学生向け公開講座などにおいて上記資料を配付し、周知を図っている。

- 資料 4-1-①-8：アドミッション・ポリシーの受験関係者への説明
- 資料 4-1-①-9：ウェブページによるアドミッション・ポリシーの公表
- 資料 4-1-①-10：学生募集要項への記載によるアドミッション・ポリシーの周知

資料 4-1-①-8 : アドミッション・ポリシーの受験関係者への説明


## 石川高専への5つステップ

**今から** **STEP 1** **ホームページをみてみよう**

ホームページで【中学生の皆さんへ】や【入学案内】を見てみましょう。Q&Aや体験入学、公開講座、入試情報に関する最新情報が掲載されています。【学科紹介】では、各学科の特色や進路などが詳しく掲載されています。

<http://www.ishikawa-nct.ac.jp/>

学校紹介の動画も公開中!




\*公開講座の中には中学生対象の講座もあります。

**7月26日(木)** **STEP 2** **体験入学に参加してみよう**

中学3年生を対象とした体験入学を実施します。実際に授業で利用している実験室や実習工場が見学できます。各教室では在学生が活動内容を説明します。参加希望者は中学校を通して申し込んでください。

\*詳しくはHPをご覧ください。




\*保護者の方や教諭の皆様も参加できます。

**10月27日(土) 28日(日)** **STEP 3** **オープン・カレッジで実感**

本校学園祭「紀友祭」と同時に学校を公開します。体験入学時のような手続きは一切不要です。希望学科の実験室や学科紹介展示が自由に閲覧可能です。また、学生達が出展する露店で飲食が可能です。

\*入試相談コーナーもあります。



\*どなたでも参加できます。

石川高専の入学者選抜試験には推薦選抜と学力選抜があります。石川高専に入学するには次のことが必要とされています。

**STEP 4** **1月20日(日)** **推薦選抜**  
願書受付:平成20年1月8日～11日  
試験:平成20年1月20日

**STEP 5** **2月24日(日)** **学力選抜**  
願書受付:平成20年2月1日～6日  
試験:平成20年2月24日

1. 中学校で学んだことを身につけている人
2. 特に、数学・理科の基礎学力がある人
3. いろいろな問題に出会ったとき、自分で答えを探そうとする人

**5年後の主な就職・進学先(近年)** ※平成18年度の平均求人倍率は15倍でした。(就職率は100%)

|            |                                                                                                          |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機械工学科      | 本田技研、三菱重工、川崎重工、富士重工、出光興産、松下電産、コマツ、オリンパス、キャンパ、参天製薬、日産テクノ、JR西日本、トランテックス、中村留精密工業、澁谷工業、オリエンタルチエン工業、ほか        |
| 電気工学科      | 松下電器産業、松下通信工業、中部電力、関西電力、北陸電力、NHK、JR東海、JR西日本、ソニーEMCS幸田、東芝、金沢村田製作所、アイ・オー・データ機器、PFU、ナナオ、澁谷工業、北陸電気工事、ニッコー、ほか |
| 電子情報工学科    | NTT西日本、ヤフー、KDDIテクニカル、日立INSソフト、ソニーEMCS一宮、JR東海、中部電力、富士ソフトABC、NECテレネットワークス、ナナオ、金沢村田製作所、別川製作所、警視庁、ほか         |
| 環境都市工学科    | 国土交通省、厚生労働省、石川県、金沢市、NIPPOコーポレーション、加州建設、大鉄工業、加賀建設、トスマク、中部地質、国土開発センター、日本海コンサルタント、クレストエンジニアリング、ほか           |
| 建築学科       | 各地市役所・役場、大成建設、大林組、清水建設、前田建設、真柄建設、JR西日本、NTTファンリティアーズ、ダイダ、大和ハウス、工務店/住宅メーカー複数社、小松ウオール、建築設計事務所、ほか            |
| 主な進学(編入学)先 | 石川高専専攻科、金沢大、豊橋技科大、長岡技科大、富山大、福井大、新潟大、電気通信大、名古屋工業大、立命館大、大阪大、三重大、九州大、東京工業大、千葉大、岐阜大、筑波大、信州大、富山県立大、ほか         |

(出典：入試説明会資料)

資料 4-1-①-9：ウェブページによるアドミッション・ポリシーの公表

## 石川高専のアドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

(目次)

- [1. 準学士課程のアドミッションポリシー](#)
- [2. 編入学のアドミッションポリシー](#)
- [3. 専攻科のアドミッションポリシー](#)

### 1. 準学士課程のアドミッションポリシー

#### 1.1 石川高専に適する人は

高専は、たくさんの人と協力してものづくりができる人の育成を目指しています。次のような人に向いているといえるでしょう。

1. ものづくりに興味があり、与えられた課題などに積極的に取り組む人
2. 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を過ごす人
3. 将来、技術者として社会の発展に貢献したいと考えている人

#### 1.2 5つの学科が求める人は

石川高専には5つの学科があります。それぞれの学科では次のような人を求めています。自分にあつた学科を選んでください。

##### 機械工学科

- ・ものづくりが好きで、想像力豊かな技術者になりたい人
- ・自動車・飛行機・ロボットなどの機械やシステムに興味がある人
- ・機械の仕事を通して、エネルギー・環境・福祉などの分野で社会に貢献したい人

##### 電気工学科

- ・ロボット・コンピュータなどのしぐみに興味がある人
- ・エネルギー・通信・ITなどの生活を支える技術に関心がある人
- ・最先端技術に関心があり、社会の発展に貢献したい人

##### 電子情報工学科

- ・コンピュータの原理やプログラミング開発などに興味がある人
- ・情報・電子・通信の融合技術を身につけたい人
- ・情報化社会に貢献したい人

##### 環境都市工学科

- ・道路・橋・空港・上下水道などの都市づくりに興味がある人
- ・都市づくりを通して地域社会に貢献したい人
- ・くらしと自然を守る都市づくりに熱意がもてる人

##### 建築学科

- ・建築の材料や構造、環境やデザインに興味がある人
- ・建築を作る過程(設計・施工・管理)に興味がある人
- ・建築を通して生活環境づくりに貢献したい人

#### 1.3 石川高専に入学するには

石川高専の入学者選抜試験には推薦選抜と学力選抜があります。石川高専に入学するには次のことが必要とされています。

1. 中学校で学んだことを身につけている人
2. 特に、数学・理科の基礎学力がある人
3. いろいろな問題に出会ったとき、自分で答えを探そうとする人

(出典：石川高専ウェブサイト)

資料 4-1-①-10：学生募集要項への記載によるアドミッション・ポリシーの周知

## 平成20年度 専攻科学生募集要項

### I 専攻科のアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

1. 高等専門学校の卒業学科において工学の基礎を修得した人
2. 幅広い分野の工学知識について学習する意欲のある人
3. 国際的に通用する技術者として、社会貢献する意欲のある人

(出典：専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

本校のアドミッション・ポリシーは、準学士課程入学、4年次編入学、専攻科課程入学のそれぞれについて、明確に定められている。アドミッション・ポリシーは、本校教職員に対しては教員会議での伝達や教育理念・目標カードの配布によって周知を図り、周知状況は教員アンケートによって把握に努めている。また、本校ウェブページに記載して社会への周知を図るとともに、特に将来の学生に対しては、中学校訪問の際の学校紹介リーフレットに記載するほか、それぞれの入学試験に対応した学生募集要項に明記し、各方面に配布している。

以上のことから、本校は、アドミッション・ポリシーが明確に定められており、学校の教職員に周知され、また将来の学生を含め社会に公表されている。

**観点 4-2-①： 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。**

(観点到に係る状況)

## 1) アドミッション・ポリシーに沿った準学士課程入学者選抜

本校の準学士課程入学者選抜に関するアドミッション・ポリシーのうち、「石川高専に適する人は」に記載された事項である

1. ものづくりに興味があり、与えられた課題などに取り組める人
2. 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を過ごす人
3. 将来、技術者として社会の発展に貢献したいと考えている人

については、入学志望者本人による志望学科選択、および中学校の学校長による推薦所見で確認している。

準学士課程入学者選抜試験に関するアドミッション・ポリシーは、「石川高専に入学するには」に明記されている。その内容と入学者選抜の評価方法は次のように対応しており、受け入れ方法がアドミッション・ポリシーに沿った適切なものであるということが出来る（資料 4-2-①-1～3）。



| 評価方法                        | アドミッション・ポリシー                    |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 推薦選抜（内申書）<br>学力選抜（内申書・学力試験） | 中学校で学んだことを身につけている               |
| 推薦選抜（面接試験）                  | 特に、数学・理科の基礎学力がある                |
| 推薦選抜（面接試験）                  | いろいろな問題にであったとき、自分で考えて答を探すことができる |

推薦選抜（各学科15名程度）の面接試験には口頭試問が含まれ、所定の分野に関する知識力やそれを論理的に説明する表現力を重視している。またその選考においては、内申書評価以外に、課外活動の状況や日常生活態度などに留意した面接を行い、志望学科に対する適性や興味関心、向上心、協調性、表現力を重視している。

入学者選抜試験の合格内定者については、入学意志の確認をするとともに、公立学校の入学試験日に当校の入学説明会を実施しその出席を義務づけることによって、公立高校との併願を実質不可能にしている。これによって公立学校不合格者が本校を選択することはできなくなっており、本校への入学を強く希望する学生を選抜している。

入学者の決定は入学試験委員会が、その規定に応じて適切に行っている（資料 4-2-①-4）。

- 資料 4-2-①-1：準学士課程面接試験要領
- 資料 4-2-①-2：準学士課程面接試験試験問題
- 資料 4-2-①-3：準学士課程学力試験要領
- 資料 4-2-①-4：準学士課程入試の適切な実施

## 資料 4-2-①-1：準学士課程面接試験要領

## Ⅲ. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、推薦によるものと、学力検査によるものの二つの方法で行います。

ただし、推薦によるものは、平成 19 年 3 月中学校を卒業見込みの者または、中等教育学校の前期課程を修了見込みの者に限ります。

## Ⅳ. 推薦による入学者の選抜

## 1. 推薦要件

平成 19 年 3 月中学校卒業見込みの者または、中等教育学校の前期課程を修了見込みの者で、下記要件をすべて満たし、出身学校長の推薦を得た者とします。

- (1) 本校への入学意志が強固なこと
- (2) 志望学科に対して、適性、興味および関心を有すること
- (3) 人物が優れていること
- (4) 中学校または、中等教育学校の前期課程第 3 学年において学業成績が全体の上位 20%内にあること

(中略)

## 5. 選抜の実施方法および期日

推薦書、調査書および面接試験の結果を総合して判定します。

面接試験では、志望の動機や目的意識の確認を行うとともに、数学および理科の一般的知識を問う口頭試問も行います。

(出典：平成19年度準学士課程学生募集要項)

## 資料 4-2-①-2：準学士課程面接試験試験問題

(訪問調査時に提示)

(出典：入学試験委員会資料)

## 資料 4-2-①-3：準学士課程学力試験要領

## Ⅲ. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、推薦によるものと、学力検査によるものの二つの方法で行います。

## Ⅴ. 学力検査による入学者の選抜

## 4. 選抜方法

学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。学力検査は、理科、英語、数学、国語の 4 教科です。

(出典：平成19年度準学士課程学生募集要項)

## 資料 4-2-①-4：準学士課程入試の適切な実施

(訪問調査時に提示)

(出典：入学試験委員会議事録)

## 2) 編入学試験による受け入れ方法とその実施

編入学試験は学力試験と面接試験によって行われている（資料 4-2-①-5）。学力試験は英語、数学、および基礎的な専門科目の試験を行い、「高等学校において学んだ工学の基礎を身につけている」かどうかを評価している。また、面接試験では選択した学科の志望動機や高専での学習への意欲の確認を通して「向上心・自主性・協調性など」を評価している。編入学試験はその実施要領にしたがい適切に実施している。

## □ 資料 4-2-①-5：編入学試験実施要領

## 資料 4-2-①-5：編入学試験実施要領

## 5. 選抜方法

学力検査、作文及び面接の試験結果及び調査書の内容を総合判定して行います。

## (1) 学力検査科目

数学、英語及び専門の3科目です。

## (2) 作文

題目等は当日指示します。

## (3) 面接

個人面接です。

(出典：平成19年度4年次編入学生募集要項料)

## 3) 専攻科課程入学者選抜による受け入れ方法とその実施

専攻科課程推薦選抜試験に関しては、出身学校校長・学長の推薦を受けた者を対象とし、口頭試問を含む面接試験や調査書、推薦書、およびTOEICのスコアを勘案して選抜している（資料 4-2-①-6, 8, 9）。面接における志望動機についての質問などを通して入学後の「学習と社会貢献に対する意欲」を評価し、工学の基礎的な事項に関する口頭試問によって「幅広い工学の知識」を把握・評価している。

学力入試に関しては、英語についてはTOEIC試験結果を判定材料とし、数学および専門分野科目の試験を課して、「高等専門学校の卒業学科において工学の基礎を習得」しているかどうかを評価している（資料 4-2-①-7, 8）。また面接によって志望動機や学習意欲を確認して入学者の選抜にあたっている。

入学者の決定は入学試験委員会が、その規定に応じて適切に行っている（資料 4-2-①-10）。

- 資料 4-2-①-6：専攻科入学者推薦選抜要領
- 資料 4-2-①-7：専攻科入学者学力選抜要領
- 資料 4-2-①-8：専攻科入学者社会人特別選抜要領
- 資料 4-2-①-9：専攻科面接試験問題
- 資料 4-2-①-10：専攻科課程入試の適切な実施

## 資料 4-2-①-6：専攻科入学者推薦選抜要領

## II 選抜方法

入学者の選抜は、高等専門学校長の推薦による選抜・学力検査による選抜及び社会人特別選抜とし（以下略）  
（中略）

## III 高等専門学校長の推薦による選抜

## 1. 出願資格

次の各号のいずれにも該当し、高等専門学校長の推薦を得た者

- (1) 平成 19 年 3 月に高等専門学校卒業見込みの者
- (2) 学業成績及び人物が優れていると認められる者
- (3) 本校に合格した場合、確実に入学する意志がある者

（中略）

## 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）、学校長から提出された推薦書、調査書及び TOEIC のスコア等を総合判定して行います。

（中略）

## 8. 「高等専門学校長の推薦による選抜」に合格しなかった者の取り扱い

「高等専門学校長の推薦による選抜」の結果、合格とならなかった者で「学力検査による選抜」の受検を希望する者は、「学力検査による選抜」に定めるところにより、再度出願の手続きを行ってください。

（出典：平成19年度専攻科学生募集要項）

## 資料 4-2-①-7：専攻科入学者学力選抜要領

## II 選抜方法

入学者の選抜は、高等専門学校長の推薦による選抜・学力検査による選抜及び社会人特別選抜とし（以下略）  
（中略）

## IV 学力検査による選抜

## 1. 出願資格

次の各号いずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者又は平成 19 年 3 月に卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成 19 年 3 月に卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成 19 年 3 月修了見込みの者のうち、学校教育法第 82 条の 10 の規定により、大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者、又は平成 19 年 3 月に修了見込みの者

（中略）

## 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査、学校長から提出された調査書、面接及び TOEIC のスコア等を総合判定して行います。

（出典：平成19年度専攻科学生募集要項）

## 資料 4-2-①-8：専攻科入学者社会人特別選抜要領

## V 社会人特別選抜

## 1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ出願時において企業等の在職期間が1年以上ある者

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

(中略)

## 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）、学校長から提出された調査書及び TOEIC のスコア等を総合判定して行います。

(出典：平成19年度専攻科学生募集要項)

## 資料 4-2-①-9：専攻科面接試験問題

(訪問調査時に提示)

(出典：専攻科委員会資料)

## 資料 4-2-①-10：専攻科課程入試の適切な実施

(訪問調査時に提示)

(出典：入学試験委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程、編入学、専攻科の入学者選抜は、面接および学力試験などによって、目的意識や志望動機、勉学意欲などを見極め、アドミッション・ポリシーを満たす入学候補者の選抜を行っている。

以上のことから、本校では、アドミッション・ポリシーに沿って適切な受け入れ方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

**観点 4-2-②： 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。**

(観点到に係る状況)

1) 入学生がアドミッション・ポリシーに沿った学生であるかを検証するためのシステム

本校では、入学試験委員会が入学者選抜に関して企画立案をしている（資料 4-2-②-1）。その入学試験委員会の指示のもとに、下部組織である入学試験実施委員会が、入学者選抜に関してさまざまな調査・分析を行っている（資料 4-2-②-2）。その分析結果を検討材料として、入学試験委員会が入

学者選抜方法の検証と改善を遂行している。

- 資料 4-2-②-1：入学試験委員会規則
- 資料 4-2-②-2：入学試験実施委員会規則

資料 4-2-②-1：入学試験委員会規則

○石川工業高等専門学校入学試験委員会規則

(設置)

第1条 石川工業高等専門学校の入学者選抜に関する事項を審議するため、石川工業高等専門学校入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 研究主事
- (6) 図書情報主事
- (7) 一般教育科及び各専門学科主任
- (8) 事務部長

(委員長等)

第3条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、前条第1号の委員をもってこれに充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。
- 5 学生課長は、委員会に出席する。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 学生募集に関する事。
- (2) 入学者選抜の実施計画に関する事。
- (3) 入学試験の合否判定に関する事。
- (4) その他入学者の選抜に関する事。

(入学試験実施委員会)

第5条 委員会に、入学試験に関する調査等を実施するため、入学試験実施委員会を置く。

- 2 入学試験実施委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

## 資料 4-2-②-2 : 入学試験実施委員会規則

## ○石川工業高等専門学校入学試験実施委員会規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校入学試験委員会(以下「入試委員会」という。)規則第5条第2項の規定に基づき、石川工業高等専門学校入学試験実施委員会(以下「実施委員会」という。)の組織及び運営について必要な事項を定める。

## (組織)

第2条 実施委員会は、次の教員を委員として組織する。

- (1) 入試委員会の委員の中から校長が指名する者
- (2) 一般教育科及び各専門学科において選出した教員 各1人

2 前項第2号の委員は、入試委員会委員と兼任することはできない。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任を妨げない。

## (委員長等)

第3条 実施委員会に委員長を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。

3 委員長は、実施委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長は、必要に応じて委員以外の教職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

5 委員長は、実施委員会で審議した結果を、校長に報告するものとする。

## (任務)

第4条 実施委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 入学試験に関する情報の収集及び調査に関すること。
- (2) その他、入学試験に関すること。

## (事務)

第5条 実施委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

## 2) 石川高専に適する学生の入学

アドミッション・ポリシーのうち、石川高専に適する学生が入学しているかどうかの資料として、学生の進級率(資料 4-2-②-3)、および学科ごとの学生の就職企業先(資料 4-2-②-4~8)を示す。学生の進級率はどの学年学科ともほぼ90%程度を保っていて良好といえる。また学生の就職企業先は多くが製造業であり、学生の就職進路先は石川高専の学科にふさわしい企業が主体となっているといえる。以上の点から、石川高専に適する学生が入学していると捉えることができる。

- 資料 4-2-②-3 : 学生の進級率
- 資料 4-2-②-4 : 学生の就職企業先 (機械工学科)
- 資料 4-2-②-5 : 学生の就職企業先 (電気工学科)
- 資料 4-2-②-6 : 学生の就職企業先 (電子情報工学科)
- 資料 4-2-②-7 : 学生の就職企業先 (環境都市工学科)
- 資料 4-2-②-8 : 学生の就職企業先 (建築学科)

資料 4-2-②-3 : 学生の進級率 (H18年度)

| 1年   | 学科 | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|----|-----|-----|-----|----|----|--------|
|      | 機械 | 41  |     |     |    |    | 41     |
| 電気   | 42 |     |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 42 |     |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 環境都市 | 43 |     |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 建築   | 40 |     |     |     |    | 40 | 100.0% |
| 2年   | 学科 | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|      | 機械 | 43  | 1   |     |    | 42 | 97.7%  |
| 電気   | 42 |     |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 43 |     |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 環境都市 | 41 |     |     |     | 5  | 36 | 87.8%  |
| 建築   | 42 |     |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 3年   | 学科 | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|      | 機械 | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 電気   | 44 |     |     |     | 3  | 41 | 93.2%  |
| 電子情報 | 41 |     |     |     | 2  | 39 | 95.1%  |
| 環境都市 | 46 |     |     |     | 3  | 43 | 93.5%  |
| 建築   | 43 |     |     |     | 1  | 42 | 97.7%  |
| 4年   | 学科 | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|      | 機械 | 41  |     |     |    | 41 | 100.0% |
| 電気   | 44 |     |     |     | 3  | 41 | 93.2%  |
| 電子情報 | 37 |     |     | 1   | 2  | 34 | 91.9%  |
| 環境都市 | 39 |     |     | 1   | 1  | 37 | 94.9%  |
| 建築   | 44 |     | 1   |     | 2  | 41 | 93.2%  |
| 5年   | 学科 | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|      | 機械 | 40  |     |     |    | 40 | 100.0% |
| 電気   | 36 |     |     | 1   |    | 35 | 97.2%  |
| 電子情報 | 37 |     |     |     |    | 37 | 100.0% |
| 環境都市 | 29 |     |     | 1   | 1  | 27 | 93.1%  |
| 建築   | 43 |     |     |     | 1  | 42 | 97.7%  |

(出典：学生課保管資料)



資料 4-2-②-4：学生の就職企業先（機械工学科）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 1      | 0      | 2      | 1      |
| 食品       | 0      | 1      | 2      | 1      |
| 金属工業     | 1      | 3      | 0      | 1      |
| 非鉄金属     | 0      | 1      | 1      | 2      |
| 鉄鋼業      | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 一般機械     | 12     | 2      | 8      | 5      |
| 電気機器     | 2      | 2      | 3      | 3      |
| 輸送機器     | 0      | 1      | 3      | 4      |
| 精密機器     | 1      | 2      | 1      | 1      |
| 卸売・小売業   | 1      | 0      | 0      | 0      |
| 運輸通信     | 1      | 0      | 0      | 0      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 0      | 0      |
| サービス業    | 0      | 1      | 4      | 1      |
| その他      | 2      | 2      | 5      | 5      |
| 合計       | 21     | 15     | 29     | 25     |

(出典：学生課保管資料)

資料 4-2-②-5：学生の就職企業先（電気工学科）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 5      | 2      | 1      | 1      |
| 一般機械     | 5      | 2      | 3      | 2      |
| 電気機器     | 6      | 4      | 0      | 3      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 2      | 1      |
| 運輸通信     | 1      | 3      | 2      | 1      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 3      | 4      | 3      |
| サービス業    | 0      | 3      | 1      | 0      |
| その他      | 4      | 2      | 6      | 7      |
| 合計       | 21     | 19     | 19     | 18     |

(出典：学生課保管資料)

資料 4-2-②-6 : 学生の就職企業先 (電子情報工学科)

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 印刷       | 2      | 0      | 0      | 0      |
| 一般機械     | 2      | 1      | 2      | 0      |
| 電気機器     | 5      | 9      | 5      | 3      |
| 輸送機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 運輸通信     | 3      | 2      | 4      | 9      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 0      | 1      |
| サービス業    | 1      | 6      | 0      | 1      |
| 公務員      | 0      | 0      | 0      | 1      |
| その他      | 3      | 2      | 6      | 4      |
| 合計       | 16     | 20     | 17     | 19     |

(出典：学生課保管資料)

資料 4-2-②-7 : 学生の就職企業先 (環境都市工学科)

| 業種区分           | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業 (専門工事業)    | 11     | 7      | 13     | 13     |
| 建設業 (コンサルタント業) | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 鉄鋼業            | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 運輸・通信          | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 電気・ガス・水道       | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 官公庁・公団         | 0      | 0      | 2      | 3      |
| その他            | 9      | 8      | 8      | 1      |
| 合計             | 20     | 18     | 23     | 17     |

(出典：学生課保管資料)

資料 4-2-②-8：学生の就職企業先（建築学科）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 15     | 13     | 13     | 17     |
| 食品       | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 金属工業     | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 非鉄金属     | 1      | 2      | 0      | 0      |
| 鉄鋼業      | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 一般機械     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 電気機器     | 0      | 1      | 1      | 0      |
| 輸送機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 卸売・小売業   | 0      | 0      | 2      | 0      |
| 運輸通信     | 0      | 0      | 2      | 1      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 1      | 0      |
| サービス業    | 0      | 2      | 0      |        |
| その他      | 11     | 4      | 4      | 1      |
| 合計       | 27     | 23     | 23     | 21     |

(出典：学生課保管資料)

## 3) 入学試験実施委員会の検証結果を受けての入学者選抜の改善状況

平成18年度に設けられた入学試験実施委員会は、以下のように入学者選抜方法および判定方法を調査・検討し、改善策を入学試験委員会に提案した（資料 4-2-②-9）。

入学試験実施委員会は、準学士課程の入学者選抜方法を改善するため、推薦選抜入学者と学力選抜入学者に関して、入学後の学業成績の追跡調査を実施した（資料 4-2-②-10）。その提言を受けて、入学試験委員会では調査書の内容を重視する推薦選抜の募集人数を12名程度から15名程度に増やすことを決定した（資料 4-2-②-11, 12）。

また入学試験実施委員会において学力選抜に関して、調査書と学力試験の比率の見直し、第2志望の学生の取り扱いについて議論し提言を行った（資料 4-2-②-13）。

入学試験委員会では、入学試験実施委員会の提言を受けて、学力選抜に関しては調査書と学力検査の配点比率を変更し、従前より学力検査得点を重視する選抜にした。

さらに第2志望者の取り扱いに関しては、入学試験実施委員会においてさまざまなシミュレーションによるその調査結果を受けて、第2志望の学生の総合点から一定の点数を引き下げることにした。これにより、第1志望者の学生を優先し、当該学科の入学意志を重視することとした（資料 4-2-②-14）。

平成19年度は、入学試験実施委員会は入試広報・分析委員会と名称変更を行い、入学者選抜方法に関する調査・検討の他、広報活動についても担当することになった。今年度の活動予定は、入試の分析・追跡調査、入試情報の公開（入試情報の開示基準）に向けた調査、および入試の広報実施である。

- 資料 4-2-②-9 : 入学試験実施委員会の基本的な役割
- 資料 4-2-②-10 : 入学後の成績に関する検討
- 資料 4-2-②-11 : 実施委員会の検討を受けての推薦入試募集定員枠の拡大
- 資料 4-2-②-12 : 推薦入試募集定員枠拡大決定の報告
- 資料 4-2-②-13 : 調査書と学力試験, 第2志望の取り扱いに関する提言
- 資料 4-2-②-14 : 調査書と学力試験, 第2志望の取り扱いに関する改善

## 資料 4-2-②-9 : 入学試験実施委員会の基本的な役割

平成18年 5月 8日

入試実施委員会委員 各位

入試実施委員会委員長

## 第1回入試実施委員会の議事要録について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

1. 日 時 平成18年4月19日(水) 17時～18時30分
2. 場 所 大会議室
3. 出席者 石渡, 旭吉, 山田(悟), 長岡, 富田, 森原, 澤田, 金岡(オブザーバー), (室屋, 津島, 太田)
4. 欠席者 なし
5. 議 題
  - (1) 平成18年度入学試験実施委員会実施計画について  
委員長から, 配布資料に基づき, 委員会設置の目的, 審議事項, 所掌範囲等の説明があった。  
選抜方法及び判定方法について, 合格者の入学志願時の調査書, 学力検査成績, 入学後の成績をもとにその  
相関等を精査し, 改善が必要であれば新たな方法を提案する。なお, 本委員会の検討結果は, 平成19年度  
の入学者選抜に反映させる予定である旨の説明があった。
  - (2) 入学試験成績と入学後の学業成績の追跡調査について  
委員長より, 募集要項作成に係る検討事項として, 推薦と学力検査入学者の調査について提案があり, 以下  
のとおり検討することとなった。
    - ① 推薦による学生と学力検査による学生の間に, 入学後の成績に有意な相関があるか否か。
    - ② 調査の内容(全学生, 学年) 学科, 一般科目, 専門科目, 専門分野など) 状況により学科の意向  
・希望を確認することとなった。
 また, 調査書については, 技術や美術等も重視すべきでないか, 絶対評価と相対評価では, 基準が違うので  
考慮する必要がある旨の意見があった。  
今後の作業については, 委員長, 富田, 澤田, 森原の各委員により, 入試データの整理等を行うプログラム  
内容を検討し5月17日を目途に各委員へ通知し, 次回委員会までに調査することとなった。  
また, 次回委員会開催までに, 委員長から校長に進捗状況等を報告することになった。

(出典:平成18年度第1回入学試験実施委員会議事録)

## 資料 4-2-②-10：入学後の成績に関する検討

平成18年 6月29日

入学試験実施委員会委員 各位

入学試験実施委員会委員長

## 第3回入学試験実施委員会の議事要録について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

1. 日 時 平成18年6月9日（金）15時～17時
2. 場 所 第2小会議室
3. 出席者 石渡, 旭吉, 山田（悟）, 長岡, 富田, 森原, 澤田, （室屋, 津島, 太田）
4. 欠席者 なし
5. 議 題

## (1) 入学試験成績と入学後の学業成績の追跡調査について

委員長から、前回委員会までの検討状況について校長に報告し、学力試験結果と入学後の学業成績の相関について追加調査依頼があった旨の報告があった。

引き続き、配布資料に基づき説明があり、協議の結果、推薦選抜と学力選抜入学者の入学試験成績と入学後の学業成績には、明確な相関は見られないが、各学科とも推薦入学者の方が、若干入学後の学業成績が優位だと思われるという結論になった。

この分析結果を、6月14日開催の入学試験委員会へ調査書と学業成績及び学力検査と学業成績の相関図を基に報告することとした。

なお、平成17年度学力検査結果が全学科とも他の年度に比べて低いことについて意見交換があり、数学平均点が全国的に低かったこと、中学校の新学習指導要領の完全実施、調査書の相対評価から絶対評価への移行等が起因しているのではないかと意見があった。

## (2) その他

## ・今後の検討方針について

委員長から今後の検討方針について提議があり、意見交換の結果、今回の入試委員会の検討結果を踏まえ、次回の委員会で審議することになった。

主な意見は次のとおり。

- ① 学校や学科が求める学生像に沿った選考方法の検討
- ② 調査書、面接、学力及び各学科の配点の検証
- ③ 専門科目成績と入学試験成績の相関
- ④ 第2志望のあり方、第2志望合格者の入学後の状況

また、今回調査の電子データを各委員に配布し、分析を行うとともに、各学科の意見を聞くことになった。

（出典：平成18年度第3回入学試験実施委員会議事録）

## 資料 4-2-②-11：実施委員会の検討を受けての推薦入試募集定員枠の拡大

平成18年 6月23日

入学試験委員会委員 各位

入学試験委員長

平成18年度第5回入学試験委員会の議事要録について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

1. 日 時 平成18年6月19日（月）15時00分～15時40分
2. 場 所 校長室
3. 出席者 金岡，前田，櫻野，松田，西澤，高島，鈴木（康），鶴崎，深見，  
白山，竹本，石渡，原田，（室屋，津島，太田）
4. 欠席者 なし
5. 議 題

## (1) 平成19年度専攻科学力選抜検査合否判定について

櫻野委員（専攻科長）より配布資料に基づき学力検査結果及び専攻科委員会での予備審査の状況について説明があり、協議の結果、以下のとおり合格者として判定した。

- ・ 電子機械工学専攻 整理番号1～16の16名
- ・ 環境建設工学専攻 整理番号1～7の7名 計23名

また、来年度に向け、TOEIC 換算方法の見直しについて、専攻科委員会に検討を付託することとなった。

## (2) 平成19年度入学者選抜方法について

石渡委員（入学試験実施委員会委員長）より配布資料に基づき説明があり、来年度の推薦入試の募集定員を15名程度とすることとした。また、学生募集要項にも、推薦の定員を15名程度と記載することが了承された。

(出典：平成18年度第5回入学試験委員会議事録)

## 資料 4-2-②-12：推薦入試募集定員枠拡大決定の報告

平成18年9月13日

入学試験実施委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第4回入学試験実施委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

日 時 平成18年8月30日（水） 13時00分から15時30分

場 所 第1小会議室

出席者 石渡、旭吉、長岡、富田、森原、澤田（室屋、津島）

欠席者 山田悟

## 報告事項

## ○入学試験成績と入学後の学業成績の追跡調査について

委員長から、前回委員会まで協議した入学試験成績と入学後の学業成績の追跡調査結果について、第5回入学試験委員会（平成18年6月19日開催）に報告し、協議の結果、平成19年度入学者選抜から推薦選抜募集人員を各学科15名程度とすることとなった旨報告があった。

また、入学試験委員会資料として附議した推薦選抜募集人員を15名程度とした場合の過去4年間の状況についても併せて説明があった。

## 審議事項

## 1. 入学者選抜方法の検討について

委員長から、今後の検討事項等について説明、及びスケジュールについて提起があった。引き続き、各委員から現状の選抜方法に対する意見や、調査書と専門科目の相関を調査した結果等の報告があり、協議の結果、11月末までに本委員会としての意見をまとめ校長に報告し、12月開催入学試験委員会で平成19年度選抜方法決定を目途に以下のとおり検討することとなった。

- ・推薦選抜方法等について

(中略)

- ・学力選抜方法等について

(中略)

(出典：平成18年度第4回入学試験実施委員会議事録)



資料 4-2-②-13：調査書と学力試験，第2志望の取り扱いに関する提言

平成18年10月11日

入学試験実施委員会委員 各位

入学試験実施委員会委員長

第5回入学試験実施委員会の議事要録について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

1. 日 時 平成18年9月28日（木）17時～19時
2. 場 所 第1小会議室
3. 出席者 石渡，旭吉，山田（悟），長岡，富田，森原，澤田，（津島，太田）
4. 欠席者 なし
5. 議 題

（1）入学者選抜方法の検討について

委員長より，11月末までに意見をまとめる等，今後の方針について説明があり，各学科の意見の報告があった。主なものは次のとおり。

（中略）

この議論を元に，次の結論に至った。

- ① 各学科の調査書は良かったが，1年の成績が良くなかった学生を数名ピックアップして，大規模校，小規模校により調査書の格差があると思われるかを検証して，次回委員会で検討することになった。
- ② 平成19年度入試から，調査書重視の推薦入試の募集枠を拡大することとなり，学力選抜においては，調査書のウエイトを下げ，学力試験を重視した選抜にする。

（出典：平成18年度第5回入学試験実施委員会議事録）

## 資料 4-2-②-14：調査書と学力試験，第2志望の取り扱いに関する改善

平成19年1月4日

入学試験委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第11回入学試験委員会の記録について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

日 時 平成18年12月18日（月） 15時00分から15時30分

場 所 校長室

出席者 校長，前田，西澤，櫻野，高島，山岸，鶴崎，深見，白山，竹本，石渡，原田  
(室屋，津島，小森)

欠席者 松田

## 審議事項

1. 平成19年度専攻科社会人特別選抜の合否判定について

(中略)

2. 入学者選抜に伴う配点及び採点方法等について

(中略)

(出典：平成18年度第11回入学試験実施委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

入学試験委員会および入学試験実施委員会によって、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際におこなわれているかどうかの分析と検証を行い、その結果を入学者選抜の改善に役立つよう組織的・継続的に議論がなされている。また、その結果を取り入れた改善がなされている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

1) 入学定員と入学者数

準学士課程入試の実入学者数は、205名程度で、本校一学年定員200名を若干上回っている程度であることから妥当な数字であると判断できる(資料 4-3-①-1)。

編入学入試の入学者数は、全学科で数名であり、適正であると判断できる(資料 4-3-①-2)。

専攻科入試の実入学者数は30名以下であり、入学者定員20名の1.5倍程度と入学定員を超えているものの、施設設備の面から見ても適正化の措置が必要ではないと判断している(資料 4-3-①-3)。資料として専攻科特別研究の割り振り状況を示す(資料 4-3-①-4)。

- 資料 4-3-①-1：準学士課程入学者数一覧
- 資料 4-3-①-2：編入学者数一覧
- 資料 4-3-①-3：専攻科入学者数一覧
- 資料 4-3-①-4：専攻科特別研究割り振り状況

資料 4-3-①-1 : 準学士課程入学者数一覧

(人)

| 学 科              | 年 度    | 定 員 | 志 願 者       | 倍 率 | 合 格 者      | 入学者 | 在 学 者  |
|------------------|--------|-----|-------------|-----|------------|-----|--------|
| 機 械 工 学 科        | 平成16年度 | 40  | 86 ( 36 )   | 2.2 | 42 ( 13 )  | 42  | 200    |
|                  | 平成17年度 | 40  | 62 ( 30 )   | 1.6 | 42 ( 13 )  | 42  | 210    |
|                  | 平成18年度 | 40  | 71 ( 29 )   | 1.8 | 41 ( 12 )  | 41  | 204    |
| 電 気 工 学 科        | 平成16年度 | 40  | 71 ( 38 )   | 1.8 | 42 ( 14 )  | 42  | 202    |
|                  | 平成17年度 | 40  | 61 ( 34 )   | 1.5 | 42 ( 12 )  | 42  | 205    |
|                  | 平成18年度 | 40  | 63 ( 23 )   | 1.6 | 42 ( 13 )  | 42  | 208    |
| 電 子 情 報<br>工 学 科 | 平成16年度 | 40  | 80 ( 53 )   | 2.0 | 42 ( 13 )  | 42  | 206    |
|                  | 平成17年度 | 40  | 72 ( 52 )   | 1.8 | 41 ( 13 )  | 41  | 201    |
|                  | 平成18年度 | 40  | 71 ( 42 )   | 1.8 | 42 ( 13 )  | 42  | 200    |
| 環 境 都 市<br>工 学 科 | 平成16年度 | 40  | 59 ( 19 )   | 1.5 | 42 ( 12 )  | 42  | 207    |
|                  | 平成17年度 | 40  | 61 ( 19 )   | 1.5 | 42 ( 13 )  | 42  | 203    |
|                  | 平成18年度 | 40  | 70 ( 31 )   | 1.8 | 42 ( 13 )  | 42  | 198    |
| 建 築 学 科          | 平成16年度 | 40  | 79 ( 48 )   | 2.0 | 43 ( 13 )  | 43  | 214    |
|                  | 平成17年度 | 40  | 64 ( 45 )   | 1.6 | 42 ( 13 )  | 42  | 209    |
|                  | 平成18年度 | 40  | 73 ( 37 )   | 1.8 | 40 ( 12 )  | 40  | 212    |
| 合 計              | 平成16年度 | 200 | 375 ( 194 ) | 1.9 | 211 ( 65 ) | 211 | 1, 029 |
|                  | 平成17年度 | 200 | 320 ( 180 ) | 1.6 | 209 ( 64 ) | 209 | 1, 028 |
|                  | 平成18年度 | 200 | 348 ( 162 ) | 1.7 | 207 ( 63 ) | 207 | 1, 022 |

注：在学者数は、当該年度5月1日現在である。( )は推薦による者で内数

(出典：学生課保管資料)

資料 4-3-①-2 : 編入学者数一覧

(人)

| 学 科           | 平成16年度     |            |            | 平成17年度     |            |            | 平成18年度     |            |            |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|               | 受 験<br>者 数 | 合 格<br>者 数 | 入 学<br>者 数 | 受 験<br>者 数 | 合 格<br>者 数 | 入 学<br>者 数 | 受 験<br>者 数 | 合 格<br>者 数 | 入 学<br>者 数 |
| 機 械 工 学 科     | 1          | 1          | 1          | 2          | 2          | 2          | 0          | 0          | 0          |
| 電 気 工 学 科     | 2          | 1          | 1          | 1          | 0          | 0          | 1          | 1          | 1          |
| 電 子 情 報 工 学 科 | 2          | 1          | 1          | 0          | 0          | 0          | 1          | 1          | 1          |
| 環 境 都 市 工 学 科 | —          | —          | —          | 1          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 建 築 学 科       | 7(1)       | 2(1)       | 1(1)       | 5(1)       | 3          | 3          | 11(3)      | 3(1)       | 3(1)       |
| 計             | 12(1)      | 5(1)       | 4(1)       | 9(1)       | 5          | 5          | 13(3)      | 5(1)       | 5(1)       |

注：—は編入学試験を実施しなかった学科( )は女子内数

(出典：入学試験委員会議事録)

資料 4-3-①-3 : 専攻科入学者数一覧

(人)

| 専攻       | 年度     | 定員 | 志願者       | 倍率  | 合格者       | 入学者 | 在学者 |
|----------|--------|----|-----------|-----|-----------|-----|-----|
| 電子機械工学専攻 | 平成16年度 | 12 | 31 ( 13 ) | 2.6 | 25 ( 13 ) | 18  | 39  |
|          | 平成17年度 | 12 | 36 ( 10 ) | 3.0 | 30 ( 10 ) | 18  | 35  |
|          | 平成18年度 | 12 | 27 ( 10 ) | 2.3 | 22 ( 10 ) | 13  | 31  |
| 環境建設工学専攻 | 平成16年度 | 8  | 20 ( 10 ) | 2.5 | 18 ( 10 ) | 12  | 22  |
|          | 平成17年度 | 8  | 21 ( 10 ) | 2.6 | 18 ( 10 ) | 13  | 25  |
|          | 平成18年度 | 8  | 18 ( 10 ) | 2.3 | 14 ( 10 ) | 12  | 24  |
| 合計       | 平成16年度 | 20 | 51 ( 23 ) | 2.6 | 43 ( 23 ) | 30  | 61  |
|          | 平成17年度 | 20 | 57 ( 20 ) | 2.9 | 48 ( 20 ) | 31  | 60  |
|          | 平成18年度 | 20 | 45 ( 20 ) | 2.3 | 36 ( 20 ) | 25  | 55  |

注：在学者数は、当該年度 5 月 1 日現在である。( )は推薦による者で内数

(出典：専攻科委員会議事録)

## 資料 4-3-①-4：専攻科特別研究割り振り状況

## 電子機械工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                                  | 指導教員   |       |
|------|------------------------------------------|--------|-------|
|      | 小型モータ用性能試験器の開発                           | 石田 博明  | 堀 純也  |
|      | リモートセンシングによる森林モニタリング                     | 小村 良太郎 | 堀田 素志 |
|      | メタヒューリスティクスによる最適化に関する研究                  | 越野 亮   | 金寺 登  |
|      | パラメトリックサーチを用いた最小包含円問題の解法                 | 河村 泰之  | 竹下 哲義 |
|      | 小型風力発電の研究                                | 割澤 泰   | 八田 潔  |
|      | 感性工学に関する研究                               | 竹下 哲義  | 長岡 健一 |
|      | 磁気浮上モータの基礎研究                             | 石田 博明  | 堀 純也  |
|      | 各種ワンチップマイクロコンピュータの応用比較の研究 (AVR, PIC, H8) | 徳井 直樹  | 森田 義則 |
|      | 冬季雷地域における風力発電の雷害対策に関する研究                 | 櫻野 仁志  | 森田 義則 |
|      | 三角形分割における曲面の近似                           | 河村 泰之  | 竹下 哲義 |
|      | 拘束を考慮したモデル予測制による遠隔操作システムの構築に関する研究        | 河合 康典  | 山田 悟  |
|      | ヘルムホルツコイルの生体磁場応用に関する研究                   | 櫻野 仁志  | 河合 康典 |
|      | 現代的Webアプリケーションの開発と評価                     | 長岡 健一  | 竹下 哲義 |

## 環境建設工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                                 | 指導教員  |       |
|------|-----------------------------------------|-------|-------|
|      | 積雪消長モデルの適用と積雪の消長過程について                  | 畑 時男  | 鈴木 洋之 |
|      | アスファルト舗装におけるわだち掘れ予測法の開発                 | 西澤 辰男 | 小泉 徹  |
|      | 日本国内における建築史料の保管について                     | 内田 伸  | 熊澤 栄二 |
|      | カキ殻消石灰の混入による各種問題土の改良効果                  | 重松 宏明 | 和田 匡司 |
|      | 貝殻の有効利用法について                            | 高野 典礼 | 重松 宏明 |
|      | 金沢市におけるプレハブ集合住宅需要に関する研究                 | 金木 健  | 内田 伸  |
|      | 潜熱蓄熱材を内部充填した構造躯体における構造および熱的挙動に関する研究     | 船戸 慶輔 | 石渡 博  |
|      | ペーパーマイクロファイバー (PMF) を利用した軟弱地盤の安定化に関する研究 | 重松 宏明 | 出村 禧典 |
|      | 接合部の剛性の違いによる耐荷性能の確率論的評価                 | 船戸 慶輔 | 北田 幸彦 |
|      | 建築家・村野藤吾の「記述」に関する研究                     | 河内 浩志 | 熊澤 栄二 |
|      | RBSMによるRC部材の非線形解析                       | 富田 充宏 | 竹本 邦夫 |
|      | 文化と原型からみる日本家屋～建築家ブルーノ・タウトと吉田鉄郎の視点～      | 村田 一也 | 熊澤 栄二 |

(出典：専攻科委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程入試では、実入学者数は定員に比較して若干名の増で、適切である。専攻科課程入試では実入学者数は定員に対して約1.5倍となっているが、教育等に支障が生じることはない。

以上、本校の実入学者数は、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・ 準学士課程の推薦選抜において、課外活動、日常生活態度、専門に関する関心、論理的な表現力に留意した面接・口頭試問を行い、アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。
- ・ 学力試験においては、学力試験を実施することによってアドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。

### (改善を要する点)

- ・ 特になし。

## (3) 基準 4 の自己評価の概要

本校においては、教育目的、教育理念、および具体的な学習目標を定めており、それらに沿って、アドミッション・ポリシーを明確に定めており、また本校ウェブページに入学者の選抜方針を明記し、教職員に周知させるとともに、将来の学生（受験生）および社会にも公表している。

特に将来の学生にそれを周知させるために、中学校訪問のほか、中学校教員との懇談会、体験入学（オープンカレッジ）、学校説明会、中学生向け公開講座をなどでリーフレットを配布して周知を図っている。

準学士課程入学試験、4年次編入学試験、および専攻科入学試験のアドミッション・ポリシーは明示されており、いずれの試験に関しても、選抜方針は募集要項に明確に記載されている。

アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかどうかについて入学試験委員会で検討され、改善が図られている。

またアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際におこなわれているかどうか分析・検証を行い、その結果を入学選抜の改善に役立つよう組織的・継続的に議論がなされるよう十分配慮されている。

さらに実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていない。

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①：教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到に係る状況）

#### 1) 学年ごとの授業科目配置

本校の学習目標に照らして、全体の授業科目数および単位数が適切に配置されていることを示す資料として、平成19年度1～3年生に対して適用している教育課程表－学習目標対応表（資料 5-1-①-1～6）および学習目標別の配当科目数の一覧表（資料 5-1-①-7）を示す。教育課程－学習目標に示されたものでは主目標を◎、副目標を○で示している。学科の特質から学習目標の科目配当にバラツキはあるが、各学科の専門科目の教育課程に加えて一般教育科の教育課程を考慮すれば主目標だけでも学校の目標を達成できている。さらに副目標を加えれば、多くの科目群で学習目標の達成を支えていることが示されている。

次に、各学科における一般科目と専門科目との学年ごとの必修科目と選択科目の単位数の配当についての資料を示す（資料 5-1-①-8）。一般科目と専門科目のバランスの面については、低学年は一般科目が多く、高学年になるにつれて専門科目が多くなる、いわゆるくさび形の配当となっている。また平成17年度以前の入学生に適用される準学士課程のカリキュラムにあっては、選択科目は第4、5学年の専門科目に限られていたが、現カリキュラムでは一般科目でも選択科目の導入が図られて学生の選択の幅を広げるようカリキュラムの改善がなされた。さらにこのカリキュラムを実現していることを示す資料として平成18年度の前後期の授業時間割表を示す（資料 5-1-①-9）。なお、半期1単位の科目は1回100分授業を15週以上確保し、かつ1年間の授業は定期試験等を含めて35週以上にわたって実施している（資料 5-1-①-10）。

- 資料 5-1-①-1：一般教育科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-2：機械工学科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-3：電気工学科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-4：電子情報工学科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-5：環境都市工学科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-6：建築学科の教育課程表－学習目標対応表
- 資料 5-1-①-7：学習目標別配当科目数一覧
- 資料 5-1-①-8：一般・専門別および必修・選択別単位数の配当表
- 資料 5-1-①-9：授業時間割表（平成18年度前期・後期）
- 資料 5-1-①-10：本科（準学士課程）行事予定表



資料 5-1-①-1：一般教育科の教育課程表－学習目標対応表

別表第1 一般科併成19年度の第1～第3学年に適用)

| 授 業 科 目         | 単 位 数        | 学 年 別 配 当 |    |    |    |    | 学 習 目 標 ( 準 ) |   |   |   | 授 業 形 態 |     |     |       |
|-----------------|--------------|-----------|----|----|----|----|---------------|---|---|---|---------|-----|-----|-------|
|                 |              | 1         | 2  | 3  | 4  | 5  | 1             | 2 | 3 | 4 | 講 義     | 演 習 | 実 験 | そ の 他 |
| 国 語             | 国 語 I        | 4         | 4  |    |    |    | ◎             |   |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 国 語 II       | 2         |    | 2  |    |    | ◎             |   |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 国 語 III      | 2         |    |    | 2  |    | ◎             |   |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 日 本 文 学      | 1         |    |    |    | 1  | ◎             |   |   | ○ | 90      | 10  | 0   | 0     |
| 社 会             | 歴 史 I        | 2         | 2  |    |    |    | ◎             |   |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 歴 史 II       | 1         |    | 1  |    |    |               |   | ◎ | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 倫 理          | 2         |    | 2  |    |    | ◎             |   |   | ○ | 90      | 10  | 0   | 0     |
| 会 社             | 地 理          | 1         |    |    | 1  |    | ◎             |   | ○ |   | 90      | 10  | 0   | 0     |
|                 | 政 治 ・ 経 済    | 1         |    |    | 1  |    | ◎             |   | ○ |   | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 哲 学 と 科 学    | 1         |    |    |    | 1  |               |   | ◎ | ○ | 未       |     |     |       |
| 数 学             | 基 礎 数 学 A    | 4         | 4  |    |    |    | ◎             | ○ |   | ○ | 70      | 30  | 0   | 0     |
|                 | 基 礎 数 学 B    | 3         | 3  |    |    |    | ◎             | ○ |   | ○ | 70      | 30  | 0   | 0     |
|                 | 解 析 学 I      | 4         |    | 4  |    |    | ◎             | ○ |   | ○ | 70      | 30  | 0   | 0     |
|                 | 解 析 学 II     | 4         |    |    | 4  |    | ○             | ◎ |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 代 数 ・ 幾 何 I  | 2         |    | 2  |    |    | ◎             | ○ |   | ○ | 70      | 30  | 0   | 0     |
|                 | 代 数 ・ 幾 何 II | 1         |    |    | 1  |    | ◎             | ○ |   | ○ | 80      | 20  | 0   | 0     |
|                 | 総 合 数 学      | 1         |    |    | 1  |    | ◎             |   |   |   | 70      | 30  | 0   | 0     |
| 理 科             | 物 理 学 I      | 2         | 2  |    |    |    | ◎             |   |   |   | 70      | 10  | 20  | 0     |
|                 | 物 理 学 II A   | 2         |    | 2  |    |    | ◎             |   |   |   | 70      | 10  | 20  | 0     |
|                 | 物 理 学 II B   | 2         |    | 2  |    |    | ◎             |   |   |   | 70      | 10  | 20  | 0     |
|                 | 化 学 I        | 2         | 2  |    |    |    | ◎             | ○ |   |   | 80      | 0   | 20  | 0     |
|                 | 化 学 II       | 3         |    | 3  |    |    | ◎             | ○ |   |   | 80      | 0   | 20  | 0     |
| 生 命 の 科 学       | 1            |           |    |    | 1  |    |               | ◎ |   | 未 |         |     |     |       |
| 保 健 体 育         | 保 健 体 育 I    | 2         | 2  |    |    |    | ◎             | ○ |   |   | 10      | 10  | 20  | 60    |
|                 | 保 健 体 育 II   | 2         |    | 2  |    |    | ◎             | ○ |   |   | 10      | 0   | 0   | 90    |
|                 | 保 健 体 育 III  | 2         |    |    | 2  |    | ◎             | ○ |   |   | 10      | 0   | 0   | 90    |
|                 | 保 健 体 育 IV   | 2         |    |    |    | 2  | ◎             | ○ |   |   | 0       | 0   | 0   | 100   |
|                 | 保 健 体 育 V    | 1         |    |    |    | 1  | ◎             | ○ |   |   | 0       | 0   | 0   | 100   |
| 芸 術             | 美 術          | 1         | 1  |    |    |    | ◎             |   |   |   | 20      | 80  | 0   | 0     |
| 外 国 語           | 基 礎 英 語 I    | 4         | 4  |    |    |    |               |   | ○ | ◎ | 60      | 40  | 0   | 0     |
|                 | 基 礎 英 語 II   | 2         |    | 2  |    |    |               |   | ○ | ◎ | 60      | 40  | 0   | 0     |
|                 | 英 語 表 現 I    | 2         | 2  |    |    |    |               |   | ○ | ◎ | 50      | 50  | 0   | 0     |
|                 | 英 語 表 現 II   | 4         |    | 4  |    |    |               |   | ○ | ◎ | 50      | 50  | 0   | 0     |
|                 | 英 語 表 現 III  | 1         |    |    | 1  |    |               |   | ○ | ◎ | 60      | 40  | 0   | 0     |
|                 | 総 合 英 語      | 1         |    |    | 1  |    |               |   | ○ | ◎ | 未       |     |     |       |
|                 | 英 語 講 読 I    | 2         |    | 2  |    |    |               |   | ○ | ◎ | 50      | 50  | 0   | 0     |
|                 | 英 語 講 読 II   | 2         |    |    | 2  |    |               |   | ○ | ◎ | 未       |     |     |       |
| 英 語 講 読 III     | 1            |           |    |    | 1  |    |               | ○ | ◎ | 未 |         |     |     |       |
| 選 択 科 目         | 法 と 社 会 秩 序  | 1         |    |    | 1  |    |               |   | ○ | ◎ | 未       |     |     |       |
|                 | 特 別 英 語 演 習  | 1         |    |    |    | 1  |               |   | ○ | ◎ | 未       |     |     |       |
|                 | 第 2 外 国 語 I  | 2         |    |    | 2  |    |               |   | ◎ | ○ | 未       |     |     |       |
|                 | 第 2 外 国 語 II | 2         |    |    |    | 2  |               |   | ◎ | ○ | 未       |     |     |       |
| 開 講 単 位 合 計     |              | 83        | 26 | 26 | 16 | 10 | 5             |   |   |   |         |     |     |       |
| 最 低 修 得 単 位 合 計 |              | 77        | 26 | 26 | 16 | 7  | 2             |   |   |   |         |     |     |       |

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組む。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-1-①-2 : 機械工学科の教育課程表－学習目標対応表

別表第2 専門科目 機械工学科

(平成19年度の第1～第3学年に適用)

| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   | 授業形態 |     |    |     |
|-------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|------|-----|----|-----|
|             |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 | 講義   | 演習  | 実験 | その他 |
| 応用数学A       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   | ○ | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 応用数学B       | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 確率・統計Ⅰ      | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 確率・統計Ⅱ      | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 応用物理Ⅰ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 応用物理Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   |   | 40   | 10  | 50 | 0   |
| 機械工学基礎      | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       |   |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| コンピュータリテラシー | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       |   |   |   | 50   | 50  | 0  | 0   |
| 情報処理Ⅰ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 情報処理Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 50   | 50  | 0  | 0   |
| 材料力学Ⅰ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 材料力学Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 材料力学Ⅲ       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 機械要素        | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       |   |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 工業力学        | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 機構学         | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 機械力学        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 熱力学Ⅰ        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 熱力学Ⅱ        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 90   | 10  | 0  | 0   |
| 伝熱工学        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |   | 90   | 10  | 0  | 0   |
| 流れ学Ⅰ        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       |   | ○ |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 流れ学Ⅱ        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       |   | ○ |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 流れ学Ⅲ        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 材料学Ⅰ        | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 材料学Ⅱ        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 機械工作法Ⅰ      | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 機械工作法Ⅱ      | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 電気工学        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| 電子情報        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   | 70   | 30  | 0  | 0   |
| メカトロニクス     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   | 100  | 0   | 0  | 0   |
| 制御工学        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20  | 0  | 0   |
| 機械実習Ⅰ       | 3   | 3     |   |    |    |    | ○       | ◎ |   |   | 10   | 10  | 80 | 0   |
| 機械実習Ⅱ       | 3   |       | 3 |    |    |    | ○       | ◎ |   |   | 10   | 90  | 0  | 0   |
| 機械実習Ⅲ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   |   | 0    | 100 | 0  | 0   |
| 機械基礎製図Ⅰ     | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   | 20   | 80  | 0  | 0   |
| 機械基礎製図Ⅱ     | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   | 10   | 90  | 0  | 0   |
| 機械設計製図Ⅰ     | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       |   | ○ |   | 50   | 50  | 0  | 0   |
| 機械設計製図Ⅱ     | 3   |       |   |    | 3  |    | ◎       | ○ |   |   | 30   | 70  | 0  | 0   |
| 機械工学実験Ⅰ     | 3   |       |   |    | 3  |    | ◎       |   | ○ |   | 30   | 0   | 70 | 0   |
| 機械工学実験Ⅱ     | 3   |       |   |    | 3  |    | ◎       |   | ○ |   | 30   | 0   | 70 | 0   |
| 工業英語        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   |   |   | 30   | 70  | 0  | 0   |
| 卒業研究        | 10  |       |   |    |    | 10 | ◎       |   |   |   | 10   | 10  | 60 | 20  |
| 修得単位数合計     | 82  | 8     | 9 | 18 | 24 | 23 |         |   |   |   |      |     |    |     |

| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   | 授業形態 |    |    |     |
|-------------|-----|-------|----|----|----|----|---------|---|---|---|------|----|----|-----|
|             |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 | 講義   | 演習 | 実験 | その他 |
| 応用数学演習      | 1   |       |    |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 管理工学        | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 熱機関         | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 圧縮性流体       | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 応用材料力学      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 工業材料        | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 工作機械        | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| ロボット工学      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 産業法規        | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       |   | ◎ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 開講単位数       | 9   |       |    |    |    | 1  | 8       |   |   |   |      |    |    |     |
| 最低修得単位数     | 6   |       |    |    |    |    | 6       |   |   |   |      |    |    |     |
| 専門科目開講単位数   | 91  | 8     | 9  | 18 | 25 | 31 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8     | 9  | 18 | 53 |    |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26    | 26 | 16 | 7  | 2  |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 開講単位数合計     | 174 | 34    | 35 | 34 | 35 | 36 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 修得単位数合計     | 167 | 34    | 35 | 34 | 64 |    |         |   |   |   |      |    |    |     |

進学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組む。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
 ※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

青地の部分に割合（パーセント）を書いてください。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-1-①-3 : 電気工学科の教育課程表－学習目標対応表

(平成19年度の第1～第3学年に適用)

| 授 業 科 目       |          | 単 位 数 | 学 年 別 配 当 |    |    |    |    | 学 習 目 標 ( 準 ) |    |    |     | 授 業 形 態 |    |    |     |
|---------------|----------|-------|-----------|----|----|----|----|---------------|----|----|-----|---------|----|----|-----|
|               |          |       | 1         | 2  | 3  | 4  | 5  | 1             | 2  | 3  | 4   | 講義      | 演習 | 実験 | その他 |
| 必修            | 応用数学 A   | 1     |           |    |    | 1  | ○◎ |               | ○  | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 応用数学 B   | 2     |           |    |    | 2  | ○◎ |               | ○  | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 確率・統計 I  | 1     |           |    |    | 1  | ○◎ |               | ○  | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 確率・統計 II | 1     |           |    |    | 1  | ○◎ |               | ○  | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 応用物理 I   | 2     |           |    |    | 2  | ◎○ |               |    | 70 | 30  | 0       | 0  |    |     |
|               | 応用物理 II  | 1     |           |    |    | 1  | ◎○ |               | ○  | 70 | 30  | 0       | 0  |    |     |
|               | 電気数学     | 2     | 2         |    |    |    | ◎○ |               |    | 60 | 40  | 0       | 0  |    |     |
|               | 電気工学基礎   | 2     | 2         |    |    |    | ◎○ |               |    | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 回路基礎     | 2     |           | 2  |    |    | ◎○ |               |    | 80 | 20  | 0       | 0  |    |     |
|               | 電気回路 I   | 2     |           |    | 2  |    | ◎○ |               |    | 70 | 30  | 0       | 0  |    |     |
| 電気回路 II       | 2        |       |           |    | 2  | ◎○ |    |               | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 基礎電気磁気学       | 2        |       | 2         |    |    | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気磁気学 I       | 2        |       |           | 2  |    | ◎○ |    |               | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気磁気学 II      | 2        |       |           |    | 2  | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電子回路 I        | 2        |       |           | 2  |    | ◎○ |    |               | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電子回路 II       | 2        |       |           |    | 2  | ◎○ |    |               | 60 | 40 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気電子計測        | 1        |       |           | 1  |    | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 制御工学 I        | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 制御工学 II       | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| コンピュータリテラシー   | 1        | 1     |           |    |    | ◎○ |    | ○             | 60 | 40 | 0   | 0       |    |    |     |
| 計算機工学基礎       | 1        | 1     |           |    |    | ◎○ |    |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| プログラミング I     | 2        |       | 2         |    |    | ◎○ |    |               | 60 | 40 | 0   | 0       |    |    |     |
| プログラミング II    | 2        |       |           | 2  |    | ◎○ |    |               | 60 | 40 | 0   | 0       |    |    |     |
| 計算機工学         | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 数値計算          | 1        |       |           |    | 1  |    | ◎◎ |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 情報理論          | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気機器 I        | 2        |       |           | 2  |    | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気機器 II       | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| パワーエレクトロニクス   | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 60 | 40 | 0   | 0       |    |    |     |
| 高電圧大電流工学      | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電力工学 I        | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電力工学 II       | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 半導体デバイス I     | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 半導体デバイス II    | 2        |       |           |    | 2  | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気材料          | 2        |       |           |    | 2  |    | ◎◎ |               | 90 | 10 | 0   | 0       |    |    |     |
| 基礎通信工学        | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    |               | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 通信工学          | 1        |       |           |    | 1  | ◎○ |    |               | 70 | 30 | 0   | 0       |    |    |     |
| 情報ネットワーク工学    | 2        |       |           |    | 2  | ◎○ |    | ○             | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| デジタル信号処理      | 1        |       |           |    | 1  |    | ◎◎ |               | 80 | 20 | 0   | 0       |    |    |     |
| 電気電子工学基礎実験 I  | 2        |       | 2         |    |    | ◎○ |    |               | 0  | 0  | 100 | 0       |    |    |     |
| 電気電子工学基礎実験 II | 3        |       |           |    | 3  | ◎○ |    |               | 10 | 0  | 90  | 0       |    |    |     |
| 電気電子工学実験 I    | 3        |       |           |    | 3  | ◎◎ |    | ○             | 0  | 0  | 100 | 0       |    |    |     |
| 創造工学実験        | 3        |       |           |    | 3  | ◎◎ |    | ○             | 0  | 30 | 70  | 0       |    |    |     |
| 電気電子工学実験 II   | 2        |       |           |    | 2  | ◎◎ |    | ○             | 10 | 0  | 90  | 0       |    |    |     |
| 製 図           | 2        | 2     |           |    |    | ◎○ |    | ○             | 20 | 80 | 0   | 0       |    |    |     |
| 卒 業 研 究       | 10       |       |           |    |    |    |    | ◎             | 0  | 0  | 100 | 0       |    |    |     |
| 修得単位合計        | 82       | 8     | 8         | 18 | 25 | 23 |    |               |    |    |     |         |    |    |     |

| 授 業 科 目     |         | 単 位 数 | 学 年 別 配 当 |    |    |    |   | 学 習 目 標 ( 準 ) |   |   |    | 授 業 形 態 |    |    |     |
|-------------|---------|-------|-----------|----|----|----|---|---------------|---|---|----|---------|----|----|-----|
|             |         |       | 1         | 2  | 3  | 4  | 5 | 1             | 2 | 3 | 4  | 講義      | 演習 | 実験 | その他 |
| 選択科目        | 応用数学演習  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎◎            |   | ○ | 70 | 30      | 0  | 0  |     |
|             | 電力系統工学  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 60 | 40      | 0  | 0  |     |
|             | 原子力工学   | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 70 | 30      | 0  | 0  |     |
|             | 画像音声工学  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 70 | 30      | 0  | 0  |     |
|             | 電気応用    | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 80 | 20      | 0  | 0  |     |
|             | 基礎電波工学  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 80 | 20      | 0  | 0  |     |
|             | シケンス制御  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 70 | 30      | 0  | 0  |     |
|             | 光電子工学   | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 80 | 20      | 0  | 0  |     |
|             | 電気法規    | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 60 | 40      | 0  | 0  |     |
|             | 電波法規    | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎◎            |   | ○ | 70 | 30      | 0  | 0  |     |
|             | 電気設計    | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 60 | 40      | 0  | 0  |     |
|             | 電子回路設計  | 1     |           |    |    |    | 1 | ◎○            |   | ○ | 90 | 10      | 0  | 0  |     |
|             | 開講単位計   | 12    |           |    |    |    |   |               |   | 1 | 11 |         |    |    |     |
|             | 最低修得単位数 | 6     |           |    |    |    |   |               |   |   | 6  |         |    |    |     |
| 専門科目開講単位数   | 94      | 8     | 8         | 18 | 26 | 34 |   |               |   |   |    |         |    |    |     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88      | 8     | 8         | 18 | 26 | 34 |   |               |   |   |    |         |    |    |     |
| 一般科目最低修得単位数 | 77      | 26    | 26        | 16 | 7  | 2  |   |               |   |   |    |         |    |    |     |
| 開講単位合計      | 177     | 34    | 34        | 34 | 36 | 39 |   |               |   |   |    |         |    |    |     |
| 修得単位合計      | 167     | 34    | 34        | 34 | 65 |    |   |               |   |   |    |         |    |    |     |

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組む。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

青地の部分に割合 ( パーセント ) を書いてください。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-1-①-4 : 電子情報工学科の教育課程表－学習目標対応表

| 電子情報工学科       |       |       |   |    |    |    |         |   |   | (平成19年度の第1～第3学年に適用) |      |    |    |     |  |  |  |  |  |
|---------------|-------|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---------------------|------|----|----|-----|--|--|--|--|--|
| 授 業 科 目       | 単 位 数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |                     | 授業形態 |    |    |     |  |  |  |  |  |
|               |       | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4                   | 講義   | 演習 | 実験 | その他 |  |  |  |  |  |
| 応用数学 A        | 1     |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○                   | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 応用数学 B        | 2     |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○                   | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 確率・統計 I       | 1     |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○                   | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 確率・統計 II      | 1     |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○                   | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 応用物理 I        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 応用物理 II       | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学基礎      | 2     | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 回路基礎          | 2     | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電気回路 I        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電気回路 II       | 1     |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子回路 I        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子回路 II       | 1     |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 回路工学演習        | 1     |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 10   | 90 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電磁気学 I        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電磁気学 II       | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 100  | 0  | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子デバイス        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報基礎          | 2     | 2     |   |    |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| デジタル回路        | 2     | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| コンピュータアーキテクチャ | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 70   | 30 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| オペレーティングシステム  | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 70   | 30 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 制御工学          | 2     |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| システム設計演習      | 2     |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ | ○ | ○                   | 20   | 70 | 0  | 10  |  |  |  |  |  |
| 集積回路工学        | 1     |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 100  | 0  | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| プログラミング I     | 2     | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 50   | 50 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| プログラミング II    | 2     | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 60   | 40 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| プログラミング III   | 2     |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 50   | 50 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| アルゴリズムとデータ構造  | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 100  | 0  | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| データベース        | 1     |       |   | 1  |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 60   | 40 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 数値解析 I        | 2     |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 数値解析 II       | 1     |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| ソフトウェア工学      | 2     |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 50   | 50 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| デジタル信号処理      | 2     |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報理論          | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報数学          | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ | ○ |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 画像情報処理        | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |                     | 80   | 20 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報通信 I        | 1     |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                     | 100  | 0  | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報通信 II       | 2     |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |                     | 90   | 10 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報通信 III      | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |                     | 100  | 0  | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 情報工学演習        | 1     |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |                     | 10   | 90 | 0  | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学実験 I    | 2     | 2     |   |    |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 20   | 40 | 40 | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学実験 II   | 2     | 2     |   |    |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 10   | 40 | 50 | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学実験 III  | 2     |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 10   | 40 | 50 | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学実験 IV   | 2     |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 10   | 20 | 70 | 0   |  |  |  |  |  |
| 電子情報工学実験 V    | 2     |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ | ○ |                     | 10   | 20 | 50 | 20  |  |  |  |  |  |
| 卒業研究          | 10    |       |   |    |    | 10 | ○       | ◎ | ◎ |                     | 10   | 20 | 60 | 10  |  |  |  |  |  |
| 修得単位数合計       | 82    | 8     | 8 | 18 | 25 | 23 |         |   |   |                     |      |    |    |     |  |  |  |  |  |

| 授 業 科 目      | 単 位 数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   | 授業形態 |    |    |     |
|--------------|-------|-------|----|----|----|----|---------|---|---|---|------|----|----|-----|
|              |       | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 | 講義   | 演習 | 実験 | その他 |
| 応用数学演習       | 1     |       |    |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 光電子工学        | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 電子材料         | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| システム数理工学     | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       |   |   |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| コンパイラ        | 1     |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ |   | ○ | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 符号理論         | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| オペレーションズリサーチ | 1     |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ |   | ○ | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 人工知能         | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       |   |   |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| パターン認識       | 1     |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ |   |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| デジタル通信       | 1     |       |    |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 開講単位数計       | 10    |       |    |    |    | 1  |         |   | 9 |   |      |    |    |     |
| 最低修得単位数      | 6     |       |    |    |    |    |         |   | 6 |   |      |    |    |     |
| 専門科目開講単位数    | 92    | 8     | 8  | 18 | 26 | 32 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 専門科目最低修得単位数  | 88    | 8     | 8  | 18 | 54 |    |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 一般科目最低修得単位数  | 77    | 26    | 26 | 16 | 7  | 2  |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 開講単位数合計      | 175   | 34    | 34 | 34 | 36 | 37 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 修得単位数合計      | 167   | 34    | 34 | 34 | 65 |    |         |   |   |   |      |    |    |     |

進学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組む。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
 ※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

青地の部分に割合（パーセント）を書いてください。

(出典：学生課保管資料)



資料 5-1-①-6：建築学科の教育課程表－学習目標対応表

10%単位で

| 授 業 科 目     | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   | 授業形態 |    |    |     |
|-------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|------|----|----|-----|
|             |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 | 講義   | 演習 | 実験 | その他 |
| 確率・統計       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ◎ |   | ◎ | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 応用数学        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   | ◎ | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 応用物理        | 1   |       |   |    | 1  |    |         |   |   |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 建築学基礎       | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| コンピュータリテラシー | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ◎ |   |   | 60   | 40 | 0  | 0   |
| 建築CAD基礎     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   |   |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築CAD応用     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 10   | 90 | 0  | 0   |
| 造形演習Ⅰ       | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 50   | 50 | 0  | 0   |
| 造形演習Ⅱ       | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 10   | 90 | 0  | 0   |
| 建築計画学基礎     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築計画学Ⅰ      | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 建築計画学Ⅱ      | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築計画学演習     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 60   | 40 | 0  | 0   |
| 地域・都市計画     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ◎ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 日本建築史       | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 西洋建築史       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 近代建築史       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築設計Ⅰ       | 4   | 4     |   |    |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築設計Ⅱ       | 6   |       | 6 |    |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築設計Ⅲ       | 6   |       |   | 6  |    |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築設計Ⅳ       | 6   |       |   |    | 6  |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 10   | 90 | 0  | 0   |
| 建築設計Ⅴ       | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   | ◎ |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築材料Ⅰ       | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築材料Ⅱ       | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築構法        | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 鉄筋コンクリート構造Ⅰ | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 鉄筋コンクリート構造Ⅱ | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ◎ |   |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 鉄骨構造Ⅰ       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 鉄骨構造Ⅱ       | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ◎ |   |   | 60   | 40 | 0  | 0   |
| 構造力学Ⅰ       | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ◎ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 構造力学Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ◎ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 構造力学Ⅲ       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ◎ |   |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 建築構造設計論     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 建築振動論       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ◎ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 建築環境工学Ⅰ     | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 建築環境工学Ⅱ     | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ◎ | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築環境工学Ⅲ     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 建築設備計画Ⅰ     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 建築設備計画Ⅱ     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ◎ |   | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 測量学         | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ◎ |   |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 測量学演習       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   |   | 60   | 0  | 40 | 0   |
| 建築生産        | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 0  | 0  | 10* |
| 建築法規        | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築工学演習      | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ◎ |   |   | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 課題演習        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ◎ |   | 10   | 90 | 0  | 0   |
| 卒業研究        | 9   |       |   |    |    | 9  | ◎       |   | ◎ |   | 0    | 0  | 0  | 100 |
| 修得単位合計      | 82  | 8     | 8 | 18 | 24 | 24 |         |   |   |   |      |    |    |     |

(平成19年度第1～第3学年に適用)

10%単位で

| 授 業 科 目     | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   | 授業形態 |    |    |     |
|-------------|-----|-------|----|----|----|----|---------|---|---|---|------|----|----|-----|
|             |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 | 講義   | 演習 | 実験 | その他 |
| 応用数学演習      | 1   |       |    |    | 1  |    | ◎       | ◎ |   | ◎ | 70   | 30 | 0  | 0   |
| 応用物理演習      | 1   |       |    |    | 1  |    |         |   |   |   | 60   | 40 | 0  | 0   |
| 建築材料実験      | 1   |       |    |    | 1  |    | ◎       |   |   | ◎ | 50   | 0  | 50 | 0   |
| 建築情報処理演習    | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   | ◎ | 20   | 80 | 0  | 0   |
| 建築デザイン論     | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築防災論       | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 90   | 10 | 0  | 0   |
| 建築経済        | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 100  | 0  | 0  | 0   |
| 耐震構造特性論     | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 土質基礎工学      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 80   | 20 | 0  | 0   |
| 建築環境計画演習    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 40   | 60 | 0  | 0   |
| 建築設備計画演習    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ◎ |   | 40   | 60 | 0  | 0   |
| 開講単位計       | 11  |       |    |    |    | 3  | 8       |   |   |   |      |    |    |     |
| 最低修得単位数     | 6   |       |    |    |    | 6  |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 専門科目開講単位数   | 93  | 8     | 8  | 18 | 27 | 32 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8     | 8  | 18 | 27 | 54 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26    | 26 | 16 | 7  | 2  |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 開講単位合計      | ##  | 34    | 34 | 34 | 37 | 37 |         |   |   |   |      |    |    |     |
| 修得単位合計      | ##  | 34    | 34 | 34 | 37 | 65 |         |   |   |   |      |    |    |     |

(河内)

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り(金木)
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮でき
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することがで

※優先順位1だけについて◎をつける。優先順位の低いものについて○をつける。

※学習目標の1の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

青地の部分に割合(パーセント)を書いてください。

\*現場見学

(出典：学生課保管資料)

資料 5-1-①-7 : 学習目標別配当科目数一覧

| 一般教育科 |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1 | 主目標 | 6  | 7  | 5  | 1  | 0  | 19 | 19 |
|       | 副目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |    |
| 学習目標2 | 主目標 | 2  | 1  | 2  | 1  | 1  | 7  | 14 |
|       | 副目標 | 3  | 3  | 1  | 0  | 0  | 7  |    |
| 学習目標3 | 主目標 | 0  | 1  | 0  | 3  | 1  | 5  | 26 |
|       | 副目標 | 4  | 5  | 6  | 3  | 3  | 21 |    |
| 学習目標4 | 主目標 | 1  | 2  | 3  | 2  | 2  | 10 | 26 |
|       | 副目標 | 5  | 4  | 3  | 3  | 1  | 16 |    |

| 機械工学科 |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1 | 主目標 | 4  | 4  | 8  | 7  | 13 | 36 | 47 |
|       | 副目標 | 1  | 1  | 2  | 5  | 2  | 11 |    |
| 学習目標2 | 主目標 | 1  | 1  | 2  | 6  | 2  | 12 | 37 |
|       | 副目標 | 2  | 3  | 7  | 6  | 7  | 25 |    |
| 学習目標3 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 9  |
|       | 副目標 | 0  | 0  | 1  | 1  | 6  | 8  |    |
| 学習目標4 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2  | 10 |
|       | 副目標 | 0  | 0  | 1  | 5  | 2  | 8  |    |

| 電気工学科 |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1 | 主目標 | 5  | 4  | 10 | 11 | 13 | 43 | 53 |
|       | 副目標 | 0  | 0  | 0  | 5  | 5  | 10 |    |
| 学習目標2 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 6  | 2  | 8  | 31 |
|       | 副目標 | 2  | 4  | 8  | 5  | 4  | 23 |    |
| 学習目標3 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 5  | 5  | 29 |
|       | 副目標 | 2  | 0  | 2  | 7  | 13 | 24 |    |
| 学習目標4 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 13 |
|       | 副目標 | 0  | 0  | 0  | 5  | 7  | 12 |    |

| 電子情報工学科 |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1   | 主目標 | 2  | 3  | 7  | 9  | 10 | 31 | 53 |
|         | 副目標 | 1  | 1  | 3  | 8  | 9  | 22 |    |
| 学習目標2   | 主目標 | 1  | 1  | 3  | 8  | 9  | 22 | 48 |
|         | 副目標 | 2  | 3  | 7  | 5  | 9  | 26 |    |
| 学習目標3   | 主目標 | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 7  |
|         | 副目標 | 1  | 0  | 0  | 2  | 3  | 6  |    |
| 学習目標4   | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 25 |
|         | 副目標 | 2  | 1  | 5  | 8  | 8  | 24 |    |

| 環境都市工学科 |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1   | 主目標 | 4  | 5  | 5  | 5  | 0  | 19 | 33 |
|         | 副目標 | 1  | 0  | 3  | 6  | 4  | 14 |    |
| 学習目標2   | 主目標 | 0  | 0  | 3  | 6  | 4  | 13 | 39 |
|         | 副目標 | 3  | 5  | 4  | 4  | 10 | 26 |    |
| 学習目標3   | 主目標 | 1  | 0  | 1  | 1  | 9  | 12 | 29 |
|         | 副目標 | 1  | 1  | 2  | 7  | 6  | 17 |    |
| 学習目標4   | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2  | 5  |
|         | 副目標 | 1  | 0  | 1  | 0  | 1  | 3  |    |

| 建築学科  |     | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計 | 計  |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 学習目標1 | 主目標 | 3  | 2  | 8  | 10 | 13 | 36 | 50 |
|       | 副目標 | 0  | 1  | 3  | 5  | 5  | 14 |    |
| 学習目標2 | 主目標 | 0  | 1  | 2  | 6  | 3  | 12 | 33 |
|       | 副目標 | 2  | 1  | 3  | 6  | 9  | 21 |    |
| 学習目標3 | 主目標 | 0  | 0  | 1  | 0  | 1  | 2  | 23 |
|       | 副目標 | 1  | 0  | 6  | 4  | 10 | 21 |    |
| 学習目標4 | 主目標 | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 14 |
|       | 副目標 | 2  | 2  | 2  | 6  | 1  | 13 |    |

(出典：学生課保管資料から作成)

資料 5-1-①-8 : 学年別, 一般・専門別および必修・選択別単位数の配当表

| 機械工学科       | 合計  | 学年 |    |    |       |       |
|-------------|-----|----|----|----|-------|-------|
|             |     | 1  | 2  | 3  | 4     | 5     |
| 一般科目開講単位数   | 83  | 26 | 26 | 16 | 10(3) | 5(3)  |
| 専門科目開講単位数   | 91  | 8  | 9  | 18 | 25(1) | 31(8) |
| 開講単位数合計     | 174 | 34 | 35 | 34 | 35    | 36    |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26 | 26 | 16 | 7     | 2     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8  | 9  | 18 | 53    |       |
| 修得単位数合計     | 167 | 34 | 35 | 34 | 64    |       |

| 電気工学科       | 合計  | 学年 |    |    |       |        |
|-------------|-----|----|----|----|-------|--------|
|             |     | 1  | 2  | 3  | 4     | 5      |
| 一般科目開講単位数   | 83  | 26 | 26 | 16 | 10(3) | 5(3)   |
| 専門科目開講単位数   | 94  | 8  | 8  | 18 | 26(1) | 34(11) |
| 開講単位数合計     | 176 | 34 | 34 | 34 | 36    | 39     |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26 | 26 | 16 | 7     | 2      |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8  | 8  | 18 | 54    |        |
| 修得単位数合計     | 167 | 34 | 34 | 36 | 63    |        |

| 電子情報工学科     | 合計  | 学年 |    |    |       |       |
|-------------|-----|----|----|----|-------|-------|
|             |     | 1  | 2  | 3  | 4     | 5     |
| 一般科目開講単位数   | 83  | 26 | 26 | 16 | 10(3) | 5(3)  |
| 専門科目開講単位数   | 92  | 8  | 8  | 18 | 26(1) | 32(9) |
| 開講単位数合計     | 175 | 34 | 34 | 34 | 36    | 37    |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26 | 26 | 16 | 7     | 2     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8  | 8  | 18 | 54    |       |
| 修得単位数合計     | 167 | 34 | 34 | 34 | 65    |       |

| 環境都市工学科     | 合計  | 学年 |    |    |       |       |
|-------------|-----|----|----|----|-------|-------|
|             |     | 1  | 2  | 3  | 4     | 5     |
| 一般科目開講単位数   | 83  | 26 | 26 | 16 | 10(3) | 5(3)  |
| 専門科目開講単位数   | 93  | 8  | 8  | 20 | 26(2) | 31(9) |
| 開講単位数合計     | 176 | 34 | 34 | 36 | 36    | 36    |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26 | 26 | 16 | 7     | 2     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8  | 8  | 20 | 52    |       |
| 修得単位数合計     | 167 | 34 | 34 | 36 | 63    |       |

| 建築学科        | 合計  | 学年 |    |    |       |       |
|-------------|-----|----|----|----|-------|-------|
|             |     | 1  | 2  | 3  | 4     | 5     |
| 一般科目開講単位数   | 83  | 26 | 26 | 16 | 10(3) | 5(3)  |
| 専門科目開講単位数   | 93  | 8  | 8  | 18 | 27(3) | 32(8) |
| 開講単位数合計     | 176 | 34 | 34 | 34 | 37    | 37    |
| 一般科目最低修得単位数 | 77  | 26 | 26 | 16 | 7     | 2     |
| 専門科目最低修得単位数 | 88  | 8  | 8  | 18 | 54    |       |
| 修得単位数合計     | 167 | 34 | 34 | 34 | 65    |       |

(出典：学生課保管資料)



資料 5-1-①-9 : 授業時間割表 (平成18年度)

平成18年度 前期時間割表

| 学年・学期 | 月      |              |        |         |          | 火            |        |         |          |              | 水      |         |          |              |        |         |          |
|-------|--------|--------------|--------|---------|----------|--------------|--------|---------|----------|--------------|--------|---------|----------|--------------|--------|---------|----------|
|       | 1      | 2            | 3      | 4       | 5        | 1            | 2      | 3       | 4        | 5            | 1      | 2       | 3        | 4            | 5      |         |          |
| 1・2   | 8:50~  | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III |
|       | 10:30  | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     |
| 3・4   | 10:40~ | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    |
|       | 12:20  | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       |
| 5・6   | 13:10~ | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   |
|       | 14:50  | 松田理          | 松田理    | 松田理     | 松田理      | 松田理          | 松田理    | 松田理     | 松田理      | 松田理          | 松田理    | 松田理     | 松田理      | 松田理          | 松田理    | 松田理     | 松田理      |
| 7・8   | 15:00~ | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     |
|       | 16:40  | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      |

△の科目は、13:10~15:50である。

(注)水曜日7限特活は、15:00~15:50である。

| 学年・学期 | 木      |              |        |         |          | 金            |        |         |          |              |        |         |          |
|-------|--------|--------------|--------|---------|----------|--------------|--------|---------|----------|--------------|--------|---------|----------|
|       | 1      | 2            | 3      | 4       | 5        | 1            | 2      | 3       | 4        | 5            |        |         |          |
| 1・2   | 8:50~  | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III | Mコンピュータリテラシー | A英語表現I | A英語表現II | A英語表現III |
|       | 10:30  | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     | 東・徳井         | 東・徳井   | 東・徳井    | 東・徳井     |
| 3・4   | 10:40~ | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    | 基礎数学A        | 基礎数学B  | 基礎数学C   | 基礎数学D    |
|       | 12:20  | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       | 岡藤           | 岡藤     | 岡藤      | 岡藤       |
| 5・6   | 13:10~ | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   | 機械工学基礎       | 電気工学基礎 | 情報工学基礎  | 環境工学基礎   |
|       | 14:50  | 八田           | 八田     | 八田      | 八田       | 八田           | 八田     | 八田      | 八田       | 八田           | 八田     | 八田      | 八田       |
| 7・8   | 15:00~ | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     | 特別講義         | 特別講義   | 特別講義    | 特別講義     |
|       | 16:40  | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      | 各教員          | 各教員    | 各教員     | 各教員      |

△の科目は、13:10~15:40である。

M=機械工学科  
E=電気工学科  
I=電子情報工学科  
C=環境都市工学科  
A=建築工学科

日本語教育  
月曜日 16:50~18:30 (4ER, AR)  
火曜日 16:50~18:30 (3IR, CR)  
木曜日 15:00~16:40 (5IR)  
16:50~18:30 (4ER, AR)  
金曜日 16:50~18:30 (3IR, CR)



資料 5-1-①-10 : 本科 (準学士課程) 行事予定表

(前期後期に分けて 2 ページ分)

平成 1 9 年度 前期 本科行事予定表

H19.2.21

| 日曜 | 4 月            | 日曜 | 5 月            | 日曜 | 6 月            | 日曜 | 7 月                 | 日曜 | 8 月         | 日曜 | 9 月                                    |
|----|----------------|----|----------------|----|----------------|----|---------------------|----|-------------|----|----------------------------------------|
|    | 1 春季休業開始       |    | 1              |    | 1              |    | 1                   |    |             |    |                                        |
|    | 2              |    | 火              |    | 金              |    | 水                   |    |             |    |                                        |
|    | 3              |    | 2              |    | 土              |    | 木                   |    |             |    | 開寮                                     |
|    | 4              |    | 水              |    | 日              |    | 金                   |    |             |    |                                        |
|    | 5              |    | 木              |    | 月              |    | 土                   |    |             |    | 第 2 回単位追認試験開始                          |
|    | 6              |    | 金              |    | 火              |    | 日                   |    |             |    |                                        |
|    | 7              |    | 土              |    | 水              |    | 月                   |    |             |    | 全国高専体育大会報告会 (15:00~)                   |
|    | 8              |    | 日              |    | 木              |    | 火                   |    |             |    |                                        |
|    | 9              |    | 月              |    | 金              |    | 水                   |    |             |    | 単位追認試験終了                               |
|    | 10             |    | 火              |    | 土              |    | 木                   |    |             |    |                                        |
|    | 11             |    | 水              |    | 日              |    | 金                   |    |             |    |                                        |
|    | 12             |    | 木              |    | 月              |    | 土                   |    |             |    |                                        |
|    | 13             |    | 金              |    | 火              |    | 日                   |    |             |    |                                        |
|    | 14             |    | 土              |    | 水              |    | 月                   |    |             |    |                                        |
|    | 15             |    | 日              |    | 木              |    | 火                   |    |             |    |                                        |
|    | 16             |    | 月              |    | 金              |    | 水                   |    |             |    |                                        |
|    | 17             |    | 火              |    | 土              |    | 木                   |    |             |    | 敬老の日                                   |
|    | 18             |    | 水              |    | 日              |    | 金                   |    |             |    | 敬老の日                                   |
|    | 19             |    | 木              |    | 月              |    | 土                   |    |             |    | 前期末試験開始                                |
|    | 20             |    | 金              |    | 火              |    | 日                   |    |             |    |                                        |
|    | 21             |    | 土              |    | 水              |    | 月                   |    |             |    |                                        |
|    | 22             |    | 日              |    | 木              |    | 火                   |    |             |    |                                        |
|    | 23             |    | 月              |    | 金              |    | 水                   |    |             |    |                                        |
|    | 24             |    | 火              |    | 土              |    | 木                   |    |             |    | 秋分の日                                   |
|    | 25             |    | 水              |    | 日              |    | 金                   |    |             |    | 振替休日                                   |
|    | 26             |    | 木              |    | 月              |    | 土                   |    |             |    | 前期末試験終了                                |
|    | 27             |    | 金              |    | 火              |    | 日                   |    |             |    | ロボコン大会出場マシん競技会 (15:00~)                |
|    | 28             |    | 土              |    | 水              |    | 月                   |    |             |    |                                        |
|    | 29             |    | 日              |    | 木              |    | 火                   |    |             |    |                                        |
|    | 30             |    | 月              |    | 金              |    | 水                   |    |             |    |                                        |
|    | 31             |    | 火              |    | 土              |    | 木                   |    |             |    | 10 月                                   |
| 上旬 | 1 新入生との懇談会     |    | 木              |    | 土              |    | 火                   |    |             |    | 1 2 年英語実力試験 TOEIC Bridge (15:00-16:30) |
| 中旬 | 2 寮連協協議会       |    | 金              |    | 日              |    | 水                   |    |             |    | 2 火 前期終了                               |
| 下旬 | 3 寮連協協議会       |    | 土              |    | 月              |    | 木                   |    |             |    | 9/13-16 高校新人大会 (前期)                    |
| 中旬 | 4 寮生歓迎会        | 上旬 | 寮生総会           | 中旬 | 寮生会 (4 C. 5 E) | 下旬 | 寮生会 (3 E. 4 A. 5 C) | 下旬 | 寮生会 (3 C)   |    |                                        |
| 下旬 | 5 同学科会 (M. 1)  | 中旬 | 同学科会 (E. C. A) | 下旬 | 同学科会 (M. 1)    | 中旬 | 同学科会 (E. C. A)      | 下旬 | 同学科会 (M. 1) |    |                                        |
| 下旬 | 6 前期授業料免除面接    | 中旬 | 前期授業料免除面接      | 下旬 | 前期授業料免除面接      | 中旬 | 前期授業料免除面接           | 下旬 | 前期授業料免除面接   |    |                                        |
| 下旬 | 7 日本学生支援機構奨学金  | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 8 日本学生支援機構奨学金  | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 9 日本学生支援機構奨学金  | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 10 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 11 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 12 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 13 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 14 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 15 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 16 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 17 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 18 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 19 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 20 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 21 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 22 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 23 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 24 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 25 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 26 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 27 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 28 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 29 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 30 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |
| 下旬 | 31 日本学生支援機構奨学金 | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金    | 中旬 | 日本学生支援機構奨学金         | 下旬 | 日本学生支援機構奨学金 |    |                                        |

平成19年度 後期 本科行事予定表

H19.2.21

| 日        | 10月                                                             | 日  | 11月                                                    | 日  | 12月                                          | 日              | 1月                                    | 日                                                                                | 2月                                                | 日 | 3月                                                         |
|----------|-----------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------|----------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------|
| 1        | 2年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40)                    | 1  |                                                        | 1  |                                              | 1              | 元日                                    | 1                                                                                | 入学願書受付開始(学力)                                      |   |                                                            |
| 2        | 前期終了                                                            | 2  |                                                        | 2  |                                              | 2              |                                       | 2                                                                                |                                                   |   |                                                            |
| 3        | 前期末試験成績報告期限<br>(12:00)                                          | 3  | 文化の日                                                   | 3  |                                              | 3              |                                       | 3                                                                                |                                                   |   |                                                            |
| 4        | ▲秋季休業開始<br>閉寮                                                   | 4  |                                                        | 4  | 後期中間試験開始                                     | 4              |                                       | 4                                                                                | 3年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40)      |   | 1~4年ホームルーム                                                 |
| 5        |                                                                 | 5  |                                                        | 5  |                                              | 5              |                                       | 5                                                                                | ▲5年生学年末試験開始                                       |   | 卒業判定会議(13:00~)<br>1-4年生成績提出期限<br>(12:00)                   |
| 6        | ▲プロコン本選<br>(於:津山高専)                                             | 6  | ▲4年生見学旅行開始                                             | 6  |                                              | 6              |                                       | 6                                                                                | 入学願書受付終了(学力)                                      |   | ▲臨時休業開始・閉寮                                                 |
| 7        | ▼秋季休業終了                                                         | 7  | 進路指導に関する講演会<br>(5年生・専攻科2年生)<br>(15:00~)                | 7  | 5年生中間試験終了                                    | 7              | ▼冬季休業終了<br>閉寮                         | 7                                                                                |                                                   |   | 平成20年度入学者<br>選抜検査合格者発表                                     |
| 8        | 体育の日<br>閉寮                                                      | 8  | ▲2年生学外見学<br>▲3年生生合宿研修開始                                | 8  |                                              | 8              | ▲第4回単位追認試験開始<br>入学願書受付開始(推薦)          | 8                                                                                | ▼5年生学年末試験終了                                       |   |                                                            |
| 9        | 後期授業開始                                                          | 9  | ▼3年生生合宿研修終了                                            | 9  |                                              | 9              | 月曜日の授業を行う                             | 9                                                                                |                                                   |   |                                                            |
| 10       | ▲第3回単位認定試験開始                                                    | 10 | ▲4年生見学旅行終了                                             | 10 | 後期中間試験終了                                     | 10             |                                       | 10                                                                               |                                                   |   |                                                            |
| 11       |                                                                 | 11 |                                                        | 11 |                                              | 11             | ▼入学願書受付終了(推薦)<br>3年生学習到達度試験           | 11                                                                               | 建国記念の日                                            |   | 進級判定会議<br>(13:00~)                                         |
| 12       |                                                                 | 12 |                                                        | 12 | 4年英語実力試験<br>TOEIC IP<br>(15:00-18:00)        | 12             |                                       | 12                                                                               | 月曜日の授業を行う<br>1-4年生学年末試験時間割発表<br>5年生ホームルーム<br>卒業研究 |   |                                                            |
| 13       |                                                                 | 13 |                                                        | 13 |                                              | 13             |                                       | 13                                                                               | 卒業研究                                              |   |                                                            |
| 14       |                                                                 | 14 |                                                        | 14 |                                              | 14             | 成人の日                                  | 14                                                                               | 卒業研究                                              |   | 5年生学年末成績通知<br>票発送                                          |
| 15       | 単位追認試験終了                                                        | 15 |                                                        | 15 |                                              | 15             | ▼単位追認試験終了                             | 15                                                                               | 5年生学年末試験成績<br>報告期限(12:00)<br>卒業研究                 |   |                                                            |
| 16       |                                                                 | 16 | ▲デジコン<br>(於:徳山高専)                                      | 16 |                                              | 16             | 英語実力試験(希望者)<br>TOEIC IP(15:00-18:00)  | 16                                                                               |                                                   |   |                                                            |
| 17       | 避難訓練 14:45~                                                     | 17 |                                                        | 17 |                                              | 17             |                                       | 17                                                                               |                                                   |   |                                                            |
| 18       | 秋季球技大会・一斉清掃<br>(1日休講)                                           | 18 | ロボコン全国大会<br>(於:両国国技館)                                  | 18 | 後期中間試験成績報告期限<br>(12:00)                      | 18             |                                       | 18                                                                               | 卒業研究                                              |   |                                                            |
| 19       |                                                                 | 19 |                                                        | 19 |                                              | 19             |                                       | 19                                                                               | ▲1~4年生学年末試験開始                                     |   | 平成19年度<br>卒業式・修了式<br>臨時休業終了                                |
| 20       |                                                                 | 20 |                                                        | 20 |                                              | 20             | 平成20年度入学者選抜<br>推薦検査                   | 20                                                                               | 卒業研究                                              |   | 喜分の日<br>▲学年末休業開始                                           |
| 21       | ロボコン東海・北陸地区大会<br>(於:富山高専)                                       | 21 |                                                        | 21 | 一斉清掃(授業終了後)                                  | 21             |                                       | 21                                                                               | 卒業研究                                              |   |                                                            |
| 22       | 1年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40)                    | 22 |                                                        | 22 | 閉寮                                           | 22             |                                       | 22                                                                               | 卒業研究                                              |   |                                                            |
| 23       |                                                                 | 23 | 勤労感謝の日                                                 | 23 | 天皇誕生日                                        | 23             | 就職対策特別講演会<br>(4年生・専攻科1年生)<br>(15:00~) | 23                                                                               |                                                   |   |                                                            |
| 24       | 1~3年合同特活<br>(吹奏楽部等)<br>(15:00-15:50)                            | 24 |                                                        | 24 | 振替休日                                         | 24             |                                       | 24                                                                               | 平成20年度入学者<br>選抜学力検査                               |   | 仮入学式<br>新入生教科書販売                                           |
| 25       | ▲後期文化節発表週間<br>(10/30まで)                                         | 25 |                                                        | 25 | ▲冬季休業開始                                      | 25             |                                       | 25                                                                               | 臨時休業                                              |   | 1-4年生学年末成績通知<br>票発送<br>前期分授業時間割発表<br>1~4年進級発表<br>1~4年教科書販売 |
| 26       | 前期末成績発送                                                         | 26 |                                                        | 26 |                                              | 26             |                                       | 26                                                                               | 1~4学年末試験終了<br>卒業研究                                |   |                                                            |
| 27       | ▲紀友祭 オープン・カレッジ<br>準備(午後休講)                                      | 27 | 後期中間試験時間割発表                                            | 27 |                                              | 27             |                                       | 27                                                                               | 卒業研究審査                                            |   |                                                            |
| 28       |                                                                 | 28 |                                                        | 28 |                                              | 28             |                                       | 28                                                                               | 卒業研究審査                                            |   |                                                            |
| 29       | ▲紀友祭 オープン・カレッジ<br>後片付け(1日休講)                                    | 29 |                                                        | 29 |                                              | 29             | 5年生学年末試験時間割<br>発表                     | 29                                                                               | 卒業研究審査                                            |   |                                                            |
| 30       |                                                                 | 30 |                                                        | 30 |                                              | 30             | 学生会役員選挙立会演説会<br>(15:00~)              | 30                                                                               | 卒業研究合格報告                                          |   |                                                            |
| 31       |                                                                 | 31 |                                                        | 31 |                                              | 31             | 学生会役員選挙投票日                            | 31                                                                               |                                                   |   | 第2回卒業式(予定)<br>学年末休業終了                                      |
| 10/21(日) | 英語技能検定試験<br>1-5年希望者<br>上旬 専学生会(5A)<br>中旬 専学生会(2M)<br>後期分授業料免除面接 | 中旬 | 専学生会(1M)<br>電子情報工学科卒業研究<br>中間発表会<br>11/8-11 高校新人大会(後期) | 中旬 | 環境都市工学科卒業研究<br>中間発表会<br>日本学生支援機構奨学金<br>返還説明会 | 上旬<br>中旬<br>下旬 | 学生会役員選挙公示<br>献血<br>留学生スキー交流会          | 上旬<br>" 卒業生を送る会<br>予備会(M, E)<br>予備会(1, C)<br>前期分授業料免除出願書類<br>交付 12:50~<br>予備会(A) | 上旬<br>" 教職員講演会(学生相談室)<br>クラブリーダー研修会               |   |                                                            |

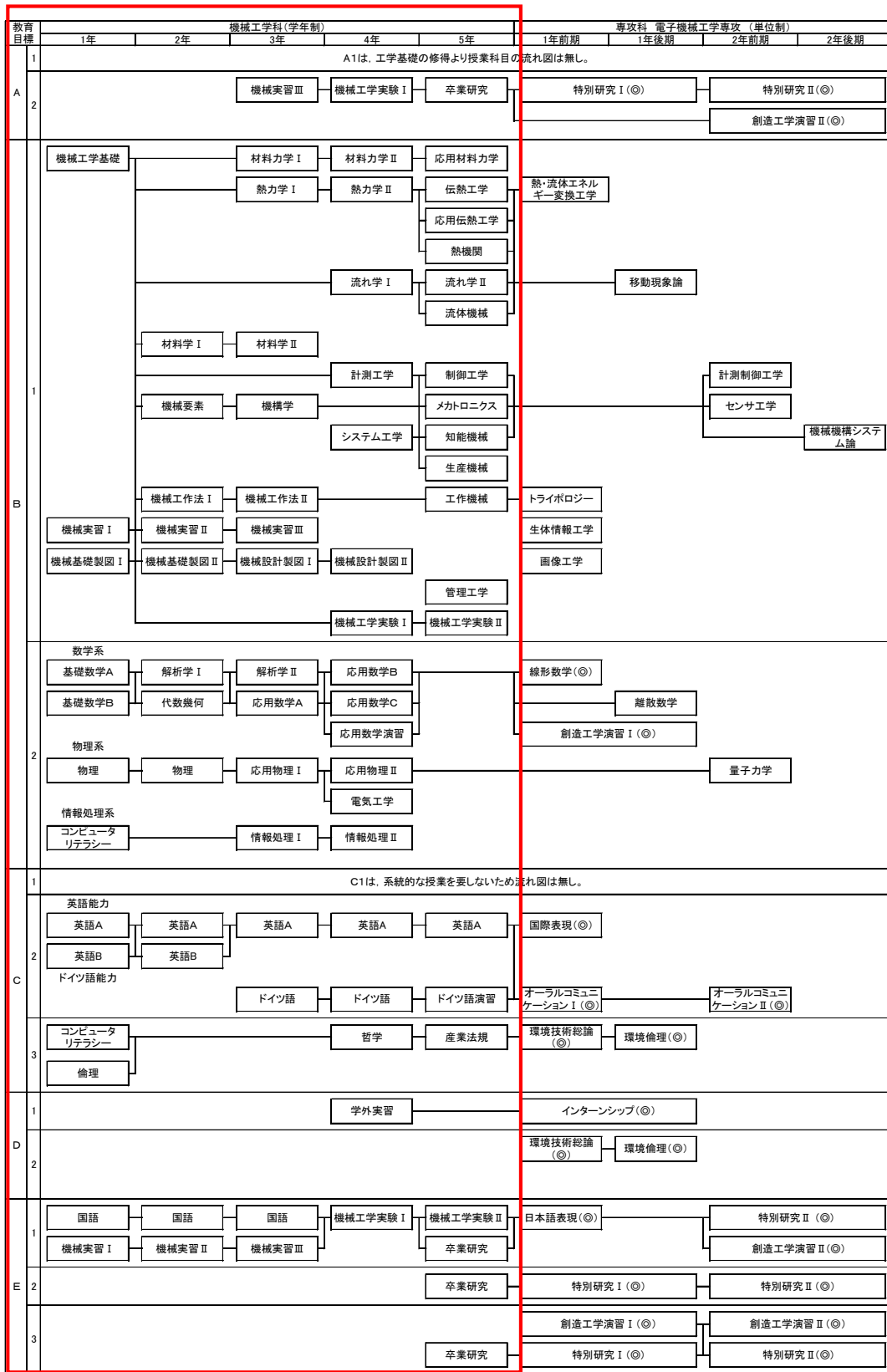
(出典: 学生課保管資料)

## 2) 教育の目的に照らした教育課程の体系性

準学士課程および専攻科課程において教育課程の体系性が確保されていることを示すための、授業科目系統図を示す(資料 5-1-①-11~16)。各科目が教育目標を達成するうえで体系的に編成されていることがわかる。さらに個々の科目が、どの学習目標を達成しようとしているかはシラバスにも記載されている(資料 5-1-①-17)。一般的には各科目の学習目標は、複数の本科の学習目標に対応しており、シラバスではその科目の「授業目標」欄は当該科目と関連する複数の学習目標のキーワードに留意して記載し、全体として学生から内容を把握しやすいよう配慮している。また「学習・教育目標との対応」欄には本科の4つの学習目標に優先順位をつけて当該学習目標を番号で記載している。

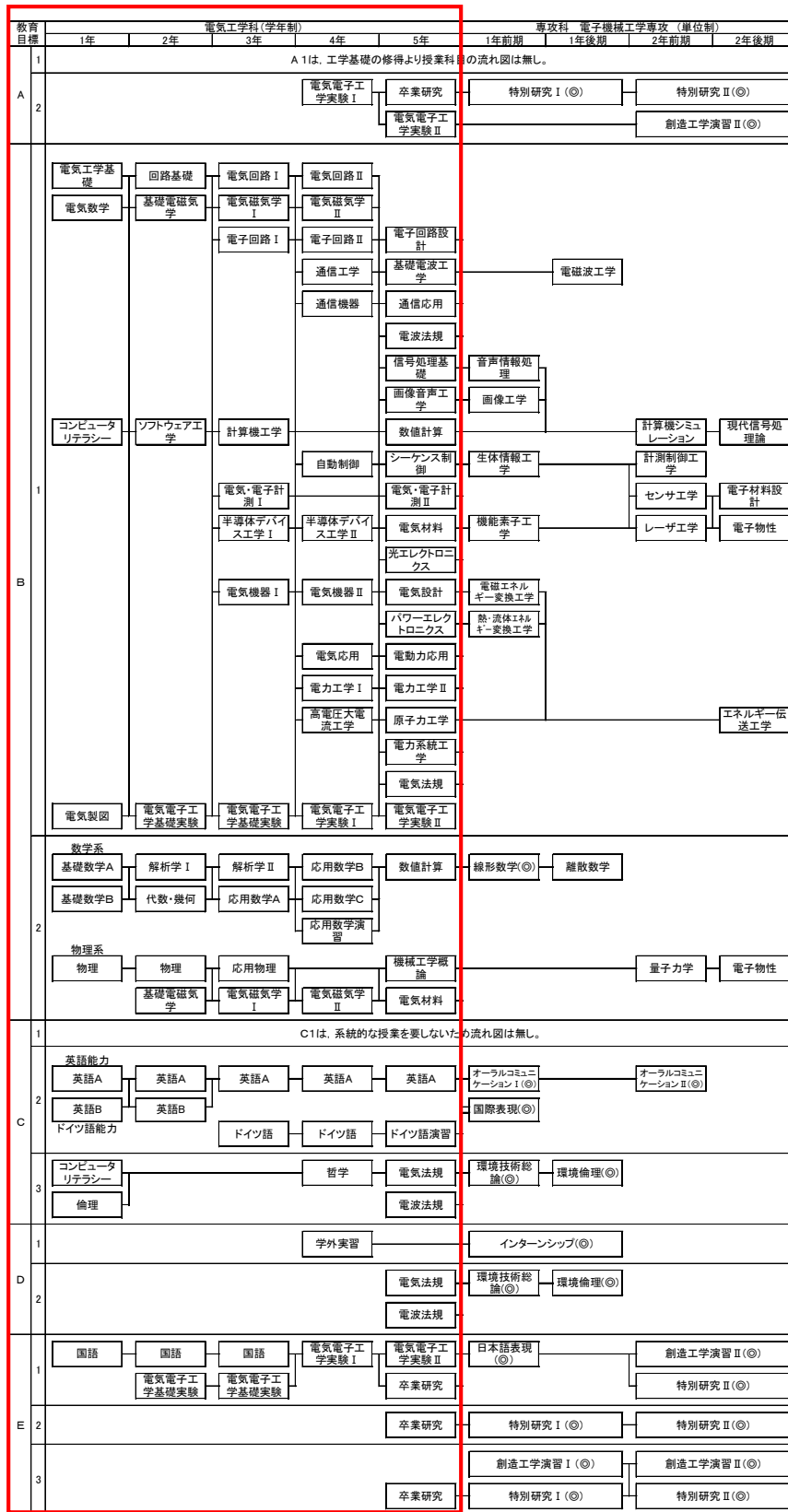
- 資料 5-1-①-11：準学士課程－専攻科課程の科目系統図（機械工学科－電子機械工学専攻）
- 資料 5-1-①-12：準学士課程－専攻科課程の科目系統図（電気工学科－電子機械工学専攻）
- 資料 5-1-①-13：準学士課程－専攻科課程の科目系統図  
（電子情報工学科－電子機械工学専攻（電気電子工学））
- 資料 5-1-①-14：準学士課程－専攻科課程の科目系統図  
（電子情報工学科－電子機械工学専攻（情報工学））
- 資料 5-1-①-15：準学士課程－専攻科課程の科目系統図  
（環境都市工学科－環境建設工学専攻）
- 資料 5-1-①-16：準学士課程－専攻科課程の科目系統図（建築学科－環境建設工学専攻）
- 資料 5-1-①-17：シラバス中での科目の授業目標および学習・教育目標の記載例

資料 5-1-①-11：準学士課程－専攻科課程の科目系統図（機械工学科－電子機械工学専攻）



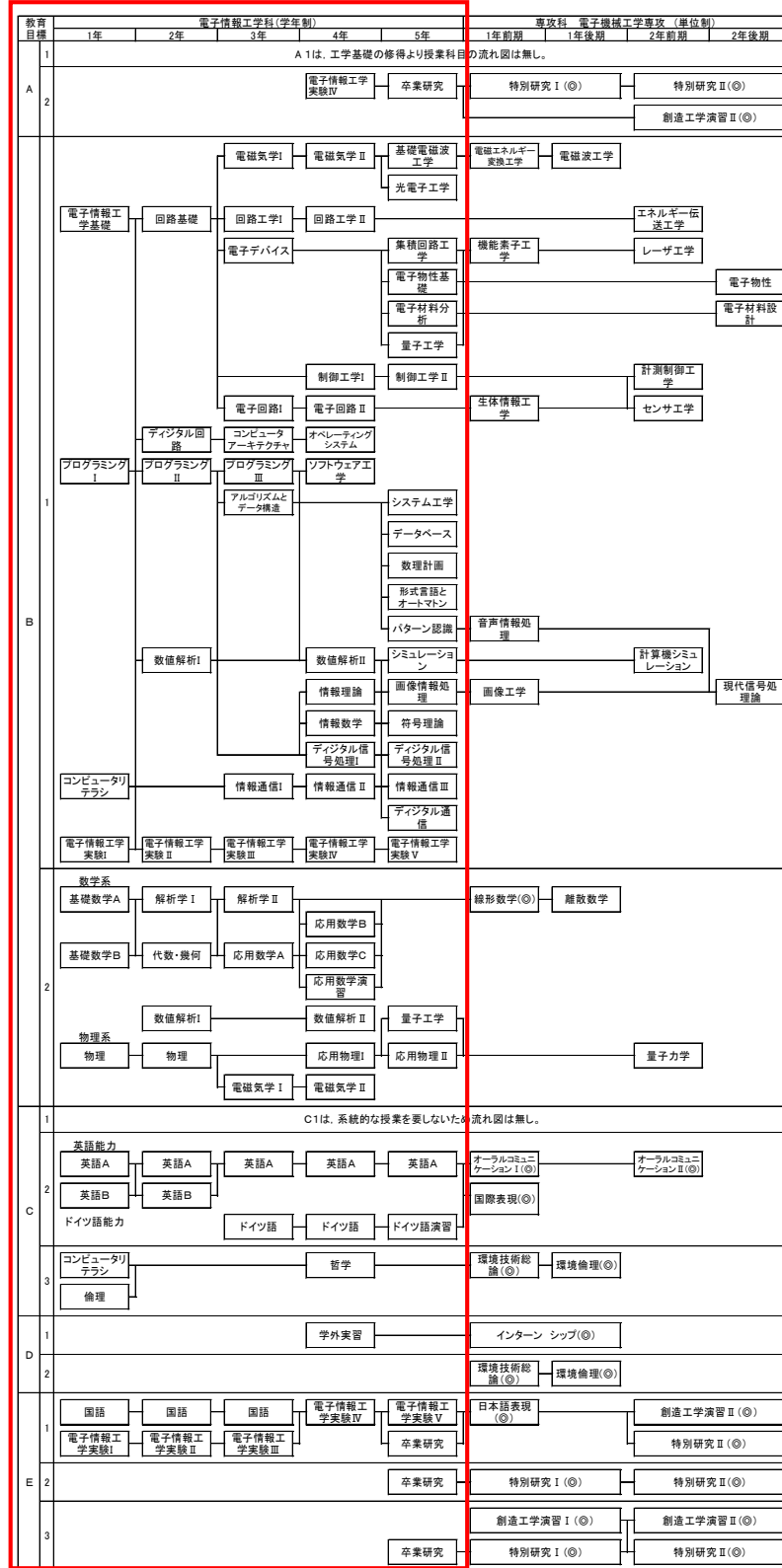
(出典：JABEE資料)

資料 5-1-①-12 : 準学士課程－専攻科課程の科目系統図 (電気工学科－電子機械工学専攻)



(出典：JABEE資料)

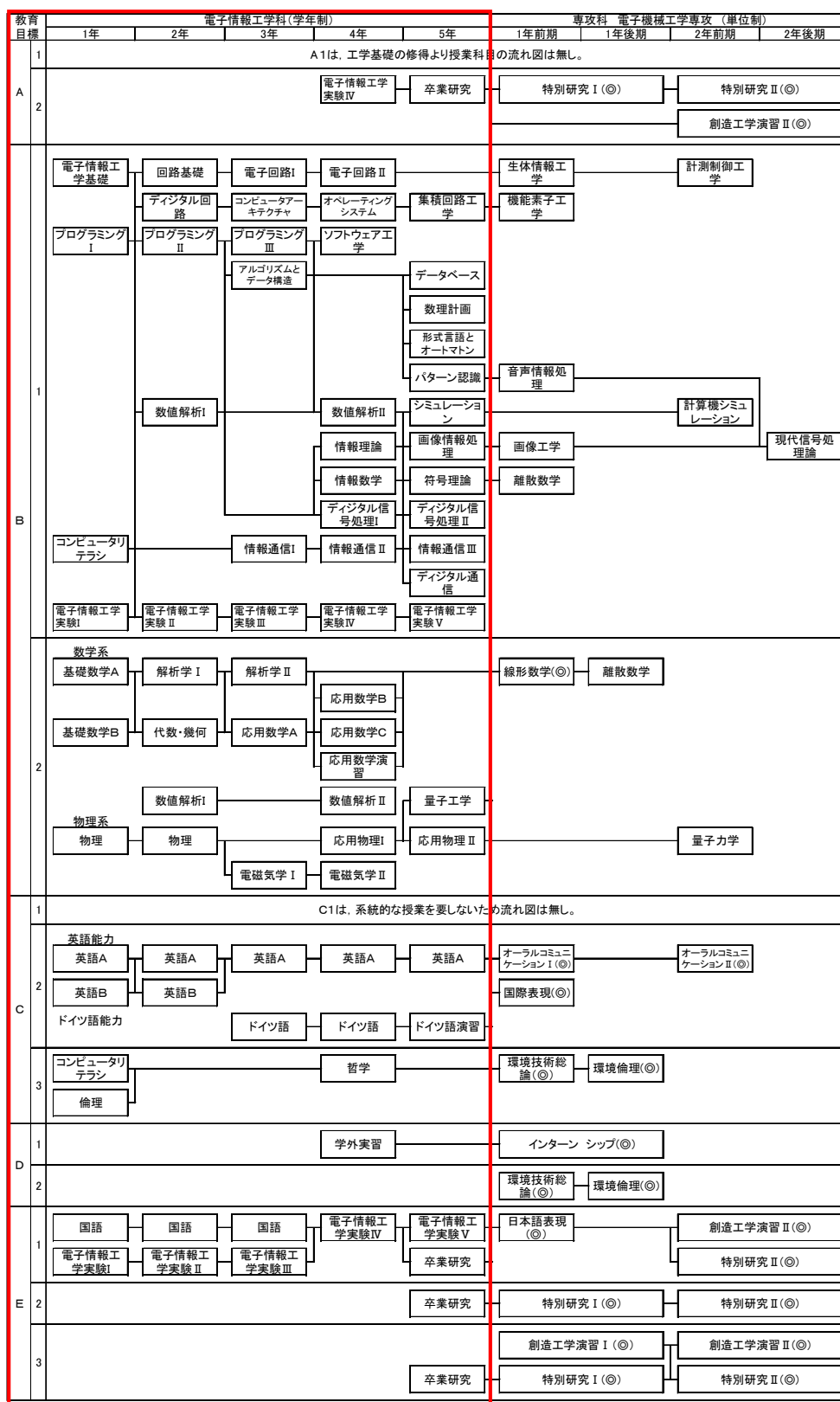
資料 5-1-①-13 : 準学士課程－専攻科課程の科目系統図（電子情報工学科－電子機械工学専攻（電気電子工学））



(出典：JABEE資料)

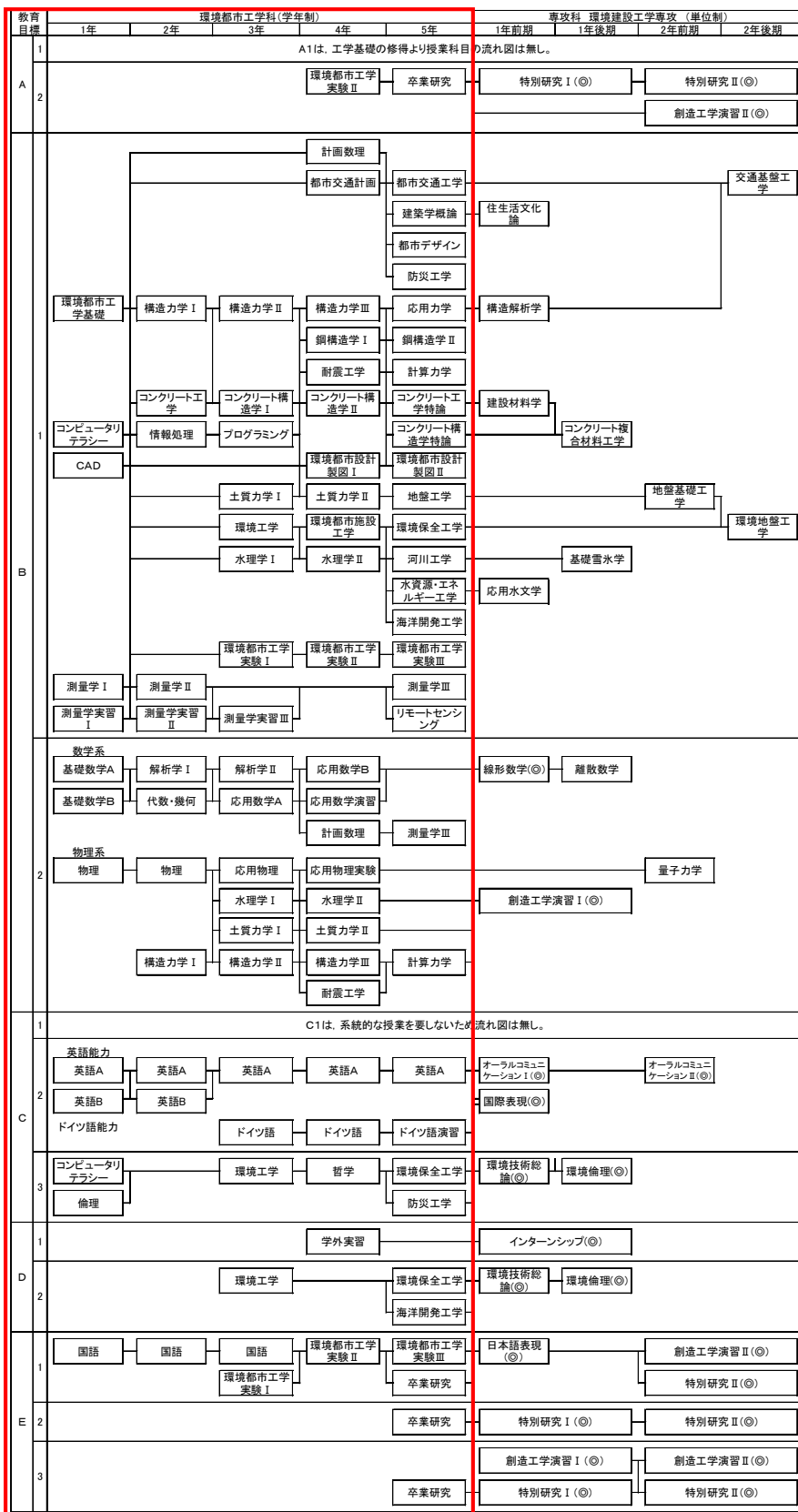


資料 5-1-①-14 : 準学士課程－専攻科課程の科目系統図 (電子情報工学科－電子機械工学専攻 (情報工学))



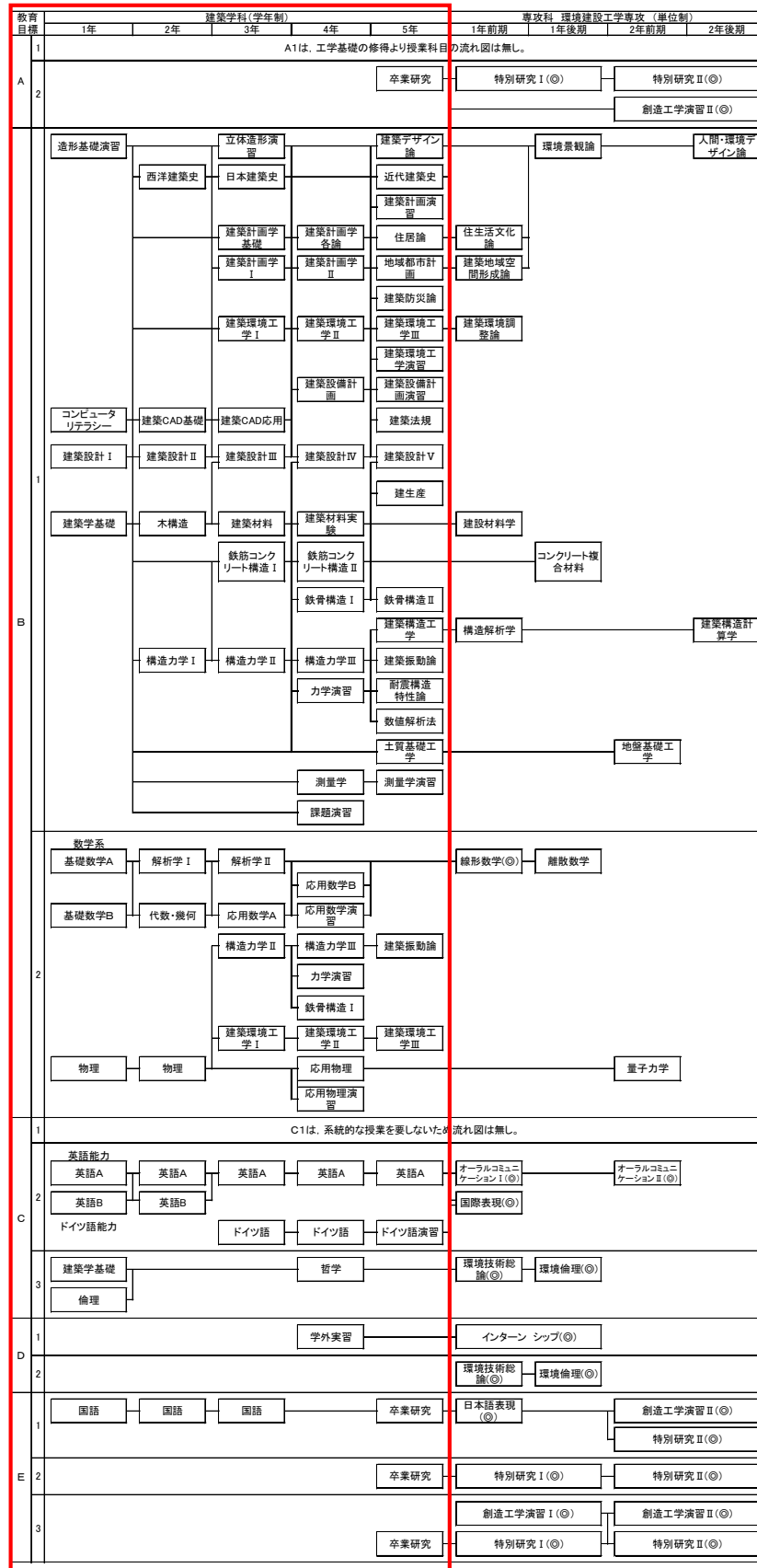
(出典：JABEE資料)

資料 5-1-①-15 : 準学士課程－専攻科課程の科目系統図 (環境都市工学科－環境建設工学専攻)



(出典：JABEE資料)

資料 5-1-①-16 : 準学士課程－専攻科課程の科目系統図 (建築学科－環境建設工学専攻)



(出典：JABEE資料)

資料 5-1-①-17： シラバス中での科目の授業目標および学習・教育目標の記載例

| 科目名                         | 学年                                                                                                                                                                                                | 単位数       | 区分 | 開講期            | 担当教員 |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|----------------|------|
| 制御工学<br>Control Engineering | 5年                                                                                                                                                                                                | 2<br>学修単位 | 必修 | 通年<br>50分×2回/週 | 八田 潔 |
| 対象学科                        | 機械工学科                                                                                                                                                                                             |           |    |                |      |
| 授業目標                        | 制御工学は、産業ばかりでなく社会や地球環境など全ての分野の発展のために広く利用されるようになり、その内容はより複雑・高度化している。これら制御技術を理解し応用できるよう、フィードバック制御系を中心に基礎理論と解析手法を学習する。<br>この授業では、技術者として必要な基礎学力および専門知識を身につけるとともに、制御工学を通して、問題の設定から課題解決および評価に至る過程について学ぶ。 |           |    |                |      |
| ■学習・教育目標との対応                | 本科：1, 2 専攻科・創造工学プログラム：A(1), B(1) 専門(機械工学)                                                                                                                                                         |           |    |                |      |
| ■キーワード                      | フィードバック制御, 伝達関数, 過渡応答, PID制御, 周波数応答, 安定性                                                                                                                                                          |           |    |                |      |
| ■年間スケジュール                   | 【前期】<br>第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム<br>【後期】<br>第1週 フィードバック制御系の基本制御動作                                                                                                                             |           |    |                |      |

(出典：平成19年度シラバス)

3) 授業内容の適切性

実際の授業の内容が、学習の目標に照らして適切なものであることは、シラバス中の各科目の学習・教育目標および週ごとの授業スケジュールによって示されている。また、定期試験問題を一括保存し全教員が点検できるようになっており、定期試験問題は当該科目のシラバスに記載された「学生の到達目標」を確認できるような問題とするよう留意している（資料 5-1-①-18, 19）。必要であれば訪問調査時に授業で使用した教科書、参考書、授業で使用した資料やプリントなどの自主教材を提示する（資料 5-1-①-20）。

- 資料 5-1-①-18：シラバス中での学生の到達目標の記載例
- 資料 5-1-①-19：各科目の定期試験問題と各科目の学習内容（訪問調査時に提示）
- 資料 5-1-①-20：教科書・参考書・資料等の自主教材（訪問調査時に提示）

資料 5-1-①-18 : シラバス中での学生の到達目標の記載例

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 制御工学<br>Control Engineering                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 5年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2   | 必修 | 通年<br>50分×2回/週 | 八田 潔 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 機械工学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>制御工学は、産業ばかりでなく社会や地球環境など全ての分野の発展のために広く利用されるようになり、その内容はより複雑・高度化している。これら制御技術を理解し応用できるよう、フィードバック制御系を中心に基礎理論と解析手法を学習する。<br/>この授業では、技術者として必要な基礎学力および専門知識を身につけるとともに、制御工学を通して、問題の設定から課題解決および評価に至る過程について学ぶ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ■学習・教育目標との対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>本科：1, 2 専攻科・創造工学プログラム：A(1), B(1) 専門(機械工学)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ■キーワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | フィードバック制御, 伝達関数, 過渡応答, PID制御, 周波数応答, 安定性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ■年間スケジュール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> <p>第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム</p> <p>第2週 動的システムの微分方程式による表現</p> <p>第3週 式の解析および数値計算による解法, シミュレーション</p> <p>第4週 非線形システムの線形化</p> <p>第5週 力学系・電気系の類似, 動的パターンの式</p> <p>第6週 ラプラス変換, 伝達関数の定義</p> <p>第7週 過渡応答の代表的な入力とラプラス変換</p> <p>前期中間試験</p> <p>第8週 代表的な要素の伝達関数</p> <p>第9週 1次系の過渡応答, 時定数, 比例感度</p> <p>第10週 水槽液面のステップ応答シミュレーション</p> <p>第11週 2次系の過渡応答, 不足制動, 臨界制動, 過制動</p> <p>第12週 2次系インパルス応答シミュレーション</p> <p>第13週 系の結合, ブロック線図の等価変換</p> <p>第14週 伝達マトリックスによる結合</p> <p>前期末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 前期復習</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> <p>第1週 フィードバック制御系の基本制御動作</p> <p>第2週 PID制御, 調節器による最適調整</p> <p>第3週 周波数応答と周波数伝達関数</p> <p>第4週 周波数応答の結果の表現, ベクトル軌跡による方法</p> <p>第5週 ベクトル軌跡作図演習</p> <p>第6週 周波数応答の結果の表現, ボード線図</p> <p>第7週 ボード線図作図演習</p> <p>後期中間試験</p> <p>第8週 安定判別法</p> <p>第9週 フィーバック系の安定判別(ゲイン余裕, 位相余裕)</p> <p>第10週 特性方程式によるラウスの方法</p> <p>第11週 特性方程式によるフルビッツの方法</p> <p>第12週 ナイキストの安定判別法</p> <p>第13週 新しい制御理論の特徴</p> <p>第14週 現代制御理論</p> <p>学年末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 後期復習</p> </td> </tr> </table> |     |    |                |      | <p>【前期】</p> <p>第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム</p> <p>第2週 動的システムの微分方程式による表現</p> <p>第3週 式の解析および数値計算による解法, シミュレーション</p> <p>第4週 非線形システムの線形化</p> <p>第5週 力学系・電気系の類似, 動的パターンの式</p> <p>第6週 ラプラス変換, 伝達関数の定義</p> <p>第7週 過渡応答の代表的な入力とラプラス変換</p> <p>前期中間試験</p> <p>第8週 代表的な要素の伝達関数</p> <p>第9週 1次系の過渡応答, 時定数, 比例感度</p> <p>第10週 水槽液面のステップ応答シミュレーション</p> <p>第11週 2次系の過渡応答, 不足制動, 臨界制動, 過制動</p> <p>第12週 2次系インパルス応答シミュレーション</p> <p>第13週 系の結合, ブロック線図の等価変換</p> <p>第14週 伝達マトリックスによる結合</p> <p>前期末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 前期復習</p> | <p>【後期】</p> <p>第1週 フィードバック制御系の基本制御動作</p> <p>第2週 PID制御, 調節器による最適調整</p> <p>第3週 周波数応答と周波数伝達関数</p> <p>第4週 周波数応答の結果の表現, ベクトル軌跡による方法</p> <p>第5週 ベクトル軌跡作図演習</p> <p>第6週 周波数応答の結果の表現, ボード線図</p> <p>第7週 ボード線図作図演習</p> <p>後期中間試験</p> <p>第8週 安定判別法</p> <p>第9週 フィーバック系の安定判別(ゲイン余裕, 位相余裕)</p> <p>第10週 特性方程式によるラウスの方法</p> <p>第11週 特性方程式によるフルビッツの方法</p> <p>第12週 ナイキストの安定判別法</p> <p>第13週 新しい制御理論の特徴</p> <p>第14週 現代制御理論</p> <p>学年末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 後期復習</p> |
| <p>【前期】</p> <p>第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム</p> <p>第2週 動的システムの微分方程式による表現</p> <p>第3週 式の解析および数値計算による解法, シミュレーション</p> <p>第4週 非線形システムの線形化</p> <p>第5週 力学系・電気系の類似, 動的パターンの式</p> <p>第6週 ラプラス変換, 伝達関数の定義</p> <p>第7週 過渡応答の代表的な入力とラプラス変換</p> <p>前期中間試験</p> <p>第8週 代表的な要素の伝達関数</p> <p>第9週 1次系の過渡応答, 時定数, 比例感度</p> <p>第10週 水槽液面のステップ応答シミュレーション</p> <p>第11週 2次系の過渡応答, 不足制動, 臨界制動, 過制動</p> <p>第12週 2次系インパルス応答シミュレーション</p> <p>第13週 系の結合, ブロック線図の等価変換</p> <p>第14週 伝達マトリックスによる結合</p> <p>前期末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 前期復習</p> | <p>【後期】</p> <p>第1週 フィードバック制御系の基本制御動作</p> <p>第2週 PID制御, 調節器による最適調整</p> <p>第3週 周波数応答と周波数伝達関数</p> <p>第4週 周波数応答の結果の表現, ベクトル軌跡による方法</p> <p>第5週 ベクトル軌跡作図演習</p> <p>第6週 周波数応答の結果の表現, ボード線図</p> <p>第7週 ボード線図作図演習</p> <p>後期中間試験</p> <p>第8週 安定判別法</p> <p>第9週 フィーバック系の安定判別(ゲイン余裕, 位相余裕)</p> <p>第10週 特性方程式によるラウスの方法</p> <p>第11週 特性方程式によるフルビッツの方法</p> <p>第12週 ナイキストの安定判別法</p> <p>第13週 新しい制御理論の特徴</p> <p>第14週 現代制御理論</p> <p>学年末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 後期復習</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ■学生の到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1. 自動制御系を構成する基本要素が説明できる。</p> <p>2. 閉ループ制御系の特性(良い応答・悪い応答)が説明できる。</p> <p>3. 微分方程式を使ってさまざまな動的システムが表現できる。</p> <p>4. 微分方程式を解析し, 数値計算やシミュレーションが行える。</p> <p>5. ラプラス変換・逆ラプラス変換を自在に活用できる。</p> <p>6. 代表的な入出力の形を伝達関数で表現できる。</p> <p>7. 基本的な要素に対するインパルス・インディシャル応答を説明できる。</p> <p>8. ブロック線図の結合・等価変換が行える。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>9. 比例・積分・微分制御における各動作の働きと特徴を説明できる。</p> <p>10. 基本的な要素に対し周波数応答の表現を行うことができる。</p> <p>11. 伝達関数をもとに実際にベクトル軌跡を描くことができる。</p> <p>12. 伝達関数から実際にボード線図を作曲することができる。</p> <p>13. 特性方程式(ラウス, フルビッツの方法)を使い安定判別ができる。</p> <p>14. ベクトル軌跡, ボード線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>15. ナイキスト線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>16. 現代制御の手法や例が説明できる。</p> </td> </tr> </table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |    |                |      | <p>1. 自動制御系を構成する基本要素が説明できる。</p> <p>2. 閉ループ制御系の特性(良い応答・悪い応答)が説明できる。</p> <p>3. 微分方程式を使ってさまざまな動的システムが表現できる。</p> <p>4. 微分方程式を解析し, 数値計算やシミュレーションが行える。</p> <p>5. ラプラス変換・逆ラプラス変換を自在に活用できる。</p> <p>6. 代表的な入出力の形を伝達関数で表現できる。</p> <p>7. 基本的な要素に対するインパルス・インディシャル応答を説明できる。</p> <p>8. ブロック線図の結合・等価変換が行える。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>9. 比例・積分・微分制御における各動作の働きと特徴を説明できる。</p> <p>10. 基本的な要素に対し周波数応答の表現を行うことができる。</p> <p>11. 伝達関数をもとに実際にベクトル軌跡を描くことができる。</p> <p>12. 伝達関数から実際にボード線図を作曲することができる。</p> <p>13. 特性方程式(ラウス, フルビッツの方法)を使い安定判別ができる。</p> <p>14. ベクトル軌跡, ボード線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>15. ナイキスト線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>16. 現代制御の手法や例が説明できる。</p>                                                                                                                                  |
| <p>1. 自動制御系を構成する基本要素が説明できる。</p> <p>2. 閉ループ制御系の特性(良い応答・悪い応答)が説明できる。</p> <p>3. 微分方程式を使ってさまざまな動的システムが表現できる。</p> <p>4. 微分方程式を解析し, 数値計算やシミュレーションが行える。</p> <p>5. ラプラス変換・逆ラプラス変換を自在に活用できる。</p> <p>6. 代表的な入出力の形を伝達関数で表現できる。</p> <p>7. 基本的な要素に対するインパルス・インディシャル応答を説明できる。</p> <p>8. ブロック線図の結合・等価変換が行える。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>9. 比例・積分・微分制御における各動作の働きと特徴を説明できる。</p> <p>10. 基本的な要素に対し周波数応答の表現を行うことができる。</p> <p>11. 伝達関数をもとに実際にベクトル軌跡を描くことができる。</p> <p>12. 伝達関数から実際にボード線図を作曲することができる。</p> <p>13. 特性方程式(ラウス, フルビッツの方法)を使い安定判別ができる。</p> <p>14. ベクトル軌跡, ボード線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>15. ナイキスト線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>16. 現代制御の手法や例が説明できる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ■評価方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 定期試験(80%), 演習課題(10%), 講義中演習の提出状況(授業中の取り組みを含む)(10%)などを総合的に判断する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |    |                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

(出典：平成19年度シラバス)

資料 5-1-①-19 : 各科目の定期試験問題と各科目の学習内容

(訪問調査時に提示)

(出典：教員室保管資料)

資料 5-1-①-20 : 教科書・参考書・資料等の自主教材

(訪問調査時に提示)

(出典：教員室保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

以上のように、さまざまな観点から本校卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして授業科目の配当が体系的に編成されており、それが学校あるいは学科の学習目標と適合していることが示されている。また、授業の内容および試験に関してもシラバスに明示され、本校の教育目標に沿った適切なものになっている。

### <準学士課程>

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

#### 1) 学生のニーズとそれに対応した教育課程編成への配慮

学生の多様なニーズに対応した教育課程編成への配慮として，第3年次編入学生に対する単位認定制度，外国人留学生に対する授業カリキュラムの作成，時間割に組み込まれた特別講義の実施がある。

編入学生に対してはいくつかの科目について補充教育と成績認定を行っている。これは専攻科課程の創造工学プログラムコースへの進学に際して必要な措置であるが，必ずしも専攻科への進学がない学生に対しても行うことになっている（資料 5-1-②-1）。外国人留学生に対しては，留学生に配慮した教育課程の作成が行われている（資料 5-1-②-2）。通常の正規授業時間を実施しても，なお学生の反応から内容の修得が不十分と考えられる科目においては，その補充教育を適切に行うことができるよう，授業時間割に特別講義枠を設けている（資料 5-1-②-3）。

また本校の正規のカリキュラムに含まれない科目の履修と単位取得のための規則も整備されている（資料 5-1-②-4）。このなかには次節で述べる学外実習の単位認定も含まれている。

- 資料 5-1-②-1：編入生に対する単位認定（専攻科へ進む編入学生への配慮）
- 資料 5-1-②-2：留学生専用の時間割例
- 資料 5-1-②-3：特別講義の実施規則と実施案内
- 資料 5-1-②-4：正規科目以外の履修と単位取得に関する規則

資料 5-1-②-1 : 編入生に対する単位認定

(編入学生に対する単位認定の規定など専攻科へ進む編入学生への配慮)

創造工学プログラム 達成度評価認定結果

平成 19年 3月 5日

担当教員

下記4年次編入学生について、本科3年次開設創造工学プログラム必修科目の達成度について、評価した結果を以下のとおり報告します。

記

学 生 平成 18年度編入学

授業科目名 コンピュータアーキテクチャ

評価結果 合 格 ・ 不合格

(出典：学生課保管資料)

資料 5-1-②-2 : 留学生専用の時間割例

平成19年度前期授業時間割表(3年電気留学生用)

**3 ER**

|              | 月            | 火                    | 水                    | 木                  | 金                     |
|--------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------------|-----------------------|
| 1<br>・<br>2  | 電気電子計測<br>上町 |                      | 留学生に対する<br>補充授業      | 電気電子工学演習Ⅱ<br>松島    | 電気磁気学Ⅰ<br>上町          |
| 3<br>・<br>4  | 電気回路Ⅰ<br>森田義 | 解析学Ⅱ<br>松島           | 電気電子工学演習Ⅰ<br>森田義・山田悟 | 電気電子工学演習Ⅰ<br>前田    | 留学生に対する<br>補充授業<br>瀬戸 |
| 5<br>・<br>6  | 保健体育Ⅲ<br>川原  | △電気電子工学基礎実験Ⅱ<br>山田悟他 | 電子回路Ⅰ<br>徳井          | 電気電子工学演習Ⅱ<br>徳井・上町 | 代数・幾何Ⅱ<br>森田健         |
| 7<br>・<br>8  | 特別講義<br>各教員  |                      | 特活<br>森田義            | プログラミングⅡ<br>山田悟    | 特別講義<br>各教員           |
| 9<br>・<br>10 |              |                      | 日本語教育<br>下家          |                    | 日本語教育<br>下家           |

△の科目は 13:10~15:40である。 水曜日7限特活は 15:00~15:50である。

(出典：学生課保管資料)



資料 5-1-②-3 : 特別講義の実施規則と実施案内

平成18年10月3日

教員各位

教務主事

平成18年度後期特別講義について（通知）

このことについて、下記の点に留意のうえ御利用願います。

記

1. 特別講義の時間帯は、授業の休講に伴う振替のみでなく、学生の学力向上のための補講や質問に対する説明の時間、学年をまたいでの学科の行事等に御利用ください。各クラスの実施曜日については授業時間割表を御確認願います。
2. 予約については、その前週の木曜日までに教務係へ御連絡願います。また、サイボウズに特別講義実施一覧を掲載しますので使用状況の確認に御利用ください（サイボウズからの予約はできません）。  
《 トップページ → ファイル管理 → 教務関連 → 特別講義 》
3. 学生への通知は、学生玄関掲示板で行います。1～4年の学級担任の方には、毎日掲示板を確認するよう学生への指導方お願いします。

担当：教務係 橋詰（内線 315）

E-mail : kyomu4

|   |   | 10月 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |        |    |    |    |        |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |
|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|--------|----|----|----|--------|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|
|   |   | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11     | 12 | 13 | 14 | 15     | 16 | 17 | 18     | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |  |  |
|   |   | 日   | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火  | 水      | 木  | 金  | 土  | 日      | 月  | 火  | 水      | 木  | 金  | 土  | 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  | 月  | 火  |  |  |
| 1 | M |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    | 基礎数学 A |    |    |    | 機械工学基礎 |    |    | 基礎数学 A |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |
|   | E |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    | 阿蘇     |    |    |    | 松田     |    |    | 阿蘇     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |
|   | I |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |        |    |    |    | 歴史 I   |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |
|   | C |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |        |    |    |    | 佐々木    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |
| A |   |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |        |    |    |    |        |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |

1年生全学科 英語実力試験 TOEIC Bridge  
 秋季球技大会・一斉清掃(1日休講)  
 基礎数学 B  
 基礎数学 B  
 基礎数学 B  
 松島  
 CAD  
 富田  
 秋季休業  
 第3回単位追認試験期間

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-1-②-4 : 正規科目以外の履修と単位取得に関する規則

○石川工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第13条の3の規定に基づき、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）以外の教育施設等における学修に関して必要な事項を定める。

(文部科学大臣が別に定める学修)

第2条 学則第13条の3第1項に規定する文部科学大臣が別に定める学修とは、次の各号に掲げる学修をいう。

- (1) 大学又は短期大学の専攻科における学修
- (2) 高等専門学校の専攻科における学修
- (3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (4) 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則（平成12年文部省令第25号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、本校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

2 前項第4号に規定する学修は、別に掲げる技能審査とする。

(中略)

別表

| 技能審査名         | 認定単位数 | 認定科目名  |
|---------------|-------|--------|
| 実用英語技能検定試験 1級 | 6     | 実用英語検定 |
| 同上 準1級        | 4     |        |
| 同上 2級         | 2     |        |
| 日本漢字能力検定試験 1級 | 3     | 漢字能力検定 |
| 同上 準1級        | 2     |        |
| 同上 2級         | 1     |        |
| 工業英語能力検定試験 1級 | 6     | 工業英語検定 |
| 同上 2級         | 4     |        |
| 同上 3級         | 2     |        |

注 同一学年において、同一技能審査の異なる級に合格した場合は、上位の級の単位数のみを認定する。

また、同一技能審査において、下位の級で単位認定された後に、上位の級に合格した場合は、上位の級の単位数から下位の級の単位数を減じたものを当該学年の認定単位数とする。

(出典：学生便覧)

## 2) 学術の発展動向や社会からの要請に対応した教育課程編成への配慮

国際化に伴う英語教育の必要性ならびに高度な数学の知識が要求される社会的な要請に応えるために、新しい教育課程では英語と数学の配当単位の増加を図っている（資料 5-1-②-5）。さらに近年のバイオテクノロジーの進展に対応できる人材育成の面から新たに「生命の科学」1単位を第4学年の必修科目として新設した。また、実際のものづくりに生かすことができる知識と技能の養成や、社会への柔軟な対応ができることが求められているという考えに立って、従来から第4学年の夏休みに学外実習制度を設け（資料 5-1-②-6）、各学科主任による事前・事後指導の他、担当教員による実習の監督、学生による実習報告書および日誌の作成などを義務づけている。

- 資料 5-1-②-5：社会からの要請に対する一般教育科における教育課程への配慮
- 資料 5-1-②-6：準学士課程の学外実習に関する規則

資料 5-1-②-5 : 社会からの要請に対する一般教育科における教育課程への配慮

(数学と英語の科目や単位数が変更になったことが分かる資料)

新カリキュラム

旧カリキュラム

一般科目 (平成19年度の第4, 第5学年に適用)

| 授業科目    | 単位数    | 学年別配当 |    |    |    |    |    |
|---------|--------|-------|----|----|----|----|----|
|         |        | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  |    |
| 国語      | 国語     | 8     | 2  | 4  | 2  |    |    |
|         | 日本文学   | 1     |    |    | 1  |    |    |
| 社会科学    | 世界史    | 2     | 2  |    |    |    |    |
|         | 日本史    | 2     | 2  |    |    |    |    |
|         | 倫理     | 2     | 2  |    |    |    |    |
|         | 地理     | 2     | 2  |    |    |    |    |
|         | 政治・経済  | 1     |    | 1  |    |    |    |
|         | 法学     | 1     |    |    | 1  |    |    |
|         | 哲学     | 2     |    |    | 2  |    |    |
|         | 基礎数学 A | 4     | 4  |    |    |    |    |
| 基礎数学 B  | 2      | 2     |    |    |    |    |    |
| 数学      | 解析学 I  | 4     | 4  |    |    |    |    |
|         | 解析学 II | 4     |    | 4  |    |    |    |
|         | 代数・幾何  | 2     | 2  |    |    |    |    |
| 理科      | 物理学    | 5     | 2  | 3  |    |    |    |
|         | 化学     | 5     | 2  | 3  |    |    |    |
| 保健体育    | 9      | 2     | 2  | 2  | 2  | 1  |    |
| 芸術      | 音楽     | 1     | 1  |    |    |    |    |
|         | 美術     | 1     | 1  |    |    |    |    |
| 外国語     | 英語 A   | 14    | 4  | 2  | 5  | 2  | 1  |
|         | 英語 B   | 4     | 2  | 2  |    |    |    |
| ドイツ語    | 3      |       |    | 1  | 2  |    |    |
| 選択科目    | ドイツ語演習 | 1     |    |    |    |    | *1 |
| 開講単位数合計 |        | 80    | 26 | 26 | 15 | 10 | 3  |
| 修得単位数合計 |        | 79    | 26 | 26 | 15 | 10 | 2  |

\*修得単位数合計には含まれない。

別表第1 一般科目 (平成19年度の第1, 第2, 第3学年に適用)

| 授業科目      | 単位数      | 学年別配当 |    |    |    |    |   |
|-----------|----------|-------|----|----|----|----|---|
|           |          | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  |   |
| 国語        | 国語 I     | 4     | 4  |    |    |    |   |
|           | 国語 II    | 2     |    | 2  |    |    |   |
|           | 国語 III   | 2     |    |    | 2  |    |   |
|           | 日本文学     | 1     |    |    |    | 1  |   |
| 社会科学      | 歴史 I     | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 歴史 II    | 1     |    | 1  |    |    |   |
|           | 倫理       | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 地理       | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 政治・経済    | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 哲学と科学    | 1     |    |    |    | 1  |   |
| 数学        | 基礎数学 A   | 4     | 4  |    |    |    |   |
|           | 基礎数学 B   | 3     | 3  |    |    |    |   |
|           | 解析学 I    | 4     |    | 4  |    |    |   |
|           | 解析学 II   | 4     |    |    | 4  |    |   |
|           | 代数・幾何 I  | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 代数・幾何 II | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 総合数学     | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 物理学 I    | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 物理学 II A | 2     |    | 2  |    |    |   |
|           | 物理学 II B | 2     |    | 2  |    |    |   |
| 理科        | 化学 I     | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 化学 II    | 3     |    | 3  |    |    |   |
| 保健体育      | 生命の科学    | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 保健体育 I   | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 保健体育 II  | 2     |    | 2  |    |    |   |
|           | 保健体育 III | 2     |    |    | 2  |    |   |
|           | 保健体育 IV  | 2     |    |    |    | 2  |   |
| 保健体育 V    | 1        |       |    |    | 1  |    |   |
| 英語        | 基礎英語 I   | 4     | 4  |    |    |    |   |
|           | 基礎英語 II  | 2     |    | 2  |    |    |   |
|           | 英語表現 I   | 2     | 2  |    |    |    |   |
|           | 英語表現 II  | 4     |    | 4  |    |    |   |
|           | 英語表現 III | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 総合英語     | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 英語講読 I   | 2     |    | 2  |    |    |   |
|           | 英語講読 II  | 2     |    |    | 2  |    |   |
| 英語講読 III  | 1        |       |    |    | 1  |    |   |
| 選択科目      | 法と社会秩序   | 1     |    |    | 1  |    |   |
|           | 特別英語演習   | 1     |    |    |    | 1  |   |
|           | 第2外国語 I  | 2     |    |    | 2  |    |   |
|           | 第2外国語 II | 2     |    |    |    | 2  |   |
| 開講単位数合計   |          | 83    | 26 | 26 | 16 | 10 | 5 |
| 最低修得単位数合計 |          | 77    | 26 | 26 | 16 | 7  | 2 |

(出典：平成19年度シラバス)

## 資料 5-1-②-6 : 準学士課程の学外実習に関する規則

## ○石川工業高等専門学校学外実習実施規則

(趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校の学外実習の履修に関し必要な事項を定める。

(学外実習の目的)

第2条 学外実習は、会社・工場・事業所等（以下「実習機関」という。）の実態に触れ、職場に対する知識を深め、学校内において修得した知識・技能を活用し、併せて勤労の意欲を高め、技術者としての心構えを養うことを目的とする。

(学外実習の時期)

第3条 学外実習は、原則として第4学年又は第5学年の夏季休業中において実施するものとする。

(学外実習の委嘱先)

第4条 実習機関は、本校の教育方針に賛同し、適切な施設と指導陣容とを有するものの中から、各専門学科主任の推薦により校長が委嘱するものとする。

なお、各専門学科主任は、毎年4月末までに実習機関を校長に推薦し、毎年6月末までに実習計画書を校長に提出するものとする。

(学外実習の手続き)

第5条 実習生は、実習機関が定める諸規則及び実習の責任者の指示に従って、学外実習を行わなければならない。

(学外実習の指導)

第6条 学外実習の指導及び報告については、次の各号による。

- (1) 実習機関には、その監督の下に実習の指導を委嘱する。なお、実習終了後、実習状況の報告を依頼する。
- (2) 実習生には、実習の状況とその結果を記録させ、終了後一定の期間内に実習報告書を提出させる。
- (3) 巡回指導は、各専門学科主任の判断によって行う。

(学外実習に係る単位認定)

第7条 校長は、実習生の申請に基づき学外実習に関する単位修得を認定することができる。

(単位認定手続き)

第8条 単位認定を申請しようとする実習生は、原則として当該学期末までに担任教官を経て学外実習単位認定申請書（別紙様式1）を校長に提出するものとする。

なお、担任教官は、学外実習報告書、実習機関の評価及び報告会により成績の評価を行い、各専門学科主任を通じて当該学期末までに校長に提出しなければならない。

(学外実習における認定単位の取扱い)

第9条 前条の規定により認定された単位については、次のとおり取り扱うものとする。(1) 本単位は卒業、進級の要件に含まない。

- (2) 単位の評価は合格又は不合格とし、合格をもって単位を修得したものと認定する。
- (3) 単位認定は、当故年度の学年末に教務主事の報告により校長が行う。
- (4) 学外実習の認定単位数は、休日を除いた5日～10日の実習を1単位、11日以上の実習を2単位のいずれかとする。

(事務)

第10条 学外実習の事務は、学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

別紙様式1

学外実習単位認定申請書

石川工業高等専門学校長 殿

学科 第 学年

氏名

下記のとおり学外実習を終了しましたので、単位の認定を申請します。

記

1 実習機関名

2 実習期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日  
(実習実日数 日間)

\* 単位数  
評価

担任氏名 \_\_\_\_\_ 印

(出典：学生便覧（規則本文）および石川工業高等専門学校規則集（申請書）)

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様なニーズと社会情勢の変化を的確に捉え、必要なカリキュラムの改善ならびに正規科目以外の学外単位認定制度や学外実習規定が整備されている。また編入学生や外国人留学生に対してもそれぞれ単位認定制度や留学生に対する補充授業が行われている。

以上のことから、本校準学士課程では、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成がなされている。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

1) 授業形態のバランス状況

各科目の授業形態の比率は、既に観点5-1-①の資料の教育課程表の中で示した（既出資料 5-1-①-1～6）。同じく学習目標と当該科目数も観点5-1-①の資料（既出資料 5-1-①-7）で示した。学習目標「1. 基礎学力と専門知識」を身に付けるべき低学年の授業形態が講義主体となることは自然である。一方、その目標は、準学士課程にあってはおおむね第3学年までに身につけるものと考えており、それ以後の教育課程において実験や実習等の比率が増加していくことは、学習目標の達成のために適切なバランスを保っているといえることができる。

また学年ごとの授業形態の時間数配分に関しても観点5-1-①の資料（既出資料 5-1-①-7）で示したように100分授業の中に講義と演習を適切に配分している結果、講義に偏らない授業形態となっている。たとえば電気工学科を例に述べると、各学年の一般科目あるいは専門科目の全てにわたって15%以上の演習が配分されている（資料 5-2-①-1）。

□ 資料 5-2-①-1：学年ごとの授業形態の時間数配分（電気工学科）

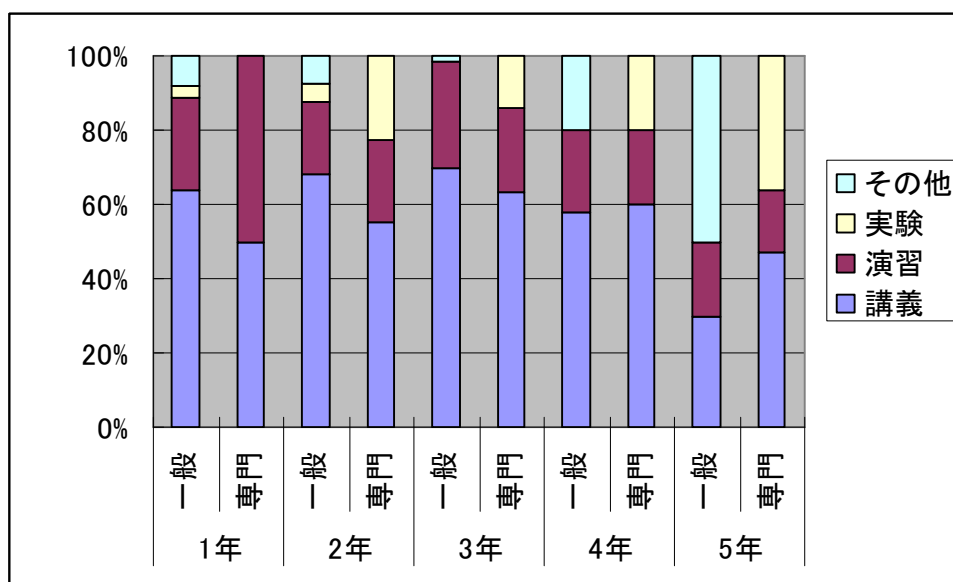


資料 5-2-①-1：学年ごとの授業形態の時間数配分（電気工学科）

|     | 1年   |      | 2年   |      | 3年   |      | 4年   |      | 5年   |      |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|     | 一般   | 専門   | 一般   | 専門   | 一般   | 専門   | 一般   | 専門   | 一般   | 専門   |
| 講義  | 64   | 50   | 68   | 55   | 62   | 63.2 | 58   | 60   | 30   | 46.9 |
| 演習  | 25   | 50   | 20   | 22   | 26   | 22.6 | 22   | 20   | 20   | 16.8 |
| 実験  | 3    | 0    | 5    | 23   | 0    | 14.2 | 0    | 20   | 0    | 36.3 |
| その他 | 8    | 0    | 7    | 0    | 2    | 0    | 20   | 0    | 50   | 0    |
| 計   | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

(左：一般科目，右：専門科目，%表示)

算出方法：資料 5-1-①-3 の各科目の授業形態の配分に単位数の重みを考慮して計算



(出典：学生課保管資料から作成)

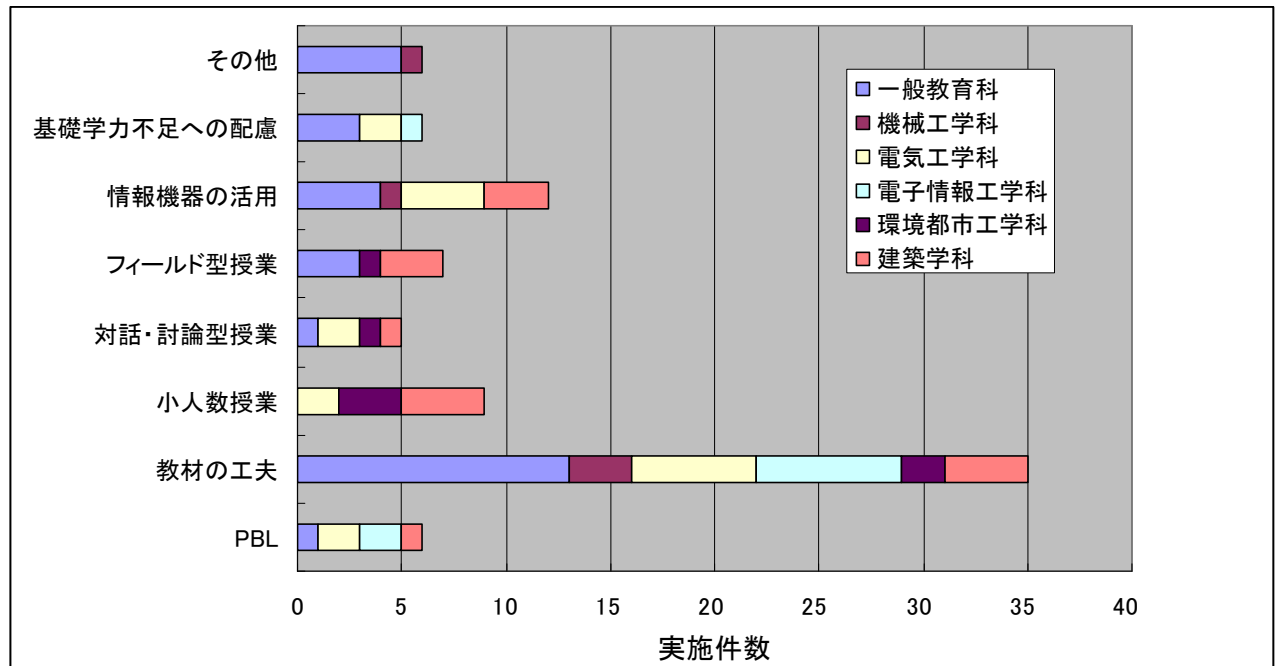
## 2) 学習目標を達成するための教育内容に応じた学習指導法の工夫事例

それぞれの科目では、シラバスに記載された科目の目標にしたがって学習指導法の工夫がなされている。資料5-2-①-2は、アンケートによって各教員から報告のあった学習指導法の工夫例を実施方法別にグラフ化したものである。件数としては教材の工夫がもっとも多く、2番目に情報機器の活用となっている。

また各科目においてシラバスに示した学習・教育目標を達成するために行っている具体的な授業における工夫例を示す（資料 5-2-①-3）

- 資料 5-2-①-2：工夫した学習指導法の学科別実施件数
- 資料 5-2-①-3：学習指導法の工夫例（一般教育科を含めて各科1例ずつ掲載）

資料 5-2-①-2 : 工夫した学習指導法の学科別実施件数



(出典：教務係資料)

資料 5-2-①-3 : 学習指導法の工夫例 (一般教育科を含めて各科 1 例ずつ)

|                                                                  |                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫                                                 |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                                   | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業                                                         |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用                                                          |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                         | <input type="checkbox"/> その他 ( )                                                          |
| 学年・学科・科目                                                         | 1M「基礎数学 B」, 2E「解析学 I」,<br>3I, 3C「解析学 II」                                                  |
| 実施教員等                                                            | 阿蘇和寿                                                                                      |
| 工夫・内容等                                                           | 数式処理電卓を用いた探求課題教材の作成と授業                                                                    |
| 目標・内容・効果等:                                                       | 当該クラスの学生全員に数式処理電卓を貸与し、それを用いた探求課題の教材を作成・配布する。その課題は適宜、授業の材料や自習用課題として与え、学生の勉学意欲を引き出す工夫をしている。 |

|                                                                  |                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input type="checkbox"/> 教材の工夫               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業                        | <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                | <input checked="" type="checkbox"/> 情報機器の活用  |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                         | <input type="checkbox"/> その他 ( )             |
| 学年・学科・科目                                                         | 4 E・電気電子工学実験 I (正弦波発振回路とプレゼンテーション)           |
| 実施教員等                                                            | 深見哲男 (正弦波発振回路), 東亮一 (プレゼンテーション)              |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 個々の学生がPBLにより発振回路の討論・製作・発表を行う。                                                                                                                   |
| 目標・内容・効果等：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 与えられた発振周波数等の設計条件を満足する発振器を自由設計し、製作、特性測定を行う。その内容をプレゼンテーションで発表する。学生は、苦労しただけ達成感を感じていることがレポートから分かる。12時間（2テーマ）の授業。                                    |
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) <input type="checkbox"/> 教材の工夫<br><input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業 <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業<br><input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input type="checkbox"/> 情報機器の活用<br><input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> その他（                      ） |                                                                                                                                                 |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2, 3年生および4年生・建築学科・建築設計                                                                                                                          |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 村田一也, 内田伸                                                                                                                                       |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 間伐材を有効利用した建築ワークショップ                                                                                                                             |
| 目標・内容・効果等：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>間伐材の有効利用をめざした実物制作（ベンチ）によるものづくり教育の実践。</p> <p>2学年にわたって、チームわけをし、各チーム毎に間伐材を使用したベンチを制作する。</p> <p>構想から計画・設計、実施制作までを通して経験することから、ものづくりに対する知見を養う。</p> |
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫<br><input type="checkbox"/> 少人数授業 <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業<br><input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input type="checkbox"/> 情報機器の活用<br><input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> その他（                      ）            |                                                                                                                                                 |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 1年・機械工学科・機械実習 I                                                                                                                                 |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 八田 潔, 藤岡 潤                                                                                                                                      |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 実習における安全教育教材の開発                                                                                                                                 |
| 目標・内容・効果等：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>学生が安全に実習を行えるように、正しい作業の理解と安全意識向上を行うためのビデオ教材等を開発した</p>                                                                                         |
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫<br><input type="checkbox"/> 少人数授業 <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業<br><input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input type="checkbox"/> 情報機器の活用<br><input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> その他（                      ）            |                                                                                                                                                 |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 5年・電子情報工学科・デジタル信号処理 I, II                                                                                                                       |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 山田 洋士                                                                                                                                           |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | デジタルフィルタ設計プログラム集 DF-Design の演習での利用                                                                                                              |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| <p>目標・内容・効果等： 研究室で開発したデジタルフィルタ設計プログラム集 DF-Design を設計エンジンとして用い、Web ページにアクセスして必要事項を入力するとデジタルフィルタ設計が可能なページを公開し、演習にも使用している。このページは、校外から年間10万回以上の設計利用があり、複数の企業にもソースコードを供与している。社会で実際に役に立っているシステムを演習で利用することで、学生の興味・関心を高める効果がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |                               |
| <p> <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                      <input type="checkbox"/> 教材の工夫<br/> <input type="checkbox"/> 少人数授業                                                      <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業<br/> <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                              <input type="checkbox"/> 情報機器の活用<br/> <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                      <input type="checkbox"/> その他 (                      ) </p> |                               |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 5年・環境都市工学科・防災工学               |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 豊田 剛                          |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 学生自身によるテーマ設定に基づいたプレゼンテーションと討論 |
| <p>目標・内容・効果等：</p> <p>学生自身が防災に関するプレゼンテーション(調査および発表)をおこない、その中で防災のあり方についての自分の意見を表明し、それを基に教員・学生間で討論している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                               |
| (出典：学生課保管資料)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                               |

## (分析結果とその根拠理由)

100分の授業の中に演習を適宜取り入れることによって講義に偏らないバランスのとれた授業形態になっている。また、それぞれの科目では、情報機器の活用等によって学習・教育目標を達成するための授業の工夫もなされている。

以上のことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点 5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

1) シラバスの作成状況とその内容

本校では平成8年度からシラバスを作成しており、平成17年4月からは電子シラバスが作成できる環境を整え、学生に配布する冊子に加えてウェブページでも公開し、外部からの閲覧も可能となった。また現在シラバスは、シラバス原稿作成要領に沿って統一した観点で作成されている(資料 5-2-②-1)。具体的には、学習目標のキーワードを含んで記載した「授業目標」欄、「学習・教育目標」欄、「キーワード」欄、「年間スケジュール」欄、定期試験で確認する「学生の到達目標」欄、「評価方法」欄等から構成されている(資料 5-2-②-2, 3)。

- 資料 5-2-②-1：シラバス原稿作成要領
- 資料 5-2-②-2：シラバス例（一般科目のうち講義科目，学修単位科目例）
- 資料 5-2-②-3：シラバス例（専門科目のうち実験・実習を含む科目例）

資料 5-2-②-1：シラバス原稿作成要領

平成19年度シラバス原稿作成要領

原稿作成にあたっては、シラバスシステムマニュアル（ログイン後，出力可能です。）を参照のうえ，以下の事項に留意ください。

なお，詳細について不明な点がありましたら，項目2・3については認証評価部会委員又はJ A B E E部会委員，項目8の数学科目については教員間ネットワーク委員会委員，全般については教務委員会委員又は教務係にお問合せください。

1. 記載全般について

①シラバスは，授業方法や成績評価に関して学校と学生との間に交わされる契約内容を示すものです。学生が誤って理解することのないよう曖昧な記述，表現は避けてください。

②作成にあたり，当該科目に対応する学習目標は，次の資料を参照してください。

(サイボウズに掲載しております。サイボウズ→ファイル管理→教務関連→シラバス作成資料)

- i. 準学士課程（本科）の学習目標 『教育課程－学習目標対応表』
- ii. 専攻科課程の学習目標 『創造工学プログラムの科目と教育目標との対応表』  
(創造工学プログラムの教育目標)

- ・ 1年次～3年次 平成22年度専攻科入学者用
- ・ 4年次・5年次，専攻科1年次 平成19年度専攻科入学者用
- ・ 専攻科2年次 平成18年度専攻科入学者用

③「単位数」欄に単位の名称が表示されますので，確認の上シラバスを作成してください（「学修単位」又は「履修単位」）。なお，専攻科の科目については表示されません。

④各項目には，文字数制限があります。半角は，0.5文字となります。

2. 「授業目標」欄について（310文字以内）

科目に対応する準学士課程の学習目標及び専攻科課程の学習目標のキーワードを含めて，その内容を具体的に記載してください（但し，専攻科課程の学習目標Fを除く。）。

詳細は、第3回教職員研修会の資料「各科目の学習目標の設定とシラバスの書式」を参照してください。

<記載例>

式の計算や関数の概念を修得し、工学を学ぶための**基礎学力**を養う。

数学の考え方がさまざまな**課題の解決**に使われていることを学ぶ。

3. 「学習・教育目標との対応」欄について（65文字以内）

科目に対応する準学士課程の学習目標の番号及び専攻科課程の学習目標の記号を記載してください。

【記載方法】

準学士課程の学習目標→「**本科：（対応番号）**」（◎を優先し、記載してください。）

専攻科課程の学習目標→「**専攻科・創造工学プログラム：（対応記号）**」

（専攻科課程の学習目標B（1）の対応科目のみ、申請学士領域も記載してください。

また、同学習目標Fについては、記載する必要はありません。）

<記載例>

本科：3，1，4 専攻科・創造工学プログラム：B（1）専門（機械工学），B（2）

4. 「キーワード」欄について（65文字以内）

単語等で記載してください。

<記載例>

境界層理論，ラプラス変換，ベイズの識別規則，疲労限界状態，たわみ角

5. 「年間スケジュール」欄について（各週29文字以内）

6. 「学生の到達目標」欄について

（簡条書き：33文字以内×10行×2列，自由記述：67文字以内10行）

・授業目標を受けて授業から修得できる具体的な到達目標を記載してください。

・評価でエビデンスを残せないものは記載しないでください。

・簡条書きで記載する場合は、各項目に通番を付してください。今年度から、到達目標の達成状況を各定期試験，レポートで確認することとなりましたので、簡条書きの方法を推奨します。

<記載例>

1. ○○○が理解できる。

2. ○○○を行える。

7. 「評価方法」欄について（260文字以内）

・評価は、少なくとも学生の学習目標の達成度を評価するものです。学生の到達目標に記載した事項は全て具体的にエビデンスを残して評価してください。

・具体的な方法を簡条書きで記載し、その割合をパーセンテージで明記し、合計が100%になるようにしてください。

（各項目には「約80%」といった曖昧な表記はせず、「80%」と表記してください。）

・評価の仕方は、学生がわかるようにしてください。

・授業への出席は100%が原則ですので「**出席点**」等の表現は使用しないでください。

・受講態度や取組方を評価対象とする場合は、その割合を10%程度として具体的な評価基準を記載してください。

・レポート・小テスト等を評価対象とする場合は、点数基準を明らかにし、それに従って評価しエビデンスを残してください。

<記載例>

中間試験（40%），期末試験（40%），レポート（10%），小テスト（10%）

受講態度は、宿題の提出、授業中の指名に対する回答の回数を評価する。

取組方は、演習結果やレポートの提出回数を評価する。

8. 「その他履修上の注意事項や学習上の助言」欄について（400文字以内）

- ・出席の際に持参すべき物品や、前提とする基礎知識の程度・範囲等を記載してください。
- ・学修単位となる科目には、授業時間外に必要な学修（自学自習）の内容を記載してください。
- ・数学科目には、専門科目の関連について記載してください。

<記載例>

関数電卓を持参すること。必ず作業服及び作業帽を着用のこと。

1年次に学習した電磁気学の基礎的な法則を確実に理解しておくこと。

電子回路の基礎知識が必要である。

9. 「レポート等」欄について（200文字以内）

自宅学習等の課題を与える場合に記載してください。

<記載例>

長期休業中に自習課題を与える。適宜、課題を課す。

随時、講義内容の復習のためのレポート課題を与える。

理解を深めるため、定期的に課題を与える。

10. 「関連科目」欄について（15文字以内×5科目）

関連する授業科目名を記載してください。

<記載例>基礎数学A, 基礎数学B, 解析学I, 代数・幾何

11. 「教科書、教材、参考書等」欄について（各項目60文字以内）

- ・著者・書籍・出版社名を記載してください。
- ・ISBNコードもお調べください。Web版シラバスから蔵書検索システムにリンクできます。（但し、平成19年1月から従来の10桁から13桁の新しい規格ができましたが、今年度のWebシラバスシステムでは対応しておりませんので、ご了承ください。）

<記載例>藤田 宏「電動応用」（森北出版）

教員各位殿

各科目の学習目標の設定とシラバスの書式

【準学士課程の場合】

本校で定めた学習目標に対して、どのような科目群がそれを達成しようとしているか、ということ科目ごとに設定していただきました。これは次のような考え方に基づいています。

- (1) 例えばある科目で、学習目標2の「課題の解決」が主目標を挙げているとしても、「効率的なエネルギーの活用などを通して環境問題等を扱っている科目は、環境に配慮する人材の育成に寄与している」ということから、学習目標3「社会と環境」のを副目標としてください。
- (2) 高専で学ぶ科目は、いってみればすべてが工学を学ぶための基礎学力の養成を目指すものである、という考え方もあります。しかし学習目標1の「基礎知識」とは、準学士課程の中での基礎を成す部分であると考えてください。

この考えを受けて、シラバスの授業目標欄には次のように記載することとなっています。

1. 授業目標欄：設定した学習目標のキーワードを含めて、その内容を具体的に記述する。
2. 学習・教育目標との対応欄：当該科目の主目標と副目標をその順に列記する。

すでに決めていただいた各科目の学習目標の一覧表にしたものが資料 1「教育課程—学習目標対応表」です。これを参考として間違いがないように記入してください。

準学士課程の学習目標

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

【専攻科課程の場合】

専攻科課程の科目の学習目標は、創造工学プログラムで設定したものと同じでなければなりませんのでご注意ください。原則的には科目ごとにひとつの学習目標に対応しますが、創造工学演習などは2つの目標に対応しています。

専攻科の学習目標と創造工学プログラムの学習目標は（一部を除いて）同じです。

専攻科課程の学習目標

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

(例：シラバス) 準学士課程 JABEE 非対応科目

|                                                          |                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業目標                                                     | 数学的な考え方は科学の理解に不可欠といわれている。特に、自然科学を系統的に把握しようとすれば尚更である。<br><br>高専の数学は専門科目の理解に必要な <b>基礎学力</b> を養うために、広範囲の内容を扱う。また、数学を用いた <b>課題解決の方法</b> を学び、証明等を通じて <b>論理的な表現力</b> を養う。 |
| ■学習・教育目標との対応<br><b>本科学習目標：1, 2, 4</b> 専攻科・創造工学プログラム学習目標： |                                                                                                                                                                     |

(上記科目の「教育課程—学習目標対応表」の部分)

| 授業科目   | 単位数 | 学年別配当 |   |   |   |   | 学習目標 |   |   |   |
|--------|-----|-------|---|---|---|---|------|---|---|---|
|        |     | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 1    | 2 | 3 | 4 |
| 基礎数学 A | 4   | 4     |   |   |   |   | ◎    | ○ |   | ○ |

(例：シラバス) 準学士課程 JABEE 対応科目

|      |                                         |
|------|-----------------------------------------|
| 授業目標 | 解析学 II は、専門科目を学ぶために最も重要な科目であり、その応用は多岐にわ |
|------|-----------------------------------------|



|                                                                  |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---|---|---|---|--|--|--|---|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|--|---|
|                                                                  | <p>たる。微分積分学の基本的事項，偏微分法，重積分法，微分方程式についてその概念と計算法，および応用について学ぶ。</p> <p>この授業では，工学を学ぶ上で<u>必要な基礎学力を身につけ</u>，さまざまな<u>工学的な課題の解決方法</u>を習得することを目的とする。また，答案の作成やレポートの作成等を通じて，<u>自分の考え方の正確な表現力</u>を養う。</p> |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>■学習・教育目標との対応</p> <p>本科学習目標：2, 1, 4 専攻科・創造工学プログラム学習目標：B(2)</p> |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>■評価方法</p> <p>定期試験 70%，レポート 30%</p>                            |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>(上記科目の「教育課程—学習目標対応表」の部分)</p>                                  |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>授業科目</p>                                                      | <p>単位数</p>                                                                                                                                                                                  | <p>学年別配当</p>                                                                                                                                                | <p>学習目標</p> |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>解析学 II</p>                                                    | <p>4</p>                                                                                                                                                                                    | <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td></td> </tr> </table> | 1           | 2 | 3 | 4 | 5 |  |  |  | 4 |  | <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table> | 1 | 2 | 3 | 4 | ○ | ◎ |  | ○ |
| 1                                                                | 2                                                                                                                                                                                           | 3                                                                                                                                                           | 4           | 5 |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
|                                                                  |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             | 4           |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| 1                                                                | 2                                                                                                                                                                                           | 3                                                                                                                                                           | 4           |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| ○                                                                | ◎                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                             | ○           |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>(例：シラバス) 専攻科科目</p>                                            |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>授業目標</p>                                                      | <p>線形の数学に基づいた理論的解析能力を身につけることによって，論理を積み重ねて<u>問題の解決に到達する</u>過程を学ぶ。</p>                                                                                                                        |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>■学習・教育目標との対応</p> <p>専攻科・創造工学プログラム学習目標：B(2)</p>                |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |
| <p>(出典：学生課保管資料)</p>                                              |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                             |             |   |   |   |   |  |  |  |   |  |                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |  |   |

## 資料 5-2-②-2 : シラバス例 (一般科目のうち講義科目, 学修単位科目例)

| 科目名                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                            | 学年 | 単位数    | 区分              | 開講期                              | 担当教員  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|-----------------|----------------------------------|-------|
| 基礎数学B<br>Basic Mathematics B                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                            | 1年 | 3      | 必修              | 通年<br>前: 50分×2回/週<br>後: 50分×4回/週 | 阿蘇 和寿 |
| 履修単位                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                             | 機械工学科                                                                                                                                                                                      |    |        |                 |                                  |       |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                             | <p>数学的な考え方は科学の理解に不可欠と云われている。特に、自然科学を系統的に把握しようとすれば尚更である。高専の数学は専門科目の理解に必要な広範囲の内容を扱う。その基礎部分の修得を目的とする。</p> <p>高専の数学は専門科目の理解に必要な基礎学力を養うために、広範囲の内容を扱う。また、数学を用いた課題解決の方法を学び、証明等を通じて論理的な表現力を養う。</p> |    |        |                 |                                  |       |
| ■学習・教育目標との対応<br>本科: 1, 2, 4                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■キーワード<br>数、2次の関数・方程式・不等式、関数とグラフ、指数関数・対数関数、個数の処理                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■年間スケジュール                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| 【前期】                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                            |    | 【後期】   |                 |                                  |       |
| 第1週                                                                                                                                                                                                                              | 実数の分類(整数、有理数、無理数)                                                                                                                                                                          |    | 第1週    | 無理関数のグラフを描く     |                                  |       |
| 第2週                                                                                                                                                                                                                              | 平方根とその計算、分母の有理化                                                                                                                                                                            |    | 第2週    | 逆関数             |                                  |       |
| 第3週                                                                                                                                                                                                                              | 2次関数のグラフを描く                                                                                                                                                                                |    | 第3週    | 累乗根の定義と計算       |                                  |       |
| 第4週                                                                                                                                                                                                                              | 2次関数の最大と最小                                                                                                                                                                                 |    | 第4週    | 指数法則の理解と指数計算    |                                  |       |
| 第5週                                                                                                                                                                                                                              | 因数分解や解の公式を利用した2次方程式の解法                                                                                                                                                                     |    | 第5週    | 指数関数のグラフを描く     |                                  |       |
| 第6週                                                                                                                                                                                                                              | 解の公式と判別式                                                                                                                                                                                   |    | 第6週    | 指数方程式と不等式を解く    |                                  |       |
| 第7週                                                                                                                                                                                                                              | 複素数とその計算                                                                                                                                                                                   |    | 第7週    | 演習              |                                  |       |
| 前期中間試験                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                            |    | 後期中間試験 |                 |                                  |       |
| 第8週                                                                                                                                                                                                                              | グラフと方程式の関係                                                                                                                                                                                 |    | 第8週    | 対数の定義と対数の計算     |                                  |       |
| 第9週                                                                                                                                                                                                                              | グラフと不等式の関係                                                                                                                                                                                 |    | 第9週    | 対数関数とグラフを描く     |                                  |       |
| 第10週                                                                                                                                                                                                                             | グラフを用いた2次不等式の解法                                                                                                                                                                            |    | 第10週   | 対数方程式と不等式を解く    |                                  |       |
| 第11週                                                                                                                                                                                                                             | 関数の平行移動                                                                                                                                                                                    |    | 第11週   | 場合の数(積の法則・和の法則) |                                  |       |
| 第12週                                                                                                                                                                                                                             | 関数の対称移動                                                                                                                                                                                    |    | 第12週   | 順列の考え方とその計算     |                                  |       |
| 第13週                                                                                                                                                                                                                             | べき関数のグラフを描く                                                                                                                                                                                |    | 第13週   | 組合せの計算とその応用     |                                  |       |
| 第14週                                                                                                                                                                                                                             | 分数関数のグラフを描く                                                                                                                                                                                |    | 第14週   | 二項定理            |                                  |       |
| 前期末試験                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                            |    | 学年末試験  |                 |                                  |       |
| 第15週                                                                                                                                                                                                                             | 演習                                                                                                                                                                                         |    | 第15週   | 演習              |                                  |       |
| ■学生の到達目標<br>2次関数と方程式、不等式の間関係を説明することができる。<br>次の関数のグラフを理解し、描くことができる。<br>2次関数・べき関数<br>分数関数・無理関数<br>指数関数・対数関数<br>これらの関数の、方程式、不等式への応用をはじめとする初等的応用ができる。<br>順列と組合わせの考え方をを用いて個数の処理ができる。                                                  |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■評価方法<br>定期試験の総合的評価(60%)<br>課題、小テストなど(20%)<br>宿題、受講態度など学習への取り組みの総合的評価(20%)<br>定期試験には再試験をする場合がある。再試験を行った場合、本試験の点数と、本試験と再試験の点数の平均点のよい方をとる。                                                                                         |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■その他履修上の注意事項や学習上の助言<br>試験前の学習はもちろん平常時の予習・復習が非常に大切である。<br>分からないことや疑問点などがあれば遠慮なく質問すること。<br>受講するときは講義に集中し、携帯電話の電源を切るなど他の学生に迷惑を掛けないようにすること。<br>関連科目:<br>(1) 機械要素(2年前): 2次関数、べき関数、指数関数(ねじの力学ほか計算に使用)<br>(2) 機械工作法(2年後): 対数関数(切削理論に使用) |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■レポート等<br>到達目標の達成度を確認するために、適宜、課題・小試験を行う。<br>課題は必ず提出すること。課題の提出状況が悪い場合には年度末に新たな課題の提出を求める場合がある。<br>定期試験には講義内容を十分に理解して受験すること。                                                                                                        |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■関連科目<br>基礎数学A, 解析学I, 代数・幾何I                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |
| ■教科書, 教材, 参考書等<br>教科書: 田代嘉宏編 「高専の数学1」(森北出版)<br>教材等: 田代嘉宏編 「高専の数学1問題集」(森北出版)<br>参考書: 図書館に多数の関連書籍がある                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                            |    |        |                 |                                  |       |

(出典: 平成19年度シラバス)

## 資料 5-2-②-3 : シラバス例 (専門科目のうち実験・実習を含む科目例)

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 学年                                                                                            | 単位数 | 区分         | 開講期            | 担当教員  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------|----------------|-------|
| 機械実習III<br>Workshop Practice III                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 3年                                                                                            | 2   | 必修<br>履修単位 | 通年<br>50分×4回/週 | 河野 顕臣 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 機械工学科                                                                                         |     |            |                |       |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 機械実習I・IIで修得した技能・技術を基礎に、「重量物運搬ローラ」と「ウインチ」をテーマに、課題の設計から製作までの総合実習を行って、機械技術者としての必要な技能、態度、習慣を体得する。 |     |            |                |       |
| <b>■学習・教育目標との対応</b><br>本科：2, 1 専攻科・創造工学プログラム：B(1)専門（機械工学）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■キーワード</b><br>設計・製図、製作、性能試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■年間スケジュール</b><br><b>【前期】</b><br>第1週 重量物運搬ローラ 溶接(1)<br>第2週 重量物運搬ローラ 溶接(2)<br>第3週 重量物運搬ローラ フライス盤(1)<br>第4週 重量物運搬ローラ フライス盤(2)<br>第5週 重量物運搬ローラ 旋盤(1)<br>第6週 重量物運搬ローラ 旋盤(2)<br>第7週 ウインチ 旋盤(1)<br>第8週 ウインチ 旋盤(2)<br>第9週 ウインチ ホブ盤(1)<br>第10週 ウインチ ホブ盤(2)<br>第11週 ウインチ フライス盤(1)<br>第12週 ウインチ フライス盤(2) 以上6班でローテーション<br>第13週 組み立て、試運転、評価(1)<br>第14週 組み立て、試運転、評価(2)<br>第15週 発表、復習 |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■学生の到達目標</b><br>1. 設計・製図をできる。<br>2. 部品の材料を選択できる。<br>3. 部品の加工をできる。<br>4. 組み立てをできる。<br>5. 課題目標と製作物の性能を比較し、評価ができる。<br>6. 目的意識を持ち、問題解決ならびに柔軟に応用する能力を養うことを目標とする。                                                                                                                                                                                                            |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■評価方法</b><br>実習における製作物および加工・組み立て能力(70%)、レポート(30%)などを総合的に判断する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■その他履修上の注意事項や学習上の助言</b><br>作業服、帽子を必ず着用し、安全に注意する。<br>班員は相互に協力する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■レポート等</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■関連科目</b><br>機械基礎製図I, 機械基礎製図II, 機械要素, 機械工作法I, 機械工作法II                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                               |     |            |                |       |
| <b>■教科書, 教材, 参考書等</b><br><b>教科書:</b><br><b>教材等:</b> 参考用プリントを配付する。<br><b>参考書:</b> 林則行ほか「機械設計法」(森北出版), 図書館に設計・製図・機械材料の書籍がある。                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                               |     |            |                |       |

(出典：平成19年度シラバス)

## 2) シラバスの活用状況

新学期に入り、担任から当該学年で履修する全科目が掲載されたシラバスの配布がなされ、各科目においてはシラバス内容を最初の授業で説明することになっている。このシラバス活用方法に関する説明は、教員間で統一した対応がなされている（資料 5-2-②-4）。具体的には、科目およびそれに関連した学校の目標の説明、試験等へのシラバスの活用方法、学修単位にあっては事前事後学習の必要性を説明することを教員に要請する内容となっている。

一方、学生自身にはシラバスに書かれた学習内容を「学生の到達目標」として身につけることを求めている。またシラバスの活用状況を調べるためにアンケート調査を行った結果、第2, 3学年は、25%以下と低い活用度であるが、第5学年では50%近くの学生が活用している結果となった（資料 5-2-②-5）。

- 資料 5-2-②-4：シラバス活用に関する申し合わせ資料
- 資料 5-2-②-5：学生のシラバス活用状況のアンケート結果

## 資料 5-2-②-4：シラバス活用に関する申し合わせ資料

## シラバスの活用に関する申し合わせ

各年度の最初の授業では、特にシラバスの活用について次のことを説明してください。

## 1. 当該および学校の学習目標の説明

当該科目の授業目標はシラバスに記載されているはずです。それにしたがって、この授業を受けることによってどのような能力を育成しようとしているのか説明してください。また、科目の目標は学習目標の学習目標と結びついているはずなので、同時に、学生達が卒業するまでに身につけるべき学校の学習目標について触れてください。ただし、後者はすべての授業で重複して行われるので、軽く触れる程度で構いません。

## 2. 試験等へのシラバスの活用方法

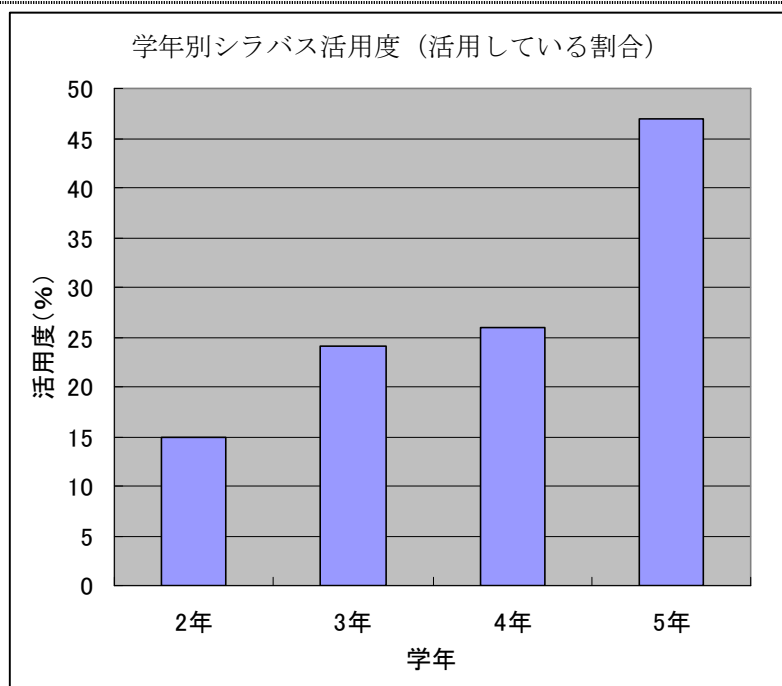
試験は科目の学習目標を達成したかどうかの確認のために行われるものであるということを学生に伝え、定期試験を受けるに際しては、何を求められるのかを、シラバスによってよく理解して臨むように指導してください。教員にあっては、学習目標の理解度を確かめるための試験問題を作成していただくことは、すでにお願ひしているところです。

## 3. 学修単位にあっては事前事後学習の必要性

準学士課程の第3学年以上の一部の科目、および、専攻科課程の科目は学修単位となっています。これは45時間の学修によって1単位を認定するものですが、準学士課程の科目は授業時間30時間で1単位、専攻科課程の科目は授業時間15時間で1単位ということになっています。したがってそれ以外の学修は事前学習（予習）、事後学習（復習）によって補わなくてはなりません。1回分の授業に対して準学士課程ならば1時間、専攻科課程ならば2時間の事前事後学習が必要である旨を伝えてください。

（出典：学生課保管資料）

資料 5-2-②-5 : 学生のシラバス活用状況アンケートの結果



(出典：シラバス活用状況アンケート結果から作成)

(分析結果とその根拠理由)

以上のように、シラバスは教育課程の編成方針に沿って適切に作成されている。また学生へのシラバスに関する説明も全教員によって統一した意識のもとに実施されている。学生側の活用状況は低学年では低い、学年が進行するにつれてその活用度は増加している。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

1) 創造性を育む教育方法の工夫事例

当該観点に関連して準学士課程の学習目標では、「2. 課題解決への姿勢」を定めている。これらの学習目標に沿って様々な創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫がなされている（資料5-2-③-1）。また平成17年度から「石川高専オンリー1プロジェクト」と呼ばれる学生支援プログラムによる学生の創造性を育む取組を行っている。具体的には、学科横断的な学生グループからプロジェクト企画案を募り、審査を経て採択されたプログラムを実施している（資料5-2-③-2, 3）。

- 資料5-2-③-1：PBLの実践例
- 資料5-2-③-2：石川高専オンリー1プロジェクトの募集要項と応募要項（平成18年度）
- 資料5-2-③-3：石川高専オンリー1プロジェクトで採択された実施例（平成18年度）

資料5-2-③-1：PBLの実践例

- |                                                                  |                                   |
|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input type="checkbox"/> 教材の工夫    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業                        | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業 |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用  |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                         | <input type="checkbox"/> その他（ ）   |

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 学年・学科・科目 | 2, 3年生および4年生・建築学科・建築設計 |
| 実施教員等    | 村田一也, 内田伸              |
| 工夫・内容等   | 間伐材を有効利用した建築ワークショップ    |

目標・内容・効果等：

間伐材の有効利用をめざした実物制作（ベンチ）によるものづくり教育の実践。

2学年にわたって、チームわけをし、各チーム毎に間伐材を使用したベンチを制作する。

構想から計画・設計、実施制作までを通して経験することから、ものづくりに対する知見を養う。



（出典：学生課保管資料）

## 資料 5-2-③-2 : オンリー1プロジェクトの募集要項

平成19年度石川工業高等専門学校学生支援プログラム  
「石川高専オンリー1プロジェクト」の募集について

本学では、学生の皆さんが持っている自主性、創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より充実した学生生活を送つ、「石川高専オンリー1プロジェクト」を創設しました。

本年度は下記により募集し支援することとしましたので、多くの皆さんから独創的で魅力あるプロジェクトの応募を期待し

## 『石川高専オンリー1プロジェクト』

## 募 集 要 項

| 区 分            | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 応 募 要 件     | <p>1. 自由部門</p> <p>テーマは限定しません。地域が主催するイベントや学校行事(各種コンテスト、紀友祭等)への参加・出展、個人で取り組みたいモノ作りなど自由な発想で企画してください。</p> <p>(1) 学科部門<br/>(2) 課外活動部門<br/>(3) 個人部門(2名以上の参加も可)</p> <p>2. 課題部門</p> <p>① 環境や省エネルギー効果に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究やロボコン・プロコン・デザコン等の授業や学校行事に関係するものは除外します。</li> <li>全ての部門について、本科生及び専攻科生(外国人留学生を含む。)で構成され、学生自身が自主的に企画・運営するもので、原則として、平成20年2月末日迄に終了するものとします。</li> </ul> |
| 2. 援 助 金 額     | <p>1. 自由部門</p> <p>全部門1件あたり10万円程度、総額100万円以内となります。また、原則として物品による現物援助とし、旅費等は援助できません。</p> <p>2. 課題部門</p> <p>金額の上限は設定しませんが、安価で性能のよいものを採択します。また、製作金額によっては企画のみとなることもあります。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| 3. 応 募 方 法     | プロジェクト企画書(所定の用紙)を期日迄に学生課学生係に提出してください。(企画書は、学生課学生係で配布します。)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 4. 応 募 締 切 日   | 平成19年5月31日(木)17時必着                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 5. 採 用 決 定     | 平成19年6月下旬 応募代表者に通知するとともに、掲示で発表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 6. 選 考 方 法     | 次に掲げる点等を考慮し、校長、副校長、学生主事が審査、決定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の自主性、創造性を発揮できるもの</li> <li>学生の交流が活発になり、相互理解とより良い人間関係を築けるもの</li> <li>アイディア性豊かで、結果に期待が望めるもの</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                     |
| 7. 実 施 報 告     | プロジェクト終了後、作品についての特徴やコンセプト、製作プロセス、制作上の問題点と対処方法、今後の改善点等をまとめた報告書や写真・ビデオの提出とともに、学校が提供する場でプレゼンテーションを行ってまいります。                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 8. 問 い 合 わ せ 先 | 学生課学生係 内線 : 305~307                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

(出典：学生課保管資料)

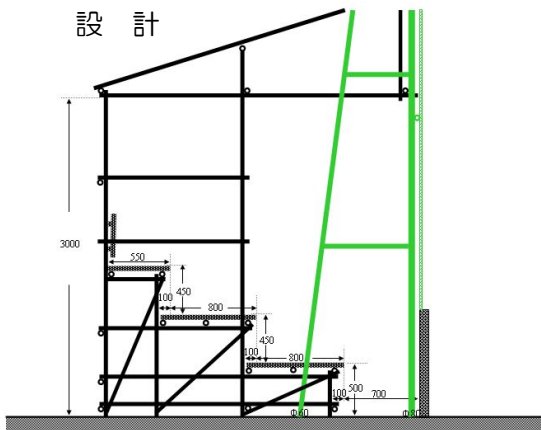
資料 5-2-③-3 : オンリー1プロジェクトで採択された実施例

平成18年 1月19日

平成18年度オンリー1プロジェクト活動報告書

|         |                                                                                                                                                                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | 建築足場材料を用いた野球場バックネット裏、観客席の作製                                                                                                                                                                                |
| 活動学生    | 石川高専 野球部<br>建築学科 3年<br>環境都市工学科 3年                                                                                                                                                                          |
| 目的      | 1. 学校活動に役立つ物を作製する。<br>2. 学校で学んだ知識を生かし、観戦しやすく、安価で強度、耐久性のある野球場バックネット裏観客席を作製することを目的とする。                                                                                                                       |
| 活動内容    | 設計: 観戦しやすいように1段目の座面高を500mmと高めに設計した。<br>計測・単管の切断: 単管をパイプカッターで必要な長さに切断。<br>単管の配置: 所定の場所に単管を配置。<br>単管の組立て: 水平器で水平・垂直位置を確認しながらの組み立て。<br>板の塗装: 下地に防腐剤を塗り、乾かした後にカラー塗装を行なう。<br>座面の固定: 垂木を設置し、コースレッドで座板を固定         |
| 状況      | 野球場バックネット裏に40名程度が観戦できる観客席が設置された。観客席の設置により、視界が高く、かつ広くなり観戦しやすくなった。既に球技大会や野球部の練習試合で利用され、好評である。<br>=課題=<br>・観客席中央付近にステップをつけたのだが、3塁側の端にもステップが欲しいとの意見が多く出た。<br>・申請では屋根まで製作する予定だったが、予算の見積もりが甘く、屋根まで製作することはできなかった。 |
| その他     | 今回出た課題は平成19年度オンリー1プロジェクトに申請し、クリアしたい。当初予定していた屋根部分を含めた観客席の完成を目指す。                                                                                                                                            |

設計





## 2) 学外実習（インターンシップ）の活用状況

本科においては第4学年の希望者に対して学外実習（本校では専攻科1年生に対しては長期インターンシップを実施しており，本科第4学年に実施している同様の教育活動を学外実習と呼び区別している）を実施しており（既出資料 5-1-②-6），担任もこれに積極的に参加するよう指導している。最近の各科における学外実習の参加学生数は増加の傾向が見られる（資料 5-2-③-4）。参加した学生には，報告書と実習日誌の提出を義務づけている（資料 5-2-③-5, 6）。学外実習は，学生にとって進路決定，専門科目の必要性の再認識，社会常識（規範）の確認など多くの教育効果を生み出している。

- 資料 5-2-③-4：学外実習実施参加人数一覧（過去3年分）
- 資料 5-2-③-5：学外実習実施報告書
- 資料 5-2-③-6：学外実習日誌

## 資料 5-2-③-4：学外実習実施参加人数一覧（過去3年分）

平成16年度夏季学外実習（インターンシップ）

希望者数（4年次）

平成16年5月31日現在

| 学 科 名   | 在学者数        | 希望者数        | 希 望 率 | 対前年度 |
|---------|-------------|-------------|-------|------|
| 機械工学科   | 43<br>(1)   | 14<br>(1)   | 33%   | +3%  |
| 電気工学科   | 37<br>(3)   | 36<br>(2)   | 97%   | +71% |
| 電子情報工学科 | 39<br>(14)  | 34<br>(14)  | 87%   | +10% |
| 環境都市工学科 | 43<br>(14)  | 29<br>(13)  | 67%   | -7%  |
| 建築学科    | 38<br>(22)  | 32<br>(20)  | 84%   | -7%  |
| 合 計     | 200<br>(54) | 145<br>(50) | 73%   | +12% |

平成17年度夏季学外実習（インターンシップ）

希望者数（4年次）

平成17年5月31日現在

| 学 科 名   | 在学者数        | 希望者数        | 希 望 率 | 対前年度 |
|---------|-------------|-------------|-------|------|
| 機械工学科   | 40<br>(1)   | 35<br>(1)   | 88%   | +55% |
| 電気工学科   | 42<br>(8)   | 42<br>(8)   | 100%  | +3%  |
| 電子情報工学科 | 38<br>(13)  | 36<br>(13)  | 95%   | +8%  |
| 環境都市工学科 | 35<br>(9)   | 15<br>(7)   | 43%   | -24% |
| 建築学科    | 48<br>(25)  | 44<br>(24)  | 92%   | +8%  |
| 合 計     | 203<br>(56) | 172<br>(53) | 85%   | +12% |

（ ）は女子で内数。

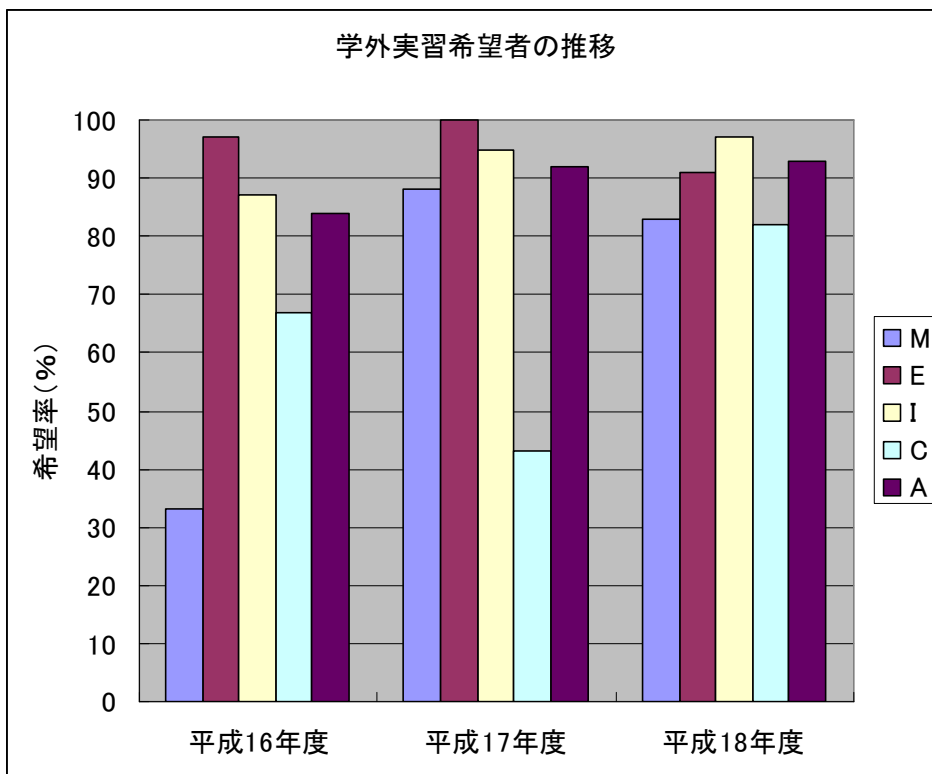
平成18年度夏季学外実習（インターンシップ）

希望者数（4年次）

平成18年6月7日現在

| 学 科 名   | 在学者数        | 希望者数        | 希 望 率 | 対前年度 |
|---------|-------------|-------------|-------|------|
| 機械工学科   | 41<br>(1)   | 34<br>(0)   | 83%   | -5%  |
| 電気工学科   | 44<br>(8)   | 40<br>(7)   | 91%   | -9%  |
| 電子情報工学科 | 37<br>(12)  | 36<br>(12)  | 97%   | +2%  |
| 環境都市工学科 | 39<br>(16)  | 32<br>(15)  | 82%   | +39% |
| 建築学科    | 44<br>(25)  | 41<br>(24)  | 93%   | +1%  |
| 合 計     | 205<br>(62) | 183<br>(58) | 89%   | +4%  |

( ) は女子で内数。



(出典：学生課保管資料)

資料 5-2-③-5 : 学外実習実施報告書

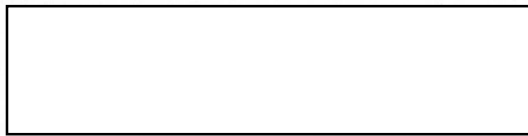
(学生が提出する学外実習実施報告書)

|      |      |      |      |      |      |     |
|------|------|------|------|------|------|-----|
| 教務主事 | 学科主任 | 学級担任 | 学生課長 | 課長補佐 | 教務係長 | 教務係 |
|      | 鶴崎   | [印]  |      |      |      | 橋   |

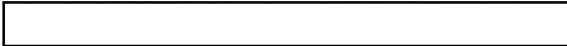
学外実習報告書

平成18年10月2日

石川工業高等専門学校長 殿



実施企業等の名称及び配属先



実施の期間 平成18年7月24日 ~ 8月4日

実務日数及び時間 実務 10 日間 (延べ 78 時間)

実習の内容・所感

実習の内容は、主に測定機器を使用しての様々な「測定」でした。最初の頃はマイクロメータやノギス等、使い慣れた道具から、徐々にビッカース硬度計等の使用経験のないもの、さらにはアムスラー万能試験機などという、名前も聞いたことのないような機械を使用しました。これらの機器を使用した実習は、とても興味深く、いい経験になったと思います。

また、とても印象に残ったことが、どんな現場においても、「安全」がすごく重要視されているということでした。必要以上だと思えるほどの徹底ぶりです。最初の頃はわざわざついていってあげたのですが、実習が終る頃には習慣として体に身についていて習慣づける。というのとはとても大事なことなのだと思います。

※ 学外実習日誌を添付すること。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-2-③-6 : 学外実習日誌

## 学外実習日誌

M 学科 4 年 学籍番号

実習期間 平成 18 年 7 月 24 日 ~ 8 月 4 日 (実務 10 日間 延べ ~~10~~<sup>18</sup> 時間)

| 実習期間 |   | 実習時間                              | 実習内容・感想                               |
|------|---|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 月/日  | 曜 |                                   |                                       |
| 7/24 | 月 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | 測定機器を使用した各部品の寸法測定                     |
| 7/25 | 火 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | 前日測定した各部品の寸法データより、Cp値を算出する。           |
| 26   | 水 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | 形状測定機を使用した部品の形状測定<br>・#80チェーンの各項目の測定  |
| 7/27 | 木 | 自 8:00<br>至 19:00<br>( 8 時間 00 分) | ・アムスター万能試験機での破断テスト<br>・サンドペーパーを使用した研磨 |
| 7/28 | 金 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | ・サンドペーパーでの研磨<br>・ビッカース硬度計での硬度測定       |
| 7/31 | 月 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | ・ビッカース硬度計での硬度測定<br>・測定結果をグラフに加工       |
| 8/1  | 火 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | ・カラーチェックでのひび割れ観測                      |
| 8/2  | 水 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | ・焼入による機械的性質への影響の観察<br>・アムスター試験機での測定   |
| 8/3  | 木 | 自 8:00<br>至 17:00<br>( 8 時間 00 分) | ・CAD演習<br>・チェーン選定による計算                |
| 8/4  | 金 | 自 8:00<br>至 15:00<br>( 6 時間 00 分) | ・報告書の作成                               |

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む教育方法として、全学科で実施している実験実習ならびに卒業研究においてそれらの内容を工夫することによってPBLに添った教育方法が実施されている。また第4学年の学外実習に関しては、近年8割以上の学生が希望して実習を受けている。学生にとって進路決定、専門科目の必要性の再認識、社会常識(規範)の確認など多くの教育効果を生み出している。

### ＜準学士課程＞

観点5-3-①：成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

#### 1) 成績評価・単位・進級・卒業の認定

試験の実施方法、成績評価・単位認定に関わる規則は、学生便覧に記載されている(資料 5-3-①-1, 2)。各科目の成績に関してはシラバスに「評価方法」欄で定期試験や課題レポート等の配分を明記している(既出資料 5-2-②-2, 3)。試験結果については各定期試験後に必ず試験答案の返却と解説を実施し、各学期最終日に試験結果についての学生からの意見申立ての機会を設けている(資料 5-3-①-3)。また規則第5条にあるように3科目以内の未修得科目を有する者も進級可能であるが(資料 5-3-①-4)、次年度以降の単位追認試験期間(年4回)に実施される単位追認試験に合格しなければならない(資料 5-3-①-5, 6)。

- 資料 5-3-①-1：試験に関する規則
- 資料 5-3-①-2：成績評価・単位認定規則
- 資料 5-3-①-3：成績評価方法と試験結果の返却日の設定
- 資料 5-3-①-4：進級・卒業認定規則
- 資料 5-3-①-5：単位追認試験年間予定表と時間割例(前期分)
- 資料 5-3-①-6：単位追認試験報告書

## 資料 5-3-①-1 : 試験に関する規則

## 第1章 総則

## (趣旨)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学業成績の評価及び進級・卒業の認定については、別に定めのある場合を除き、この規則に定めるところによる。

## 第2章 試験

## (試験)

第2条 本校における試験は、定期試験、追試験及び単位追認試験とし、その他授業担当教員が必要に応じて行うものとする。

## (定期試験)

第3条 定期試験は、各学期の中間及び学期末の年4回行うものとする。

2 定期試験以外の方法で評価し得る科目については、定期試験の全部又は一部を行わないことがある。

## (追試験)

第4条 追試験は、病気事故その他やむを得ない事由により、定期試験を受けることができなかつた者について行うことがある。

## (単位追認試験)

第5条 単位追認試験は、学業成績が50点未満の科目（以下「未修得科目」という。）を有して進級を認められた者及び未修得科目を有する状態で卒業、退学を希望する者について行うことがある。

## (試験の欠席)

第6条 正当な理由なく試験を欠席した場合は、当該試験成績を0点とする。

## (不正行為)

第7条 試験において不正行為を行った場合は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

(出典：学生便覧)

## 資料 5-3-①-2：成績評価・単位認定規則

## 第3章 学業成績評価及び単位認定

## (学業成績の評価)

第8条 学業成績の評価は、予め明示された評価方法に基づき100点法により行うものとする。

第9条 学業成績の評価は、次の算式による年間欠課時数が年間授業時数の4分の1を超えていない科目についてのみ行う。

$$\text{年間欠課時数} = A \times 3 / 4 + B$$

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者），その他やむを得ない事由によると認められた欠課時数

B：Aの場合以外の欠課時数

## (学業成績の評語)

第10条 学業成績の評語は、S、A、B、C、D及び不可とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがある。その区分は次表のとおりとする。

| 評語 | 評価                |
|----|-------------------|
| S  | 90点以上             |
| A  | 80点以上90点未満        |
| B  | 70点以上80点未満        |
| C  | 60点以上70点未満        |
| D  | 50点以上60点未満        |
| 不可 | 50点未満             |
| 合格 | 50点以上             |
| 認定 | ただし、卒業研究は60点以上とする |

第11条 学業成績の評価が50点以上の科目について、当該科目の単位を認定する。ただし、卒業研究は、60点以上について単位を認定する。

## (成績の通知)

第12条 成績の評価は、学生については各学期の中間及び学期末に、保護者については各学期末に通知するものとする。

(出典：学生便覧)

資料 5-3-①-3 : 成績評価方法と試験結果の返却日の設定

■キーワード

フィードバック制御, 伝達関数, 過渡応答, P I D制御, 周波数応答, 安定性

■年間スケジュール

【前期】

- 第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム
- 第2週 動的システムの微分方程式による表現
- 第3週 式の解析および数値計算による解法, シミュレーション
- 第4週 非線形システムの線形化
- 第5週 力学系・電気系の類似, 動的パターンの式
- 第6週 ラプラス変換, 伝達関数の定義
- 第7週 過渡応答の代表的な入力とラプラス変換  
前期中間試験
- 第8週 代表的な要素の伝達関数
- 第9週 1次系の過渡応答, 時間定数
- 第10週 水槽液面のステップ応答
- 第11週 2次系の過渡応答, 自然周波数
- 第12週 2次系インパルス応答, シミュレーション
- 第13週 系の結合, ブロック線図の等価変換
- 第14週 伝達マトリックスによる結合  
前期末試験
- 第15週 試験の返却と解説, 前期復習

【後期】

- 第1週 フィードバック制御系の基本制御動作
- 第2週 P I D制御, 調節器による最適調整
- 第3週 周波数応答と周波数伝達関数
- 第4週 周波数応答の結果の表現, ベクトル軌跡による方法
- 第5週 ベクトル軌跡作図演習
- 第6週 周波数応答の結果の表現, ボード線図
- 第7週 ボード線図作図演習  
後期中間試験
- 第8週 安定判別法
- 第9週 フィードバック系の安定判別(ゲイン余裕, 位相余裕)
- 第10週 特性方程式によるラウスの方法
- 第11週 特性方程式によるフルビッツの方法
- 第12週 ナイキストの安定判別法
- 第13週 新しい制御理論の特徴
- 第14週 現代制御理論  
学年末試験
- 第15週 試験の返却と解説, 後期復習

試験答案の返却と解説を行う週

■学生の到達目標

1. 自動制御系を構成する基本要素が説明できる。
2. 閉ループ制御系の特性(良い応答・悪い応答)が説明できる。
3. 微分方程式を使ってさまざまな動的システムが表現できる。
4. 微分方程式を解析し, 数値計算やシミュレーションが行える。
5. ラプラス変換・逆ラプラス変換を自在に活用できる。
6. 代表的な入出力の形を伝達関数で表現できる。
7. 基本的な要素に対するインパルス・インディシャル応答を説明できる。
8. ブロック線図の結合・等価変換が行える。
9. 比例・積分・微分制御における各動作の働きと特徴を説明できる。
10. 基本的な要素に対し周波数応答の表現を行うことができる。
11. 伝達関数をもとに実際にベクトル軌跡を描くことができる。
12. 伝達関数から実際にボード線図を作図することができる。
13. 特性方程式(ラウス, フルビッツの方法)を使い安定判別ができる。
14. ベクトル軌跡, ボード線図からシステムの安定判別ができる。
15. ナイキスト線図からシステムの安定判別ができる。
16. 現代制御の手法や例が説明できる。

■評価方法

定期試験(80%), 演習課題(10%), 講義中演習の提出状況(授業中の取り組みを含む)(10%)などを総合的に判断する。

■その他履修上の注意事項や学習上の助言

授業中の学習がまず基本ですが, 必要に応じて予習や復習も大切です。

(出典:平成19年度シラバス)



## 資料 5-3-①-4 : 進級・卒業認定規則

## 第4章 進級・卒業認定

## (進級認定基準)

第13条 次の各号に掲げる条件をすべて満たした者について、次学年への進級を認めるものとする。

- (1) 次の算式による年間欠席日数が年間授業日数の4分の1を超えていない。

$$\text{年間欠席日数} = A \times 3 / 4 + B$$

A : 病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者），その他やむを得ない事由によると認められた欠席日数

B : Aの場合以外の欠席日数

- (2) 第1学年から第3学年については、特別活動における年間欠課時数が年間授業時数の4分の1を超えていない。
- (3) 各学年で修得が義務付けられている単位数を構成する科目（以下「修得すべき科目」という。）の単位を修得している。

(中略)

## (卒業認定基準)

第16条 次の各号に掲げる条件をすべて満たした者について卒業を認めるものとする。

- (1) 最終学年において、次の算式による年間欠席日数が年間授業日数の4分の1を超えていない。

$$\text{年間欠席日数} = A \times 3 / 4 + B$$

A : 病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者），その他やむを得ない事由によると認められた欠席日数

B : Aの場合以外の欠席日数

- (2) 最終学年までの修得すべき科目の単位をすべて修得している。
- (3) 卒業研究の単位を修得している。

## (卒業認定基準の特例)

第17条 前条第2号に掲げる条件を満たさない者については、最終学年で修得すべき科目の学業成績において30点未満の科目を有さず、かつ、累積未修得科目数が3科目以内である場合、実施される単位追認試験にすべて合格したときに卒業を認めることがある。

- 2 単位追認試験で合格となった科目の学業成績の評価は50点とする。なお、学級内順位は変更しない。

## (最終学年留置及び修了認定)

第18条 卒業が認められなかった者は最終学年に留まるものとする。この場合、最終学年で認定された単位はすべて無効とし、最終学年で修得すべき科目をすべて再履修しなければならない。

- 2 最終学年に留められる者が退学を希望する場合には、第4学年までの未修得科目がある場合、その科目について実施される単位追認試験に合格したときに、第4学年の修了を認めることがある。
- 3 前項により実施される単位追認試験において不合格の科目がある場合は、未修得科目を有する最下級学年の直下学年の修了を認めることがある。

(出典：学生便覧)

資料 5-3-①-5 : 単位追認試験年間予定表と時間割例 (前期分)

平成19年度 前期 本科行事予定表

| 日曜 | 4 月   | 日曜 | 5 月 | 日曜 | 6 月 | 日曜 | 7 月 | 日曜      | 8 月                                   |
|----|-------|----|-----|----|-----|----|-----|---------|---------------------------------------|
|    | 春休み開始 | 1  | 火   |    | 1   | 金  |     | 1       | 北陸地区高専体育大会 (サッカー競技) (於: 富山県船)         |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 2       |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 3       |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 4       | 北陸地区高専体育大会 (サッカー競技) (於: 富山県船)         |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 5       | 前期文化祭発表週間 (7/10まで)                    |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 6       |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 7       | 北陸地区高専体育大会 (於: 富山県船)                  |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 8       |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 9       | 臨時休業 (体育大会休業)                         |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 10      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 11      | 3年生合同特活 (交通安全) (15:00~16:00)          |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 12      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 13      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 14      | サッカー-北信越大会 (於: 富山)                    |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 15      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 16      | 海の日                                   |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 17      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 18      | 前期期末試験開始                              |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 19      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 20      | 1年生合同特活 (交通安全) (15:00~16:00)          |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 21      | 夏季休業開始、開祭 (1~4年生)                     |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 22      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 23      | 北陸地区高専体育大会 (ラグビー競技) (於: 富山県船)         |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 24      | 学外実習開始                                |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 25      | 前期期末試験終了                              |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 26      | ロボコン大会出場マシントライアル (15:00~)             |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 27      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 28      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 29      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 30      |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 31      | 夏季休業終了、学外実習終了                         |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 10 月    |                                       |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 1       | 2年生英語力試験 (TOEIC Bridge) (15:00~16:30) |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 2       | 前期終了                                  |
|    |       |    |     |    |     |    |     | 9/13-16 | 高校祭入大会 (前期)                           |

第1回単位追認試験  
(5日間)

第2回単位追認試験  
(5日間)

## 平成18年度第3回単位追認試験日程表

| 日時        | 場所    | 2年                    | 3年                | 4年                 | 5年                |
|-----------|-------|-----------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 10月10日(火) | 2A    | 基礎数学B<br>(1年次 河合秀)    |                   | 解析学Ⅱ<br>(3年次 河合秀)  |                   |
|           | 1M    |                       | 代数・幾何<br>(2年次 今井) | 代数・幾何<br>(2年次 今井)  |                   |
|           | 2E    | 基礎英語Ⅰ(R)<br>(1年次 太田智) |                   |                    | 英語A<br>(4年次 太田智)  |
| 10月11日(水) | 1E    | 英語表現Ⅰ<br>(1年次 小熊)     |                   |                    |                   |
|           | 2C    |                       | 英語B<br>(2年次 鈴木久)  | 英語A<br>(3年次 鈴木久)   | 英語A<br>(4年次 鈴木久)  |
|           | 語学演習室 |                       | 英語B<br>(2年次 太田伸)  |                    |                   |
| 10月12日(木) | 1I    |                       |                   | 応用数学A<br>(3年次 森田健) |                   |
| 10月13日(金) | 1A    | 基礎数学A<br>(1年次 中村)     | 解析学Ⅰ<br>(2年次 中村)  |                    | 応用数学B<br>(4年次 中村) |

※上記以外の科目の日程及び試験開始時間等については、事前に各担当教員の指示を仰ぐこと。

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-3-①-6 : 単位追認試験報告書

2007 年 1 月 31 日

| 単位追認報告書 |           |     |               |
|---------|-----------|-----|---------------|
| 報告者     | 一般教育 科    | 氏名  | 石川高専 太郎 印     |
| 対象科目    | 2005 年度開講 | 科目名 | 第 2 学年「解析学 I」 |

| 単位追認対象学生 |        |      |          |
|----------|--------|------|----------|
| 現学年・学科   | 氏名     | 追認結果 | 備考       |
| 3・〇      | 〇〇 〇〇〇 | 可    | 宿題提出状況良好 |
|          |        |      |          |
|          |        |      |          |
|          |        |      |          |
|          |        |      |          |
|          |        |      |          |

| 追認方法                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 年生で使用の解析学 II の教科書『技術者のための微分積分学』の第 1 章から第 3 章までの演習問題をすべて解いて提出すること。単位追認対象科目の解析学 I は解析学 II の基礎となる科目のため、追認の結果として、解析学 II の修得に支障がなくなるような措置を選んだ。 |
| 別添資料                                                                                                                                        |
| なし。(宿題とした問題はあり)<br>提出された宿題のノートは返却した。                                                                                                        |

別添資料は次のようなものとします。

追試を行った場合には問題用紙，レポート・宿題等を貸した場合にはその内容などが分かるもの。

行った試験の結果は備考欄に記入してください。

(出典：学生課保管資料)

## 2) 成績評価・単位の認定・進級認定・卒業認定規定の学生への周知

成績評価表ならびに進級・卒業については学生便覧の学習の心得の中の「成績評価について」および「進級・卒業について」の節で記載されている（資料 5-3-①-7, 8）。新入生に対しては入学式翌日に行われる新入生オリエンテーションのなかで教務関係として説明している（資料 5-3-①-9）。またクラス担任は各学年当初にシラバスを配布するとともに、学生に対して必要な規定の説明を行っている。さらに各教科の担当教員は、最初の授業において当該科目の評価方法等について説明し、成績評価方法の学生への周知を図っている（資料 5-3-①-10）。

- 資料 5-3-①-7：成績評価について
- 資料 5-3-①-8：進級・卒業について
- 資料 5-3-①-9：新入生オリエンテーション日程表
- 資料 5-3-①-10：シラバスに示された成績評価方法

## 資料 5-3-①-7：成績評価について

## 2. 成績評価について

## 1) 成績の評価及び表示

各科目の成績は、シラバス（授業目標、年間スケジュール、成績評価方法を詳細に示した授業計画）に基づき、1000点法で評価します。50点以上（卒業研究は60点以上）であれば合格となり所定の単位を修得できます。

このシラバスは学年の始まりに配布します。必ず読み、大切に保管してください。また、Web版シラバスがホームページ上でも公開されています。

成績はS・A・B・C・D・不可の6段階で表示し、評点との関係は次のとおりです。

|    |           |             |
|----|-----------|-------------|
| S  | 1000点～90点 |             |
| A  | 89点～80点   |             |
| B  | 79点～70点   |             |
| C  | 69点～60点   |             |
| D  | 59点～50点   | 以上合格（単位認定）  |
| 不可 | 49点～0点    | 不合格（単位認定せず） |

なお、創造工学プログラム複合工学修得コース履修のためには、創造工学プログラムの本科指定科目の成績で、60点以上が必要です。

## 2) 成績の通知

成績評価は、学期毎に成績通知票に評点で記入し、保護者に通知します。

個人成績の学級内順位は、全科目の平均点によって上位から、A, B・C, Dで示します。順位との関係は次のとおりです。

|   |       |   |        |   |        |   |       |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|
| A | 1～10番 | B | 11～20番 | C | 21～30番 | D | 31番以降 |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|

科目毎の欠課時数（各授業時間に出席しなかった回数）が学期又は学年の授業時数の4分の1を超えた場合は、その科目の成熟ま評価の対象とはならず、成績は表示されません。

（出典：学生便覧）

## 資料 5-3-①-8 : 進級・卒業について

## 3. 進級・卒業について

各科目の授業に真面目に出席し、その成績評価が「D」以上であれば、進級・卒業することができます。（詳しくは、「学業成績評価及び進級・卒業認定に関する規則」59 ページ参照のこと。）

## 1) 進級の基準

- (1) 年間授業日数の 4 分の 3 以上出席していること。
- (2) 各科目の年間授業時数の 4 分の 3 以上出席していること。
- (3) 各科目の学年成績がすべて 50 点以上であること。
- (4) 学校行事への出席が良好であること。

[ (1) , (2) において、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、進級の基準が緩和されます。]

上記のすべての条件を満たしていれば、進級することができます。

ただし、学年成績が 50 点に満たない科目（以下「未修得科目」という〇）があった場合でも、次に掲げる条件をすべて満たしていれば進級することができます。

この場合、未修得科目を持って進級が認められた学生は、次年度において各科目担当教員が実施する単位追認試験に合格しなければなりません。

- (1) 学年成績において 30 点未満の科目がか、こと。
- (2) 累積未修得科目数（当該学年での未修得科目数に前学年までの未修得科目数を加えたもの）が、3 科目以下であること。

進級が認められなかった場合は・原学年にとどまり・当該学年の全授業科目を再履修しなければなりません。

## 2) 卒業の基準

- (1) 年間授業日数の 4 分の 3 以上出席していること。
- (2) 各科目の年間授業時数の 4 分の 3 以上出席していること。
- (3) 学年成績がすべて 50 点以上であること。
- (4) 第 4 学年までの未修得科目の単位追認試験にすべて合格していること。
- (5) 卒業研究の評価が合格であること。
- (6) 学校行事への出席が良好であること。

[ (1) , (2) において、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。]

上記のすべての条件を満たしていれば、卒業することができます。

ただし、上記の (3) , (4) に掲げる条件を満たさない学生であっても、次に掲げる条件をすべて満たせば、実施される単位追認試験を受験することができ、これに合格したときに卒業することができます。

- (1) 学年成績において 30 点未満の科目がないこと。
- (2) 第 5 学年での累積未修得科目が 3 科目以内であること。

(出典：学生便覧)

## 資料 5-3-①-9 : 新入生オリエンテーション日程表

## 資料 2

平成18年度入学式及び新入生オリエンテーション日程について

| 月日(曜)           | 時間                | 行事                          | 内 容                                                                        | 場 所                                         |     |
|-----------------|-------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----|
| 4月10日<br>(月)    | 12:00～<br>12:45   | 受 付                         | ○受付<br>○学生便覧, シラバス, 学生証, 在学証明書等配布<br>○JR 定期券 (既申込分) 販売                     | 学生玄関                                        |     |
|                 | 13:00～<br>13:25   | 入学式                         | ○入学許可宣言<br>○入学者代表宣誓                                                        | 第2体育館                                       |     |
|                 | 13:25～<br>13:35   | ○学級担任の誘導で教室へ移動              | 入 学 者                                                                      |                                             | 保護者 |
|                 |                   |                             | 13:25～14:00                                                                | ○教育後援会総会                                    |     |
|                 |                   |                             | 14:00～14:30                                                                | ○所管事項説明<br>(教務主事, 学生主事, 寮務主事, 研究主事, 図書情報主事) |     |
|                 | 13:35～<br>14:40   | ○学級担任, 学科主任の説明              | 14:30～14:40                                                                | 各教室へ移動                                      |     |
| 14:40～<br>15:30 | ○専門学科見学           | 14:40～15:30                 | ○各教室で学級担任の説明, 教育後援会役員選出                                                    |                                             |     |
| 17:00～          | 新入寮生<br>オリエンテーション | 新入寮生に対し, 寮生活に関する説明          |                                                                            | 有朋寮食堂                                       |     |
| 4月11日<br>(火)    | 8:50～<br>10:30    | 新入生オリエンテーション                | ○教務関係について(教務主事)<br>○学生生活について(学生主事)<br>○図書館について(図書情報主事)<br>○学生相談室について(相談室長) | 視聴覚教室                                       |     |
|                 | 10:40～<br>13:10   | 写 真 撮 影<br>心 電 図 検 査<br>昼 食 | ○写真撮影(1年学級担任含む)<br>○心電図検査(1年)                                              | 学生玄関前<br>(雨天時は室内)<br>武 道 場                  |     |
|                 | 13:10～<br>14:30   | 学 生 会<br>新入生歓迎会             | ○新入生の歓迎会<br>○課外活動紹介                                                        | 第2体育館                                       |     |
|                 | 14:40～<br>15:30   | ホームルーム                      | ○全学年                                                                       | 各 教 室                                       |     |

(出典：学生課保管資料)

資料5-3-①-10：シラバスに示された成績評価方法

(該当箇所)

|       |                 |       |                 |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 第8週   | グラフと方程式の関係      | 第8週   | 対数の定義と対数の計算     |
| 第9週   | グラフと不等式の関係      | 第9週   | 対数関数とグラフを描く     |
| 第10週  | グラフを用いた2次不等式の解法 | 第10週  | 対数方程式と不等式を解く    |
| 第11週  | 関数の平行移動         | 第11週  | 場合の数(積の法則・和の法則) |
| 第12週  | 関数の対称移動         | 第12週  | 順列の考え方とその計算     |
| 第13週  | べき関数のグラフを描く     | 第13週  | 組合せの計算とその応用     |
| 第14週  | 分数関数のグラフを描く     | 第14週  | 二項定理            |
| 前期末試験 |                 | 学年末試験 |                 |
| 第15週  | 演習              | 第15週  | 演習              |

■学生の到達目標

2次関数と方程式、不等式との関係を説明することができる。  
 次の関数のグラフを理解し、描くことができる。  
 2次関数・べき関数  
 分数関数・無理関数  
 指数関数・対数関数  
 これらの関数の、方  
 順列と組合わせの考

定期試験・課題・小テスト等の項目ごとの評価配分を明示している。

■評価方法

定期試験の総合的評価(60%)  
 課題、小テストなど(20%)  
 宿題、受講態度など学習への取り組みの総合的評価(20%)  
 定期試験には再試験をする場合がある。再試験を行った場合、本試験の点数と、本試験と再試験の点数の平均点のよい方をとる。

■その他履修上の注意事項や学習上の助言

試験前の学習はもちろん平常時の予習・復習が非常に大切である。

(出典：平成19年度シラバス)

3) 規定に従った成績評価・単位の認定・進級認定・卒業認定の実施

各教員は規則とシラバスに明示した評価方法に沿って成績を付け、単位の認定を行っている(資料5-3-①-11)。最終的な進級および卒業の認定は、全教員が出席する進級判定会議および卒業判定会議において審議されている(資料5-3-①-12, 13)。

- 資料 5-3-①-11：成績評価資料
- 資料 5-3-①-12：進級判定会議議事録
- 資料 5-3-①-13：卒業判定会議議事録

資料 5-3-①-11：成績評価資料

(訪問調査時に提示。答案例を含む)

(出典：学生課保管資料)

資料 5-3-①-12：進級判定会議議事録

(訪問調査時に提示)

(出典：学生課保管資料)

資料 5-3-①-13：卒業判定会議議事録

(訪問調査時に提示)

(出典：学生課保管資料)



(分析結果とその根拠理由)

「学業成績評価および進級・卒業認定に関する規則」を定め、当該規則の運用に関しては「教務関係申し合わせ事項集」ならびに「教員マニュアル」に説明がなされている。また学生への周知も学生便覧や年度当初におけるシラバス配布時での担任からの説明等でなされている。単位・進級・卒業・修了の認定は全教員出席の判定会議で審議され、学校として成績評価の厳密性と一貫性が確保されている。

以上の状況から成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に十分に周知されている。またこれらの規定にしたがって、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

**観点 5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

1) 人間の素養の涵養についての考え方 (学習目標 3)

本校では授業や実験・実習、卒業研究など、教育課程に組み込まれた教育活動における学生と教職員との触れ合いのほか、第1学年から第3学年まで行われる特別教育活動、見学会や研修旅行、球技大会や学校祭などの学生会活動、部活動などの課外活動において人間性の涵養を図っている。特に、第1学年から第3学年の学級担任による特別教育活動によるところは大きいと考えている(資料5-4-①-1, 2)。

資料 5-4-①-1：特別教育活動の実施時間

資料 5-4-①-2：担任の役割に関する教員マニュアルからの抜粋

資料5-4-①-1：特別教育活動の実施時間

平成19年度 前期 本科行事予定表 H19.2.21

| 日曜 | 4月      | 日曜      | 5月      | 日曜      | 6月      | 日曜      | 7月      | 月          |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|
|    | 1<br>火  | 1<br>火  | 1<br>金  | 1<br>金  | 1<br>日  | 1<br>日  | 1<br>日  | 前期文化発表週間   |
|    | 2<br>水  | 2<br>水  | 2<br>土  | 2<br>土  | 2<br>日  | 2<br>月  | 2<br>火  | 北陸地区高専体育大会 |
|    | 3<br>木  | 3<br>木  | 3<br>日  | 3<br>日  | 3<br>月  | 3<br>水  | 3<br>水  |            |
|    | 4<br>金  | 4<br>金  | 4<br>月  | 4<br>月  | 4<br>木  | 4<br>木  | 4<br>木  |            |
|    | 5<br>土  | 5<br>土  | 5<br>金  | 5<br>金  | 5<br>金  | 5<br>金  | 5<br>金  |            |
|    | 6<br>日  | 6<br>日  | 6<br>土  | 6<br>土  | 6<br>土  | 6<br>土  | 6<br>土  |            |
|    | 7<br>月  | 7<br>月  | 7<br>日  | 7<br>日  | 7<br>日  | 7<br>月  | 7<br>日  |            |
|    | 8<br>火  | 8<br>火  | 8<br>月  | 8<br>月  | 8<br>月  | 8<br>月  | 8<br>月  |            |
|    | 9<br>水  | 9<br>水  | 9<br>金  | 9<br>金  | 9<br>日  | 9<br>日  | 9<br>日  |            |
|    | 10<br>木 | 10<br>木 | 10<br>土 | 10<br>土 | 10<br>月 | 10<br>月 | 10<br>月 |            |
|    | 11<br>金 | 11<br>金 | 11<br>日 | 11<br>日 | 11<br>月 | 11<br>月 | 11<br>月 |            |
|    | 12<br>土 | 12<br>土 | 12<br>月 | 12<br>月 | 12<br>月 | 12<br>月 | 12<br>月 |            |
|    | 13<br>日 | 13<br>日 | 13<br>日 | 13<br>日 | 13<br>日 | 13<br>日 | 13<br>日 |            |
|    | 14<br>月 | 14<br>月 | 14<br>月 | 14<br>月 | 14<br>月 | 14<br>月 | 14<br>月 |            |
|    | 15<br>火 | 15<br>火 | 15<br>火 | 15<br>火 | 15<br>火 | 15<br>火 | 15<br>火 |            |
|    | 16<br>水 | 16<br>水 | 16<br>水 | 16<br>水 | 16<br>水 | 16<br>水 | 16<br>水 |            |
|    | 17<br>木 | 17<br>木 | 17<br>木 | 17<br>木 | 17<br>木 | 17<br>木 | 17<br>木 |            |
|    | 18<br>金 | 18<br>金 | 18<br>金 | 18<br>金 | 18<br>金 | 18<br>金 | 18<br>金 |            |
|    | 19<br>土 | 19<br>土 | 19<br>土 | 19<br>土 | 19<br>土 | 19<br>土 | 19<br>土 |            |
|    | 20<br>日 | 20<br>日 | 20<br>日 | 20<br>日 | 20<br>日 | 20<br>日 | 20<br>日 |            |
|    | 21<br>月 | 21<br>月 | 21<br>月 | 21<br>月 | 21<br>月 | 21<br>月 | 21<br>月 |            |
|    | 22<br>火 | 22<br>火 | 22<br>火 | 22<br>火 | 22<br>火 | 22<br>火 | 22<br>火 |            |
|    | 23<br>水 | 23<br>水 | 23<br>水 | 23<br>水 | 23<br>水 | 23<br>水 | 23<br>水 |            |
|    | 24<br>木 | 24<br>木 | 24<br>木 | 24<br>木 | 24<br>木 | 24<br>木 | 24<br>木 |            |
|    | 25<br>金 | 25<br>金 | 25<br>金 | 25<br>金 | 25<br>金 | 25<br>金 | 25<br>金 |            |
|    | 26<br>土 | 26<br>土 | 26<br>土 | 26<br>土 | 26<br>土 | 26<br>土 | 26<br>土 |            |
|    | 27<br>日 | 27<br>日 | 27<br>日 | 27<br>日 | 27<br>日 | 27<br>日 | 27<br>日 |            |
|    | 28<br>月 | 28<br>月 | 28<br>月 | 28<br>月 | 28<br>月 | 28<br>月 | 28<br>月 |            |
|    | 29<br>火 | 29<br>火 | 29<br>火 | 29<br>火 | 29<br>火 | 29<br>火 | 29<br>火 |            |
|    | 30<br>水 | 30<br>水 | 30<br>水 | 30<br>水 | 30<br>水 | 30<br>水 | 30<br>水 |            |
|    | 31<br>木 | 31<br>木 | 31<br>木 | 31<br>木 | 31<br>木 | 31<br>木 | 31<br>木 |            |

前期文化発表週間

北陸地区高専体育大会

全国高専体育大会

1年生合宿研修

春季球技大会

ロボコン大会出場マシン試技会

学生会総会

全国プロコン予選

見学会の実施

平成19年度 後期 本科行事予定表

H19.2.21

| 日曜 | 10月                                                                       | 日曜      | 11月                                                        | 日曜      | 12月                                               | 日曜      | 1月                               | 日曜      | 2月                                           | 日曜                                                      | 3月 |  |
|----|---------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------|---------|---------------------------------------------------|---------|----------------------------------|---------|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------|----|--|
|    | 1<br>2年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40)                         | 1<br>木  |                                                            | 1<br>土  |                                                   | 1<br>火  | 元日                               | 1<br>金  | 入学願書受付開始(学力)                                 |                                                         |    |  |
|    | 2<br>前期終了                                                                 | 2<br>火  |                                                            | 2<br>日  |                                                   | 2<br>水  |                                  | 2<br>土  |                                              |                                                         |    |  |
|    | 3<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 3<br>水  | 文化の日                                                       | 3<br>木  |                                                   | 3<br>金  |                                  | 3<br>土  |                                              |                                                         |    |  |
|    | 4<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 4<br>木  |                                                            | 4<br>金  |                                                   | 4<br>土  |                                  | 4<br>日  | 3年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40) | 1~4年ホ-ムルーム                                              |    |  |
|    | 5<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 5<br>金  |                                                            | 5<br>土  |                                                   | 5<br>日  |                                  | 5<br>月  | ▲ 5年生学年末試験開始                                 | 卒業判定会議(13:00~)<br>1-4年生成績提出期限<br>(12:00)<br>▲ 臨時休業開始・閉寮 |    |  |
|    | 6<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 6<br>土  |                                                            | 6<br>日  |                                                   | 6<br>月  |                                  | 6<br>火  | 入学願書受付終了(学力)                                 |                                                         |    |  |
|    | 7<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 7<br>日  |                                                            | 7<br>月  |                                                   | 7<br>火  |                                  | 7<br>水  |                                              |                                                         |    |  |
|    | 8<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 8<br>月  |                                                            | 8<br>火  |                                                   | 8<br>水  |                                  | 8<br>木  |                                              |                                                         |    |  |
|    | 9<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                             | 9<br>火  |                                                            | 9<br>水  |                                                   | 9<br>木  |                                  | 9<br>金  |                                              |                                                         |    |  |
|    | 10<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 10<br>水 |                                                            | 10<br>木 |                                                   | 10<br>金 |                                  | 10<br>土 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 11<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 11<br>木 |                                                            | 11<br>金 |                                                   | 11<br>土 |                                  | 11<br>日 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 12<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 12<br>金 |                                                            | 12<br>土 |                                                   | 12<br>日 |                                  | 12<br>月 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 13<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 13<br>土 |                                                            | 13<br>日 |                                                   | 13<br>月 |                                  | 13<br>火 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 14<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 14<br>日 |                                                            | 14<br>月 |                                                   | 14<br>火 |                                  | 14<br>水 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 15<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 15<br>月 |                                                            | 15<br>火 |                                                   | 15<br>水 |                                  | 15<br>木 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 16<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 16<br>火 |                                                            | 16<br>水 |                                                   | 16<br>木 |                                  | 16<br>金 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 17<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 17<br>水 |                                                            | 17<br>木 |                                                   | 17<br>金 |                                  | 17<br>土 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 18<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 18<br>木 |                                                            | 18<br>金 |                                                   | 18<br>土 |                                  | 18<br>日 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 19<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 19<br>金 |                                                            | 19<br>土 |                                                   | 19<br>日 |                                  | 19<br>月 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 20<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 20<br>土 |                                                            | 20<br>日 |                                                   | 20<br>月 |                                  | 20<br>火 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 21<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 21<br>日 |                                                            | 21<br>月 |                                                   | 21<br>火 |                                  | 21<br>水 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 22<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 22<br>月 |                                                            | 22<br>火 |                                                   | 22<br>水 |                                  | 22<br>木 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 23<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 23<br>火 |                                                            | 23<br>水 |                                                   | 23<br>木 |                                  | 23<br>金 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 24<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 24<br>水 |                                                            | 24<br>木 |                                                   | 24<br>金 |                                  | 24<br>土 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 25<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 25<br>木 |                                                            | 25<br>金 |                                                   | 25<br>土 |                                  | 25<br>日 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 26<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 26<br>金 |                                                            | 26<br>土 |                                                   | 26<br>日 |                                  | 26<br>月 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 27<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 27<br>土 |                                                            | 27<br>日 |                                                   | 27<br>月 |                                  | 27<br>火 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 28<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 28<br>日 |                                                            | 28<br>月 |                                                   | 28<br>火 |                                  | 28<br>水 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 29<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 29<br>月 |                                                            | 29<br>火 |                                                   | 29<br>水 |                                  | 29<br>木 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 30<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 30<br>火 |                                                            | 30<br>水 |                                                   | 30<br>木 |                                  | 30<br>金 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 31<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>▲ 秋季休業開始<br>閉寮                            | 31<br>水 |                                                            | 31<br>木 |                                                   | 31<br>金 |                                  | 31<br>土 |                                              |                                                         |    |  |
|    | 10/21(日) 英語技能検定試験<br>1-5年希望者<br>上旬 見学会(5A)<br>中旬 見学会(2M)<br>下旬 後期分授業料免除面接 |         | 中旬 見学会(1M)<br>" 電子情報工学科卒業研究<br>中間発表会<br>11/9-11 高校新入大会(後期) |         | 中旬 環境都市工学科卒業研究<br>中間発表会<br>" 日本学生支援機構奨学金<br>返還説明会 |         | 上旬 学生会役員選挙<br>献血<br>中旬 留学生スキー交流会 |         | 下旬 前期分授業料免除出願書類<br>交付(12:50~)<br>予備会(A)      |                                                         |    |  |

4年生見学旅行(5泊6日)

デザインコンテスト本選

秋季球技大会

後期文化部発表週間

紀友際(文化祭)

見学会(5A, 2M, 1M)

学生会役員選挙立会演説会

留学生スキー交流会(1月下旬)

(出典：学生課保管資料)

## 資料5-4-①-2：担任の役割に関する教員マニュアルからの抜粋（役割を箇条書きで抜粋）

- 4.2 担任業務
  - 4.2.1 学級運営について
    - 〈 基本姿勢 〉
    - 〈 クラス運営 〉
    - 〈 学生の緊急連絡網 〉
    - 〈 学級担任の活動記録 〉
    - 〈 学生の出欠の把握 〉
    - 〈 各種役員の選出とその役割 〉
  - 4.2.2 学習指導について
    - 〈 定期試験 〉
    - 〈 定期試験後の学習指導 〉
    - 〈 単位未修得者への指導 〉
- 4.3 生活指導について
  - 〈 学校における生活指導 〉
  - 〈 教室の美化と清掃 〉
  - 〈 通学方法 〉
  - 〈 事故防止 〉
  - 〈 休日および放課後の指導 〉
- 4.4 保護者懇談会について

(出典：教員マニュアル)

## 2) 特別活動の実施状況

第1～3学年に対しては週1回の50分の特別活動（ホームルーム）を時間割に組み入れており，日常的な生活上の注意や連絡，学級担任は学級運営上の活動を記録している（資料 5-4-①-3）。また各学年では定期的に特別講演会が企画されている（資料 5-4-①-4）。第1～3学年の特別活動に実施時間を合計すると高等専門学校設置基準（第17条の7）で定められている90単位時間以上になっている。また平成19年度からは特別活動のシラバスが作成されるようになった（資料 5-4-①-5）。

- 資料 5-4-①-3：担任活動記録例
- 資料 5-4-①-4：学年別の特別講演会予定表
- 資料 5-4-①-5：特別活動シラバス

資料 5-4-①-3 : 担任活動記録例

学級担任の活動状況報告書 (1) 日常的活動

|          |    |    |     |      |
|----------|----|----|-----|------|
| 年度       | 学年 | 学科 | 担任名 | 教務記入 |
| 2006(前期) | 1  | E  |     |      |

1. 日常的指導等

| 期間等   | 時間 | 対象 | 項目   | 詳細                  |
|-------|----|----|------|---------------------|
| 授業期間中 | 10 | 5  | 清掃点検 | 原則として毎日             |
| 随時    | 10 | 全員 | 諸注意  | 連絡等が必要なとき (週2~3回程度) |

2. 行事等

| 開始時刻    | 時間 | 対象 | 項目                                | 詳細                                                       |
|---------|----|----|-----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 4/21-22 | 終日 | 全員 | 合宿研修<br>(国立能登青少年交流の家)<br>(詳細は別紙1) | (21日)<br>講話、レクリエーション、学科別ミーティングなど<br>(22日)<br>朝の集い、皿絵付けなど |
| 5/23    | 終日 | 全員 | 春季球技大会<br>(2回の会議で中座)              | 球技大会見学と応援<br>一斉清掃指導                                      |
| 7/21-22 | 終日 | 全員 | 保護者懇談会                            |                                                          |

3. 定期的指導

| 開始時刻       | 時間  | 対象 | 項目                                       | 詳細                                                                                 |
|------------|-----|----|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 4/10/13:00 | 130 | 全員 | 入学式列席<br>学校生活上の注意 (学生)<br>学校生活上の注意 (保護者) | 学生としての生活態度<br>今後の日程の説明                                                             |
| 4/11/10:45 | 10  | 全員 | 写真撮影                                     | (雨天のため低学年棟3F リフレッシュルームにて)                                                          |
| 4/11/13:10 | 140 | 全員 | 学生会新入生歓迎会出席<br>ホームルーム                    | 学級委員等選出                                                                            |
| 4/12/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | 合宿研修野外活動種目の決定                                                                      |
| 4/18/16:50 | 20  | 全員 | ホームルーム                                   | 検尿の方法、健康診断の日時と場所など                                                                 |
| 4/19/15:10 | 50  | 全員 | 特活                                       | 非常時の連絡網の作成<br>合宿研修についての説明                                                          |
| 4/26/13:10 | 60  | 全員 | 学生総会                                     | 活動報告・決算案・活動計画・予算案の承認<br>学生主事注意                                                     |
| 4/26/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | 紀友祭に関するアンケート実施<br>サイバー詐欺に関する注意、写真代徴収、連絡網確認                                         |
| 5/10/16:00 | 20  | 全員 | 英語実力試験後の特活                               | 合宿研修での陶芸作品の返却と講評                                                                   |
| 5/17/15:00 | 120 | 全員 | 1年合同特活<br>(会議のため60分中)                    | 学生相談室講演会<br>「こころ・からだ・性」講師 姉崎昭子氏                                                    |
| 5/24/15:00 | 60  | 全員 | 特活                                       | 作文「高専に入学して」<br>諸注意<br>(健康診断、ゴミ箱、生協、入学動機アンケートなど)                                    |
| 5/31/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | (前期中間) 試験上の注意<br>指導(自転車の放置について)                                                    |
| 6/14/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | 作文「本・読書・図書館」<br>席替え                                                                |
| 6/21/15:00 | 50  | 全員 | 1年合同特活                                   | 交通安全講演会                                                                            |
| 6/28/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | 書類の配布およびそれに関する諸注意<br>(成績表、健康診断結果、献血パンフ、<br>情報処理センター利用案内)                           |
| 7/5/15:00  | 100 | 全員 | 高専大会壮行会                                  | 高専大会壮行会<br>文化部発表会                                                                  |
| 7/6/12:45  | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 成績と学習について<br>学校で困っていること<br>3つの約束                                                   |
| 7/7/12:45  | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/10/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/11/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/12/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/13/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/14/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/18/10:35 | 5   | 全員 | 連絡事項                                     | 後期授業料免除の面接についての連絡                                                                  |
| 7/18/12:45 | 20  | 5  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/19/12:45 | 20  | 2  | 個人面談(4分×5人)                              | 同上                                                                                 |
| 7/11/15:00 | 25  | 全員 | 特活                                       | 図書館文芸コンクール・利用案内、寮生募集案内、<br>保護者懇談会に関する連絡、<br>電気工学科指導教員制度について<br>(クラスで説明後、指導教員の元で活動) |
| 7/19/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | 夏休みの注意<br>翌日(7/19)の校内一斉清掃について                                                      |
| 9/6/13:10  | 50  | 全員 | 高専大会結果報告会                                | 高専大会結果報告                                                                           |
| 9/6/16:00  | 40  | 全員 | 特活                                       | 英語実力試験 命の大切さについて                                                                   |
| 9/13/15:00 | 50  | 全員 | 特活                                       | (前期末) 試験上の注意、授業アンケート                                                               |
| 9/27/15:00 | 50  | 全員 | 1年~3年合同特活                                | ロボコン校内大会                                                                           |
| 10/2/15:00 | 20  | 全員 | 特活                                       | 秋季休業についての注意                                                                        |

合計/50 25.9 (時間数の合計を50分で1時間に換算。面談除く)

(出典：学生課保管資料)

資料 5-4-①-4 : 学年別の特別講演会予定表

(特活等における講演会の年間計画表)

平成19年度 前期 本科行事予定表 H19.2.21

| 日  | 4 月 | 日  | 5 月 | 日  | 6 月 | 日  | 7 月 | 日  | 8 月 | 日  | 9 月 |
|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|
| 1  | 日   | 1  | 火   | 1  | 金   | 1  | 日   | 1  | 水   | 1  | 土   |
| 2  | 月   | 2  | 水   | 2  | 土   | 2  | 月   | 2  | 木   | 2  | 日   |
| 3  | 火   | 3  | 木   | 3  | 日   | 3  | 火   | 3  | 金   | 3  | 月   |
| 4  | 水   | 4  | 金   | 4  | 月   | 4  | 水   | 4  | 土   | 4  | 火   |
| 5  | 木   | 5  | 土   | 5  | 火   | 5  | 木   | 5  | 日   | 5  | 水   |
| 6  | 金   | 6  | 日   | 6  | 水   | 6  | 金   | 6  | 月   | 6  | 木   |
| 7  | 土   | 7  | 月   | 7  | 木   | 7  | 土   | 7  | 火   | 7  | 日   |
| 8  | 日   | 8  | 火   | 8  | 金   | 8  | 日   | 8  | 水   | 8  | 土   |
| 9  | 月   | 9  | 水   | 9  | 土   | 9  | 月   | 9  | 木   | 9  | 日   |
| 10 | 火   | 10 | 木   | 10 | 日   | 10 | 火   | 10 | 金   | 10 | 月   |
| 11 | 水   | 11 | 金   | 11 | 月   | 11 | 水   | 11 | 土   | 11 | 火   |
| 12 | 木   | 12 | 土   | 12 | 火   | 12 | 木   | 12 | 日   | 12 | 水   |
| 13 | 金   | 13 | 日   | 13 | 水   | 13 | 金   | 13 | 月   | 13 | 木   |
| 14 | 土   | 14 | 月   | 14 | 火   | 14 | 土   | 14 | 火   | 14 | 金   |
| 15 | 日   | 15 | 火   | 15 | 金   | 15 | 日   | 15 | 水   | 15 | 土   |
| 16 | 月   | 16 | 水   | 16 | 土   | 16 | 月   | 16 | 木   | 16 | 日   |
| 17 | 火   | 17 | 木   | 17 | 日   | 17 | 火   | 17 | 金   | 17 | 月   |
| 18 | 水   | 18 | 金   | 18 | 月   | 18 | 水   | 18 | 土   | 18 | 火   |
| 19 | 木   | 19 | 土   | 19 | 火   | 19 | 木   | 19 | 日   | 19 | 水   |
| 20 | 金   | 20 | 日   | 20 | 水   | 20 | 金   | 20 | 月   | 20 | 木   |
| 21 | 土   | 21 | 月   | 21 | 火   | 21 | 土   | 21 | 火   | 21 | 金   |
| 22 | 日   | 22 | 火   | 22 | 金   | 22 | 日   | 22 | 水   | 22 | 土   |
| 23 | 月   | 23 | 水   | 23 | 土   | 23 | 月   | 23 | 木   | 23 | 日   |
| 24 | 火   | 24 | 木   | 24 | 日   | 24 | 火   | 24 | 金   | 24 | 月   |
| 25 | 水   | 25 | 金   | 25 | 月   | 25 | 水   | 25 | 土   | 25 | 火   |
| 26 | 木   | 26 | 土   | 26 | 火   | 26 | 木   | 26 | 日   | 26 | 水   |
| 27 | 金   | 27 | 日   | 27 | 水   | 27 | 金   | 27 | 月   | 27 | 木   |
| 28 | 土   | 28 | 月   | 28 | 火   | 28 | 土   | 28 | 火   | 28 | 金   |
| 29 | 日   | 29 | 火   | 29 | 金   | 29 | 日   | 29 | 水   | 29 | 土   |
| 30 | 月   | 30 | 水   | 30 | 土   | 30 | 月   | 30 | 木   | 30 | 日   |
| 31 | 火   | 31 | 木   | 31 | 日   | 31 | 火   | 31 | 金   | 31 | 月   |

**1年生合同特活 (講演会: 学生相談室)** (4月16日, 17日, 18日)

**2年生合同特活 (交通安全)** (4月23日)

**3年生合同特活 (交通安全)** (7月11日)

**1年生合同特活 (交通安全)** (8月16日)

10月 2年次講義力試験 (10/10-16:30) 前期終了

9/13-16 高校入大会 (前期)

平成19年度 後期 本科行事予定表

H19.2.21

| 日曜 | 10月                                                                       | 日曜                                                         | 11月                                               | 日曜                                  | 12月                                                                              | 日曜                               | 1月 | 日曜      | 2月                                           | 日曜      | 3月                                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----|---------|----------------------------------------------|---------|--------------------------------------------------------|
|    | 1<br>2年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40)                         | 1<br>木                                                     |                                                   | 1<br>土                              |                                                                                  | 1<br>火                           | 元日 | 1<br>金  | ↑入学願書受付開始(学力)                                | 1<br>土  |                                                        |
|    | 2<br>前期終了                                                                 | 2<br>金                                                     |                                                   | 2<br>日                              |                                                                                  | 2<br>水                           |    | 2<br>土  |                                              | 2<br>日  |                                                        |
|    | 3<br>前期末試験成績報告期限<br>(12:00)<br>↑秋季休業開始<br>閉寮                              | 3<br>土                                                     | 文化の日                                              | 3<br>日                              |                                                                                  | 3<br>木                           |    | 3<br>日  |                                              | 3<br>月  |                                                        |
|    | 4                                                                         | 4<br>日                                                     |                                                   | 4<br>月                              |                                                                                  | 4<br>金                           |    | 4<br>月  | 3年英語実力試験<br>TOEIC Bridge IP<br>(15:00-16:40) | 4<br>土  | 1~4年ホムルーム                                              |
|    | 5                                                                         | 5<br>月                                                     |                                                   | 5<br>金                              |                                                                                  | 5<br>土                           |    | 5<br>火  | ↑5年生学年末試験開始                                  | 5<br>水  | 卒業判定会議(13:00~)<br>1-4年生成績提出期限<br>(12:00)<br>↑臨時休業開始・閉寮 |
|    | 6                                                                         | 6<br>土                                                     |                                                   | 6<br>土                              |                                                                                  | 6<br>日                           |    | 6<br>水  | 入学願書受付終了(学力)                                 | 6<br>木  |                                                        |
|    | 7<br>↑プロコン本選<br>(於:津山高専)                                                  | 7<br>日                                                     |                                                   | 7<br>日                              |                                                                                  | 7<br>月                           |    | 7<br>木  |                                              | 7<br>金  | 平成20年度入学者<br>選抜検査合格者発表                                 |
|    | 8<br>↓秋季休業終了                                                              | 8<br>月                                                     |                                                   | 8<br>月                              | 5年生中間試験終了                                                                        | 8<br>火                           |    | 8<br>土  | ↓冬季休業終了<br>閉寮                                | 8<br>日  |                                                        |
|    | 9<br>↑後期授業開始                                                              | 9<br>火                                                     |                                                   | 9<br>火                              |                                                                                  | 9<br>水                           |    | 9<br>日  | ↑第4回単位追認試験開始<br>↑入学願書受付開始(推薦)                | 9<br>月  |                                                        |
|    | 10<br>↑第3回単位認定試験開始                                                        | 10<br>水                                                    |                                                   | 10<br>水                             |                                                                                  | 10<br>木                          |    | 10<br>月 | ↑4年生見学旅行終了                                   | 10<br>金 |                                                        |
|    | 11                                                                        | 11<br>木                                                    |                                                   | 11<br>木                             | 後期中間試験終了                                                                         | 11<br>金                          |    | 11<br>土 | ↑入学願書受付終了(推薦)                                | 11<br>日 |                                                        |
|    | 12                                                                        | 12<br>金                                                    |                                                   | 12<br>金                             |                                                                                  | 12<br>土                          |    | 12<br>月 | 3年生学習到達度試験                                   | 12<br>火 | 進級判定会議<br>(13:00~)                                     |
|    | 13                                                                        | 13<br>土                                                    |                                                   | 13<br>土                             | 4年英語実力試験<br>TOEIC IP<br>(15:00-18:00)                                            | 13<br>日                          |    | 13<br>水 |                                              | 13<br>木 |                                                        |
|    | 14                                                                        | 14<br>日                                                    |                                                   | 14<br>日                             |                                                                                  | 14<br>月                          |    | 14<br>木 | 成人の日                                         | 14<br>金 | 5年生学年末成績通知<br>票発送                                      |
|    | 15                                                                        | 15<br>月                                                    |                                                   | 15<br>月                             |                                                                                  | 15<br>火                          |    | 15<br>土 | ↑単位追認試験終了                                    | 15<br>日 |                                                        |
|    | 16                                                                        | 16<br>火                                                    |                                                   | 16<br>火                             |                                                                                  | 16<br>水                          |    | 16<br>月 | 5年生学年末試験成績<br>報告期限(12:00)<br>卒業研究            | 16<br>火 |                                                        |
|    | 17                                                                        | 17<br>水                                                    |                                                   | 17<br>水                             |                                                                                  | 17<br>木                          |    | 17<br>火 |                                              | 17<br>水 |                                                        |
|    | 18<br>↑選難訓練 14:45~                                                        | 18<br>木                                                    |                                                   | 18<br>木                             |                                                                                  | 18<br>金                          |    | 18<br>日 |                                              | 18<br>月 |                                                        |
|    | 19<br>↑秋季球技大会・一斉清掃<br>(1日休講)                                              | 19<br>金                                                    |                                                   | 19<br>金                             | ↑ロボコン全国大会<br>(於:両国国技館)                                                           | 19<br>土                          |    | 19<br>火 |                                              | 19<br>水 |                                                        |
|    | 20                                                                        | 20<br>土                                                    |                                                   | 20<br>土                             |                                                                                  | 20<br>日                          |    | 20<br>木 |                                              | 20<br>金 |                                                        |
|    | 21                                                                        | 21<br>日                                                    |                                                   | 21<br>日                             |                                                                                  | 21<br>月                          |    | 21<br>土 |                                              | 21<br>日 |                                                        |
|    | 22                                                                        | 22<br>月                                                    |                                                   | 22<br>月                             |                                                                                  | 22<br>火                          |    | 22<br>日 |                                              | 22<br>月 |                                                        |
|    | 23                                                                        | 23<br>火                                                    |                                                   | 23<br>火                             |                                                                                  | 23<br>水                          |    | 23<br>火 |                                              | 23<br>日 |                                                        |
|    | 24                                                                        | 24<br>水                                                    |                                                   | 24<br>水                             |                                                                                  | 24<br>木                          |    | 24<br>土 |                                              | 24<br>月 |                                                        |
|    | 25                                                                        | 25<br>木                                                    |                                                   | 25<br>木                             |                                                                                  | 25<br>金                          |    | 25<br>火 |                                              | 25<br>日 |                                                        |
|    | 26                                                                        | 26<br>金                                                    |                                                   | 26<br>金                             |                                                                                  | 26<br>土                          |    | 26<br>水 |                                              | 26<br>火 |                                                        |
|    | 27                                                                        | 27<br>土                                                    |                                                   | 27<br>土                             |                                                                                  | 27<br>日                          |    | 27<br>木 |                                              | 27<br>水 |                                                        |
|    | 28                                                                        | 28<br>日                                                    |                                                   | 28<br>日                             |                                                                                  | 28<br>月                          |    | 28<br>金 |                                              | 28<br>土 |                                                        |
|    | 29                                                                        | 29<br>月                                                    |                                                   | 29<br>月                             |                                                                                  | 29<br>火                          |    | 29<br>日 |                                              | 29<br>月 |                                                        |
|    | 30                                                                        | 30<br>火                                                    |                                                   | 30<br>火                             |                                                                                  | 30<br>水                          |    | 30<br>火 |                                              | 30<br>日 |                                                        |
|    | 31                                                                        | 31<br>水                                                    |                                                   | 31<br>水                             |                                                                                  | 31<br>木                          |    | 31<br>水 |                                              | 31<br>火 |                                                        |
|    | 10/21(日) 英語技能検定試験<br>1-5年希望者<br>上旬 審議会(SA)<br>中旬 審議会(SM)<br>下旬 後期分授業料免除面接 | 中旬 理学会(1M)<br>" 電子情報工学科卒業研究<br>中間発表会<br>11/8-11 高校新入大会(後期) | 中旬 環境都市工学科卒業研究<br>中間発表会<br>" 日本学生支援機構奨学金<br>返還説明会 | 上旬 学生会役員選挙公示<br>献血<br>下旬 留学生スキーク交流会 | 上旬 卒業生を送る会<br>予備会(M, E)<br>中旬 予備会(I, C)<br>前期分授業料免除出願書類<br>交付12:50~<br>下旬 予備会(A) | 上旬 教職員講演会(学生相談室)<br>" クラブラーダー研学会 |    |         |                                              |         |                                                        |

5年生・専攻科2年生  
進路指導に関する講演会

4年生・専攻科1年生  
就職対策講演会

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-4-①-5 : 特別活動シラバス

| 科目名                 | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 単位数 | 区分 | 開講期                 | 担当教員  |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|---------------------|-------|------------|-----|-------|----------|-------------------|----------|-------------|--|-------------|--|---------------|--|-----------|--|-------------------|--|-------------|--|------|--|-------------|--|
| 特別活動                | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 1   | 必修 | 50分×1回/週<br>行事日程による | 各学級担任 |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 対象学科                | 全学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 授業目標                | 講演会、学級会活動、担任教員との対話、友人との議論などを通じて、社会の中の一員としての自己を確立し、豊かな人間性の涵養に資するための活動を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■教育目標との対応           | 本科:3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■キーワード              | 社会と環境, 豊かな人間性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■年間スケジュール           | <p>学校生活上の注意<br/> 学級委員・学生会委員などの選出<br/> 合宿研修の説明・野外活動種目班分け<br/> 健康診断の説明<br/> 緊急連絡網の作成<br/> 入学動機アンケート<br/> 認証評価部会による学生アンケート調査<br/> 教員間ネットワーク委員会による説明<br/> 春季球技大会種目班分け<br/> (合同特活)講演会:学生相談室<br/> 試験上の注意・学業成績について<br/> (合同特活)<br/> 夏季休業中の心得、保護者懇談会についての連絡<br/> 秋季球技大会種目班分け<br/> (合同特活)ロボット大会出場マシン試技会<br/> (合同特活)文化部発表会<br/> 春季休業中の心得と諸連絡<br/> 1年間の総括</p>                                                                                                                                                                         |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■学校行事、学生会活動         | <table border="0"> <tr> <td>学生会 新入生歓迎会</td> <td>紀友祭</td> </tr> <tr> <td>学生会総会</td> <td>学生会立会演説会</td> </tr> <tr> <td>合宿研修(国立能登青少年交流の家)</td> <td>同学科会 予餞会</td> </tr> <tr> <td>同学科会 新入生歓迎会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>春季球技大会・一斉清掃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>北陸地区高専体育大会壮行会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>文化部発表会の聴講</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一斉清掃(夏季休業前、冬季休業前)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全国高専体育大会報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>避難訓練</td> <td></td> </tr> <tr> <td>秋季球技大会・一斉清掃</td> <td></td> </tr> </table> |     |    |                     |       | 学生会 新入生歓迎会 | 紀友祭 | 学生会総会 | 学生会立会演説会 | 合宿研修(国立能登青少年交流の家) | 同学科会 予餞会 | 同学科会 新入生歓迎会 |  | 春季球技大会・一斉清掃 |  | 北陸地区高専体育大会壮行会 |  | 文化部発表会の聴講 |  | 一斉清掃(夏季休業前、冬季休業前) |  | 全国高専体育大会報告会 |  | 避難訓練 |  | 秋季球技大会・一斉清掃 |  |
| 学生会 新入生歓迎会          | 紀友祭                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 学生会総会               | 学生会立会演説会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 合宿研修(国立能登青少年交流の家)   | 同学科会 予餞会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 同学科会 新入生歓迎会         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 春季球技大会・一斉清掃         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 北陸地区高専体育大会壮行会       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 文化部発表会の聴講           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 一斉清掃(夏季休業前、冬季休業前)   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 全国高専体育大会報告会         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 避難訓練                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| 秋季球技大会・一斉清掃         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■評価方法               | 特活、学校行事、学生会活動などへの参加が良好であることを履修の条件とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |
| ■その他履修上の注意事項や学習上の助言 | 学校におけるさまざまな活動を、自分の問題、自分と社会との問題として積極的に捉えようとする心構えが大切である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |     |    |                     |       |            |     |       |          |                   |          |             |  |             |  |               |  |           |  |                   |  |             |  |      |  |             |  |

(出典：学生課保管資料)



## 3) 学校行事

各種学校行事は年度当初に行事予定表として全教職員ならびに学生に周知している（既出資料 5-1-①-10）。学年共通ならびに各学年で実施される代表的な学校行事例として

- (1) 春季ならびに秋季球技大会（資料 5-4-①-6）
- (2) 第1学年の4月の合宿研修（資料 5-4-①-7）
- (3) 第2学年では進路指導の一環となる学外見学（資料 5-4-①-8）
- (4) 第3学年では企業訪問や講演を組み入れた合宿研修（資料 5-4-①-9）
- (5) 第4学年では企業見学を中心とした見学旅行（資料 5-4-①-10）

等がある。なお、平成18年度の建築学科第4学年の見学旅行先は中国であり、平成17年度の環境都市工学科の見学旅行先は韓国であった。

- 資料 5-4-①-6：球技大会パンフレット
- 資料 5-4-①-7：第1学年合宿研修実施要項
- 資料 5-4-①-8：第2学年学外見学実施要項
- 資料 5-4-①-9：第3学年宿研修実施要項
- 資料 5-4-①-10：第4学年見学旅行実施要項

資料 5-4-①-6 : 球技大会パンフレット

## 平成 18 年度球技大会要項

- |        |                                                          |        |
|--------|----------------------------------------------------------|--------|
| 1 期日   | 5 月 23 日 (火)                                             | 雨天決行   |
| 2 集合   | 当日午前 8 時 50 分までに全員体育の服装で第 2 体育館に集合                       |        |
| 3 開会式  | 開会の辞<br>学生会長のあいさつ<br>優勝杯返還<br>選手宣誓<br>学校長のあいさつ<br>競技上の注意 |        |
| 4 競技開始 | 午前 9 時 30 分                                              |        |
| 5 閉会式  | 午後 3 時 40 分<br>成績発表<br>表彰                                |        |
|        | 総合優勝                                                     | 賞状、カップ |
|        | 2, 3 位                                                   | 賞状     |
|        | 種目別優勝                                                    | 賞状、カップ |
|        | 2, 3 位                                                   | 賞状     |
|        | 閉会の辞                                                     |        |
| 6 清掃   | 閉会式終了後、各クラスに割り当てられた場所を清掃する。                              |        |

(出典：学生課保管資料)

資料 5-4-①-7 : 第1学年合宿研修の日程

1年生合宿研修日程

| 第1日目 4月21日(金) |                                                                                                   |                         |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 時間            | 活動内容                                                                                              | 場所                      |
| 午前            | 8:50 学生玄関前 集合(学科毎 バス乗車)                                                                           | 講堂                      |
|               | 9:00 本校出発                                                                                         |                         |
|               | 9:50 能登青年の家到着<br>オリエンテーション<br>・研修施設からの説明<br>・学生主事 講話: 学生生活について<br>・学科主任等紹介<br>・居室への移動・代表学生はシーツの配付 |                         |
| 午後            | 11:45 ~ 12:15 昼食                                                                                  | 講堂                      |
|               | 13:00 ~ 14:00 講演会 浦田 肇 先生<br>「3000時間の経験について」                                                      |                         |
|               | 14:30 ~ 野外活動<br>カッター・カヌー・アーチェリー<br>ディスクゴルフ・ウォークラリー<br>(雨天時: インディアカ)                               | 晴天: 野外                  |
|               | 17:00 ~ 入浴                                                                                        | 雨天: 体育館                 |
|               | 17:20 ~ 18:20 夕食                                                                                  |                         |
|               | 18:20 ~ 19:00 学科別ミーティング                                                                           | 視聴覚<br>5研, 6研<br>7研, 8研 |
|               | 19:30 ~ 21:00 居室へ移動<br>就寝                                                                         |                         |
|               | 21:00 ~ 22:00                                                                                     |                         |

| 第2日目 4月22日(土) |                                      |                                               |
|---------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 時間            | 活動内容                                 | 場所                                            |
| 午前            | 6:30 起床                              | 雨天時: 体育館<br>居室等                               |
|               | 7:00 ~ 7:20 フレッシュタイム(交流広場 6:55までに集合) |                                               |
|               | 7:20 割振り場所の清掃<br>シーツを所定の場所へ返納        |                                               |
| 午前            | 8:00 ~ 8:40 朝食                       | 大研修室:<br>M・E科<br>1・2研: I科<br>7研: C科<br>8研: A科 |
|               | 8:40 講堂へ荷物移動<br>清掃点検(居室代表者1名)        |                                               |
|               | 9:00 ~ 『創作活動』<br>小皿上絵付け製作            |                                               |
| 午後            | 12:15 ~ 13:00 昼食                     |                                               |
|               | 13:15 退所 青年の家出発<br>途中 羽咋駅~津幡駅        |                                               |
|               | 14:15 本校到着                           |                                               |

(出典: 学生課保管資料)

## 資料 5-4-①-8 : 第2学年学外見学実施要項

## 平成18年度2年生学外見学実施計画書

## 《企画の目的》

学生生活に慣れてきた2年生を対象に、学科間の枠を超えた内容で相互の交流・親睦を図ることを目的とする。

また、石川県庁及び金沢大学工学部の施設見学や学科紹介を通して将来の進学就職等を考える一助とする。

## 《企画内容》

## 1. 日 時

平成18年11月8日(水) 8:50学校発→15:20学校着

## 2. 場 所

## (1) 金沢大学工学部(金沢市角間町)

工学部の機能機械工学科、人間機械工学科、電気電子システム工学科、情報システム工学科、土木工学科を5班に分かれて見学・説明を受ける。

電話: 076-234-4553

## (2) 石川県庁(金沢市鞍月1丁目1番地〒920-8580)

石川県県民交流課 総合案内

行政庁舎南側バスを降りて、守衛の指示で移動

電話: 076-225-1111 (内線 6130) FAX: 076-225-1363

## 《A班》

8:50学校発→9:10金沢大学工学部着→9:30工学部見学・説明

11:20~11:50昼食(金大工学部生協)→13:00までキャンパス内自由見学→13:00工学部発→

13:30石川県庁着→13:30見学、14:50県庁発→15:10学校着

『1号車 機械工学科 43名 2号車 電気工学科 42名

3号車 電子情報工学科 43名』

## 《B班》

8:50学校発→9:10石川県庁着→9:30見学→10:50石川県庁発

11:20金沢大学着→11:20~11:50昼食(金大中央生協) 13時までキャンパス内自由見学

13:00工学部見学・説明→15:00工学部発→15:20学校着

『4号車 環境都市工学科 41名 5号車 建築学科 42名』

## 3. 経費 運営交付金(正課教育費)

(バス借り上げ料5台分) 津幡⇄金沢市内 約305,000円

(※17年度実績 教育後援会費 304,500円)

(出典: 学生課保管資料)

## 資料 5-4-①-9 : 第3学年合宿研修実施要項

平成18年度 3年生合宿研修実施計画書

## 企画の目的

学生生活に慣れてきた第3学年を対象にして、学生生活から発生する諸問題の解消と教員、学生間の親睦交流を図ると共に、学生に対し組織的、計画的な合宿生活を経験させることによって、共同社会の一員としての自覚を持たせるとともに、必要な要素を身に付けさせることを目的とする。

## 企画の内容

1. 期 日 平成18年11月8日(水)～9日(木) 1泊2日

## 2. 宿泊場所

機械工学科

石川県立白山青年の家

〒920-2113 石川県白山市八幡町戊142番地

TEL 0761-92-3695

電気工学科

国立能登青少年交流の家

〒925-8530 羽咋市柴垣町14-5-6

TEL 0767-22-3121

電子情報工学科

金沢市キゴ山ふれあいの郷

〒920-1107 金沢市小豆沢町

TEL 076-229-0583

環境都市工学科

立山青少年自然の家

〒930-1458 富山県中新川郡立山町芦峯寺字前谷1

TEL 076-481-1321

建築学科

トヨタ白川郷自然学校

〒501-5620 岐阜県大野郡白川馬狩223

TEL 05769-6-1185

## 3. 参加者

別紙, 1のとおり (学生 213名, 引率教官 9名)

## 4. 見学場所等

## ○機械工学科

|               |           |                 |                 |
|---------------|-----------|-----------------|-----------------|
| 中村留精密工業株式会社   | 〒920-2195 | 石川郡鶴来町熱野町口15    | tel0761-93-1111 |
| まっとう車遊館       | 〒         | 石川県白山市徳光町2398-1 | tel076-274-8768 |
| 北国新聞社 白山別館    | 〒920-8588 | 石川県金沢市香林坊2-5-1  | tel076-260-3402 |
| キリンビール(株)北陸工場 | 〒924-8501 | 石川県白山市竹松町2480番  | tel076-274-8880 |
| ハウメット・ジャパン(株) | 〒923-1101 | 石川県能美市粟生町西61-1  | tel0761-58-6667 |
| 手取フィッシュランド    | 〒923-1101 | 石川県能美市粟生町ツ58    | tel0761-57-2211 |
| 小松航空プラザ       | 〒         | 石川県小松市安宅新町丙92番地 | tel0761-23-4811 |

## ○電気工学科

|            |           |                  |                 |
|------------|-----------|------------------|-----------------|
| 金沢村田製作所    | 〒920-2101 | 石川県白山市曾谷町チ18番地   | tel             |
| 澁谷工業株式会社   | 〒929-8681 | 金沢市大豆田本町甲58      | TEL076-262-1201 |
| 石川サンケン株式会社 | 〒925-0151 | 羽咋郡志賀町字梨谷小山ハ5    | tel0767-32-8111 |
| 七尾火力発電所    | 〒926-8588 | 石川県七尾市大田町114部2-4 | tel0767-52-6900 |

## ○電子情報工学科

|          |           |                |                 |
|----------|-----------|----------------|-----------------|
| (株)PFU本社 | 〒929-1125 | 石川県かほく市宇野気リ217 | tel076-283-5550 |
| 別川製作所    | 〒924-8560 | 石川県白山市漆島町1136  | tel076-277-6700 |
| 三谷産業(株)  | 〒920-0863 | 石川県金沢市玉川町1-5   |                 |

## ○環境都市工学科

|                         |           |                                       |  |
|-------------------------|-----------|---------------------------------------|--|
| 国土交通省 北陸地方整備局 黒部川河川事務所  | 〒938-0042 | 黒部市天神新173                             |  |
|                         |           | (宇奈月ダム・黒部川河川事業・下新川海岸事業)               |  |
| 国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防事務所   | 〒930-1405 | 富山県中新川郡立山町                            |  |
|                         |           | (常願寺川 水辺の楽校・本宮砂防えん堤)                  |  |
| 国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所 | 〒930-8537 | 富山市石金3-2-37                           |  |
|                         |           | (常願寺川河川事業・横江えん堤・霞堤・大場の大転石・ピストル水制・佐々堤) |  |

## ○建築学科 (8日のバスは石川県建築住宅総合センター) (9日は借上げバス)

|                                                         |  |  |  |
|---------------------------------------------------------|--|--|--|
| 金沢木材協同組合木材加工所・・・バリアフリー施設「ほっと安心の家」                       |  |  |  |
| 兼六園・時雨亭・・・住宅団地見学・・・                                     |  |  |  |
| 白川郷見学(白川村役場 501-56 岐阜県大野郡白川村鳩谷391-3)                    |  |  |  |
| 砺波散居村ミュージアム                                             |  |  |  |
| (富山建築士会 939-8084 富山市西中野町1-7-27 タカノビル4階 tel076-495-7446) |  |  |  |
| ミュゼ福岡カメラ館 939-0117 西砺波郡福岡町新559 TEL0766-64-0550)         |  |  |  |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-4-①-10 : 第4学年見学旅行実施要項

## 平成18年度4年生見学旅行一覧表

| 学科・実施期間                                              | 見学先(住所)                                                                                                                                                                                    | 引率者                                                 |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 機械工学科 41名<br>(内女子1名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日)    | アイシン精機株式会社(愛知県刈谷市)<br>トヨタ自動車株式会社 トヨタ会館(愛知県豊田市)<br>ヤマザキマザック株式会社(岐阜県美濃加茂市)<br>三菱重工業株式会社名古屋誘導推進システム製作所(愛知県小牧市)<br>愛知製鋼株式会社(愛知県東海市)<br>産業技術記念館(愛知県名古屋市)<br>名古屋城(愛知県名古屋市)                       | 教授 鶴崎 明<br>講師 堀 純也                                  |
| 電気工学科 41名<br>(内女子7名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日)    | 産業技術総合研究所(茨城県つくば市)<br>筑波宇宙センター(茨城県つくば市)<br>高エネルギー加速器研究機構(茨城県つくば市)<br>富士通株式会社川崎工場(神奈川県川崎市)<br>三菱みなとみらい技術館(神奈川県横浜市)<br>ANA機体メンテナンスセンター(東京都大田区)<br>日本科学未来館(東京都江東区)<br>ソニーエクスプローラーサイエンス(東京都港区) | 助教授 徳井 直樹<br>助手 東 亮一                                |
| 電子情報工学科 37名<br>(内女子12名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日) | 日本テレコムネットワークオペレーションセンター(東京都渋谷区)<br>フジテレビジョン(東京都港区)<br>NTTドコモR&DWHARF(神奈川県横須賀市)<br>三菱みなとみらい技術館(神奈川県横浜市)<br>富士通株式会社川崎工場(神奈川県川崎市)<br>NHK放送センター(東京都渋谷区)<br>ソニーショールーム(東京都中央区)                   | 講師 長岡 健一<br>助手 河村 泰之                                |
| 環境都市工学科 36名<br>(内女子15名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日) | 中之島新線工事(大阪市北区)<br>道頓堀川整備事業(大阪市中央区)<br>大阪南港港湾工事<br>関西新空港(大阪市泉州市)<br>阪神高速道路大阪管理部管制センター(大阪市中央区)<br>阪神高速2号淀川左岸島屋工区(大阪市中央区)<br>明石海峡大橋, 鳴門大橋<br>神戸震災記念館(神戸市中央区)                                  | 教授 小泉 徹<br>技術職員1名                                   |
| 建築学科 41名<br>(内女子24名)<br>11月7日(火)～12日(日)<br>(5泊6日)    | 杭州職業技術学院, 六和塔, 西湖(中国 杭州市)<br>上海環球金融中心インフォメーションセンター(中国 上海市)<br>東方明珠テレビ塔, 豫園, 新天地( )<br>上海科学技術館および芸術センター( )<br>都市計画展示館, 上海博物館( )<br>虎丘, 刺繍研究所, 寒山寺, 拙政園(中国 蘇州市)                              | 教授 金木 健<br>教授 北田 幸彦<br>助手 内田 伸<br>助手 森原 崇<br>事務職員2名 |

(出典: 学生課保管資料)

## (分析結果とその根拠理由)

低学年への生活指導は、時間割に組み込まれた特別活動(ホームルーム)においてなされている。加えて様々な特別活動が年間行事として計画されており、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。特に、一泊以上の研修・見学が第1, 3, 4学年において実施され、人間関係を良好にする取り組みが行われている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

1) 学生指導体制

各クラスに配置された担任は、教員マニュアルの中の「学生指導について」に沿って(資料5-4-②-1)、日々の生活面・学習面の指導を行い、クラスの運営を行っている。また全教員がオフィスアワーを実施し、学生玄関の掲示板に告知するとともに、教員室前にもオフィスアワーの時間を掲示している(資料5-4-②-2, 3)。

本校では学生の相談等に関し、適切な助言、援助等を行うことを目的として学生相談室を設置し(資料5-4-②-4)、月・水・金曜の放課後、学生相談室に教員1名が常駐して相談を受ける体制となっている。また定期的に専門のカウンセラーによる相談を受けることができる体制も整っている(資料5-4-②-5)。詳しい日程等は、本校ウェブページからも確認できるようになっている。

- 資料5-4-②-1：学生指導体制
- 資料5-4-②-2：各教員オフィスアワーの時間帯一覧
- 資料5-4-②-3：教員室ドアの時間割掲示例
- 資料5-4-②-4：学生相談室規則
- 資料5-4-②-5：学生相談室からの案内の掲示

資料5-4-②-1：学生指導体制

第4章 学生指導について

4.1 基本的な指導

〈 日常の学習指導 〉

- ・低学年のうちから予習・復習の習慣をつけさせてください。言われたまま、書かれたままを 暗記し、ただ教員の指示に従うのではなく、自分で学習することができる力を培えるように 指導してください。
- ・講義中には、学生に積極的に質問をするように働きかけてください。また、オフィスアワー等を活用し、授業で分からなかった点や疑問点を教員室へ相談に来るように、指導を行ってください。

〈 定期試験後の学習指導 〉

- ・中間・期末試験の後は、その成績をもとに学生の指導を行ってください。特に成績不振者については、随時声をかけ指導を行い、必要によっては補講をする、課題を与えるなどの措置 を行ってください。

(出典：教員マニュアル)



資料 5-4-②-2 : 各教員オフィスアワーの時間帯一覧

平成18年度前期 教員オフィスアワー

平成18年度前期の各教員のオフィスアワーを以下のとおり通知します。以下の時間については、研究室に在室し、修学、学生生活等の質問、相談時間とします。なお、下記時間帯以外においても、研究室在室の際は、同様に質問、相談に応じます。

| 学科    | 氏名      | 月曜日                      | 火曜日         | 水曜日         | 木曜日         | 金曜日         |
|-------|---------|--------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 一般教育科 | 中村 英樹   | 15:00~18:00              |             |             |             |             |
|       | 山岸 和    | 15:00~18:30              |             |             | 16:40~18:30 |             |
|       | 大田 伸子   | 17:15~18:30              | 15:00~17:00 |             |             |             |
|       | 高島 夏    |                          |             |             |             | 18:40~18:30 |
|       | 鈴木 康文   |                          | 16:50~18:00 |             |             |             |
|       | 川原 秀夫   |                          | 15:00~18:00 |             |             |             |
|       | 河合 敏夫   | 16:50~18:30              |             |             |             | 15:00~16:40 |
|       | 細谷 雅    | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 小笠原 猛   | 15:00~18:30              | 15:00~18:30 |             |             |             |
|       | 鈴木 久博   | 15:00~18:30              | 15:00~18:30 |             |             |             |
|       | 藤田 光輝   | 15:00~18:40              |             |             |             |             |
|       | 栗山 正人   | 8:30~8:45<br>15:00~16:40 | 8:30~8:45   | 8:30~8:45   | 8:30~8:45   |             |
|       | 森田 健二   | 15:40~18:30              |             |             |             | 15:00~16:40 |
|       | 北田 新司   | 16:40~17:30              |             |             | 15:00~16:40 |             |
|       | 大田 智加子  | 15:00~18:00              |             |             |             |             |
|       | 佐々木 香   |                          | 16:45~18:30 |             | 16:45~18:30 |             |
|       | 岩竹 淳    |                          |             | 15:00~18:30 |             |             |
|       | 笠松 健一   |                          |             |             | 17:00~18:30 |             |
|       | スコフィールド |                          | 15:00~17:00 | 15:00~17:00 | 17:00~18:30 | 15:00~17:00 |
|       | 機械工学科   | 真崎 正明                    | 16:40~17:15 |             | 15:00~17:15 | 16:00~17:15 |
| 松崎 良男 |         | 15:00~16:40              |             | 15:00~16:40 |             | 16:50~18:00 |
| 前田 博  |         |                          | 16:00~18:00 |             | 15:00~16:40 |             |
| 石田 純  |         |                          | 15:00~16:40 |             | 14:50~17:00 |             |
| 藤原 浩  |         | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
| 旭 雅   |         |                          | 15:00~16:40 |             |             |             |
| 電気工学科 | 前田 勉    | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 藤野 仁志   | 15:00~18:40              |             |             |             |             |
|       | 深見 哲治   | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 宮内 照治   | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 森田 義    | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 瀬戸 悟    | 15:00~18:30              |             | 16:00~18:30 |             |             |
|       | 大坪 茂    | 15:00~16:40              |             |             |             |             |
|       | 徳井 直樹   | 15:00~18:30              |             |             | 16:50~18:30 |             |
|       | 山田 合    | 15:00~18:30              | 16:40~18:30 | 15:00~18:30 |             |             |
|       | 東 康光    |                          | 16:50~18:00 |             | 16:50~18:00 |             |

| 学科      | 氏名     | 月曜日         | 火曜日         | 水曜日         | 木曜日         | 金曜日         |
|---------|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 電子情報工学科 | 白山 政敏  | 15:00~18:30 |             |             |             |             |
|         | 岡野 修一  |             |             | 15:50~18:30 |             |             |
|         | 堀田 素志  | 15:00~16:40 |             |             |             |             |
|         | 竹下 碧   | 15:50~18:30 |             |             |             |             |
|         | 金寺 義章  | 14:40~18:30 |             |             |             |             |
|         | 山田 健二  | 15:00~16:40 |             |             | 17:00~18:30 |             |
|         | 長岡 健二  |             |             |             | 15:00~16:40 |             |
|         | 河村 泰之  |             | 16:30~18:30 |             | 16:30~18:30 |             |
|         | 小畑 良太郎 | 15:00~16:40 |             |             |             | 15:00~16:40 |
|         | 福野 亮   |             |             | 15:00~18:40 |             | 15:00~16:40 |
| 環境都市工学科 | 出村 禮典  | 15:00~16:40 | 15:00~17:15 |             |             |             |
|         | 小泉 勇   |             |             |             | 16:40~18:20 |             |
|         | 竹本 邦夫  |             |             |             | 16:45~17:15 | 16:45~17:15 |
|         | 高野 亮   | 15:00~16:40 |             |             |             |             |
|         | 菅原 亮   | 17:00~18:30 | 17:00~18:30 |             |             |             |
|         | 重松 安明  | 17:00~18:30 |             |             |             |             |
|         | 豊田 剛   | 17:00~18:30 |             |             |             |             |
|         | 鈴木 洋之  |             |             |             |             | 15:00~16:40 |
|         | 高野 典礼  | 16:40~18:30 |             |             |             |             |
|         | 和田 可   |             | 16:20~18:30 | 16:20~18:30 |             |             |
| 建築学科    | 石本 隆   | 16:40~17:15 | 16:40~17:15 |             |             |             |
|         | 和区 健博  | 16:40~18:30 | 16:40~18:30 |             | 16:40~18:30 | 16:40~18:30 |
|         | 北田 幸彦  | 16:50~18:30 |             | 15:00~17:15 |             | 17:00~17:15 |
|         | 河内 浩志  |             |             |             |             |             |
|         | 熊澤 亮二  | 15:00~17:15 | 16:50~18:30 |             | 16:40~17:15 |             |
|         | 船戸 雄也  | 17:00~18:00 |             |             | 17:00~18:00 |             |
|         | 村田 一也  | 17:00~18:00 |             |             | 17:00~18:00 |             |
|         | 内田 伸   | 15:00~16:45 |             |             |             |             |
|         | 森 謙    | 16:40~18:30 |             |             | 16:40~18:30 |             |

上記以外の授業担当教員は、授業の際に本校へ来校される非常勤講師の方です。本校には研究室がありません。非常勤講師のオフィスアワーについては、授業の前後15分程度については、非常勤講師控室（管理棟1階）を原則とします。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-4-②-3 : 教員室ドアの時間割掲示例

|             | 月       | 火     | 水     | 木 | 金  |
|-------------|---------|-------|-------|---|----|
| 1・2         | 4C      |       | 3A    |   |    |
| 3・4         | 1M      |       |       |   | 3A |
| 5・6         |         | 4A    | 1E    |   | 1M |
| 7・8         | オフィスアワー |       | 特活    |   |    |
| 17:00~18:30 | オフィスアワー | 会議が多い | 会議が多い |   |    |

  オフィスアワー(7・8限が特別講義のときでも17:00以降には部屋にいます)

  在室の可能性は高いと思います。訪ねてみてください。

どの時間帯でも質問に遠慮はいりません。  
部屋をノックしてからドアを少し開けてみてください。  
定期試験前は朝の勉強室をしています。(グループ演習室)

※ 出張や休暇などはこの限りではありません。



(出典：教員保管資料)

## 資料 5-4-②-4：学生相談室規則

## ○石川工業高等専門学校学生相談室規則

## (設置)

第1条 本校における学生の相談等に関し、適切な助言、援助等を行うことを目的として、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

## (業務)

第2条 相談室は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 学生の修学、その他個人的な相談に関すること。
- (2) 学生の精神衛生上必要な相談及び援助等に関すること。
- (3) 学生のセクシュアル・ハラスメントに起因する苦情相談への対応に関すること。
- (4) 学生相談の活動に必要な研究及び調査に関すること。
- (5) その他学生相談に必要な業務の実施に関すること。

## (組織)

第3条 相談室に、次の各号に掲げる教職員を置く。

- (1) 相談室長
  - (2) 相談室員
  - (3) カウンセラー
- 2 相談室長は、本校の教員の中から校長が委嘱する。
- 3 相談室員は、次の教職員をもって充てる。
- (1) 本校の教員の中から各学科1名ずつを相談室長が推薦し、校長が委嘱した者
  - (2) 本校の看護師
- 4 カウンセラーは、学生相談に関する専門的知識、経験を有する者を校長が委嘱する。

## (職務)

第4条 相談室長は、相談室を総括する。

- 2 相談室員及びカウンセラーは、第2条に掲げられた業務を行う。
- 3 前条第3項第2号の相談室員は、学生とカウンセラー及び他の相談室員との連絡調整等の業務を行う。

## (秘密の保持)

第5条 相談室の教職員は、業務上知り得た個人的な事項については、その秘密を他に漏らしてはならない。

## (相談室への連絡)

第6条 相談室の教職員以外の教職員は、相談室の助言及び援助が必要と思われる学生を認めるときは、速やかに相談室の教職員に連絡するものとする。

## (事務)

第7条 相談室の事務は、学生課において処理する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

資料 5-4-②-5：学生相談室からの案内の掲示

(相談室の活動のうち、人間の素養の涵養に資する行事の案内) 学生への掲示

## ちょっと学生相談室で話していきませんか？

学生相談室は、毎週月・水・金曜日の15:00～17:00まで開設しています。

月・金曜日は、学生相談室員の先生が、待機しています。

水曜日は、「心の健康相談日」で、学外からカウンセラーの先生が来られます。各週で、2人のカウンセラーの先生が交替で待機します。

日程は掲示やホームページで確認してください。

他の曜日でも、教員室で相談を受け付けます。

メールで面談の予約も受け付けます。

### 学生相談室ホームページ

<http://www.ishikawa-nct.ac.jp/soudan/>

#### ♪ 学生相談室員 ♪

|                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 太田 伸子(一般教育科・英語) | 北田 耕司(一般教育科・保健体育) |
| 石田 博明(機械工学科)    | 森田 義則(電気工学科)      |
| 越野 亮(電子情報工学科)   | 高野 典礼(環境都市工学科)    |
| 村田 一也(建築学科)     | 浦田 肇(カウンセラー)      |
| 大浦 暢子(カウンセラー)   | 干場 佳美(看護師)        |

学生相談室は、養高館2階 保健室のとなりにあります。

(出典：教員宛電子メール添付資料)

2) 新入生への指導

新入生に対しては入学式当日に担任および学科主任からの説明と専門学科の見学を実施している。さらに翌日は新入生オリエンテーションとして各主事および学生相談室長から学生生活上の説明・指導を行っている(既出資料 5-3-①-9)。また4月中に1泊2日で合宿研修を実施しており、クラス内の人間関係を構築する機会にもなっている(既出資料 5-4-①-7)。

3) 学校行事の実施状況

年間行事に組み入れた学生会が主催する年2回の球技大会(既出資料 5-4-①-6)、年2回の文化部発表および文化祭(本校では紀友祭と呼ぶ)(資料 5-4-②-9)を行っている。

□ 資料 5-4-②-9 : 文化祭パンフレット表紙

資料 5-4-②-9 : 文化祭パンフレット表紙



(出典：学生課保管資料)

## 4) クラブ活動

平成18年度に登録されている団体は、運動部20，文化部9，同好会7である。顧問は部の規模や活動状況（大会や練習試合の頻度）に応じて1～3名が配置されている（資料 5-4-②-10）。特に運動部ではその多くに2名以上の顧問が配置されている。また年度末には学生会主催のクラブリーダー会議を実施し、会議には学生主事ならびに体育教員も出席してクラブの部長やキャプテンへの指導を行っている（資料 5-4-②-11）。

以上のように課外活動を通じて学生は協調性を高めるなど、人間の素養の涵養が図られるよう配慮している。

- 資料 5-4-②-10：課外活動指導教員名簿一覧
- 資料 5-4-②-11：クラブリーダー会議実施要項

資料 5-4-②-10：課外活動指導教員名簿一覧

| 区分       | 部・同好会名        | 指導教員名          | 主な活動場所     | キャプテン | 部員数 |     |     |
|----------|---------------|----------------|------------|-------|-----|-----|-----|
|          |               |                |            |       | 男子  | 女子  | 計   |
| 部<br>体育系 | 1 サッカー        | 富田, 堀, 河合(秀)   | グラウンド      |       | 27  | 6   | 33  |
|          | 2 バスケットボール    | 鈴木(久), 河野      | 第1体育館      |       | 31  | 5   | 36  |
|          | 3 野球          | 小泉, 北田(耕), 奥田  | 野球場        |       | 52  | 6   | 58  |
|          | 4 卓球          | 瀬戸, 藤岡         | 第1体育館      |       | 24  | 9   | 33  |
|          | 5 ラグビー        | 大坪, 鈴木(康)      | グラウンド      |       | 10  | 5   | 15  |
|          | 6 柔道          | 畑, 高島          | 武道館        |       | 12  | 0   | 12  |
|          | 7 ソフトテニス      | 深見, 石田, 森原     | テニスコート     |       | 27  | 14  | 41  |
|          | 8 テニス         | 北田(幸), 豊田, 富山  | テニスコート     |       | 33  | 3   | 36  |
|          | 9 剣道          | 松島, 山田(洋)      | 武道場        |       | 12  | 9   | 21  |
|          | 10 バレーボール     | 森田(義), 村田      | 第1体育館      |       | 19  | 5   | 24  |
|          | 11 陸上競技       | 岩竹, 旭吉         | 津幡町運動公園競技場 |       | 38  | 9   | 47  |
|          | 12 バドミントン     | 長岡, 熊澤         | 第2体育館      |       | 27  | 2   | 29  |
|          | 13 水泳         | 西澤, 和田         | プール        |       | 13  | 10  | 23  |
|          | 14 ヴァグフォークル   | 團野, 重松         | 部室         |       | 4   | 2   | 6   |
|          | 15 ハンドボール     | 川原, 東          | 第2体育館      |       | 18  | 6   | 24  |
|          | 16 空手道        | 割澤, 小熊         | 武道館        |       | 10  | 0   | 10  |
|          | 17 女子テニス      | 佐々木, 河合(康)     | テニスコート     |       | 0   | 16  | 16  |
|          | 18 女子バレーボール   | 笠松, 上町         | 第2体育館      |       | 0   | 17  | 17  |
|          | 19 女子バドミントン   | 太田(智), 高野      | 第2体育館      |       | 0   | 11  | 11  |
|          | 20 女子バスケットボール | 山田(悟), 團野, 澤田  | 第1体育館      |       | 0   | 19  | 19  |
| 体育系部合計   |               |                |            |       | 357 | 154 | 511 |
| 部<br>文化系 | 1 美術          | 阿蘇, 紺谷         | サクル共用棟美術部室 |       | 4   | 10  | 14  |
|          | 2 写真          | 金木             | サクル共用棟写真部室 |       | 0   | 7   | 7   |
|          | 3 電気          | 徳井             | サクル共用棟電気部室 |       | 6   | 0   | 6   |
|          | 4 吹奏楽         | 小熊, 記州         | サクル共用棟吹奏楽部 |       | 11  | 19  | 30  |
|          | 5 英語          | 太田(伸), スコフィールド | サクル共用棟英語部室 |       | 7   | 8   | 15  |
|          | 6 新聞部         | 長岡             | サクル共用棟新聞部室 |       | 0   | 5   | 5   |
|          | 7 将棋・囲碁部      | 越野, 中村         | サクル第一共用室   |       | 8   | 0   | 8   |
|          | 8 建築研究        | 内田             | 建築棟 仮部室    |       | 21  | 12  | 33  |
|          | 9 電子情報研究      | 竹下, 越野         | 電子情報棟 仮部室  |       | 20  | 0   | 20  |
|          | 10 茶道部        | 堀              | 自彊館 畳室     |       | 1   | 5   | 6   |
|          | 11 ロボット研究部    | 八田, 藤岡         | 機械棟 1F     |       |     |     |     |
| 文化系部合計   |               |                |            |       | 78  | 66  | 144 |
| 部合計      |               |                |            |       | 435 | 220 | 655 |
| 部<br>文化系 | 1 F L         | 大坪             | サクル共用棟     |       | 24  | 1   | 25  |
|          | 2 映画          | 米澤             | 視聴覚教室      |       | 4   | 0   | 4   |
|          | 3 環境都市工学研究    | 鈴木, 重松         | 環境棟 仮部室    |       | 9   | 3   | 12  |
|          | 4 園芸          | 高野             |            |       |     |     |     |
| 文化系同好会合計 |               |                |            |       | 37  | 4   | 41  |
| 同好会合計    |               |                |            |       | 77  | 22  | 99  |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-4-②-11：クラブリーダー会議実施要項

## 平成19年度クラブリーダー研修会

毎年恒例のクラブリーダー研修会を行いたいとおもいます。  
当日のプログラムは次の通りです。

日時：平成19年3月13日（火）  
文化部 9：00～  
運動部 13：00～  
場所：石川工業高等専門学校 管理棟2階会議室にて

## 《研修日程プログラム》

| 時 間   | 内 容                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 9：00  | 文化部研修会説明（会長挨拶）                                      |
| 9：10  | 年間活動報告                                              |
| 10：00 | 予算請求報告<br>私金立替等の各種書類の書き方の説明                         |
| 11：00 | 予算折衝                                                |
| 13：00 | 運動部研修会説明（会長挨拶）                                      |
| 13：10 | 年間活動報告                                              |
| 14：00 | 消耗品の選定<br>予算請求報告<br>私金立替等の各種書類の書き方の説明<br>学生会からのお知らせ |
| 14：15 | 研修（未定）                                              |
| 15：00 | 研修総括（学生主事より）<br>予算折衝に関する説明                          |
| 15：00 | 予算折衝                                                |
| 16：30 | 研修会終了                                               |

以上を予定しています。  
多少の変更ありますのでそのつど連絡します。  
春休み中、お忙しいと思いますがよろしくおねがいます。

・持ち物 筆記用具・仮予算・この冊子 その他、任意に必要なもの。

（出典：学生課保管資料）

## （分析結果とその根拠理由）

学生への生活指導は時間割に組み込まれたホームルームやオフィスアワーの設置，文化祭やクラブ活動においてなされている。また新入生に対しても入学当初からガイダンスや一泊の合宿研修を実施している。以上により，クラス担任やクラブ顧問を通じて生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

## 基準5 教育内容及び方法

## ＜専攻科課程＞

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の教育課程は、準学士課程の5学科（以下、基盤学科という）のうち、機械工学科、電気工学科、電子情報工学科の3学科で構成する電子機械工学専攻と、環境都市工学科、建築学科の2学科で構成する環境建設工学専攻の2つの専攻からなっている。

これらの教育課程における授業カリキュラムは、両専攻共通の一般科目および専門共通科目と、各専攻で異なる専門展開科目より構成され（資料 5-5-①-1）、準学士課程の教育の上に、さらに高度な専門的知識と技術を教授し研究指導を行うことを目的として、専攻科の5つの学習目標とその達成要件に沿って（資料 5-5-①-2）、基盤学科の準学士課程との連携を考慮している。

これらのカリキュラムは、電子情報工学科出身者に対して電気電子分野と情報分野の2つの学士申請領域が設定されていることから、6つの申請領域に対しての連携が考慮されている（資料 5-5-①-3～8）。

- 資料 5-5-①-1：授業科目群
- 資料 5-5-①-2：専攻科の学習目標
- 資料 5-5-①-3：学習目標対応の科目系統図：機械工学科（電子機械工学専攻）
- 資料 5-5-①-4：学習目標対応の科目系統図：電気工学（電子機械工学専攻）
- 資料 5-5-①-5：学習目標対応の科目系統図：電子情報工学科（電子機械工学専攻・電気電子）
- 資料 5-5-①-6：学習目標対応の科目系統図：電子情報工学科（電子機械工学専攻・情報）
- 資料 5-5-①-7：学習目標対応の科目系統図：環境都市工学科（環境建設工学専攻）
- 資料 5-5-①-8：学習目標対応の科目系統図：建築学科（環境建設工学専攻）



## 資料 5-5-①-1 : 授業科目群

## 一般科目

| 区分               | 授 業 科 目        |
|------------------|----------------|
| 一<br>般<br>科<br>目 | 日 本 語 表 現      |
|                  | 国 際 表 現        |
|                  | オーラルコミュニケーションⅠ |
|                  | オーラルコミュニケーションⅡ |
|                  | 環 境 倫 理        |
|                  | 健 康 科 学        |
| 日 本 文 化 論        |                |

## 専門共通科目

| 区分                         | 授 業 科 目               |
|----------------------------|-----------------------|
| 専<br>門<br>共<br>通<br>科<br>目 | 創 造 工 学 演 習 Ⅰ         |
|                            | 創 造 工 学 演 習 Ⅱ         |
|                            | 環 境 技 術 総 論           |
|                            | イ ン タ ー ン シ ッ プ       |
|                            | 線 形 数 学               |
|                            | 離 散 数 学               |
|                            | 量 子 力 学               |
|                            | セ ン サ 工 学             |
|                            | 画 像 工 学               |
|                            | 計 算 機 シ ミ ュ レ ー シ ョ ン |
|                            | レ ー ザ 工 学             |
|                            | 計 測 制 御 工 学           |
|                            | 生 体 情 報 工 学           |
| 基 礎 雪 氷 学                  |                       |
| 住 生 活 文 化 論                |                       |

## 専門展開科目

## 電子機械工学専攻

| 区分                         | 授 業 科 目               |
|----------------------------|-----------------------|
| 専<br>門<br>展<br>開<br>科<br>目 | 特 別 研 究 Ⅰ             |
|                            | 特 別 研 究 Ⅱ             |
|                            | 電 磁 エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学 |
|                            | 機 能 素 子 工 学           |
|                            | エ ネ ル ギ ー 伝 送 工 学     |
|                            | 熱・流体エネルギー変換工学         |
|                            | 移 動 現 象 論             |
|                            | ト ラ イ ボ ロ ジ ー         |
|                            | 電 磁 波 工 学             |
|                            | 電 子 物 性               |
|                            | 電 子 材 料 設 計           |
|                            | 音 声 情 報 処 理           |
|                            | 機 械 機 構 シ ス テ ム 論     |
| 現 代 信 号 処 理 論              |                       |

## 環境建設工学専攻

| 区分                         | 授 業 科 目       |
|----------------------------|---------------|
| 専<br>門<br>展<br>開<br>科<br>目 | 特 別 研 究 Ⅰ     |
|                            | 特 別 研 究 Ⅱ     |
|                            | 応 用 水 文 学     |
|                            | 地 盤 基 礎 工 学   |
|                            | 建 設 材 料 学     |
|                            | 建 築 環 境 調 整 論 |
|                            | 交 通 基 盤 工 学   |
|                            | 環 境 地 盤 工 学   |
|                            | コンクリート複合材料工学  |
|                            | 人間・環境デザイン論    |
|                            | 建 築 構 造 計 算 学 |
|                            | 構 造 解 析 学     |
|                            | 環 境 景 観 論     |
| 建 築 ・ 地 域 空 間 形 成 論        |               |

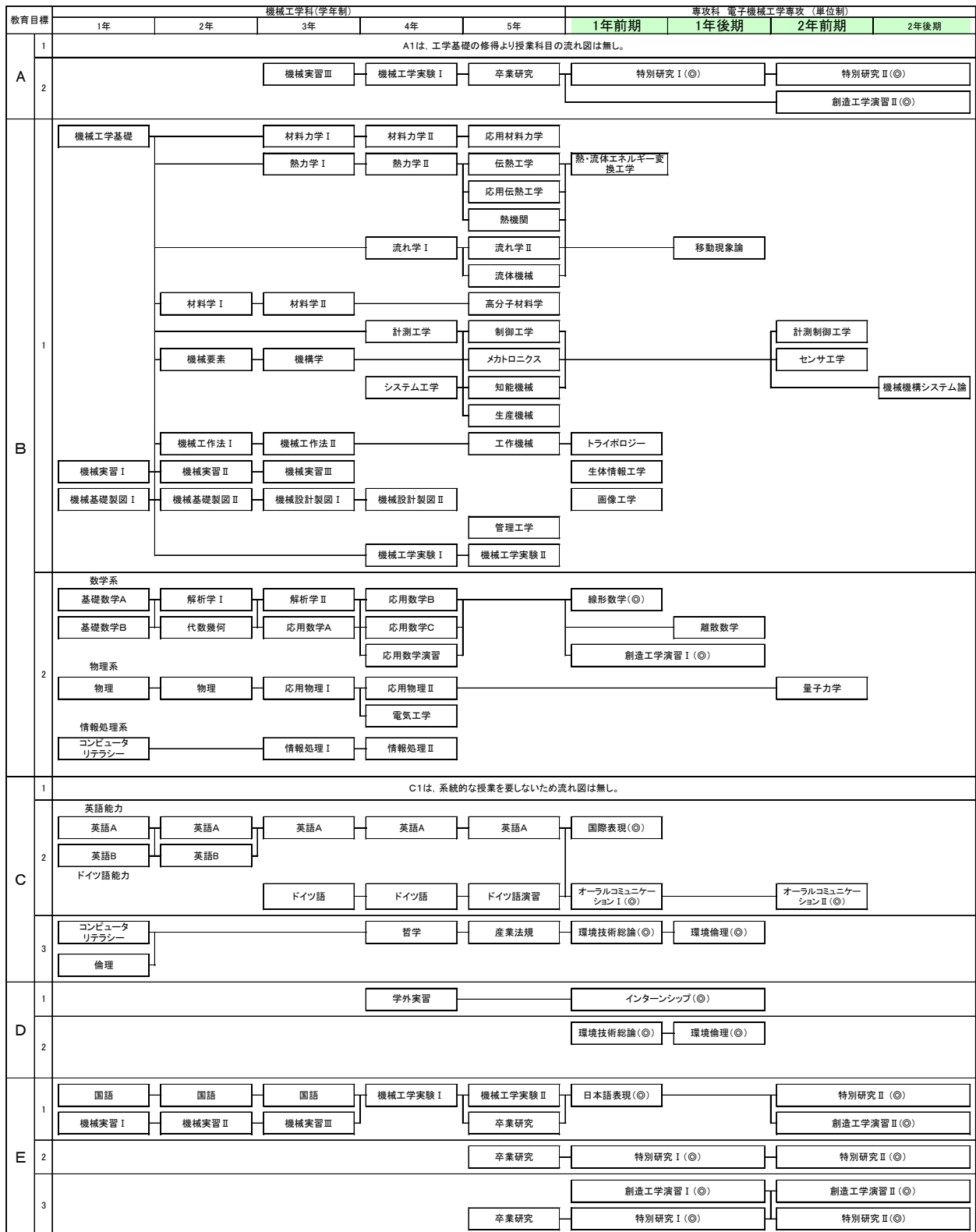
(出典：平成19年度学生便覧)

## 資料 5-5-①-2：専攻科の学習目標

- A：科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り，たゆまず努力することができる。
- (1) 基礎工学（設計システム，情報論理，材料バイオ，力学，社会技術）の科目を修得している。
  - (2) PBL(Problem-based Learning)の経験から創造の喜びを修得している。
- B：問題を発見・提起し，修得した技術に関する知識や理論によって解析し，解決までできる。
- (1) 学士の学位を取得できる専門工学の知識と能力を有する。
  - (2) 数学（情報処理）・物理による理論的解析能力がある。
- C：国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち，社会や自然環境に配慮できる。
- (1) 国際社会を多面的に考えることができる。
  - (2) 外国語によるコミュニケーション能力がある。
  - (3) 技術者倫理を修得している。
- D：実践的な体験をとおして，地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- (1) 地域企業などでのインターンシップをとおして，実務上の問題点と解決法の現状を体得している。
  - (2) 実務上の問題点として，いろいろな環境技術について検討できる。
- E：チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ，論理的な記述・発表ができる。
- (1) 日本語による論理的な記述，コミュニケーションができる。
  - (2) 地道に行った研究成果を口頭発表できる。
  - (3) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめることができる。

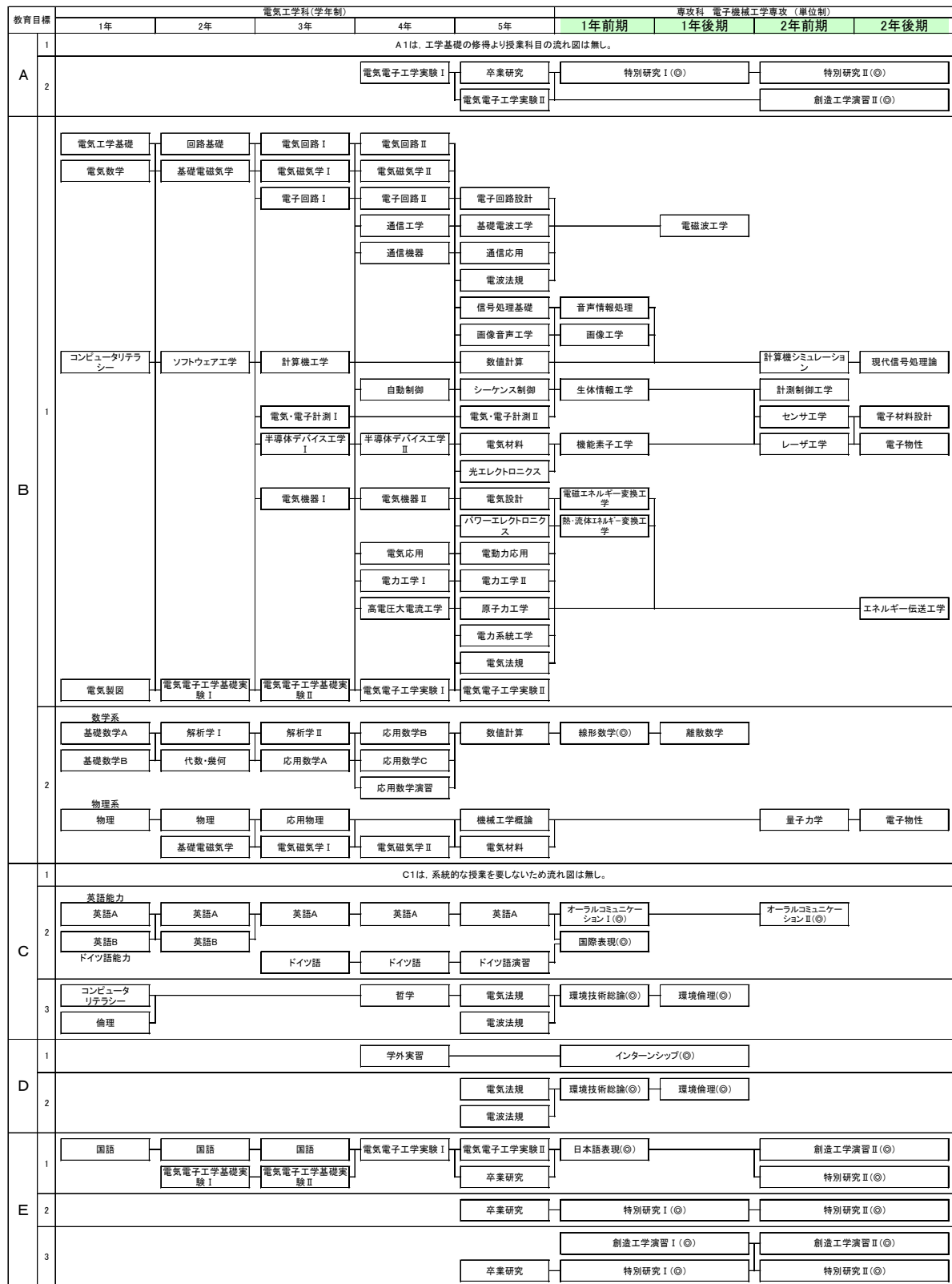
(出典：19年度シラバス，p.3)

資料 5-5-①-3 : 学習目標対応の科目系統図 : 機械工学科 (電子機械工学専攻)



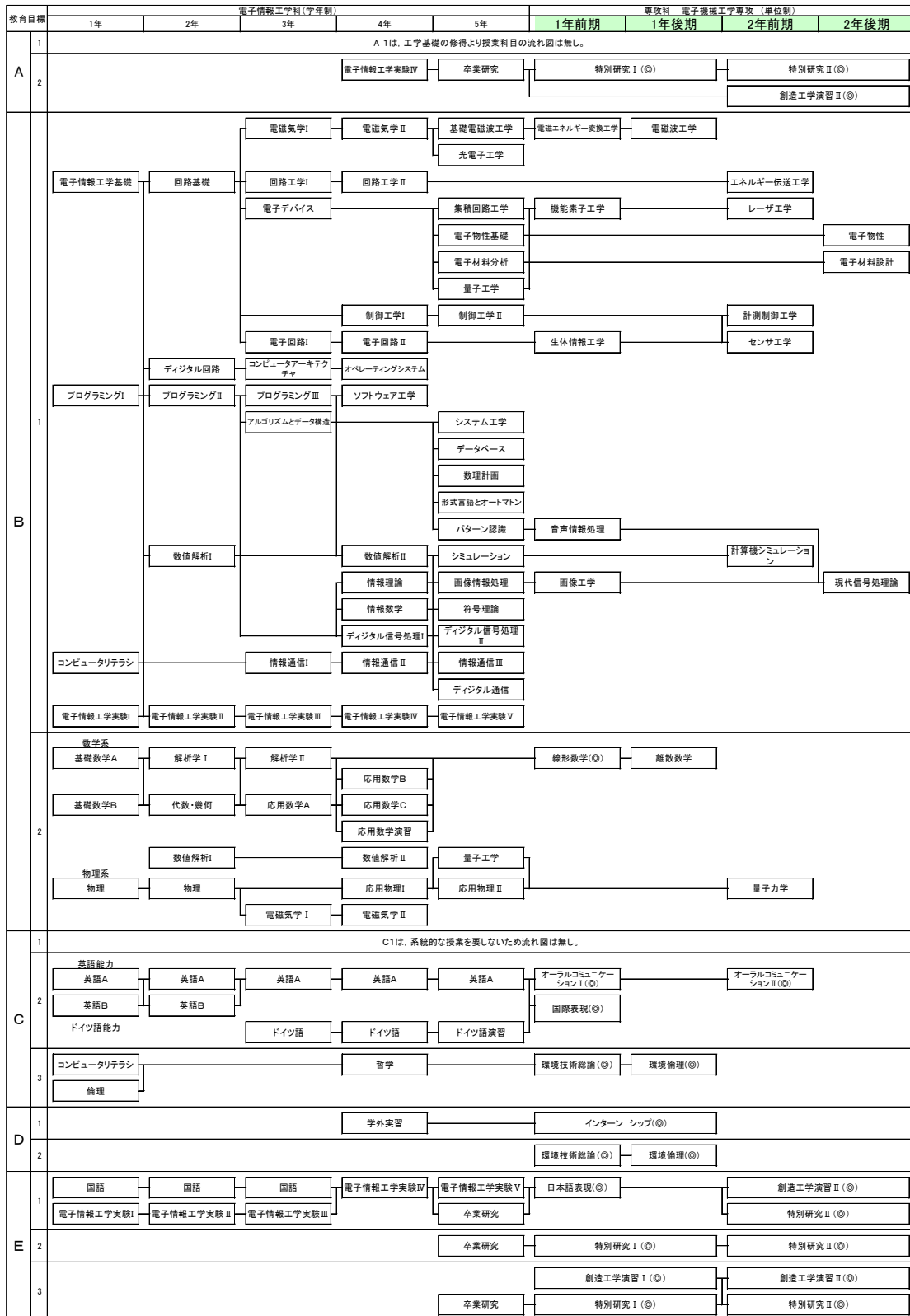
(出典：JABEE部会保管資料)

資料 5-5-①-4 : 学習目標対応の科目系統図 : 電気工学科 (電子機械工学専攻)



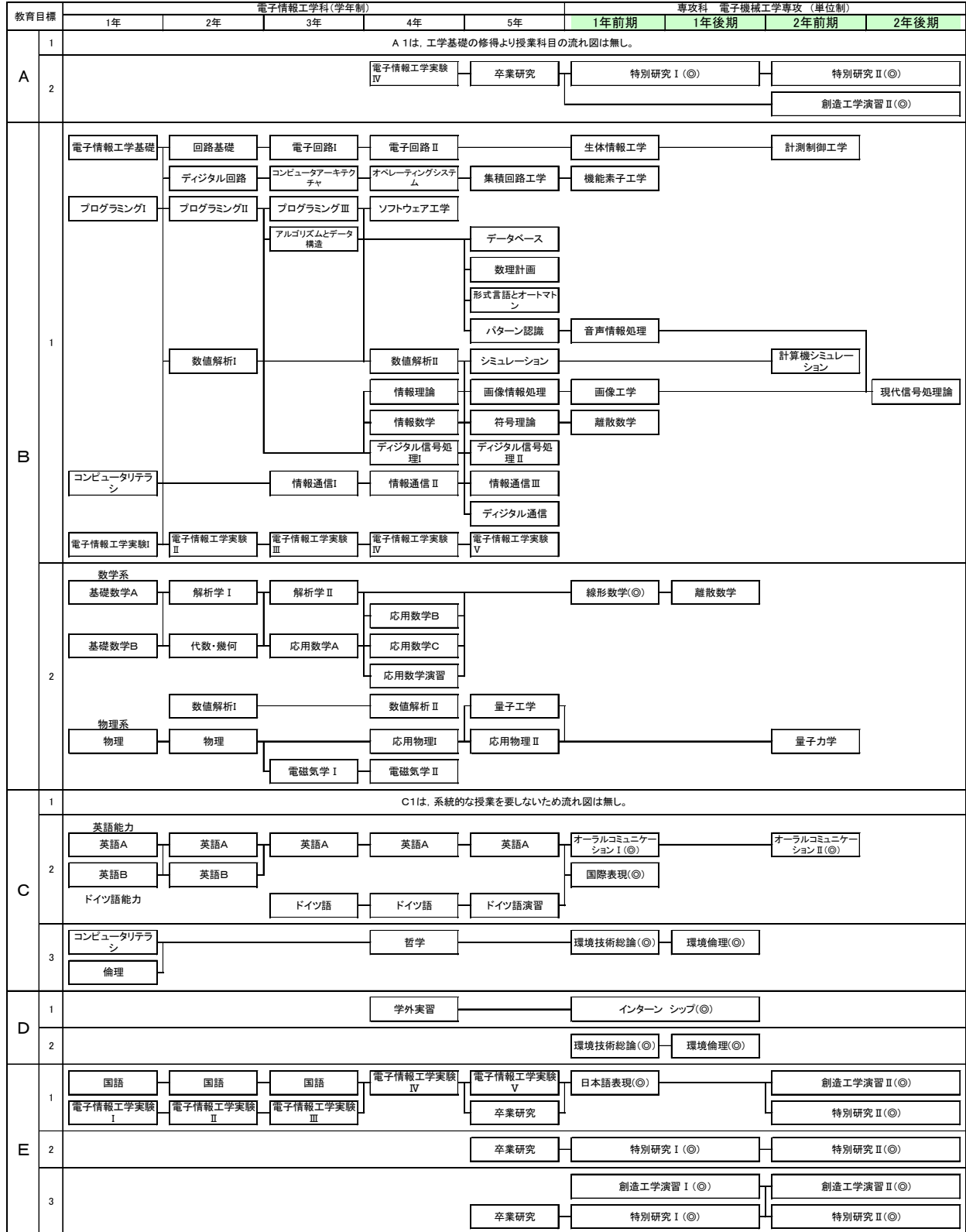
(出典：JABEE部会保管資料)

資料 5-5-①-5 : 学習目標対応の科目系統図 : 電子情報工学科 (電子機械工学専攻・電気電子)



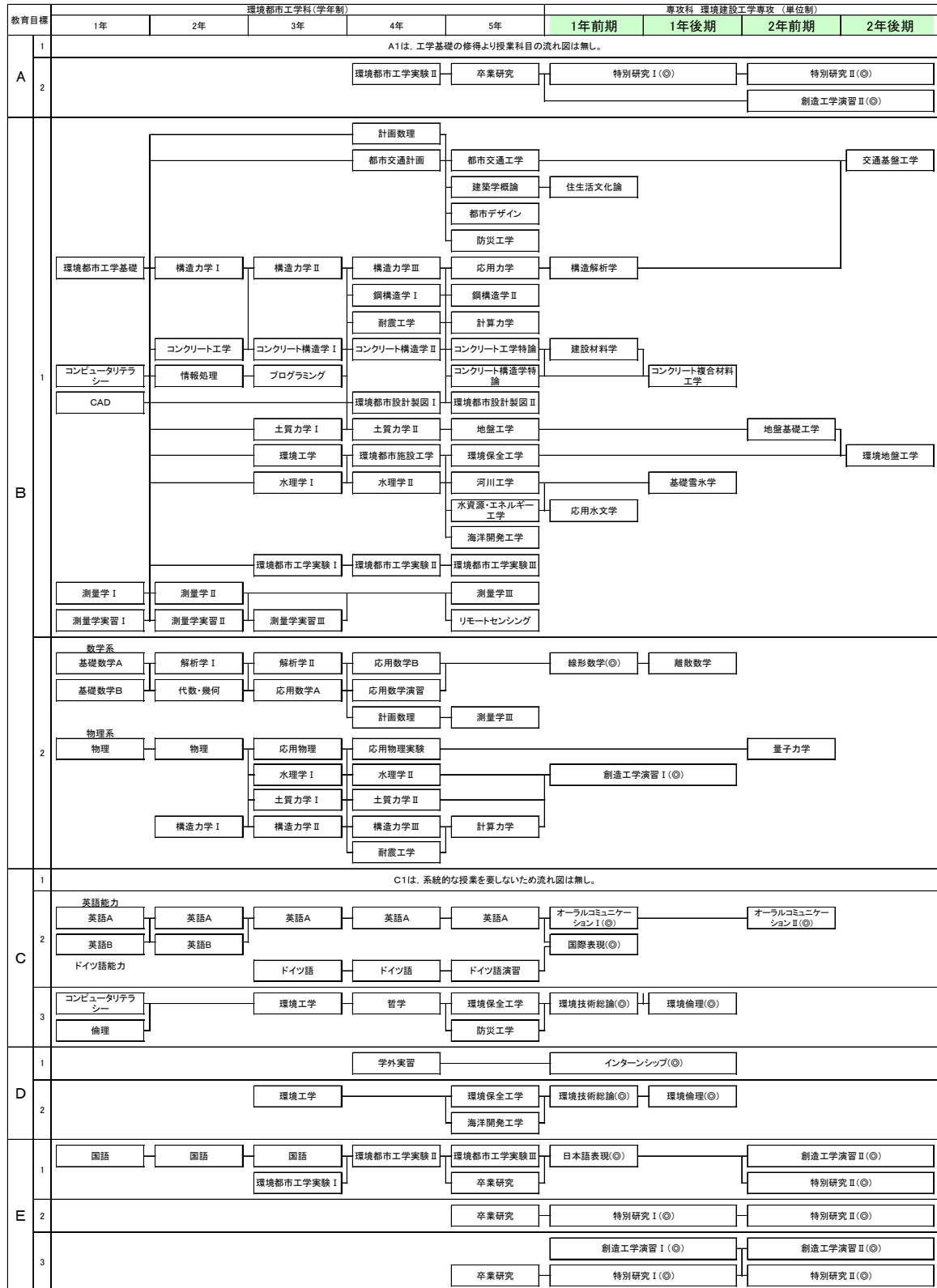
(出典：JABEE部会保管資料)

資料 5-5-①-6 : 学習目標対応の科目系統図 : 電子情報工学科 (電子機械工学専攻・情報)



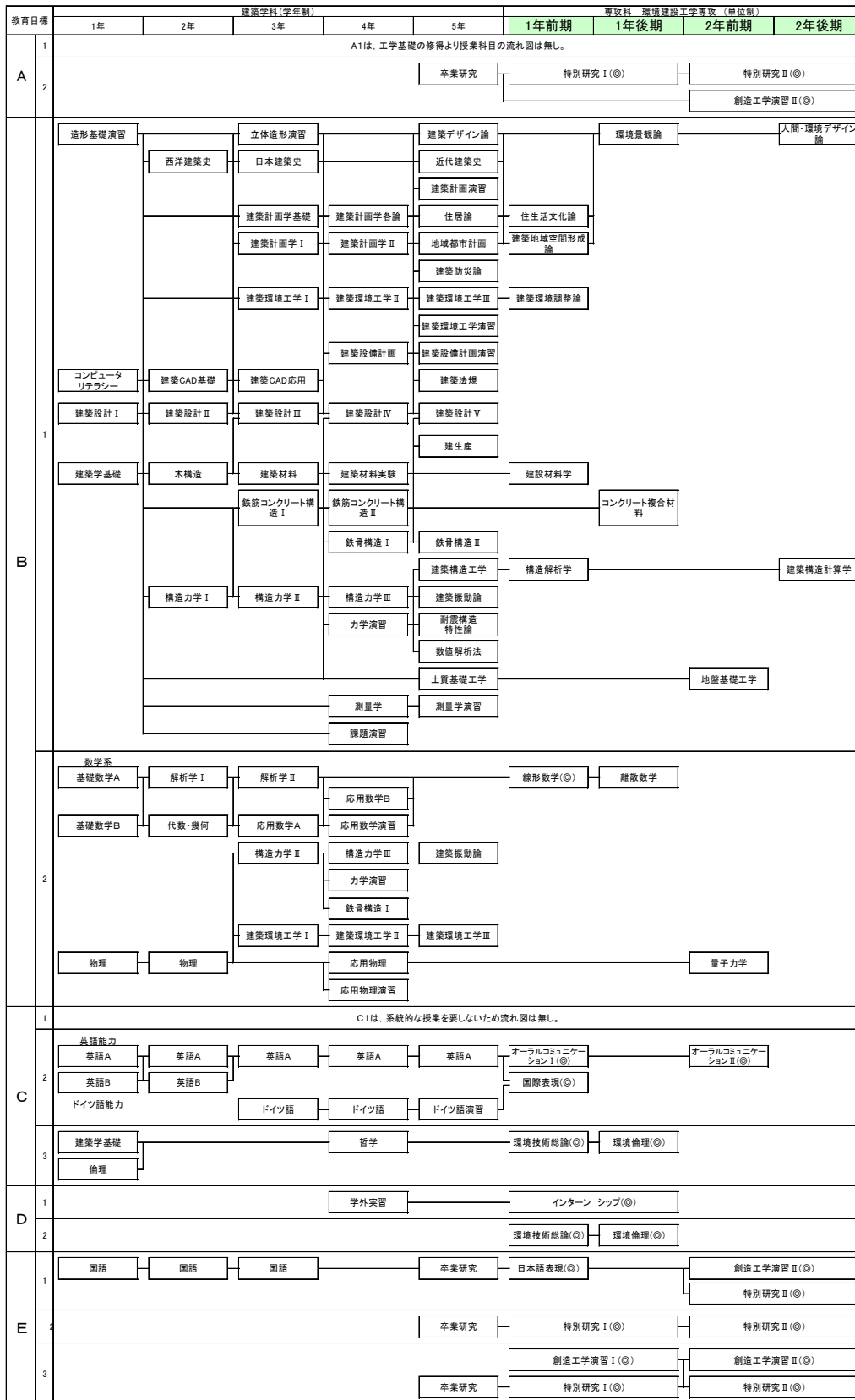
(出典：JABEE部会保管資料)

資料 5-5-①-7 : 学習目標対応の科目系統図 : 環境都市工学科 (環境建設工学専攻)



(出典：JABEE部会保管資料)

資料 5-5-①-8 : 学習目標対応の科目系統図 : 建築学科 (環境建設工学専攻)



(出典：JABEE部会保管資料)



(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科における教育課程は、専攻科を構成する基盤学科の学士申請領域ごとに、専攻科の学習目標に沿った形で準学士課程との繋がりが考慮されている。以上のことから準学士課程との緊密な関係が認められ、同課程との連携を考慮した準学士課程からの発展および技術者として必要な素養と能力とを身につける課程となっている。

**観点5-5-②：** 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

#### 1) 授業科目の配置

本校専攻科は、学士として相応しい専門の工学知識と技術および語学能力を教授するとともに、社会と環境の問題を考慮できる総合技術者育成を目指し、電子機械、環境建設の両専攻ともに36科目87単位の授業を開設している。そのうち必修科目は12科目39単位、選択科目は22科目48単位である。各専攻は専門分野の異なる準学士課程各学科（以下、基盤学科という）により構成されるので、選択科目をより多く配置しているが、修了要件としての必要修得科目数の配分は必修科目が12科目（39単位）、選択科目が14科目（28単位）となりバランスのとれた配分となっている（資料 5-5-②-1）。

各専攻に共通の一般科目は、主に国際的な視野とコミュニケーション能力を持つ技術者育成と、社会的課題に対処できる人材育成のためのカリキュラムを組んでいる。これらのうちの「環境倫理」2単位を含む5科目が必修であり、残り「健康科学」および「日本文化論」を選択科目として各1単位ずつ配置している（資料 5-5-②-2）。

専門科目については、「環境技術総論」、「線形数学」、「インターンシップ」、「創造工学演習Ⅰ、Ⅱ」および「特別研究Ⅰ、Ⅱ」を必修とし、さらに専攻科における修学の総合的な成果となる「特別研究Ⅰ、Ⅱ」には十分な時間を確保している。他の科目は、前述したように基盤学科の専門分野を考慮して全て選択科目としている。

専門科目は、両専攻共通の専門共通科目と、専攻により異なる専門展開科目とからなるが、このうち「創造工学演習Ⅰ、Ⅱ」の授業内容を平成19年度より両専攻共通のテーマとしたため、従来の専門展開科目から専門共通科目に移動している（資料 5-5-②-3, 4）。

なお、専攻科におけるA～Eの5つの学習目標に対しては（既出資料 5-5-①-2）、一般科目、専門共通科目、専門展開科目のそれぞれに一つ以上の必修科目を配置している。

- 資料 5-5-②-1：開講科目と修得科目
- 資料 5-5-②-2：専攻科教育課程表（共通科目：一般科目）
- 資料 5-5-②-3：専攻科教育課程表（共通科目：専門共通科目）
- 資料 5-5-②-4：専攻科教育課程表（専門展開科目）

資料 5-5-②-1：開講科目と修得科目

| 開講科目 |     |     |      |     |     | 開講科目合計 | 36  | 87  |
|------|-----|-----|------|-----|-----|--------|-----|-----|
| 必修科目 | 科目数 | 単位数 | 選択科目 | 科目数 | 単位数 | 最低修得科目 | 科目数 | 単位数 |
| 一般   | 5   | 6   | 一般   | 2   | 4   | 必修     | 12  | 39  |
| 専門   | 7   | 33  | 専門   | 22  | 44  | 選択     | 14  | 28  |
| 計    | 12  | 39  | 計    | 24  | 48  | 合計     | 26  | 67  |

(出典：学生便覧)

資料 5-5-②-2：専攻科教育課程表（共通科目：一般科目）

| 区分               | 授 業 科 目        | 必修    | 単位数  | 学 年 別 配 当 |     |
|------------------|----------------|-------|------|-----------|-----|
|                  |                |       |      | 1 年       | 2 年 |
| 一<br>般<br>科<br>目 | 日 本 語 表 現      | ◎     | 1    | 1         |     |
|                  | 国 際 表 現        | ◎     | 1    | 1         |     |
|                  | オーラルコミュニケーションⅠ | ◎     | 1    | 1         |     |
|                  | オーラルコミュニケーションⅡ | ◎     | 1    |           | 1   |
|                  | 環 境 倫 理        | ◎     | 2    | 2         |     |
|                  | 健 康 科 学        |       | 2    |           | 2   |
|                  | 日 本 文 化 論      |       | 2    |           | 2   |
|                  | 開設単位数合計        |       | 10単位 |           |     |
| 修得単位数合計          |                | 6単位以上 |      |           |     |

(出典：学生便覧)

資料 5-5-②-3：専攻科教育課程表（共通科目：専門共通科目）

18年度入学者用

| 授 業 科 目     | 必修 | 単位数     | 学年別配当 |     |
|-------------|----|---------|-------|-----|
|             |    |         | 1 年   | 2 年 |
| 環 境 技 術 総 論 | ◎  | 2       | 2     |     |
| インターンシップ    | ◎  | 10      | 10    |     |
| 線 形 数 学     | ◎  | 2       | 2     |     |
| 離 散 数 学     |    | 2       | 2     |     |
| 量 子 力 学     |    | 2       |       | 2   |
| セ ン サ 工 学   |    | 2       |       | 2   |
| 画 像 工 学     |    | 2       | 2     |     |
| 計算機シミュレーション |    | 2       | 2     |     |
| レ ー ザ 工 学   |    | 2       |       | 2   |
| 計 測 制 御 工 学 |    | 2       | 2     | 2   |
| 生 体 情 報 工 学 |    | 2       | 2     |     |
| 基 礎 雪 氷 学   |    | 2       | 2     |     |
| 住 生 活 文 化 論 |    | 2       | 2     |     |
| 開設単位数合計     |    | 34 単位   |       |     |
| 修得単位数合計     |    | 20 単位以上 |       |     |

19年度入学者用

| 区 分                        | 授 業 科 目       | 必修      | 単位数 | 学年別配当 |     |
|----------------------------|---------------|---------|-----|-------|-----|
|                            |               |         |     | 1 年   | 2 年 |
| 専<br>門<br>共<br>通<br>科<br>目 | 創 造 工 学 演 習 Ⅰ | ◎       | 3   | 3     |     |
|                            | 創 造 工 学 演 習 Ⅱ | ◎       | 4   |       | 4   |
|                            | 環 境 技 術 総 論   | ◎       | 2   | 2     |     |
|                            | インターンシップ      | ◎       | 10  | 10    |     |
|                            | 線 形 数 学       | ◎       | 2   | 2     |     |
|                            | 離 散 数 学       |         | 2   | 2     |     |
|                            | 量 子 力 学       |         | 2   |       | 2   |
|                            | セ ン サ 工 学     |         | 2   |       | 2   |
|                            | 画 像 工 学       |         | 2   | 2     |     |
|                            | 計算機シミュレーション   |         | 2   | 2     |     |
|                            | レ ー ザ 工 学     |         | 2   |       | 2   |
|                            | 計 測 制 御 工 学   |         | 2   | 2     | 2   |
|                            | 生 体 情 報 工 学   |         | 2   | 2     |     |
|                            | 基 礎 雪 氷 学     |         | 2   | 2     |     |
|                            | 住 生 活 文 化 論   |         | 2   | 2     |     |
| 開設単位数合計                    |               | 41 単位   |     |       |     |
| 修得単位数合計                    |               | 27 単位以上 |     |       |     |

(出典：学生便覧)

資料 5-5-②-4 : 専攻科教育課程表 (専門展開科目)

電子機械工学専攻

平成 18 年度入学者用

| 区分      | 授 業 科 目       | 必修 | 単位数  | 学年別配当 |     |
|---------|---------------|----|------|-------|-----|
|         |               |    |      | 1 年   | 2 年 |
| 専門展開科目  | 創造工学演習Ⅰ       | ◎  | 3    | 3     |     |
|         | 創造工学演習Ⅱ       | ◎  | 4    |       | 4   |
|         | 特別研究Ⅰ         | ◎  | 4    | 4     |     |
|         | 特別研究Ⅱ         | ◎  | 8    |       | 8   |
|         | 電磁エネルギー変換工学   |    | 2    | 2     |     |
|         | 機能素子工学        |    | 2    | 2     |     |
|         | エネルギー伝送工学     |    | 2    |       | 2   |
|         | 熱・流体エネルギー変換工学 |    | 2    | 2     |     |
|         | 移動現象論         |    | 2    | 2     |     |
|         | トライボロジー       |    | 2    | 2     |     |
|         | 電磁波工学         |    | 2    | 2     |     |
|         | 電子物性          |    | 2    |       | 2   |
|         | 電子材料設計        |    | 2    |       | 2   |
|         | 音声情報処理        |    | 2    | 2     |     |
|         | 機械機構システム論     |    | 2    |       | 2   |
|         | 現代信号処理論       |    | 2    |       | 2   |
| 開設単位数合計 |               | 43 | 単位   |       |     |
| 修得単位数合計 |               | 31 | 単位以上 |       |     |

平成 19 年度入学者用

| 区分     | 授 業 科 目       | 必修 | 単位数 | 学年別配当 |     |
|--------|---------------|----|-----|-------|-----|
|        |               |    |     | 1 年   | 2 年 |
| 専門展開科目 | 特別研究Ⅰ         | ◎  | 4   | 4     |     |
|        | 特別研究Ⅱ         | ◎  | 8   |       | 8   |
|        | 電磁エネルギー変換工学   |    | 2   | 2     |     |
|        | 機能素子工学        |    | 2   | 2     |     |
|        | エネルギー伝送工学     |    | 2   |       | 2   |
|        | 熱・流体エネルギー変換工学 |    | 2   | 2     |     |
|        | 移動現象論         |    | 2   | 2     |     |
|        | トライボロジー       |    | 2   | 2     |     |
|        | 電磁波工学         |    | 2   | 2     |     |
|        | 電子物性          |    | 2   |       | 2   |
|        | 電子材料設計        |    | 2   |       | 2   |
|        | 音声情報処理        |    | 2   | 2     |     |
|        | 機械機構システム論     |    | 2   |       | 2   |
|        | 現代信号処理論       |    | 2   |       | 2   |
|        | 開設単位数合計       |    | 36  | 単位    |     |
|        | 修得単位数合計       |    | 24  | 単位以上  |     |

環境建設工学専攻

平成 18 年度入学者用

| 区分      | 授 業 科 目      | 必修 | 単位数  | 学年別配当 |     |
|---------|--------------|----|------|-------|-----|
|         |              |    |      | 1 年   | 2 年 |
| 専門展開科目  | 創造工学演習Ⅰ      | ◎  | 3    | 4     |     |
|         | 創造工学演習Ⅱ      | ◎  | 4    |       | 4   |
|         | 特別研究Ⅰ        | ◎  | 4    | 4     |     |
|         | 特別研究Ⅱ        | ◎  | 8    |       | 8   |
|         | 応用水文学        |    | 2    | 2     |     |
|         | 地盤基礎工学       |    | 2    |       | 2   |
|         | 建設材料学        |    | 2    | 2     |     |
|         | 建築環境調整論      |    | 2    | 2     |     |
|         | 交通基盤工学       |    | 2    |       | 2   |
|         | 環境地盤工学       |    | 2    | 2     |     |
|         | コンクリート複合材料工学 |    | 2    | 2     |     |
|         | 人間・環境デザイン論   |    | 2    |       | 2   |
|         | 建築構造計算学      |    | 2    |       | 2   |
|         | 構造解析学        |    | 2    | 2     |     |
|         | 環境景観論        |    | 2    | 2     |     |
|         | 建築・地域空間形成論   |    | 2    | 2     |     |
| 開設単位数合計 |              | 43 | 単位   |       |     |
| 修得単位数合計 |              | 31 | 単位以上 |       |     |

平成 19 年度入学者用

| 区分     | 授 業 科 目      | 必修 | 単位数 | 学年別配当 |     |
|--------|--------------|----|-----|-------|-----|
|        |              |    |     | 1 年   | 2 年 |
| 専門展開科目 | 特別研究Ⅰ        | ◎  | 4   | 4     |     |
|        | 特別研究Ⅱ        | ◎  | 8   |       | 8   |
|        | 応用水文学        |    | 2   | 2     |     |
|        | 地盤基礎工学       |    | 2   |       | 2   |
|        | 建設材料学        |    | 2   | 2     |     |
|        | 建築環境調整論      |    | 2   | 2     |     |
|        | 交通基盤工学       |    | 2   |       | 2   |
|        | 環境地盤工学       |    | 2   |       | 2   |
|        | コンクリート複合材料工学 |    | 2   | 2     |     |
|        | 人間・環境デザイン論   |    | 2   |       | 2   |
|        | 建築構造計算学      |    | 2   |       | 2   |
|        | 構造解析学        |    | 2   | 2     |     |
|        | 環境景観論        |    | 2   | 2     |     |
|        | 建築・地域空間形成論   |    | 2   | 2     |     |
|        | 開設単位数合計      |    | 36  | 単位    |     |
|        | 修得単位数合計      |    | 24  | 単位以上  |     |

(出典：学生便覧)

## 2) 授業内容の適切性

専攻科におけるA～Eの5つの学習目標のうち、目標A、Bは専門共通および専門展開科目が受け持っている（資料 5-5-②-5, 6）。目標「A. デザインと創造」は技術や情報を利用して、デザイン・創造する姿勢を養うものであり、目標「B. 問題の提起と解決」は専門技術に対する知識と理論的解析能力を養い、問題を発見・提起する訓練に資するものである。

目標「C. 国際性と環境」は一般科目が受け持ち、国際的な視野とコミュニケーション能力を持つ技術者育成と、社会的課題に対処できる人材育成のためのカリキュラムが組まれており、目標「D. 地域社会への対処」には、3ヶ月の長期インターンシップ（必修）の体験等により、地域に密着した環境問題の検討・発見が出来る技術者の育成を目指す科目を配置し、目標「E. 計画性と発表」に対しては「創造工学演習Ⅱ（必修）」、「特別研究（必修）」、「日本語表現（必修）」を通して、計画性と、論理的な記述や発表を行えるようになるための科目を配置している（資料 5-5-②-7）。

なお、学位取得申請における分野別必要単位に対しても十分な科目数を確保している（資料 5-5-②-8）。

以上に述べた目標に対し、適切な内容を教授していることを示すための例として、以下の必修科目の授業内容をシラバスより抜粋した。

目標A：「環境技術総論」（資料 5-5-②-9）

目標B：「線形数学」，「創造工学演習Ⅰ」（資料 5-5-②-10）

目標C：「国際表現」（資料 5-5-②-11）

目標D：「インターンシップ」（資料 5-5-②-12）

目標E：「日本語表現」（資料 5-5-②-13）

- 資料 5-5-②-5：授業科目－学習目標A、B対応表（電子機械工学専攻）
- 資料 5-5-②-6：授業科目－学習目標A、B対応表（環境建設工学専攻）
- 資料 5-5-②-7：授業科目－学習目標C、D、E対応表（各専攻共通）
- 資料 5-5-②-8：学位申請に必要な分野別授業科目と単位数例：電子情報工学科（電気電子）
- 資料 5-5-②-9：「環境技術総論」授業内容
- 資料 5-5-②-10：「線形数学」「創造工学演習Ⅰ」授業内容
- 資料 5-5-②-11：「国際表現」授業内容
- 資料 5-5-②-12：「インターンシップ」授業内容
- 資料 5-5-②-13：「日本語表現」授業内容

資料 5-5-②-5 : 授業科目－学習目標 A, B 対応表 (電子機械工学専攻)

平成18年度, 種類欄の [ ] 内は19年度

| 学習目標 | 種類          | 授業科目名         | 必修 | 単位数 | 準学士課程 |    |      |    |
|------|-------------|---------------|----|-----|-------|----|------|----|
|      |             |               |    |     | 機械    | 電気 | 電子情報 |    |
|      |             |               |    |     |       |    | 電気電子 | 情報 |
| A    | 共           | 環境技術総論        | ◎  | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 量子力学          |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 画像工学          |    | 2   | ○     | ○  |      |    |
|      | 共           | 計算機シミュレーション   |    | 2   | ○     | ○  |      |    |
|      | 共           | レーザ工学         |    | 2   | ○     |    |      | ○  |
|      | 共           | 計測制御工学        |    | 2   | ○     | ○  |      |    |
|      | 共           | センサ工学         |    | 2   |       |    |      | ○  |
|      | 展[共]        | 創造工学演習Ⅰ       | ◎  | 3   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 展           | 電子材料設計        |    | 2   | ○     | ○  | ○    |    |
|      | 展           | 機械機構システム論     |    | 2   | ○     |    |      |    |
|      | 展           | 電子物性          |    | 2   |       | ○  | ○    |    |
|      | 展           | 音声情報処理        |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
|      | 展           | 現代信号処理論       |    | 2   |       |    | ○    | ○  |
| B    | 共           | 線形数学          | ◎  | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 離散数学          |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 量子力学          |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 画像工学          |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 計測制御工学        |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | センサ工学         |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 生体情報工学        |    | 2   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | 計算機シミュレーション   |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
|      | 共           | レーザ工学         |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
|      | 展[共]        | 創造工学演習Ⅰ       | ◎  | 3   | ○     | ○  | ○    | ○  |
|      | 展           | 機械機構システム論     |    | 2   | ○     |    |      |    |
|      | 展           | 熱・流体エネルギー変換工学 |    | 2   | ○     |    |      |    |
|      | 展           | 移動現象論         |    | 2   | ○     |    |      |    |
|      | 展           | トライボロジー       |    | 2   | ○     |    |      |    |
|      | 展           | 音声情報処理        |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
|      | 展           | 現代信号処理論       |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
|      | 展           | 機能素子工学        |    | 2   |       | ○  | ○    | ○  |
| 展    | 電子物性        |               | 2  |     | ○     | ○  |      |    |
| 展    | 電子材料設計      |               | 2  |     | ○     | ○  |      |    |
| 展    | 電磁エネルギー変換工学 |               | 2  |     | ○     | ○  |      |    |
| 展    | エネルギー伝送工学   |               | 2  |     | ○     | ○  |      |    |
| 展    | 電磁波工学       |               | 2  |     | ○     | ○  |      |    |

共：専門共通科目 展：専門展開科目

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り, たゆまず努力することができる。

B. 問題を発見・提起し, 修得した技術に関する知識や理論によって解析し, 解決までできる。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-5-②-6 : 授業科目－学習目標 A, B 対応表 (環境建設工学専攻)

平成18年度, 種類欄の [ ] 内は19年度

| 学習目標 | 種類         | 授業科目名        | ◎必修<br>○選択必修 | 単位数 | 準学士課程 |    |
|------|------------|--------------|--------------|-----|-------|----|
|      |            |              |              |     | 環境都市  | 建築 |
| A    | 共          | 環境技術総論       | ◎            | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 基礎雪氷学        |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 計算機シミュレーション  |              | 2   |       | ○  |
|      | 共          | 画像工学         |              | 2   |       | ○  |
|      | 展[共]       | 創造工学演習Ⅰ      | ◎            | 3   | ○     | ○  |
|      | 展          | コンクリート複合材料工学 | ○            | 2   | ○     |    |
|      | 展          | 建設材料学        | ○            | 2   | ○     |    |
| B    | 共          | 線形数学         | ◎            | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 離散数学         |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 量子力学         |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 住生活文化論       |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 共          | 基礎雪氷学        |              | 2   | ○     |    |
|      | 展[共]       | 創造工学演習Ⅰ      | ◎            | 3   | ○     | ○  |
|      | 展          | コンクリート複合材料工学 | ○            | 2   | ○     | ○  |
|      | 展          | 地盤基礎工学       |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 展          | 建設材料学        | ○            | 2   | ○     |    |
|      | 展          | 応用水文学        |              | 2   | ○     |    |
|      | 展          | 交通地盤工学       |              | 2   | ○     |    |
|      | 展          | 環境地盤工学       |              | 2   | ○     |    |
|      | 展          | 構造解析学        |              | 2   | ○     | ○  |
|      | 展          | 建設材料学        | ○            | 2   |       | ○  |
|      | 展          | 建築環境調整論      |              | 2   |       | ○  |
|      | 展          | 人間・環境デザイン論   |              | 2   |       | ○  |
|      | 展          | 建築構造計算学      |              | 2   |       | ○  |
| 展    | 環境景観論      |              | 2            |     | ○     |    |
| 展    | 建築・地域空間形成論 |              | 2            |     | ○     |    |

共：専門共通科目 展：専門展開科目

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り, たゆまず努力することができる。

B. 問題を発見・提起し, 修得した技術に関する知識や理論によって解析し, 解決までできる。

(出典：学生課保管資料)

資料 5-5-②-7：授業科目－学習目標 C，D，E 対応表（各専攻共通）

平成18年度，種類欄の [ ] 内は19年度

| 学習目標              | 種類    | 授業科目名          | 必修 | 単位数 |
|-------------------|-------|----------------|----|-----|
| C                 | 一般    | 国際表現           | ◎  | 1   |
|                   |       | オーラルコミュニケーションⅠ | ◎  | 1   |
|                   |       | オーラルコミュニケーションⅡ | ◎  | 1   |
|                   |       | 環境倫理           | ◎  | 2   |
|                   |       | 健康科学           |    | 2   |
|                   |       | 日本文化論          |    | 2   |
| D                 | 共     | 環境技術総論         | ◎  | 2   |
|                   | 共     | インターンシップ       | ◎  | 10  |
| E                 | 一般    | 日本語表現          | ◎  | 2   |
|                   | 展 [共] | 創造工学演習Ⅱ        | ◎  | 4   |
|                   | 展     | 特別研究Ⅰ          | ◎  | 4   |
|                   | 展     | 特別研究Ⅱ          | ◎  | 8   |
| 共：専門共通科目 展：専門展開科目 |       |                |    |     |

- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち，社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして，地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ，論理的な記述・発表ができる。

(出典：シラバス)

資料 5-5-②-8 : 学位申請に必要な分野別授業科目と単位数例 : 電子情報工学科 (電気電子)

「電気電子工学」(電子情報工学科)  
【平成17年度専攻科入学生】

◆専攻に係る授業科目と単位 (62単位以上)

専門科目 (40単位以上)

| 【A群(講義・演習科目)】(30単位以上)     | 本科            |    | 専攻科         |    |             |   |
|---------------------------|---------------|----|-------------|----|-------------|---|
|                           | 必修            | 選択 | 必修          | 選択 |             |   |
| 電気電子工学の基礎となる科目<br>(4単位以上) | 回路工学Ⅰ         | 2  |             |    |             |   |
|                           | 回路工学Ⅱ         | 1  |             |    |             |   |
|                           | 電子回路Ⅰ         | 2  |             |    |             |   |
|                           | 電子回路Ⅱ         | 2  |             |    |             |   |
|                           | 電磁気学Ⅰ         | 2  |             |    |             |   |
|                           | 電磁気学Ⅱ         | 1  |             |    |             |   |
| (小計)                      | 10            | 0  | 0           | 0  |             |   |
| 電気工学に関する科目                | 制御工学Ⅰ         | 2  | 制御工学Ⅱ       | 1  | 電磁エネルギー変換工学 | 2 |
|                           |               |    |             |    | エネルギー伝送工学   | 2 |
|                           |               |    |             |    | 計測制御工学      | 2 |
| (小計)                      | 2             | 1  | 0           | 6  |             |   |
| 電子工学に関する科目                | 電子デバイス        | 2  | 電子材料分析      | 1  | 機能素子工学      | 2 |
|                           | 集積回路工学        | 2  | 電子物性基礎      | 1  | 電子物性        | 2 |
|                           |               |    | 光電子工学       | 1  | 電子材料設計      | 2 |
|                           |               |    | 量子工学        | 1  | センサ工学       | 2 |
| (小計)                      | 4             | 4  | 0           | 8  |             |   |
| 情報通信工学に関する科目              | コンピュータアーキテクチャ | 2  | 基礎電磁波工学     | 1  | 画像工学        | 2 |
|                           | アルゴリズムとデータ構造  | 2  | シミュレーション    | 1  | 計算機シミュレーション | 2 |
|                           | プログラミングⅢ      | 2  | 符号理論        | 1  | 生体情報工学      | 2 |
|                           | ソフトウェア工学      | 2  | パターン認識      | 1  | 電磁波工学       | 2 |
|                           | オペレーティングシステム  | 2  | 形式言語とオートマトン | 1  | 音声情報処理      | 2 |
|                           | 情報理論          | 2  | デジタル通信      | 1  | 現代信号処理論     | 2 |
|                           | 画像情報処理        | 1  | システム工学      | 1  | レーザー工学      | 2 |
|                           | 情報通信Ⅰ         | 2  |             |    |             |   |
|                           | 情報通信Ⅱ         | 1  |             |    |             |   |
|                           | 情報通信Ⅲ         | 1  |             |    |             |   |
|                           | デジタル信号処理Ⅰ     | 1  |             |    |             |   |
|                           | デジタル信号処理Ⅱ     | 1  |             |    |             |   |
|                           | データベース        | 1  |             |    |             |   |
| 数理計画                      | 1             |    |             |    |             |   |
| (小計)                      | 21            | 7  | 0           | 14 |             |   |
| 小計≥30                     | 37            | 12 | 0           | 28 |             |   |
| 【B群(実験・実習科目)】(6単位以上)      | 必修            | 選択 | 必修          | 選択 |             |   |
| 電気電子工学に関する実験・実習科目         | 電子情報工学実験Ⅲ     | 2  |             |    |             |   |
|                           | 電子情報工学実験Ⅳ     | 2  |             |    |             |   |
|                           | 電子情報工学実験Ⅴ     | 3  |             |    |             |   |
| 小計≥6                      | 7             | 0  | 0           | 0  |             |   |
| 合計≥40                     | 44            | 12 | 0           | 28 |             |   |

関連科目 (4単位以上)

|                 | 本科     |    | 専攻科    |    |               |   |
|-----------------|--------|----|--------|----|---------------|---|
|                 | 必修     | 選択 | 必修     | 選択 |               |   |
| 工学の基礎となる科目      | 応用数学 A | 2  | 線形数学   | 2  | 離散数学          | 2 |
|                 | 応用数学 B | 2  |        |    | 量子力学          | 2 |
|                 | 応用数学 C | 1  |        |    | 熱・流体エネルギー変換工学 | 2 |
|                 | 応用物理Ⅰ  | 1  |        |    | 移動現象論         | 2 |
|                 | 数値解析Ⅱ  | 2  |        |    | トライボロジー       | 2 |
|                 | 工業英語   | 1  |        |    | 機械機構システム論     | 2 |
|                 | 情報数学   | 1  |        |    |               |   |
|                 | 応用物理Ⅱ  | 1  |        |    |               |   |
| (小計)            | 11     | 0  | 2      | 12 |               |   |
| 工学及び周辺技術等に関する科目 |        |    | 環境技術総論 | 2  |               |   |
| (小計)            | 0      | 0  | 2      | 0  |               |   |
| 合計≥4            | 11     | 0  | 4      | 12 |               |   |
| 総合計≥62          | 55     | 12 | 4      | 40 |               |   |

◆専攻外科目(「専門科目」及び「関連科目」以外の科目)の単位

| 上記以外の科目 | 本科 |    | 専攻科 |    |
|---------|----|----|-----|----|
|         | 必修 | 選択 | 必修  | 選択 |
|         |    |    |     |    |

※卒業研究、特別研究Ⅰ・Ⅱ、創造工学演習Ⅰ・Ⅱについては、特別研究指導教員に確認すること。

(出典: 学生課保管資料)



## 資料 5-5-②-9 : 「環境技術総論」授業内容

| 科目名                                                        | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員                              |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|-----------------------------------|
| 環境技術総論<br>General Introduction to Environmental Technology | 1年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 松田 理, 深見 哲男, 小村 良太郎, 竹本 邦夫, 河内 浩志 |
| 対象学科                                                       | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |    |                |                                   |
| 授業目標                                                       | 技術と環境について地域に密着した具体的事例をもとにオムニバス形式で総論し、科学技術や情報を利用してデザイン・創造する姿勢を学ぶ社会技術系の科目である。以下の電子機械工学系3テーマ、環境建設工学系2テーマに関する環境技術について、その社会性に配慮しつつ検討できるようになることを目標とする。(1)建設材料に関する環境技術、(2)人工の電磁環境に関する技術、(3)二酸化炭素の排出抑制技術、(4)住・環境観に関する技術、(5)環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術                                                                                                                                                                                                                                       |     |    |                |                                   |
| ■学習・教育目標との対応                                               | 専攻科・創造工学プログラム A(1), (2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |     |    |                |                                   |
| ■キーワード                                                     | 環境技術, 電磁環境, 住・環境観に関する技術, 二酸化炭素削減, 建設材料, 環境モニタリング                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |    |                |                                   |
| ■年間スケジュール                                                  | <p>【前期】</p> <p>第1週 (竹本)環境問題と建設材料</p> <p>第2週 (竹本)環境問題に対応する建設材料</p> <p>第3週 (竹本)エコマテリアルとしての建設材料</p> <p>第4週 (深見)身近に見られる電磁波ノイズ</p> <p>第5週 (深見)電子機器の誤動作と環境試験</p> <p>第6週 (深見)電磁波と生体</p> <p>第7週 (松田)地球温暖化とエネルギー問題の観点から、世界と日本のエネルギー情勢</p> <p>第8週 (松田)化石燃料と環境</p> <p>第9週 (松田)二酸化炭素削減技術</p> <p>第10週 (河内)住・環境と構造技術の発達の枠組み</p> <p>第11週 (河内)住・環境としての機械的環境観</p> <p>第12週 (河内)住・環境としての生きられる環境観</p> <p>第13週 (小村)環境をモニタリングする技術</p> <p>第14週 (小村)環境に関わる情報技術</p> <p>第15週 (小村)環境モニタリング技術・情報技術の事例紹介</p> |     |    |                |                                   |
| ■学生の到達目標                                                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築材料と環境技術について現状を認識し、検討できる。</li> <li>2. 人工の電磁環境について現状を認識し、検討できる。</li> <li>3. CO2と環境技術について現状を認識し、検討できる。</li> <li>4. 住・環境と構造技術における環境観について現状を認識し、検討できる。</li> <li>5. 環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、検討できる。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                       |     |    |                |                                   |

(出典：シラバス)

資料 5-5-②-10: 「線形数学」「創造工学演習 I」授業内容

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                      | 学年 | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|----------------|-------|
| 線形数学<br>Linear Mathematics                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                      | 1年 | 2   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 河合 秀泰 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 専攻科 各専攻共通                                                                            |    |     |    |                |       |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 線形空間について理解を深めながら、行列の対角化の方法を学ぶ。さらに、それを線形微分方程式の解法に用いるなどの応用も学ぶ。これらの学習を通して理論的に解析する能力を培う。 |    |     |    |                |       |
| <b>■学習・教育目標との対応</b><br>専攻科・創造工学プログラム: B(2)                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                      |    |     |    |                |       |
| <b>■キーワード</b><br>線形空間、線形独立、基底、次元、固有値、行列の対角化                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                      |    |     |    |                |       |
| <b>■年間スケジュール</b><br>【前期】<br>第1週 ベクトルと行列<br>第2週 行列式<br>第3週 線形空間<br>第4週 線形独立と線形従属<br>第5週 線形空間の基底(1)<br>第6週 線形空間の基底(2)<br>第7週 線形空間の次元<br>第8週 正方行列の正則性<br>第9週 連立1次方程式の解<br>第10週 固有値、固有ベクトル<br>第11週 固有空間<br>第12週 行列の対角化(1)<br>第13週 行列の対角化(2)<br>第14週 線形微分方程式への応用<br>前期末試験<br>第15週 試験の答案返却と解説、前期復習 |                                                                                      |    |     |    |                |       |
| <b>■学生の到達目標</b><br>1. 線形空間の定義を理解し、説明できる。<br>2. 線形独立・線形従属の定義を理解し、説明できる。<br>3. 線形空間の基底の定義を理解し、説明できる。<br>4. 線形空間の次元を求めることができる。<br>5. 固有値や固有ベクトルを求めることができる。<br>6. 固有空間の定義を理解し、説明できる。<br>7. 行列の対角化を説明できる。<br>8. 行列の対角化を応用できる。                                                                     |                                                                                      |    |     |    |                |       |

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                 | 学年 | 単位数 | 区分 | 開講期                             | 担当教員            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|---------------------------------|-----------------|
| 創造工学演習 I<br>Creative Engineering Project I                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                 | 1年 | 3   | 必修 | 通年<br>前: 50分×4回/週後:<br>50分×2回/週 | 森田 義則, 竹本 邦夫, 他 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                       |    |     |    |                                 |                 |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 創造工学プログラム複合工学修得コースにおける基礎工学の修得および理論的解析力を養うことを目的とする。学生は各学期で設定した5テーマの中から1テーマを選択し、学習による専門技術に関する知識と理論的解析から、問題を発見・提起し解決ができる基礎能力を養う。この中から科学技術や情報を利用してデザインし、創造することにより、たゆまず努力することの喜びを学ぶ。 |    |     |    |                                 |                 |
| <b>■学習・教育目標との対応</b><br>専攻科・創造工学プログラム: A(1), B(2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                 |    |     |    |                                 |                 |
| <b>■キーワード</b><br>機械設計製作、情報通信技術、メカトロニクス、電気磁気学、数値解析、環境都市工学、プログラミング、家具の設計、環境要素の測定・分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                 |    |     |    |                                 |                 |
| <b>■年間スケジュール</b><br>【前期】<br>第1週 ガイダンス *前期5テーマ<br>第2週 演習 1. 機械機構設計演習: 機械システムの企画立案から<br>第3週 演習 製作までを行い、機械機構の設計に必要な知識を養う。<br>第4週 演習 2. 回路演習: 電気回路、電子回路等の回路一般を<br>第5週 演習 演習し、解析力と設計基礎力を養う。<br>第6週 演習 3. 情報処理I: 数値解析等のコンピュータ演習を通して、<br>第7週 演習 解析力と設計基礎力を養う。<br>第8週 演習 4. 環境都市工学演習 I: 各種課題を、表計算ソフトや、<br>第9週 演習 プログラミング技術を用いて解く力を養う<br>第10週 演習 5. ものづくり・設計応用演習: 単位部材組み合わせに<br>第11週 演習 よる簡易家具の設計を行う。模型、試作品の構想を<br>第12週 演習 通して、その力学的特性を評価し、計案を作成する<br>第13週 演習<br>第14週 レポート提出<br>第15週 レポート修正<br>【後期】<br>第1週 ガイダンス *後期5テーマ<br>第2週 演習 1. 力学演習: 機械工学(力学系)の演習を通して、<br>第3週 演習 解析力と設計基礎力を養う。<br>第4週 演習 2. 電気磁気学演習: 電気磁気学に関する演習を<br>第5週 演習 行い、解析力と設計基礎力を養う。<br>第6週 演習 3. 情報処理II: ネットワーク等の情報処理ツールの<br>第7週 演習 基礎知識を演習し、IT基礎技術を磨く。<br>第8週 演習 4. 環境都市工学演習 II: 数値解析等の情報処理手法を<br>第9週 演習 用いて、各種演習を行い、解析力と設計基礎力を養う<br>第10週 演習 5. 環境工学応用演習: 自分の身近にある環境要素を<br>第11週 演習 測定・分析し評価することで、環境工学に関する理解<br>第12週 演習 を深めることを目的とする<br>第13週 演習<br>第14週 レポート提出<br>第15週 レポート修正 |                                                                                                                                                                                 |    |     |    |                                 |                 |

(出典: シラバス)

## 資料 5-5-②-11: 「国際表現」授業内容

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 学年                                                                                                                                           | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|------|
| 国際表現<br>Foreign Language Expression                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 1年                                                                                                                                           | 1   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 小熊 猛 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                    |     |    |                |      |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 英語での基本的インストラクションを理解できる英語コミュニケーション能力を養う。英語のパラグラフの組み立てや英文全体の構成を踏まえて、英文の内容を正確に理解する語学能力を養うことを目標とする。<br>また、TOEIC試験を視野に入れ、英語の文法、語法、語彙の定着および強化を目指す。 |     |    |                |      |
| ■学習・教育目標との対応<br>専攻科・創造工学プログラム C(2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                              |     |    |                |      |
| ■キーワード<br>パラグラフリーディング、英文内容理解、英問英答、TOEIC、英文法、語法、語彙                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                              |     |    |                |      |
| ■年間スケジュール<br>【前期】<br>第1週 導入、Unit 1 Experience Is a Great Teacher!<br>第2週 Unit 1 Experience Is a Great Teacher!<br>第3週 Unit 2 Journeys Abroad Can Change Your Life<br>第4週 Unit 2 Journeys Abroad Can Change Your Life<br>第5週 Unit 5 Mission - Worldwide Architect<br>第6週 Unit 5 Mission - Worldwide Architect<br>第7週 Unit 6 Tuned to Two Different Languages<br>第8週 Unit 6 Tuned to Two Different Languages<br>第9週 Unit 8 Staying as a Full-timer or "Freeter" - But Why?<br>第10週 Unit 8 Staying as a Full-timer or "Freeter" - But Why?<br>第11週 Unit 11 Mapping the Future - Never Too Early to Start?<br>第12週 Unit 11 Mapping the Future - Never Too Early to Start?<br>第13週 Unit 12 Leading a Life as a Working Woman and Mother<br>第14週 Unit 12 Leading a Life as a Working Woman and Mother<br>前期末試験<br>第15週 試験の返却と解説 |                                                                                                                                              |     |    |                |      |
| ■学生の到達目標<br>1. 英語での基本的インストラクションが理解できる。<br>2. 英文の構造を理解し、その意味を理解できる。<br>3. パラグラフの主旨を押さえつつ、全体の内容を把握できる。<br>4. TOEIC400点相当レベルの文法事項が理解できる。<br>5. TOEIC400点相当レベルの語法、慣用表現の理解できる。<br>6. TOEIC400点相当レベルの語彙力の理解できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                              |     |    |                |      |

(出典：シラバス)

## 資料 5-5-②-12: 「インターンシップ」授業内容

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 単位数 | 区分 | 開講期 | 担当教員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|-----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| インターンシップ<br>Internship                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 1年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 10  | 必修 | 通年  | 畑 時男 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 企業等において3ヶ月にわたる長期のインターンシップを行い、現実の課題に取り組む訓練を積むことによって高専で身につけた知識を高めるとともに、これまで学んだことを生かしつつ更に発展させ、課題を把握し解決する能力を身につける。また、地域社会に対処するためにも地域企業が抱える課題や社会的課題に対処できる能力を身につけ、自己の感性及び創造性を養うことを目的とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| ■学習・教育目標との対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 専攻科・創造工学プログラム : D(1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| ■キーワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 長期インターンシップ、地域企業、学外実習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| ■年間スケジュール                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <b>【前期】</b><br/>           第1週 5月 各企業等へインターンシップ受入照会<br/>           第2週<br/>           第3週<br/>           第4週 7月、8月 長期インターンシップ事前教育<br/>           第5週 ①インターンシップ説明会(趣旨、目的、日程、等)<br/>           第6週 ②インターンシップ説明会<br/>           第7週 (服装、態度、言動等について説明と指導)<br/>           第8週 ③企業講師による事前指導、集中講義<br/>           第9週 ④学生の実習希望の調整と取りまとめ<br/>           第10週 ⑤実習企業、日程等の決定、順次保険加入手続き<br/>           第11週<br/>           第12週 9月～11月 長期インターンシップ実施(3ヶ月間)<br/>           第13週<br/>           第14週<br/>           第15週         </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <b>【後期】</b><br/>           第1週 ①学生からの中間報告書の提出(1週間ごとに)<br/>           第2週 ②教員の巡回指導実施(月1回程度)<br/>           第3週<br/>           第4週 インターンシップ報告書作成、提出<br/>           第5週 インターンシップ発表会<br/>           第6週<br/>           第7週 長期インターンシップ事後教育(課題抽出・解決)<br/>           第8週<br/>           第9週<br/>           第10週<br/>           第11週<br/>           第12週<br/>           第13週<br/>           第14週<br/>           第15週         </td> </tr> </table> |     |    |     |      | <b>【前期】</b><br>第1週 5月 各企業等へインターンシップ受入照会<br>第2週<br>第3週<br>第4週 7月、8月 長期インターンシップ事前教育<br>第5週 ①インターンシップ説明会(趣旨、目的、日程、等)<br>第6週 ②インターンシップ説明会<br>第7週 (服装、態度、言動等について説明と指導)<br>第8週 ③企業講師による事前指導、集中講義<br>第9週 ④学生の実習希望の調整と取りまとめ<br>第10週 ⑤実習企業、日程等の決定、順次保険加入手続き<br>第11週<br>第12週 9月～11月 長期インターンシップ実施(3ヶ月間)<br>第13週<br>第14週<br>第15週 | <b>【後期】</b><br>第1週 ①学生からの中間報告書の提出(1週間ごとに)<br>第2週 ②教員の巡回指導実施(月1回程度)<br>第3週<br>第4週 インターンシップ報告書作成、提出<br>第5週 インターンシップ発表会<br>第6週<br>第7週 長期インターンシップ事後教育(課題抽出・解決)<br>第8週<br>第9週<br>第10週<br>第11週<br>第12週<br>第13週<br>第14週<br>第15週 |
| <b>【前期】</b><br>第1週 5月 各企業等へインターンシップ受入照会<br>第2週<br>第3週<br>第4週 7月、8月 長期インターンシップ事前教育<br>第5週 ①インターンシップ説明会(趣旨、目的、日程、等)<br>第6週 ②インターンシップ説明会<br>第7週 (服装、態度、言動等について説明と指導)<br>第8週 ③企業講師による事前指導、集中講義<br>第9週 ④学生の実習希望の調整と取りまとめ<br>第10週 ⑤実習企業、日程等の決定、順次保険加入手続き<br>第11週<br>第12週 9月～11月 長期インターンシップ実施(3ヶ月間)<br>第13週<br>第14週<br>第15週 | <b>【後期】</b><br>第1週 ①学生からの中間報告書の提出(1週間ごとに)<br>第2週 ②教員の巡回指導実施(月1回程度)<br>第3週<br>第4週 インターンシップ報告書作成、提出<br>第5週 インターンシップ発表会<br>第6週<br>第7週 長期インターンシップ事後教育(課題抽出・解決)<br>第8週<br>第9週<br>第10週<br>第11週<br>第12週<br>第13週<br>第14週<br>第15週                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |
| ■学生の到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターンシップを通して、自分の専門分野に関する知識を再確認する。</li> <li>2. 自分の知識、能力を高める。</li> <li>3. 仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につける。</li> <li>4. 人間としての成長を図ると共に自らが目指す技術者像を明確なものにする。</li> <li>5. 課題を発掘して解決する手法を身につける。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                          |

(出典：シラバス)

## 資料 5-5-②-13: 「日本語表現」授業内容

| 科目名                          | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員  |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|-------|
| 日本語表現<br>Japanese Expression | 1年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 1   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 奥田 浩司 |
| 対象学科                         | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |     |    |                |       |
| 授業目標                         | 日本語による論理的記述能力、技術者として必要なコミュニケーション能力を身につける。そのため、時事問題を取り上げ、国際的日本人としての教養を身につけると同時に、対話、議論を通して、他者とのコミュニケーションの仕方を学習する。さらには、文章の作成の実践によって総合的に日本語表現の力を養う。                                                                                                                                                                                                                                                                |     |    |                |       |
| ■学習・教育目標との対応                 | 専攻科・創造工学プログラム E(1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |    |                |       |
| ■キーワード                       | コミュニケーション能力、日本語による文章力、議論する能力、時事問題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |     |    |                |       |
| ■年間スケジュール                    | <p>【前期】</p> 第1週 講義（授業の進め方、文章作成のポイント）<br>第2週 時事問題（1）グローバリズム 資料収集<br>第3週 時事問題（1）グローバリズム 発表・討論<br>第4週 時事問題（2）格差社会 資料収集<br>第5週 時事問題（2）格差社会 発表・討論<br>第6週 時事問題（3）地球温暖化問題 資料収集<br>第7週 時事問題（3）地球温暖化問題 発表・討論<br>第8週 時事問題（4）コンプライアンス 資料収集<br>第9週 時事問題（4）コンプライアンス 発表・討論<br>第10週 時事問題（5）少子化問題 資料収集<br>第11週 時事問題（5）少子化問題 発表・討論<br>第12週 時事問題（6）裁判員制度 資料収集<br>第13週 時事問題（6）裁判員制度 発表・討論<br>第14週 復習 全体のまとめ<br>前期末試験<br>第15週 前期復習 |     |    |                |       |
| ■学生の到達目標                     | 1. 時事問題について自分なりの意見を形成することができる。<br>2. 自分の意見について、論理的に説明できる。<br>3. グループで作業ができる。<br>4. 適切な質疑応答、議論ができる。<br>5. 読みやすく意味のはっきりとした文章を書くことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                           |     |    |                |       |

(出典：シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科における学習目標に沿って、適切なカリキュラムが組まれており、また準学士課程の専門分野を考慮して必修科目と選択科目の配分もバランスがとれている。授業内容については専攻科における学習目標に沿った科目が整備されており、本校の教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

1) 科目の履修等に関する配慮

科目の履修に関しては，本校の学則において他大学や専攻科における学修を本校における履修とみなして単位を認定することができ，現在は金沢大学と本校との間に単位互換に関する協定が結ばれている（資料 5-5-③-1）。また，石川県内の他大学等のカリキュラムを「単位互換制度」により受講できる「いしかわシティカレッジ」協定に加わっている（資料 5-5-③-2）。

また専攻科に対する学生の希望等の調査を兼ねて，平成17年度に修了予定者に対してアンケート調査を行い実験機器や授業科目の充実や改善を図っている（資料 5-5-③-3）。改善の例として，授業科目に関しては環境建設専攻において，当初の科目に加え建築系の科目として「建築構造計算学」，「建築地域・空間形成論」の2科目を追加して選択の幅を広げ，また「創造工学演習Ⅰ，Ⅱ」の授業内容の充実を図ったことを挙げることができる。

- 資料 5-5-③-1：金沢大学との単位互換協定
- 資料 5-5-③-2：いしかわシティカレッジ
- 資料 5-5-③-3：平成17年度修了予定者へのアンケート調査結果

資料 5-5-③-1：金沢大学との単位互換協定

## 金沢大学と石川工業高等専門学校との単位互換に関する取扱要領

金沢大学（以下「甲」という。）と石川工業高等専門学校（以下「乙」という。）の単位互換に関する協定書の第4条に基づき、次のとおり定めるものとする。

1. 甲及び乙は、毎年度及び学期の始めに、シラバス、授業時間割表資料及び履修受付期間等に関する事項について相互に送付する。
2. 乙の学生が履修できる授業科目は、原則として、甲が理学部又は工学部学生を対象に開講する教養的科目及び専門科目の講義により行うものとし、実験、実習、演習、卒業研究等は含まない。  
また、甲は授業科目により、受け入れる学生の学年を指定することができる。
3. 甲の学生が履修できる授業科目は、原則として、乙が開講する学科4年次、5年次及び専攻科で講義により行うものとし、実験、実習、演習、卒業研究等は含まない。  
また、乙は授業科目により、受け入れる学生の学年を指定することができる。
4. この協定による授業科目の履修希望学生は、指導教員等の同意を得て、所定の様式により履修願を、派遣校を通じて、受入校に提出する。
5. 受入校は、派遣校から提出された履修願について、履修の可否を決定し、その結果を速やかに派遣校に通知する。
6. 受入校は、授業に関する連絡事項等がある場合は、速やかに派遣校及び特別聴講学生に連絡する。
7. 受入校は、当該校の規定等により、履修した授業科目の成績評価を行い、速やかに派遣校にその結果を通知する。
8. 派遣校は、成績評価の通知に基づき、当該校の規定等により、単位の認定を行う。
9. 受入校は、特別聴講学生に対して、学生証又は身分証明証等を交付する。
10. その他必要事項が生じた場合は、その都度協議する。

## 附 則

この要項は、平成〇〇年〇月〇日から施行する。

(出典：総務課保管資料)

資料 5-5-③-2 : いしかわシティカレッジ

**いしかわシティカレッジにおける単位互換等に関する包括協定書**

本協定に参加する石川県内の大学、短期大学、高等専門学校及び放送大学（以下「大学等」という。）は、以下の内容について合意したので、ここに協定書を取り交わす。

**第1章 総則****（趣旨）**

第1条 本協定に参加する大学等は、大学等に在籍する学生に対する履修機会の拡大及び大学等に在籍しない者（以下「社会人」という。）に対する生涯学習の機会を提供するため、大学コンソーシアム石川に「いしかわシティカレッジ」を置き、単位互換制度及び科目等履修生制度等に基づく事業（以下「本事業」という。）を連携して実施する。

**第2章 在学生の取扱い****（受入れ）**

第2条 大学等に在籍する学生（以下「在学生」という。）が、他の大学等が本事業に提供する授業科目の履修（以下「科目履修」という。）及び単位の修得を希望するときは、受入大学等の長は、教育研究上支障のない限り当該学生を受け入れる。

2 提供する授業科目、受け入れる学生数その他の受入れの条件については、受入大学等の定めるところによる。

**（受入学生の呼称）**

第3条 前条により大学等が受け入れた在学生は、「特別聴講学生」と称する。

**（履修期間）**

第4条 特別聴講学生の履修期間は、受入大学等が定める期間とする。

**（授業科目の範囲等）**

第5条 特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲は、本協定に参加する大学等が提供する授業科目のうち、当該学生が在籍する大学等が履修を認めたものとする。

2 特別聴講学生が修得できる単位数は、当該学生が在籍する大学等が定めた範囲内とする。

**（受入手続）**

第6条 特別聴講学生として科目履修を希望する在学生は、在籍する大学等を経由して、受入大学等に所定の手続を行う。

**（選考）**

第7条 特別聴講学生の選考及び受入れの決定は、受入大学等において行い、その結果を当該在学生在籍する大学等及び大学コンソーシアム石川事務局（以下「事務局」という。）に所定の期日までに通知する。

**（科目履修及び単位修得の方法）**

第8条 特別聴講学生の科目履修及び単位修得の方法は、受入大学等の学生の取扱いに準ずる。

**（成績評価等）**

第9条 受入大学等は、特別聴講学生の成績を評価し、当該学生が在籍する大学等に所定の期日までに通知する。



(単位認定の方法)

第10条 特別聴講学生が在籍する大学等は、前条の通知に基づき、当該学生が修得した単位について、当該大学等の定めるところにより単位認定を行う。

(授業料等)

第11条 特別聴講学生（放送大学が受け入れた者及び放送大学の全科履修生で放送大学以外の大学等が受け入れた者を除く。）の検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

2 放送大学が受け入れた特別聴講学生及び放送大学の全科履修生で放送大学以外の大学等が受け入れた特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料については、受入大学等の定めるところによる。

(特別聴講学生以外の学生の履修)

第12条 特別聴講学生以外の学生が、自己の属する大学等が提供する科目の履修を希望する場合の手続は、当該学生が在籍する大学等の定めるところによる。

第3章 社会人の取扱い

(受入れ)

第13条 第1条により大学等が提供する授業科目について、社会人が科目履修又は聴講を希望するときは、受入大学等の長は、教育研究上支障のない限り当該社会人を受け入れる。

2 社会人の受入れに当たっては、単位の取得を目的に科目履修するときは科目等履修生として、また、授業科目の聴講のみを目的とするときは、シティカレッジ聴講生（以下「聴講生」という。）として受け入れる。

3 受け入れる社会人の数その他の受入れの条件については、受入大学等の定めるところによる。

(受入手続)

第14条 前条により科目等履修生として、科目履修を希望する社会人は、事務局を経由して、受入大学等において所定の手続を行う。

2 聴講生として、授業科目の聴講を希望する社会人は、事務局において所定の手続を行う。

(選考)

第15条 受入大学等は、必要に応じて選考を行い、その結果を本人に所定の期日までに通知する。

(成績評価及び単位認定の方法)

第16条 科目等履修生が履修した授業科目の成績評価及び単位認定については、受入大学等の定めるところによる。

(授業料等)

第17条 科目等履修生の検定料、入学料及び授業料は、受入大学等の定めるところによる。

2 聴講生から徴収する受講料の額は、別表のとおりとする。

第4章 雑則

(有効期間)

第18条 本協定書の有効期間は、施行の日から平成21年3月31日までとする。

2 本協定は、有効期間満了の日の90日前までに、参加する大学等から文書による申出がない限り、3年間延長するものとし、その後において期間が満了するときもまた同様とする。

(その他)

第19条 本協定に定めるもののほか、本事業の実施に関し必要な具体的事項については、本協定に参加する大学等において協議の上、別に定める。

2 本協定に規定のない事項に関して疑義を生じた場合には、本協定に参加する大学等においてその都度協議の上、決定する。

附 則

1 この協定は、平成18年11月1日から施行する。

2 いしかわシティカレッジに関する包括協定書は、廃止する。

別表 (受講料)

| 区 分        | 受講料の額         |
|------------|---------------|
| シティカレッジ聴講生 | 1単位につき 5,000円 |

(出典：総務課保管資料)

資料 5-5-③-3 : 平成17年度修了予定者へのアンケート調査結果

2-2 : 専攻科での学習以前と以後とで、その意欲に変化はありましたか。

①より意欲的になった ②変わらない ③低下した

|    | ① | ②  | ③ |
|----|---|----|---|
| EM | 5 | 12 |   |
| AC | 3 | 8  |   |

2-3 : 前問で①を選択した方は、役立ったと思う科目名を記入してください。

|    |                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EM | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創造工学演習 (4)</li> <li>・ 特別研究 (2)</li> <li>・ トライボロジー (1)</li> </ul> |
| AC | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創造工学演習Ⅰ (1)</li> <li>・ 創造工学演習Ⅱ (1)</li> </ul>                    |

(( ))は、人数

2-4 : 基礎工学として、設計システム・情報処理・力学・社会技術の4つの分野が設定されています。それらに対応するカリキュラムは十分であったと思いますか。

①十分 ②ほぼ十分 ③どちらともいえない ④やや不十分 ⑤不十分

|    | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|----|---|---|---|---|---|
| EM | 2 | 9 | 4 | 2 |   |
| AC |   | 2 | 6 | 2 | 1 |

2-5 : 不十分であったと思われる方は、不足していると思われる分野を記入してください。

|    |                                                                                                                                                                                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EM | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報処理</li> <li>・ 設計システム, 社会技術</li> </ul>                                                                                                   |
| AC | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会技術が広く学べていないと思う。</li> <li>・ 経営</li> <li>・ 設計の科目が無い。創造と呼べるものが無い。分野では、力学以外全て。</li> <li>・ 建築の選択が少なかった。</li> <li>・ 建築学が少なくて不満だった。</li> </ul> |

9-3 : 本校の創造工学プログラムカリキュラムにおいて、さらに充実してほしい科目を別表から、また別に希望する教科や内容があれば記入してください。

|    |                                                                                                                                                                                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EM | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング</li> <li>・ 専攻科2年次における英語のカリキュラム</li> <li>・ 日本語表現, オ-カミユエ-ション, 工業英語</li> <li>・ 英語 (2)</li> <li>・ 情報系の授業</li> <li>・ 工業英語等</li> </ul> |
| AC | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築設計の科目が必要</li> <li>・ 経営などお金の流れ</li> </ul>                                                                                                |

(( ))は、人数

10-1：専攻科の施設・設備等は十分でしたか。

①十分 ②ほぼ十分 ③どちらともいえない ④やや不足 ⑤不足

|    | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|----|---|---|---|---|---|
| EM | 3 | 8 | 2 | 4 |   |
| AC | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 |

10-2：上記の質問に対して否定的な選択をされた方は、必要と考える施設・設備があれば記入してください。

|    |                                                                                                                                                                                                     |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EM | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専攻科講義室が騒々しかったので、談話室と分けて欲しい。</li> <li>・ 教室</li> <li>・ 研究設備, パソコン</li> <li>・ パソコン</li> <li>・ 休憩設備</li> <li>・ 自分の研究室が土日に開いていないこと (開くために書類を書くことが必要)</li> </ul> |
| AC | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トライアルの水質が悪い</li> <li>・ トライアルに自販機が欲しい</li> </ul>                                                                                                            |

10-3：本校教職員とのコミュニケーションは十分でしたか。

①十分 ②ほぼ十分 ③どちらともいえない ④やや不足 ⑤不足

|    | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|----|---|---|---|---|---|
| EM | 7 | 8 | 1 | 1 |   |
| AC | 3 | 5 | 3 |   |   |

10-4：前問で否定的な判断をされた方は、どのような点においてそれを感じたかを記入してください。

|    |                                                                        |
|----|------------------------------------------------------------------------|
| EM | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要事項の伝達がうまくいかなかった点</li> </ul> |
|----|------------------------------------------------------------------------|

(出典：学生課保管資料)

## 2) 学術の発展動向や社会からの要請とそれに対応した教育課程編成への配慮

現代社会・地域社会，環境問題を理解し対応するために必修科目として「環境倫理」を一般科目に、「環境技術総論」を専門共通科目として配置してある（資料 5-5-③-4，既出資料 5-5-②-9）。また今後ますます必要となるであろう外国語によるコミュニケーション能力を養うための科目として「オーラルコミュニケーション」を設けている（資料 5-5-③-5）。

18年度は，本校専攻科の学習目標が地域企業の要望を満たしているかどうか，また企業が採用した修了生がその目標を達成しているかどうかを把握するために，本校の修了生就職先企業へのアンケートを実施した（資料 5-5-③-6）。アンケートでは本校専攻科の構成，企業として学生を採用する際に，本校の学習目標以外に望まれる学力，能力・資質についての意見等も尋ねた。アンケート結果からは，本校の学習目標の妥当性を認める企業がほとんどであり，また修了生の目標達成度も企業側から十分に評価されていることがわかる。

また多くの企業が，企業にとって大切と思える学習目標にB（問題の発見・提起と解析・解決）を上げており，本校の授業内容も「特別研究」や「創造工学演習」において実際的な課題を通してそれらの能力向上に努めている（既出資料 5-5-②-10）。

- 資料 5-5-③-4：「環境倫理」授業内容
- 資料 5-5-③-5：「オーラルコミュニケーションⅠ」授業内容
- 資料 5-5-③-6：修了生就職先企業へのアンケート

## 資料 5-5-③-4 : 「環境倫理」授業内容

| 科目名                          | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員  |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|-------|
| 環境倫理<br>Environmental Ethics | 1年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2   | 必修 | 後期<br>50分×4回/週 | 鈴木 康文 |
| 対象学科                         | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |     |    |                |       |
| 授業目標                         | 社会を多面的に考えられる技術者の育成のために、技術者として必要な環境問題や環境倫理、つまり社会や自然環境に技術が及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解させることを目標とする。                                                                                                                                                                                                                                                                |     |    |                |       |
| ■学習・教育目標との対応                 | 専攻科・創造工学プログラム：C(3)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |    |                |       |
| ■キーワード                       | 環境正義、世代間倫理、技術者倫理、環境保護                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |    |                |       |
| ■年間スケジュール                    | <p>【後期】</p> 第1週 環境倫理序説<br>第2週 技術士による技術者倫理の事例報告(1)<br>第3週 技術士による技術者倫理の事例報告(2)<br>第4週 リサイクル運動の意義と限界(1)<br>第5週 リサイクル運動の意義と限界(2)<br>第6週 環境正義の思想(1)<br>第7週 環境正義の思想(2)<br>後期中間試験<br>第8週 未来世代に対する倫理(1)<br>第9週 未来世代に対する倫理(2)<br>第10週 技術と倫理<br>第11週 自然保護のめざすもの<br>第12週 二酸化炭素排出と地球温暖化：その因果関係(1)<br>第13週 二酸化炭素排出と地球温暖化：その因果関係(2)<br>第14週 まとめ<br>学年末試験<br>第15週 学年末試験の返却と復習・文献案内 |     |    |                |       |
| ■学生の到達目標                     | 1. 現代の環境問題がいかなるものか理解する<br>2. 様々な環境倫理の立場を批判し考察する<br>3. 論理的思考力と表現力を培う                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |     |    |                |       |

(出典：シラバス)

資料 5-5-③-5 : 「オーラルコミュニケーション I」 授業内容

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                        | 学年 | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|----------------|-------|
| オーラルコミュニケーションI<br>Oral Communication I                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                        | 1年 | 1   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 太田 伸子 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                              |    |     |    |                |       |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 語学演習機器を利用したTOEICリスニングの演習と、談話分析を通じた発話のメカニズムの学習によるスピーキング訓練で、英語コミュニケーション力向上を図る。また英語プレゼンテーションのメカニズムを理解し、発表技術の向上を図る。英語の語学力と文化的素養を持つグローバルスタンダードな技術者育成を目標とする。 |    |     |    |                |       |
| <b>■学習・教育目標との対応</b><br>専攻科・創造工学プログラム：C(2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                        |    |     |    |                |       |
| <b>■キーワード</b><br>TOEICリスニング、コミュニケーション能力、談話分析、口頭発表のメカニズム、英語表現                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                        |    |     |    |                |       |
| <b>■年間スケジュール</b><br>【前期】<br>第1週 コミュニケーションの概念 + TOEIC Listening 1<br>第2週 英語発話のメカニズム + TOEIC Listening 2,3<br>第3週 Voice Inflection + TOEIC Listening 4,5<br>第4週 依頼+承諾 +TOEIC Listening 6 Review Unit<br>第5週 依頼+拒絶 +TOEIC Listening 7,8<br>第6週 Transitions +TOEIC Listening 9,10<br>第7週 提案、勧誘+受諾 +TOEIC Listening 11,12Review Unit<br>第8週 Demonstrative Speech +TOEIC Listening 13,14<br>第9週 提案、勧誘+拒絶 +TOEIC Listening 15,16<br>第10週 陳述、意見+同意 +TOEIC Listening 17,18Review Unit<br>第11週 陳述、意見+不同意 +TOEIC Listening 19,20<br>第12週 Messages +TOEIC Listening 21,22<br>第13週 Persuasive Speech +TOEIC Listening 23,24Review Unit<br>第14週 Full Presentation with Visual Aids<br>前期末試験<br>第15週 試験の返却と解説 |                                                                                                                                                        |    |     |    |                |       |

(出典：シラバス)

資料 5-5-③-6：修了生就職先企業へのアンケート

専攻科構成の妥当性

|    |       |    |
|----|-------|----|
| 妥当 | 妥当でない |    |
| 20 | 1     | 21 |

専攻科の学習目標

|    |       |    |
|----|-------|----|
| 妥当 | 妥当でない |    |
| 23 | 0     | 23 |

身につけるべき（達成すべき）学習目標

|                     | A | B  | C | D | E  |    |
|---------------------|---|----|---|---|----|----|
| もっとも大切と考える学習目標 (*1) | 6 | 10 | 0 | 2 | 6  | 24 |
| 次に大切と考える学習目標 (*2)   | 1 | 11 | 0 | 3 | 7  | 22 |
| 大切と考える学習目標 (*1+*2)  | 7 | 21 | 0 | 5 | 13 | 46 |

学習目標の達成状況（教育の成果）

|           |   |          |   |        |
|-----------|---|----------|---|--------|
| ←達成されていない |   | 達成されている→ |   | 達成度中央値 |
| 1         | 2 | 3        | 4 | 2.5    |

A デザインと創造の喜び

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 2 | 14 | 5 |
|---|---|----|---|

合計

21

|     |
|-----|
| 3.1 |
|-----|

たゆまず努力する姿勢

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 0 | 13 | 8 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.4 |
|-----|

A平均

|     |
|-----|
| 3.3 |
|-----|

B 問題の発見や提起

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 3 | 14 | 4 |
|---|---|----|---|

合計

21

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

課題の解析

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 3 | 13 | 5 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.1 |
|-----|

課題の解決力

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 2 | 13 | 6 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.2 |
|-----|

B平均

|     |
|-----|
| 3.1 |
|-----|

C 教養

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 3 | 14 | 4 |
|---|---|----|---|

合計

21

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

語学力

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 6 | 16 | 1 |
|---|---|----|---|

23

|     |
|-----|
| 2.8 |
|-----|

社会や自然環境への配慮

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 2 | 15 | 4 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.1 |
|-----|

C平均

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

D 実践的な体験

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 5 | 14 | 1 |
|---|---|----|---|

合計

20

|     |
|-----|
| 2.8 |
|-----|

地域の課題への積極的な対処

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 6 | 13 | 1 |
|---|---|----|---|

20

|     |
|-----|
| 2.8 |
|-----|

D平均

|     |
|-----|
| 2.8 |
|-----|

E プロジェクトの計画性

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 4 | 14 | 3 |
|---|---|----|---|

合計

21

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

論理的な記述

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 1 | 18 | 2 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

論理的な発表

|   |   |    |   |
|---|---|----|---|
| 0 | 2 | 16 | 3 |
|---|---|----|---|

21

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

E平均

|     |
|-----|
| 3.0 |
|-----|

最も達成して欲しい学習目標 (\*1) に対する総合達成度

|     | A   | B   | C   | D   | E   |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 企業数 | 6   | 10  | 0   | 2   | 6   | 24  |
| 達成度 | 3.3 | 3.1 | 3.0 | 2.8 | 3.0 | 3.1 |

達成して欲しい学習目標 (\*1+\*2) に対する総合達成度

|     | A   | B   | C   | D   | E   |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 企業数 | 7   | 21  | 0   | 5   | 13  | 46  |
| 達成度 | 3.3 | 3.1 | 3.0 | 2.8 | 3.0 | 3.1 |

(出典：修了生就職先企業アンケート調査結果)



(分析結果とその根拠理由)

本校専攻科生は他の高等教育機関の科目履修が可能となっており、また学生に対するアンケート調査が行われ、学生の要望に対する配慮がなされている。さらに企業アンケートを行うことにより地域企業の求める人材や本校の教育目標等の評価を調査しており、学術の発展動向や、社会からの要請に配慮した教育課程となっている。

**観点5-6-①：** 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。  
(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

1) 授業形態のバランス状況

一般科目では、技術者としてのプレゼンテーション能力を高めるため、語学において演習科目を多く設定している。専門科目では準学士課程各学科(以下、基盤学科という)において演習・実験技術は十分養われているので、演習系科目は必修科目のみとなっている。単位数は講義系科目が54単位、演習系科目が23単位であり、演習・実習には3ヶ月のインターンシップ10単位が含まれる。

全体において、演習系科目に比べて講義系の科目が多いのは、基盤学科の専門分野を考慮して選択講義科目を多く配置しているためである(資料 5-6-①-1)。

□ 資料 5-6-①-1：専攻科課程授業形態一覧

## 資料 5-6-①-1：専攻科課程授業形態一覧

授業形態ごとの科目数

| 一般科目          |    |       |    |    |
|---------------|----|-------|----|----|
|               | 講義 | 演習・実習 | 研究 | 合計 |
| 必修            | 1  | 4     |    | 5  |
| 選択            | 2  | 0     |    | 2  |
| 合計            | 3  | 4     |    | 7  |
| 専門共通科目        |    |       |    |    |
|               | 講義 | 演習・実習 | 研究 | 合計 |
| 必修            | 2  | 3     |    | 5  |
| 選択            | 10 | 0     |    | 10 |
| 合計            | 12 | 3     |    | 15 |
| 専門展開科目(各専攻共通) |    |       |    |    |
|               | 講義 | 演習・実習 | 研究 | 合計 |
| 必修            | 0  | 2     |    | 2  |
| 選択            | 12 | 0     |    | 12 |
| 合計            | 12 | 2     |    | 14 |
| 全科目(各専攻共通)    |    |       |    |    |
|               | 講義 | 演習・実習 | 研究 | 合計 |
| 必修            | 3  | 7     | 3  | 12 |
| 選択            | 24 | 0     | 0  | 24 |
| 合計            | 27 | 6     | 3  | 36 |

学習目標ごとの科目数

| 学習目標 | 専攻   | 準学士課程      | 授業形態 |       |    | 合計 |
|------|------|------------|------|-------|----|----|
|      |      |            | 講義   | 演習・実習 | 研究 |    |
| A    | 電子機械 | 機械         | 8    | 1     |    | 9  |
|      |      | 電気         | 8    | 1     |    | 9  |
|      |      | 電子情報(電気電子) | 6    | 1     |    | 7  |
|      |      | 電子情報(情報)   | 6    | 1     |    | 7  |
|      | 環境建設 | 環境都市       | 4    | 1     |    | 5  |
|      |      | 建築         | 4    | 1     |    | 5  |
|      | 平均   | 6          | 1    |       | 7  |    |
| B    | 電子機械 | 機械         | 11   | 1     |    | 12 |
|      |      | 電気         | 17   | 1     |    | 18 |
|      |      | 電子情報(電気電子) | 17   | 1     |    | 18 |
|      |      | 電子情報(情報)   | 12   | 1     |    | 13 |
|      | 環境建設 | 環境都市       | 12   | 1     |    | 13 |
|      |      | 建築         | 13   | 1     |    | 14 |
|      | 平均   | 14         | 1    |       | 15 |    |
| C    |      |            | 4    | 3     |    | 7  |
| D    |      |            | 1    | 1     |    | 2  |
| E    |      |            |      | 2     | 2  | 4  |

(出典：学生課保管資料)

## 2) 教育内容に応じた学習指導法の工夫事例

専攻科生の人数は少ないため、準学士課程に比較して基本的に少人数教育となっている。さらに、例えば「創造工学演習」では同時に複数のテーマを設定することにより、グループ分けを行い1グループ当たり7、8人の少人数教育を行っている（既出資料 5-5-②-10）。

語学系の演習科目では、TOEIC試験を利用した教育を行うとともに（既出資料 5-5-③-5，資料 5-6-①-2），発表や討議を取り入れてプレゼンテーション能力の向上を図っている（資料 5-6-①-3）。

他にも学習指導法については様々な工夫が行われているので、それらのいくつかを示しておく（資料 5-6-①-4）。なおこれらには正規の授業時間外の補充授業等が含まれているが、いずれも専攻科の学習目標を達成するために役立つものである。

- 資料 5-6-①-2：「オーラルコミュニケーションⅡ」授業内容
- 資料 5-6-①-3：「国際表現」，「日本語表現」シラバスより抜粋
- 資料 5-6-①-4：学習指導法の工夫事例

## 資料 5-6-①-2 : 「オーラルコミュニケーションⅡ」授業内容

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 学年                                                                                                                                                                                                         | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|--------|
| オーラルコミュニケーションⅡ<br>Oral Communication Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2年                                                                                                                                                                                                         | 1   | 必修 | 前期<br>50分×2回/週 | 太田 智加子 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                  |     |    |                |        |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 情報や科学技術のグローバル化が進み、世界の均質化というベクトルがはたらいっている現代において、多様性について学ぶ重要性はますます高まっている。この授業では、グローバル化を推進する英語の背景事情と言語の多様性という観点からこの問題に取り組む。多種多様な英語によるコミュニケーションの様相を体験し、国際言語としてのあり方を考える。また、毎回短時間の演習を通して、TOEIC試験に対応できる実力の養成をめざす。 |     |    |                |        |
| ■学習・教育目標との対応<br>専攻科・創造工学プログラム：C(2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                            |     |    |                |        |
| ■キーワード<br>英語の多様性、言語の多様性、グローバル化とローカリゼーション、アイデンティティ、コミュニケーション、TOEIC                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                            |     |    |                |        |
| ■年間スケジュール<br>【前期】<br>第1週 Introduction, World English (1) :TOEIC演習Unit1<br>第2週 World English (1) :TOEIC演習Unit2<br>第3週 Varieties of English (1) :TOEIC演習Unit3<br>第4週 Varieties of English (2) :TOEIC演習Unit4<br>第5週 Varieties of English (3) :TOEIC演習Unit5<br>第6週 Varieties of English (4) :TOEIC演習Unit6<br>第7週 Awareness for Languages (1) :TOEIC演習Unit7<br>第8週 Awareness for Languages (2) :TOEIC演習Unit8<br>第9週 Identity and Intelligibility (1) :TOEIC演習Unit9<br>第10週 Identity and Intelligibility (2) :TOEIC演習Unit10<br>第11週 Identity and Intelligibility (3) :TOEIC演習Unit11<br>第12週 Identity and Intelligibility (4) :TOEIC演習Unit12<br>第13週 Multilingualism (1) :TOEIC演習Unit13<br>第14週 Multilingualism (2) :TOEIC演習Unit14<br>前期末試験<br>第15週 前期末試験返却と解説 |                                                                                                                                                                                                            |     |    |                |        |
| ■学生の到達目標<br>1 国際語としての英語の成立事情を理解する<br>2 世界での英語の使用状況を知る<br>3 世界の諸言語との関係を理解する<br>4 多様な英語を体験し、コミュニケーション手段としてのあり方を考える<br>5 TOEIC試験に対応できる力をつける                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                            |     |    |                |        |

(出典：シラバス)

## 資料 5-6-①-3 : 「国際表現」 「日本語表現」 シラバスより抜粋

## 国際表現 (英語授業)

## ■その他履修上の注意事項や学習上の助言

基本的に授業は英語で行う。充分に予習を行い、各UnitのComprehension Check, Further Understanding, Vocabulary Checkを事前に解答して授業に臨むこと。教科書の授業で扱わない部分にも有益な情報が数多く掲載されているので、読むようにすること。  
『Next Stage 英文法・語法問題』の指定した範囲の準備を各自で充分に行い、毎回の客観確認テストに臨むこと。

## 日本語表現 (発表と討論)

## ■年間スケジュール

## 【前期】

- 第1週 講義 (授業の進め方、文章作成のポイント)
- 第2週 時事問題 (1) グローバリズム 資料収集
- 第3週 時事問題 (1) グローバリズム 発表・討論
- 第4週 時事問題 (2) 格差社会 資料収集
- 第5週 時事問題 (2) 格差社会 発表・討論
- 第6週 時事問題 (3) 地球温暖化問題 資料収集
- 第7週 時事問題 (3) 地球温暖化問題 発表・討論
- 第8週 時事問題 (4) コンプライアンス 資料収集
- 第9週 時事問題 (4) コンプライアンス 発表・討論
- 第10週 時事問題 (5) 少子化問題 資料収集
- 第11週 時事問題 (5) 少子化問題 発表・討論
- 第12週 時事問題 (6) 裁判員制度 資料収集
- 第13週 時事問題 (6) 裁判員制度 発表・討論
- 第14週 復習 全体のまとめ  
前期末試験
- 第15週 前期復習

(出典：シラバス)

## 資料 5-6-①-4 : 学習指導法の工夫事例

## オーラルコミュニケーション I

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫   |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業           |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用            |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ) |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 専攻科 1年 全学科 オーラルコミュニケーション I                  |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 太田伸子                                        |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 発話のメカニズムの学習を題材としたプレゼンテーションの指導               |
| <u>目標・内容・効果等:</u><br><u>授業実践事例採択出版</u> 太田伸子「発話のメカニズムの学習を題材としたプレゼンテーションの学習」『高等教育における英語授業の研究』大学英語教育学会授業学研究委員会編, 松柏社, 2007年。<br><u>関連論文</u> 太田伸子「語用論的知識を活用した英語コミュニケーション力育成について」全国高等専門学校英語教育学会研究論集第26号, 2007年。<br>太田伸子「発話のメカニズムを題材とした口頭発表指導の試み」全国高等専門学校英語教育学会研究論集第24号, 2005年。<br><br><u>目標</u> (1) 談話分析を通じた語用論的知識による発話のメカニズムの理解ができる。<br>(2) プレゼンテーションの仕組みを理解し, 簡単なプレゼンテーションができる。<br>(1) (2) の学習によりある程度論理的意思疎通ができる。<br><u>内容</u> (1) 「発話を題材とした演習」と「語用論の概念の紹介と演習」を学生の学習方略に活用させる。語用論の中から, 特に「間接的発話行為」と「会話の含意」という知識を演繹的に学習させ, コミュニケーション方略として活用させることを目指す<br>(2) プレゼンテーションの仕組みを学習させ, 実際に発表する。「間接的発話行為」と「会話の含意」の学習内容の中で, 主旨を推論する発話の仕組みを, プレゼンテーションの題材として選び, テーマに沿って資料を採集し, 分析して発表する。<br><u>効果</u> TOEIC IP スコアの上昇。英語コミュニケーション力の育成。 |                                             |

## 環境倫理

|                                                                                                       |                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                                                 | <input type="checkbox"/> 教材の工夫              |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                                                                        | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業           |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                                                     | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用            |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                                                              | <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ) |
| 学年・学科・科目                                                                                              | 専攻科 1年環境倫理 4年ME 哲学 2年全科 倫理                  |
| 実施教員等                                                                                                 | 鈴木康文                                        |
| 工夫・内容等                                                                                                | 書籍紹介, 文献リスト                                 |
| <u>目標・内容・効果等:</u> 現代社会におけるさまざまな問題点を, 自らの問題として理解してもらうため, さまざまな分野の文献を紹介し, また文献リストを作成配布して, ネット上でも公開している。 |                                             |

## 専攻科 1 年英語科目

|                                                                                                                                                                     |                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                                                                                                               | <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫 |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                                                                                                                                      | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業         |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                                                                                                                   | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用          |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                                                                                                                            | <input type="checkbox"/> その他 ( )          |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                            | 本科 1 年～専攻科 1 年                            |
| 実施教員等                                                                                                                                                               | 太田伸子                                      |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                              | 英字新聞活用                                    |
| <u>目標・内容・効果等：</u> <u>内容</u> カレントトピックスとして、授業日近くの英字新聞から、見出し、記事を教材として利用。<br><u>目標</u> 英語の学習内容と現実生活の関連の認識、日本語での既存知識を英語理解に活用する訓練。<br><u>効果</u> 英語学習への動機の強化。語彙力、論理的思考力強化。 |                                           |

## 創造工学演習Ⅱ（後期）

|                                                                                                                                                                                                               |                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                                                                                                                                              | <input type="checkbox"/> 教材の工夫               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業                                                                                                                                                                     | <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用             |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                                                                                                                                                                      | <input type="checkbox"/> その他 ( )             |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                                                                                      | 創造工学演習Ⅱ（後期）平成 18 年度                          |
| 実施教員等                                                                                                                                                                                                         | 深見哲男                                         |
| 工夫・内容等                                                                                                                                                                                                        | 中波ラジオの設計・試作                                  |
| <u>目標・内容・効果等：</u> 中波ラジオをどのような観点から用いることから初め、その目的に合ったラジオを設計試作した。学生は、機械工学出身 1 名、電気工学出身 1 名、電子情報工学出身 2 名、環境都市工学出身 1 名、建築学科出身 1 名の計 6 名がプロジェクトをくみ、母学科の特徴を活かしながら外装を含め製作した。今回のラジオは、「ふろらじ」と命名し、入浴時にスイッチが ON するものを作った。 |                                              |

## 生体情報工学

|                                                                                                                                                     |                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning)                                                                                               | <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫 |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                                                                                                                      | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業         |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                                                                                                   | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用          |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                                                                                                            | <input type="checkbox"/> その他 ( )          |
| 学年・学科・科目                                                                                                                                            | 1 年専攻科「生体情報工学」                            |
| 実施教員等                                                                                                                                               | 堀田素志                                      |
| 工夫・内容等                                                                                                                                              | 図表のパワーポイント提示を多用した授業                       |
| <u>目標・内容・効果等：</u><br>この授業は全ての学科出身者が対象のため、聴講学生の基礎知識が不十分である。そこで、図表による分かりやすい説明を多くすると共に、提示スライドの印刷資料も配付して筆記量を減らし、説明を聞くことに集中できるようにして授業内容の理解が深まることを期待している。 |                                           |

## 創造工学演習 I (補充授業)

|                                                                                                                                                      |                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 課外活動 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒指導 <input checked="" type="checkbox"/> 補充授業等 <input type="checkbox"/> その他        |                                           |
| 件名                                                                                                                                                   | 間伐材の有効利用に関する製品化の研究——間伐材利用ベンチ(キット)の考案および試作 |
| 学科・科目・教員等                                                                                                                                            | 環境建設工学専攻・創造工学演習 I・村田一也, 内田伸               |
| 対象となる学生                                                                                                                                              | 専攻科環境建設工学専攻 1 年次                          |
| 目標・内容・効果等: 間伐材の有効利用促進をめざしたベンチキットの考案<br>学生が自らのアイデアで構想した間伐材利用ベンチを製品化へむけて, その内容を検討する。ものづくり教育の実践を通して, 構想から計画・検討, 実施に至る過程を経験する。また, 外部関係者とのコミュニケーション能力の向上。 |                                           |

## 日本文化論 (補充授業)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input checked="" type="checkbox"/> 補充授業等 <input type="checkbox"/> その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                            |
| 件名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 平成 18 年度研究横断型カリキュラム事業<br>《金沢「まちなか」の文化資源を活用した新しい能楽学入門科目の創出》 |
| 学科・科目・教員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 専攻科 2 年 「日本文化論」 佐々木香織                                      |
| 対象となる学生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 主に「日本文化論」の授業を選択した学生                                        |
| 目標・内容・効果等:<br>この研究横断型カリキュラム事業は, 石川県内の高等教育機関が連携して, あらたな授業科目を創出することを目的としており, それらの授業科目は県民に開放される。この事業において, 能と狂言を総合的に学ぶ授業科目が創設されることとなり, 平成 18 年度にカリキュラム開発と教科書の作成を行った。<br>本校の立地する石川県は古くから能楽の盛んな地であり, 能楽をはじめとした地元の文化・芸術を学ぶことは, 本校専攻科が掲げる地域密着型技術者育成のためにも有効である。このカリキュラム開発の成果は, 専攻科開設科目「日本文化論」において反映する。<br>また, この事業によって開発されたカリキュラムは, 平成 19 年 4 月よりシティカレッジにおいて開講され, 「日本文化論」の授業科目を選択していない本校専攻科生も, 他の石川県高等教育機関の学生や市民と共に受講することが可能である。さらに, このカリキュラム開発にあたって県立博物館, 県立美術館, 金沢市能楽美術館の学芸員と共に, 資料内容, 教材化への工夫, 施設利用について検討したが, それらは「日本文化論」講義内において学生に周知するため, 学生は博物館等の施設を有効に利用し自学自習に努めることによって, さらに地域文化への理解を深めることもできる。 |                                                            |

(出典: 教員へのアンケート調査結果)

## (分析結果とその根拠理由)

基盤学科の専門分野に対応し, より高度の知識と技術を教授するため多くの選択講義科目が配置されている。

一般科目における語学系科目では発表・討議等, 実践的な演習科目が多く必修となっているとともに, 専門科目ではグループ分けによる少人数のものづくり教育が行われている。また長期のインターンシップを採用する等, 専攻科の学習目標 C, D を達成するために役立っており, 教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫が見られる。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

1) 創造性を育む教育

第1学年の「創造工学演習Ⅰ」に引き続いて（既出資料 5-5-②-10），第2学年に「創造工学演習Ⅱ」を設けている（資料 5-6-②-1）。これらの科目は基盤学科の枠を超えたチームプロジェクトであり，総合技術者として問題を発見・提起し，解決できる基礎能力の育成と応用力を養うことを目的として，基盤学科の代表教員が設定した5つのテーマを学生が選択し，テーマにもとづき各自の自由な発想を持ち寄り，検討し，ものづくりの演習を行う（資料 5-6-②-2～5）。

- 資料 5-6-②-1：「創造工学演習Ⅰ，Ⅱ」授業内容
- 資料 5-6-②-2：課題テーマ例1（電子機械工学専攻）
- 資料 5-6-②-3：課題テーマ例2（電子機械工学専攻）
- 資料 5-6-②-4：課題テーマ例3（環境建設工学専攻）
- 資料 5-6-②-5：学生の感想文



資料 5-6-②-1: 「創造工学演習Ⅰ, Ⅱ」授業内容

| 科目名                                       | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 単位数 | 区分 | 開講期                             | 担当教員            |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|---------------------------------|-----------------|
| 創造工学演習Ⅰ<br>Creative Engineering Project I | 1年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 3   | 必修 | 通年<br>前: 50分×4回/週後:<br>50分×2回/週 | 森田 義則, 竹本 邦夫, 他 |
| 対象学科                                      | 専攻科 各専攻共通                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |                                 |                 |
| 授業目標                                      | 創造工学プログラム複合工学修得コースにおける基礎工学の修得および理論的解析力を養うことを目的とする。学生は各学期で設定した5テーマの中から1テーマを選択し、学習による専門技術に関する知識と理論的解析から、問題を発見・提起し解決ができる基礎能力を養う。この中から科学技術や情報を利用してデザインし、創造することにより、たゆまず努力することの喜びを学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |    |                                 |                 |
| ■学習・教育目標との対応                              | 専攻科・創造工学プログラム: A(1), B(2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |                                 |                 |
| ■キーワード                                    | 機械設計製作、情報通信技術、メカトロニクス、電気磁気学、数値解析、環境都市工学、プログラミング、家具の設計、環境要素の測定・分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |     |    |                                 |                 |
| ■年間スケジュール                                 | <p>【前期】</p> <p>第1週 ガイダンス *前期5テーマ</p> <p>第2週 演習 1. 機械機構設計演習: 機械システムの企画立案から製作までを行い、機械機構の設計に必要な知識を養う。</p> <p>第3週 演習 2. 回路演習: 電気回路、電子回路等の回路一般を演習し、解析力と設計基礎力を養う。</p> <p>第4週 演習 3. 情報処理Ⅰ: 数値解析等のコンピュータ演習を通して、解析力と設計基礎力を養う。</p> <p>第5週 演習 4. 環境都市工学演習Ⅰ: 各種課題を、表計算ソフトや、プログラミング技術を用いて解く力を養う</p> <p>第6週 演習 5. ものづくり・設計応用演習: 単位部材組み合わせによる簡易家具の設計を行う。模型、試作品の構想を通して、その力学的特性を評価し、計画案を作成する</p> <p>第7週 演習</p> <p>第8週 レポート提出</p> <p>第9週 レポート修正</p> <p>第10週</p> <p>第11週</p> <p>第12週</p> <p>第13週</p> <p>第14週</p> <p>第15週</p> <p>【後期】</p> <p>第1週 ガイダンス *後期5テーマ</p> <p>第2週 演習 1. 力学演習: 機械工学(力学系)の演習を通して、解析力と設計基礎力を養う。</p> <p>第3週 演習 2. 電気磁気学演習: 電気磁気学に関する演習を行い、解析力と設計基礎力を養う。</p> <p>第4週 演習 3. 情報処理Ⅱ: ネットワーク等の情報処理ツールの基礎知識を演習し、IT基礎技術を磨く。</p> <p>第5週 演習 4. 環境都市工学演習Ⅱ: 数値解析等の情報処理手法を用いて、各種演習を行い、解析力と設計基礎力を養う</p> <p>第6週 演習 5. 環境工学応用演習: 自分の身近にある環境要素を測定・分析し評価することで、環境工学に関する理解を深めることを目的とする</p> <p>第7週 演習</p> <p>第8週 レポート提出</p> <p>第9週 レポート修正</p> <p>第10週</p> <p>第11週</p> <p>第12週</p> <p>第13週</p> <p>第14週</p> <p>第15週</p> |     |    |                                 |                 |

| 科目名                                        | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員     |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|----------------|----------|
| 創造工学演習Ⅱ<br>Creative Engineering Project II | 2年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 4   | 必修 | 通年<br>50分×8回/週 | 森田 義則, 他 |
| 対象学科                                       | 専攻科 電子機械工学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |     |    |                |          |
| 授業目標                                       | 創造工学プログラム複合工学修得コースにおける創造に対する応用力を養うことを目的とする。前期、学生は各2専攻で設定したテーマの中から1テーマを選択し、設計基礎力と応用力を養う。後期、学生はチームプロジェクト型のテーマ「工業的生産物の創造的製作」で設定した5小テーマの中から1テーマを選択し、本科が異なる学生で構成された融合チームを結成し、計画を立て実行しながらチームワークと創造性を養う。更に、レポート修正やプレゼンテーションにより、表現力を磨く。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |    |                |          |
| ■学習・教育目標との対応                               | 専攻科・創造工学プログラム: E(3)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     |    |                |          |
| ■キーワード                                     | 医療機器、通信機器、地理情報処理、水浄化装置、材料構造物                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |     |    |                |          |
| ■年間スケジュール                                  | <p>【前期】</p> <p>第1週 ガイダンス *前期5テーマ</p> <p>第2週 演習 1. 機械工学演習 機械工学関係のテーマに対して演習し、設計基礎力と応用力を養う。</p> <p>第3週 演習 2. 電気工学演習 電気工学関係のテーマに対して演習し、設計基礎力と応用力を養う。</p> <p>第4週 演習 3. 電子情報工学演習 電子情報工学関係のテーマに対して演習し、設計基礎力と応用力を磨く</p> <p>第5週 演習 4. 環境都市工学演習 環境都市工学関係のテーマに対して演習し、設計基礎力と応用力を養う。</p> <p>第6週 演習 5. 建築工学演習 建築工学関係のテーマに対して演習し、設計基礎力と応用力を養う。</p> <p>第7週 演習</p> <p>第8週 レポート提出</p> <p>第9週 レポート修正</p> <p>第10週</p> <p>第11週</p> <p>第12週</p> <p>第13週</p> <p>第14週</p> <p>第15週</p> <p>【後期】</p> <p>第1週 ガイダンス *「工業的生産物の創造的製作」、以下5小テーマ</p> <p>第2週 演習 1. 機械設計応用演習 医療機器を設計・試作し、設計に対する創造性を養う。</p> <p>第3週 演習 2. 通信機器の製作 通信機器を設計・試作し、設計基礎力と創造性を養う。</p> <p>第4週 演習 3. 地理情報処理応用演習 地域振興・環境情報に関するシステムを設計・試作し、創造性を養う。</p> <p>第5週 演習 4. 水浄化装置の設計応用演習 ペットボトルを用いた汚水浄化装置を設計・試作し、創造性を養う。</p> <p>第6週 演習 5. 材料構造応用演習 構造物の模型を制作して耐力予測と実験値より最適設計を行う。</p> <p>第7週 演習</p> <p>第8週 レポート提出</p> <p>第9週 レポート修正</p> <p>第10週</p> <p>第11週</p> <p>第12週</p> <p>第13週</p> <p>第14週</p> <p>第15週</p> |     |    |                |          |
| ■学生の到達目標                                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与えられた課題を理解して、具体的な立案・計画を立て、実行できる。</li> <li>2. 経済性・安全性、環境を含めたデザインを考察できる。</li> <li>3. 与えられた課題の設計基礎力と応用力を身につける。</li> <li>4. レポートに関しては、論旨を整理し、理路整然と結論を出せる能力を身につける。</li> <li>5. プレゼンテーションに関しては、成果を効果的にまとめて発表する能力を身につける。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |     |    |                |          |

(出典: シラバス)

## 資料 5-6-②-2 : 課題テーマ例 1 (電子機械工学専攻)

## 全体テーマ「工業的生産物の創造的製作」

## 個別テーマ「医療機器の構造設計と製作 —自立支援型車いすの利便性—」

## 1. 目的

身障者が、介護者なしで車いすを自ら操作し、公園内を安全に散歩できる車いすの創造を目的とする。車いすには、身障者自ら操作・走行する際、次の問題点がある。すなわち、小さな段差走行時の転倒、上り坂走行時のトルク不足による走行不能、下り坂走行時のブレーキコントロール不足による暴走、危険時の他者への自動通報システム、車椅子のデザインと乗り心地など様々な問題点が車椅子にはある。

学生は問題点を把握し、独自のアイデアに基づき車椅子の構造設計と製作を行う。

## 2. 授業内容

自立支援型車いすの利便性探求を目的に、出身本科が異なる6名の学生が問題点を探り出し、解決案を考え出した後、独自性のある車椅子を実際に創造し製作した。

本授業の最終目的は、出身本科の基礎知識を生かしたプロジェクト型の車いす設計・製作である。そのためには、車いすの構造・材料強度・運動メカニズム・製作過程(切断・切削・溶接)および製品精度を基礎から学ぶ必要がある。そこで、車いすを実際に製作し、出身本科の基礎知識を生かす提言ができる礎を養った

## 3. チームワーク

学生は車椅子に乗り、構内の路面および身障者トイレ内を操縦した。その結果、操縦性、乗り心地、安全面に多くの問題があることを実感した。学生は問題解決点について話し合い、表1に示す責任分担を決めた。作業時間不足が生じた場合、お互いに助け合う共同作業精神も認めた。

(中略)

## 5. 結果

学生は、実物の車いすを創造して、独創性のあるアイデアを実現化した。さらに、表2に示すように、車椅子の製作体験から、本科基礎知識を生かした提言ができるようになった。

表2. 製作した車いすの問題点と提案

| 分担責任者<br>出身学科    | 製作品の問題点     | 本科基礎知識を生かした提言                                                                                       |
|------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 青島建雄<br>機械工学科    | 軸受部の強度不足    | <ul style="list-style-type: none"> <li>手が不自由な身障者に対し、駆動部を電動化する。</li> <li>離床センサや通報装置を付加する。</li> </ul> |
| 日本幸士<br>電子情報工学科  | 前輪の緩衝運動不足   | <ul style="list-style-type: none"> <li>位置確認通報システム装置を装着する。</li> <li>駆動部などを電動化する。</li> </ul>          |
| 横田裕三<br>電子情報工学科  | フレームの強度不足など | <ul style="list-style-type: none"> <li>路面状況(勾配, 悪路)に左右されない座面設計が必要である。</li> </ul>                    |
| 奥野真由紀<br>建築学科    |             |                                                                                                     |
| 奥野真由紀<br>環境都市工学科 |             |                                                                                                     |

【学生報告書例】 自立支援型車いすの利便性- フレームの設計と製作-

環境建設工学専攻2年 (氏名 略)

指導教員 (氏名 略)

1. 目的

乗り心地と操作性の良い車いすのフレームをデザインすることを目的とする。延いては身体障害者が、介護者無しで車いすを自ら操作し、公園内を安全に散歩することを目標とする。

2. 設計・製作の方針・方法

失敗を恐れず、とにかく制作してみることに、最初は外部から得られる情報に頼らず、自分たちのアイディアで一から考えることを方針とする。まず従来の車いすを試乗し、問題点を挙げ、具体的な解決策を考える。そして大きく駆動輪と補助輪、フレームの班に分かれ、各班で設計・製作を行う。

3. 従来の車椅子の問題点と解決策

従来の車いすで、機械実習工場からトライアルセンターの身体障害者優先トイレまで、校内を往復試乗したところ、以下のような問題点があることが分かった。フレームに関する問題点一から四を解決策とともに表1にまとめ、その他の問題点を五から十一として下記に示す。

表1 従来の車いすのフレームに関する問題点と解決策

|   | 問題点                                      | 解決策                                                               |
|---|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 一 | 便座に座るときと前のめりにタイヤを漕ぐときに手すりが邪魔             | 手すりを短くする                                                          |
| 二 | 小段差を越える際に前輪が引っかかり、後方に転倒しそうになる (タイヤの位置関係) | 転倒防止のために後輪の取り付け位置を後方へずらす                                          |
| 三 | 座面と背もたれが直角で座り心地が悪い                       | 背もたれを座面に対して鈍角に傾け、さらに座面自体を少し後ろに傾ける。頭部の後ろまで支えられるように、長さや背もたれの幅を調節する。 |
| 四 | 本体が重い                                    | フレームの材料を鉄からアルミに変更することにより、軽量化する                                    |

五、上り坂で休憩するとき、ブレーキが効かずに動く

六、下り坂でブレーキによる速度調整が出来ない

七、腕の負担が大きい

八、タイヤを漕ぐときに肘が背もたれに当たって漕ぎにくい

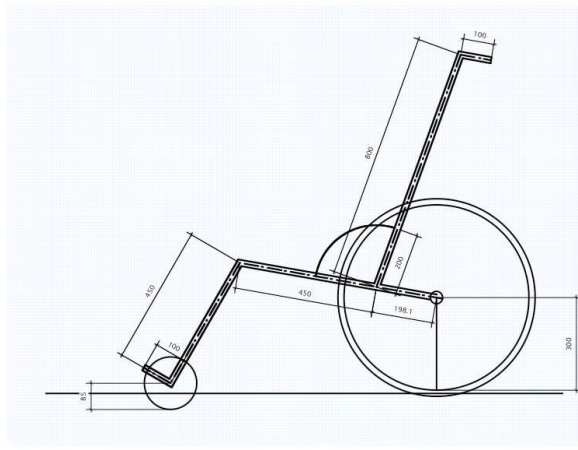
九、タイヤを漕ぐときに手が巻き込まれる危険性がある

十、タイヤを漕ぐときの摩擦が大きい

十一、足置きが外れやすい

5. 設計と製作

まず、解決策を念頭にイメージ図を作成した。そして従来の車いすの部材のサイズを参考にし、イメージ図に基づき設計した (図1)。作成した設計図を基に、部材を切出し (図2)、接合はアーク溶接で行った (図3)。クッションは強度面を考慮して従来のものを再利用し、アルミフレームを際立たせるため、黒のカバーで覆った (図4)。 図5は完成した車いすを示す。



(出典：教員室保管資料)

## 資料 5-6-②-3 : 課題テーマ例 2 (電子機械工学専攻)

- |                                                                  |                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input type="checkbox"/> 教材の工夫               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業                        | <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用             |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                         | <input type="checkbox"/> その他 ( )             |

|          |                       |
|----------|-----------------------|
| 学年・学科・科目 | 創造工学演習Ⅱ (後期) 平成 18 年度 |
|----------|-----------------------|

|       |      |
|-------|------|
| 実施教員等 | 深見哲男 |
|-------|------|

|        |             |
|--------|-------------|
| 工夫・内容等 | 中波ラジオの設計・試作 |
|--------|-------------|

目標・内容・効果等:

中波ラジオをどのような観点から用いることから初め、その目的に合ったラジオを設計試作した。学生は、機械工学出身 1 名、電気工学出身 1 名、電子情報工学出身 2 名、環境都市工学出身 1 名、建築学科出身 1 名の計 6 名がプロジェクトをくみ、母学科の特徴を活かしながら外装を含め製作した。今回のラジオは、「ふろらじ」と命名し、入浴時にスイッチが ON するものを作った。

(出典：シラバス 2007)

資料 5-6-②-4 : 課題テーマ例3 (環境建設工学専攻)

●課題と報告書表紙

後期創造工学演習

# 津幡町北部地区公園計画

電子機械工学専攻 2年 11番 [REDACTED]

担当分 : 7章

共同演習者 :

EM 専攻

[REDACTED] [REDACTED]

AC 専攻

[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]

提出日 : 2月1日

●課題中のテーマ例

創造工学演習 II

小課題 (5) 都市公園 3rd

06/11/02

担当：熊澤

課題：デザインゲーム

①ディスカッション：公園の将来像についての検討

公園を含めて、まち全体の将来像について検討をすること。

作業手順

1.前回の「まちあるき」のワーキングの結果を踏まえて、どうしたら魅力あるポイントを引き出し、改善すべき所をなくしていくのか具体的なアイデアについて考える。

2.思いつくアイデアをポストイットに書き出して、アイデアを分類・整理し、グループでまとめて発表を行なう。

→次回の創造工学演習の際に、レポートにして提出

②デザインゲーム：具体的なデザインの検討

話し合ったアイデアについて手を使って考えて直す。

作業手順

1.とにかく、整理したアイデアをもとに、形に表し、模型で表してみる。どんな些細な事でも結構です。

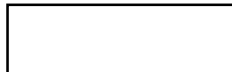
2.最初から、否定的なアイデアは慎むように。前に進まなくなります。最終的なデザインの検討は、設計段階で詰めていきます。

→場合によっては、次回に延長の可能性も検討します。

(出典：教員室保管資料)

## 資料 5-6-②-5 : 学生の感想文

理想の公園のために

  
(専攻科環境建設工学専攻二年)

今、高専生活の中で最も図書館を利用しています。私、もうすぐ修了の時期なのに。

これには訳があって、専攻科二年の後期の創造工学演習で「公園の設計」をしていることにあるのです。グループでこの課題に取り組んでいるのですが、出身学科が機械、情報、環境、建築と様々で個性も豊かです。皆それぞれ得意分野を活かして、公園の中の施設を担当しています。私は研究テーマが舗装関係なので、駐車場やコミュニティ道路のデザインや設計が楽しそうと思って担当になりました。ところが、自分のやってきたことは道の断面や計算力学が中心だったのに対し、公園の設計に必要なのは平面、つまり都市計画だったのです。この状況に気づいたのは担当が決まってからでした。そのため、「公園に必要な道の幅は?」「駐車スペースの決まりは何?」と分からないことだらけでした。図書館に行って都市計画関係の本、道路工学の本など関係しそうなものを探しました。

今、その本が横に積み上がった状態でこの文章を書いています。でも、嬉しいことにこの課題がもうすぐ完成します。中身はとても満足のいくものです。ひいき目かもしれませんが、駐車場の位置、素材、道の色、バスの通り道など自分の担当した所だけでなく、皆の担当した所全てが素晴らしいと思っています。本から情報を探して、自分のアイデアと合わせて新しいものを創り出す、難しかったけれど本の使い方が前より上手くなった気がします。ここまで来るのに助けてくれたこの本たちに感謝です。重いけど、欲しい情報や写真など多くのものをくれました。本当にありがとう。

これまで、私は図書館をレポートや趣味関係の調べもの、小説を読むために利用してきました。でも今回の課題のように本に感謝する経験ができたのは初めてです。インターネットも便利ですが、本は欲しい情報だけでなくその周辺も知ることが出来ます。レポートを書くのに決めていたテーマに関する本を調べていたら、もっと面白そうなテーマを見つけたりも出来ます。

この学校の図書館は専門書だけでなく、趣味に関する本もあります。修了まで残り少ない時間だけど、最後は好きな本、気になる本を探してゆっくり読みたいと考えています。

(出典：図書館報「灯火」第102号より抜粋)

## 2) インターンシップの活用状況

実際の現場を経験して創造することの喜びを体験する手段として本校はこれを重視し、必修科目として設定している。平成18年度からは事前・事後指導を伴った3ヶ月の長期インターンシップを行っており（既出資料 5-5-②-12, 資料 5-6-②-6），従来の2週間2単位を3ヶ月10単位に変更した。その成果の発表とレポートを総合して成績評価を行っている（資料 5-6-②-7～9）。

- 資料 5-6-②-6：インターンシップ解説
- 資料 5-6-②-7：専攻科インターンシップ日誌
- 資料 5-6-②-8：専攻科インターンシップ実施報告書
- 資料 5-6-②-9：専攻科インターンシップ報告会プログラム

## 資料 5-6-②-6：専攻科インターンシップ解説

## (10) インターンシップ

この科目は、学外の企業、研究所、官公庁等で専門に係わる実務的な学習や実習等を行い、学内とは異なった環境での学習成果を期待するもので、学修の時間は事前・事後指導の時間と、3ヶ月（12週間）の実習が必要です。

下記のような日程で実施される予定です。詳細については、インターンシップ説明会で説明します。

| 月                | 予 定 表                                                                                            |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月               | インターンシップ事前指導<br>インターンシップについての説明会開催<br>趣旨、目的、日程の説明<br>受入可能企業の一覧表をもとに実習先希望先の調整<br>保険の加入手続き等についての説明 |
| 7月               | 学生に対するガイダンス<br>企業等講師による事前指導、集中講義<br>服装、態度、言動等について指導<br>作成提出する書類の説明                               |
| 8月               | 夏季休業期間中に実習先訪問                                                                                    |
| 9月<br>10月<br>11月 | インターンシップ実施<br>学生から中間報告書、日誌の提出（2週間毎）<br>担当教員による巡回指導等を実施（月1回程度）                                    |
| 12月              | インターンシップ事後指導<br>インターンシップ最終報告書作成、提出<br>インターンシップ報告会の開催（受入れ企業の担当者も参加）                               |
| 1月<br>2月         | 課題の抽出<br>特別研究Ⅰの授業時間を使い、担当教員の指導により、課題の抽出、解決を試みる。                                                  |
| 3月               | 単位認定                                                                                             |

（出典：専攻科「履修の手引き」）



資料 5-6-②-7 : 専攻科インターンシップ日誌

## インターンシップ日誌

|               |                                    |        |    |       |
|---------------|------------------------------------|--------|----|-------|
| 電子機械 工学専攻 1 年 | 学籍<br>番号                           | 063105 | 氏名 | ..... |
| 実施の期間・日数      | 平成 18年 9月 4日～平成 18年 9月 15日 ( 14日間) |        |    |       |

10日 (84h 20m)

| 実習期間 |   | 実習時間                             | 実習内容・感想                                                        |
|------|---|----------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 月/日  | 曜 |                                  |                                                                |
| 9/4  | 月 | 自 8:20<br>至 17:20<br>(9時間0分)     | 午前:インターンシップのガイダンスと、工場見学<br>午後:風力発電についての勉強                      |
| 9/5  | 火 | 自 8:20<br>至 17:20<br>(9時間0分)     | 10kW風車の組立実習<br>ローターのブレード取り付け部の分解とメンテナンス                        |
| 9/6  | 水 | 自 8:20<br>至 17:20<br>( 9時間 0分)   | 10kW風車の組立実習<br>ローターのブレード取り付け部の組立                               |
| 9/7  | 木 | 自 8:20<br>至 18:00<br>( 10時間 20分) | 10kW風車の組立実習<br>ブレード取り付け部を組み立てるとブレード軸が回転し<br>にくくなっていたので、その原因の調査 |

(——中略——)

## インターンシップ日誌

|               |                                      |        |    |       |
|---------------|--------------------------------------|--------|----|-------|
| 電子機械 工学専攻 1 年 | 学籍<br>番号                             | 063105 | 氏名 | ..... |
| 実施の期間・日数      | 平成 18年 11月 27日～平成 18年 11月 30日 ( 4日間) |        |    |       |

4日 (44h 30m)

| 実習期間  |   | 実習時間                             | 実習内容・感想                                                    |
|-------|---|----------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 月/日   | 曜 |                                  |                                                            |
| 11/27 | 月 | 自 8:20<br>至 17:20<br>( 9時間 0分)   | 八日市駅前の日照調査<br>昨日の現地調査から、jw-CADというソフトを使って具体的<br>な日照時間を計算した。 |
| 11/28 | 火 | 自 8:20<br>至 21:00<br>( 12時間 40分) | 社内報告書作成<br>実験結果をまとめるため、社内提出用の報告書を作成。                       |
| 1/29  | 水 | 自 8:20<br>至 19:30<br>( 11時間 10分) | 4kW風車の改良版製図<br>最終報告書作成                                     |
| 11/30 | 木 | 自 8:20<br>至 20:00<br>( 11時間 40分) | 4kW風車の改良版製図<br>最終報告書作成                                     |

(出典: 学生課教務係保管資料)

資料 5-6-②-8 : 専攻科インターンシップ実施報告書

## インターンシップ最終報告書

平成 18年 12月 1日

実習責任者の認印



|                                                                                                                                                      |                                     |        |    |            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------|----|------------|
| 電子機械 工学専攻 1年                                                                                                                                         | 学籍<br>番号                            | 063105 | 氏名 | ■■■■■■■■■■ |
| 実習企業の<br>名称及び配属先                                                                                                                                     | ニッコー株式会社                            |        |    |            |
| 実施の期間・日数                                                                                                                                             | 平成 18年 9月 4日～平成 18年 11月 30日 ( 88日間) |        |    |            |
| 実習企業指導担当者                                                                                                                                            | 職名                                  | 部長     | 氏名 | ■■■■■■■■■■ |
| 指導担当者からの報告書に対するコメント, 要望等                                                                                                                             |                                     |        |    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐久試験をテーマに実習としてもらったが、電話の応対から実務の手伝いまで、社員のみの業務も経験して頂いた。</li> <li>・実習はもとより、何事にも積極的姿勢が向上心につながっていると感じた。</li> </ul> |                                     |        |    |            |

題目 (インターンシップテーマ)

ニッコー社製品の10kW風力発電機「風流鯨-かぜながすくじら-」における耐久性試験

インターンシップの内容・所感

私が去年から行っている研究のテーマが2重反転式風力発電機ということで、研究テーマについての知識をより深いものにするために風力発電機メーカーであるニッコー株式会社さんを研修先として希望した。そういった経緯から風力についての基礎知識があるということできざまな仕事の研修をさせてもらったが、特に今回のインターンシップのメインとして10kW風力発電機の風流鯨という製品の耐久性試験を行った。具体的には風車の翼のピッチ角コントロール部とブレーキ部の機構が期待寿命の10年の使用に耐えられるのかどうか、という試験である。

耐久試験を実施するにあたり、あらかじめニッコーさんが試験機の設計をして部品を用意して下さったので、その組立作業から開始した。試験機は実際に製品として生産された10kW発電機をベースに設計されているので、組立作業のなかで発電機の構造をよく知ることができた。特にピッチコントロール部の構造に以前から興味があり、それ以外にも潤滑や防錆対策などの工夫、安

( 1 / 2 )

(出典：学生課教務係保管資料)

資料 5-6-③-9 : インターンシップ報告会プログラム

平成 18 年度長期インターンシップ報告会  
プログラム (電子機械工学専攻)  
平成 18 年 12 月 11 日(月)13:30~

| 時刻              | 学生氏名 | 実習先企業名           |
|-----------------|------|------------------|
| 13:34-<br>13:46 |      | 澁谷工業株式会社         |
| 13:46-<br>13:58 |      | 澁谷工業株式会社         |
| 13:58-<br>14:10 |      | 株式会社ナナオ          |
| 14:10-<br>14:22 |      | 株式会社コスモサミット      |
| 14:22-<br>14:34 |      | 株式会社コスモサミット      |
| 14:34-<br>14:46 |      | 株式会社管理工学研究所 北陸分室 |
| 14:46-<br>15:00 |      | 休憩               |
| 15:00-<br>15:12 |      | ニッコー株式会社         |
| 15:12-<br>15:24 |      | 創屋株式会社           |
| 15:24-<br>15:36 |      | 日本フィルター工業株式会社    |
| 15:36-<br>15:48 |      | 森長電子株式会社         |
| 15:48-<br>16:00 |      | 福島印刷株式会社         |
| 16:00-<br>16:12 |      | 株式会社別川製作所        |
| 16:12-<br>16:24 |      | 株式会社西野製作所        |

平成 18 年度長期インターンシップ報告会  
プログラム (環境建設工学専攻)  
平成 18 年 12 月 11 日(月)13:30~

| 時刻              | 学生氏名 | 実習先企業                    |
|-----------------|------|--------------------------|
| 13:30-<br>13:43 |      | 株式会社国土開発センタ<br>ー         |
| 13:43-<br>13:56 |      | 中日本高速道路株式会社              |
| 13:56-<br>14:09 |      | エースコン工業株式会社              |
| 14:09-<br>14:22 |      | スプリング・フィールド<br>有限会社      |
| 14:22-<br>14:35 |      | エヌ・ティ・ティ・イン<br>フラネット株式会社 |
| 14:35-<br>14:48 |      | 株式会社国土開発センタ<br>ー         |
| 14:48-<br>15:00 |      | 休憩                       |
| 15:00-<br>15:13 |      | 株式会社アルポカンパニ<br>ー         |
| 15:13-<br>15:26 |      | 石川県庁 土木部都市計<br>画課        |
| 15:26-<br>15:39 |      | 株式会社田淵建築構造事<br>務所        |
| 15:39-<br>15:52 |      | 真柄建設株式会社                 |
| 15:52-<br>16:05 |      | 株式会社みずほ建築事務<br>所         |
| 16:05-<br>16:18 |      | 株式会社土井                   |

(出典：専攻科委員会保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

例えば「創造工学演習 I, II」において、設定したテーマに対しチームを編成し、各自にアイデアを発想させ、調査、企画、創造の段階を経験させてものづくりを成し遂げる演習を行っており、創造性を育む教育方法に対する工夫が見られる。さらに、実際の現場を経験させる実践的な教育として、十分な長期のインターンシップが行われている。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスの記載内容は、FD委員会、教員間ネットワーク委員会によりその全体の構成が、また当該年度の授業進行や学生の学習状況から担当教員ごとに細部の内容が検討され、毎年度更新して記載内容の充実を図っている(既出資料 5-2-②-1, 資料 5-6-③-1)。

本校では平成17年4月からウェブ入力によるシラバスの作成環境が整い、全学生に配布するのみならず本校のウェブサイトにも公開して外部からの閲覧が可能となった。現在のシラバスには、科目名、担当教員、開講期、単位数、対象学年、年間スケジュールの基本事項の他に、

- a) 授業のキーワード
- b) その科目が学習単位となっているか(準学士課程の科目のみ)
- c) 授業の目標、学習目標と当該授業との対応、学生の到達目標
- d) 成績評価方法
- e) 履修上の注意事項と学習上の助言、レポート等に関する注意事項
- f) 他の関連科目、教科書、教材、参考書等

について記載されている(資料 5-6-③-2)。

専攻科においても準学士課程と同様に、科目担当教員は学期初めの授業において担当科目の授業目標と授業計画とをシラバスに基づいてガイダンスすることが義務付けられており、学生が授業の目的を把握するとともに事前学習を行うための指針としている(既出資料 5-2-②-4)。

学生のシラバスの活用状況については、アンケート調査を行った結果(資料 5-6-③-3)、ほとんどの科目でシラバスの説明が行われていたことが分かった。シラバスを試験前の学習に活用している学生については、アンケート実施時期が4月であったので第1学年は対象から外しており、第2学年では50%強である。

- 資料 5-6-③-1：シラバスの改善と作成上の注意(18年度)
- 資料 5-6-③-2：シラバス記載例
- 資料 5-6-③-3：シラバスの活用に関する調査結果

資料 5-6-③-1 : シラバス作成上の注意 (18年度)

入力前に設定済(訂正があれば教務係へ)

| 科目名                         | 学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 単位数   | 区分 | 開講期            | 担当教員 |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|----------------|------|
| 制御工学<br>Control Engineering | 5年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 2     | 必修 | 通年<br>50分×2回/週 | ———  |
| 対象学科                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 機械工学科 |    |                |      |
| 授業目標                        | <p>制御工学は、産業ばかりでなく社会や地球環境など全ての分野の発展のために広く利用されるようになり、その内容はより複雑・高度化している。これら制御技術を理解し応用できるよう、フィードバック制御系を中心に基礎理論と解析手法を学習する。</p> <p>この授業では、技術者として必要な基礎学力および専門知識を身につけるとともに、制御工学を通して、問題の設定から課題解決および評価に至る過程について学ぶ。</p> <p>学習目標の記号・番号と文章の対応(一致)を確認(認証)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |    |                |      |
| ■学習・教育目標との対応                | <p>本科学習目標: 1, 2 専攻科・創造工学プログラム学習目標: A(1), B(1) 専門(機械工学)</p> <p>一覧表との対応確認(JABEE)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |    |                |      |
| ■キーワード                      | フィードバック制御, 伝達関数, 過渡応答, PID制御, 周波数応答, 安定性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |    |                |      |
| ■年間スケジュール                   | <p>【前期】</p> <p>第1週 自動制御の基本構成, 動的システムと静的システム</p> <p>第2週 動的システムの微分方程式による表現</p> <p>第3週 式の解析および数値計算による解法, シミュレーション</p> <p>第4週 非線形システムの線形化</p> <p>第5週 力学系・電気系の類似, 動的パターンの式</p> <p>第6週 ラプラス変換, 伝達関数の定義</p> <p>第7週 過渡応答の代表的な入力とラプラス変換</p> <p>前期中間試験</p> <p>第8週 代表的な要素の伝達関数</p> <p>第9週 1次系の過渡応答, 時定数, 比例感度</p> <p>第10週 水槽液面のステップ応答シミュレーション</p> <p>第11週 2次系の過渡応答, 不足制動, 過制動</p> <p>第12週 2次系インパルス応答シミュレーション</p> <p>第13週 系の結合, ブロック線図の等価変換</p> <p>第14週 伝達マトリックスによる結合</p> <p>前期末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 前期復習</p> <p>【後期】</p> <p>第1週 フィードバック制御系の基本制御動作</p> <p>第2週 PID制御, 調節器による最適調整</p> <p>第3週 周波数応答と周波数伝達関数</p> <p>第4週 周波数応答の結果の表現, ベクトル軌跡による方法</p> <p>第5週 ベクトル軌跡作図演習</p> <p>第6週 周波数応答の結果の表現, ボード線図</p> <p>第7週 ボード線図作図演習</p> <p>後期中間試験</p> <p>第8週 安定判別法</p> <p>第9週 フィードバック系の安定判別(ゲイン余裕, 位相余裕)</p> <p>第10週 特性方程式によるラウスの方法</p> <p>第11週 特性方程式によるフルビッツの方法</p> <p>第12週 ナイキストの安定判別法</p> <p>第13週 新しい制御理論の特徴</p> <p>第14週 現代制御理論</p> <p>前期末試験</p> <p>第15週 試験の返却と解説, 後期復習</p> |       |    |                |      |
| ■学生の到達目標                    | <p>1. 自動制御系を構成する基本要素が説明できる。</p> <p>2. 閉ループ制御系の特性(良い応答・悪い応答)が説明できる。</p> <p>3. 微分方程式を使ってさまざまな動的システムが表現できる。</p> <p>4. 微分方程式を解析し, 数値計算やシミュレーションが行える。</p> <p>5. ラプラス変換・逆ラプラス変換を自在に活用できる。</p> <p>6. 代表的な入出力の形を伝達関数で表現できる。</p> <p>7. 基本的な要素に対するインパルス・インディシャル応答を説明できる。</p> <p>8. ブロック線図の結合・等価変換が行える。</p> <p>9. 比例・積分・微分制御における各動作の働きと特徴を説明できる。</p> <p>10. 基本的な要素に対し周波数応答の表現を行うことができる。</p> <p>11. 伝達関数をもとに実際にベクトル軌跡を描くことができる。</p> <p>12. 伝達関数から実際にボード線図を作図することができる。</p> <p>13. 特性方程式(ラウス, フルビッツの方法)を使い安定判別ができる。</p> <p>14. ベクトル軌跡, ボード線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>15. ナイキスト線図からシステムの安定判別ができる。</p> <p>16. 現代制御の手法や例が説明できる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |    |                |      |
| FD委員会の指示により改善               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |    |                |      |
| ■評価方法                       | <p>定期試験(80%), 演習課題(10%), 演習中演習の提出状況(授業中の取り組みを含む)(10%)などを総合的に判断する。</p> <p>評価割合・合計および表現の妥当性を確認(JABEE)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |    |                |      |
| ■その他履修上の注意事項や学習上の助言         | <p>授業中の学習がまず基本ですが, 必要に応じて予習や復習も大切です。</p> <p>課題や演習は, 最初他の学生に教えてもらうことがあっても, 最終的には自分の力で必ず解いてみて理解を深める必要があります。</p> <p>演習問題は教科書や授業中に示されたものだけでなく, 積極的に多くの課題に取り組むことが大切です。</p> <p>ネットワーク委員会の指示により数学は追加記述</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |    |                |      |
| ■レポート等                      | <p>学習の理解を深めるため, 教科書内の課題およびプリントを使って演習を行う。</p> <p>到達目標の達成度を確認するため, 必要に応じて演習課題を与える。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |    |                |      |
| ■関連科目                       | <p>応用数学, 機械力学, 熱力学, 流れ学, 機械工学実験II</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |    |                |      |
| ■教科書, 教材, 参考書等              | <p>教科書: 黒須茂「制御工学入門」(パワー社)</p> <p>教材等: 関連のプリントを配布する</p> <p>参考書: 森泰親「演習で学ぶ基礎制御工学」(森北出版), 鳥羽栄治ほか「制御工学演習」(森北出版)</p> <p>従来のシラバスに相当する部分, および全般的な内容を確認(教務)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |    |                |      |

## 資料 5-6-③-2 : シラバス記載例

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                       | 学年 | 単位数 | 区分 | 開講期            | 担当教員 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|----------------|------|
| 移動現象論<br>Transport Phenomena                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                       | 1年 | 2   | 選択 | 後期<br>50分×4回/週 | 松田 理 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 専攻科 電子機械工学専攻                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |                |      |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 各種産業装置、配管内、また生体内で見られる流体の運動量移動、熱移動、そして物質移動という三つの異なる移動現象をその類似性、関連性に着目しながら体系的に講義する。即ち、流体の摩擦力、熱の流れ、拡散における分子の移動について、共通する概念の理解や基礎式の誘導と具体的問題に応じた解法を通して、問題を広い視点から工学的に解析、解決できる力をつける。このことにより、学士の学位を取得できる専門工学の知識と能力を有することを目標とする。 |    |     |    |                |      |
| ■学習・教育目標との対応<br>専攻科・創造工学プログラム：B(1)専門（機械工学）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■キーワード<br>運動量移動、熱移動、物質移動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■年間スケジュール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| <p style="text-align: right;">【後期】</p> 第1週 移動速度論の考え方<br>第2週 移動現象の類似性（ニュートンの法則、フーリエの法則、フィックの法則）<br>第3週 基礎方程式（1）<br>第4週 基礎方程式（2）<br>第5週 物性値（粘性係数、熱伝導率、拡散係数）<br>第6週 運動量移動（1）基本的事項<br>第7週 運動量移動（2）速度分布と摩擦<br>第8週 熱移動（1）基本的事項<br>第9週 熱移動（2）定常熱伝導<br>第10週 熱移動（3）非定常熱伝導<br>第11週 熱移動（4）対流熱伝達<br>第12週 物質移動（1）基本的事項<br>第13週 物質移動（2）静止流体および層流における物質移動<br>第14週 物質移動（3）乱流における物質移動<br>学年末試験<br>第15週 試験の返却と解説、授業アンケート、復習 |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■学生の到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| 1. 運動量、熱、物質の移動現象が類似の現象であることが理解できること。<br>2. 運動量移動における基本的事項の理解と基礎的計算ができること。<br>3. 固体内の熱移動に関する基本的事項の理解と基礎的計算ができること。<br>4. 固体表面と流体との熱移動に関する基本的事項の理解と関係諸量が計算できること。<br>5. 拡散など物質移動に関する基本的事項の理解と基礎的計算ができること。                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■評価方法<br>定期試験(80%)、適宜行う課題や小テスト(20%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■その他履修上の注意事項や学習上の助言<br>予習と復習に心がけること。<br>身近な現象を想定し自分で良く考えること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■レポート等<br>随時、講義内容の復習のため課題を与える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■関連科目<br>伝熱工学、応用伝熱工学、応用物理Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |
| ■教科書、教材、参考書等<br>教科書：長島 昭「移動速度論」（コロナ社）<br>教材等：<br>参考書：R.Byron Bird, Warren E. Stewart, Edwin N. Lightfoot, Transport Phenomena(John Wiley and Sons)                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                       |    |     |    |                |      |

(出典：学生課教務係保管資料)

## 資料 5-6-③-3 : シラバスの活用に関する調査結果

## 教員へのアンケート

## 授業科目の学習目標を学生に説明しているか

| している | していない | 合計 | 説明度   |
|------|-------|----|-------|
| 2    | 67    | 69 | 97.1% |

## 学修単位科目を担当教員は、授業時間以外での学習が必要なことを説明している

| している | していない | 合計 | 説明度   |
|------|-------|----|-------|
| 6    | 55    | 61 | 90.2% |

## 学生が予習・復習や試験勉強をするとき、シラバスを参考にするよう指導している

| している | していない | 合計 | 指導度   |
|------|-------|----|-------|
| 10   | 56    | 66 | 84.8% |

## 専攻科学生へのアンケート

## 授業中にシラバスについての説明があったか。

1: 2割以下 2: 2割～5割 3: 5割～8割 4: 8割以上

| 1 | 2 | 3 | 4  | 平均  |
|---|---|---|----|-----|
| 0 | 1 | 2 | 28 | 3.9 |

## 特に試験前などに、シラバスを自分の学習に活用したか(2年生のみ)

| しなかった | した | 合計 | 活用    |
|-------|----|----|-------|
| 8     | 10 | 18 | 55.6% |

(出典：シラバス活用状況調査結果)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには、スケジュールのみならず、授業の目標、学習の補助となるテキスト、履修・学習上の注意、アドバイス、成績評価方法等が明示されておりシラバスの内容は十分に整備されていると言える。

学生のシラバス活用状況に関しては、アンケート結果からほとんどの科目担当教員はシラバスの説明を行っており、実際にシラバスを利用している学生は半数を超えている。

**観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。**

(観点に係る状況)

1) 専攻科の研究指導体制と技術職員の研究指導への関与

学生の研究指導にあたっては、常時2名の教員のもとで指導を行っている(資料5-7-①-1, 2)。両教員とも研究テーマを扱える専門分野の教員であり、内1名は大学評価・学位授与機構の資格審査に合格している教員である。

第1学年の12月には特別研究中間発表会を設け、研究の進捗状況を把握するとともに出席者の意見を参考としてその後の研究の進展に役立てている(資料5-7-①-3)。

研究指導における予算上の援助をするために、指導教員に対しては指導学生数に応じた研究費の配分を行う(資料5-7-①-4)とともに、学外での論文発表の際には学生に対して旅費の一部を補助している(資料5-7-①-5)。

専攻科生はすでに特別研究で取り扱う機器の操作方法について、準学士課程において一通り習熟しているが、比較的大きな装置や精密機械等を扱う場合に技術職員による実験指導・補助が行われている(資料5-7-①-6)。

- 資料5-7-①-1：特別研究テーマ、指導教員一覧(第1学年)
- 資料5-7-①-2：特別研究テーマ、指導教員一覧(第2学年)
- 資料5-7-①-3：特別研究中間発表会プログラム
- 資料5-7-①-4：専攻科担当教員への予算配分
- 資料5-7-①-5：専攻科学生の旅費支給規定
- 資料5-7-①-6：技術職員の特別研究への関与事例



## 資料 5-7-①-1：特別研究テーマ，指導教員一覧（第1学年）

## 電子機械工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                        | 指導教員   |       |
|------|--------------------------------|--------|-------|
|      | 糸層の弾性率分布の測定                    | 堀 純也   | 八田 潔  |
|      | P I Cを応用したシステムの試作              | 堀田 素志  | 山田 健二 |
|      | プラズマ中におけるV L F波動観測データの校正に関する研究 | 東 亮一   | 深見 哲男 |
|      | 9 5 0 MHz帯R F I Dタグシステム        | 深見 哲男  | 東 亮一  |
|      | M A T L A Bによる手領域の検出           | 森田 義則  | 河合 康典 |
|      | ビークルの軌道生成と制御に関する研究             | 河合 康典  | 森田 義則 |
|      | 能登珪藻土を利用した炭酸ガス吸収               | 松田 理   | 割澤 泰  |
|      | レーザーリフトオフによる薄膜のパターニング          | 大坪 茂   | 山田 悟  |
|      | 並列マルチチャンネルにおける誤り制御に関する研究       | 長岡 健一  | 金寺 登  |
|      | 電子デバイス用はんだの熱疲労寿命に関する実験力学的検証    | 旭吉 雅健  | 河野 顕臣 |
|      | 長波J J Y標準電波の伝搬特性               | 深見 哲男  | 東 亮一  |
|      | R F I Dとネットワークを連携した情報管理システムの研究 | 岡野 修一  | 山田 健二 |
|      | 画像処理による空間の3次元モニタリングに関する研究      | 小村 良太郎 | 山田 洋士 |
|      | 直交変換による音響データのピッチ検出             | 徳井 直樹  | 森田 義則 |
|      | 空気流を組み合わせた糸の操作に関する研究           | 八田 潔   | 割澤 泰  |
|      | コンピュータビジョンに関する研究               | 越野 亮   | 山田 洋士 |
|      | 代替エネルギー性能試験用実験カーの開発            | 割澤 泰   | 八田 潔  |

## 環境建設工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                        | 指導教員  |       |
|------|--------------------------------|-------|-------|
|      | 道路線形透視図プログラムの開発                | 豊田 剛  | 西澤 辰男 |
|      | 製紙スラッジ混合土の材料・強度特性              | 重松 宏明 | 出村 禧典 |
|      | 小規模貯水池群における流量管理の精度向上に関する研究     | 鈴木 洋之 | 畑 時男  |
|      | 建築家 丹下建三の記述に関する研究              | 河内 浩志 | 熊澤 栄二 |
|      | 新興住宅団地・内灘町白帆台ニュータウンの形成過程に関する研究 | 内田 伸  | 金木 健  |
|      | 打継ぎのコンクリート強度に及ぼす影響に関する研究       | 竹本 邦夫 | 廣瀬 康之 |
|      | カキ殻を用いた粒状固化処理土の実用化検討           | 重松 宏明 | 出村 禧典 |
|      | 金沢市における建造物を主とした文化財資料の保存に関する研究  | 内田 伸  | 江口 清  |
|      | 確率論的手法を用いた許容不同沈下量の最適決定         | 出村 禧典 | 重松 宏明 |
|      | 須須神社を巡る地域景観の研究                 | 熊澤 栄二 | 河内 浩志 |

(出典：学生課保管資料)

資料 5-7-①-2 : 特別研究テーマ, 指導教員一覧 (第2学年)

## 電子機械工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                                  | 指導教員   |       |
|------|------------------------------------------|--------|-------|
|      | 小型モータ用性能試験器の開発                           | 石田 博明  | 堀 純也  |
|      | リモートセンシングによる森林モニタリング                     | 小村 良太郎 | 堀田 素志 |
|      | メタヒューリスティクスによる最適化に関する研究                  | 越野 亮   | 金寺 登  |
|      | パラメトリックサーチを用いた最小包含円問題の解法                 | 河村 泰之  | 竹下 哲義 |
|      | 小型風力発電の研究                                | 割澤 泰   | 八田 潔  |
|      | 感性工学に関する研究                               | 竹下 哲義  | 長岡 健一 |
|      | 磁気浮上モータの基礎研究                             | 石田 博明  | 堀 純也  |
|      | 各種ワンチップマイクロコンピュータの応用比較の研究 (AVR, PIC, H8) | 徳井 直樹  | 森田 義則 |
|      | 冬季雷地域における風力発電の雷害対策に関する研究                 | 櫻野 仁志  | 森田 義則 |
|      | 三角形分割における曲面の近似                           | 河村 泰之  | 竹下 哲義 |
|      | 拘束を考慮したモデル予測制による遠隔操作システムの構築に関する研究        | 河合 康典  | 山田 悟  |
|      | ヘルムホルツコイルの生体磁場応用に関する研究                   | 櫻野 仁志  | 河合 康典 |
|      | 現代的Webアプリケーションの開発と評価                     | 長岡 健一  | 竹下 哲義 |
|      |                                          |        |       |
|      |                                          |        |       |
|      |                                          |        |       |
|      |                                          |        |       |
|      |                                          |        |       |

## 環境建設工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究テーマ                                 | 指導教員  |       |
|------|-----------------------------------------|-------|-------|
|      | 積雪消長モデルの適用と積雪の消長過程について                  | 畑 時男  | 鈴木 洋之 |
|      | アスファルト舗装におけるわだち掘れ予測法の開発                 | 西澤 辰男 | 小泉 徹  |
|      | カキ殻消石灰の混入による各種問題土の改良効果                  | 重松 宏明 | 和田 匡司 |
|      | 貝殻の有効利用法について                            | 高野 典礼 | 重松 宏明 |
|      | 金沢市におけるプレハブ集合住宅需要に関する研究                 | 金木 健  | 内田 伸  |
|      | 潜熱蓄熱材を内部充填した構造躯体における構造および熱的挙動に関する研究     | 船戸 慶輔 | 石渡 博  |
|      | ペーパーマイクロファイバー (PMF) を利用した軟弱地盤の安定化に関する研究 | 重松 宏明 | 出村 禧典 |
|      | 接合部の剛性の違いによる耐荷性能の確率論的評価                 | 北田 幸彦 | 江口 清  |
|      | 建築家・村野藤吾の「記述」に関する研究                     | 河内 浩志 | 熊澤 栄二 |
|      | RBSMによるRC部材の非線形解析                       | 富田 充宏 | 竹本 邦夫 |
|      | 文化と原型からみる日本家屋～建築家ブルーノ・タウトと吉田鉄郎の視点       | 村田 一也 | 熊澤 栄二 |

(出典: 学生課保管資料)

## 資料 5-7-①-3：特別研究中間発表会プログラム

## 平成18年度 特別研究中間報告会

## 電子機械工学専攻・1年次[平成19年2月16日(月)13:30～, 講義室]

|             |    |                               |                 |
|-------------|----|-------------------------------|-----------------|
| 13:30-13:42 |    | 小型モータ用性能試験器の開発                | 石田 博明<br>堀 純也   |
| 13:42-13:54 |    | 航空写真による樹木枯損箇所の特定制と解析          | 小村 良太郎<br>堀田 素志 |
| 13:54-14:06 |    | メタヒューリスティクスを用いた最適化に関する研究      | 越野 亮<br>金寺 登    |
| 14:06-14:18 |    | 最小包含円問題に対する高速化アルゴリズム          | 河村 泰之<br>竹下 哲義  |
| 14:18-14:30 |    | 2段式小型プロペラ風車の開発(IV)            | 割澤 泰<br>八田 潔    |
| 14:30-14:42 |    | 文学と音楽が刺激する感性データの解析            | 竹下 哲義<br>長岡 健一  |
| 14:42-14:54 |    | 磁気浮上モータの基礎研究                  | 石田 博明<br>堀 純也   |
| 14:54-15:10 | 休憩 |                               |                 |
| 15:10-15:22 |    | ワンチップマイコン(AVR, PIC, H8)の動作と比較 | 徳井 直樹<br>森田 義則  |
| 15:22-15:34 |    | 冬季雷地域における風力発電の雷害対策に関する研究      | 櫻野 仁志<br>森田 義則  |
| 15:34-15:46 |    | 3次元図形の三角形メッシュによる近似多面体の生成      | 河村 泰之<br>竹下 哲義  |
| 15:46-15:58 |    | 拘束を考慮したモデル予測制御によるビークル制御に関する研究 | 河合 康典<br>山田 悟   |
| 15:58-16:10 |    | ヘルムホルツコイルの生体磁場応用に関する研究        | 櫻野 仁志<br>河合 康典  |
| 16:10-16:22 |    | 参照頻度を考慮したオンラインブックマークの開発       | 長岡 健一<br>竹下 哲義  |

## 環境建設工学専攻1年[平成19年2月16日(月) 13:30～, ゼミ室]

|             |    |                               |                |
|-------------|----|-------------------------------|----------------|
| 13:30-13:45 |    | 金沢市における区画整理地区のビルトアップ実態に関する研究  | 金木 健<br>内田 伸   |
| 13:45-14:00 |    | 潜熱蓄熱材を内部充填した構造躯体における構造および熱的挙動 | 船戸 慶輔<br>石渡 博  |
| 14:06-14:15 |    | 接合部の剛性の違いによる耐荷性能の確率論的評価       | 船戸 慶輔<br>北田 幸彦 |
| 14:15-14:30 |    | 建築家・村野藤吾における「道徳観念」に関する基礎的研究   | 河内 浩志<br>熊澤 栄二 |
| 14:30-14:45 |    | 家具の配置による空間構成の変化に関する研究         | 村田 一也<br>熊澤 栄二 |
| 14:45-15:00 | 休憩 |                               |                |
| 15:00-15:15 |    | 積雪消長モデルにおける積雪の平均的な圧縮粘性係数について  | 畑 時男<br>鈴木 洋之  |
| 15:15-15:30 |    | アスファルト舗装の動的挙動に関する研究           | 西澤 辰男<br>小泉 徹  |
| 15:30-15:45 |    | カキ殻消石灰の安定材としての適用性             | 重松 宏明<br>和田 匡司 |
| 15:45-16:00 |    | 発泡セラミックスを用いた河北潟の浄化            | 高野 典礼<br>重松 宏明 |
| 16:00-16:15 |    | 製紙スラッジを活用した軟弱地盤の安定化           | 重松 宏明<br>出村 禮典 |
| 16:15-16:30 |    | デローニ三角分割のプリ・プロセッサの開発          | 富田 充宏<br>竹本 邦夫 |

(出典：専攻科委員会保管資料)

## 資料 5-7-①-4 : 専攻科担当教員への予算配分

平成18年度専攻科担当教員への配当について

担当教員への配分額 = (A) + (B)

(A) = 担当教員への配分予算総額 × 1/2 × 受持コマ数/総コマ数(特別研究を除く)

(B) = 担当教員への配分予算総額 × 1/2 × 受持学生数/総学生数(特別研究)

以上を基に算出する

①平成18年度 専攻科教育経費 1,190 千円  
(学生数積算分)

②教員配分額を受持コマ数分と受持学生数分に分ける

受持コマ数分 595 千円

受持学生数分 595 千円

③受持コマ数分を配分

受持コマ数の算出には、授業時間割表から特別研究のコマ数を除く

前期・後期各教員ごとの受持コマ数及び総コマ数を算出し比例配分する

④受持学生数分を配分

受持学生数は、特別研究の受持学生数のみで配分する

前期・後期各教員ごとの特別研究の受持学生数及び総学生数を算出し比例配分する

\* 非常勤講師の受持コマ数は除く

\* 千円未満は四捨五入して算出

(四捨五入により生じた端数(剰余)分は専攻科に留保する)

(出典：総務課保管資料)

## 資料 5-7-①-5 : 専攻科学生の旅費支給規定

## ★専攻科生研究活動援助費

1)平成13年2月6日支出打ち合わせ

専攻科生研究活動援助費の新設(2年生 29名) 1人当 ¥25,000を計上

2)平成13年2月26日

専攻科生研究活動援助費1人 ¥25,000は多すぎる?

学生課長と専攻科長と話し合い 現行額¥725,000円の7掛け程度となる。

学会発表等の際の旅費相当分 1人上限¥20,000とする。(平成13年度より執行)

## ★実績

| 年度     | 予算      | 実績      | 残額      | 摘要    |
|--------|---------|---------|---------|-------|
| 平成16年度 | 300,000 | 120,300 | 179,700 | 9名参加  |
| 平成17年度 | 300,000 | 269,190 | 30,810  | 15名参加 |
| 平成18年度 | 300,000 | 162,060 | 137,940 | 9名参加  |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 5-7-①-6：技術職員の特別研究への関与事例

## 技術職員の特別研究指導・補助例

| 内容                      | 専攻 | 時間        |
|-------------------------|----|-----------|
| 風車羽根の機械加工指導             | EM | 2ヶ月間, 21h |
| 機械操作指導                  | EM | 6ヶ月間, 3h  |
| 制御用BOXの加工指導             | EM | 4ヶ月間, 20h |
| ボール盤・手仕上・フライス盤作業指導      | EM | 6ヶ月間, 13h |
| 手仕上安全指導                 | EM | 4ヶ月間, 10h |
| 実験装置の製作補助               | EM | 60h       |
| コーン指数試験や一軸圧縮試験, などの強度試験 | AC | 週 3~5h程度  |
| 液性・塑性限界試験などの物理化学試験      | AC |           |
| 材料の準備や管理 等              | AC |           |

EM: 電子機械, AC: 環境建設

(出典：技術職員へのアンケート調査結果)

## 3) 研究テーマ決定のプロセスと、研究指導内容の妥当性

「特別研究」のテーマの多くは準学士課程の卒業研究のテーマを発展させたものであり、準学士課程での指導教員の専門領域におけるテーマが設定される（既出資料 5-7-①-1, 2）。また学外からの志望者を考慮して、募集要項に近年の研究テーマの例を記載しているのでその一覧を参考とすることができ（資料 5-7-①-7）、専攻科入学願書提出の際に入学後に希望する研究テーマや内容を申請することとなっている（資料 5-7-①-8）。指導の教員はテーマに相応しい専門分野の教員であるが、それらの教員が教員交流や留学により不在となる場合もあり得るので、入学試験の面接時にテーマ変更の可能性があることを志望者に対して確認を行っている。テーマの妥当性を確認するため、平成18年度修了予定者に対してアンケート調査を行った（資料 5-7-①-9）。同時に「特別研究」の学習目標「E. 計画性と発表」の達成度に関して、修了生の自己診断および修了生採用企業による判定の調査を目的としたアンケート調査も行った（資料 5-7-①-10）。それらの結果、指導に対する満足度には好評価が得られた。達成度に関しては、企業からの評価が高かった一方で、修了生は自己に厳しい評価をしているという分析結果となった。学生の研究の成果として学内外での研究発表が推奨されており、今後さらに増えて行くことが予想される（資料 5-7-①-11~13）。

- 資料 5-7-①-7：近年の代表的な研究テーマ一覧表
- 資料 5-7-①-8：専攻科志望理由書
- 資料 5-7-①-9：研究指導に対する満足度調査結果
- 資料 5-7-①-10：学習目標Eに対する達成度調査結果
- 資料 5-7-①-11：専攻科学生の研究発表状況（論文）
- 資料 5-7-①-12：専攻科学生の研究発表状況（講演）

- 資料 5-7-①-13：専攻科課程修了論文（訪問調査時に提示）

資料 5-7-①-7：近年の代表的な研究テーマ一覧表

## 専攻科における代表的な研究テーマ

### I 電子機械工学専攻

|                                      |
|--------------------------------------|
| 超小型電動プロペラ飛行機の研究                      |
| ゼオライトによる炭酸ガス吸収に関する研究                 |
| 静的メタルシールの密封特性に関する研究                  |
| 空気流利用により糸を操作するための空気力学的特性の解析          |
| DSPを用いた小型モータ用性能試験器の開発                |
| 巻糸体の圧縮挙動に関する研究                       |
| 電子デバイス用はんだの熱疲労寿命に関する研究               |
| ロボットの計測・制御および知能化                     |
| 風力発電所の冬季雷による被害防止に関する研究               |
| ICタグの性能・評価に関する研究                     |
| 有機・無機半導体薄膜の作成と光物性                    |
| レーザを用いた電子材料・素子の開発                    |
| ハードウェアによるリアルタイム肌色領域検出とその応用           |
| 音響特性のシミュレーションと再現について                 |
| 拘束を考慮したモデル予測制御による遠隔操作システムの構築に関する研究   |
| 磁化プラズマ中におけるVLF用電界センサの特性に関する研究        |
| レーザアブレーション法により作製された強誘電体薄膜の構造とキャパシタ特性 |
| 機能性薄膜の作成とデバイスへの応用                    |
| 生体信号の計測と解析                           |
| コンピュータシミュレーションによる多結晶材料の物性研究          |
| 音声情報処理                               |
| 能動騒音制御に関する研究                         |
| 遺伝的プログラミングを応用したロボット制御                |
| 電子材料の表面分析に関する研究                      |

### II 環境建設工学専攻


|                             |
|-----------------------------|
| 軟弱地盤上に建設される構造物の不同沈下対策工法の開発  |
| 積雪消長モデルの適用について              |
| 繊維補強コンクリートに関する研究            |
| 骨材の品質がコンクリート特性に及ぼす影響        |
| 舗装の長期供用性予測とライフサイクルコストに関する研究 |
| RC及びPC部材の非線形解析に関する研究        |
| 種々の地盤材料の工学的特性に関する研究         |
| ダム貯水池流入流量の高精度推定手法の開発        |
| 高強度・超高強度コンクリートの研究           |
| 地域防災計画に関する研究                |
| 建築施設計画における製作術とデザイン理念に関する研究  |
| 建築・都市に関連する社会的、歴史的事象についての研究  |
| イサム・ノグチ"PLAY GROUND"の景観論的研究 |
| 山村集落における土地利用の変化に関する研究       |
| 住宅におけるエネルギー消費及び水環境に関する研究    |
| 構造設計における工学的判断の数値解析による検証     |
| 確率評価手法の骨組み構造強度への適用          |

（出典：専攻科20年度学生募集要項）

資料 5-7-①-8 : 専攻科志望理由書

平成20年度 石川工業高等専門学校専攻科

# 志 望 理 由 書

| 志望専攻                                                                                                                                                                             | 工学専攻        | 受検番号 | ※                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------|-------------------------------|
| ふりがな                                                                                                                                                                             | 男<br>・<br>女 | 試験区分 | 1 推薦選抜<br>2 学力選抜<br>3 社会人特別選抜 |
| 氏名                                                                                                                                                                               |             |      |                               |
| 昭和 年 月 日生                                                                                                                                                                        |             |      |                               |
| 1. 専攻科への志望の理由を記入してください。<br>社会人特別選抜の志願者は、企業等において従事した職務内容も記入してください。                                                                                                                |             |      |                               |
| 2. 入学後に希望する研究テーマ、あるいは内容を記入してください。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> |             |      |                               |
| 3. 専攻科修了後の希望を記入してください。                                                                                                                                                           |             |      |                               |

- 注意
- 1 希望する研究テーマは、募集要項12ページの「代表的な研究テーマ」を参考に記入してください。  
 なお、必ずしも同ページの研究テーマと同一でなくても構いません。
  - 2 該当事項を○で囲んでください。
  - 3 ※印欄は記入しないでください。

(出典：専攻科20年度学生募集要項)

## 資料 5-7-①-9 : 研究指導に対する満足度調査結果

- 2.3 (4-6) 特別研究を含む研究指導に満足していますか。  
1. 不満, 2. やや不満, 3. やや満足, 4. 満足

| 評価ランク | 1 | 2 | 3  | 4  | 合計 | ランク平均 | 満足度 |
|-------|---|---|----|----|----|-------|-----|
| 選択人数  | 2 | 4 | 12 | 12 | 23 | 3.1   | 0.7 |

(出典：修了予定者アンケート調査結果)

## 資料 5-7-①-10 : 「特別研究」の学習目標 (E) に対する達成度調査結果

## 修了生(平成15～17年度)

|                | ←達成されていない 達成されている→ |   |    |   | 合計 | 平均  |
|----------------|--------------------|---|----|---|----|-----|
|                | 1                  | 2 | 3  | 4 |    |     |
| E-1 プロジェクトの計画性 | 2                  | 7 | 6  | 4 | 19 | 2.6 |
| E-2 論理的な記述     | 1                  | 5 | 8  | 5 | 19 | 2.9 |
| E-3 論理的な発表     | 0                  | 5 | 10 | 4 | 19 | 3.0 |
| 学習目標Eの総合的達成度   |                    |   |    |   |    | 2.8 |

## 平成15～17年度修了生就職先企業

|                | ←達成されていない 達成されている→ |   |    |   | 合計 | 平均  |
|----------------|--------------------|---|----|---|----|-----|
|                | 1                  | 2 | 3  | 4 |    |     |
| E-1 プロジェクトの計画性 | 0                  | 4 | 14 | 3 | 21 | 3.0 |
| E-2 論理的な記述     | 0                  | 1 | 18 | 2 | 21 | 3.1 |
| E-3 論理的な発表     | 0                  | 2 | 16 | 3 | 21 | 3.1 |
| 学習目標Eの総合的達成度   |                    |   |    |   |    | 3.0 |

(出典：企業・修了生アンケート調査結果)



## 資料 5-7-①-11：専攻科学生の研究発表状況（講演）

平成17年5月～平成18年3月

|                                                         |                    |
|---------------------------------------------------------|--------------------|
| 黄鉄鉱の酸化に伴う硫酸の生成が粘性土地盤の土質特性に及ぼす影響                         | 地盤工学研究発表会          |
| ホタテ貝殻破砕材のグラウンド表層材への有効利用について                             | 地盤工学研究発表会          |
| 軟弱地盤上の直接基礎に生じる不同沈下の時間的変化と収束のメカニズム                       | 地盤工学研究発表会          |
| 建築家 前川國男が主題として扱った課題の考察 ii<br>—建築家 前川國男の建築的思想に関する基礎的研究2— | 日本建築学会大会           |
| 「寺家キリコ祭り」を通して見る景観に関する研究 V<br>—須須神社をめぐる歴史的事象について—        | 日本建築学会大会           |
| イサム・ノグチ“PLAY GROUND”の景観論的研究 II                          | 日本建築学会大会           |
| 小型風車用ブレードの研究                                            | 日本機械学会流体工学部門講演会    |
| 内灘風力発電所における冬季雷放電の観測(その2)                                | 電気設備学会全国大会         |
| 低温利用による熱電発電の基礎研究                                        | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| デジタルフィルタ設計プログラム集DF-DesignのWeb版のインタフェース改善                | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| 能動騒音制御装置の試作と消音性能の向上                                     | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| 勢力圏図の応用に関する研究                                           | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| Connexionsプロジェクトの紹介とDSP教育用コンテンツの開発                      | 信号処理シンポジウム         |
| 同軸噴流下における糸の空気抗力 ～同軸噴流を利用した糸の操作～                         | 日本繊維機械学会北陸支部発表会    |
| LiNbO <sub>3</sub> 光導波路の光伝搬損失シミュレーション                   | 応用物理学会北陸・信越支部学術講演会 |
| 高強度コンクリートを用いたホワイトトッピング構造におけるパネル形状の影響                    | 土木学会中部支部研究発表会      |
| トンネル内のプレキャストRC 舗装構造の温度応力                                | 土木学会年次学術講演会        |
| トンネル内プレキャストRC舗装の構造設計法の開発                                | 土木学会中部支部研究発表会      |
| グラウンド表層材の透水性を考慮した貝殻の有効利用                                | 土木学会中部支部研究発表会      |
| ホタテ貝殻を利用した酸性硫酸塩土の改良効果                                   | 土木学会中部支部研究発表会      |
| 立方晶SiC中に存在する欠陥の構造                                       | 北陸地区学生による研究発表会     |
| 文学と音楽が刺激する感性データの解析                                      | 北陸地区学生による研究発表会     |
| DNA配列決定問題におけるアントコロニー最適化の適用                              | 北陸地区学生による研究発表会     |
| 超薄層ホワイトトッピング舗装の力学的挙動に及ぼす目地配置の影響                         | 土木学会年次学術講演会        |
| 風力発電ブレードへの落雷様相について                                      | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| SiC微結晶粒中の欠陥解析                                           | 電気関係学会北陸支部連合大会     |
| 人工知能のヒューリスティック探索に関する研究                                  | 電子情報通信学会論文誌        |
| 金沢市におけるプレハブ集合住宅と若年世帯動向の相関に関する研究                         | 日本建築学会北陸支部研究論文集    |

(出典：石川工業高等専門学校紀要)

資料 5-7-①-12：専攻科学生の研究発表状況（論文）

平成17年5月～平成18年3月

|                                                 |                   |                                   |
|-------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 黄鉄鉱に起因する酸性化が粘性土の変形・強度に及ぼす影響                     | 環境地盤工学シンポジウム発表論文集 | pp. 73-78<br>2005. 5              |
| 建築家 前川國男が主題として扱った課題の考察—建築家 前川國男の建築的思想に関する基礎的研究— | 日本建築学会北陸支部研究報告集   | vol. 48<br>pp. 365-368<br>2005. 7 |
| 「寺家キリコ祭り」を通して見る景観に関する研究Ⅳ—須須神社をめぐる歴史的事象について—     | 日本建築学会北陸支部研究報告集   | vol. 48<br>pp. 369-372<br>2005. 7 |
| イサム・ノグチ “PLAY GROUND” の景観論的研究                   | 日本建築学会北陸支部研究報告集   | vol. 48<br>pp. 373-376<br>2005. 7 |
| 化学気相輸送法によるZnO単結晶成長                              | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 7-11<br>2006. 3         |
| レーザアブレーション法による光導波路薄膜の作製                         | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 13-18<br>2006. 3        |
| インターネット上でのデジタルフィルタ設計サービスのインタフェース改善              | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 33-40<br>2006. 3        |
| TMS320C6701を用いた能動騒音制御装置の拡張と性能評価                 | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 41-49<br>2006. 3        |
| 骨材の含水状態がコンクリートの諸特性に及ぼす影響について                    | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 57-64<br>2006. 3        |
| デローニ三角分割を用いた鉄筋コンクリートはりの解析                       | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 65-70<br>2006. 3        |
| 津幡川における平水時水質の現地計測                               | 石川高専紀要            | 38<br>pp. 71-80<br>2006. 3        |

（出典：石川工業高等専門学校紀要）

資料 5-7-①-13：専攻科課程修了論文

（訪問調査時に提示）

（出典：教員室保管資料）

(分析結果とその根拠理由)

学生の研究指導には研究テーマにふさわしい2名の教員が配置されており、指導教員と学生に対して予算および技術職員による技術的支援が行われている。研究の進捗状況は中間発表会にて確認され、研究の成果も学内紀要論文や学外に発表されている。

研究テーマの決定過程が明確であり、学生の要望にも沿っている。また学習目標の達成に関して企業側からの高い評価を得ている。

以上のことから、学生には専攻科で修学するにふさわしい研究テーマと研究指導が行われていると判断する。

**観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

1) 成績評価・単位・修了の認定と学生への周知

学則および専攻科履修科目授業内規において授業方法、成績評価法、専攻科修了基準等が規定されている(資料 5-8-①-1, 2)。

定められた規則は全学生に配布する「学生便覧」に明記するとともに、年度初めのガイダンスにおいて「専攻科履修の手引き」を配布し、成績評価方法および単位認定および修了認定の基準、授業形態と1単位の学習時間数における注意等を詳細に説明している(資料 5-8-①-3)。また、各科目の成績評価方法は、観点5-6-③の資料で見るとともに(既出資料 5-6-③-2)、全ての科目においてシラバスに示している。さらに個々の学生に対しては、各専攻主任あるいは教務係が個別の指導を行っている。

学生への周知度を調査するために、在学生アンケートを行い、その結果、修了基準の認知度は平均3.2、学習単位の周知度は91%である。同じアンケートによって科目担当教員からのシラバスの説明が十分なされていることを確認した(資料 5-8-①-4)。

講義科目に関しては、準学士課程と同様に試験終了後の授業において、試験返却や復習が行われており、その際に採点の間違いや評価に対する学生の異議申し立ての機会が設けられている。(資料 5-8-①-5)

- 資料 5-8-①-1：専攻科修了規定
- 資料 5-8-①-2：専攻科成績評価方法
- 資料 5-8-①-3：学生への規定の周知
- 資料 5-8-①-4：学生への周知度調査
- 資料 5-8-①-5：試験終了後の異議申し立ての機会

資料 5-8-①-1：専攻科修了規定

(修業年限及び在学年限)

第45条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(休学)

第46条 専攻科学生の休学期間は、通算して2年を超えることができない。

2 休学期間は、前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(教育課程)

第47条 授業科目及びその単位数は、一般科目にあつては別表第3、専門科目にあつては別表第4のとおりとする。

2 履修方法については、別に定める。

(修了)

第48条 学生は、専攻科に2年以上在学し所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得するものとする。

2 校長は、前項により所定の単位を修得した者に対し修了を認定し、修了証書を授与する。

(準用規定)

第49条 専攻科学生については、第3条から第6条まで、第12条、第13条の3第1項、第19条、第21条、第23条から第26条まで、第26条の2第1項及び第4項、第28条から第39条までの規定を準用する。この場合において、第26条の2第1項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第28条第2号中「第22条」とあるのは「第46条」と読み替えるものとする。

第50条 本章に規定するもののほか、専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(出典：石川工業高等専門学校学則)

## 資料 5-8-①-2：専攻科成績評価方法

## ○石川工業高等専門学校専攻科授業科目履修内規

(趣旨)

第1条 この内規は、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第47条第2項及び第50条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し、必要事項を定めるものとする。

(授業) (略)

(単位の計算方法) (略)

(履修手続) (略)

(指導教員) (略)

(試験)

第6条 試験の種類は、定期試験及びその他の試験とする。

2 定期試験は、各学期末に実施し、時間割は試験日の1週間前に通知する。

3 平素の成績によって評価し得る授業科目については、試験の全部又は一部を行わないことができる。

4 病気その他やむを得ないと認められる理由によって、定期試験を受験できなかった学生については、追試験を行うことができる。

(成績の評価及び単位の認定)

第7条 成績は、各授業科目毎に、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法によって評価し、次の区分によって認定する。

ただし、特別研究については、合格又は不合格で評定する。

| 評 定   | 評 語 | 評 価 区 分   |
|-------|-----|-----------|
| 合 格   | S   | 100 ～ 90点 |
|       | A   | 89 ～ 80点  |
|       | B   | 79 ～ 70点  |
|       | C   | 69 ～ 60点  |
| 不 合 格 | 不 可 | 59 ～ 0点   |

2 前項により合格の評定を受けた授業科目については、単位の認定を行う。

(再履修)

第8条 不合格となった評定を受けた授業科目については、単位の認定を行う。

2 第4条及び第6条の規定は、再履修に準用する。

(大学等における授業科目の履修)

第9条 他の大学及び高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する学生は、あらかじめ校長の許可を得たうえで、履修願を学生課に提出しなければならない。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

## 資料 5-8-①-3 : 学生への規定の周知

## 2. 修了要件と授業科目

## (1) 修了要件

各授業科目は単位制で、専攻科修了には2年以上在学し（在学年数は4年を限度とする）、各専攻開設のすべての必修科目及び所定の選択科目の単位数を含め、表1のように62単位以上を修得する必要があります。

表1 修了に必要な修得単位数

| 科目区分   | 修得単位数   | 備 考            |
|--------|---------|----------------|
| 一般科目   | 6 単位以上  | 必修 6 単位        |
| 専門共通科目 | 27 単位以上 | 必修 21 単位       |
| 専門展開科目 | 24 単位以上 | 必修 12 単位       |
| 合 計    | 62 単位以上 | (うち1年次に34単位以上) |

その他、創造工学プログラムの申告したコースの修了に必要な要件を満たすように、関係授業科目の単位を修得することが必要です。

## (2) 授業科目と単位

専攻科の授業科目は、一般科目、専門共通科目及び専門展開科目からなります。各授業科目には講義、演習、実験・実習の区分があり、1単位とは教室内及び教室外を合わせた45時間の学修内容を指します。

したがって、表2に示すように教室外の必要な予習・復習を行い、教室内の授業について講義科目は1時間/週、演習科目は2時間/週、実験・実習科目は3時間/週で15週の授業をもって1単位になります。

なお、1年後期の授業は1/4学期で実施するため、講義科目は2時間/週、演習科目は4時間/週、実験・実習科目は6時間/週で7.5週の授業をもって1単位になります。

表2 授業形態と1単位の学習時間数

| 授業形態    | 教室での授業時間数 | 各自の予習・復習時間 |
|---------|-----------|------------|
| 講 義 科 目 | 15 時間     | 30 時間      |
| 演 習 科 目 | 30 時間     | 15 時間      |
| 実験・実習科目 | 45 時間     |            |

このように、1単位当たりの授業時間数が授業形態によって異なります。

各専攻のカリキュラムは本校学則別表第3・4（資料-2）に、授業科目の概要はシラバスに、それぞれ記載されています。

(——省略——)

## (2) 単位修得の認定

定期試験は、原則として前期末及び後期末に行われますが、授業科目によっては、平常の試験またはレポート等をもって試験に代える場合があります。（詳細はシラバス参照。）

成績の評価は、試験の成績、出席状況等を含む平素の学習状況を総合してS、A、B、C、不可の評語で評

価され、単位はS, A, B, Cの場合に認定されます。特別研究Ⅰ及び特別研究Ⅱは、各学年末に合格または不合格で評価します。

なお、病気やその他のやむを得ない理由で試験を受験できなかった時は、科目担当教員の承認を得て、追試験を受けることができます。

### (3) 単位認定の基準

- ①欠課時数が授業時間数（1学期15週以上）の4分の1を超えていないこと。病気・事故等による長期欠席の場合は、考慮する場合がある。
- ②単位を修得すべき授業科目の評価点が、60点以上であること。

### (4) 再履修

所定の学期に単位が修得できなかった場合、科目担当教員の承認を得たうえで、次年度に再履修することができます。

ただし、1年と2年の授業時間帯が重複した場合は、2科目の履修はできません。

### (5) 他専攻科目の履修

所属専攻の授業のみでなく、素養を高めるために他専攻開講科目も一部履修できます。この単位は専攻科修了に必要な単位数に加算できますが、事前に科目担当教員の許可を得る必要があります。

### (6) 他学年科目の履修

原則として当該学年で授業科目を履修することとしますが、事前に科目担当教員の許可を得れば、下位の学年の科目を履修できます。

なお、1年次の修得単位数が34単位数に満たない学生でも2年次となり、当該年次配当科目を履修できますが、2年配当の創造工学演習Ⅱの履修を認めないので、当該年度の修了見込みとはなりません。

(出典：専攻科「履修の手引き」)

資料 5-8-①-4 : 学生への周知度調査

専攻科修了基準を知っているか。

1. まったく知らない 2. あまり知らない 3. ある程度知っている 4. よく知っている

|   |   |    |    |     |
|---|---|----|----|-----|
| 1 | 2 | 3  | 4  | 平均  |
| 2 | 3 | 16 | 12 | 3.2 |

学修単位を知っているか。

|      |       |
|------|-------|
| 知らない | 知っている |
| 3    | 29    |

周知度

|       |
|-------|
| 90.6% |
|-------|

(出典：専攻科在学生へのアンケート調査結果)

資料 5-8-①-5 : 試験終了後の異議申し立ての機会

前期科目のスケジュール例（「移動現象論」）

■年間スケジュール

【前期】

- 第1週 エネルギー資源の現状と展望
- 第2週 熱エネルギーの変換と伝達(1)
- 第3週 熱エネルギーの変換と伝達(2)
- 第4週 化石燃料の種類
- 第5週 燃焼による熱エネルギーへの変換
- 第6週 熱機関（ガスサイクル）
- 第7週 熱機関（ガスサイクル）
- 第8週 熱機関（蒸気サイクル）
- 第9週 熱機関（複合サイクル）
- 第10週 原子力エネルギー
- 第11週 原子力発電
- 第12週 燃料電池
- 第13週 風力発電
- 第14週 太陽、バイオマス発電

- 前期末試験
- 第15週 試験の返却と解説、復習

後期科目のスケジュール例（「熱・流体変換工学」）

■年間スケジュール

【後期】

- 第1週 移動速度論の考え方
- 第2週 移動現象の類似性（ニュートンの法則、フーリエの法則、フィックの法則）
- 第3週 基礎方程式（1）
- 第4週 基礎方程式（2）
- 第5週 物性値（粘性係数、熱伝導率、拡散係数）
- 第6週 運動量移動（1）基本的事項
- 第7週 運動量移動（2）速度分布と摩擦
- 第8週 熱移動（1）基本的事項
- 第9週 熱移動（2）定常熱伝導
- 第10週 熱移動（3）非定常熱伝導
- 第11週 熱移動（4）対流熱伝導
- 第12週 物質移動（1）基本的事項
- 第13週 物質移動（2）静止流体および層流における物質移動
- 第14週 物質移動（3）乱流における物質移動

- 学年末試験
- 第15週 試験の返却と解説、授業アンケート、復習

(出典：シラバス)



## 2) 規定に従った成績評価・単位の認定・修了認定の実施

各科目における成績評価は、シラバスに記載した成績評価方法にしたがっている。成績報告の際には、各教員の報告ミスがないように、教務係より成績入力の方法を毎回通知している（資料 5-8-①-6）。報告された成績は教務係での集計の後、年度末の専攻科修了判定会議（資料 5-8-①-7）を経て、全体の教員会議において修了を認定している（資料 5-8-①-8, 9）。

- 資料 5-8-①-6：成績報告方法の通知
- 資料 5-8-①-7：専攻科委員会での修了判定
- 資料 5-8-①-8：卒業・修了判定議事録
- 資料 5-8-①-9：修了判定会議資料

資料 5-8-①-6 : 成績報告方法の通知

平成19年2月1日

専攻科授業担当教員 各位

専攻主任

平成18年度後期末試験の成績について（依頼）

このことについて、下記事項に留意のうえ、成績入力を2月21日(水)12時まで  
に完了されるようお願いします。

また、今年度から入力画面が、本科・専攻科と別になりました。ついては、**入力画面**へは、「**教務事務管理システム操作の手引き（Web版）**」に記載の**教務係ホームページURL**からお入りください。

なお、今年度から貴担当科目の**授業回数**と**欠課時数**を入力することとなりましたので、ご注意ください。

記

## 1. 入力期間

**2月6日(火)～2月21日(水)12:00(厳守)**

(特別な事情がある場合には、事前に教務係までご連絡ください。)

## 2. 授業回数のカウント方法

**2時限連続100分授業を“1”として入力してください。**

## 3. 欠課時数のカウント方法

該当期間の欠課時数の累計を入力してください。

注意(1) **授業は全て50分を単位とする。**

【例】100分の授業を全て欠席した場合は、欠課時数“2”

100分の授業の前半50分を欠席した場合は、欠課時数“1”

(2) **欠課時数“0”の場合には入力しない。**

## 4. 成績

**欠課時数が授業時数(1学期15週以上)の1/4を超えている学生には、欠課時数  
のみを入力し、成績は入力しない。****授業時数：授業回数×2**

## 5. 操作手引きについて

「教務事務管理システムの操作の手引き(Web版)」をサイボウズに掲載しています  
ので、各自ご利用ください。

サイボウズトップページ

ファイル管理→教務関連→教務事務管理システム→操作の手引き(WEb版)

担当：教務係 小森(内線 312)

E-mail : kyomu7

(出典：学生課保管資料)

資料 5-8-①-7 : 専攻科委員会での修了判定

平成19年3月7日

専攻科委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第12回専攻科委員会の記録について(通知)

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

日 時 平成19年2月23日(金) 17時00分から19時15分  
場 所 第1小会議室  
出席者 櫻野, 森田義, 小泉, 松崎, 山田洋, 船戸, 鈴木久 (室屋, 津島, 小森)

協議事項

1. 平成18年度修了予定者の判定について

委員長から配布資料に基づき専攻科2年生の単位修得状況について説明があり、協議の結果、電子機械工学専攻18名及び環境建設工学専攻12名について専攻科修了要件充足者とする事となった。

併せて、JABEE部会により創造工学プログラム複合工学修得コースについて全員要件を充足していると確認され、プログラム修了生と認められるには学士の学位が必要な為、学位授与申請の「学修成果・試験の審査」で不可となった1名を除いては学位記が授与され次第修了者として認めることとなった旨報告があった。

また、上記1名へは学位授与の再申請について指導することとなった。

(以下省略)

(出典：専攻科委員会議事録)

## 資料 5-8-①-8 : 卒業・修了判定議事録

平成19年3月7日

## 平成18年度卒業・修了判定会議議事要録

日時 平成19年3月5日(木) 13時00分から13時25分

場所 大会議室

議事

## 1. 平成18年度卒業判定について

配付資料に基づき、各学科学級担任から単位の修得状況及び卒業要件充足状況について説明の後、引き続き各学科主任から卒業研究の結果、学校行事への参加状況および学習目標達成度状況について説明があり、協議の結果、以下のとおり判定した。

なお、卒業認定基準の特例適用者については、3月8日(木)までの単位修得報告者は3月19日付卒業とし、以降15日(木)までの単位修得報告者については3月30日付卒業をそれぞれ認めることが了承された。

| 学 科       | 5年次<br>在学者数 | 卒業要件<br>充足者数 | 卒業認定基準<br>特例適用者数 | そ の 他                        |
|-----------|-------------|--------------|------------------|------------------------------|
| 機 械 工 学 科 | 40          | 40           |                  |                              |
| 電 気 工 学 科 | 36          | 32           | 3                | 1 ( : 休学中-復学予定)              |
| 電子情報工学科   | 37          | 37           |                  |                              |
| 環境都市工学科   | 29          | 22           | 5                | 2 ( : 休学中-退学予定)<br>( : 休学予定) |
| 建 築 学 科   | 43          | 40           | 2                | 1 ( : 原級)                    |
| 計         | 185         | 171          | 10               | 4                            |

## 2. 平成18年度専攻科修了判定について

配付資料に基づき、各専攻主任から、2月23日開催専攻科委員会での判定を踏まえ、単位の修得状況、修了要件充足状況および学習目標達成度状況について説明があり、協議の結果、以下のとおり判定した。

| 専 攻      | 2年次<br>在学者数 | 修了要件<br>充足者数 | そ の 他 |
|----------|-------------|--------------|-------|
| 電子機械工学専攻 | 18          | 18           |       |
| 環境建設工学専攻 | 12          | 12           |       |
| 計        | 30          | 30           |       |

また、電子機械工学専攻主任から、上記修了要件充足者について、JABEE部会において創造工学プログラム修了要件を確認し、電子機械工学専攻1名(学位記未修得)を除く全員が複合工学修得コースの修了要件を充足していることの報告があった。

(出典：卒業・修了判定会議議事録)

資料 5-8-①-9 : 修了判定会議資料

平成 1 8 年度修了判定会議資料 (平成19年3月5日現在)

在 学 者 数 : 12 名

修了要件充足者数 : 12 名

| 環境建設工学専攻 2年       |               |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------|---------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名             |               | 単位数 | 必修 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 一般科目              | 日本語表現         | 1   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 国際表現          | 1   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | オーラルコミュニケーション | 2   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 環境倫理          | 2   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 健康科学          | 2   |    | ○  | ○  |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 日本文化論         | 2   |    |    |    |    |    |    |    | ○  |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   | ○ | ○ | ○ |   |   |   |   |
|                   | 小 計 (6 単位以上)  |     |    |    | 8  | 8  | 6  | 8  | 10 | 8  | 8  | 8  | 8  | 10 | 10 | 10 | 10 | 8 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 専門共通科目            | 環境技術総論        | 2   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | インターンシップ      | 2   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 線形数学          | 2   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 離散数学          | 2   |    |    |    |    |    |    |    | ○  | ○  | ○  |    |    |    |    | ○  | ○ | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | 量子力学          | 2   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | センサ工学         | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 画像工学          | 2   |    | ○  |    |    | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  | ○  |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   |
|                   | 計算機シミュレーション   | 2   |    | ○  |    |    | ○  |    |    |    | ○  |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   | ○ |
|                   | レーザ工学         | 2   |    |    |    | ○  |    | ○  |    |    |    |    |    | ○  | ○  |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | 計測制御工学        | 2   |    | ○  |    |    | ○  |    |    |    | ○  |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | 生体情報工学        | 2   |    | ○  | ○  |    | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  | ○  |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |
|                   | 基礎雪氷学         | 2   |    | ○  |    |    | ○  |    |    | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |
|                   | 住生活文化論        | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 小 計 (1 2 単位以上)    |               |     |    | 20 | 14 | 18 | 16 | 14 | 20 | 16 | 18 | 18 | 14 | 14 | 14 | 14 |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 専門展開科目            | 創造工学演習 I      | 4   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 創造工学演習 II     | 4   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 特別研究 I        | 6   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 特別研究 II       | 8   | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 水環境工学         | 2   |    | ○  |    | ○  |    | ○  |    | ○  |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○ | ○ |   |   |   |
|                   | 地盤基礎工学        | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 建設材料学         | 2   | △  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 建築環境調整論       | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 交通基盤工学        | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  | ○  |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|                   | 環境地盤工学        | 2   |    | ○  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   | ○ |
|                   | コンクリート複合材料工学  | 2   | △  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 人間・環境デザイン論    | 2   |    | ○  | ○  |    | ○  |    |    |    | ○  |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○ |   |
|                   | 建築構造計算学       | 2   |    |    |    |    |    |    |    |    | ○  |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |   |
|                   | 構造解析学         | 2   |    | ○  | ○  | ○  |    |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 環境景観論         | 2   |    | ○  | ○  |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                   | 建築・地域空間形成論    | 2   |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 小 計 (3 4 単位以上)    |               |     |    | 44 | 40 | 38 | 38 | 40 | 40 | 40 | 40 | 38 | 40 | 42 | 42 |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 総修得単位数 (6 2 単位以上) |               |     |    | 72 | 62 | 62 | 62 | 64 | 68 | 64 | 66 | 66 | 64 | 66 | 64 | 66 | 64 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

◎:必修科目, △:選択必修科目, ○:単位修得科目

(出典 : 学生課教務係保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定および修了認定の規定は組織として整備されており、アンケートの調査結果からそれらの規定は学生にも十分周知されていることがうかがえる。また規定にしたがって、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

## 基準5

### (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 100分授業による十分な授業時間を確保している。
- ・ シラバス作成過程が明確である。
- ・ 各科目の成績評価法をシラバスに具体的に提示している。
- ・ 成績に関する学生からの申立ての機会は、前後期試験後の最終日に設定し、シラバスに明示している。
- ・ 準学士課程では学外実習に参加する学生の比率が高く、専攻科課程では3ヶ月の長期インターンシップを必修科目として実施している。
- ・ 準学士課程でのオンリーワンプロジェクトや専攻科課程での「創造工学演習」による、学科・専攻を横断した学生チーム編成による創造性を育む教育を実践している。
- ・ 準学士課程において、各種特別活動および課外活動の実施による人間の素養の涵養が行われている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

### (3) 基準5の自己評価の概要

本校の教育課程は、学校教育法ならびに高等専門学校設置基準と本校が定めている「教育理念」、 「学習目標」に則しており、授業カリキュラムは本校の学習目標を達成できるように編成され、専攻科課程では準学士課程との繋がりも考慮され、カリキュラムの体系性が確保されている。科目の授業形態も学習目標を達成できるようにバランス良い授業形態になるよう配慮され、授業毎に学習目標を達成するための教材の工夫や情報機器の活用、そして学外実習や長期インターンシップ、PBLによる創造性の涵養等の取組みがなされている。また学生の多様なニーズや社会の動向に配慮して、卒業・修了生、就職先企業にアンケート調査を行い教育課程の適切さを検討し改善をしていく取組みもなされている。

シラバスは学習目標に沿って作成されている。試験問題はシラバスに記載した「学生の到達目標」に沿って作成され、学生の当該科目の達成状況を確実に評価できるシステムとなっている。

成績評価・単位認定、進級・卒業・修了認定については、その方法を学生便覧に記載し、専攻科生にはさらに「専攻科履修の手引き」を配布して、年度初めにおいてオリエンテーションや説明会を設けて学生に周知している。さらに試験の翌週に学生からの意見申し立ての機会を設けている。各科目の成績評価方法はシラバスに具体的に記載され、それにしたがって厳格に成績評価を行い、学年度末において、全教員参加の進級判定会議ならびに卒業・修了判定会議にて慎重に審議されている。

以上の他に準学士課程では、生活指導、課外活動、ホームルーム等により豊かな人間性を育むよう

配慮するとともに、海外からの留学生や編入学生に対する支援も行われている。

専攻科課程における学生の研究指導においては、指導教員体制、予算処置等の支援、適切な研究テーマの設定がなされ、研究の成果は公に発表されており、学生が専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。

## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

#### 1) 準学士課程学習目標の達成の評価

本校では、目的に沿って、学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を明確に定め、それに対応させて授業科目を配置している。教務委員会（資料6-1-①-1）および将来構想計画委員会（資料6-1-①-2）において、卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに達成要件（準学士課程の卒業要件である学習目標の達成（資料6-1-①-3, 4））および卒業の認定に関する規定（資料6-1-①-5, 6, 7））を定めることによりその達成状況の把握方法を明確にしている。これらに基づいて、学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力，養成する人物像等について、その達成状況を把握・評価する取組を行っている（資料6-1-①-8～10）。

- 資料6-1-①-1：石川工業高等専門学校教務委員会規則
- 資料6-1-①-2：学習目標達成の確認
- 資料6-1-①-3：学習目標
- 資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表
- 資料6-1-①-5：卒業・修了の認定に関する規定
- 資料6-1-①-6：卒業・修了の認定に関する規定（詳細）
- 資料6-1-①-7：特例による卒業
- 資料6-1-①-8：卒業要件確認表
- 資料6-1-①-9：卒業判定会議における学習目標達成の確認
- 資料6-1-①-10：卒業生成績一覧表（訪問調査時に提示）



## 資料6-1-①-1：石川工業高等専門学校教務委員会規則

## ○石川工業高等専門学校教務委員会規則

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の正課教育の運営を円滑にするために、石川工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は次の教職員を委員として組織する。

- (1) 副校長（教務主事）
- (2) 教務主事補佐
- (3) 一般教育科において選出した教員 2人
- (4) 各専門学科において選出した教員 各1人

2 前項第3号及び第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

3 前項の委員は、再任を妨げない。

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長及び委員長代理を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長代理は、前条第1項第2号の委員をもってこれに充てる。

5 委員長は、必要と認めた場合、委員長代理をもって委員長の職務を代行させることができる。

6 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成、実施に関すること。
- (2) 授業科目の履修及び単位の認定に関すること。
- (3) 教務上の企画、実施に関すること。
- (4) 教育支援・指導に関すること。
- (5) 教育機器及び教材に関すること。
- (6) 外国人留学生及び派遣留学に関すること。
- (7) その他教務に関すること。

## (事務)

第5条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集・抜粋)

## 資料6-1-①-2：学習目標達成の確認

平成18年度第3回将来構想計画委員会議事要録

日 時 平成19年2月7日(水) 15:00～16:10

場 所 校長室

## 5. その他

- (1) 認証評価部会長から、卒業(修了)判定会議において、「学習目標を達成したこと」について確認し、会議の記録に記載しておいてほしい旨説明があり、了承された。

(出典：将来構想計画委員会議事要録)

## 資料6-1-①-3：学習目標

殿

2006.10.11

各学科・各専攻の学習目標の制定および科目と学習目標との対応について

認証評価部会長 阿蘇和寿

## 2. 現在の学習目標

現在の学習目標を再度、確認しておきます。

## 【準学士課程の学習目標】

| 準学士課程の学習目的 |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 1          | 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           |
| 2          | 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 |
| 3          | 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        |
| 4          | 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       |

## 【機械工学科】

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を修得し、広い分野における「ものづくり」に応用することができる。

## 【電気工学科】

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータなどの知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

## 【電子情報工学科】

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。

**【環境都市工学科】**

くらしを支える施設の整備，防災，環境保全に関する知識を習得し，より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。

**【建築学科】**

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し，住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

**【専攻科課程の学習目標】（創造工学プログラムの学習目標）**

| 専攻科課程の学習目的 |                                               |
|------------|-----------------------------------------------|
| A          | 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り，たゆまず努力することができる。 |
| B          | 問題を発見・提起し，修得した技術に関する知識や理論によって解析し，解決までできる。     |
| C          | 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち，社会や自然環境に配慮できる。        |
| D          | 実践的な体験をとおして，地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。         |
| E          | チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ，論理的な記述・発表ができる。     |

(出典：自己点検・認証評価部会資料・抜粋)

資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表

専門科目 機械工学科

(平成19年度の第4～第5学年に適用)

| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|-------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|
|             |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学A       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学B       | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学C       | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用物理I       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| 応用物理II      | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 機械工学基礎      | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| コンピュータリテラシー | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       |   |   |   |
| 情報処理I       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 情報処理II      | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 材料力学I       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 材料力学II      | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械要素        | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       |   |   |   |
| 機構学         | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械力学        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 熱力学I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 熱力学II       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 伝熱工学        | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   |
| 流れ学I        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 流れ学II       | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   | ○ |   |
| 材料学I        | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 材料学II       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械工作法I      | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械工作法II     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 工作機械        | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   |
| 計測工学        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 制御工学        | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       | ○ |   |   |
| メカトロニクス     | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 情報通信        | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       | ◎ |   |   |
| 電気工学        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械実習I       | 3   | 3     |   |    |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| 機械実習II      | 3   |       | 3 |    |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| 機械実習III     | 3   |       |   | 3  |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| 機械基礎製図I     | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械基礎製図II    | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械設計製図I     | 3   |       |   | 3  |    |    | ◎       | ○ |   | ○ |
| 機械設計製図II    | 3   |       |   |    | 3  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 機械工学実験I     | 3   |       |   |    | 3  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 機械工学実験II    | 3   |       |   |    |    | 3  | ◎       |   | ○ |   |
| 工業英語        | 2   |       |   |    |    | 2  |         |   |   | ◎ |
| 卒業研究        | 9   |       |   |    |    | 9  |         |   |   | ◎ |
| 修得単位合計      | 83  | 8     | 9 | 20 | 24 | 22 |         |   |   |   |

| 授業科目      | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準)    |   |   |   |
|-----------|-----|-------|----|----|----|----|------------|---|---|---|
|           |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1          | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学演習    | 1   |       |    |    | 1  |    | ○          | ◎ |   | ○ |
| システム工学    | 1   |       |    |    | 1  |    | ◎          |   | ○ |   |
| 生産機械      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| 管理工学      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| 高分子材料学    | 1   |       |    |    |    | 1  | H19年度開講しない |   |   |   |
| 流体機械      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| 熱機関       | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| 知能機械      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          | ○ |   |   |
| 応用材料力学    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          | ○ |   |   |
| 応用伝熱工学    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          | ○ |   |   |
| 産業法規      | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          |   | ◎ |   |
| 開講単位計     | 11  |       |    |    |    | 2  |            |   |   |   |
| 最低修得単位数   | 5   |       |    |    |    | 1  | 4          |   |   |   |
| 専門科目開講単位数 | 94  | 8     | 9  | 20 | 26 | 31 |            |   |   |   |
| 専門科目修得単位数 | 88  | 8     | 9  | 20 | 25 | 26 |            |   |   |   |
| 一般科目修得単位数 | 79  | 26    | 26 | 15 | 10 | 2  |            |   |   |   |
| 開講単位合計    | 174 | 34    | 35 | 35 | 36 | 34 |            |   |   |   |
| 修得単位合計    | 167 | 34    | 35 | 35 | 35 | 28 |            |   |   |   |

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位1だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
 ※学習目標の1の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

(出典：シラバス)

資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表

電気工学科

(平成19年度の第4～第5学年に適用)

| 授 業 科 目       | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|---------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|
|               |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学 A        | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学 B        | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学 C        | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電気数学          | 1   | 1     |   |    |    |    |         |   |   |   |
| 応用物理          | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気工学基礎        | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 回路基礎          | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気回路 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気回路 II       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電子回路 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電子回路 II       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 基礎電磁気学        | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気磁気学 I       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気磁気学 II      | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気・電子計測 I     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気・電子計測 II    | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ○ |   | ○ |
| コンピュータリテラシー   | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       |   | ○ |   |
| ソフトウェア工学      | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 計算機工学         | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 数値計算          | 1   |       |   |    |    | 1  |         | ○ | ◎ |   |
| 電気製図          | 3   | 3     |   |    |    |    | ◎       |   | ○ |   |
| 機械工学概論        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 電気機器 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       |   | ○ |   |
| 電気機器 II       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 高電圧大電流工学      | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 電力工学 I        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 電力工学 II       | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 自動制御          | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 半導体デバイス工学 I   | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   | ○ |   |
| 半導体デバイス工学 II  | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 電気材料          | 2   |       |   |    |    | 2  |         | ○ | ◎ |   |
| 通信工学          | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| パワーエレクトロニクス   | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 信号処理基礎        | 1   |       |   |    |    | 1  |         | ○ | ◎ |   |
| 工業英語          | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       |   |   | ◎ |
| 電気電子工学基礎実験 I  | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気電子工学基礎実験 II | 3   |       |   | 3  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電気電子工学実験 I    | 6   |       |   |    | 6  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電気電子工学実験 II   | 3   |       |   |    |    | 3  | ○       | ◎ |   | ○ |
| 卒業研究          | 10  |       |   |    |    | 10 |         |   |   | ◎ |
| 修得単位合計        | 82  | 8     | 8 | 19 | 24 | 23 |         |   |   |   |

| 授 業 科 目   | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|-----------|-----|-------|----|----|----|----|---------|---|---|---|
|           |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学演習    | 1   |       |    |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 通信応用      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電気設計      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| シーケンス制御   | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 原子力工学     | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電気応用*     | 1   |       |    |    | 1  |    | ○       |   | ◎ |   |
| 電動力応用     | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電気法規      | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       |   | ◎ |   |
| 電力系統工学    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 基礎電波工学    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電子回路設計    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 通信機器*     | 1   |       |    |    | 1  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 画像音声工学    | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 光エレクトロニクス | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電波法規      | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       |   | ◎ |   |
| 開講単位計     | 15  |       |    |    |    | 3  | 12      |   |   |   |
| 最低修得単位数   | 6   |       |    |    |    | 1  | 5       |   |   |   |
| 専門科目開講単位数 | 97  | 8     | 8  | 19 | 27 | 35 |         |   |   |   |
| 専門科目修得単位数 | 88  | 8     | 8  | 19 | 25 | 28 |         |   |   |   |
| 一般科目修得単位数 | 79  | 26    | 26 | 15 | 10 | 2  |         |   |   |   |
| 開講単位合計    | 177 | 34    | 34 | 34 | 37 | 38 |         |   |   |   |
| 修得単位合計    | 167 | 34    | 34 | 34 | 35 | 30 |         |   |   |   |

\*電気応用と通信機器は並行授業とする。

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。

※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

(出典：シラバス)

資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表

電子情報工学科

| 授 業 科 目       | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|---------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|
|               |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学 A        | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学 B        | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学 C        | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用物理 I        | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   |   |   |
| 応用物理 II       | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 電子情報工学基礎      | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| コンピュータリテラシー   | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       |   | ○ | ○ |
| 回路基礎          | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 回路工学 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 回路工学 II       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   |   |   |
| 電磁気学 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電磁気学 II       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   |   |   |
| 電子デバイス        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ | ○ |   |
| 電子回路 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 電子回路 II       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   |   |   |
| デジタル回路        | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| コンピュータアーキテクチャ | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   | ○ |
| 制御工学 I        | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 集積回路工学        | 2   |       |   |    |    | 2  | ○       | ◎ | ○ |   |
| アルゴリズムとデータ構造  | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   | ○ |
| オペレーティングシステム  | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| ソフトウェア工学      | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| データベース        | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       | ◎ |   | ○ |
| 情報数学          | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   | ○ |
| 情報理論          | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 数理計画          | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       | ◎ |   | ○ |
| デジタル信号処理 I    | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |   |
| デジタル信号処理 II   | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       | ◎ |   |   |
| 画像情報処理        | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   |   |   |
| 情報通信 I        | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 情報通信 II       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 情報通信 III      | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       | ○ |   |   |
| 数値解析 I        | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 数値解析 II       | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| プログラミング I     | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| プログラミング II    | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| プログラミング III   | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電子情報工学実験 I    | 2   | 2     |   |    |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電子情報工学実験 II   | 2   |       | 2 |    |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電子情報工学実験 III  | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電子情報工学実験 IV   | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 電子情報工学実験 V    | 3   |       |   |    |    | 3  | ○       | ◎ |   | ○ |
| 工業英語          | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   |   | ○ |
| 卒業研究          | 10  |       |   |    |    | 10 |         | ○ |   | ◎ |
| 修得単位合計        | 81  | 8     | 8 | 20 | 23 | 22 |         |   |   |   |

(平成19年度の第4～第5学年に適用)

| 授 業 科 目     | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準)    |   |   |   |
|-------------|-----|-------|----|----|----|----|------------|---|---|---|
|             |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1          | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学演習      | 1   |       |    |    | 1  |    | ○          | ◎ |   | ○ |
| 基礎電磁波工学     | 1   |       |    |    | 1  |    | ○          | ◎ | ○ |   |
| 光電子工学       | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          | ○ |   |   |
| 電子物性基礎      | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   |   |
| 量子工学        | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   |   |
| 電子材料分析      | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| シミュレーション    | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   | ○ |
| 制御工学 II     | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   | ○ |
| システム工学      | 1   |       |    |    |    | 1  | H19年度開講しない |   |   |   |
| 符号理論        | 1   |       |    |    |    | 1  | ◎          |   | ○ |   |
| パターン認識      | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   |   |
| 形式言語とオートマトン | 1   |       |    |    |    | 1  | ○          | ◎ |   | ○ |
| デジタル通信      | 1   |       |    |    |    | 1  | H19年度開講しない |   |   |   |
| 開講単位計       | 13  |       |    |    |    | 2  | 11         |   |   |   |
| 最低修得単位数     | 7   |       |    |    |    | 1  | 6          |   |   |   |
| 専門科目開講単位数   | 94  | 8     | 8  | 20 | 25 | 33 |            |   |   |   |
| 専門科目修得単位数   | 88  | 8     | 8  | 20 | 24 | 28 |            |   |   |   |
| 一般科目修得単位数   | 79  | 26    | 26 | 15 | 10 | 2  |            |   |   |   |
| 開講単位合計      | 174 | 34    | 34 | 35 | 35 | 36 |            |   |   |   |
| 修得単位合計      | 167 | 34    | 34 | 35 | 34 | 30 |            |   |   |   |

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
 ※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

(出典：シラバス)

資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表

環境都市工学科

(平成19年度の第4～第5学年に適用)

| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|-------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|---|
|             |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学 A      | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用数学 B      | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用物理        | 2   |       |   | 2  |    |    |         |   |   |   |
| 環境都市工学基礎    | 2   | 2     |   |    |    |    | ○       |   | ◎ |   |
| 工業英語        | 1   |       |   |    |    | 1  |         | ○ | ○ | ◎ |
| コンピュータリテラシー | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       |   | ○ | ○ |
| 情報処理        | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| プログラミング     | 1   |       |   | 1  |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| C A D       | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 構造力学Ⅰ       | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 構造力学Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 構造力学Ⅲ       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 水理学Ⅰ        | 3   |       |   | 3  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 水理学Ⅱ        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| 土質力学Ⅰ       | 3   |       |   | 3  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 土質力学Ⅱ       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |   |
| コンクリート工学    | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ | ○ |   |
| コンクリート構造学Ⅰ  | 1   |       |   | 1  |    |    |         | ◎ | ○ |   |
| コンクリート構造学Ⅱ  | 2   |       |   |    | 2  |    |         | ◎ | ○ |   |
| 鋼構造学Ⅰ       | 2   |       |   |    | 2  |    |         | ◎ | ○ |   |
| 鋼構造学Ⅱ       | 2   |       |   |    |    | 2  |         | ◎ | ○ |   |
| 耐震工学        | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 測量学Ⅰ        | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 測量学Ⅱ        | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 測量学Ⅲ        | 1   |       |   |    |    | 1  |         | ○ | ◎ |   |
| 環境工学        | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       |   | ◎ | ○ |
| 環境都市施設工学    | 2   |       |   |    | 2  |    |         | ○ | ◎ |   |
| 計画数理        | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 都市交通計画      | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   | ○ |   |
| 都市交通工学      | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   | ○ |   |
| 河川工学        | 2   |       |   |    | 2  |    |         | ◎ | ○ |   |
| 環境保全工学      | 2   |       |   |    | 2  |    |         |   | ◎ | ○ |
| 環境都市工学設計製図Ⅰ | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 環境都市工学設計製図Ⅱ | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 環境都市工学実験Ⅰ   | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   |   |
| 環境都市工学実験Ⅱ   | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 環境都市工学実験Ⅲ   | 2   |       |   |    | 2  |    | ○       | ◎ |   |   |
| 測量学実習Ⅰ      | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 測量学実習Ⅱ      | 2   |       | 2 |    |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 測量学実習Ⅲ      | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |   |
| 卒業研究        | 10  |       |   |    |    | 10 |         | ○ | ○ | ◎ |
| 修得単位合計      | 81  | 8     | 8 | 19 | 23 | 23 |         |   |   |   |

| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |   |
|-------------|-----|-------|----|----|----|----|---------|---|---|---|
|             |     | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4 |
| 応用数学演習      | 1   |       |    |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○ |
| 応用物理実験      | 1   |       |    |    | 1  |    |         |   |   |   |
| コンクリート工学特論  | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |   |
| 計算力学        | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ | ○ |   |
| 応用力学        | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ |   |   |
| コンクリート構造学特論 | 1   |       |    |    |    | 1  | ○       | ◎ | ○ |   |
| 地盤工学        | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |   |
| 海洋開発工学      | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |   |
| 防災工学        | 1   |       |    |    |    | 1  |         |   | ○ | ◎ |
| 水資源・エネルギー工学 | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |   |
| 都市デザイン      | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ○ | ◎ |   |
| リモートセンシング   | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ○ | ◎ |   |
| 建築学概論       | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |   |
| 開講単位計       | 13  |       |    |    |    | 2  | 11      |   |   |   |
| 最低修得単位数     | 7   |       |    |    |    | 1  | 6       |   |   |   |
| 専門科目開講単位数   | 94  | 8     | 8  | 19 | 25 | 34 |         |   |   |   |
| 専門科目修得単位数   | 88  | 8     | 8  | 19 | 24 | 29 |         |   |   |   |
| 一般科目修得単位数   | 79  | 26    | 26 | 15 | 10 | 2  |         |   |   |   |
| 開講単位合計      | 174 | 34    | 34 | 34 | 35 | 37 |         |   |   |   |
| 修得単位合計      | 167 | 34    | 34 | 34 | 34 | 31 |         |   |   |   |

準学士課程の学習目標

- 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
- 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

※優先順位 1 だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。  
 ※学習目標の 1 の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。

(出典：シラバス)

資料6-1-①-4：教育課程と学習目標対応表

| 建築学科        |     |       |   |    |    |    |         |   |   | (平成19年度第4～第5学年に適用) |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
|-------------|-----|-------|---|----|----|----|---------|---|---|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------|----|----|----|----|---------|---|---|--|---|---|
| 授業科目        | 単位数 | 学年別配当 |   |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |                    | 授業科目                                                                                                                                                                                                                                | 単位数 | 学年別配当 |    |    |    |    | 学習目標(準) |   |   |  |   |   |
|             |     | 1     | 2 | 3  | 4  | 5  | 1       | 2 | 3 | 4                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     | 1     | 2  | 3  | 4  |    |         |   |   |  |   |   |
| 応用数学A       | 2   |       |   | 2  |    |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 応用数学演習                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    |    |    |         | ○ | ◎ |  | ○ |   |
| 応用数学B       | 1   |       |   |    | 1  |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 応用物理演習                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    | 1  |    |         |   |   |  |   |   |
| 応用物理        | 1   |       |   |    | 1  |    |         |   |   |                    | 建築材料実験                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    | 1  |    |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 建築学基礎       | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 工業英語                                                                                                                                                                                                                                | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| コンピュータリテラシー | 2   | 2     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   |                    | 近代建築史                                                                                                                                                                                                                               | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 建築CAD基礎     | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       |   |   |                    | 住居論                                                                                                                                                                                                                                 | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 建築CAD応用     | 1   |       |   | 1  |    |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 建築計画演習                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 造形基礎演習      | 1   | 1     |   |    |    |    | ◎       | ○ |   | ○                  | 建築デザイン論                                                                                                                                                                                                                             | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 立体造形演習      | 1   |       |   | 1  |    |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 建築防災論                                                                                                                                                                                                                               | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ |   |  |   | ○ |
| 建築計画学基礎     | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 建築構造工学                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 建築計画学Ⅰ      | 1   |       |   | 1  |    |    | ○       |   |   | ◎                  | 数値解析法                                                                                                                                                                                                                               | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 建築計画学Ⅱ      | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 耐震構造特性論                                                                                                                                                                                                                             | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 建築計画学各論     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   |   | ○                  | 土質基礎工学                                                                                                                                                                                                                              | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 地域・都市計画     | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       |   |   | ◎                  | 建築環境工学演習                                                                                                                                                                                                                            | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 日本建築史       | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 建築設備計画演習                                                                                                                                                                                                                            | 1   |       |    |    |    | 1  |         | ◎ | ○ |  |   |   |
| 西洋建築史       | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 開講単位計                                                                                                                                                                                                                               | 15  |       |    |    |    | 3  | 12      |   |   |  |   |   |
| 建築設計Ⅰ       | 4   | 4     |   |    |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 最低修得単位数                                                                                                                                                                                                                             | 6   |       |    |    |    | 1  | 5       |   |   |  |   |   |
| 建築設計Ⅱ       | 5   |       | 5 |    |    |    | ◎       |   |   | ○                  | 専門科目開講単位数                                                                                                                                                                                                                           | 97  | 8     | 9  | 20 | 27 | 33 |         |   |   |  |   |   |
| 建築設計Ⅲ       | 7   |       |   | 7  |    |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 専門科目修得単位数                                                                                                                                                                                                                           | 88  | 8     | 9  | 20 | 25 | 26 |         |   |   |  |   |   |
| 建築設計Ⅳ       | 7   |       |   |    | 7  |    | ○       | ◎ |   | ○                  | 一般科目修得単位数                                                                                                                                                                                                                           | 79  | 26    | 26 | 15 | 10 | 2  |         |   |   |  |   |   |
| 建築設計Ⅴ       | 2   |       |   |    |    | 2  |         | ◎ |   | ○                  | 開講単位合計                                                                                                                                                                                                                              | 177 | 34    | 35 | 35 | 37 | 36 |         |   |   |  |   |   |
| 建築材料        | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                    | 修得単位合計                                                                                                                                                                                                                              | 167 | 34    | 35 | 35 | 35 | 28 |         |   |   |  |   |   |
| 木構造         | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |                    | 準学士課程の学習目標<br>1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。<br>2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。<br>3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。<br>4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。<br><br>※優先順位1だけに◎をつける。優先順位の低いものに○をつける。<br>※学習目標の1の専門的知識は基礎的な専門知識を意味します。 |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 鉄筋コンクリート構造Ⅰ | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 鉄筋コンクリート構造Ⅱ | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 鉄骨構造Ⅰ       | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       |   |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 鉄骨構造Ⅱ       | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 構造力学Ⅰ       | 1   |       | 1 |    |    |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 構造力学Ⅱ       | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 構造力学Ⅲ       | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 力学演習        | 1   |       |   |    | 1  |    |         | ◎ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築振動論       | 1   |       |   |    |    | 1  | ◎       |   |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築環境工学Ⅰ     | 2   |       |   | 2  |    |    | ◎       | ○ |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築環境工学Ⅱ     | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築環境工学Ⅲ     | 1   |       |   |    | 1  |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築設備計画      | 2   |       |   |    | 2  |    | ◎       |   |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 測量学         | 1   |       |   | 1  |    |    | ◎       | ○ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 測量学演習       | 1   |       |   |    |    | 1  | ○       | ◎ |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築生産        | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 建築法規        | 2   |       |   |    |    | 2  | ◎       |   |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 課題演習        | 2   |       |   |    | 2  |    |         | ◎ |   | ○                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 卒業研究        | 9   |       |   |    |    | 9  |         | ○ |   | ◎                  |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |
| 修得単位合計      | 82  | 8     | 9 | 20 | 24 | 21 |         |   |   |                    |                                                                                                                                                                                                                                     |     |       |    |    |    |    |         |   |   |  |   |   |

(出典：シラバス)



## 資料6-1-①-5：卒業・修了の認定に関する規定

○石川工業高等専門学校学則

(卒業)

第27条 全学年の課程を修了した者には、校長は、所定の卒業証書を授与する。

2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

(修了)

第48条 学生は、専攻科に2年以上在学し所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得するものとする。

2 校長は、前項により所定の単位を修得した者に対し修了を認定し、修了証書を授与する。

(出典：学生便覧・抜粋)

## 資料6-1-①-6：卒業・修了の認定に関する規定（詳細）

○石川工業高等専門学校学業成績評価及び進級・卒業認定に関する規則

(卒業認定基準)

第16条 次の各号に掲げる条件をすべて満たした者について卒業を認めるものとする。

(1) 最終学年において、次の算式による年間欠席日数が年間授業日数の4分の1を超えていない。

年間欠席日数 =  $A \times 3 / 4 + B$ 

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者）、その他やむを得ない事由によると認められた欠席日数

B：Aの場合以外の欠席日数

(2) 最終学年までの修得すべき科目の単位をすべて修得している。

(3) 卒業研究の単位を修得している。

(卒業認定基準の特例)

第17条 前条第2号に掲げる条件を満たさない者については、最終学年で修得すべき科目の学業成績において30点未満の科目を有さず、かつ、累積未修得科目数が3科目以内である場合、実施される単位追認試験にすべて合格したときに卒業を認めることがある。

2 単位追認試験で合格となった科目の学業成績の評価は50点とする。なお、学級内順位は変更しない。

(最終学年留置及び修了認定)

第18条 卒業が認められなかった者は最終学年に留まるものとする。この場合、最終学年で認定された単位はすべて無効とし、最終学年で修得すべき科目をすべて再履修しなければならない。

2 最終学年に留められる者が退学を希望する場合には、第4学年までの未修得科目がある場合、その科目について実施される単位追認試験に合格したときに、第4学年の修了を認めることがある。

3 前項により実施される単位追認試験において不合格の科目がある場合は、未修得科目を有する最下級学年の直下学年の修了を認めることがある。

(出典：学生便覧・抜粋)

## 資料6-1-①-7：特例による卒業

**第17条による単位追認試験日程**

- ・ 3月 5日（月） 卒業判定会議（特例該当者の決定）

## [第一回単位追認試験実施期間]

- ・ 3月 6日（火） 試験開始

↓

- ・ 3月 8日（木） 成績報告期限 [12時]

※すべて合格した者は、3月19日付卒業を認定する。（校長決裁）

## [第二回単位追認試験実施期間]

- ・ 3月 9日（金） 試験開始

↓

- ・ 3月15日（木） 成績報告期限 [12時]

※すべて合格した者は、3月30日付卒業を認定する。（校長決裁）

**第18条第2項による単位追認試験日程**

- ・ 3月 5日（月） 卒業判定会議（最終学年留置者の決定）

- ・ 3月 8日（木） 最終学年留置者の進退報告期限

（学級担任→教務係，退学希望者の確定）

※ 学級担任は退学願を教務係に提出し，単位追認試験受験願を科目担当教員に提出するよう指導する。

## [単位追認試験実施期間]

- ・ 3月 9日（金） 試験開始

↓

- ・ 3月15日（木） 成績報告期限 [12時]（修了学年の決定）

- ・ 3月30日（金） 退学希望者の退学許可

（出典：卒業判定会議資料）



## 資料6-1-①-9：卒業判定会議における学習目標達成の確認

平成18年度卒業・修了判定会議議事要録

日 時 平成19年3月5日（木）13時00分から13時25分

場 所 大会議室

議 事

## 1. 平成18年度卒業判定について

配付資料に基づき、各学科学級担任から単位の修得状況及び卒業要件充足状況について説明の後、引き続き各学科主任から卒業研究の結果、学校行事への参加状況および学習目標達成度状況について説明があり、協議の結果、以下のとおり判定した。

なお、卒業認定基準の特例適用者については、3月8日（木）までの単位修得報告者は3月19日付卒業とし、以降15日（木）までの単位修得報告者については3月30日付卒業をそれぞれ認めることが了承された。

| 学 科       | 5年次<br>在学者数 | 卒業要件<br>充足者数 | 卒業認定基準<br>特例適用者数 | そ の 他                       |
|-----------|-------------|--------------|------------------|-----------------------------|
| 機 械 工 学 科 | 40          | 40           |                  |                             |
| 電 気 工 学 科 | 36          | 32           | 3                | 1（〇〇：休学中―復学予定）              |
| 電子情報工学科   | 37          | 37           |                  |                             |
| 環境都市工学科   | 29          | 22           | 5                | 2（〇〇：休学中―退学予定）<br>（〇〇：休学予定） |
| 建 築 学 科   | 43          | 40           | 2                | 1（〇〇：原級）                    |
| 計         | 185         | 171          | 10               | 4                           |

(出典：卒業判定会議議事録)

## 資料6-1-①-10：卒業生成績一覧表

(訪問調査時に提示)

(出典：卒業判定会議資料)

## 2) 専攻科課程学習目標の達成の評価

本校では、目的に沿って、学生が修了時に身に付けるべき学力や資質・能力を明確に定め、それに対応させて授業科目を配置している。専攻科委員会（資料6-1-①-11）および将来構想計画委員会（既出資料6-1-①-2）において、修了時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに達成要件（専攻科課程の修了要件である学習目標の達成（既出資料6-1-①-3，資料6-1-①-12））および修了の認定に関する規定（既出資料6-1-①-5）を定めることによりその達成状況の把握方法を明確にしている。これらに基づいて、学生が修了時に身に付けるべき学力や資質・能力、養成する人物像等について、専攻科委員会において修了要件の確認を行い（資料6-1-①-13，14），次に修了判定会議において、その達成状況を把握・評価する取組を行っている（資料6-1-①-15，16）。

- 資料 6-1-①-11：石川工業高等専門学校専攻科委員会規則
- 資料 6-1-①-12：教育課程と学習目標対応表
- 資料 6-1-①-13：修了要件確認表（学習目標-科目対応表）
- 資料 6-1-①-14：専攻科委員会における修了要件の確認
- 資料 6-1-①-15：修了判定会議における学習目標達成の確認
- 資料 6-1-①-16：専攻科修了生成績一覧表（訪問調査時に提示）

## 資料6-1-①-11：石川工業高等専門学校専攻科委員会規則

## ○石川工業高等専門学校専攻科委員会規則

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校学則第 50 条の規定に基づき、石川工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の職員を委員として組織し、委員は校長が委嘱する。

- (1) 専攻科長
- (2) 専攻主任
- (3) 一般教育科及び各専門学科ごとに校長が指名する教員 各1人
- (4) 事務部長

2 前項第 3 号の委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

## (委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもってこれに充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

## (委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

## (審議事項)

第5条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 入学者選抜等に関する事。
- (2) 教育課程の編成及び教育計画の立案に関する事。
- (3) 施設及び設備に関する事。
- (4) その他専攻科の運営に関する事。

## (幹事)

第6条 委員会の事務を処理するために、幹事を置く。

2 幹事は、学生課教務係長をもってこれに充てる。

(出典：石川工業高等専門学校規則集・抜粋)

資料6-1-①-12：教育課程と学習目標対応表

電子機械工学専攻（平成18年度入学者に適用）

| 区 分                  | 授 業 科 目                      | 単位区分 | 単位数               | 学 年 別 配 当 |     | 学 習 目 標 (専) |   |   |   |   |   |
|----------------------|------------------------------|------|-------------------|-----------|-----|-------------|---|---|---|---|---|
|                      |                              |      |                   | 1 年       | 2 年 | A           | B | C | D | E | F |
| 専 門 共 通 科 目          | 環 境 技 術 総 論                  | 必修   | 2                 | 2         |     | ○           |   |   |   | ○ |   |
|                      | イ ン タ ー ン シ ッ プ              | 必修   | 10                | 10        |     |             |   |   | ○ |   |   |
|                      | 線 形 数 学                      | 必修   | 2                 | 2         |     |             | ○ |   |   |   |   |
|                      | 離 散 数 学                      | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 量 子 力 学                      | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | セ ン サ 工 学                    | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 画 像 工 学                      | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 計 算 機 シ ミ ュ レ ー シ ョ ン        | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | レ ー ザ 工 学                    | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 計 測 制 御 工 学                  | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 生 体 情 報 工 学                  | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
| 基 礎 雪 氷 学            | 選択                           | 2    | 2                 |           |     |             |   |   |   |   |   |
| 住 生 活 文 化 論          | 選択                           | 2    | 2                 |           |     |             |   |   |   |   |   |
| 専門共通科目開設単位数合計        |                              |      | 34単位              |           |     | 学 習 目 標 (専) |   |   |   |   |   |
| 専門共通科目修得単位数合計        |                              |      | 20単位以上（必修科目を含む。）  |           |     | A           | B | C | D | E | F |
| 専 門 展 開 科 目          | 創 造 工 学 演 習 I                | 必修   | 3                 | 3         |     | ○           | ○ |   |   |   |   |
|                      | 創 造 工 学 演 習 II               | 必修   | 4                 | 4         |     |             |   |   |   | ○ |   |
|                      | 特 別 研 究 I                    | 必修   | 4                 | 4         |     |             |   |   |   | ○ |   |
|                      | 特 別 研 究 II                   | 必修   | 8                 | 8         |     |             |   |   |   | ○ |   |
|                      | 電 磁 エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学        | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 機 能 素 子 工 学                  | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | エ ネ ル ギ ー 伝 送 工 学            | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 熱・流体エネルギー変換工学                | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 移 動 現 象 論                    | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | ト ラ イ ボ ロ ジ ー                | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 電 磁 波 工 学                    | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
|                      | 電 子 物 性                      | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 電 子 材 料 設 計                  | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 音 声 情 報 処 理                  | 選択   | 2                 | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
| 機 械 機 構 シ ス テ ム 論    | 選択                           | 2    |                   | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
| 現 代 信 号 処 理 論        | 選択                           | 2    |                   | 2         |     |             |   |   |   |   |   |
| 専門展開科目開設単位数合計        |                              |      | 43単位              |           |     | 学 習 目 標 (専) |   |   |   |   |   |
| 専門展開科目修得単位数合計        |                              |      | 31単位以上（必修科目を含む。）  |           |     | A           | B | C | D | E | F |
| 一 般 科 目              | 日 本 語 表 現                    | 必修   | 1                 | 1         |     |             |   |   |   | ○ |   |
|                      | 国 際 表 現                      | 必修   | 1                 | 1         |     |             |   | ○ |   |   |   |
|                      | オ ー ラ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I  | 必修   | 1                 | 1         |     |             |   | ○ |   |   |   |
|                      | オ ー ラ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II | 必修   | 1                 |           | 1   |             |   | ○ |   |   |   |
|                      | 環 境 倫 理                      | 必修   | 2                 | 2         |     |             |   | ○ |   |   |   |
|                      | 健 康 科 学                      | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
|                      | 日 本 文 化 論                    | 選択   | 2                 |           | 2   |             |   |   |   |   |   |
| 一般科目開設単位数合計          |                              |      | 10単位              |           |     |             |   |   |   |   |   |
| 一般科目修得単位数合計          |                              |      | 6単位以上             |           |     |             |   |   |   |   |   |
| 一般科目を含む開設単位数合計       |                              |      | 87単位              |           |     |             |   |   |   |   |   |
| 一般科目を含む修了に要する修得単位数合計 |                              |      | 62単位以上（1年次34単位以上） |           |     |             |   |   |   |   |   |

(備考)

・1年次の総修得単位数が34単位に満たない者は、2年配当の創造工学演習Ⅱを履修できない。

専攻科課程の学習目標

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

注) 学習目標（専）のF欄はJABEE科目であるため、専攻科の学習目標の達成判定には使用しない。

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-①-12： 教育課程と学習目標対応表

| 環境建設工学専攻（平成18年度入学者に適用） |                |      |                   |       |    |         | 学習目標(専) |   |   |   |   |  |
|------------------------|----------------|------|-------------------|-------|----|---------|---------|---|---|---|---|--|
| 区分                     | 授業科目           | 単位区分 | 単位数               | 学年別配当 |    | 学習目標(専) |         |   |   |   |   |  |
|                        |                |      |                   | 1年    | 2年 | A       | B       | C | D | E | F |  |
| 専門<br>共通科目             | 環境技術総論         | 必修   | 2                 | 2     |    | ○       |         |   | ○ |   |   |  |
|                        | インターンシップ       | 必修   | 10                | 10    |    |         |         |   | ○ |   |   |  |
|                        | 線形数            | 必修   | 2                 | 2     |    |         | ○       |   |   |   |   |  |
|                        | 離散数            | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 量子力学           | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | センサ工学          | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 画像工学           | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 計算機シミュレーション    | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | レーザ工学          | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 計測制御工学         | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 生体情報工学         | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 基礎雪氷学          | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 住生活文化論         | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 専門共通科目開設単位数合計          |                |      | 34単位              |       |    | 学習目標(専) |         |   |   |   |   |  |
| 専門共通科目修得単位数合計          |                |      | 20単位以上（必修科目を含む。）  |       |    | A       | B       | C | D | E | F |  |
| 専門<br>展開科目             | 創造工学演習Ⅰ        | 必修   | 3                 | 3     |    | ○       | ○       |   |   |   |   |  |
|                        | 創造工学演習Ⅱ        | 必修   | 4                 |       | 4  |         |         |   |   | ○ |   |  |
|                        | 特別研究Ⅰ          | 必修   | 4                 | 4     |    |         |         |   |   | ○ |   |  |
|                        | 特別研究Ⅱ          | 必修   | 8                 |       | 8  |         |         |   |   | ○ |   |  |
|                        | 応用水文学          | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 地盤基礎工学         | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 建設材料学          | 選択必修 | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 建築環境調整論        | 選択   | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 交通基盤工学         | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 環境地盤工学         | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | コンクリート複合材料工学   | 選択必修 | 2                 | 2     |    |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 人間・環境デザイン論     | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 建築構造計算学        | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
| 構造解析学                  | 選択             | 2    | 2                 |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 環境景観論                  | 選択             | 2    | 2                 |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 建築・地域空間形成論             | 選択             | 2    | 2                 |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 専門展開科目開設単位数合計          |                |      | 43単位              |       |    | 学習目標(専) |         |   |   |   |   |  |
| 専門展開科目修得単位数合計          |                |      | 31単位以上（必修科目を含む。）  |       |    | A       | B       | C | D | E | F |  |
| 一般<br>科目               | 日本語表現          | 必修   | 1                 | 1     |    |         |         |   |   | ○ |   |  |
|                        | 国際表現           | 必修   | 1                 | 1     |    |         |         | ○ |   |   |   |  |
|                        | オーラルコミュニケーションⅠ | 必修   | 1                 | 1     |    |         |         | ○ |   |   |   |  |
|                        | オーラルコミュニケーションⅡ | 必修   | 1                 |       | 1  |         |         | ○ |   |   |   |  |
|                        | 環境倫理           | 必修   | 2                 | 2     |    |         |         | ○ |   |   |   |  |
|                        | 健康科学           | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
|                        | 日本文化論          | 選択   | 2                 |       | 2  |         |         |   |   |   |   |  |
| 一般科目開設単位数合計            |                |      | 10単位              |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 一般科目修得単位数合計            |                |      | 6単位以上             |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 一般科目を含む開設単位数合計         |                |      | 87単位              |       |    |         |         |   |   |   |   |  |
| 一般科目を含む修了に要する修得単位数合計   |                |      | 62単位以上（1年次34単位以上） |       |    |         |         |   |   |   |   |  |

(備考)

- ・1年次の総修得単位数が34単位に満たない者は、2年配当の創造工学演習Ⅱを履修できない。
- ・選択必修からは、2単位以上を修得しなければならない。

専攻科課程の学習目標

- 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- 実践的な体験をとおり、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

注) 学習目標(専)のF欄はJABEE科目であるため、専攻科の学習目標の達成判定には使用しない。

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-①-13:修了要件確認表 (学習目標-目対応表)

平成18年度修了判定会議資料 (平成19年3月5日現在)

在学者数 : NN名

修了要件充足者数 : MM名

| 〇〇〇〇工学専攻 2年     |               |     | (氏名) |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-----------------|---------------|-----|------|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|                 | 授業科目名         | 単位数 | 必修   |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 一般科目            | 日本語表現         | 1   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 国際表現          | 1   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | オーラルコミュニケーション | 2   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 環境倫理          | 2   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 健康科学          | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 日本文化論         | 2   |      | ○  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 小計 (6単位以上)    |     |      | 10 | 8  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 専門科目            | 環境技術総論        | 2   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | インターンシップ      | 2   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 線形数学          | 2   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 離散数学          | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 量子力学          | 2   |      |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | センサ工学         | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 画像工学          | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 計算機シミュレーション   | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | レーザ工学         | 2   |      | ○  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 計測制御工学        | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 生体情報工学        | 2   |      |    | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 基礎雪氷学         | 2   |      |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 住生活文化論        | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 小計 (12単位以上)     |               |     | 20   | 20 |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 専門展開科目          | 創造工学演習Ⅰ       | 4   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 創造工学演習Ⅱ       | 4   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 特別研究Ⅰ         | 6   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 特別研究Ⅱ         | 8   | ◎    | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 電磁エネルギー変換工学   | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 機能素子工学        | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | エネルギー伝送工学     | 2   |      | ○  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 熱・流体エネルギー変換工学 | 2   |      |    | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 移動現象論         | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | トライボロジー       | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 電磁波工学         | 2   |      |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 電子物性          | 2   |      |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 電子材料設計        | 2   |      |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 音声情報処理        | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 機械機構システム論     | 2   |      | ○  | ○  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 現代信号処理論       | 2   |      | ○  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|                 | 小計 (34単位以上)   |     |      | 38 | 36 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 総修得単位数 (62単位以上) |               |     | 68   | 64 |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

◎ : 必修科目, ○ : 単位修得科目

| 学習目標 | A |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|      | B |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|      | C |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|      | D |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|      | E |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

(出典 : 専攻科修了要件確認表・修了判定会議資料より例示)



## 資料6-1-①-14：専攻科委員会における修了要件の確認

平成 19 年 3 月 7 日

専攻科委員会委員 各位

委員長

平成 18 年度第 12 回専攻科委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

## 1. 平成 18 年度修了予定者の判定について

委員長から配布資料に基づき専攻科 2 年生の単位修得状況について説明があり、協議の結果、電子機械工学専攻 18 名及び環境建設工学専攻 12 名について専攻科修了要件充足者とする事となった。

(出典：専攻科委員会議事録・抜粋)

## 資料6-1-①-15：修了判定会議における学習目標達成の確認

平成 18 年度卒業・修了判定会議議事要録

## 2. 平成 18 年度専攻科修了判定について

配付資料に基づき、各専攻主任から、2 月 23 日開催専攻科委員会での判定を踏まえ、単位の修得状況、修了要件充足状況および学習目標達成度状況について説明があり、協議の結果、以下のとおり判定した。

| 専攻       | 2 年次<br>在学者数 | 修了要件<br>充足者数 | その他 |
|----------|--------------|--------------|-----|
| 電子機械工学専攻 | 18           | 18           |     |
| 環境建設工学専攻 | 12           | 12           |     |
| 計        | 30           | 30           |     |

また、電子機械工学専攻主任から、上記修了要件充足者について、JABEE 部会において創造工学プログラム修了要件を確認し、電子機械工学専攻 1 名(学位記未修得)を除く全員が複合工学修得コース修了要件を充足していることの報告があった。

(出典：修了判定会議議事録)

## 資料6-1-①-16：専攻科成績一覧表

(訪問調査時に提示)

(出典：修了判定会議資料)

## (分析結果とその根拠理由)

本校では、目的に沿って定めた、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとにその達成要件（準学士課程の卒業要件である学習目標の達成および専攻科課程の修了要件である学習目標の達成）と卒業（修了）の認定に関する規定を定めて、目的に沿った形で、養成する人物像、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

**観点 6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## (観点に係る状況)

1) 卒業（修了）時の学習目標達成状況の評価、および進級・卒業（修了）時の状況

本校では卒業（修了）時に、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに設定した達成要件の達成状況により卒業（修了）認定を実施している。準学士課程では、卒業判定会議において、卒業要件確認表（資料 6-1-②-1）により、卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに設定された卒業要件を満たしているかについて確認したうえで、卒業認定を行っている。

専攻科課程では、専攻科委員会において修了要件の確認を行い（資料 6-1-②-2）、次に修了判定会議において、修了時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに設定された終了要件を満たしているかについて確認したうえで、修了認定を行っている。

準学士課程学生の進級の状況（資料 6-1-②-3）については、おおむね良好である。

卒業（修了）時の進学率・就職率（資料 6-1-②-4）は、準学士課程では約 43%が専攻科および各大学へ進学し、約 57%が就職する。また、平成 17 年度からは JABEE 認定プログラム修了生を輩出している。

- 資料 6-1-②-1：卒業要件確認表（訪問調査時に提示）
- 資料 6-1-②-2：修了要件確認表（学習目標-科目対応表）（訪問調査時に提示）
- 資料 6-1-②-3：各学年進級率（留年・休学・退学状況）
- 資料 6-1-②-4：進学率・就職率および学位取得状況

資料6-1-②-1：卒業要件確認表

(訪問調査時に提示)

(出典：卒業判定会議資料)

資料6-1-②-2：修了要件確認表（学習目標-科目対応表）

(訪問調査時に提示)

(出典：修了判定会議資料)

資料6-1-②-3：各学年進級率(留年・休学・退学状況)

## 平成16年度進級率

## 1年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 42  | 1   | 1   |    | 40 | 95.2%  |
| 電気   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 42  |     | 1   |    | 41 | 97.6%  |
| 環境都市 | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 建築   | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |

## 2年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 44  |     |     |    | 44 | 100.0% |
| 電気   | 42  |     |     | 2  | 40 | 95.2%  |
| 電子情報 | 40  |     | 1   |    | 39 | 97.5%  |
| 環境都市 | 45  |     |     | 5  | 40 | 88.9%  |
| 建築   | 43  | 3   |     | 1  | 39 | 90.7%  |

## 3年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 電気   | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 電子情報 | 42  | 1   |     | 3  | 38 | 90.5%  |
| 環境都市 | 41  |     |     | 9  | 32 | 78.0%  |
| 建築   | 43  |     |     | 2  | 41 | 95.3%  |

## 4年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 電気   | 38  |     | 1   | 2  | 35 | 92.1%  |
| 電子情報 | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 環境都市 | 43  | 1   | 1   | 2  | 39 | 90.7%  |
| 建築   | 40  |     | 2   | 3  | 35 | 87.5%  |

## 5年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 32  |     |     |    | 32 | 100.0% |
| 電気   | 41  |     |     | 1  | 40 | 97.6%  |
| 電子情報 | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 環境都市 | 36  |     |     |    | 36 | 100.0% |
| 建築   | 45  |     | 1   |    | 44 | 97.8%  |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-②-3：各学年進級率(留年・休学・退学状況)

## 平成17年度進級率

## 1年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 43  |     | 1   |    | 42 | 97.7%  |
| 電気   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 環境都市 | 42  |     |     | 1  | 41 | 97.6%  |
| 建築   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |

## 2年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 40  | 1   |     | 1  | 38 | 95.0%  |
| 電気   | 43  | 1   |     |    | 42 | 97.7%  |
| 電子情報 | 42  | 1   |     | 1  | 40 | 95.2%  |
| 環境都市 | 45  |     |     |    | 45 | 100.0% |
| 建築   | 43  |     |     | 1  | 42 | 97.7%  |

## 3年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率   |
|------|-----|-----|-----|----|----|-------|
| 機械   | 44  |     |     | 3  | 41 | 93.2% |
| 電気   | 42  |     |     | 2  | 40 | 95.2% |
| 電子情報 | 40  | 1   |     | 2  | 37 | 92.5% |
| 環境都市 | 42  |     |     | 4  | 38 | 90.5% |
| 建築   | 40  |     |     | 1  | 39 | 97.5% |

## 4年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 40  |     |     |    | 40 | 100.0% |
| 電気   | 42  |     | 1   | 5  | 36 | 85.7%  |
| 電子情報 | 38  |     | 1   |    | 37 | 97.4%  |
| 環境都市 | 35  |     | 3   | 3  | 29 | 82.9%  |
| 建築   | 48  | 1   | 2   | 2  | 43 | 89.6%  |

## 5年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 電気   | 36  |     | 1   |    | 35 | 97.2%  |
| 電子情報 | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 環境都市 | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 建築   | 36  |     |     |    | 36 | 100.0% |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-②-3：各学年進級率(留年・休学・退学状況)

## 平成18年度進級率

## 1年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 41  |     |     |    | 41 | 100.0% |
| 電気   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 環境都市 | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 建築   | 40  |     |     |    | 40 | 100.0% |

## 2年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 43  | 1   |     |    | 42 | 97.7%  |
| 電気   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |
| 電子情報 | 43  |     |     |    | 43 | 100.0% |
| 環境都市 | 41  |     |     | 5  | 36 | 87.8%  |
| 建築   | 42  |     |     |    | 42 | 100.0% |

## 3年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 39  |     |     |    | 39 | 100.0% |
| 電気   | 44  |     |     | 3  | 41 | 93.2%  |
| 電子情報 | 41  |     |     | 2  | 39 | 95.1%  |
| 環境都市 | 46  |     |     | 3  | 43 | 93.5%  |
| 建築   | 43  |     |     | 1  | 42 | 97.7%  |

## 4年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 41  |     |     |    | 41 | 100.0% |
| 電気   | 44  |     |     | 3  | 41 | 93.2%  |
| 電子情報 | 37  |     | 1   | 2  | 34 | 91.9%  |
| 環境都市 | 39  |     | 1   | 1  | 37 | 94.9%  |
| 建築   | 44  | 1   |     | 2  | 41 | 93.2%  |

## 5年

| 学科   | 在籍* | 退学者 | 休学者 | 留年 | 進級 | 進級率    |
|------|-----|-----|-----|----|----|--------|
| 機械   | 40  |     |     |    | 40 | 100.0% |
| 電気   | 36  |     | 1   |    | 35 | 97.2%  |
| 電子情報 | 37  |     |     |    | 37 | 100.0% |
| 環境都市 | 29  |     | 1   | 1  | 27 | 93.1%  |
| 建築   | 43  |     |     | 1  | 42 | 97.7%  |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-4：進学率・就職率および学位取得状況

## 準学士課程進学率・就職率

| 機械工学科  | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|
| 平成16年度 | 32  | 15  | 46.9% | 17 | 53.1% |
| 平成17年度 | 43  | 12  | 27.9% | 29 | 67.4% |
| 平成18年度 | 40  | 15  | 37.5% | 25 | 62.5% |

| 電気工学科  | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|
| 平成16年度 | 40  | 19  | 47.5% | 21 | 52.5% |
| 平成17年度 | 35  | 16  | 45.7% | 19 | 54.3% |
| 平成18年度 | 35  | 17  | 48.6% | 18 | 51.4% |

| 電子情報工学科 | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   |
|---------|-----|-----|-------|----|-------|
| 平成16年度  | 43  | 20  | 46.5% | 22 | 51.2% |
| 平成17年度  | 39  | 22  | 56.4% | 17 | 43.6% |
| 平成18年度  | 37  | 17  | 45.9% | 20 | 54.1% |

| 環境都市工学科 | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   |
|---------|-----|-----|-------|----|-------|
| 平成16年度  | 36  | 18  | 50.0% | 18 | 50.0% |
| 平成17年度  | 39  | 12  | 30.8% | 23 | 59.0% |
| 平成18年度  | 27  | 10  | 37.0% | 17 | 63.0% |

| 建築学科   | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|
| 平成16年度 | 44  | 23  | 52.3% | 17 | 38.6% |
| 平成17年度 | 36  | 12  | 33.3% | 23 | 63.9% |
| 平成18年度 | 42  | 18  | 42.9% | 21 | 50.0% |

## 専攻科課程進学率・就職率

| EM専攻   | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   | 学位取得 | 学位取得率  |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|------|--------|
| 平成16年度 | 20  | 6   | 30.0% | 14 | 70.0% | 未調査  |        |
| 平成17年度 | 17  | 3   | 17.6% | 14 | 82.4% | 17   | 100.0% |
| 平成18年度 | 18  | 4   | 22.2% | 14 | 77.8% | 17   | 94.4%  |

| AC専攻   | 卒業生 | 進学者 | 進学率   | 就職 | 就職率   | 学位取得 | 学位取得率  |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|------|--------|
| 平成16年度 | 9   | 4   | 44.4% | 5  | 55.6% | 未調査  |        |
| 平成17年度 | 11  | 1   | 9.1%  | 10 | 90.9% | 11   | 100.0% |
| 平成18年度 | 12  | 3   | 25.0% | 9  | 75.0% | 12   | 100.0% |

(出典：平成19年度 学校要覧・抜粋)

## 2) 資格取得状況等

資格取得の状況については、入学生に渡す学校案内の中で、卒業後の主な資格（取得資格・受験資格）（資料 6-1-②-5）を示してある。なお、在学生の資格保持者が増加するよう指導する方針である（資料 6-1-②-6）。

TOEIC IP 受験実施状況については、平成 15 年度から専攻科 1 年生を対象として、平成 17 年度から本科 4 年生を対象として、TOEIC IP テスト受験を行っている。進学士課程および専攻科課程ともに、全受験生の平均点向上が見られる。特に、専攻科課程では全受験生の向上が見られる（資料 6-1-②-7）。平成 19 年度専攻科学生選抜では、TOEIC公開テスト結果の提出を義務化し、平成 20 年度専攻科学生選抜では、TOEIC公開テスト結果またはTOEIC IPテスト結果の提出を義務化した。

- 資料 6-1-②-5：受験資格一覧
- 資料 6-1-②-6：資格取得者一覧
- 資料 6-1-②-7：TOEIC IP の受験実施状況

| 資料6-1-②-5：受験資格一覧 |                   |                                      |                                                                                                           |                                                                                            |
|------------------|-------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取得できる資格, 受験資格一覧  |                   |                                      |                                                                                                           |                                                                                            |
| 学科等              | 認定資格(申請により取得)     | 認定資格(卒業後の実務経験により申請して取得)              | 受験資格(卒業後の実務経験を必要とするもの, 受験科目の免除, 一次試験の免除等を含む)                                                              | 在学中に受験可能な資格                                                                                |
| 機械工学科            |                   | ボイラータービン主任技士二種(卒後4年以上)               | 危険物取扱者(乙種, 丙種), ボイラー技士(2級), エネルギー管理士, エックス線作業主任者, 有機溶剤作業主任者, 技能士2級, 技術士                                   | ※情報処理技術者試験(各種)<br>・初級システムアドミニストレータ<br>・上級システムアドミニストレータ<br>・基本情報技術者<br>・テクニカルエンジニア(各種)<br>他 |
| 電気工学科            |                   | 電気主任技術者(三種は卒後2年以上, 二種は卒後5年以上)        | 電気主任技術者(各種 在学中に受験可能), 無線従事者(各種), 技術士                                                                      | ※情報セキュリティ検定試験<br>※デジタル検定試験<br>電気工学科, 電子情報工学科を中心に受験(他の学科も受験可能)                              |
| 電子情報工学科          |                   |                                      | 技術士                                                                                                       |                                                                                            |
| 環境都市工学科          | 測量士補              | 測量士<br>ダム水路主任技術者(二種は卒後3年, 1種は4年又は6年) | 土木施工管理技士(2級は卒後2年以上, 1級は卒後5年以上), 2級建築士(卒後1年以上), 技術士                                                        | 環境測定分析士(3級)                                                                                |
| 建築学科             |                   |                                      | 建築士((2級は卒業により, 1級は卒後4年以上), 建築設備士(卒後4年以上), 建築施工管理技士及び管工事施工管理技士(2級は卒後2年以上, 1級は卒後5年以上), 建築CAD技術者, 建築CADデザイナー | ※情報処理技術者試験(各種)<br>※情報セキュリティ検定試験<br>※デジタル検定試験<br>宅地建物取引主任                                   |
| 専攻科              | 技術士補(複合工学修得コース修了) |                                      |                                                                                                           |                                                                                            |

(出典：学校案内・抜粋)

資料6-1-②-6：資格取得者一覧

## 資格取得状況一覧

| 資格名称             | 17年度 | 18年度 |
|------------------|------|------|
| 2級ボイラー技士         |      | 1    |
| 危険物取扱者乙種第4類      | 2    | 8    |
| 電気主任技術者試験(第三種)   | 2    | 5    |
| 電気工事士試験(第二種)     | 5    | 6    |
| 第一級陸上無線技術士       |      | 2    |
| 基本情報技術者          | 2    | 6    |
| 初級システムアドミニストレータ  | 11   | 7    |
| ソフトウェア開発技術者      | 2    |      |
| デジタル技術検定1級       | 1    | 1    |
| デジタル技術検定2級情報部門   | 22   | 21   |
| デジタル技術検定2級制御部門   | 2    | 1    |
| デジタル技術検定3級       | 32   | 36   |
| デジタル技術検定4級       | 1    | 1    |
| 工事担任者試験(DD I種)   | 1    |      |
| 工事担任者試験(DD III種) | 10   |      |
| CGクリエイター         |      | 1    |
| 二級建築士資格認定(専攻科生)  | 1    | 3    |
| CAD利用者技術試験2級     | 2    |      |
| 1級建築CADデザイナー資格認定 | 3    | 3    |
| 2級建築CADデザイナー資格認定 | 9    |      |
| 3級建築CADデザイナー資格認定 | 7    |      |
| 2級建築CAD検定        | 8    | 8    |
| 3級建築CAD検定        | 7    |      |
| 工業英語検定(4級以上)     | 9    | 4    |
| 実用英語検定           | 1    | 3    |

(出典：学生課保管資料より作成)



## 資料6-1-②-7 : TOEIC IP の受験実施状況

## TOEIC IP テストの取組状況

| 対象学生               | 実施時期  | 開始年度    |
|--------------------|-------|---------|
| 準学士課程・4年           | 1 2 月 | 平成 17 年 |
| 専攻科課程・1年           | 8 月   | 平成 15 年 |
| 準学士課程・専攻科課程<br>希望者 | 1 月   | 平成 13 年 |

## 準学士課程・4年 TOEIC IP テストの平均点 (最低点～最高点)

| 年度         | 機械工学科             | 電気工学科            | 電子情報工<br>学科       | 環境都市工学<br>科       | 建築学科              | 全受験生              |
|------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 平成<br>17 年 | 309<br>(105 ～490) | 312<br>(205～840) | 317<br>(140 ～530) | 277<br>(70 ～470)  | 302<br>(165 ～480) | 302<br>(70 ～ 840) |
| 平成<br>18 年 | 331<br>(215 ～485) | 315<br>(195～485) | 402<br>(260 ～705) | 329<br>(200 ～500) | 335<br>(230～750)  | 342<br>(195 ～750) |

## 専攻科課程・1年 TOEIC IP テストの平均点 (最低点～最高点)

| 年度         | 電子機械専攻            | 環境建設専攻            | 全受験生              |
|------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 平成<br>17 年 | —                 | —                 | 338<br>(250 ～445) |
| 平成<br>18 年 | 429<br>(295 ～560) | 367<br>(260 ～510) | 401<br>(295 ～560) |

(出典：一般教育科保存資料)

## 3) 準学士課程・卒業研究および専攻科課程・特別研究などの内容

卒業研究（資料 6-1-②-8）では卒業研究発表、予稿および卒業論文（卒業制作）の執筆を課し、専攻科特別研究（資料 6-1-②-9）でも特別研究発表会、予稿および特別研究論文の執筆を課している。また、学会での発表（資料 6-1-②-10）を積極的に推奨している。専攻科では、平成 18 年度には電子機械工学専攻で 31 件、環境建設工学専攻で 14 件の発表を行った。

なお、卒業（修了）証書授与式において、優秀学生に対して表彰書が授与される（資料 6-1-②-11）。

- 資料 6-1-②-8 : 平成 18 年度卒業研究題目
- 資料 6-1-②-9 : 平成 18 年度専攻科特別研究題目
- 資料 6-1-②-10 : 平成 18 年度 専攻科学生の学会発表
- 資料 6-1-②-11 : 学生の表彰状況の一覧

資料6-1-②-8：平成18年度卒業研究題目

## 機械工学科

| 学生氏名 | 卒業研究題目                                       |
|------|----------------------------------------------|
| 学生 1 | 曲げ試験によるガラス板の引張強さ評価法(partⅢ)                   |
| 学生 2 |                                              |
| 学生 3 |                                              |
| 学生 4 |                                              |
| 学生 5 | インドアプレーンの製作とプロペラ特性の研究                        |
| 学生 6 |                                              |
| 学生 7 |                                              |
| 学生 8 |                                              |
| 学生 9 | ゼオライトによる水質浄化に関する研究                           |
| 学生10 |                                              |
| 学生11 | 能登珪藻土を利用した炭酸ガス吸収システムに関する研究                   |
| 学生12 |                                              |
| 学生13 | 再使用可能な円すい内側シールの基礎研究                          |
| 学生14 |                                              |
| 学生15 | ボルト軸力の測定に関する基礎研究                             |
| 学生16 |                                              |
| 学生17 | 油圧実験装置の性能試験                                  |
| 学生18 | 野外実験用小型プロペラ風車ブレードの製作                         |
| 学生19 | ソーラーカーの設計・製作                                 |
| 学生20 |                                              |
| 学生21 | 空気流を組み合わせた糸の操作に関する研究                         |
| 学生22 |                                              |
| 学生23 |                                              |
| 学生24 |                                              |
| 学生25 | 残像効果を用いた回転型LED表示機の設計・製作                      |
| 学生26 | DLPを用いたディスプレイの基礎研究                           |
| 学生27 | 加速度センサーを用いた水平維持機構の設計・製作                      |
| 学生28 | LANを介したマスタスレーブ制御の基礎研究Ⅱ                       |
| 学生29 | 巻糸体の内部状態                                     |
| 学生30 | ウォーム減速機用性能試験機の開発                             |
| 学生31 |                                              |
| 学生32 | インナーサイトレーニングマシンの製作および同マシンを用いた<br>トレーニング効果の検証 |
| 学生33 |                                              |
| 学生34 | 低サイクル疲労試験支援ソフトの開発                            |
| 学生35 |                                              |
| 学生36 | はんだ接合部の熱疲労強度評価に関する実験力学的検証                    |
| 学生37 | 感圧編物による体圧分布計測シーツの開発                          |
| 学生38 | 遺伝的アルゴリズムにより歩行方法を獲得する芋虫型二軸ロボッ<br>トに関する研究     |
| 学生39 |                                              |
| 学生40 |                                              |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-8：平成18年度卒業研究題目

## 電気工学科

| 学生氏名 | 卒業研究テーマ名                                    |
|------|---------------------------------------------|
| 学生 1 | オープン磁気回路の半閉磁路変換について                         |
| 学生 2 | リニアアクチュエータの鉄心長による磁束分布への影響                   |
| 学生 3 | 回転機構の理解促進のための教材開発                           |
| 学生 4 | 冷熱利用による熱電発電の基礎研究                            |
| 学生 5 | 風力発電設備への雷害防止対策に関する研究                        |
| 学生 6 | 電気設備から発生するELF磁界の影響に関する研究                    |
| 学生 7 | 13MHz帯 RFID タグの電磁波環境についての研究                 |
| 学生 8 | 無線で人を感知してON/OFFするシステム                       |
| 学生 9 | 長波JJY標準電波受信機の作成                             |
| 学生10 |                                             |
| 学生11 | 水熱合成法ZnO単結晶基板のフォトルミネッセンス評価                  |
| 学生12 |                                             |
| 学生13 | ZnとH <sub>2</sub> Oを原料とした大気圧CVD法によるZnO薄膜の作製 |
| 学生14 |                                             |
| 学生15 | 二足歩行ロボットの研究                                 |
| 学生16 | 光導波路の光伝搬シミュレーション                            |
| 学生17 | レーザーリフトオフによる金属薄膜のパターニングと温度シミュレーション          |
| 学生18 | 手の形状を考慮した手領域の検出                             |
| 学生19 | カメラインターフェースの開発                              |
| 学生20 | 超指向性スピーカーのソフトウェア開発                          |
| 学生21 | 超指向性スピーカーのハードウェア開発                          |
| 学生22 | 偽装情報によるセキュリティ向上について                         |
| 学生23 | 音響データのピッチ検出                                 |
| 学生24 | 画像に対する電子透かし                                 |
| 学生25 | LEGO Mindstorms NXT を用いた学生実験教材の開発           |
| 学生26 | 交互堆積PLA法によるErドーパLiNbO <sub>3</sub> 薄膜の作製    |
| 学生27 | PLA法によるZnO薄膜の作製と評価                          |
| 学生28 | レーザーアブレーション法による非鉛強誘電体薄膜の作製                  |
| 学生29 | テンプレートマッチングによる視覚情報を用いた移動物体の制御に関する研究         |
| 学生30 | 磁気浮上システムを用いた複数のPID制御器による比較に関する研究            |
| 学生31 | 時間遅れを考慮したテレオペレーションの実験による検証                  |
| 学生32 | 有限個の制御入力を用いたモーターの最適制御に関する研究                 |
| 学生33 | 科学衛星の観測データ校正システムの構築                         |
| 学生34 | アンテナ指向性測定システムの製作                            |
| 学生35 | 自律移動型ロボットに関する研究                             |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-8：平成18年度卒業研究題目

## 電子情報工学科目

| 学生氏名 | 卒業研究題目                                     |
|------|--------------------------------------------|
| 学生 1 | 遺伝的プログラミングの時系列データ解析への応用                    |
| 学生 2 | GPにおける木の評価とロボット制御                          |
| 学生 3 | 知的ロボットWebotsへの進化計算の導入                      |
| 学生 4 | OpenGLによる人工生命シミュレーション                      |
| 学生 5 | 酸化物半導体Cu <sub>2</sub> Oの特性測定               |
| 学生 6 | FPGAにIPコアを利用した教育用デジタルシステムの設計               |
| 学生 7 | FeliCaを応用したWBCシステムの設計                      |
| 学生 8 | RFID (ICタグ) を用いたシステムの設計<br>－ 図書貸出管理システム    |
| 学生 9 | LANを用いた個人生体情報収集システムの研究                     |
| 学生10 | 作業環境が与える精神的負荷の心拍変動による評価                    |
| 学生11 | 聴覚刺激による自律神経活動の変動評価                         |
| 学生12 | PICを使用した心電図表示器の試作                          |
| 学生13 | 字幕作成支援のための映画中の音声区間検出方法の検討                  |
| 学生14 | 音声認識特徴量の検討                                 |
| 学生15 | プレゼンテーション入門コースの開発とNet Commonsの利用           |
| 学生16 | Flashを用いたプレゼンテーション入門コースの開発                 |
| 学生17 | D/Aコンバータの作製と音響心理実験                         |
| 学生18 | 音響に関する官能評価実験                               |
| 学生19 | 急冷による非晶質SiCの生成                             |
| 学生20 | 準安定誘起電子分光装置の製作                             |
| 学生21 | 準安定励起原子生成のための放電電源の製作                       |
| 学生22 | 電子情報技術教育の素材となる電子工作物の製作                     |
| 学生23 | 電子情報技術教育の素材となるマイコン教材の製作                    |
| 学生24 | 機能的な Web サイトの開発                            |
| 学生25 | 分散計算機環境における並列処理に関する研究                      |
| 学生26 | 並列マルチチャネルにおける誤り制御方式に関する研究                  |
| 学生27 | カメラによる樹幹分布計測                               |
| 学生28 | リモートセンシングによる黄砂観測                           |
| 学生29 | 多種の地図データ対応のWebGISシステムの構築                   |
| 学生30 | GPS搭載カメラによるWebGISへの入力システムの構築               |
| 学生31 | 遺伝子発現データ解析のための新しい属性選択手法の提案                 |
| 学生32 | 距離センサとリモコンを導入した2足歩行ロボットにおける障害物回避           |
| 学生33 | CCPSOの提案と遺伝子ネットワーク推定問題への応用                 |
| 学生34 | 自律型ロボットのための赤外線近接センサと<br>マイクロフォンを用いた環境認識の研究 |
| 学生35 | 線形計画問題に対するシンプレックス法の検討                      |
| 学生36 | デジタル画像中のナンバープレート認識に関する研究                   |
| 学生37 | ディスクレパンシー測定による点配置方法の評価                     |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-8：平成18年度卒業研究題目

## 環境都市工学科

| 学生氏名  | 研 究 題 目                     |
|-------|-----------------------------|
| 学生 1  | 確率論的手法を用いた許容不同沈下量の最適決定      |
| 学生 2  | カキ殻消石灰混合土の強度特性              |
| 学生 3  | 製紙スラッジ混合土の支持力特性             |
| 学生 4  |                             |
| 学生 5  | 製紙スラッジ混合土のコンシステンシー限界        |
| 学生 6  | 公務員試験対策用 e-Learning システムの開発 |
| 学生 7  | 重荷重用道路におけるコンクリート舗装の構造設計法の開発 |
| 学生 8  | LS-DYNAを用いた橋梁の固有値解析         |
| 学生 9  | 合成桁橋の3DCAD図面の作成について         |
| 学生 10 | 浄化槽放流水からの栄養塩類除去装置の制作        |
| 学生 12 | 浄化槽が水域に与える影響                |
| 学生 13 | 間伐材および腐葉土添加土壌による農業排水の浄化     |
| 学生 14 | 積雪特性の違いによる斜面積雪からの流出の変化について  |
| 学生 15 | 津幡町の地下水位の季節特性について           |
| 学生 16 | 降雪時平均気温と積雪密度及び降雪確率の関係について   |
| 学生 17 | 繊維補強コンクリートに関する研究            |
| 学生 18 |                             |
| 学生 19 | 常温混合アスファルトコンクリートに関する研究      |
| 学生 20 | 道路線形透視図プログラムの開発             |
| 学生 21 | 軽量骨材を用いたポーラスコンクリートに関する研究    |
| 学生 22 | 内継ぎのモルタル強度に及ぼす影響に関する研究      |
| 学生 23 | 小規模貯水池群による流量管理の精度改善に関する研究   |
| 学生 24 |                             |
| 学生 25 | パルス持続時間の払い落としに与える影響         |
| 学生 26 | フィルタ形状の払い落としに与える影響          |
| 学生 27 | エアロゾル分級用バーチャルインパクターの開発      |
| 学生 28 | PM2.5に対応したエアロゾル分級法の比較検討     |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-8：平成18年度卒業研究題目

## 建築学科

| 学生氏名 | 卒業研究テーマ                       |
|------|-------------------------------|
| 学生 1 | 園計画案一                         |
| 学生 2 | 近江町市場商店街における音環境に関する研究         |
| 学生 3 | ツの構築                          |
| 学生 4 | L*a*b*値を用いた津幡町の景観の色彩分析        |
| 学生 5 | 建築ワークショップをより良くするために           |
| 学生 6 | 視覚的模型の製作と振動機器による実験            |
| 学生 7 | PAC分析による商店街の認知構造に関する研究        |
| 学生 8 | 2次元ポテンシャル流れによる石川県河北潟の水循環の数値解析 |
| 学生 9 | 歴史的価値の活用からの考察                 |
| 学生10 | 環状線の駅                         |
| 学生11 | アンケート調査                       |
| 学生12 | 金沢市西部地区土地区画整理についての考察          |
| 学生13 | 建築家・丹下健三の初期の記述による基礎的研究        |
| 学生14 | 木造3階建ての耐震診断について               |
| 学生15 | 実験                            |
| 学生16 | 地震リスク分析について ?PML定義の考察?        |
| 学生17 | 金沢市地域総合型スポーツ施設の提案             |
| 学生18 | OPEN/CLOSE 津幡小学校建て替え計画案       |
| 学生19 | ?高松グラウンドゴルフ場付属観光・宿泊施設計画案      |
| 学生20 | 施設計画?                         |
| 学生21 | 白帆台ニュータウン分譲促進計画               |
| 学生22 | (案)                           |
| 学生23 | 老人福祉施設及び保育施設の建て替え計画           |
| 学生24 | 計画?                           |
| 学生25 | 津幡川沿いの整備および商店街の建て替え計画         |
| 学生26 | 寺中町ライブラリー計画                   |
| 学生27 | 石川県立中央児童会館建替え計画               |
| 学生28 | 研究                            |
| 学生29 | 山あいの生きられる空間提案プロジェクト           |
| 学生30 | 北陸の住宅における居住者の暖房に対する意識調査       |
| 学生31 | 旧平尾家住宅の仕様別耐震補強計画の検討           |
| 学生32 | 須須神社を巡る地域景観の研究                |
| 学生33 | 津幡町における雨水利用に関する基礎研究           |
| 学生34 | 「海の家」に関する調査                   |
| 学生35 | Oasis in town ?武蔵ヶ辻高齢者複合施設計画? |
| 学生36 | 津幡小学校建替え計画案                   |
| 学生37 | 金沢まちなか活性化支援住宅                 |
| 学生38 | 作成                            |
| 学生39 | 材料強度のばらつきを考慮した耐火性能の数値的評価      |
| 学生40 | IDAEC 石川県建築環境デザインセンター案        |
| 学生41 | 熱容量による室温変動緩和効果に関する基礎研究        |
| 学生42 | 住宅の通風計画に関する基礎研究               |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-②-9：平成18年度専攻科特別研究題目

## 電子機械工学専攻

| 学生氏名 | 特別研究題目                            |
|------|-----------------------------------|
| 学生 1 | モバイルアクセスを考慮したWebサイト構築             |
| 学生 2 | 視触覚融合情報による把持物体の認識                 |
| 学生 3 | P 2 P ネットワークを応用した情報検索に関する研究       |
| 学生 4 | 不平行ギャップを用いた非磁性板の揺れ防止              |
| 学生 5 | 能登珪藻土を利用した炭酸ガス吸収に関する研究            |
| 学生 6 | レーザーリフトオフ法による金属薄膜のパターニングとシミュレーション |
| 学生 7 | P I C 演習システムの開発                   |
| 学生 8 | ナラ類集団枯損被害のハザードマップ作成               |
| 学生 9 | L - S y s t e m による都市景観の自動生成      |
| 学生10 | D C T 変換領域における画像解像度変換手法の性能評価      |
| 学生11 | 巻糸体の圧縮力に関する研究                     |
| 学生12 | フォトニック結晶の解析                       |
| 学生13 | 変調フィルタリングを用いた映画中の音声区間検出           |
| 学生14 | 道路標示貼付シート用足形成型機の開発                |
| 学生15 | 感圧導電性編物を用いた体圧分布計測の開発              |
| 学生16 | 微結晶粒 S i C の欠陥構造に関する研究            |
| 学生17 | P L A 法による光導波路薄膜の作製及び評価           |
| 学生18 | 強化学習による歩行獲得の改善                    |

(出典：専攻科プレゼンテーションプログラムより作成)

## 資料6-1-②-9：平成18年度専攻科特別研究題目

## 環境建設工学専攻

| 学生氏名  | 特別研究題目                                            |
|-------|---------------------------------------------------|
| 学生 1  | 酸性硫酸塩土の強度定数に関する一考察                                |
| 学生 2  | 建築に関する表彰制度の基礎的研究<br>ー建築作品の社会的評価についてー              |
| 学生 3  | 間伐材を用いた農耕地からの窒素流出抑制                               |
| 学生 4  | イサム・ノグチ “PLAY GROUND project ” における政策論的視点からみる研究   |
| 学生 5  | 複数の鉄筋が配置されたコンクリート部材の剛体ーばねモデルによる解析ー                |
| 学生 6  | プレキャスト RC 舗装版の構造設計法の開発                            |
| 学生 7  | 金沢 2 1 世紀美術館における通路空間の研究                           |
| 学生 8  | 高強度コンクリートを用いたホワイトトッピング舗装の動的挙動                     |
| 学生 9  | デローニ三角分割を用いた鉄筋コンクリートはりの解析                         |
| 学生 10 | 浄化槽が水域に与える影響                                      |
| 学生 11 | アルヴァ・アールトの作品空間構成に関する研究<br>ーマイレア邸における内外空間の関係性についてー |
| 学生 12 | 不同沈下抑止工法への不同沈下の発生・収束メカニズムの適用に関する研究                |

(出典：専攻科プレゼンテーションプログラムより作成)

資料6-1-②-10：平成18年度 専攻科学生の学会発表

| 講演、*学生                                              |                                         | 電子機械工学専攻                                    |          |     |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------|----------|-----|
| 氏名                                                  | 講演題目                                    | 学会等の名称                                      | 講演年月日    | 開催地 |
| 小林 源*<br>八田 潔<br>堀 純也                               | 同軸噴流下における糸の空気<br>抗力 ～同軸噴流を利用した<br>糸の操作～ | 日本繊維機械学会<br>北陸支部発表会                         | 平17.12.2 | 金沢  |
| 堀 純也<br>松下 伸二*<br>八田 潔                              | 巻糸体形成時における糸層の<br>圧縮                     | 日本繊維機械学会<br>第58回年次大会                        | 平17.5.26 | 大阪  |
| 南村 真吾*<br>橋本 稔+<br>櫻野 仁志                            | 内灘風力発電所における冬季<br>雷放電の観測(その2)            | 電気設備学会全国<br>大会                              | 平17.9.8  | 多賀城 |
| 南村 真吾*<br>櫻野 仁志<br>橋本 稔+                            | 風力発電ブレードへの落雷様<br>相について                  | 平成17年度電気関<br>係学会北陸支部連<br>合大会                | 平17.9.24 | 津幡  |
| 中西 大介*<br>櫻野 仁志                                     | 低温利用による熱電発電の基<br>礎研究                    | 平成17年度電気関<br>係学会北陸支部連<br>合大会                | 平17.9.24 | 津幡  |
| 深見 哲男<br>小熊 航介*<br>岡本 翼*                            | 石川高専におけるUHFTV周波<br>数帯の電磁波環境の測定          | 平成17年度電気関<br>係学会北陸支部連<br>合大会(C-16)          | 平17.9.24 | 津幡  |
| 中平 知映*<br>山田 悟<br>大坪 茂<br>金谷 信宏+<br>川江 健+<br>森本 章治+ | LiNbO3光導波路の光伝搬損<br>失シミュレーション            | 平成18年度応用物<br>理学会北陸・信越支<br>部学術講演会            | 平17.12.8 | 長野  |
| 山村 徹*<br>竹森 大輔*<br>森田 義則                            | MATLABによる手領域の検出<br>とその応用                | 平成17年度北陸地<br>区学生による研究発<br>表会講演論文集,F-<br>12  | 平18.3.11 | 富山  |
| 福田 寛*<br>森田 義則<br>徳井 直樹                             | ハードウェアによる手領域の検<br>出                     | 平成17年度北陸地<br>区学生による研究発<br>表会講演論文集, F-<br>13 | 平18.3.11 | 富山  |
| 橋本 哲幸*<br>河合 康典                                     | 磁気浮上システムの製作とPID<br>制御による制御系設計に関する<br>研究 | 平成17年度北陸地<br>区学生による研究発<br>表会                | 平18.3.11 | 富山  |
| 原 吉宏*<br>白山 政敏                                      | 進化型移動ロボットのwebotsへ<br>の適用                | 平成17年度北陸地<br>区学生による研究発<br>表会                | 平18.3.11 | 富山  |

注) \*印は学生を示す。

(出典：石川工業高等専門学校紀要 第39号 抜粋)



資料6-1-②-10：平成18年度 専攻科学生の学会発表

| 講演、*学生                           |                                          | 電子機械工学専攻                   |           |     |
|----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------|-----------|-----|
| 氏名                               | 講演題目                                     | 学会等の名称                     | 講演年月日     | 開催地 |
| 山道 真弘*<br>白山 政敏                  | 改良制御木を利用した移動ロボットの自律走行制御                  | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 岡野 修一<br>福田 知世*<br>山城 準+         | Cu <sub>2</sub> O/n-Siヘテロ接合の光起電力効果       | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会       | 平17.9.24  | 津幡  |
| 岡野 修一<br>平野 晃朗*                  | 非接触型ICカードを利用したネットワーク情報管理システム             | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 濱口 裕樹+<br>山本 泰久*<br>竹下 哲義        | SiC微結晶粒中の欠陥解析                            | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会       | 平17.9.24  | 津幡  |
| 山本 泰久*<br>竹下 哲義                  | 立方晶SiC中に存在する欠陥の構造                        | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 松森 清直*<br>竹下 哲義                  | Siフォトニック結晶中の線欠陥導波路                       | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 瀬戸 寿美枝*<br>奥田 浩司                 | 文学と音楽が刺激する感性データの解析                       | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 高領 博典*<br>山田 洋士                  | デジタルフィルタ設計プログラム集DF-DesignのWeb版のインタフェース改善 | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会       | 平17.9.25  | 津幡  |
| 宮西 亜弥子*<br>山田 洋士                 | 能動騒音制御装置の試作と消音性能の向上                      | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会       | 平17.9.25  | 津幡  |
| 高領 博典*<br>山田 洋士<br>J. P. Frantz+ | Connexionsプロジェクトの紹介とDSP教育用コンテンツの開発       | 第20回信号処理シンポジウム             | 平17.11.16 | 高知  |
| 岡田 雅司*<br>山田 洋士                  | 離散周波数点での推定法の利用による高速・高性能なANCの提案           | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会       | 平18.3.11  | 富山  |
| 酒井 大輔*<br>長岡 健一                  | ピアツーピアネットワークによるインターネットキャッシュファイル共有システムの開発 | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会       | 平17.9.24  | 津幡  |
| 長岡 健一<br>酒井 大輔*<br>小松 雅治+        | P2Pネットワークを用いた Web コンテンツ到達性の検証            | 電子情報通信学会総合大会               | 平18.3.25  | 東京  |
| 寺尾 康宏*<br>越野 亮                   | 多状態実時間探索手法のルービックキューブへの適用                 | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会, F-71 | 平17.9.24  | 津幡  |
| 大谷 隆浩*<br>越野 亮<br>白山 政敏          | DNA配列決定問題におけるアントコロニー最適化の適用               | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会, F-72 | 平17.9.25  | 津幡  |

注) \*印は学生を示す。

(出典：石川工業高等専門学校紀要 第39号 抜粋)

資料6-1-②-10：平成18年度 専攻科学生の学会発表

| 講演、*学生                  |                              | 電子機械工学専攻                        |          |     |
|-------------------------|------------------------------|---------------------------------|----------|-----|
| 氏名                      | 講演題目                         | 学会等の名称                          | 講演年月日    | 開催地 |
| 山本 悠介*<br>越野 亮<br>白山 政敏 | ブラックショールズモデルによるオプション価格に関する検討 | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会, F-90      | 平17.9.25 | 津幡  |
| 石畠 正和*<br>越野 亮          | 制約付き非線形関数最適化におけるPSOの適用       | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会講演論文集, p123 | 平18.3.11 | 富山  |
| 大谷 隆浩*<br>越野 亮<br>白山 政敏 | DNA配列決定問題におけるアントコロニー最適化の適用   | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会講演論文集, p124 | 平18.3.11 | 富山  |
| 寺尾 康宏*<br>越野 亮          | タブー探索による時間割自動編成システムの開発       | 平成17年度北陸地区学生による研究発表会講演論文集, p125 | 平18.3.11 | 富山  |
| 丹羽 勝三*<br>河村 泰之         | 勢力圏図の応用に関する研究                | 平成17年度電気関係学会北陸支部連合大会, F-89      | 平17.9.25 | 津幡  |

注) \*印は学生を示す。

(出典：石川工業高等専門学校紀要 第39号 抜粋)

資料6-1-②-10：平成18年度 専攻科学生の学会発表

| 講演、*学生                                                 |                                      | 環境建設工学専攻           |           |     |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------|-----------|-----|
| 氏名                                                     | 講演題目                                 | 学会等の名称             | 講演年月日     | 開催地 |
| 北口 航*<br>西澤 辰男<br>宮崎 清隆+<br>水倉 一夫+                     | トンネル内のプレキャストRC 舗装構造の温度応力             | 土木学会年次学術講演会        | 平17.9.8   | 東京  |
| 竹津 ひとみ*<br>西澤 辰男                                       | 超薄層ホワイトトッピング舗装の力学的挙動に及ぼす目地配置の影響      | 土木学会年次学術講演会        | 平17.9.8   | 東京  |
| 竹津 ひとみ*<br>西澤 辰男                                       | 高強度コンクリートを用いたホワイトトッピング構造におけるパネル形状の影響 | 土木学会中部支部研究発表会      | 平18.3.3   | 岐阜  |
| 北口 航*<br>西澤 辰男                                         | トンネル内プレキャストRC舗装の構造設計法の開発             | 土木学会中部支部研究発表会      | 平18.3.3   | 岐阜  |
| 重松 宏明<br>池村 太伸*<br>東 真吾+<br>澤本 洋平+<br>川端 将仁+<br>能澤 真周  | 黄鉄鉱の酸化に伴う硫酸の生成が粘性土地盤の土質特性に及ぼす影響      | 第40回地盤工学研究発表会      | 平17.7.5-8 | 函館  |
| 重松 宏明<br>小田 憲一*<br>能澤 真周<br>東野 友樹+<br>池田 典弘+<br>田崎 宏+  | ホタテ貝殻破砕材のグラウンド表層材への有効利用について          | 第40回地盤工学研究発表会      | 平17.7.5-8 | 函館  |
| 樋口 恵美子*<br>小田 憲一*<br>重松 宏明<br>能澤 真周<br>池田 典弘+<br>田崎 宏+ | グラウンド表層材の透水性を考慮した貝殻の有効利用             | 土木学会中部支部研究発表会講演概要集 | 平18.3.3   | 岐阜  |
| 池村 太伸*<br>杉野 竜一*<br>重松 宏明                              | 酸性硫酸塩土の強度定数について                      | 土木学会中部支部研究発表会講演概要集 | 平18.3.3   | 岐阜  |
| 重松 宏明<br>西木 佑輔*<br>池村 太伸*<br>杉野 竜一*                    | ホタテ貝殻を利用した酸性硫酸塩土の改良効果                | 土木学会中部支部研究発表会講演概要集 | 平18.3.3   | 岐阜  |

注) \*印は学生を示す。

(出典：石川工業高等専門学校紀要 第39号 抜粋)

資料6-1-②-10：平成18年度 専攻科学生の学会発表

| 講演、*学生                    |                                                                 | 環境建設工学専攻                             |         |     |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------|-----|
| 氏名                        | 講演題目                                                            | 学会等の名称                               | 講演年月日   | 開催地 |
| 小島 徹也*<br>鈴木 洋之<br>石田 享平+ | 流出モデルと貯水位平滑化<br>フィルタを用いたダム流入量推<br>定法の検討                         | 土木学会中部支部<br>研究発表会講演概<br>要集,pp165-166 | 平18.3.3 | 岐阜  |
| 熊澤 栄二<br>川田 俊彦*           | 建築家 前川國男が主題として<br>扱った課題の考察 ii —建築家<br>前川國男の建築的思想に関す<br>る基礎的研究2— | 日本建築学会大会                             | 平17.9.1 | 東大阪 |
| 熊澤 栄二<br>池上 岳志*           | 「寺家キリコ祭り」を通して見る<br>景観に関する研究V—須須神<br>社をめぐる歴史的事象につい<br>て—         | 日本建築学会大会                             | 平17.9.1 | 東大阪 |
| 熊澤 栄二<br>折坂 智美*           | イサム・ノグチ“PLAY<br>GROUND”の景観論的研究II                                | 日本建築学会大会                             | 平17.9.1 | 東大阪 |
| 川島 洋一*<br>内田 伸            | ハンズ・オン・ワークショップに<br>よる建築設計教育                                     | 2005年日本建築学<br>会大会(近畿)教育<br>部門・研究懇談会  | 平17.9.2 | 東大阪 |

注) \*印は学生を示す。

(出典：石川工業高等専門学校紀要 第39号 抜粋)

資料6-1-②-11：学生の表彰状況の一覧

## 表彰学生数

| 区分     | 学業成績優秀 | 皆勤 | 課外活動 |    | 模範・功労 |
|--------|--------|----|------|----|-------|
|        |        |    | グループ | 個人 |       |
| 平成15年度 | 7      | 17 | 1    | 2  | 5     |
| 平成16年度 | 7      | 20 | 2    | 2  | 2     |
| 平成17年度 | 7      | 16 | 4    | 4  | 12    |
| 平成18年度 | 7      | 20 | 1    | 3  | 17    |

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由) 学生が卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに配置された授業科目の単位取得状況, 進級の状況, 卒業(修了)時の状況, 資格取得の状況, あるいは準学士課程・卒業研究, 専攻科課程・特別研究, 卒業制作などの内容・水準から判断して, 各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について, 教育の成果や効果が十分に上がっている。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

本校では、卒業生は約 60%が就職し、約 40%が進学しており、進路未定者は非常に少ない。就職先（資料 6-1-③-1）を産業別に分類すれば（資料 6-1-③-5）、製造業、運輸・通信・情報、電気・ガス・水道、各種技術サービス等であり、各学科の養成する人物像や専門性が活かされる職種である。また、進学先（資料 6-1-③-2）も、各学科の養成する人物像や専門性が活かされる本校専攻科および大学である。

修了生は約 70%が就職し、約 30%が進学する（既出資料 6-1-②-4）。就職先（資料 6-1-③-3）および進学先（資料 6-1-③-4）は各専攻の養成する人物像や専門性が活かされる進路先である。

就職先を地域別に分類すれば、卒業（修了）生は北陸地区すなわち地元へ就職する割合が高い（資料 6-1-③-5）。

卒業（修了）生の進路状況は、本校の養成する人物像と一致しており、教育成果や効果が上がっていることを示す。

- 資料 6-1-③-1：平成 18 年度 準学士課程卒業後の進路状況（就職先）
- 資料 6-1-③-2：平成 18 年度 準学士課程卒業後の進路状況（進学先）
- 資料 6-1-③-3：平成 18 年度 専攻科課程修了後の進路状況（就職先）
- 資料 6-1-③-4：平成 18 年度 専攻科課程修了後の進路状況（進学先）
- 資料 6-1-③-5：平成 18 年度 産業別就職状況

資料6-1-③-1：平成18年度 準学士課程卒業後の進路状況（就職先）

| 準学士課程卒業生就職先              |                  |                          |              |               |
|--------------------------|------------------|--------------------------|--------------|---------------|
| 機械工学科                    | 電気工学科            | 電子情報工学科                  | 環境都市工学科      | 建築学科          |
| シャープ(株)                  | 中部電力(株)          | 富士ゼロックス(株)               | 国土交通省        | (株)ジェイ・アイ・エヌ  |
| (株)サン・アロイ                | (株)笠間製本印刷        | (株)ユーコム                  | 鈴木管工業(株)     | YKK AP(株)     |
| ソニーイーエムシーエス(株) 一宮テック     | 日本フィルター工業(株)     | 警視庁警察官(Ⅱ類)               | (株)クリタス      | 前田建設工業(株)     |
| 出光興産(株)                  | (株)ウィル・コーポレーション  | 中部電力(株)                  | 清水建設(株) 北陸支店 | シンコール(株)      |
| ソニーケミカル&インフォメーションデバイス(株) | 東海旅客鉄道(株)        | (株)KDDIテクノカルエンジニアリングサービス | 積和建設北陸(株)    | サンウェーブ工業(株)   |
| (株)サン・アロイ                | ソニーケミカル&インフォ     | 富士ソフトABC(株)              | (株)グラフィック    | (株)近藤工務店      |
| 澁谷工業(株)                  | ニッコー(株)          | (株)別川製作所                 | 前田道路(株)      | 亀山建設(株)       |
| パナソニックエレクトロニクスデバイス富山(株)  | 北陸電力(株)          | ヤフー(株)                   | (株)ホクエツ      | 東建コーポレーション(株) |
| 三菱重工業(株)横浜製作所            | (株)中日新聞社         | 西日本旅客鉄道(株)               | 鈴木管工業(株)     | (株)オーバス       |
| (株)ウィル・コーポレーション          | (株)リニアサーキット      | (株)別川製作所                 | 大林道路(株)      | (株)柿安本店       |
| 日清紡(株)立林事業所              | (株)別川製作所         | (株)コスモサミット               | 石川県庁         | 真柄建設(株)       |
| 富士重工業(株)                 | 伸晃化学(株)          | リコーテクノシステムズ(株)           | 日本たばこ産業(株)   | (株)大林組        |
| (株)日平トヤマ                 | ソニーEMCS(株) 長野テック | 自営                       | 金沢市役所        | 西日本旅客鉄道(株)    |
| (株)タクマ                   | ムラテックC.C.S(株)    | 東海旅客鉄道(株)                | (株)国土開発センター  | ダイダシ(株)       |
| フジテック(株)                 | 金沢大学(技術職員)       | ソニーEMCS(株) 長野テック         | (株)日構シーエスエス  | 小西設計          |
| (株)日産テクノ                 | (株)東芝 府中工場       | 西日本電信電話(株)               | 三建設備工業(株)    | (株)金沢商行       |
| 大同工業(株)                  | 関西電力(株)          | (株)ユーコム                  | 中部地質(株)      | 日立ハウステック(株)   |
| キリンビール(株) 北陸工場           | (株)不二越           | (株)金沢村田製作所               |              | (株)オンテックス     |
| デンソーテクノ(株)               |                  | 日立INSソフトウェア(株)           |              | 真柄建設          |
| (株)JAL航空機整備成田            |                  | アール・ビー・コントロールズ(株)        |              | (株)スタジオ・エム    |
| (株)日立ビルシステム              |                  |                          |              | 大和ハウス工業(株)    |
| (株)東京アールアンドデー            |                  |                          |              |               |
| 中村留精密工業(株)               |                  |                          |              |               |
| (株)コマツ                   |                  |                          |              |               |
| (株)日立ハウステック 富山工場         |                  |                          |              |               |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-③-2：平成18年度 準学士課程卒業後の進路状況（進学先）

| 準学士課程卒業生進学先 |          |           |         |                      |
|-------------|----------|-----------|---------|----------------------|
| 機械工学科       | 電気工学科    | 電子情報工学科   | 環境都市工学科 | 建築学科                 |
| 豊橋技科大学      | 長岡技術科学大学 | 東京工業大学    | 長岡技科大   | 信州大学                 |
| 石川高専専攻科     | 金沢大学     | 石川高専専攻科   | 岐阜大     | 東京基督教大学              |
| 豊橋技科大学      | 金沢大学     | 金沢大学工学部   | 石川高専専攻科 | (留学)ウエスタンウンカレッジ(カナダ) |
| 長岡技科大学      | 九州大学     | 豊橋技術科学大学  | 石川高専専攻科 | 立命館大学                |
| 長岡技科大学      | 金沢大学     | 金沢大学工学部   | 石川高専専攻科 | 三重大学                 |
| 電気通信大学      | 石川高専専攻科  | 金沢大学工学部   | 石川高専専攻科 | 石川高専 専攻科             |
| 金沢大学        | 石川高専専攻科  | 富山大学工学部   | 石川高専専攻科 | 豊橋技術科学大学             |
| 石川高専専攻科     | 石川高専専攻科  | 長岡技術科学大学  | 長岡技科大   | 新潟大学                 |
| 富山大学        | 筑波大学     | 石川高専専攻科   | 石川高専専攻科 | 豊橋技術科学大学             |
| 石川高専専攻科     | 石川高専専攻科  | 立命館大学理工学部 | 金沢大学    | 石川高専専攻科              |
| 富山県立大学      | 石川高専専攻科  | 富山大学工学部   |         | 新潟大学                 |
| 豊橋技科大学      | 長岡技術科学大学 | 石川高専専攻科   |         | 千葉大学                 |
| 石川高専専攻科     | 富山大学     | 石川高専専攻科   |         | 石川高専専攻科              |
| 石川高専専攻科     | 石川高専専攻科  | 石川高専専攻科   |         | 石川高専専攻科              |
| 金沢大学        | 金沢大学     | 金沢大学工学部   |         | 前橋工科大学               |
|             | 石川高専専攻科  | 豊橋技術科学大学  |         | 金沢ビューティーカレッジ         |
|             | 豊橋技術科学大学 | 電気通信大学    |         | 千葉大学                 |
|             |          |           |         | 豊橋技術科学大学             |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-③-3：平成18年度 専攻科課程修了後の進路状況（就職先）

| 専攻科課程修了生就職先           |                |
|-----------------------|----------------|
| 電子機械工学専攻              | 環境建設工学専攻       |
| 日立国際電気(株)             | (株)ガイアートT・K    |
| 北国新聞社                 | (株)トスマクアイ      |
| 沖通信システム(株)            | (株)エース         |
| (財)北陸電力保安協会           | (株)セイシン企業      |
| 高松機械工業(株)             | JA 金沢          |
| 旭化成(株)                | (株)中研コンサルタント   |
| (株)ソディックプラステック        | 瀬戸設計           |
| (株)ウイル・コーポレーション       | (株)長村建築事務所     |
| 日本コムシス(株)             | ミサワホームイング東京(株) |
| オムロン・フィールドエンジニアリング(株) |                |
| 伸晃化学(株)               |                |
| (株)日立プラントテクノロジー       |                |
| 東京コンピュータサービス(株)       |                |
| ソーバル(株)               |                |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-③-4：平成18年度 専攻科課程修了後の進路状況（進学先）

| 専攻科課程修了生進学先       |           |
|-------------------|-----------|
| 電子機械工学専攻          | 環境建設工学専攻  |
| 大阪大学大学院           | 金沢大学大学院   |
| 北陸先端科学技術大学院大学     | 京都府立大学大学院 |
| アミューズメント・メディア総合学院 | 金沢大学大学院   |
| 金沢大学 大学院          |           |

(出典：学生課保管資料)

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（準学士課程）

## 就職状況（機械工学科）

## （業種別）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 1      | 0      | 2      | 1      |
| 食品       | 0      | 1      | 2      | 1      |
| 金属工業     | 1      | 3      | 0      | 1      |
| 非鉄金属     | 0      | 1      | 1      | 2      |
| 鉄鋼業      | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 一般機械     | 12     | 2      | 8      | 5      |
| 電気機器     | 2      | 2      | 3      | 3      |
| 輸送機器     | 0      | 1      | 3      | 4      |
| 精密機器     | 1      | 2      | 1      | 1      |
| 卸売・小売業   | 1      | 0      | 0      | 0      |
| 運輸通信     | 1      | 0      | 0      | 0      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 0      | 0      |
| サービス業    | 0      | 1      | 4      | 1      |
| その他      | 2      | 2      | 5      | 5      |
| 合計       | 21     | 15     | 29     | 25     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 9      | 9      | 17     |
| 関東地区 | 6      | 2      | 6      |
| 関西地区 | 5      | 0      | 2      |
| 中京地区 | 0      | 4      | 3      |
| その他  | 1      | 0      | 1      |
| 合計   | 21     | 15     | 29     |

（出典：学生課保管資料）



## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（準学士課程）

## 就職状況（電気工学科）

## （業種別）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 5      | 2      | 1      | 1      |
| 一般機械     | 5      | 2      | 3      | 2      |
| 電気機器     | 6      | 4      | 0      | 3      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 2      | 1      |
| 運輸通信     | 1      | 3      | 2      | 1      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 3      | 4      | 3      |
| サービス業    | 0      | 3      | 1      | 0      |
| その他      | 4      | 2      | 6      | 7      |
| 合計       | 21     | 19     | 19     | 18     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 10     | 11     | 14     |
| 関東地区 | 6      | 4      | 2      |
| 関西地区 | 1      | 1      | 0      |
| 中京地区 | 3      | 2      | 2      |
| その他  | 1      | 1      | 1      |
| 合計   | 21     | 19     | 19     |

（出典：学生課保管資料）

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（準学士課程）

## 就職状況（電子情報工学科）

## （業種別）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 印刷       | 2      | 0      | 0      | 0      |
| 一般機械     | 2      | 1      | 2      | 0      |
| 電気機器     | 5      | 9      | 5      | 3      |
| 輸送機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 運輸通信     | 3      | 2      | 4      | 9      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 0      | 1      |
| サービス業    | 1      | 6      | 0      | 1      |
| 公務員      | 0      | 0      | 0      | 1      |
| その他      | 3      | 2      | 6      | 4      |
| 合計       | 16     | 20     | 17     | 19     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 9      | 7      | 7      |
| 関東地区 | 3      | 12     | 6      |
| 関西地区 | 2      | 0      | 1      |
| 中京地区 | 2      | 1      | 2      |
| その他  | 0      | 0      | 1      |
| 合計   | 16     | 20     | 17     |

（出典：学生課保管資料）

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（準学士課程）

## 就職状況（環境都市工学科）

## （業種別）

| 業種区分          | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業（専門工事業）    | 11     | 7      | 13     | 13     |
| 建設業（コンサルタント業） | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 鉄鋼業           | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 運輸・通信         | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 電気・ガス・水道      | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 官公庁・公団        | 0      | 0      | 2      | 3      |
| その他           | 9      | 8      | 8      | 1      |
| 合計            | 20     | 18     | 23     | 17     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 18     | 16     | 12     |
| 関東地区 | 1      | 1      | 7      |
| 関西地区 | 0      | 0      | 2      |
| 中京地区 | 0      | 0      | 0      |
| その他  | 1      | 1      | 2      |
| 合計   | 20     | 18     | 23     |

（出典：学生課保管資料）

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（準学士課程）

## 就職状況（建築学科）

## （業種別）

| 業種区分     | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業      | 15     | 13     | 13     | 17     |
| 食品       | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 金属工業     | 0      | 0      | 0      | 1      |
| 非鉄金属     | 1      | 2      | 0      | 0      |
| 鉄鋼業      | 0      | 1      | 0      | 0      |
| 一般機械     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 電気機器     | 0      | 1      | 1      | 0      |
| 輸送機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 精密機器     | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 卸売・小売業   | 0      | 0      | 2      | 0      |
| 運輸通信     | 0      | 0      | 2      | 1      |
| 電気・ガス・水道 | 0      | 0      | 1      | 0      |
| サービス業    | 0      | 2      | 0      | 0      |
| その他      | 11     | 4      | 4      | 1      |
| 合計       | 27     | 23     | 23     | 21     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 20     | 15     | 18     |
| 関東地区 | 4      | 3      | 2      |
| 関西地区 | 3      | 3      | 3      |
| 中京地区 | 0      | 2      | 0      |
| その他  | 0      | 0      | 0      |
| 合計   | 27     | 23     | 23     |

（出典：学生課保管資料）

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（専攻科課程）

## 就職状況（電子機械工学専攻）

## （業種別）

| 業種区分  | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 一般機械  | 1      | 5      | 2      | 2      |
| 電気機械  | 4      | 2      | 5      | 0      |
| 輸送機器  | 0      | 0      | 3      | 0      |
| 精密機器  | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 運輸通信  | 0      | 0      | 1      | 5      |
| サービス業 | 3      | 4      | 1      | 1      |
| その他   | 2      | 3      | 2      | 6      |
| 合計    | 10     | 14     | 14     | 14     |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 7      | 9      | 9      |
| 関東地区 | 2      | 1      | 3      |
| 関西地区 | 0      | 1      | 1      |
| 中京地区 | 1      | 2      | 0      |
| その他  | 0      | 1      | 1      |
| 合計   | 10     | 14     | 14     |

（出典：学生課保管資料）

## 資料6-1-③-5：平成18年度 産業別就職状況（専攻科課程）

## 就職状況（環境建設工学専攻）

## （業種別）

| 業種区分  | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業   | 5      | 4      | 5      | 7      |
| 食品    | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 非鉄金属  | 0      | 0      | 1      |        |
| サービス業 | 1      | 0      | 1      |        |
| 公務員   | 0      | 1      | 1      |        |
| その他   | 0      | 0      | 1      | 2      |
| 合計    | 6      | 5      | 9      | 9      |

## （地域別）

| 地域区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 北陸地区 | 4      | 3      | 5      |
| 関東地区 | 2      | 1      | 2      |
| 関西地区 | 0      | 0      | 2      |
| 中京地区 | 0      | 1      | 0      |
| その他  | 0      | 0      | 0      |
| 合計   | 6      | 5      | 9      |

（出典：学生課保管資料）

## （分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）後の進路先は、学生が希望する企業や大学であり、教育の目的において意図する能力を十分に活用できる企業や大学である。また、地元企業への就職割合が高い。この観点から、教育の目的において意図している養成しようとする人物像等について、就職や進学等の卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では，学生が行う学習達成度評価に関しては，平成 18 年度の卒業（修了）時に卒業（修了）生に対し，卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について，学習目標達成度調査（資料 6-1-④-1, 2）を実施している。

卒業生の分析結果（資料 6-1-④-3）から，卒業生は，おおむね高い評価をしている。特に，機械工学科卒業生では，準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力 2 の「意欲的・実践的に，ものづくりや課題の解決に最後まで取組むことができる。」について，4 点満点評価中，3 点以上と高い評価をしている。

修了生の分析結果（資料 6-1-④-4）から，修了生も，おおむね高い評価をしている。特に，環境建設工学専攻修了生では，修了時に身に付けるべき学力や資質・能力 B の「問題を発見・提起し，習得した技術に関する知識や理論によって解析し，解決までできる。」および E の「チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ，論理的な記述・発表ができる。」について 3 点以上と高い評価をしている。修了生全員についても，E の評価は 3 点以上と高い。ただし，C の「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち，社会や自然環境に配慮できる」についての評価はやや低い。

- 資料 6-1-④-1：学生が行う卒業時点での学習目標達成度調査
- 資料 6-1-④-2：学生が行う修了時点での学習目標達成度調査
- 資料 6-1-④-3：学習目標達成度の分析【平成 18 年度準学士課程卒業生】
- 資料 6-1-④-4：学習目標達成度の分析【平成 18 年度専攻科課程卒業生】

## 資料6-1-④-1：学生が行う卒業時点での学習目標達成度調査

(学習目標の達成状況について)

自分自身として以上の学習目標が達成できたと感じているかどうかについて教えてください。各学習目標の達成状況について4段階で判定してください。

(2-1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身に付ける。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(出典：卒業予定者アンケート (2007.3) から抜粋)



## 資料6-1-④-2：学生が行う修了時点での学習目標達成度調査

(学習目標の達成状況について)

自分自身として以上の学習目標が達成できたと感じているかどうかについて教えてください。各学習目標の達成状況について4段階で判定してください。

(2-A) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-B) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-C) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-D) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(2-E) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. まったく達成されていない | 2. あまり達成されていない |
| 3. やや達成されている    | 4. 十分に達成されている  |

(出典：修了予定者アンケート (2007.3) から抜粋)

## 資料6-1-④-3：学習目標達成度の分析【平成18年度準学士課程卒業生】

## ①機械工学科

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.8 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 3.1 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 3   |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 3   |

## ②電気工学科

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.4 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 2.7 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 2.6 |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 2.6 |

## ③電子情報工学科

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.5 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 2.7 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 2.7 |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 2.6 |

(出典：卒業予定者アンケート (2007.3) 結果)

## 資料6-1-④-3：学習目標達成度の分析【平成18年度準学士課程卒業生】

## ④環境都市工学科

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.6 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 2.9 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 2.7 |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 2.7 |

## ⑤建築学科

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.6 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 2.8 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 2.7 |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 2.7 |

## ⑥全学科合計

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力                    | 平均値 |
|----------------------------------------|-----|
| 1 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           | 2.6 |
| 2 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 | 2.8 |
| 3 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        | 2.7 |
| 4 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       | 2.7 |

(出典：卒業予定者アンケート (2007.3) 結果)

## 資料6-1-④-4：学習目標達成度の分析【平成18年度専攻科課程卒業生】

## ①電子機械工学専攻

| 専攻科・修了時に身につけるべき学力や資質・能力                         | 平均値 |
|-------------------------------------------------|-----|
| A 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。 | 2.9 |
| B 問題を発見・提起し、習得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。     | 2.7 |
| C 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。        | 2.2 |
| D 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に接触的に対処できる。         | 2.8 |
| E チームプロジェクト等を遂行するために必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。   | 2.8 |

## ②環境建設工学専攻

| 専攻科・修了時に身につけるべき学力や資質・能力                         | 平均値 |
|-------------------------------------------------|-----|
| A 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。 | 2.7 |
| B 問題を発見・提起し、習得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。     | 3.1 |
| C 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。        | 2.2 |
| D 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に接触的に対処できる。         | 2.8 |
| E チームプロジェクト等を遂行するために必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。   | 3.3 |

## ③両専攻科合計

| 専攻科・修了時に身につけるべき学力や資質・能力                         | 平均値 |
|-------------------------------------------------|-----|
| A 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。 | 2.8 |
| B 問題を発見・提起し、習得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。     | 2.9 |
| C 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。        | 2.2 |
| D 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に接触的に対処できる。         | 2.8 |
| E チームプロジェクト等を遂行するために必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。   | 3.1 |

(出典：修了予定者アンケート (2007. 3) 結果)

(分析結果とその根拠理由)

学生が行う学習達成度調査の達成状況を確認した結果、準学士課程および専攻科課程ともに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は、4点満点評価中、全体平均で2.7点以上の評価が得られていることから、学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。ただし、修了生によるアンケート結果では、専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力Cの「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる」の語学力については2.5点以下となっている。この点については、英語力向上のため、専攻科委員会で修了要件の改善を検討した（資料6-1-④-5）。

□ 資料6-1-④-5：専攻科委員会の記録・抜粋

## 資料6-1-④-5：専攻科委員会の記録・抜粋

平成19年3月7日

専攻科委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第12回専攻科委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

## 記

日 時 平成19年2月23日（金） 17時00分から19時15分

場 所 第1小会議室

出席者 櫻野，森田義，小泉，松崎，山田洋，船戸，鈴木久（室屋，津島，小森）

## 協議事項

## 2. その他

## ③JABEE 中間審査に向けての取組について

委員長から、前委員会終了後に全教員へ照会した「総合評価／外部評価」についての各科からの意見報告があった。

協議の結果、平成20年度専攻科入学生から適用とし、創造工学プログラムを修了するには TOIEC 400点相当（TOIEC 375点以上、英語検定2級、工業英語3級）が必要であることを平成19年度に受検する学生に周知することとなった。

併せて、専攻科入試の推薦基準に TOIEC スコアの必要最低点などは設けないが、修了するには上記点数が必要であることをふまえ、各学科は責任を持って推薦することとなった。

学会等外部発表は専攻科の修了要件に含めることとし、平成19年度から「専攻科履修の手引き」へ明記することが了承された。

また、外部発表の一環として特別研究Ⅱの発表会を技術振興交流会などの企業の方に公開する方向で検討することとなった。

以上

(出典：学生課保管資料)

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では、平成 16 年度卒業生および平成 15～17 年度修了生に対して、学校として明確にしている卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、どの程度身に付いているかを中心にアンケート調査を実施している（資料 6-1-⑤-1, 2）。このほか、平成 16 年度卒業生および平成 15～17 年度修了生の就職先企業に対しても、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、どの程度身に付いているかを中心にアンケート調査を実施している。

#### 1) 卒業（修了）生によるアンケート結果

卒業（修了）生によるアンケート結果（資料 6-1-⑤-3, 4）から、修了生は、修了時に身に付けるべき学力や資質・能力 C の「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる」の語学力および D の「実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる」の地域の課題への積極的な対処について、4 点満点評価中、2 点を下まわる厳しい評価をしている。この項目以外では、卒業生および修了生は、おおむね 2.4 以上と高い評価をしている。

- 資料 6-1-⑤-1：卒業生による学習目標達成度アンケート
- 資料 6-1-⑤-2：修了生への学習目標達成度アンケート
- 資料 6-1-⑤-3：卒業生による学習目標達成度評価結果
- 資料 6-1-⑤-4：修了生による学習目標達成度評価結果

## 資料6-1-⑤-1：卒業生による学習目標達成度アンケート

## 4. 学習目標の達成状況（教育の成果）について

卒業時点を振り返って、みなさん自身が本校の学習目標を達成できていたかどうかについてお答えください。各学習目標の達成状況について「1. まったく達成されていない」から「4. 十分に達成されている」まで4段階で判定し、該当する番号を○で囲んでください。

## (4-1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身に付ける。

←達成されていない 達成されている→

|       |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|
| 基礎学力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 専門的知識 | 1 | 2 | 3 | 4 |

## (4-2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。

←達成されていない 達成されている→

|            |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|
| 課題解決への意欲   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 課題解決への粘り強さ | 1 | 2 | 3 | 4 |

## (4-3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。

←達成されていない 達成されている→

|               |   |   |   |   |
|---------------|---|---|---|---|
| 考え方の幅広さ       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分の立場の理解      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 社会問題や環境問題への配慮 | 1 | 2 | 3 | 4 |

## (4-4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

←達成されていない 達成されている→

|             |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|
| 自分の考えの正確な表現 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 公正な意見の交換    | 1 | 2 | 3 | 4 |

(出典：学生課保管資料)



## 資料6-1-⑤-2：修了生による学習目標達成度アンケート

## 4. 学習目標の達成状況（教育の成果）について

専攻科修了時点を振り返って、みなさん自身が本校専攻科の学習目標を達成できていたかどうかについてお答えください。各学習目標の達成状況について「1. まったく達成されていない」から「4. 十分に達成されている」まで4段階で判定し、該当する番号を○で囲んでください。

(4-A) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。

|            |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|
| デザインと創造の喜び | 1 | 2 | 3 | 4 |
| たゆまず努力する姿勢 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(4-B) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。

|          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 問題の発見や提起 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 課題の解析    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 課題の解決力   | 1 | 2 | 3 | 4 |

(4-C) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。

|             |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|
| 教養          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 語学力         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 社会や自然環境への配慮 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(4-D) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。

|               |   |   |   |   |
|---------------|---|---|---|---|
| 実践的な体験        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 地域の課題への積極的な対処 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(4-E) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

|            |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|
| プロジェクトの計画性 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 論理的な記述     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 論理的な発表     | 1 | 2 | 3 | 4 |

(出典：学生課保管資料)

資料6-1-⑤-3：卒業生による学習目標達成度評価結果

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力 |                                      | 平均値 |
|---------------------|--------------------------------------|-----|
| 1                   | 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           |     |
| 1-1                 | 基礎学力                                 | 2.6 |
| 1-2                 | 専門的知識                                | 2.7 |
| 学習目標1の総合的達成度        |                                      | 2.7 |
| 2                   | 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 |     |
| 2-1                 | 課題解決への意欲                             | 2.8 |
| 2-2                 | 課題解決への粘り強さ                           | 2.7 |
| 学習目標2の総合的達成度        |                                      | 2.8 |
| 3                   | 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        |     |
| 3-1                 | 考え方の幅広さ                              | 2.5 |
| 3-2                 | 自分の立場の理解                             | 2.7 |
| 3-3                 | 社会問題や環境問題への配慮                        | 2.6 |
| 学習目標3の総合的達成度        |                                      | 2.6 |
| 4                   | 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       |     |
| 4-1                 | 自分の考えの正確な表現                          | 2.5 |
| 4-2                 | 公正な意見の交換                             | 2.5 |
| 学習目標4の総合的達成度        |                                      | 2.5 |

※平成16年度準学士課程卒業生

平成18年12月（2006.12）実施

有効回答数 44

（出典：学生課保管資料）

資料6-1-⑤-4：修了生による学習目標達成度評価結果

| 専攻科・修了時に身につけるべき学力や資質・能力 |                                               | 平均値 |
|-------------------------|-----------------------------------------------|-----|
| A                       | 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。 |     |
| A-1                     | デザインと創造の喜び                                    | 2.6 |
| A-2                     | たゆまず努力する姿勢                                    | 2.5 |
| 学習目標Aの総合的達成度            |                                               | 2.6 |
| B                       | 問題を発見・提起し、習得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。     |     |
| B-1                     | 問題の発見や提起                                      | 2.6 |
| B-2                     | 課題の解析                                         | 2.7 |
| B-3                     | 課題の解決力                                        | 2.7 |
| 学習目標Bの総合的達成度            |                                               | 2.7 |
| C                       | 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。        |     |
| C-1                     | 教養                                            | 2.2 |
| C-2                     | 語学力                                           | 1.8 |
| C-3                     | 社会や自然環境への配慮                                   | 2.4 |
| 学習目標Cの総合的達成度            |                                               | 2.1 |
| D                       | 実践的な体験をととして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。         |     |
| D-1                     | 実践的な体験                                        | 2.3 |
| D-2                     | 地域の課題への積極的な対処                                 | 2   |
| 学習目標Dの総合的達成度            |                                               | 2.2 |
| E                       | チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。     |     |
| E-1                     | プロジェクトの計画性                                    | 2.6 |
| E-2                     | 論理的な記述                                        | 2.9 |
| E-3                     | 論理的な発表                                        | 3   |
| 学習目標Eの総合的達成度            |                                               | 2.8 |

※平成15～17年度専攻科課程修了生

平成18年12月（2006.12）実施

有効回答数 20

（出典：学生課保管資料）

## 2) 就職先企業による卒業（修了）生のアンケート結果

就職先企業による卒業生のアンケート結果（資料 6-1-⑤-5）から、卒業生に対して高い評価を得ている。特に、準学士課程の卒業時に身につけるべき学力や資質・能力1の「基礎学力」および2の「課題解決への意欲、課題解決への粘り強さ」についてはいずれも3点以上と高い評価を得ている。

また、就職先企業による修了生のアンケート結果（資料 6-1-⑤-6）から、修了生に対しても高い評価を得ている。特に、専攻科課程の修了時に身につけるべき学力や資質・能力Aの「デザインと創造の喜び、たゆまず努力する姿勢」、Bの「問題の発見や提起、課題の解決、課題の解析力」、Cの「教養、社会や自然環境への配慮」およびEの「論理的な記述、論理的な発表」についてはいずれも3点以上と高い評価を得ている。

- 資料 6-1-⑤-5：就職先企業による卒業生の学習目標達成度評価
- 資料 6-1-⑤-6：就職先企業による修了生の学習目標達成度評価

資料6-1-⑤-5：就職先企業による卒業生の学習目標達成度評価

| 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力 |                                      | 平均値 |
|---------------------|--------------------------------------|-----|
| 1                   | 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。           |     |
| 1-1                 | 基礎学力                                 | 3.2 |
| 1-2                 | 専門的知識                                | 3   |
| 学習目標1の総合的達成度        |                                      | 3.1 |
| 2                   | 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 |     |
| 2-1                 | 課題解決への意欲                             | 3.1 |
| 2-2                 | 課題解決への粘り強さ                           | 3.1 |
| 学習目標2の総合的達成度        |                                      | 3.1 |
| 3                   | 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。        |     |
| 3-1                 | 考え方の幅広さ                              | 2.7 |
| 3-2                 | 自分の立場の理解                             | 2.9 |
| 3-3                 | 社会問題や環境問題への配慮                        | 2.8 |
| 学習目標3の総合的達成度        |                                      | 2.8 |
| 4                   | 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。       |     |
| 4-1                 | 自分の考えの正確な表現                          | 2.8 |
| 4-2                 | 公正な意見の交換                             | 2.8 |
| 学習目標4の総合的達成度        |                                      | 2.8 |

※平成16年度準学士課程卒業生

平成18年12月（2006.12）実施

有効回答数 108

（出典：学生課保管資料）

資料6-1-⑤-6：就職先企業による修了生の学習目標達成度評価

| 専攻科・修了時に身につけるべき学力や資質・能力 |                                               | 平均値 |
|-------------------------|-----------------------------------------------|-----|
| A                       | 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。 |     |
| A-1                     | デザインと創造の喜び                                    | 3.1 |
| A-2                     | たゆまず努力する姿勢                                    | 3.4 |
| 学習目標Aの総合的達成度            |                                               | 3.3 |
| B                       | 問題を発見・提起し、習得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。     |     |
| B-1                     | 問題の発見や提起                                      | 3.1 |
| B-2                     | 課題の解析                                         | 3.1 |
| B-3                     | 課題の解決力                                        | 3.2 |
| 学習目標Bの総合的達成度            |                                               | 3.1 |
| C                       | 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。        |     |
| C-1                     | 教養                                            | 3.1 |
| C-2                     | 語学力                                           | 2.8 |
| C-3                     | 社会や自然環境への配慮                                   | 3.1 |
| 学習目標Cの総合的達成度            |                                               | 3   |
| D                       | 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。         |     |
| D-1                     | 実践的な体験                                        | 2.8 |
| D-2                     | 地域の課題への積極的な対処                                 | 2.8 |
| 学習目標Dの総合的達成度            |                                               | 2.8 |
| E                       | チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。     |     |
| E-1                     | プロジェクトの計画性                                    | 3   |
| E-2                     | 論理的な記述                                        | 3.1 |
| E-3                     | 論理的な発表                                        | 3.1 |
| 学習目標Eの総合的達成度            |                                               | 3.1 |

※平成15～17年度専攻科課程修了生

平成18年12月（2006.12）実施

有効回答数 21

（出典：学生課保管資料）

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組を実施しており、その結果から判断して、本校として期待する教育の成果や効果が上がっている。なお、修了生によるアンケート結果では、低い評価になっている専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力Cの「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる」の語学力については、英語力向上のため、専攻科委員会で修了要件の改善を検討した（既出資料 6-1-④-5）。またDの「実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる」の地域の課題への積極的な対処については、地元企業への長期インターンシップ、複合工学演習における地域の課題に関する演習の導入などにより、地域の課題に積極的に関わる姿勢を持たせている。

### (1) 優れた点及び改善を要する点

#### (優れた点)

- ・ 卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力について、その達成状況を把握・評価できる、教育目標の達成度の評価システムが確立している。
- ・ 進級の状況、卒業（修了）時の単位取得状況は良好である。
- ・ 資格取得の状況は良好である。
- ・ 専攻科・特別研究を学会等で発表することを推奨している。
- ・ 進路先は、卒業（修了）生が希望する企業や大学で大半をしめる。
- ・ 卒業（修了）生の進路先企業から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力が資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組が実施され、進路先企業から高い評価を得ている。

#### (改善を要する点)

- ・ 修了生に行ったアンケート結果では、学力や資質・能力Cの語学力については低い評価である本校改善策として、専攻科委員会で修了要件を改善して英語力向上を図る。

### (2) 基準6の自己評価の概要

本校では、目的に沿って定めた、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとにその達成要件の認定に関する規定を定めて、目的に沿った形で、養成する人物像、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに配置された授業科目の単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況、あるいは準学士課程・卒業研究、専攻科課程・特別研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が十分に上がっている。

卒業（修了）後の進路先は、学生が希望する企業や大学であり、教育の目的において意図する能力を十分に活用できる企業や大学である。この観点から、教育の目的において意図している養成しようとする人物像等について、就職や進学等の卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

学生が行う学習達成度調査の達成状況を確認した結果、準学士課程および専攻科課程ともに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は、4点満点評価中、全体平均で2.7点以上の評価が得られていることから、学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組を実施しており、その結果から判断して、本校として期待する教育の成果や効果が上がっている。なお、修了生によるアンケート結果では、低い評価になっている専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力Cの「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる」の語学力については、英語力向上のため、専攻科委員会で修了要件の改善を検討した。



## 基準 7 学生支援等

## (1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

## 1) 学習ガイダンスの整備状況

本校では、学習を進める上でのガイダンスのため、準学士課程学生を対象として学生便覧(資料 7-1-①-1)を、専攻科課程学生を対象として専修科履修の手引き(資料 7-1-①-2)を作成している。

- 資料 7-1-①-1：準学士課程学習ガイダンス資料
- 資料 7-1-①-2：専攻科課程学習ガイダンス資料

## 資料 7-1-①-1：準学士課程学習ガイダンス資料

## III 学習心得

皆さんは高度な専門技術者となることを目的として、自ら望み、難しい入学試験を突破して本校へ入学したはずで、高専は大学や短期大学と同じ高等教育機関なので、中学生の時代とは異なり、積極的に自ら学び取る学習態度や自律的な生活習慣が必要です。

高専では授業の進度が非常に早いことに先ず驚くでしょう。しかし、平素から勉強する習慣を身につけ、予習・復習を心掛ければ心配は要りません。もし、授業中に理解出来なかった所があった場合、そのまましておかず、教員の指導を受けたり、先輩や友達と話し合ったり、図書館で調べるなどして、その都度自分で納得の行くまで勉強しましょう。また、授業中は黒板に書かれたものをノートに書き写すだけでなく、参考書を使って知識を整理し、さらに演習問題を自分で解き、どの程度理解しているかを確認しましょう。

授業を欠席すると授業中に理解できないところが多くなり、授業が苦痛となります。本校へ入学した目的をもう一度思い出し、病気その他やむを得ない場合を除き・欠席しないように努めましょう。

学生玄関に「休講」という掲示の出ることがあります。これは授業担当者が学会、出張や病気のため「授業ができない」という意味です。その時間は中学校での自習時間とほぼ同じで、課題が与えられている場合はその指示に従い、また、課題がない場合は教室や図書館で静かに自習しましょう。

(中略)

1. 試験について (内容は省略)
2. 成績評価について (内容は省略)
3. 進級・卒業について (内容は省略)

(出典：学生便覧)



## 資料 7-1-①-2：専攻科課程学習ガイダンス資料

## 平成19年度専攻科履修の手引き（抜粋）

## 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| I. 教育理念・目標              | 2  |
| II. 専攻科における履修           | 4  |
| 1 概説                    | 4  |
| 2 修了要件と授業科目             | 4  |
| 3 履修方法                  | 5  |
| 4 履修の申請・手続き             | 7  |
| III. 学士（工学）の取得          | 8  |
| 1 申請手続き                 | 8  |
| 2 審査及び試験                | 8  |
| IV. 進路指導                | 8  |
| 1 就職                    | 8  |
| 2 大学院進学                 | 9  |
| V. 学生生活                 | 9  |
| 資料-1 修了までの流れ            | 10 |
| 資料-2 教育課程表              | 11 |
| 様式-1 特別研究指導教員届          | 14 |
| 様式-2 履修願                | 15 |
| 様式-3 創造工学プログラム履修コース申告書  | 16 |
| 様式-4 追試験願               | 17 |
| 様式-5 専攻科公欠願             | 18 |
| 様式-6 教育施設等における学修許可願     | 19 |
| 様式-7 教育施設等における学修単位認定申請書 | 20 |

(出典：専攻科履修の手引き)

## 2) 学習ガイダンスの実施状況

準学士課程入学者に対して入学時に学生便覧を配布し、学習を進める上でのガイダンスとしている。入学後のオリエンテーションにおいて、教務主事や担任および学科主任が新入生に学生便覧の活用方法を説明し、学生便覧に沿って学習を進める上でのガイダンスを実施している。また、入学してから約二週間後に一泊二日の合宿研修（資料 7-1-①-3）を行い、そこでは、学生主事が学校生活全般、学科主任が学習全般にわたるガイダンスを実施している。

専門科目が増加する第3学年に対しては11月に合宿研修を行い（資料 7-1-①-4）、専門分野に関連する企業を見学するとともに、学科主任、担任を中心として専門科目に関するガイダンスを実施している。

さらに、第3、4学年に対しては、JABEE基準に対応した科目履修が行えるよう選択科目に関するガイダンスを開催している。また第4、5学年の年度初めにJABEEに関する説明会を実施している（資料 7-1-①-5, 6）。

そして、年度初めには、学年ごとにシラバスが配布され、授業担当教員は科目の目的、履修上の注意、学習方法などを解説し、またオフィスアワーの曜日時間を確認している。

- 資料 7-1-①-3 : 学習ガイダンス資料(1)
- 資料 7-1-①-4 : 学習ガイダンス資料(2)
- 資料 7-1-①-5 : 学習ガイダンス資料(3)
- 資料 7-1-①-6 : 学習ガイダンス資料(4)

資料 7-1-①-3 : 学習ガイダンス資料(1)

## 1 年生合宿研修日程

| 第1日目 4月21日(金) |                                                                                  | 第2日目 4月22日(土) |                    |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------------|
| 時間            | 活動内容                                                                             | 時間            | 活動内容               |
|               |                                                                                  | 6:30          | 起床                 |
|               |                                                                                  | 7:00          | フレッシュタイム           |
|               |                                                                                  | ~20           |                    |
|               |                                                                                  | 7:20          | 居室等の清掃・シーツ返納       |
| 8:50          | 集合                                                                               | 8:00          | 朝食                 |
| 9:00          | 本校出発                                                                             | ~             |                    |
| 9:50          | 能登青年の家到着<br>オリエンテーション<br>合宿研修施設からの説明<br>学生主事 講話<br>学科主任の紹介<br>居室への移動・代表学生はシーツの配付 | 8:40          | 講堂へ荷物移動<br>清掃点検    |
| 11:45         | 昼食                                                                               | 9:00          | 『創作活動』<br>小皿上絵付け製作 |
| ~             |                                                                                  | 12:15         | 昼食                 |
| 12:15         |                                                                                  | 13:00         | 退所準備               |
| 13:00         | 講演会 浦田 肇 先生<br>「不安、悩み、ストレス等の<br>つきあい方について」                                       | 13:15         | 研修施設出発             |
| 14:00         | 野外活動カッター・カヌー<br>アーチェリー・ディスクゴルフ<br>ウォークラリー                                        | 14:30         | 本校到着               |
| 14:30         | ~                                                                                |               |                    |
| 17:00         | (雨天:インデアカ)                                                                       |               |                    |
| 17:20         | 入浴                                                                               |               |                    |
| 18:20         | 夕食                                                                               |               |                    |
| 19:30         | 学科別ミーティング                                                                        |               |                    |
| 21:00         | 居室へ移動                                                                            |               |                    |
| ~             |                                                                                  |               |                    |
| 22:00         | 就寝                                                                               |               |                    |

(出典: 学生課保管資料)

## 資料 7-1-①-4 : 学習ガイダンス資料(2)

平成18年度 3年生合宿研修実施計画書 (抜粋)

## 企画の目的

学生生活に慣れてきた第3学年を対象にして、学生生活から発生する諸問題の解消と教員、学生間の親睦交流を図ると共に、学生に対し組織的、計画的な合宿生活を経験させることによって、共同社会の一員としての自覚を持たせるとともに、必要な要素を身に付けさせることを目的とする。

企画の内容：平成18年11月8日(水)～9日(木)

|         | 一日目                                                                                                    | 二日目                                                                     |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 機械工学科   | 10:00～ 中村留精密工業株式会社<br>13:00～ 北国新聞社白山別館<br>15:00～ キリンビール北陸工場<br>16:45 研修施設石川県立白山青年の家着(泊)<br>【ミーティングの実施】 | 10:00～ ハウメット・ジャパン株式会社<br>13:30～ 小松航空プラザ                                 |
| 電気工学科   | 10:00～11:30 金沢村田製作所<br>13:30～15:00 澁谷工業株式会社<br>16:00 研修施設能登青少年交流の家着(泊)<br>【ミーティングの実施】                  | 10:00～ 石川サンケン株式会社<br>13:30～ 七尾火力発電所小松航空プラザ                              |
| 電子情報工学科 | 10:00～ (株) P F U<br>14:00～ 別川製作所<br>18:00 研修施設キゴ山ふれあいの里着(泊)<br>【ミーティングの実施】                             | 10:00～ 三谷産業(株)                                                          |
| 環境都市工学科 | 11:00～ 宇奈月ダム管理所 ダム見学<br>13:00～ 黒部川河川事業見学<br>14:30～ 下新川海岸事業見学<br>16:30 研修施設立山青少年自然の家着(泊)<br>【ミーティングの実施】 | 9:30～ 常願寺川 水辺の学校<br>10:20～ 立山砂防事務所<br>立山カルデラ砂防博物館<br>13:30～ 常願寺川河川事業の見学 |
| 建築学科    | 9:00～ 石川県内の各住宅関連施設の見学<br>研修施設トヨタ白川郷自然学校着(泊)<br>【ミーティングの実施】                                             | 11:15～ 白川郷見学<br>14:00～ 砺波散居村ミュージアム<br>15:30～ ミュゼ福岡カメラ館                  |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-1-①-5 : 学習ガイダンス資料(3)

資料番号 1-7

## 創造工学プログラム説明会の開催について (案)

JABEE 申請準備委員会 深見哲男

【主旨】本校は3年の一部から専攻科2年にわたって大学と同等な教育課程として全学科を一つにした創造工学プログラムを設定しております。このプログラムには、複合工学修得コースと専門工学探究コースの2つがあり、3年以上の全ての学生は、どちらかのコースに入ることになります。

そこで、創造工学プログラムとそのコースの説明を行い、3年以上の学生にコースを仮決定（最終決定は専攻科入学時）してもらうため本説明会を開催したい。

具体的には以下の内容の説明会を開催したいと思います。

1. 創造工学プログラムと JABEE
2. 創造工学プログラムの教育目標
3. 教育目標の達成するために
4. 質疑応答
5. コース申請用紙の配布

## 説明会開催要項

場所：視聴覚教室  
時間：50分程度

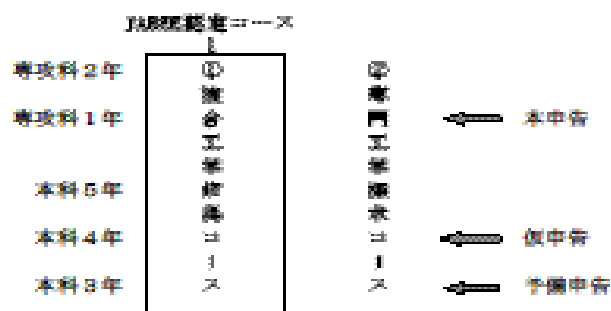
日時：

|                  |          |
|------------------|----------|
| 3年：2004年5月17日（月） | 14時40分より |
| 4年：2004年5月12日（水） | 14時40分より |
| 5年：2004年5月21日（金） | 9時20分より  |

以上

(出典：創造工学プログラム説明資料)

## 資料 7-1-①-6 : 学習ガイダンス資料(4)

**創造工学プログラムにおけるコース制について****【創造工学プログラムと本科・専攻科との対応】****【本中舎におけるコース必要条件】**

## ① 複合工学修得コース

- 幅広い工学の知識を修得することを目的としていること。
- 創造工学プログラムの本科の指定科目を必修科目を含めて62単位以上修得し、さらにそれらの成績が全て60点以上（平成15年度以前に単位修得した科目は50点以上）であること。

【ただし、必修科目において非実験系科目で60点未満の科目が3科目以内（平成15年度以前に単位修得した科目は含まない）であれば、認定試験等により達成度を再評価することがある。】

## ② 専門工学探求コース

- 専門工学のみを深く探求することを目的としていること。

**【プログラム修了における必要条件】**

- 専攻科修了条件を全て満足していること。
  - コース別達成度評価項目を満足していること。
- 以上の条件に加えて、各コースにおいて次の条件が必要である。

## ① 複合工学修得コース

- 創造工学プログラム達成度評価12項目を全て満足していること。

## ② 専門工学探求コース

- 創造工学プログラム達成度評価12項目中10項目以上を満足していること。

**【その他】**

- \* ①複合工学修得コース修了者は学士を取得すれば JABEE 認定プログラム修了者となり、学士が取得できなければ単なる専攻科修了者となる。
- \* JABEE 認定プログラム修了者は技術士一次試験免除となる。
- \* ②専門工学探求コースは、社会人特別選抜による入学者等で JABEE 修了を希望しない者（あるいは本科において JABEE 合格科目が必要数に満たないが専攻科修了を希望する者）等が対象となる。

(出典：平成19年度シラバス)

## 3) 自主的学習を進める上での相談・助言体制

全教員に週一回以上のオフィスアワーの設定が義務付けられ、学生玄関に一覧表が掲示されるとともに各教員室のドアにも掲示されている（資料 7-1-①-7, 8）。また、学力向上のための補充時間に利用する特別講義が、全学的な取組みとして設定されている（資料 7-1-①-9）。

全クラスには学級担任が配置され、原則として第1, 2学年には一般教科教員, 3~5年生には専門学科教員が担任業務にあたっている（資料 7-1-①-10）。第1~3学年には週一回、ホームルームの時間を設け、学業、日常生活全般に関して指導助言と連絡を行うとともに、全学年に対して特別講義を行っている（資料 7-1-①-11）。なお教員に教員マニュアルが配布され、学級担任のクラス運営、学業、日常生活等に関する指導方法が例示されている。

専攻科学生には専攻ごとに専攻主任が配置され、指導助言を行うとともに、専攻科履修の手引きを配布し、説明を行っている。

- 資料 7-1-①-7 : 教科教員による学習相談・助言体制
- 資料 7-1-①-8 : オフィスアワー一覧表
- 資料 7-1-①-9 : 『特別講義』の設定
- 資料 7-1-①-10 : 担任による学習相談・助言体制
- 資料 7-1-①-11 : H19年度『特別講義』および『特別活動』の設定の一例（機械工学科3年）

## 資料 7-1-①-7 : 教科教員による学習相談・助言体制

## 第3章 講義等について

## 3.3 講義について

## 〈講義の進め方〉

- ・講義の進め方や内容についてはシラバスに示したものと一致するように心がけてください。
- ・講義で分からなかった点や疑問点については、講義中はもちろんのこと放課後やオフィスアワー（教員が設定した時間で、学生の各種の相談に応じる）等を活用して、相談するように指導してください。  
オフィスアワーは毎学期開始前に教務係へ報告してください。
- ・実験実習においては安全に十分配慮するように指導してください。

## 第4章 学生指導について

## 4.1 基本的な指導

## 〈日常の学習指導〉

- ・低学年のうちから予習・復習の習慣をつけさせてください。言われたまま、書かれたままを暗記し、ただ教員の指示に従うのではなく、自分で学習することができる力を培えるように指導してください。
- ・講義中には、学生に積極的に質問をするように働きかけてください。また、オフィスアワー等を活用し、授業で分からなかった点や疑問点を教員室へ相談に来るように、指導を行ってください。

（出典：教員マニュアル）

## 資料 7-1-①-8：オフィスアワー一覧表

## 平成18年度後期 教員オフィスアワー

平成18年度後期の各教員のオフィスアワーを以下のとおり通知します。以下の時間については、研究室に在室し、修学、学生生活等の質問、相談時間とします。なお、下記時間帯以外においても、研究室在室の際は、同様に質問、相談に応じます。

| 学科            | 教員名   | 月曜日         | 火曜日         | 水曜日         | 木曜日         | 金曜日         |
|---------------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 一般<br>教育<br>科 | 中村    | 15:00～18:00 |             |             |             |             |
|               | 山岸    |             | 16:50～18:30 |             | 16:50～18:30 |             |
|               | 阿蘇    | 15:00～18:00 |             |             |             |             |
|               | 太田(伸) | 17:00～18:30 |             |             | 15:00～17:00 |             |
|               | 高島    |             |             |             |             | 15:00～18:30 |
|               | 川原    |             |             |             |             | 15:00～17:30 |
|               | 松島    |             |             |             | 16:30～17:15 |             |
|               | 河合    |             |             |             |             | 16:50～18:30 |
|               | 紺谷    | 15:00～16:40 |             |             |             |             |
|               | 小熊    | 15:00～18:30 |             | 16:50～18:30 | 15:00～18:30 |             |
|               | 鈴木    |             | 15:00～18:30 |             |             | 15:00～18:30 |
|               | 澤田    | 15:00～16:40 |             |             |             |             |
|               | 團野    | 15:00～16:40 |             |             |             |             |
|               | 富山    | 15:00～16:40 |             |             |             |             |
|               | 森田    | 16:40～18:30 |             |             |             | 15:00～16:40 |
|               | 北田    |             |             |             | 15:00～18:30 |             |
|               | 太田(知) | 15:00～18:30 |             |             |             |             |
|               | 佐々木   |             | 16:45～18:30 |             |             |             |
|               | 岩竹    |             |             | 16:00～18:00 |             |             |
|               | 笠松    |             |             |             | 16:50～18:30 |             |
| スコフィールド       |       | 15:00～17:00 |             | 15:00～17:00 |             |             |

上記以外の授業担当教員は、授業のつど本校へ来校される非常勤講師の方です。本校には研究室がありません。非常勤講師のオフィスアワーについては、授業の前後15分程度について、非常勤講師控室（管理棟1階）を原則とします。（以上、一般教育科の教員分のみ）

（出典：学生課保管資料）

## 資料 7-1-①-9：『特別講義』の設定

平成18年10月3日

教員各位

教務主事

平成18年度後期特別講義について（通知）

このことについて、下記の点に留意のうえ御利用願います。

## 記

- 特別講義の時間帯は、授業の休講に伴う振替のみでなく、学生の学力向上のための補講や質問に対する説明の時間、学年をまたいで学科の行事等に御利用ください。各クラスの実施曜日については授業時間割表を御確認願います。
- 予約については、その前週の木曜日までに教務係へ御連絡願います。また、サイボウズに特別講義実施一覧を掲載しますので使用状況の確認に御利用ください（サイボウズからの予約はできません）。  
《 トップページ → ファイル管理 → 教務関連 → 特別講義 》
- 学生への通知は、学生玄関掲示板で行います。1～4年の学級担任の方には、毎日掲示板を確認するよう学生への指導方願います。

（出典：学生課保管資料）

## 資料 7-1-①-10：担任による学習相談・助言体制

## 4.2 担任業務

(略)

## 4.2.2 学習指導について

## 〈定期試験〉

- ・試験前には、教室の清掃を徹底させ、教室内の私物はロッカーへ移動するように指導してください。  
また、試験期間中は、出席簿順に着席させてください。さらに、試験時の座席表を作成し、試験期間中は教卓にその座席表を置くようにしてください。
- ・試験前には次のような指導をしてください。  
「不正行為をしない」  
「試験中机の中に物を入れない」  
「下敷きや筆箱も机の中や上に置かない」  
「携帯電話の電源を切り、身に付けない」  
「途中退出は原則認めないので、トイレは開始前に済ませる」  
「試験期間中は、休み時間であっても他のクラスが試験を行っている場合があるので静粛にする」  
また、不正行為を行った場合は、その期間中の試験が全科目0点になることを周知してください。
- ・病気や親族の忌引等やむを得ない理由により、試験を受けられないことが予め分かっている場合は、事前に授業担当教員とその対応を協議してください。

## 〈定期試験後の学習指導〉

- ・定期試験後は、成績の良否にかかわらずすべての学生に対し、個別指導を行ってください。
- ・教務係では、前期末と後期末の2回保護者へ成績を発送します。成績通知表には、個々の学生の成績に関すること以外も記入するようにしてください。
- ・特に、成績不振の学生については、授業担当教員、学科主任と連携して指導を行ってください。  
また、留年の恐れのある学生については、保護者に連絡するとともに家庭と連携の上指導を行ってください。

## 〈単位未修得者への指導〉

- ・単位未修得科目を有して、進級を認められた学生については、単位追認試験を受け合格することにより、当該単位を修得することができます。
- ・単位未修得科目保有者一覧が、教務係から学級担任に送付されます。その一覧をもとに、単位追認試験受験願を直ちに授業担当教員に提出するように指導を行ってください。また、授業担当教員と連携の上、単位未修得学生に早期に修得するように指導を行ってください。

(出典：教員マニュアル)

## 資料 7-1-①-11：H19年度『特別講義』および『特別活動』の設定の一例（機械工学科3年）

H19年度時間割(抜粋)

3M

|     | 月            | 火           | 水             | 木                | 金           |
|-----|--------------|-------------|---------------|------------------|-------------|
| 1・2 | 材料力学Ⅰ<br>旭吉  | 保健体育Ⅲ<br>青木 | 熱力学Ⅰ<br>黒崎    | 解析学Ⅱ<br>笠松       | 機構学<br>堀    |
| 3・4 | 材料学Ⅱ<br>河野   | 応用物理Ⅰ<br>石田 | 国語Ⅲ<br>團野     | 情報処理Ⅰ<br>堀       | 流れ学Ⅰ<br>割澤  |
| 5・6 | 英語講読Ⅰ<br>太田智 | 地理<br>南 仁   | 代数・幾何Ⅱ<br>森田健 | 英語表現Ⅲ<br>スコフィールド | 機械実習Ⅲ<br>河野 |
| 7・8 | 特別講義<br>各教員  | 解析学Ⅱ<br>笠松  | 特活<br>旭吉      | 特別講義<br>各教員      | 機械実習Ⅲ<br>河野 |

水曜日7限特活は、15:00～15:50である。

(出典：クラス掲示資料)

## (分析結果とその根拠理由)

学生の入学後から各学年に応じた学習ガイダンスが整備され、実施されるとともに選択科目履修時にもガイダンスが行われている。また全教員がオフィスアワーを設定することが制度化されており、学習を進める上で



の相談・助言体制が整備されている。さらに教員マニュアルが配布され、学習に対する指導・助言方法が例示されている。

以上のことから、学習を進める上でのガイダンスは整備され、適切に実施されており、また学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備され、機能している。

**観点 7-1-②：** 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

本校の自主的学習環境には、各教室をはじめ、情報処理センター，実習工場，図書館，福利厚生施設等がある（資料 7-1-②-1～4）。

- 資料 7-1-②-1：情報処理センターの整備
- 資料 7-1-②-2：実習工場の整備
- 資料 7-1-②-3：図書館の整備
- 資料 7-1-②-4：福利厚生施設の整備

資料 7-1-②-1：情報処理センターの整備

## 情報処理センター

INFORMATION PROCESSING CENTER

情報処理センターは、校内共同利用施設として学術研究や講義、実験実習、卒業研究、また公開講座等に、学生・教職員を問わず幅広く利用されている。当センターでは、情報処理演習室、主要ネットワークサーバ（メール、WWW、ファイル、ビデオなど）、校内ギガビットネットワーク、無線LANの維持管理や、情報セキュリティ対策を実施している。

3つの情報処理演習室と小演習室に計140台の最新パソコンを設置しており、電子メールの閲覧、レポート作成、プレゼンテーション資料の作成、プログラミング実習、数値解析などの様々な教育・研究環境を提供している。また無線LANにより校内どこからでもネットワークが利用でき、一般教室でも情報処理演習が可能である。さらにパソコンやネットワークなどを利用して教育を行うe-learning環境も整備されており、学校内だけでなく自宅からも自学自習ができるようになっている。

以上のように、当センターは利用者の自主性と創造性を尊重し、充実した教育・研究環境の実現を目指す本校の中核施設として大きな役割を担っている。

(出典：学校要覧)

資料 7-1-②-2：機械実習工場の整備

## 機械実習工場

MACHINE SHOP

機械実習工場は、実践的な技術者教育を目指す高専には必要不可欠な施設であり、設備の充実に特に力を注いでいる。安全教育を含めた機械実習は、機械工学科1～3年次において旋盤、特殊機械、鋳造、鍛造、溶接、仕上げの6項目を中心に実施される。さらに学生は、卒業研究における試験片や試験装置の製作、ロボコン等を目的としたメカトロニクス分野でのロボット製作に広く実習工場を利用している。その結果、実習工場は学生の技術の向上、応用力の養成に大きな役割を果たしている。



(出典：学校要覧)

資料 7-1-②-3：図書館・視聴覚教室の整備

## 図書館・視聴覚教室

LIBRARY・AUDIO VISUAL CLASSROOM

図書館は、昭和41年4月に図書室として発足し、同48年3月、現在地に図書館棟が竣工して今日に至っている。

図書館棟は、閲覧室、書庫、マルチメディアルーム及び視聴覚教室等で構成されており、収集している資料は、理工系分野の図書・雑誌はもとより、各分野の専門書や一般教養書、レーザーディスク、コンパクトディスク、DVD等多岐にわたっている。また、電子ジャーナルや文献検索データベースの利用も可能である。

一方、視聴覚教室は204座席を保有し、1学年を一同に収容できる規模となっている。こちらには、最新の視聴覚機器や教材を導入しており、ビデオ・サーバーに映像や音声を蓄積したり、またこれらを校内のパソコンを介して見たり聞いたりすることができる。

本館の利用については、本校の学生、教職員のみならず、地域住民に対しても広く開放している。

(出典：学校要覧)

資料 7-1-②-4：福利厚生施設の整備

## 福利施設

WELFARE FACILITIES

### 福利厚生施設「養高館」 Welfare Building (Yoko-kan)

昭和56年2月に完成の複合厚生施設である。

館内には、食堂・売店を始めとして、共同談話室、学生会連絡室、保健室、学生相談室があり、生活面での利便のみならず、文化活動の面においても幅広く利用されている。また、平成16年4月からは生活協同組合がスタートして福利厚生機能が強化され、ますます充実した施設となっている。



(出典：学校要覧)

### 1) 情報処理センターの整備と活用状況

情報処理センターの利用方法については『学生便覧』（資料 7-1-②-5），ウェブサイトに記してある。情報処理技術を習得する施設として、情報処理に関する教育，および各専門学科の実験・演習・卒業研究に利用されている。

### □ 資料 7-1-②-5：情報処理センター利用方法

## 資料 7-1-②-5：情報処理センターの利用方法

## IV 生活心得

(略)

## 9. 各種施設について

本校には、以下に説明するようなさまざまな施設があります。

(中略)

これらの施設を積極的に利用し、学習効果をよりいっそう向上させ、ふだんの課外活動等を通して心身を鍛え、また、情操を養うことによって豊かな人間性を作り上げることを期待しています。

学習のため、運動のための区別にかかわらず、学校の施設や設備は学生、教職員の全員に等しく気持ち良く使われるものであることをいつも心がけ、設備や器具を大切に取り扱い、他人に迷惑をかけることのないようにしてください。

## 1) 情報処理センター

将来の技術者に必要な情報処理技術を修得するための施設が情報処理センターです。

第 1 演習室 (情報処理センター)、第 2 演習室 (建築棟 2F)、第 3 演習室 (電子情報棟 4F) があり、情報処理に関する教育、また、各専門学科の実験・演習・卒業研究に利用されています。演習室に備えられたパソコンやプリンタなどは、正規の授業の妨げにならない限り、自由に使用できます。

## 利用時間

◆LAN・Eメールの利用；終日利用可

◆センター内機器の直接利用；平日 8 時 30 分～17 時 (授業中を除く)

学生には学籍番号に対応した ID とパスワードが与えられます。

学内のどこからでも利用可能なようにネットワークが整備されており、状況に応じて有線・無線LANの使い分けが出来ます。また、無線LANを利用したい場合は登録願を提出してください。

(出典：学生便覧)

## 2) 実習工場および実験室等の整備・利用状況

各学科にはその専門性に応じて、実験室、演習室、製図室などが整備されており、各種課題処理や卒業研究に利用されている。また、各クラスに割り当てられている教室が放課後の予習または復習や定期試験対策(例えば数学科主催の「朝の学習室」など)の場にも利用されている。とくに、機械実習工場はロボコン、デザコンなど各種コンテスト参加チームや本校独特の創造的学習活動であるオンリー1プロジェクト(既出資料 5-2-③-1)の遂行に活用されている(資料 7-1-②-6, 7)。

- 資料 7-1-②-6：実習工場安全心得
- 資料 7-1-②-7：実習工場及び教室等の利用方法

## 資料 7-1-②-6：実習工場安全心得

## 安全必携目次

## 第Ⅰ部 共通

|     |            |    |
|-----|------------|----|
| 第1章 | 安全一般心得     | 1  |
| 第2章 | 学生実験の心得    | 2  |
| 第3章 | 救護と衛生      | 3  |
| 第1節 | 救急処置一般     | 3  |
| 第2節 | 創傷         | 7  |
| 第3節 | 熱傷         | 7  |
| 第4節 | ガス中毒       | 9  |
| 第5節 | 感電         | 10 |
| 第6節 | その他参考事項    | 10 |
| 6-1 | 熱中症        | 10 |
| 6-2 | 鼻血         | 12 |
| 6-3 | 目の外傷       | 12 |
| 6-4 | 過換気(呼吸)症候群 | 13 |
| 6-5 | 凍傷         | 14 |
| 第4章 | 火災時の対応     | 15 |
| 第5章 | 地震時の対応     | 16 |
| 第6章 | 爆発時の対応     | 16 |
| 第7章 | 薬品漏洩時の対応   | 17 |

## 第Ⅱ部 作業別安全心得

|      |            |    |
|------|------------|----|
| 第1章  | 電気取扱い      | 18 |
| 第2章  | 運搬作業       | 19 |
| 第3章  | 高所作業       | 19 |
| 第4章  | 回転体取扱い作業   | 20 |
| 第5章  | 高熱作業       | 21 |
| 第6章  | 一般化学実験     | 22 |
| 第7章  | 危険物取扱い作業   | 22 |
| 第8章  | 有害物質の取扱い   | 23 |
| 第9章  | バイオハザードの防止 | 24 |
| 第10章 | 廃棄物・廃水処理心得 | 24 |
| 第11章 | 高圧ガス取扱い作業  | 25 |
| 第12章 | 高圧電気取扱い作業  | 26 |
| 第13章 | X線取扱い作業    | 27 |
| 第14章 | レーザー取扱い作業  | 27 |
| 第15章 | グラインダー作業   | 27 |
| 第16章 | 溶接・ガス切断作業  | 28 |
| 第17章 | 容器・ピット内作業  | 29 |

(出典：実習工場安全心得)

## 資料 7-1-②-7：実習工場及び教室等の利用方法

## 9. 各種施設について

(中略)

## 4) 教室・実験室・製図室・実習工場

放課後あるいは休日に与えられた課題を行うために、教室、実験室、製図室、実習工場を使用する場合は、指導教員の許可を得て、事前に許可願を提出してください。許可願の用紙学生課教務係にあります。なお、寮生が点呼時間を超えて実験室等を使用する場合は、事前に点呼簿に遅刻する旨記入し、帰寮の際は「帰寮報告書」を当直教員に提出してください。

| 施設         | 許可願提出先                       |
|------------|------------------------------|
| 教室・実験室・製図室 | 学生課教務係                       |
| 実習工場       | 実習工場                         |
| 使用時間       | 平日 20:00~22:00 休日 8:30~22:00 |

実習工場の使用許可は、使用希望日の1週間前に申し込んでください。

(出典：学生便覧)

## 3) 図書館の整備と活用状況

図書館の利用方法については、『学生便覧』（資料 7-1-②-8）、ウェブサイトに記載してある。また新入生入学後のオリエンテーション、ホームルームの時間に図書館長および担任が活用方法を概説している。本校図書館は約90席の閲覧および学習スペースおよび約30席のマルチメディアルームを備え、自習スペースとして活用されている。また図書検索のためのパソコンが設置されている。また、図書および視聴覚資料購入の際には学生の希望を受け付けている。夜間および土曜日、また長期休業中も開館しており、積極的に活用されている。

## □ 資料 7-1-②-8：図書館の利用方法

## 資料 7-1-②-8：図書館の利用方法

## V 図書館の利用について

図書館には皆さんの研究や学習に役立つ資料がたくさんあります。これらの専門的な資料は、中学校までの図書室にはなかったものだと思います。もちろん、一般教養を身につけるための図書や LD, CD, DVD など視聴覚資料を含めた娯楽のための資料も揃っています。これらの資料を存分に使って有意義な学生生活を送ってください。

## 1. 開館時間と休館日

開館時間 平日 8時30分～20時（長期休業中は8時30分～17時）

土曜日 12時30分～16時30分（長期休業中は閉館）

休館日 日曜日、国民の祝日、年末・年始（12月28日～1月4日）

## 2. 図書館で所蔵している資料

図書館には次のような資料があります。リクエストも受け付けています。

専門書／参考図書（辞書、ハンドブックなど）／一般教養書（小説類、文庫、新書などもあります）／専門雑誌（古いものは書庫にあります）／一般雑誌／新聞（図書館1階ロビーにあります）／視聴覚資料（LD, CD, DVD, ビデオ, カセットテープ）

## 3. 資料の利用

## 1) 図書

図書・雑誌は館内で自由に閲覧できます。館外に借りたい時は、閲覧カウンターで本といっしょに学生証を提示してください。手続きを行います。貸出冊数は10冊まで、期限は14日間です。詳しくは「図書館利用案内」または図書館ホームページを見てください。

## 2) 視聴覚資料

LD, DVDなどの視聴覚資料は館内で利用してください。展示しているケースや視聴覚資料目録で資料番号を調べた後、視聴覚資料利用票に記入し、閲覧カウンターに提出してください。ヘッドフォンを渡しますので、マルチメディア・ルームで利用してください。

## 3) 県内公共図書館で所蔵する図書の利用

本校図書館を通じて、県内の公共図書館で所蔵する図書を借りることができます。貸出中でなければ、1週間以内に無料で配送されます。借用を希望する人は、閲覧カウンターに申し込んでください。

## 4. いろいろな情報の検索

図書館で所蔵している資料は、図書館ホームページにあるOPACで調べることができます。自宅など図書館以外の場所からも検索可能です。館内にある端末からは、インターネット上のいろいろな情報を検索することができます。自由に利用してください。

## 5. コピー

図書館には、コピー機が置いてあります。1枚10円です。著作権法の範囲内で自由に利用してください。

## 6. 行事・広報活動

図書館では、毎年、文芸コンクールを行っています。また、皆さんからの原稿を掲載する図書館報「灯火」を年2回、文芸コンクールの優秀作品を掲載する「別冊灯火」を年1回発行しています。これらの行事への積極的な参加を期待しています。

（出典：学生便覧）

## 4) キャンパス生活環境の整備と活用状況

キャンパス生活における利便性と潤いを与える支援施設として、中心的役割を担っているものは福利施設（「養高館」）であり、生協運営の食堂と売店、談話室および保健室や学生相談室を併設している（資料 7-1-②-9～11）。また、他のコミュニケーションスペースとして6号館（1・2年教室、専攻科、トライアルセンター）には2ヶ所のリフレッシュコーナーと専攻科学生室があり、図書館一階には談話室がある。さらに、1号館（管理棟・一般教育科棟）の学生玄関には飲料用自動販売機とともにテーブル・イスが整えられた休憩スペースを設けている。また、キャンパス内には数ヶ所にベンチを設けて休憩スペースとしている。

資料 7-1-②-9：保健衛生施設の利用案内

資料 7-1-②-10：学生相談室の利用案内

資料 7-1-②-11：生協の利用案内

## 資料 7-1-②-9：保健衛生施設の利用案内

## 1) 保健室

看護師が待機しており、ケガや病気のときの応急処置を行っています。いろいろな相談にも応じています。その他、独立行政法人日本スポーツ振興センターにおける学校管理下での災害事故に対する医療費・見舞金等の請求手続、連絡事務も行っていません。

また、学生や教職員を対象に、学校医による健康診断・健康相談、薬剤師による環境衛生検査（飲料水やプールの水質検査等）等を行っています。

## 保健室開室時間

月～金曜日 8時30分～17時15分

## (1) 定期健康診断

毎年4月に定期健康診断を行っています。これは疾病の早期発見と学生の健康状態を知るための健康管理上重要な資料となり、これを基に学生の健康維持に努めています。

学生は健康診断を必ず受けるよう義務づけられているので、学級担任の指示により全員受診してください。

(中略)

## (2) 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

学校でケガをして、病院へ通院や入院をした場合に医療費が給付される制度で、本校では学生全員が加入しています。学校管理下（授業中や学校行事中、課外活動中、休憩時間中や放課後、登下校中を含む）における、学生の負傷（骨折、打撲など）、疾病（熱中症や食中毒など）に対する医療費、障害又は死亡が給付の対象となります。

学校管理下で災害に遭い、医療機関を受診した場合は、保健室に書類を取りに来てください。その書類を医療機関に持参し、証明印を得て、原則として毎月分を翌月3日までに、保健室に提出してください。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-②-10：学生相談室の利用案内

## 2) 学生相談室

人間関係などの精神的な悩みや学業、進学、就職、友人等の問題について学生相談室で相談に応じています。少しでも悩みが解決できるよう開室していますので、気軽に来室してください。相談日は次により開設しています。

専門のカウンセラーによる「心の健康相談日」が毎週水曜日にあります。月曜と金曜日は相談室員の教員が相談室にいます。他の日でも担当教員室にて相談に応じます。

学生相談室頁や「心の健康相談日」の期日については、ホームページや掲示で確認してください。

相談内容については、秘密を厳守しています。

## 相談室開設時間

毎週 月・水・金曜日 15時～17時

●学生相談室ホームページアドレス <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/soudan>

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-②-11：生協の利用案内

## 3) 生活協同組合

本校では、平成16年3月消費生活組合法等で定められた「石川工業高等専門学校生活協同組合」が設立されました。生活協同組合（生協）は組合員（学生及び教職員）の福利厚生充実のため相互に協力して、自らの手で設立、運営、利用し食堂売店の経営、教科書の協同購入、共済保険など学生生活向上のサポートを提供する非営利組織で、本校学生は全員加入としています。学生生活向上を目的とする生協を上手に利用してください。

## (1) 食堂・売店営業時間

|    |               |
|----|---------------|
| 売店 | 8時30分～17時     |
| 食堂 | 10時30分～13時30分 |

※土・日曜日、祝日・休日および休業期間中は営業していません。

## (2) 書籍

授業で使用する教科書（検定教科書を除く）は定価より5～10%割引で購入できます。教科書だけではなく、文具・雑誌も割引価格で購入できます。書籍は予約注文や取り寄せも可能です。

また、授業に必要な教材なども売店で購入できます。

## (3) 共済保険

生活協同組合員のみ加入出来る保険があります。「学生総合共済」は学校内だけではなく、登下校時・自宅・旅行中などのケガも保証しています。また、「学生賠償責任保険」は他人に対する賠償事故や日常生活における賠償事故なども保証しています。

## (4) その他

食品・飲料・菓子類・生活用品類・各種自販機・切手・公衆電話・指定衣料・カタログ販売・宅配便・貸衣装・引越しなど幅広く利用することが出来ます。

(出典：学生便覧)

## (分析結果とその根拠理由)

図書館、情報処理センター、実習工場、実験室および教室等、自主的学習環境は整備されており、有効に活用されている。また福利施設やコミュニケーションスペースなどキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。



観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

本校では、オフィスアワー、授業アンケート、担任との面談等により学習支援に関する学生のニーズを把握している。

1) 学習支援に関する学生のニーズを汲み上げる制度

既述したように、全ての教員が少なくとも週一回1時間以上のオフィスアワーを設定しており、学生はこれを利用して授業内容の理解を深めるとともに、取得可能な資格または検定試験に関する情報やその対策についてのアドバイスを受ける機会となっている。さらに、本科における保護者への成績報告や担任との面談が学生の学習支援や要望把握に大きく寄与している（既出資料 7-1-①-6, 7）。さらに年に2回行われている授業評価アンケートに設けられた自由記述欄によって、授業に対する様々なニーズをより直接的に知ることができる（資料 7-1-③-1, 2）。

さらに、在学生アンケートに際して、学校に対する希望や要望を書く機会を設けた（資料 7-1-③-3）。学生の希望・要望調査用紙と、意見を分類した結果を示す（資料 7-1-③-4）。

また本年度から、学生のみならず教職員全般の意見を集めるためにオピニオン・ボックスの設置が決定した（資料 7-1-③-5）。実際の設置は6月以降になるため、いまの段階では具体的は効果等については言及できる段階ではない。

- 資料 7-1-③-1：授業アンケート自由記述欄についての協議
- 資料 7-1-③-2：授業アンケート自由記述欄の設定
- 資料 7-1-③-3：自由記述による学生のニーズの把握
- 資料 7-1-③-4：自由記述による学生のニーズ分類
- 資料 7-1-③-5：オピニオン・ボックスの設置

資料 7-1-③-1：授業アンケート自由記述欄についての協議

平成18年8月8日

FD委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第4回FD委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

期 日 平成18年7月20日（木） 17時00分～18時40分

場 所 第1小会議室

出席者 深見，八田，大坪，河村，豊田，内田，中村  
(室屋，津島，山口)

欠席者 前田，割澤

協議事項

1. 授業評価アンケートについて

(1) 設問13・14について

(中略)

(2) 裏面について

委員長から、アンケート裏面に何を記載するか提案があり、協議の結果、各授業担当教員に任せることとなった。委員からは、関連する科目などを記載させるなどの提案があった。

(出典：FD委員会議事録)

## 資料 7-1-③-2：授業アンケート自由記述欄の設定

授業方法改善のためのアンケート

石川工業高等専門学校

自由記述欄

\*ご協力ありがとうございました。

(出典：授業アンケート用紙(裏面))

## 資料 7-1-③-3：自由記述アンケートによる学生のニーズの把握

## 学生の希望・要望調査

学生の皆さんには日頃から学校に対して「こうしてくれると嬉しい」、「これは困るので改善して欲しい」という希望や要望があると思います。これを **1つだけ簡潔に** 書いてください。この調査は学校の改善の資料とするために行うものです。実現不可能と思われる要望は書いても無駄になる可能性が高いので注意してください。また希望や要望が必ずしも実現するとは限らないこともあらかじめお断りしておきます。なお、特に希望や要望がない場合には回答の必要はありません。

(出典：在学生アンケート用紙・自由記述の部分)

資料 7-1-③-4 : 自由記述アンケートによる学生のニーズ分類

|                 | 合計  | 比率    | 専  | 5  | 4   | 3  | 2  | 1  |
|-----------------|-----|-------|----|----|-----|----|----|----|
| 授業時間            | 92  | 17.2% | 2  | 2  | 32  | 16 | 20 | 20 |
| 生協              | 86  | 16.0% | 5  | 10 | 17  | 13 | 23 | 18 |
| 生活指導            | 36  | 6.7%  | 2  | 9  | 9   | 7  | 6  | 3  |
| 教員              | 36  | 6.7%  | 3  | 10 | 4   | 2  | 13 | 4  |
| (内訳) 校長         | 9   |       | 1  | 8  | 0   | 0  | 0  | 0  |
| 一般教員            | 27  |       | 2  | 2  | 4   | 2  | 13 | 4  |
| 学生指導などに対する提言    | 31  | 5.8%  | 1  | 11 | 12  | 2  | 3  | 2  |
| 学生集会            | 27  | 5.0%  | 0  | 6  | 11  | 7  | 2  | 1  |
| 進級              | 10  | 1.9%  |    | 2  |     |    | 8  |    |
| (内訳) 施設等        | 160 | 29.9% | 8  | 38 | 34  | 28 | 21 | 31 |
| 教室              | 22  |       | 1  | 6  |     | 5  | 6  | 4  |
| 通路              | 22  |       | 1  | 4  | 7   | 3  | 4  | 3  |
| トイレ             | 19  |       |    | 3  | 5   | 4  | 2  | 5  |
| 校内パソコン          | 17  |       | 1  | 6  | 2   | 3  | 3  | 2  |
| 図書館             | 16  |       | 1  | 3  | 5   | 4  |    | 3  |
| より快適に<br>情報センター | 11  |       | 1  | 2  | 3   | 1  |    | 4  |
| 体育施設            | 10  |       | 1  | 3  | 2   | 2  | 2  |    |
| 掲示              | 9   |       |    | 1  | 5   | 2  | 1  |    |
| 駐車場             | 7   |       |    |    |     |    |    | 7  |
| 通学              | 6   |       | 2  | 2  | 2   |    |    |    |
| その他             | 4   |       |    | 1  | 1   |    | 2  |    |
|                 | 17  |       |    | 7  | 2   | 4  | 1  | 3  |
| 部活              | 27  | 5.0%  | 0  | 2  | 3   | 4  | 10 | 8  |
| (内訳) 施設         | 12  |       |    | 1  | 1   | 2  | 5  | 3  |
| 支援              | 5   |       |    | 1  | 1   | 1  | 1  | 1  |
| 時間              | 3   |       |    |    | 1   |    | 2  |    |
| 新設              | 3   |       |    |    |     | 1  | 1  | 1  |
| その他             | 4   |       |    |    |     |    | 1  | 3  |
| 寮               | 31  | 5.8%  | 0  | 11 | 9   | 5  | 3  | 3  |
| (内訳) 全般         | 15  |       |    | 4  | 6   | 2  | 1  | 2  |
| LAN             | 11  |       |    | 5  | 1   | 2  | 2  | 1  |
| 規律              | 5   |       |    | 2  | 2   | 1  |    |    |
| 合計              | 536 | 93%   | 21 | 93 | 120 | 77 | 99 | 89 |

(出典：在学生アンケート用紙・自由記述の部分)

資料 7-1-③-5：オピニオン・ボックスの設置

平成19年度第1回主任会議議事要録

日 時：平成19年4月11日（水） 午後1時40分から午後5時50分まで

場 所：校長室

出席者：金岡（校長），櫻野（副校長），松田（学生主事），西澤（寮務主事），  
畑（研究主事），高島（図書情報主事），太田（伸）（一般），黒崎（機械），  
深見（電気），金寺（電子情報），小泉（環境都市），金木（建築），  
原田（事務部長）

陪席者：総務課長，学生課長，企画室長，総務課課長補佐，学生課課長補佐

幹 事：総務係長

（中略）

（2）平成19年度の課題と任務分担について

資料2に基づき，平成19年度における本校の課題と対応する任務分担について説明があり，オピニオン・ボックスについて原案どおり設置することとし，各課題の遂行に向けて学校全体として取組んでいくよう要請があった。

（出典：平成19年度第1回主任会議議事要録）

（分析結果とその根拠理由）

オフィスアワー，授業アンケート，担任や学科主任の指導などさまざまな方法を通して，学習支援のニーズを把握する体制が整えられている。したがって，学習支援に関する学生のニーズは適切に把握されている。

**観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

## 1) 資格試験や検定試験に対する支援体制とその活動状況

検定試験としては，特にTOEICを重視し，TOEIC IPの団体受験を行っている（資料7-1-④-1）。授業においてもTOEIC受験対策を行い，また希望者には個別指導も行っている。また図書館にTOEICに関する書籍，CDなど補助教材を配備しているほか，情報処理センターにはTOEIC受験対策のソフトウェアにおいて自主学習を支援している（資料7-1-④-2）。

資格試験に関しては，各専門学科がその資格の種類・難易に応じてさまざまな支援体制をとっている。たとえば工業英検に関しては工業英語の授業で試験向けの演習を取り入れている。また電気工事士技能試験に関しては，学級担任がガイダンスを行っているほか，実技指導も実施している。情報処理技術者資格の取得については，講習などを実施して試験に備えている。建築士資格については，受験指導の一環として授業の教育内容を改善して支援に努めている（資料7-1-④-3）。

- 資料7-1-④-1：TOEIC IP団体受験実績
- 資料7-1-④-2：TOEICに関する教材所蔵資料
- 資料7-1-④-3：建築士資格試験に関する支援

資料 7-1-④-1 : TOEIC IP団体受験実績

## IPテスト・インターネット・サービス申込サイト



## 過去の申込一覧

| 試験実施団体 ID | 試験実施団体名称   |            |          |            |
|-----------|------------|------------|----------|------------|
| 360951    | 石川工業高等専門学校 |            |          |            |
| 試験申込団体 ID | 登録番号       | 試験申込団体名称   | 事務所名・支店名 | 部課名        |
| 360951    | 0762888071 | 石川工業高等専門学校 |          | 一般教育科(英語科) |

試験実施予定日 2006/4/1 以降 2007/3/31 迄  
 申込番号 なし

※FAX 申し込み分は一覧に表示されません。

※実受験日・実受験者数合計は、お申し込み時にインターネットフィードバックを選択した場合にのみ一覧に表示されます。

| 申込番号   | 試験実施予定日                    | 発送先件数 | 予定受験者数 | 実受験日                       | 実受験者数合計 | 試験官派遣 | 詳細   |
|--------|----------------------------|-------|--------|----------------------------|---------|-------|------|
| 508866 | 2007/01/21                 | 1     | 30     | 2007/01/17 ~<br>2007/01/17 | 26      | —     | 詳細表示 |
| 508556 | 2006/12/13 ~<br>2006/12/13 | 1     | 230    | 2006/12/13 ~<br>2006/12/13 | 212     | —     | 詳細表示 |

(出典：一般科英語教室保管資料)

## 資料 7-1-④-2 : TOEIC に関する教材所蔵資料

Webcat Plus 検索

同じ検索条件で国立情報学研究所の Webcat Plus を検索することができます。

1. [TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集 / The Chauncey Group International 著 ; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編. -- 国際ビジネスコ..., 2003](#)
2. [英語上達完全マップ : 初級から TOEIC900 点レベルまでの効果的勉強法 / 森沢洋介著. -- レ出版, 2005 -- \(Beret books \)](#)
3. [TOEIC テスト新公式問題集 / Educational Testing Service 著 ; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編. -- 国際ビジネスコ..., 2005](#)
4. [TOEIC テスト新・最強トリプル模試 : New Version 対応の模試を 3 回分収録 / 中村紳一郎\[ほか\]著. -- ジャパンタイム..., 2006](#)
5. [新 TOEIC テスト「勝ち組」のスピード攻略法 / 松野守峰, R.L.ハウザー, 宮原知子著. -- ダイモンド社, 2006](#)
6. [Over the TOEIC bridge test : first steps to the TOEIC test / Atsushi Mizumoto, Mark D. Staffor -- 桐原書店, 2006 -- \(Longman Kirihara global link \)](#)
7. [TOEIC テストイディオム応用編 : もっとできる!30 日間完成 / 桜井雅人監修 ; Cathleen Fishman, David Minton, Robert Reed 例文作成 ; 上村修, 肥田美佐子, 早瀬芳文訳 ;: 新装版 -- アルク, 2000](#)
8. [TOEIC テストボキャブラリー基本編 : かならずできる!30 日間完成 / 桜井雅人監修 ; Cathleen Fishman, Rodney A. Hoiseth, Tim Toole 例文作成 ; 上村修\[ほか\]訳 ;: 新装版. -- アルク, 2000](#)

(出典 : 国立情報学研究所ウェブサイト)



## 資料 7-1-④-3 : 建築士資格試験に関する支援

| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 学年                                                                                                                                                               | 単位数       | 区分 | 開講期            | 担当教員             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|----------------|------------------|
| 建築設計V<br>Architectural Design V                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 5年                                                                                                                                                               | 2<br>履修単位 | 必修 | 前期<br>50分×4回/週 | 金木健, 石渡博,<br>内田伸 |
| 対象学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 建築学科                                                                                                                                                             |           |    |                |                  |
| 授業目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 建築設計Vでは, 建築士(国家資格)の実技試験である設計製図試験問題を通して一級, 二級建築士取得に必要な計画・製図能力の習得を目的とする。そのため総合的視点(平面計画, 断面計画, 構造計画, 設備計画, 建築法規)から社会や環境に配慮しつつ計画し, 必要図面を制限時間内に最後まで描き上げる実践的トレーニングを行う。 |           |    |                |                  |
| <b>■教育目標との対応</b><br>本科学習目標: 2, 3      専攻科・創造工学プログラム: B(1) 専門 (建築学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■キーワード</b><br>建築士試験, 設計製図, 設計条件, エスキス, 建築基準法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■年間スケジュール</b><br><b>【前期】</b><br>第1週 二級建築士設計製図試験問題演習 (1)<br>第2週 二級建築士設計製図試験問題演習 (2)<br>第3週 二級建築士設計製図試験問題演習 (3)<br>第4週 二級建築士設計製図試験問題演習 (4)<br>第5週 二級建築士設計製図試験問題演習 (5)<br>第6週 二級建築士設計製図試験問題演習 (6)<br>第7週 二級建築士設計製図試験問題演習 (7)<br>第8週 一級建築士設計製図試験問題演習 (1)<br>第9週 一級建築士設計製図試験問題演習 (2)<br>第10週 一級建築士設計製図試験問題演習 (3)<br>第11週 一級建築士設計製図試験問題演習 (4)<br>第12週 一級建築士設計製図試験問題演習 (5)<br>第13週 一級建築士設計製図試験問題演習 (6)<br>第14週 一級建築士設計製図試験問題演習 (7)<br>第15週 前期復習 |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■学生の学習目標</b><br>1. 二級建築士設計製図試験に必要な計画・製図能力を習得する。<br>2. 二級建築士設計製図試験に必要な計画・製図能力を習得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■評価方法</b> ; 演習課題の達成水準 (80%), 平常学習における演習課題の提出状況 (20%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■その他履修上の注意事項や学習上の助言</b> ; 指定する製図用具, 授業時間前に準備すること。床面積, 建蔽率の算定方法など, 基本的な建築関連法令について理解しておくこと。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■レポート等</b> ; 定期的に課題を与える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■関連科目</b> ; 建築設計, 建築計画学, 鉄筋コンクリート構造, 建築設備計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |
| <b>■教科書, 教材, 参考書等</b><br>教科書;<br>教材等: 関連プリントを配布する。<br>参考書: 図書館に多数の関連書籍がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                  |           |    |                |                  |

(出典: 平成19年度シラバス)

## 2) 外国留学に対する支援体制とその活動状況

外国留学，とくに語学留学を希望する学生に対して，留学先で取得した単位を本校での履修単位の修得に振替ることで，留学が学年修了または卒業に可能な限り支障がないように配慮している（資料 7-1-④-4, 5）。また，中国杭州職業技術学院との学術交流協定の締結によって学生の海外語学研修先の選択先を増やしている（資料 7-1-④-6）。

- 資料 7-1-④-4：派遣留学生規程
- 資料 7-1-④-5：学生の海外留学状況（過去3カ年）
- 資料 7-1-④-6：海外の大学との学術交流協定

## 資料 7-1-④-4：派遣留学生規程

## VⅢ 諸規則

## 1. 石川工業高等専門学校学則

(略)

## 第5章 入学，転科，休学，退学，転学，留学，卒業および除籍

(中略)

## (留学)

第26条の2 校長は，教育上有益と認めるときは，学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は，前項の規定により留学することを許可された学生について，外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし，30単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 校長は，前項の規定により単位の修得を認定された学生について，学年の途中においても，各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 前3項に関し，必要な事項は別に定める。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-④-5：学生の海外留学状況（過去3カ年）

## ●2005年度（1名）

所属学科；電子情報工学科1年

留学先；アメリカ合衆国

期間；平成16年7月～平成17年6月

摘要；2004年度PIEE高校生交換留学生プログラム

## ●2006年度（0名）

## ●2007年度（1名）

所属学科；機械工学科2年

留学先；カナダ

期間；平成19年4月～平成20年3月

摘要；2007年度WYS交換留学生制度

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-1-④-6 : 海外の大学との学術交流協定

日本国石川工業高等専門学校と中華人民共和国杭州職業技術学院との  
学術交流に関する協定書

石川工業高等専門学校と杭州職業技術学院は、両学校（学院）間の友好協力関係を発展させ、学術交流の促進を図るため、両学校（学院）の協議のもとに、次のとおり協定を締結する。

1. 両学校（学院）は、平等・互恵の原則に従って、次の事項についての実施とその発展に協力する。
  - ① 教員・研究者の交流
  - ② 学生の交流
  - ③ 共同研究の推進
  - ④ 学術出版物、刊行物及び情報の交換
2. この協定を実施するために、別に実施細目を両学校（学院）間の協議により締結することができる。
3. 本協定書の変更については、両学校（学院）の文書による同意を必要とする。
4. この協定は、調印の日から効力を生じ、5年間有効とする。その後は、一方の学校（学院）から文書による解消の意思表示がなければ、この協定は存続する。
5. この協定は、日本語、中国語及び英語により各2通作成し、各文書は等しく正文であり、両学校（学院）は相互に正文を保持する。

07 年 1 月 12 日

2007 年 1 月 12 日

日本国石川工業高等専門学校長

中華人民共和国杭州職業技術学院長

金 岡 十 嘉 男

陸 永 健

(出典：石川高専と中華人民共和国杭州職業技術学院との学術交流に関する協定書)

(分析結果とその根拠理由)

TOEIC IPテストや各種資格試験の受験を奨励し、また学科単位で必要なサポートを行っている。また図書館、情報処理センターが受験のための自主学習を支援している。

以上のことから、資格試験や検定試験、外国留学のための支援体制が整備され、機能している。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

本校には、特別な学習支援が必要な者として、留学生、編入学生が存在する。

#### 1) 留学生に対する支援状況

留学生に対しては、日頃の学習活動と日本における日常生活を支援するために、留学生個別に指導教員および同級生によるチューター制度を導入し（資料 7-1-⑤-1）、本校の授業内容を理解するために必要な基礎学力を養うとともに、第3学年までに修得すべき専門科目を履修させるため、特別なカリキュラムが編成されている（資料 7-1-⑤-2）。さらに、イングリッシュワークショップとして毎年留学生による母国および文化紹介の会を開催することによって日本人学生との一層の交流を図り、留学生の学生生活が快適なものとなることの一助となるよう配慮している（資料 7-1-⑤-3）。

- 資料 7-1-⑤-1：チューター制度実施要項
- 資料 7-1-⑤-2：留学生用カリキュラム
- 資料 7-1-⑤-3：イングリッシュワークショップ開催状況及び参加者数

#### 資料 7-1-⑤-1：チューター制度実施要項

第4条 留学生の第3学年における教育課程は、特別教育活動のほか、本校の授業内容を理解するために必要な基礎学力を養うとともに、第3学年までに修得すべき専門科目を履修させるため、特別に編成するものとする。

2 留学生の第4学年及び第5学年における教育課程は、原則として学則に定める専門科目及びその他の授業科目により編成するものとする。

（留学生指導教員）

第5条 留学生の学習をより効果的に行うため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

2 前項の指導教員は、当該学科の教員の中から、学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

（チューター）

第6条 留学生の学校生活及び個人生活に助言を行うため、チューターを置くことができる。

2 チューターは、原則として編入学後2年間を対象に、当該留学生の専攻する分野に関連する学生の中から教務主事及び指導教員等の推薦に基づき、校長が委嘱する。

（出典：石川工業高等専門学校規則集）

## 資料 7-1-⑤-2 : 留学生用カリキュラム

H19年度機械工学科留学生時間割

| 月            | 火                | 水             | 木                | 金           |
|--------------|------------------|---------------|------------------|-------------|
| 材料力学Ⅰ<br>旭吉  | 保健体育Ⅲ<br>青木      | 熱力学Ⅰ<br>黒崎    | 解析学Ⅱ<br>笠松       | 機構学<br>堀    |
| 材料学Ⅱ<br>河野   | 応用物理Ⅰ<br>石田      |               | 情報処理Ⅰ<br>堀       | 流れ学Ⅰ<br>割澤  |
| 英語講読Ⅰ<br>太田智 | 機械工学演習Ⅰ<br>黒崎・旭吉 | 代数・幾何Ⅱ<br>森田健 | 英語表現Ⅲ<br>スコフィールド | 機械実習Ⅲ<br>河野 |
| 特別講義<br>各教員  | 解析学Ⅱ<br>笠松       | 特活<br>旭吉      | 特別講義<br>各教員      | 機械実習Ⅲ<br>河野 |
|              |                  | 日本語教育<br>下家   |                  | 日本語教育<br>下家 |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-1-⑤-3 : イングリッシュワークショップ開催状況及び参加者数

| 開催年月   | 回  | ゲスト国名                                        | 本校留学生数                     | 参加学生数                                                              |
|--------|----|----------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| H16.7  | 24 | アメリカ合衆国                                      | 11                         | インドネシア 1<br>ベトナム 1<br>40                                           |
| H16.9  | 25 | スイス<br>イタリア<br>ブラジル<br>アメリカ合衆国               | 4<br>3<br>1<br>2           | インドネシア 1<br>ベトナム 1<br>16                                           |
| H16.10 | 26 | アメリカ合衆国<br>スコットランド                           | 2<br>1                     | インドネシア 1<br>12                                                     |
| H17.5  | 27 | スイス<br>ドイツ<br>アメリカ合衆国<br>ブラジル<br>ブルガリア<br>台湾 | 2<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1 | モンゴル 1<br>ベトナム 1<br>16                                             |
| H17.7  | 28 | アメリカ合衆国                                      | 11                         | モンゴル 1<br>ベトナム社会主義共和国 2<br>インドネシア共和国 1<br>ベトナム 2<br>インドネシア 1<br>20 |
| H17.12 | 29 | アメリカ合衆国                                      | 3                          | 13                                                                 |
| H18.5  | 30 | ウガンダ                                         | 1                          | ウガンダ 1<br>8                                                        |
| H18.7  | 31 | アメリカ合衆国                                      | 11                         | ウガンダ 1<br>40                                                       |
| H18.9  | 32 | スイス<br>ドイツ<br>コロンビア                          | 2<br>1<br>1                | 10                                                                 |

(出典：学生課保管資料)

2) 編入学生に対する支援状況

編入学生に関しては、入学前に複数回の登校日を設け、数学、英語、ドイツ語、および専門教科の事前指導を行っている（資料 7-1-⑤-4）。入学後も各教科担当教員が、教科指導を随時行っている（資料 7-1-⑤-5）。

- 資料 7-1-⑤-4：編入学生ガイダンス案内
- 資料 7-1-⑤-5：特に編入学生を対象とした学習支援

資料 7-1-⑤-4：編入学生ガイダンス案内

平成18年8月25日

平成19年度 4年次編入学生選抜検査合格者 各位

石川工業高等専門学校長  
金 岡 千嘉男

平成19年度石川工業高等専門学校4年次編入学に当たっての留意事項について

1. 意志確認書について

本校に編入学を希望する者は、同封の意志確認書を平成18年9月15日（金）までに持参又は郵送してください。期限までに提出がない場合は、編入学を辞退したものとみなします。

2. 編入学者ガイダンスについて

以下のとおり実施しますので、編入学希望者は必ず出席してください。

- (1) 日 時 平成18年9月22日（金） 14時から
- (2) 場 所 石川工業高等専門学校 第1小会議室（管理棟1階）
- (3) その他
  - ・高等学校（1～3年生）で使用の数学・英語関係の教科書を当日持参してください。
  - ・在学中の学校長には、出席についての配慮を依頼してあります。
  - ・連絡なしに欠席した場合は、編入学を辞退したものとみなします。

（出典：学生課保管資料）

資料 7-1-⑤-5：特に編入学生を対象とした学習支援

平成19年4月11日

4年生の皆さんへ

数学科

連 絡

4年次の応用数学で必要となる数学についての補習（主に3年次の解析学Ⅱの復習：毎週月曜日 17：00からの予定）について説明しますので希望者は集まってください。

日時：4月16日（月）17：00

場所：1号館4階 合併教室

対象：希望者および編入学生

（出典：掲示物（数学科保管資料））

(分析結果とその根拠理由)

留学生に関しては、教員およびチューターによる支援体制が整備されている。編入学生に関しては、入学前に登校日を設け、教科担当教員、担任による個別指導を行っている。

以上のことから、特別な学習支援が必要な者への学習支援が整備され機能している。

**観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点到に係る状況)

1) クラブ活動への支援体制

クラブ活動に関しては、学生の自主的参加による課外活動として定着している。クラブ・同好会ともに教員が顧問となって支援しており、すべてのクラブ・同好会に活動場所が提供されている(資料 7-1-⑥-1~4)。運営費用は、運営費交付金、教育後援会および学生会予算の一部をあて、年度ごとに実施計画および活動報告を行って予算配分を決定している(資料 7-1-⑥-5~9)。年度末にはクラブリーダー研修会が行われ、学生主事をはじめとする指導教員が出席して適切なアドバイスを行っている(資料 7-1-⑥-10, 11)。また、部活動や課外活動に関して優秀な成績を納めた学生や部に対し、その都度全学生の前で表彰するとともにウェブサイトや掲示板に示し顕彰している。卒業式にも表彰規則に則り、表彰している(資料 7-1-⑥-12, 13)。

- 資料 7-1-⑥-1：部活動等種類・部活動顧問・部活動利用施設・部員数一覧
- 資料 7-1-⑥-2：部活動等の結成
- 資料 7-1-⑥-3：部活動対外活動支援
- 資料 7-1-⑥-4：部活動施設支援
- 資料 7-1-⑥-5：部活動予算支援 (1)
- 資料 7-1-⑥-6：部活動予算支援 (2)
- 資料 7-1-⑥-7：部活動予算支援 (3)
- 資料 7-1-⑥-8：部活動予算支援 (4)
- 資料 7-1-⑥-9：部活動移動方法等支援
- 資料 7-1-⑥-10：クラブリーダー研修会日程表
- 資料 7-1-⑥-11：クラブリーダー研修会資料
- 資料 7-1-⑥-12：石川工業高等専門学校学生表彰規則
- 資料 7-1-⑥-13：学生の表彰状況 (平成17および18年度)

資料 7-1-⑥-1：部活動等種類・部活動顧問・部活動利用施設・部員数一覧

| 区分       | 部・同好会名        | 指導教員名          | 主な活動場所      | キャプテン | 部員数 |     |     |
|----------|---------------|----------------|-------------|-------|-----|-----|-----|
|          |               |                |             |       | 男子  | 女子  | 計   |
| 部<br>体育系 | 1 サッカー        | 富田, 堀, 河合(秀)   | グラウンド       |       | 27  | 6   | 33  |
|          | 2 バスケットボール    | 鈴木(久), 河野      | 第1体育館       |       | 31  | 5   | 36  |
|          | 3 野球          | 小糸, 北田(耕), 奥田  | 野球場         |       | 52  | 6   | 58  |
|          | 4 卓球          | 瀬戸, 藤岡         | 第1体育館       |       | 24  | 9   | 33  |
|          | 5 ラグビー        | 大坪, 鈴木(康)      | グラウンド       |       | 10  | 5   | 15  |
|          | 6 柔道          | 畑, 高島          | 武道館         |       | 12  | 0   | 12  |
|          | 7 ソフトテニス      | 深見, 石田, 森原     | テニスコート      |       | 27  | 14  | 41  |
|          | 8 テニス         | 北田(幸), 豊田, 富山  | テニスコート      |       | 33  | 3   | 36  |
|          | 9 剣道          | 松島, 山田(洋)      | 武道場         |       | 12  | 9   | 21  |
|          | 10 バレーボール     | 森田(義), 村田      | 第1体育館       |       | 19  | 5   | 24  |
|          | 11 陸上競技       | 岩竹, 旭吉         | 津幡町運動公園競技場  |       | 38  | 9   | 47  |
|          | 12 バドミントン     | 長岡, 熊澤         | 第2体育館       |       | 27  | 2   | 29  |
|          | 13 水泳         | 西澤, 和田         | プール         |       | 13  | 10  | 23  |
|          | 14 ワンダフォーゲル   | 團野, 重松         | 部室          |       | 4   | 2   | 6   |
|          | 15 ハンドボール     | 川原, 東          | 第2体育館       |       | 18  | 6   | 24  |
|          | 16 空手道        | 割澤, 小熊         | 武道館         |       | 10  | 0   | 10  |
|          | 17 女子テニス      | 佐々木, 河合(康)     | テニスコート      |       | 0   | 16  | 16  |
|          | 18 女子バレーボール   | 笠松, 上町         | 第2体育館       |       | 0   | 17  | 17  |
|          | 19 女子バドミントン   | 太田(智), 高野      | 第2体育館       |       | 0   | 11  | 11  |
|          | 20 女子バスケットボール | 山田(悟), 團野, 伴田  | 第1体育館       |       | 0   | 19  | 19  |
| 体育系部合計   |               |                |             |       | 357 | 154 | 511 |
| 部<br>文化系 | 1 美術          | 阿蘇, 紺谷         | サークル共用棟美術部室 |       | 4   | 10  | 14  |
|          | 2 写真          | 金木             | サークル共用棟写真部室 |       | 0   | 7   | 7   |
|          | 3 電気          | 徳井             | サークル共用棟電気部室 |       | 6   | 0   | 6   |
|          | 4 吹奏楽         | 小熊, 記州         | サークル共用棟吹奏楽部 |       | 11  | 19  | 30  |
|          | 5 英語          | 太田(伸), スゴフニールド | サークル共用棟英語部室 |       | 7   | 8   | 15  |
|          | 6 新聞部         | 長岡             | サークル共用棟新聞部室 |       | 0   | 5   | 5   |
|          | 7 将棋・囲碁部      | 越野, 中村         | サークル第一共用室   |       | 8   | 0   | 8   |
|          | 8 建築研究        | 内田             | 建築棟 仮部室     |       | 21  | 12  | 33  |
|          | 9 電子情報研究      | 竹下, 越野         | 電子情報棟 仮部室   |       | 20  | 0   | 20  |
|          | 10 茶道部        | 堀              | 自彊館 畳室      |       | 1   | 5   | 6   |
|          | 11 ロボット研究部    | 八田, 藤岡         | 機械棟 1F      |       |     |     |     |
| 文化系部合計   |               |                |             |       | 78  | 66  | 144 |
| 部合計      |               |                |             |       | 435 | 220 | 655 |
| 部<br>文化系 | 1 F L         | 大坪             | サークル共用棟     |       | 24  | 1   | 25  |
|          | 2 映画          | 米澤             | 視聴覚教室       |       | 4   | 0   | 4   |
|          | 3 環境都市工学研究    | 鈴木, 重松         | 環境棟 仮部室     |       | 9   | 3   | 12  |
|          | 4 園芸          | 高野             |             |       |     |     |     |
| 文化系同好会合計 |               |                |             |       | 37  | 4   | 41  |
| 同好会合計    |               |                |             |       | 77  | 22  | 99  |

(出典：学生課保管資料)



## 資料 7-1-⑥-2：部活動等の結成

## 4. 課外活動について

(中略)

## 2) 部・同好会について

本校には体育系・文化系の部・同好会があり、活発に活動しています。体育系の部の多くは毎年夏に行われる北陸地区高等専門学校体育大会および東海北陸地区代表決定戦を経て、全国大会に出場できます。また、高等学校体育連盟（高体連）石川県大会に出場する部もあります。文化部は夏休み前に合同文化部発表会で活動成果を発表するなど、それぞれの分野で活躍しています。

## (1) 部・同好会の結成

新しい部・同好会を結成するときは、顧問となる指導教員の了解を得て学生団体結成願・年間スケジュール・名簿等を学生課学生係に提出してください。校長の承認によって結成が認められます。

なお、毎年2月には既に結成されている部・同好会も学生団体結成願等を再提出する必要があります。

## 提出書類及び提出期限

| 提出書類       | 提出期限 | 備考 |
|------------|------|----|
| 学生団体結成願    | 2月上旬 |    |
| 課外活動経費要求調  | 3月上旬 |    |
| 活動報告書（前年度） | 3月上旬 |    |
| 物品借用願      | 5月上旬 |    |
| 施設・設備使用許可願 | 5月上旬 |    |
| 学生団体構成員名簿  | 5月上旬 |    |
| 年間スケジュール   | 5月上旬 |    |

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-3：部活動対外活動支援

## 4. 課外活動について

(中略)

## (2) 対外活動等について

対外活動を行うときは、課外活動承認申請書を、活動日1週間前までに学生課学生係に申請してください。申請された課外活動承認申請書は・承認（不承認）後に写しを顧問教員へ渡します。

この写しは、学生会の大会参加費等の添付書類として必要になるので、申請した部で大切に保管してください。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-4：部活動施設支援

## 4. 課外活動について

(中略)

## (4) 期間・時間及び体育施設・サークル共用棟の使用

課外活動期間・時間及び各施設の使用期間・時間は次のとおりとしますが、12月29日から1月3日、入学試験関係日、荒天、施設設備の故障・点検及び学生課が指定した日時は使用を許可しません。

各施設の使用は3名以上で、使用責任者(本校教職員)を1名以上選任することとします。また、施設使用の詳細については、各施設の使用心得を遵守してください。

## ① 期間

土・日・祝日・各休業期間・定期試験開始1週間前から試験期間中を除く全日。

## ② 時間

午後4時40分から午後6時30分。

## ③ 各施設使用申請・割振り

施設使用承認申請書で申請した施設について、部・同好会代表者会議(学生会主催)で上記期間・時間についての調整・割振りをし、学生会から学生課学生係へ割振りの承認申請を行います。

## ④ 期間外・時間外の活動及び各施設の使用

前記期間・時間外に、課外活動及び各施設使用の必要が生じた場合は、使用しようとする日の1週間前までに、使用する当該月ごとの課外活動・施設使用承認申請書を学生課学生係へ提出し、許可を得てください。

なお、使用時間については、午前7時から午後9時までの間で学生課が許可した時間とします。合宿研修施設(自彊館)については73ページで確認してください。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-5：部活動予算支援 (1)

## 4. 課外活動について

(中略)

## (3) 活動予算

部・同好会活動には、学生会、教育後援会および学校からの予算補助が認められることがあります。これらの補助は、各予算によって使用目的・要求方法が異なるので注意する必要があります。

## ①学生会予算(部のみ)

品目：ボール・石灰等の消耗品

要望時期：部予算要求書(希望届)を2月中に学生会へ提出

承認方法：5月上旬開催学生会総会で承認

使用方法：承認された物品は、学生会へ申請する

## ②教育後援会予算

品物(部)：コーチ料・試合用ユニホーム・バス借上費・消耗品

(同好会)：消耗品等

要望時期：1月中に次年度の要望書を学生課学生係へ提出

承認方法：5月に開催される顧問教員会議で承認

使用方法：承認された物品は、顧問教員が学生課学生係へ購入を願い出る

バスの使用については、事前に学生課学生係へ相談すること。

## ③学校運営費

品目：概ね数万円以下の物品及び修理費等(部員が共通に使用するもの)

要望時期：1月中に次年度の要望書を学生課学生係へ提出

承認方法：5月に開催される顧問教員会議で承認

使用方法：承認された物品等は、学生課学生係が購入する

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-6 : 部活動予算支援 (2)

## 平成18年度課外活動物品援助費(運営交付金)

資料 1

| 部 名        | 品 名              | 規 格                  | 数 量    | 単 価    | 金 額     |  | 単 位 : 円<br>計 |
|------------|------------------|----------------------|--------|--------|---------|--|--------------|
|            |                  |                      |        |        |         |  |              |
| サッカー       | ボール収納籠           | モルテンBK200TB          | 1 個    | 23,153 | 23,153  |  | 27,563       |
|            | 空気入れ             | モルテンAP50             | 2 個    | 2,205  | 4,410   |  |              |
| バスケットボール   | レフリーグッズ          | アシックス                | 1      | 32,950 | 32,950  |  | 75,950       |
|            | バスケットボール         | モルテンMTBWW            | 5 個    | 8,600  | 43,000  |  |              |
| 野球         | 硬式用マスク           | RCM-99(ネービ)          | 1 個    | 36,800 | 36,800  |  | 94,550       |
|            | 硬式用プロテクター        | RCP-10(ネービ)          | 1 個    | 27,300 | 27,300  |  |              |
|            | 硬式用レガース          | RCL-10(ネービ)          | 1 個    | 30,450 | 30,450  |  |              |
| ラグビー       | ラグビーボール          | セプターWM-1             | 4 個    | 6,500  | 26,000  |  | 26,000       |
| 柔道         | 柔道衣              |                      | 2 着    | 25,000 | 50,000  |  | 54,620       |
|            | チューブ             | ミスノC-16              | 2 本    | 2,310  | 4,620   |  |              |
| ソフトテニス     | ボール              | ケンユ-TSSW-V           | 10 ダース | 4,500  | 45,000  |  | 45,000       |
| テニス        | ボール              | ウイソン                 | 1 箱    | 24,000 | 24,000  |  | 24,000       |
| バレーボール     | ボール              | ミカサ又はモルテンMVP20       | 7 個    | 5,000  | 35,000  |  | 43,500       |
|            | アンテナ             | アシックス                | 1 本    | 8,500  | 8,500   |  |              |
| 剣道         | 竹刀               | 3尺8寸                 | 10 本   | 3,800  | 38,000  |  | 48,000       |
|            | 竹刀付属品            |                      | 10 式   | 1,000  | 10,000  |  |              |
| 卓球         | トレーニングボール40      | バタフライ                | 5 個    | 6,300  | 31,500  |  | 31,500       |
| 陸上         | T6904DブライオボックスII | NISHI                | 1      | 34,440 | 34,440  |  | 34,440       |
| バドミントン     | シャトル             | YONEXニューオフィシャル       | 10 ダース | 3,300  | 33,000  |  | 39,800       |
|            | ネット              | YONEXAC342           | 1 個    | 6,800  | 6,800   |  |              |
| 水泳         |                  |                      |        |        | 0       |  | 0            |
| ワンダーフォゲル   |                  |                      |        |        |         |  | 0            |
| ハンドボール     | ボール              | モルテンH-314            | 7 個    | 3,680  | 25,760  |  | 54,260       |
|            | ネット              | モルテンH-390            | 1 組    | 28,500 | 28,500  |  |              |
| 空手道        | ニュームホ-V          | ミズノL                 | 2 個    | 16,000 | 32,000  |  | 44,600       |
|            | 胴プロテクター          |                      | 2 個    | 6,300  | 12,600  |  |              |
| 女子テニス      | ボールバスケット(高さ調節付)  | プリンス(PL-054)         | 1 個    | 17,640 | 17,640  |  | 24,240       |
|            | シングル用ボール         | エパニュー(KE-903)        | 1 組    | 6,600  | 6,600   |  |              |
| 女子バドミントン   | シャトル             | YONEXニューオフィシャル       | 10 ダース | 3,300  | 33,000  |  | 33,000       |
| 女子バスケットボール | ゼッケン             | ミスノピバス10枚セット         | 2 セット  | 13,650 | 27,300  |  | 27,300       |
| 女子バレーボール   | 支柱カバー            | アシックス242600          | 1      | 39,900 | 39,900  |  | 52,290       |
|            | ラダー              | ミスノ28MNI7000         | 1      | 12,390 | 12,390  |  |              |
| 美術         |                  |                      | 0      |        | 0       |  | 0            |
| 写真         | ピッチャー            | フジ                   | 5 個    | 1,400  | 7,000   |  | 11,637       |
|            | バット              | フジ                   | 3 個    | 820    | 2,460   |  |              |
|            | 湿度計              | フジ                   | 2 個    | 600    | 1,200   |  |              |
|            | クリップ             | フジ                   | 1 個    | 452    | 452     |  |              |
|            | ケース              | ダイソー                 | 5 個    | 105    | 525     |  |              |
| 電気         | 免許更新料            |                      | 0 式    | 0      | 0       |  | 0 教育後援会費へ    |
|            | 電波利用料            |                      | 0 式    | 0      | 0       |  | 0 教育後援会費へ    |
|            | JARL年会費          |                      | 0 式    | 0      | 0       |  | 0 教育後援会費へ    |
| 吹奏楽        | ステレオマイク          | audio-technica AT822 | 1 台    | 31,500 | 31,500  |  | 61,500       |
|            | デッキ              | Victor-NS-W9-W       | 1 台    | 30,000 | 30,000  |  |              |
| 英語         | ストップウォッチ         |                      | 1 個    | 5,000  | 5,000   |  | 15,898       |
|            | 写真フィルム           | ASA40024枚撮り          | 1 個    | 800    | 800     |  |              |
|            | テーブルクロス          |                      | 1 枚    | 7,500  | 7,500   |  |              |
|            | プレート             |                      | 1 枚    | 2,598  | 2,598   |  |              |
| 将棋・囲碁      |                  |                      |        |        |         |  | 0            |
| 建築研究       | シキヤナー            |                      | 0 式    |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 電子情報研究     | DVカメラ            | Canon                | 0 台    | 0      | 0       |  | 0 教育後援会費へ    |
| 茶道         | 末茶               | 薄茶(500g)             | 500    | 21     | 10,500  |  | 10,500       |
| FL同好会      |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 映画同好会      |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 環境都市研究同好会  |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| RRM同好会     |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 電気工事同好会    |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 園芸同好会      |                  |                      | 0      |        |         |  | 0 教育後援会費へ    |
| 予備費        |                  |                      |        |        | 19852   |  |              |
| 合 計        |                  |                      |        |        | 900,000 |  |              |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-1-⑥-7 : 部活動予算支援 (3)

## 資料 2

## 平成18年度課外活動物品援助費(教育後援会費)

単位:円

| 部 名        | 品 名            | 規 格           | 数 量 | 単 価    | 金 額     | 計       |
|------------|----------------|---------------|-----|--------|---------|---------|
| サッカー       | フットサル用ネット      |               | 1   | 41,896 | 41,896  | 71,986  |
|            | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  |         |
| バスケットボール   | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  | 30,000  |
| 野球部        | 金属バット          |               | 3   | 8,400  | 25,200  | 25,200  |
| ラグビー       | コーチ料           |               | 15  | 3,000  | 45,000  | 45,000  |
| 柔道         | 爪きり            |               | 1   | 1,000  | 1,000   | 1,000   |
| ソフトテニス     | トンボ            |               | 2   | 3,700  | 7,400   | 7,400   |
| テニス        | ラインテープ用釘       |               | 1   | 14,000 | 14,000  | 34,000  |
|            | ガット            |               | 2   | 10,000 | 20,000  |         |
| 剣道         | テーピング          |               | 4   | 500    | 2,000   | 2,000   |
| バレーボール     | コーチ料           |               | 15  | 3,000  | 45,000  | 45,000  |
| 卓球         | コーチ料           |               | 12  | 3,000  | 36,000  | 36,000  |
| 陸上         | 競技記録計測システム     |               | 1   | 15,000 | 15,000  | 15,000  |
| バドミントン     | ガット            |               | 1   | 14,700 | 14,700  | 21,525  |
|            | ネット            |               | 1   | 6,825  | 6,825   |         |
| 水泳         | プールブイ          |               | 3   | 2,000  | 6,000   | 15,000  |
|            | パドル            |               | 3   | 3,000  | 9,000   |         |
| ワンダーフォゲル   |                |               |     |        | 0       |         |
| ハンドボール     | コーチ料           |               | 5   | 3,000  | 15,000  | 15,000  |
| 空手道        | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  | 30,000  |
| 女子テニス      | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  | 30,000  |
| 女子バドミントン   | ガット            |               | 1   | 14,700 | 14,700  | 14,700  |
| 女子バスケットボール | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  | 30,000  |
| 女子バレーボール   | アンテナ           | アシックス241010   | 1   | 9,000  | 9,000   | 20,000  |
|            | ボール            | ミカサMVP        | 2   | 5,500  | 11,000  |         |
| 美術         | コーチ料           |               | 3   | 3,000  | 9,000   | 9,000   |
| 写真         |                |               |     |        | 0       |         |
| 電気         | 免許更新料          |               | 1   | 5,000  | 5,000   | 16,420  |
|            | 電波利用料          |               | 1   | 500    | 500     |         |
|            | JARL会費         |               | 1   | 10,920 | 10,920  |         |
| 吹奏楽        | 楽器運搬費          |               | 2   | 30,000 | 60,000  | 60,000  |
| 英語         | コーチ料           |               | 10  | 3,000  | 30,000  | 30,000  |
| 将棋・囲碁      |                |               |     |        | 0       |         |
| 建築研究       | フラットヘッドシキナー    |               | 1   | 50,000 | 50,000  | 50,000  |
| 電子情報研究     | DVカメラ          |               | 0   | 0      | 0       |         |
| 茶道         | コーチ料           |               | 12  | 3,000  | 36,000  | 36,000  |
| FL同好会      | ネオアヘッド         |               | 1   | 2,700  | 2,700   | 2,700   |
| 映画同好会      |                |               |     |        |         |         |
| 環境都市研究同好会  | 模型材料           |               | 1   | 20,000 | 20,000  | 20,000  |
| RRM同好会     | PIC16F84A-20/P |               | 3   | 300    | 900     | 23,500  |
|            | フォトカプラ         | 東芝セミコンダクタ     | 10  | 200    | 2,000   |         |
|            | FET            | 東芝セミコンダクタ     | 20  | 130    | 2,600   |         |
|            | モータ            | AO-8021タミヤキヤ  | 5   | 3,600  | 18,000  |         |
| 電気工事同好会    | 二種受験材料セット      |               | 1   | 9,000  | 9,000   | 9,000   |
| 園芸同好会      | プリンター          |               | 1   | 2,000  | 2,000   | 15,750  |
|            | 肥料             | ヘルフア7-si-2竹酸液 | 1   | 950    | 950     |         |
|            | 苛性ソーダ          |               | 10  | 500    | 5,000   |         |
|            | 土              |               | 10  | 780    | 7,800   |         |
| 予備費        |                |               |     |        | 3,909   |         |
| 合 計        |                |               |     |        | 765,000 | 761,181 |

※ 上記の他に課外活動でスクールバスを利用した場合代行運転料を400,000円予算化(1人200円個人負担)、  
教育後援会費で湯にフォーム別途300,000円予算化(女子バスケットボール部ユニフォーム及びゼッケンの要求あり 400,000円  
注: 地区体育大会、全国高専体育大会に關係するバス代行運転料は全額教育後援会負担とする。

(出典: 学生課保管資料)

資料 7-1-⑥-8 : 部活動予算支援 (4)

## 平成18年度 学生会 決算書

## &lt;収入の部&gt;

| 項目     | 収入見込額      | 収入額             |
|--------|------------|-----------------|
| 入会金    | 208,000    | 212,000         |
| 学生会費   | 7,154,000  | 7,122,500       |
| 後援会援助費 | 600,000    | 600,000         |
| 繰越金    | 3,609,463  | 3,609,463       |
| その他    | 0          | 50,000          |
| 預金利子   | 50         | 2,278           |
| 合計     | 11,571,513 | 11,596,241 ←(A) |

## &lt;支出の部&gt;

| 項目         | 予算配当額      | 支出額            | 差引残高      |
|------------|------------|----------------|-----------|
| 文化祭費       | 2,000,000  | 2,004,000      | -4,000    |
| 大会費        | 3,000,000  | 2,508,782      | 491,218   |
| 登録費        | 1,000,000  | 1,077,881      | -77,881   |
| 執行費        | 300,000    | 386,405        | -86,405   |
| 書記・会計費     | 30,000     | 0              | 30,000    |
| 慶弔費        | 50,000     | 20,000         | 30,000    |
| 部活動援助費     | 300,000    | 0              | 300,000   |
| 交歓研修費      | 130,000    | 6,310          | 123,690   |
| 会報費        | 300,000    | 300,000        | 0         |
| 小計         | 7,110,000  | 6,303,378      | 806,622   |
| サッカー       | 105,620    | 59,010         | 46,610    |
| 男子バスケットボール | 89,560     | 86,501         | 3,059     |
| 野球         | 405,940    | 405,846        | 94        |
| 卓球         | 34,860     | 27,900         | 6,960     |
| ラグビー       | 70,300     | 0              | 70,300    |
| 柔道         | 19,000     | 18,600         | 400       |
| 剣道         | 51,500     | 27,270         | 24,230    |
| ソフトテニス     | 121,400    | 119,400        | 2,000     |
| 男子硬式テニス    | 247,500    | 213,255        | 34,245    |
| 男子バレーボール   | 110,920    | 94,179         | 16,741    |
| 陸上競技       | 30,010     | 0              | 30,010    |
| 男子バドミントン   | 280,990    | 245,660        | 35,330    |
| 水泳         | 15,000     | 0              | 15,000    |
| ハンドボール     | 150,536    | 150,335        | 201       |
| ワングル       | 3,024      | 0              | 3,024     |
| 空手         | 0          | 0              | 0         |
| 女子テニス      | 110,250    | 108,360        | 1,890     |
| 女子バドミントン   | 104,940    | 103,758        | 1,182     |
| 女子バスケットボール | 700        | 0              | 700       |
| 女子バレーボール   | 11,000     | 8,400          | 2,600     |
| 美術         | 10,400     | 0              | 10,400    |
| 写真         | 19,250     | 11,830         | 7,420     |
| 吹奏楽        | 295,781    | 295,781        | 0         |
| 英語         | 5,170      | 4,986          | 184       |
| 新聞         | 0          | 0              | 0         |
| 将棋・囲碁      | 0          | 0              | 0         |
| 建築研究       | 202,420    | 123,788        | 78,632    |
| 電子情報工学研究   | 2,300      | 0              | 2,300     |
| 茶道         | 23,000     | 18,754         | 4,246     |
| 小計         | 2,521,371  | 2,123,613      | 397,758   |
| 予備費        | 1,940,142  | 174,480        | 1,765,662 |
| 合計         | 11,571,513 | 8,601,471 ←(B) |           |

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 総合計 (A)-(B) | 2,994,770 ←平成18年度の繰越金 |
|-------------|-----------------------|

(出典：学生課保管資料)

資料 7-1-⑥-9：部活動移動方法等支援

4. 課外活動について

(中略)

(5) 学校バスの使用

課外活動の移動において学校バスを利用する場合には、乗車人数 9 名以上（引率教員 1 名以上）とし、学生課学生係に申請をおこなってください。（原則 9 名以上の乗車としますが、荷物等を勘案し、それ以下の人数でも使用を認めることがあります。）

なお、学校バスの運転は代行運転会社に依頼し、乗車学生1名につき200円徴収します。顧問教員が代金を徴収し、学生課へ支払います。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-10：クラブリーダー研修会日程表

## 平成19年度クラブリーダー研修会

毎年恒例のクラブリーダー研修会を行いたいとおもいます。  
当日のプログラムは次の通りです。

日時：平成19年3月13日（火）

文化部 9：00～

運動部 13：00～

場所：石川工業高等専門学校 管理棟2階会議室にて

## 《研修日程プログラム》

| 時 間   | 内 容                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 9：00  | 文化部研修会説明（会長挨拶）                                      |
| 9：10  | 年間活動報告                                              |
| 10：00 | 予算請求報告<br>私金立替等の各種書類の書き方の説明                         |
| 11：00 | 予算折衝                                                |
| 13：00 | 運動部研修会説明（会長挨拶）                                      |
| 13：10 | 年間活動報告                                              |
| 14：00 | 消耗品の選定<br>予算請求報告<br>私金立替等の各種書類の書き方の説明<br>学生会からのお知らせ |
| 15：00 | 研修総括（学生主事より）<br>予算折衝に関する説明                          |
| 16：00 | 予算折衝                                                |
| 16：30 | 研修会終了                                               |

以上を予定しています。多少の変更ありますので、そのつど連絡します。春休みの中、お忙しいと思いますがよろしくおねがいします。

・持ち物；筆記用具・仮予算・この冊子 その他、任意に必要なもの。

（出典：学生課保管資料）

## 資料 7-1-⑥-11： クラブリーダー研修会資料

## 課外活動実施上の注意事項

## 各クラブ員諸君へ

クラブ活動は、学校の施設を利用し顧問教員の助言・指導のもとに成り立っている。特に、複数のクラブが共同で利用する体育館や武道場などでは、常に整理整頓を心掛けること。今後の課外活動において、以下の点が守られない場合は、活動停止の処置を講ずることもあるので、クラブ員全員にこれらの事項を正確に伝達し、石川高専生らしい自覚ある行動を求めます。

## 【高専内での課外活動】

- (1) 部室を含めたクラブの活動場所は、常に整理整頓を心がけること。ゴミや着衣などが散乱していることがないように、定期的な清掃を実施すること。
- (2) 上級学年は、下級生を指導する場合、行き過ぎた指導が入らないよう注意すること。
- (3) 飲酒・喫煙は厳禁である。

## &lt; 体育館・武道場利用上の注意 &gt;

- ①とくに利用後のフロア清掃（モップ掛けなど）を忘れず実施すること。
- ②カーテンを閉めた場合、練習後は忘れずに元の開放状態に戻すこと。閉めたら開ける、当たり前！
- ③各クラブで利用する用具（ボールやラケットなど）の管理を徹底すること。部室のあるクラブは入り口を必ず施錠し、部員以外には鍵を貸さないこと。
- ④更衣室・トイレ・脱衣所などの共同スペースに、部員の私物を放置しない。定期的に処分する。
- ⑤玄関ホールに設置してある貴重品ロッカーの利用は当日限りとする。部活等で私物化しないこと。学生係で定期的に開錠し処分します。また、シューズの整理整頓にも注意を払うこと。
- ⑥お菓子・ジュースなどの飲食は厳禁である。
- ⑦第一体育館玄関内に製氷機が新設されます。練習後のアイシング用として利用し、飲料冷却のための使用は極力控えること。

## &lt; グラウンド・野球場利用上の注意 &gt;

- ①練習後のグラウンド（とんぼ掛け）整備を忘れず実施すること。
- ②夏場の練習は、水分の補給など体調管理に十分に注意を払うこと。
- ③草むしり、落ち葉拾いなど、活動場所の環境整備に努めること。
- ④部室周辺への自転車乗り入れ禁止（自転車は施錠して、指定の自転車置き場に）

## &lt; 校舎内利用上の注意 &gt;

- ①雨天時などに校舎内をランニングする際、曲がり角では十分注意を払うこと。
- ②教員研究室や事務室で仕事をしている方々が多いので、声出しは控え、出来る限り静粛を保つよう努めること。

## 【校外での課外活動】

練習試合や対外試合などで、学外へ出かける時は、石川高専生として恥ずかしくない服装と行動を心がける事。挨拶の励行、ゴミの持ち帰りなど、とくに高校では厳しく対応しているところが多いので、学外へ出かけた時は、先方に失礼の無い態度で臨む姿勢が社会通例上のマナーである。

また、移動の際の交通機関においても、事故に巻き込まれないよう最善の注意を払うこと。

学生主事

(出典：学生課保管資料)



## 資料 7-1-⑥-12：石川工業高等専門学校学生表彰規則

## 8. 石川工業高等専門学校学生表彰規則

(趣旨)

第1条 この法則は、石川工業高等専門学校学則第38条の規定に基づく学生の表彰について必要な事項を定める

(表彰の種類)

第2条 表彰の種類は、次の各号のとおりとする。

- (1) 学業成績優秀
- (2) 皆勤
- (3) 課外活動(スポーツ活動)(文化活動)
- (4) 特別表彰(模範及び功労等)

(略)

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-13：学生の表彰状況（平成17および18年度）

## ●平成17年度

1. 学業成績優秀(第1号)
 

|     |    |     |    |
|-----|----|-----|----|
| 本 科 | 5名 | 専攻科 | 2名 |
|-----|----|-----|----|
2. 皆 勤(第2号)
 

|     |     |
|-----|-----|
| 本 科 | 16名 |
|-----|-----|
3. 特 別 表 彰(第4号)
  - (1) 模範及び功労等
 

|     |     |     |    |
|-----|-----|-----|----|
| 本 科 | 10名 | 専攻科 | 1名 |
|-----|-----|-----|----|
  - (2) 学会等表彰
 

|     |    |
|-----|----|
| 本 科 | 9名 |
|-----|----|

## ●平成18年度

1. 学業成績優秀(第1号)
 

|     |    |     |    |
|-----|----|-----|----|
| 本 科 | 5名 | 専攻科 | 2名 |
|-----|----|-----|----|
2. 皆 勤(第2号)
 

|     |     |
|-----|-----|
| 本 科 | 20名 |
|-----|-----|
3. 特 別 表 彰(第4号)
  - (1) 模範及び功労等
 

|     |    |
|-----|----|
| 本 科 | 8名 |
|-----|----|
  - (2) 学会等表彰
 

|     |    |
|-----|----|
| 本 科 | 9名 |
|-----|----|

(出典：学生課保管資料)

## 2) 学生会活動への支援状況

本校学生会は、学生の自主性のもと各種行事の企画運営が図られている。学生主事を中心とした指導教員が学生会の指導助言にあたり、とくに学生会主催の高専祭、文化発表会、球技大会などにおいて学校の指導・支援を受けながら適切に運営されている(資料 7-1-⑥-14, 15)。

- 資料 7-1-⑥-14：学生会への助言
- 資料 7-1-⑥-15：学生会会計資料

## 資料 7-1-⑥-14：学生会への助言等による支援

## 15. 石川工業高等専門学校学生会規約

## 第1章 総則

第1条 本会は、石川工業高等専門学校学生会（以下「本会」という。）と称する。

第2条 本会は、学則及び学生準則に則り、学校の指導のもとに学生の自発的活動を通じて、その人間形成を助長し、相互の親和と啓発に努め、もって高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会員の文化的教養、技術、技能の向上に資する事項
- (2) 会員の健康増進、体育振興に資する事項
- (3) 校風校紀の向上振興に資する事項
- (4) 会員相互の親睦融和に資する事項
- (5) 学校の行事への協力に関する事項
- (6) その他、本会の目的達成に必要な事項

第4条 本会は、本校学生全員をもって構成し、本会活動の基盤を学級会活動及び部活動に置く。

第5条 本会は、学生として参加すべき問題の範囲内で活動し、各機関で決定された事業の行使についてはすべて校長の承認を得て行う。

2 本会の各機関（部及び同好会を含む。）の運営にあたっては、指導教員の指導と助言を受ける。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-1-⑥-15：学生会会計資料

## 5. 諸経費について

(中略)

## 3) その他

- |             |                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| (1) 教育後援会会費 | 入会金10,000円（兄弟が本校に在学している場合及び留学生は徴収しない。）<br>会費 20,000円（年額） |
| (2) 学生会会費   | 入会金1,000円（専攻科生は徴収しない。）<br>会費 7,000円（年額）                  |
| (3) 旅行積立金   | 積立金10,000円（第1学年後期分から第4学年前期分までの6回）                        |

(出典：学生便覧)

## (分析結果とその根拠理由)

クラブ・同好会に関しては教員が活動を支援している。費用や活動場所などに関しても十分に組織として整備されている。学生会に関しては、学生主事を中心とした教員（補導委員会）が分担して支援している。

以上のことから、課外活動等に対する支援体制が整備され、機能している。

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

1) 学生生活に関わる指導・助言体制

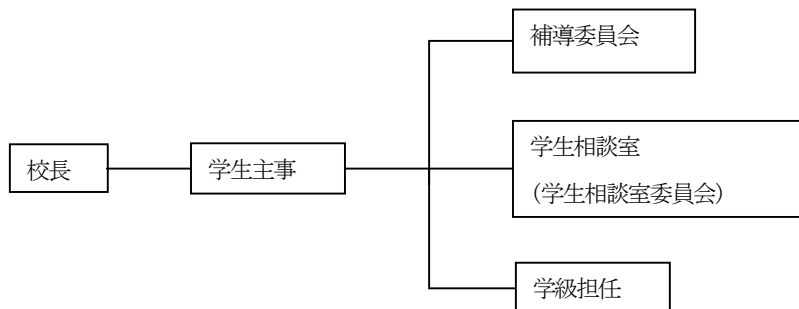
学生の生活に関する指導・相談・助言は、主として学級担任、補導委員、看護師、学生相談室員、専門のカウンセラーが当たり、校長の命を受けた学生主事が学校全体の厚生補導に関することを掌握している(資料 7-2-①-1)。

本校には教育寮としての学生寮が整備され、学生の約1/4が生活している。学生寮における厚生補導の体制については観点7-2-③に示す。

なお、平成19年度から「補導委員会」が「学生支援委員会」へと名称変更された。

□ 資料 7-2-①-1：学生の厚生補導に関わる組織図

資料 7-2-①-1：学生の厚生補導に関わる組織図



学生の厚生補導に関する組織 (以下の教員組織規則に基づき作成)

○石川工業高等専門学校教員組織規則 (抜粋)

第2章 職務分掌

(主事)

第4条 主事の職務は、次のとおりとする。

- (1) 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- (2) 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関することを(寮務主事の所掌に属するものを除く。)掌理する。
- (3) 寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
- (4) 研究主事は、校長の命を受け、専攻科の教務、研究、地域連携に関することを掌理する。
- (5) 図書情報主事は、校長の命を受け、図書館、情報処理センター及び本校の刊行物に関することを掌理する

(学生相談室長)

第10条 学生相談室長は、学生相談に関する業務を掌理する。

- 2 学生相談室長を補佐するため、校長が必要と認めるときは学生相談室員を置くことができる。

(学年主任・学級担任)

第11条 各学年に学年主任を、各学級に学級主任を置く。

- 2 学年主任は、当該学年に属する学級担任との連絡調整を担当する。
- 3 学級担任は、当該学級における次の事項を担当する。
  - (1) 学習指導、生活指導等に関すること。
  - (2) その他学級の運営に関すること。

第3章 会議・委員会

## (各種委員会)

第17条 運営に必要な諸問題を審議するため、本校に委員会を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

## 2) 学生生活に関わる指導・助言の実施状況

学級担任は、教員マニュアルに示されているように、学級運営、学習指導、生活指導、奨学金の連絡などについて日常的に指導に当たり、クラスの学生の状況をよく把握している（資料 7-2-①-2）。また、学生が在学中、半年ごとにそれまでの高専生活を振り返り、「生活の記録」（資料 7-2-①-3）を書くことによって次のステップをどうすれば良いかを学生自身が考えるように指導している。

補導委員会は、補導委員会規則（資料 7-2-①-4）に基づき学生指導、修学支援、奨学金、福利厚生、保健衛生などに関することを審議し、全学生を対象に指導にあっている。これらの事項に関する案内や規則を学生に周知させるため学生便覧に掲載している（資料 7-2-①-5）。アルバイトについては、指導指針（資料 7-2-①-6）を教員全員に別途配布し、きめ細かく指導している。このほか、夏休みや冬休みの前に休暇中の生活心得（資料 7-2-①-7, 8）を保護者と学生に配布し、有意義な休暇を過ごすように指導している。

学生相談室員・看護師・専門のカウンセラーは、学生個人のプライバシーに留意し、学生相談室（資料 7-2-①-9, 10）や保健室（資料 7-2-①-11, 12）で学生の悩みごとやセクシャルハラスメントの相談に応じている。

- 資料 7-2-①-2：学級担任の学生指導
- 資料 7-2-①-3：生活の記録
- 資料 7-2-①-4：補導委員会規則
- 資料 7-2-①-5：学生への生活指導・諸規則
- 資料 7-2-①-6：アルバイト指導指針
- 資料 7-2-①-7：夏休みの注意事項
- 資料 7-2-①-8：冬休みの注意事項
- 資料 7-2-①-9：学生相談室の案内
- 資料 7-2-①-10：学生相談室利用実績
- 資料 7-2-①-11：保健室の案内
- 資料 7-2-①-12：保健室利用実績

## 資料 7-2-①-2 : 学級担任の学生指導

## 教員マニュアル目次より抜粋

|       |              |    |
|-------|--------------|----|
| 第4章   | 学生指導について     | 10 |
| 4.1   | 基本的な指導       | 10 |
|       | 日常の学習指導      |    |
|       | 定期試験後の学習指導   |    |
| 4.2   | 担任業務         | 10 |
| 4.2.1 | 学級運営について     | 10 |
|       | 基本姿勢         |    |
|       | クラス運営        |    |
|       | 学生の緊急連絡網     |    |
|       | 学級担任の活動記録    |    |
|       | 学生の出欠の把握     |    |
|       | 各種役員の選出とその役割 |    |
| 4.2.2 | 学習指導について     | 11 |
|       | 選択科目の履修指導    |    |
|       | 定期試験         |    |
|       | 定期試験後の学習指導   |    |
|       | 単位未修得者への指導   |    |
| 4.2.3 | 生活指導について     | 12 |
|       | 学校における生活指導   |    |
|       | 教室の美化と清掃     |    |
|       | 通学方法         |    |
|       | 事故防止         |    |
|       | 休日および放課後の指導  |    |
|       | 進学           |    |
| 4.2.4 | 保護者懇談会について   | 13 |
| 4.2.5 | 奨学金等の制度について  | 13 |
|       | 授業料免除        |    |
|       | 奨学金制度        |    |

(出典：教員マニュアル)

資料 7-2-①-3 : 生活の記録

【記入例】

| 学年                | 1年次                                                | 2年次                                              | 3年次                                                | 4年次                                                | 5年次                                                |
|-------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 専攻<br>(漢学・英学・数理学) | 漢学専攻3級                                             | 英検2級<br>漢学専攻準2級                                  |                                                    |                                                    |                                                    |
| 通学                | 専修・(漢学)・公務員                                        | 専修・(漢学)・公務員                                      | 専修・漢学・公務員                                          | 専修・漢学・公務員                                          | 専修・漢学・公務員                                          |
| 職種                | 自立学生                                               |                                                  |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | 英語I, 歴史, 体育                                        | 物理, 化学                                           |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | 英語II, 体育                                           | 英学                                               |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | 英学                                                 | 英語III, 体育                                        |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | 物理, 化学                                             | 哲学,                                              |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | ドキュメント, ダンス                                        | 女子一課修                                            |                                                    |                                                    |                                                    |
| 履修科目              | ヨガ, 水泳                                             | 特になし                                             |                                                    |                                                    |                                                    |
| 学費<br>単位          | 前期学 半年学 前期学 半年学 前期学 半年学<br>B (1) B (1) A (8) A (5) | 前期学 半年学 前期学 半年学 前期学 半年学<br>A (5) ( ) ( ) ( ) ( ) | 前期学 半年学 前期学 半年学 前期学 半年学<br>( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) | 前期学 半年学 前期学 半年学 前期学 半年学<br>( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) | 前期学 半年学 前期学 半年学 前期学 半年学<br>( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) |

【記入例】  
生活の記録 ②

|     |       |    |   |     |   |   |   |
|-----|-------|----|---|-----|---|---|---|
| 学校名 | 石川 太郎 | 学年 | 1 | (2) | 3 | 4 | 5 |
| 氏名  | 石川 太郎 | 学号 | 1 | 2   | 3 | 4 | 5 |

自己アピール (前期) 記録日: 年 月 日

※半期を振り返って、自分なりの目標を達成できたかどうかについてなどでおいでしようが、肯定的な書き方を心がけること。自分の持っている良い点をアピールできること。

※今現時点で、就職試験の最終面接にまで残り出題された課題が、「自己アピール」です。この記述次第であなたの人生が決定する、ぐらいいの気持ちで書いてみましょう。

※誤字・脱字にも十分注意を払い、出来る限り「漢字」を使用することも大事ですし、マンガ文字は相手に対する印象を悪くする可能性があることも承知しておきましょう。

自己アピール (後期) 記録日: 年 月 日

【記入例】  
生活の記録 ①

|      |           |        |
|------|-----------|--------|
| 入学年度 | 平成 17 年度  | 入学・編入学 |
| 学号   | M E I C A | 051201 |

|      |                              |      |             |
|------|------------------------------|------|-------------|
| 氏名   | 石川 太郎                        | 性別   | 男           |
| 生年月日 | 西暦 1989 年 (昭和 64 年) 4 月 24 日 | 生年月日 | 14 年 3 月 卒業 |

|      |              |           |             |
|------|--------------|-----------|-------------|
| 出身学校 | 京都市立 平安 小学校  | 京都 黒部・灘・併 | 14 年 3 月 卒業 |
|      | 津幡町立 津幡南 中学校 | 石川 黒部・灘・併 | 17 年 3 月 卒業 |
|      | 学校           | 黒部・灘・併    | 年 月 卒業      |

| 通称先          | 郵便番号 | 住 所                | 電話番号                                          |
|--------------|------|--------------------|-----------------------------------------------|
| 〒 929 - 0392 |      | 石川県河北郡津幡町北中条タ1 有朋寮 | 自宅: { 076 } 288 - 8000<br>携帯: { }<br>※(仮番は任意) |
| 〒 -          |      | 同 上                | 自宅: { }<br>携帯: { }<br>-                       |
| 〒 -          |      |                    | 自宅: { }<br>携帯: { }<br>-                       |
| 〒 -          |      |                    | 自宅: { }<br>携帯: { }<br>-                       |
| 〒 -          |      |                    | 自宅: { }<br>携帯: { }<br>-                       |

| 記 録  | 学内活動<br>(学生会・紀要等・課外活動等) | 学外活動<br>(ボランティア活動・実習等)          |
|------|-------------------------|---------------------------------|
| 1 年次 | 特になし                    | 野球部、手話研究部<br>特になし               |
| 2 年次 | 学生会書記<br>紀要実行委員         | 野球部、手話研究部<br>映画同好会<br>津幡町一斉清掃活動 |
| 3 年次 |                         | ※学外で実施した社会奉仕活動などを記載する。          |
| 4 年次 |                         |                                 |
| 5 年次 |                         |                                 |

| 【備考欄】(高専入学以前の要項について記載する)                                                         |              | その他特記など  |
|----------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------|
| 部活動                                                                              | 学生会活動        | ボランティア活動 |
| 野球部 (3年間)                                                                        | 生徒会会長 (3年前期) | ピアノ (9年) |
| (その他、高専入学以前の学業・実習等があれは記載する)<br>漢字 2 級、毛筆初級、英検 3 級、漢字検定 4 級、書道 5 段、阿横初級、少林寺拳法 2 級 |              |          |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-2-①-4 : 補導委員会規則

## ○石川工業高等専門学校補導委員会規則 (抜粋)

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校(以下「本校」という。)学生の厚生・補導全般に関し、その運営を円滑にするために石川工業高等専門学校補導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

## (組織)

第2条 委員会は次の教職員を委員として組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 学生主事補佐
- (3) 寮務主事
- (4) 一般教育科及び各専門学科において選出した教員 各1人
- (5) 学年主任

2 前項第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任を妨げない。

3 前項の委員は、再任を妨げない。

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

4 委員会に副委員長を置き、前条第1項第2号の委員をもってこれに充てる。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

6 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の職員を委員会に出席させることができる。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 学生指導に関する事。
- (2) 修学支援及び奨学資金に関する事。
- (3) 就職に関する事。
- (4) 学生生活上の企画・実施に関する事。
- (5) 福利厚生及び保健衛生に関する事。
- (6) 課外活動に関する事。
- (7) その他厚生・補導に関する事。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

## 資料 7-2-①-5 : 学生への生活指導・諸規則

## 学生便覧目次より抜粋

## IV 生活心得

1. 学則・準則の遵守について

2. 日常の学生生活について

- 1) 学生証
- 2) 情報の伝達
- 3) 過失物・拾得物
- 4) 服装
- 5) アルバイト
- 6) 飲酒・喫煙
- 7) 施設設備
- 8) 環境美化

3. 通学について

- 1) 通学定期券の購入
- 2) 自転車で通学する場合
- 3) 学生運賃割引証の発行

8. 保健衛生・福利厚生について



- 1) 保健室
- 2) 学生相談室
- 3) 生活協同組合

(出典：学生便覧)

## 資料 7-2-①-6：アルバイト指導指針

平成 18 年 12 月 25 日

補導委員会決定

## アルバイトに関する指導指針

アルバイトに関しては、基本的に学生便覧のⅣ.生活心得に記載の通りであります。学生が経済的な理由等でやむを得ずアルバイトしようとする場合には、概ね下記のような対応をお願いします。

ただ、アルバイトの理由に学習意欲の減退や友人関係の変化など、学校生活についての魅力の喪失といった根本的問題が内在していると考えられる場合は、そのことを優先的に解決するようお願いします。

## 記

1. 学生がアルバイトを申し出た場合、その動機や背景などアルバイトをしなければならない理由を具体的に把握する。また、家庭と連絡を取り、保護者も同意していることを確認する。
2. 1. の場合でも、アルバイトによる時間的、また精神的・肉体的な影響を具体的に説明し、学生の本分である勉学への関心が薄れることのないように指導する。  
この際、『成績が低下した場合はアルバイトをやめる』ことを条件とすることも考えられる。
3. アルバイト届を提出させるとともに、生じたいかなることも自己責任の範疇であることを伝える。また、石川高専の学生であることを常に自覚し、責任ある行動をとるよう指導する。
4. 以下のようなアルバイトはしないようご注意ください。
  - 授業のある平日の放課後における恒常的なもの
  - アルコールを提供するなど、青少年の健全な育成を妨げる職種
  - 深夜(22:00～5:00)の時間帯に及ぶもの

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-①-7: 夏休みの注意事項

平成18年7月19日

保護者の皆様へ

石川工業高等専門学校  
学生主事 松田 理

謹 啓

盛夏の候、保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。  
日頃から本校の教育研究活動ならびに学生指導に対しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、4月に新学期が始まり3ヶ月が経ち、早くも夏休みに入る時期となりました。本校では例年のとおり「夏休み中の心得」を学生に配布し、充実した夏休みを過ごすよう指導しているところであります。

つきましては、ご家庭におかれましてもこのことをご承知いただき、ご子弟の毎日の生活にご配慮いただきたく宜しくお願い申し上げます。

敬 具

――【7月20日以降の主な行事等】――

7月21日(金)、22日(土) 保護者懇談会  
22日(土) JABEE認定証授与式、教育後援会理事会  
24日(月)、25日(火) 外国人留学生交流会  
27日(木) 体験入学  
8月 5日(土)、6日(日) 全国高専体育大会  
22日(火) 4年次編入学試験  
9月 1日(金) 授業開始  
19日(火)～25日(月) 前期末試験  
27日(水) ロボコン校内大会  
10月 2日(月) 2年英語実力試験TOEIC Bridge  
3日(火)～6日(金) 秋季休業  
7日(土)、8日(日) プロコン本選(茨城高専)  
10日(火) 後期授業開始  
18日(水) 秋季球技大会、一斉清掃  
23日(月) 1年英語実力試験TOEIC Bridge  
25日(水) 避難訓練  
29日(日) ロボコン東海北陸地区大会(沼津高専)

11月 4日(土)、5日(日) 紀友祭・オープンカレッジ  
7日(火)～11日(土) 4年見学旅行  
8日(水)、9日(木) 3年合宿研修  
17日(金)、18日(土) デザコン本選(都城高専)  
26日(日) ロボコン全国大会(国技館)  
12月 4日(月)～8日(金) 後期中間試験  
11日(月) 4年英語実力試験TOEIC IP  
22日(金) 一斉清掃

※10月中旬～下旬 地区別保護者懇談会

学生の皆さんへ

平成18年7月19日

学生主事

夏休みは平素できなかったことを計画的に実行できる良い機会です。充実した夏休みとなるよう下記の事項に注意して過ごしてください。

### 「夏休み中の心得」

#### 1. 本校の学生として

夏休み中の行動は、普段より社会的に評価される機会が多くなります。石川高専の学生としての自信と誇りをもった責任ある行動をしてください。

#### 2. 勉学の習慣

学生の本分は勉学です。これまで習った内容の復習や不得意科目の克服につとめ学力を向上させましょう。また、読書などを通して教養を、また語学力も高めるようにしましょう。

#### 3. 健康管理

規則正しい生活に心がけ、健康には十分気をつけてください。特に、食中毒や伝染病、また熱中症等にかからないよう注意してください。

#### 4. 交友について

交友については十分気をつけてください。また、学生らしい節度ある行動、付き合いをしてください。いろいろな誘惑(飲酒、喫煙、薬物、万引き、賭け事、暴力、恐喝、軟派など)があるかもしれません。誘惑に負けず、毅然とした態度で対処してください。また、遊技場や歓楽街など不用意に出入りせず、決して事件、事故に巻き込まれないようにしてください。

#### 5. 事故に注意

車やバイク等を運転する機会が増えると思われませんが、交通事故にはくれぐれも注意してください。また、海や川での水難事故にも注意してください。海の場合、離岸流による事故も報道されておりますので注意してください。

#### 6. アルバイト

アルバイトは決して勧められるものではありません。ただ、家庭の事情等によりやむを得ない場合には職種等に十分注意し、学校にも届け出てください。なお、アルバイトに熱中するあまり、誘惑に巻き込まれたり、アルバイトがきっかけで学生生活が乱れるケースがありますので十分注意してください。

#### 7. 連絡の徹底

登山、キャンプ、旅行など保護者のもとから長期間離れる場合には、無理のない計画とし、必ず出先の連絡先や日程を保護者に伝えておいてください。

なお、万一事故等ありましたら、速やかにクラス担任か下記へ連絡してください。

石川高専代表 ☎ 076-288-8000  
学生係直通 ☎ 076-288-8033

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-①-8 : 冬休みの注意事項

平成18年12月20日

保護者の皆様へ

石川工業高等専門学校  
学生主事 松田 理

謹 啓

寒冷の候、保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、既に後期中間試験も終わり、来週から冬休みに入ります。つきましては、学生に右記のような「冬休み中の心得」を伝えました。日頃からクラス担任等を通していろいろとお願いを申し上げているところではございますが、冬休みに関しましてもこの心得をご承知いただき、学生指導にご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬 具

## 【1月以降の主な行事等】

- 1月 9日(火) 授業開始 (1月8日(月)閉寮)
- 9日(火)～15日(月) 第4回単位追認試験
- 11日(木) 1,2限 学習到達度試験 [数学] (3年生)
- 17日(水) 英語実力試験 TOEIC IP (希望者)
- 20日(土) 平成19年度入学者選抜推薦検査
- 2月 2日(金)～ 7日(水) 5年生学年末試験
- 13日(火) 月曜日の授業
- 16日(金)～23日(金) 1～4年生学年末試験
- 18日(日) 平成19年度入学者選抜学力検査
- 19日(月) 臨時休業
- 26日(月) 英語実力試験 TOEIC Bridge (3年生)
- 3月 3日(土) 閉寮
- 5日(月) 卒業・修了判定会議
- 3日(土)～19日(月) 臨時休業
- 9日(金) 進級判定会議
- 19日(月) 卒業式・修了式 (津幡町文化会館)
- 20日(火)～31日(土) 学年末休業
- 23日(金) 進級発表・在校生教科書販売・平成19年度前期時間割発表
- 30日(金) 学年末成績通知票発送 (1～4年生)

詳細は本校ホームページ (<http://www.ishikawa-nct.ac.jp/>) のINDEX [行事予定] をご覧下さい。

学生の皆さんへ

平成18年12月20日

学生主事

来週より冬休みに入ります。年末年始の慌ただしい時期ですが、規則正しい生活に心がけ、2週間あまりを有意義に過ごしてください。また、今年1年を振り返って、来年に向けた新たな目標をたてることも必要でしょう。なお、新年は1月9日(火)から授業が始まります。

### 「冬休み中の心得」

#### 1. 本校の学生として

休み中は普段より社会の人と接する機会も多くなります。言動や行動には十分気をつけ、石川高専の学生として自信と誇りをもった責任ある行動をしてください。

#### 2. 勉学の習慣

学生の本分は勉学です。これまで習った内容の復習や不得意科目の克服につとめ学力を向上させましょう。また、読書などを通して教養を、また語学力も高めるようにしましょう。

#### 3. 健康管理

規則正しい生活に心がけ、健康には十分気をつけてください。特に、インフルエンザやノロウイルス等の被害にあわないよう注意してください。

#### 4. 交友について

交友については十分気をつけてください。学生らしい節度ある行動、付き合いをしてください。いろいろな誘惑(飲酒、喫煙、薬物、万引き、賭け事、暴力、恐喝、軟派など)があるかもしれません。誘惑に負けず、毅然とした態度で対処してください。また、遊技場や歓楽街など不用意に出入りせず、決して事件、事故に巻き込まれないようにしてください。

#### 5. 事故に注意

車やバイク等を運転する機会が増えると思われませんが、交通事故にはくれぐれも注意してください。

なお、万一事故等ありましたら、速やかにクラス担任か下記へ連絡してください。

石川高専代表 ☎ 076-288-8000  
学生係直通 ☎ 076-288-8033

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-①-9 : 学生相談室の案内

### ちょっと学生相談室で話していきませんか？

学生相談室は、毎週月・水・金曜日の15:00～17:00まで開設しています。

月・金曜日は、学生相談室員の先生が、待機しています。

水曜日は、「心の健康相談日」で、学外からカウンセラーの先生が来られます。各週で、2人のカウンセラーの先生が交替で待機します。

日程は掲示やホームページで確認してください。

他の曜日でも、教員室で相談を受け付けます。

メールで面談の予約も受け付けます。

#### 学生相談室ホームページ

<http://www.ishikawa-nct.ac.jp/soudan/>

#### ♪学生相談室員♪

太田 伸子(一般教育科・英語) 北田 耕司(一般教育科・保健体育)

石田 博明(機械工学科) 森田 義則(電気工学科)

越野 亮(電子情報工学科) 高野 典礼(環境都市工学科)

村田 一也(建築学科) 浦田 肇(カウンセラー)

大浦 暢子(カウンセラー) 干場 佳美(看護師)

学生相談室は、養高館2階 保健室のとなりにあります。

(出典：学生相談室掲示文書)

資料 7-2-①-10 : 学生相談室利用実績

#### 学生相談室の利用状況(人)

| 区分     | 学業・進路 | 対人関係 | 精神面 | 健康面 | その他 | 合計 |
|--------|-------|------|-----|-----|-----|----|
| 平成16年度 | 0     | 14   | 20  | 1   | 3   | 38 |
| 平成17年度 | 2     | 8    | 30  | 1   | 19  | 60 |
| 平成18年度 | 0     | 8    | 7   | 0   | 5   | 20 |

※ 平成18年度は7月まで

(出典：学生相談室保管資料)

資料 7-2-①-11：保健室の案内

1) 保健室

看護師が待機しており、ケガや病気のときの応急処置を行っています。いろいろな相談にも応じています。その他、独立行政法人日本スポーツ振興センターにおける学校管理下での災害事故に対する医療費・見舞金等の請求手続、連絡事務も行っていません。

また、学生や教職員を対象に、学校医による健康診断・健康相談、薬剤師による環境衛生検査（飲料水やプールの水質検査等）等を行っています。

保健室開室時間

月～金曜日 8時30分～17時15分

(1) 定期健康診断

毎年4月に定期健康診断を行っています。これは疾病の早期発見と学生の健康状態を知るための健康管理上重要な資料となり、これを基に学生の健康維持に努めています。

学生は健康診断を必ず受けるよう義務づけられているので、学級担任の指示により全員受診してください。

定期健康診断実施項目表

| 学年     | 1 | 2           | 3 | 4 | 5 | 専1 | 専2 |
|--------|---|-------------|---|---|---|----|----|
| 項目     |   |             |   |   |   |    |    |
| 身体測定   | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  |
| 視力検査   | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  |
| 聴力検査   | ○ |             |   |   | ○ |    | ○  |
| 歯科検診   | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ |    |    |
| 胸部間接撮影 | ○ | 留学生のみ       |   | ○ |   |    |    |
| 心電図検査  | ○ | 留学生のみ 編入生のみ |   |   |   |    |    |
| 検尿     | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  |
| 内科聴打診  | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  |
| 血圧測定   | ○ | ○           | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  |

(2) 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

学校でケガをして、病院へ通院や入院をした場合に医療費が給付される制度で、本校では学生全員が加入しています。学校管理下（授業中や学校行事中、課外活動中、休憩時間中や放課後、登下校中を含む）における、学生の負傷（骨折、打撲など）、疾病（熱中症や食中毒など）に対する医療費、障害又は死亡が給付の対象となります。

学校管理下で災害に遭い、医療機関を受診した場合は、保健室に書類を取りに来てください。その書類を医療機関に持参し、証明印を得て、原則として毎月分を翌月3日までに、保健室に提出してください。

(出典：学生便覧)

資料 7-2-①-12：保健室利用実績

☆保健室の利用状況(人)

|        | 内科的処置 | 外科的処置 | 相談  | その他 | 合計    |
|--------|-------|-------|-----|-----|-------|
| 平成16年度 | 337   | 299   | 215 | 462 | 1,313 |
| 平成17年度 | 406   | 318   | 219 | 694 | 1,637 |
| 平成18年度 | 416   | 336   | 225 | 450 | 1,427 |

☆外科的疾患の発生時間帯(% (人数))

|        | 授業中     |         | 部活動    | その他    |         |         |         |
|--------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
|        | 体育      | その他     |        | 休み時間   | 登下校中    | 寮       | その他     |
| 平成16年度 | 28(70)  | 5.9(15) | 16(40) | 27(68) | 6.7(17) | 2.0(5)  | 15(38)  |
| 平成17年度 | 35(83)  | 3.3(8)  | 16(39) | 23(54) | 5.4(13) | 2.5(6)  | 15(37)  |
| 平成18年度 | 33(100) | 7.8(24) | 19(57) | 25(76) | 3.6(11) | 5.9(18) | 6.8(21) |

(出典：保健室保管資料)

3) 経済面に關わる指導・助言の実施状況

授業料免除については、学生便覧、掲示板、学級担任等を通じて案内し、家計・成績・人物等を考慮して、補導委員会で選考して

いる（資料 7-2-①-13）。平成15～18年度の平均では、申請者83名に対し、全額免除40名、半額免除23名、合計63名（採択率76%）である。授業料減免学生の学生定員1000名に対する割合は6.3%である（資料 7-2-①-14）。

日本学生支援機構奨学金、そのほかの奨学制度についても、学生便覧、掲示板、学級担任を通じて案内している（資料 7-2-①-15）。ほかの奨学金も含めた平成15～18年度の受給学生は平均113名、学生定員1000名に対する割合は11%である（資料 7-2-①-16）。

生活協同組合は食堂・売店の経営、教科書販売、共済保険などで学生生活をサポートしている（資料 7-2-①-17）。1日平均、通学生（約750名）の23%（約170名）が食堂を利用している（資料 7-2-①-18）。

- 資料 7-2-①-13：授業料免除規定
- 資料 7-2-①-14：授業料免除者数一覧
- 資料 7-2-①-15：奨学金制度
- 資料 7-2-①-16：奨学金受給者数一覧
- 資料 7-2-①-17：生活協同組合について
- 資料 7-2-①-18：生活協同組合食堂利用状況

#### 資料 7-2-①-13：授業料免除規定

#### IV 生活心得

#### 6. 授業料等免除について

##### 1) 入学料免除及び徴収猶予

入学前 10 年以内において、学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受けたため、入学料の納付が困難である場合には入学料の免除（全額又は半額）や徴収猶予をすることがあります。

入学料免除及び徴収猶予の申請は入学手続時に行ってください。

なお、入学料・授業料の免除、徴収猶予及び寄宿料の免除規則（64 ページ）を参照してください。

##### 2) 授業料免除

経済的理由によって授業料の納付が困難で学業成績が優秀な者について、授業料の免除（全額または半額）をすることがあります。一年を前・後期にわけ本人の申請により選考の上決定されます。

その他・休学、死亡等やむを得ない事情が認められる場合、あるいは学資負担者の死亡又は風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難と認められる場合にも適用されます。

授業料免除の説明会日時については、掲示及び学級担任を通じて連絡します。

なお、説明会では「授業料免除申請書」の配布や締め切りについて発表するので、必ず出席してください。

##### 3) 寄宿料免除

授業料免除に準じます。希望者は学生課寮務係へ申し出てください。

(出典：学生便覧)

#### 資料 7-2-①-14：授業料免除者数一覧

| 区分     |    | 全学免除 | 半額免除 | 出願者 | 採択率 |
|--------|----|------|------|-----|-----|
| 平成15年度 | 前期 | 41   | 23   | 76  | 84% |
|        | 後期 | 32   | 24   | 73  | 77% |
| 平成16年度 | 前期 | 38   | 23   | 89  | 69% |
|        | 後期 | 38   | 23   | 84  | 73% |
| 平成17年度 | 前期 | 48   | 17   | 84  | 77% |
|        | 後期 | 40   | 22   | 80  | 78% |
| 平成18年度 | 前期 | 43   | 27   | 90  | 78% |
|        | 後期 | 45   | 23   | 91  | 75% |

(出典：学生課保管資料)



## 資料 7-2-①-15 : 奨学金制度

## 7. 各種奨学金について

学業成績優秀で経済的理由により修学が困難である学生に対し、学費の貸与等を行い教育の機会均等に寄与することを目的とした奨学金制度があります。いずれも学生課学生係が担当しています。

## 1) (独) 日本学生支援機構奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構は、教育の機会均等に寄与するために学資の貸与その他学生の修学の援助を行っています。

## (1) 出願資格

本校に在学する学生で、人物・学業ともに優れ、経済的な理由から修学が困難なものであること。

## (2) 貸与月額

| 平成 19 年度 | 本科生       | 専攻科生      |           |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 学 年      | 1～3 年     | 4～5 年     | 1, 2 年    |
| 自 宅      | 21, 000 円 | 45, 000 円 | 45, 000 円 |
| 自宅外      | 22, 500 円 | 51, 000 円 | 51, 000 円 |

(注) ① 寮生は自宅外に該当します。② 貸与月額は、入学年度によって決まっています。

③ 第 4 学年に進級の際に月額が増額されます。

## (3) 奨学金の貸与期間

貸与期間は奨学生の採用時期から 5 年卒業までです。留年した場合や成績不振・性行不良の者は 1 か年停止や廃止等の措置がとられます。

## (4) 募集および採用

入学前の学校の最終学年在学中に試験を受けて採用が予約される予約採用制度と、本校の在学者を対象として採用される定期採用制度がありまらまた、家計支持者（親等）が失職・被産・倒産・病気・死亡、または火災・風水害等により家計が急変し、緊急に奨学金が必要となった場合、緊急採用奨学金（無利子貸与）・応急採用奨学金（有利子貸与）制度があります（但し、事由が発生した時から 1 年以内）。

定期採用の募集は、掲示や学級担任を通じて毎年春に行います。また、緊急採用奨学金・応急採用奨学金の募集は、通年となっています。

応募学生に対し、学業、人物、家計、健康状況などについて審査のうえ、適格者を（独）日本学生支援機構に推薦し、（独）日本学生支援機構が採否を決定します。

## (5) 奨学金の交付

奨学金は、（独）日本学生支援機構から学生個人名義の銀行口座へ直接振り込まれます。

## (6) 奨学金継続願の提出

奨学生に採用された学生は、毎年 12 月に適格認定奨学金継続願が学生課学生係より配布されますので、学校が指定する期日までに提出してください。

適格認定奨学金継続願が提出されない場合、及び適格認定奨学金継続願により成績不振・性行不良等と学校または（独）日本学生支援機構が判断した場合には、奨学金の給付が停止あるいは廃止されます。

## (7) 奨学金の返還

卒業・修了・退学、又は貸与期間が満了したときは、返還誓約書（借用証書）を学校が指定する期日までに提出し、貸与された奨学金は必ず返還しなければなりません。返還された奨学金は新たな奨学生への貸与となるので、督促されることなく確実に返還してください。

## 2) その他の奨学制度

その他の奨学制度として、石川県などの公共団体や民間団体の育英事業に基づくものがあります。団体の所在地の出身学生を対象とするものが多く、出願方法や採用条件もさまざまであり、多くは学生本人が直接申し込む必要があります。学校推薦が必要な場合もあるので学生課学生係へ問い合わせてください。

なお、これらの奨学制度には（独）日本学生支援機構奨学金と併用貸与を認めていないものも多いので注意してください。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-2-①-16 : 奨学金受給者数一覧

| 区分       | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 日本育英会奨学生 | 82     | 92     | 93     | 110    |
| 石川県奨学生   | 17     | 13     | 16     | 13     |
| その他      | 4      | 4      | 8      | 2      |
| 合計       | 103    | 109    | 117    | 125    |

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-2-①-17：生活協同組合について

## 3) 生活協同組合

本校では、平成16年3月消費生活組合法等で定められた「石川工業高等専門学校生活協同組合」が設立されました。生活協同組合（生協）は組合員（学生及び教職員）の福利厚生充実のため相互に協力して、自らの手で設立、運営、利用し食堂売店の経営、教科書の協同購入、共済保険など学生生活向上のサポートを提供する非営利組織で、本校学生は全員加入としています。学生生活向上を目的とする生協を上手に利用してください。

## (1) 食堂・売店営業時間

売店 8時30分～17時

食堂 10時30分～13時30分

※土・日曜日、祝日・休日および休業期間中は営業していません。

## (2) 書籍

授業で使用する教科書（検定教科書を除く）は定価より5～10%割引で購入できます。教科書だけではなく、文具・雑誌も割引価格で購入できます。書籍は予約注文や取り寄せも可能です。

また、授業に必要な教材なども売店で購入できます。

## (3) 共済保険

生活協同組合員のみ加入出来る保険があります。「学生総合共済」は学校内だけではなく、登下校時・自宅・旅行中などのケガも保証しています。また、「学生賠償責任保険」は他人に対する賠償事故や日常生活における賠償事故なども保証しています。

## (4) その他

食品・飲料・菓子類・生活用品類・各種自販機・切手・公衆電話・指定衣料・カタログ販売・宅配便・貸衣装・引越など幅広く利用することが出来ます。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-2-①-18：生活協同組合食堂利用状況

| 区分     | 利用者（人） |        |        |        | 営業日 | 利用者<br>(人/日) |
|--------|--------|--------|--------|--------|-----|--------------|
|        | 定食     | 定食外    | 軽食     | 合計     |     |              |
| 平成15年度 | 14,096 | 12,431 | 8,303  | 34,830 | 177 | 197          |
| 平成16年度 | 0      | 6,450  | 21,171 | 27,621 | 177 | 156          |
| 平成17年度 | 10,500 | 6,425  | 13,683 | 30,608 | 178 | 172          |
| 平成18年度 | 11,722 | 6,709  | 12,085 | 30,516 | 176 | 173          |

※ 16年度の定食数0は、カフェテリア方式をとったため

(出典：生活協同組合保管資料)

## (分析結果とその根拠理由)

生活に関わる指導・相談・助言には、多くの教職員が整備された体制の下で取り組んでいる。また、経済面に関わる相談・助言も、学級担任・補導委員・学生課職員が連携して取り組んでいる。

以上のことから、学生の生活および経済面での指導・相談・助言を行う体制は整備され、機能している。

観点 7-2-②: 特別な支援を行うことが必要と考えられる者(例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。)への生活支援等が適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

1) 留学生への生活面(学生寮)での支援体制

留学生は、原則として学生寮に居住することになっている(資料 7-2-②-1)。留学生に対しては、生活習慣に配慮して留学生専用のシャワー室を設置している。食事に関しても宗教上の理由から自炊する学生のために、補食室(日本人学生と共用、冷蔵庫1台、レンジ設備、空調)を整備している。また、留学生活の支援、および母国との連絡に電子メールが使えるようコンピュータ室(日本人学生と共用、パソコン4台、プリンタ2台)を設置している(資料 7-2-②-2)。また、学生寮内には無線LANが整備され、自室から個人所有のパソコンをインターネットに接続できる環境となっている。

資料 7-2-②-1: 外国人留学生規則

資料 7-2-②-2: 留学生の居住環境

#### 資料 7-2-②-1: 外国人留学生規則

##### ○石川工業高等専門学校外国人留学生規則

(趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第55条第2項の規定に基づき、外国人留学生(以下「留学生」という。)に関する事項を定める。

(定義)

第2条 この規則でいう留学生とは、外国において学校教育における11年の課程を修了した者又は高等学校に対応する学校の課程を修了した者で、石川工業高等専門学校(以下「本校」という。)に入学が許可され、かつ「留学」の在留資格を持つ者をいう。

(入学)

第3条 留学生は、定員外として第3学年に編入学するものとする。

(教育課程)

第4条 留学生の第3学年における教育課程は、特別教育活動のほか、本校の授業内容を理解するために必要な基礎学力を養うとともに、第3学年までに修得すべき専門科目を履修させるため、特別に編成するものとする。

2 留学生の第4学年及び第5学年における教育課程は、原則として学則に定める専門科目及びその他の授業科目により編成するものとする。

(留学生指導教員)

第5条 留学生の学習をより効果的に行うため、留学生指導教員(以下「指導教員」という。)を置く。

2 前項の指導教員は、当該学科の教員の中から、学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

(チューター)

第6条 留学生の学校生活及び個人生活に助言を行うため、チューターを置くことができる。

2 チューターは、原則として編入学後2年間を対象に、当該留学生の専攻する分野に関連する学生の中から教務主事及び指導教員等の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 チューターは、その職務に関し、必要に応じて教務主事又は指導教員等に連絡し、その指導を受けるものとする。

4 チューターの任期は、毎年4月から1年間とする。ただし、再任は妨げない。

5 指導時間は、原則として週2回とし、各回2時間とする。年間実施総週数は35週を標準とする。

6 チューターは、所定の指導報告書を指導教員を経て校長に提出しなければならない。

7 チューターに対する謝金は、予算の範囲内において、前項の指導報告書に基づき支給するものとする。

8 この要項に定めるもののほか、チューター制度の運用に必要な事項は、その都度定める。

(住居)

第7条 留学生は、原則として学生寮に居住するものとする。ただし、閉寮期間中及び予め校長が認めた場合はこの限りでない。

(授業料等)

第8条 国費外国人留学生については、授業料、入学金及び検定料は徴収しない。

(事務)

第9条 留学生に関する事務は、学生課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 石川工業高等専門学校外国人留学生特例規則（昭和 59 年 2 月 6 日制定石川工業高等専門学校規則第 222 号）及び石川工業高等専門学校チューター制度実施要項（昭和 59 年 4 月 1 日施行）は、廃止する。

（出典：石川工業高等専門学校規則集）

資料 7-2-②-2：留学生の居住環境

海寮 1 階：留学生居室，補食・談話室（自炊可能）

|           |      |      |      |      |    |        |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |  |
|-----------|------|------|------|------|----|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| 補食<br>談話室 | 留学生  | 留学生  |      |      | 階段 | 留学生    | 留学生  | 留学生  |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |  |
|           | 3114 | 3115 | 3116 | 3117 |    | 3118   | 3119 | 3120 | 3121 | 3122 | 3123 | 3124 | 3125 | 3126 | 3127 | 3128 | 3129 | 3130 | 3131 | 3132 |  |
| 玄関        |      |      |      |      | 便所 | 洗面・洗濯室 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |  |
|           |      |      |      |      |    | 3101   | 3102 | 3103 | 3104 | 3105 | 3106 | 3107 | 3108 | 3109 | 3110 | 3111 | 3112 | 3113 |      |      |  |

中寮 1 階：留学生用シャワー室

|         |         |               |          |  |  |  |         |         |         |         |           |          |        |         |         |         |
|---------|---------|---------------|----------|--|--|--|---------|---------|---------|---------|-----------|----------|--------|---------|---------|---------|
| 居 1111  | 居 1112  | 居 1113        | 便所<br>洗面 |  |  |  | 居 1114  | 居 1115  | 居 1116  | 居 1117  | 洗面<br>洗濯室 | 便所<br>洗面 | 居 1118 | 居 1119  | 居 1120  |         |
| 自習 1101 | 自習 1102 | 留学生用<br>シャワー室 | 補食・談話室   |  |  |  | 自習 1103 | 自習 1104 | 自習 1105 | 自習 1106 | 自習 1107   | 補食・談話室   |        | 自習 1108 | 自習 1109 | 自習 1110 |

中寮 2 階：コンピュータ室

|         |         |         |    |          |        |        |         |         |           |          |    |         |         |         |
|---------|---------|---------|----|----------|--------|--------|---------|---------|-----------|----------|----|---------|---------|---------|
| 居 1213  | 居 1214  | 居 1215  | 階段 | 便所<br>洗面 | 居 1216 | 居 1217 | 居 1218  | 居 1219  | 洗面<br>洗濯室 | 便所<br>洗面 | 階段 | 居 1220  | 居 1221  | 居 1222  |
| 自習 1201 | 自習 1202 | 自習 1203 |    | コンピュータ室  | 居 1204 | 居 1205 | 自習 1206 | 自習 1207 | 自習 1208   | 自習 1209  |    | 自習 1210 | 自習 1211 | 自習 1212 |

（出典：寮務係保管資料）

2) 留学生への支援実施状況

留学生への支援は外国人留学生規則に基づき行われている。主な支援内容は、授業料，入学科および検定料の免除，留学生用の特別な教育課程の編成，生活・学習の支援・指導である（既出資料 7-2-②-1）。留学生の指導には，学校では主として各学科の留学生指導教員（学級担任，学科主任）が当たり，学生寮では寮務主事，寮務委員，学生チューター（資料 7-2-②-3）などが生活・学習など多面的に支援・指導している。また，冬季には留学生，指導教員，学生チューターが参加して，スキーやスノーボードを楽しみながら相互の親睦を深めて円滑な支援・指導が行えるよう交流懇談会を開催している（資料 7-2-②-4）。

- 資料 7-2-②-3：留学生チューターの一覧
- 資料 7-2-②-4：留学生とのウィンタースポーツ交流懇談会

資料 7-2-②-3 : 留学生チューターの一覧

平成18年度

1. 対象留学生 4名

|              |     |     |
|--------------|-----|-----|
| 第3学年留学生 (2名) | 3 I | [ ] |
|              | 3 C | [ ] |
| 第4学年留学生 (2名) | 4 E | [ ] |
|              | 4 A | [ ] |

※I : 電子情報工学科 C : 環境都市工学科 E : 電気工学科 A : 建築学科

2. チューター 8名

|     |                |               |
|-----|----------------|---------------|
| 3 I | [ ] (3 I),     | [ ] (3 I)     |
| 3 C | [ ] (3 C),     | [ ] (3 C)     |
| 4 E | 再任: [ ] (4 E), | 再任: [ ] (4 E) |
| 4 A | 再任: [ ] (4 A), | [ ] (4 A)     |

(出典 : 学生課保管資料)

資料 7-2-②-4 : 留学生とのウインタースポーツ交流懇談会

留学生とのウインタースポーツ交流懇談会実施計画書

1. 目的

留学生を対象にイオックス・アローザスキー場において、雪に親しみながら、ウインタースポーツの交流体験を行い、参加者全員で懇談し国際交流を深めることを目的とする。

2. 日時

平成19年1月27日 (土)

3. 場所

イオックス・アローザスキー場  
〒939-1732 富山県南砺市福光アローザ村

4. 参加者 (22名)

留学生 (5名)

|           |
|-----------|
| [ ] (3 I) |
| [ ] (3 C) |
| [ ] (4 E) |
| [ ] (4 A) |
| [ ] (5 I) |

チューター (7名)

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| [ ] (3 I),      | [ ] (3 I) |
| [ ] (3 C),      | [ ] (3 C) |
| [ ] (4 A),      | [ ] (4 A) |
| [ ] (5 I)       |           |
| <欠席> [ ] (4 E), | [ ] (4 E) |

留学生指導教員 (5名)

|          |          |         |
|----------|----------|---------|
| [ ] (E), | [ ] (I), | [ ] (I) |
| [ ] (C), | [ ] (A)  |         |

一般教育科教員 (2名)

|     |     |
|-----|-----|
| [ ] | [ ] |
|-----|-----|

学生課事務職員 (3名)

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| [ ] | [ ] | [ ] |
|-----|-----|-----|

(出典 : 学生課保管資料)

3) 障害のある学生への支援体制

障害のある学生のため、スロープ、エレベータ・障害者用トイレが1・2年教室と専攻科がある棟に1ヶ所、学生寮に障害者用トイレが1ヶ所設置されている（資料 7-2-②-5, 6）。校内全域に設置する用意はあるが、現に該当する学生がいないため今のところ校内全域には設置されていない。障害者用ではないが、怪我などで和式便器の使用が困難な学生への便宜を図るため利用する洋式便器を多数設置している（資料 7-2-②-7）。

また、障害に限らず、怪我や病気で倒れた学生の救急処置ができるように、ほとんどの教職員が救命講習を受け（資料 7-2-②-8）、心停止に対応するためのAED（自動体外式除細動器）を2ヶ所に配備している（既出資料 7-2-②-5）。

- 資料 7-2-②-5：障害者用設備の配置図
- 資料 7-2-②-6：障害者用設備
- 資料 7-2-②-7：洋式便器の設置箇所
- 資料 7-2-②-8：救急講習会

資料 7-2-②-5：障害者用設備の配置図



資料 7-2-②-6 : 障害者用設備



1・2年教室と専攻科がある棟の玄関前スロープ



同棟1階の障害者用トイレ



同棟エレベータ

(出典：校内撮影写真)

資料 7-2-②-7 : 洋式便器の設置個所

| 棟名称          | 設置階        |            |
|--------------|------------|------------|
|              | 男子用        | 女子用        |
| 管理棟, 一般教育棟   | 1, 2, 3    | 1, 4       |
| 電気・環境都市工学科棟  | 3          | 1, 4       |
| 建築科棟         | 1, 3       | 2, 4       |
| 電子情報工学科棟     | 1          | 1          |
| 1, 2年教室, 専攻科 | 1, 2, 3, 4 | 1, 2, 3, 4 |
| 共通教室棟        |            | 2          |
| 機械実習工場       |            | 1          |
| 図書館          | 1          |            |
| 福利施設         | 1, 2       | 1, 2       |
| 第1体育館        | 1          |            |
| 寮管理棟         | 1          | 1          |
| 寮食堂棟         | 1          | 1          |
| 中寮           | 1, 2, 3    |            |
| 山寮           |            | 1, 2, 3    |
| 海寮           | 1, 2, 3    |            |

(出典：総務課保管資料)

資料 7-2-②-8 : 救急講習会

平成18年5月15日

教職員 各位

学 生 主 事

「救急講習会」について

学生や教職員が学内等においてケガをした時や病気で倒れた時に、近くにいる教職員は救急処置を行う必要があります。この処置が予後を大きく左右します。また、本校はAEDを1台以上備え、救命講習修了者が1名以上いる事業所ということで、津幡町消防署から救適マークを認定されています。そこで、AEDの使い方を含め、救急救命の技術を取得するためにも、昨年講習会に参加できなかった方や新しく赴任されてきた方、再度参加したい方など、是非講習会に参加していただくようお願いします。

ついでには、準備の都合上、人数を把握したいので、参加できる方は5月19日（金）までに保健室へメールにて申し込みください。

- ・ 日 時： 平成18年6月7日（水）14:00～17:00
- ・ 場 所： 石川高専 管理棟2階 大会議室
- ・ 講習内容： 応急手当の重要性  
心肺蘇生法  
AEDの使用方法  
異物除去  
止血法

担当：保健室 干場 佳美  
内線（330）

(出典：保健室保管資料)

## (分析結果とその根拠理由)

留学生に対しては、教員や学生チューターによる生活支援・指導体制が整えられ、居住する学生寮には留学生に配慮した設備も整備されている。また、障害のある学生のための施設・設備が一部校舎に設置されており、必要があれば校内全域に設置する用意がある。

以上のことから、留学生および障害を持つ学生の生活面での支援が適切に行われている。



観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。

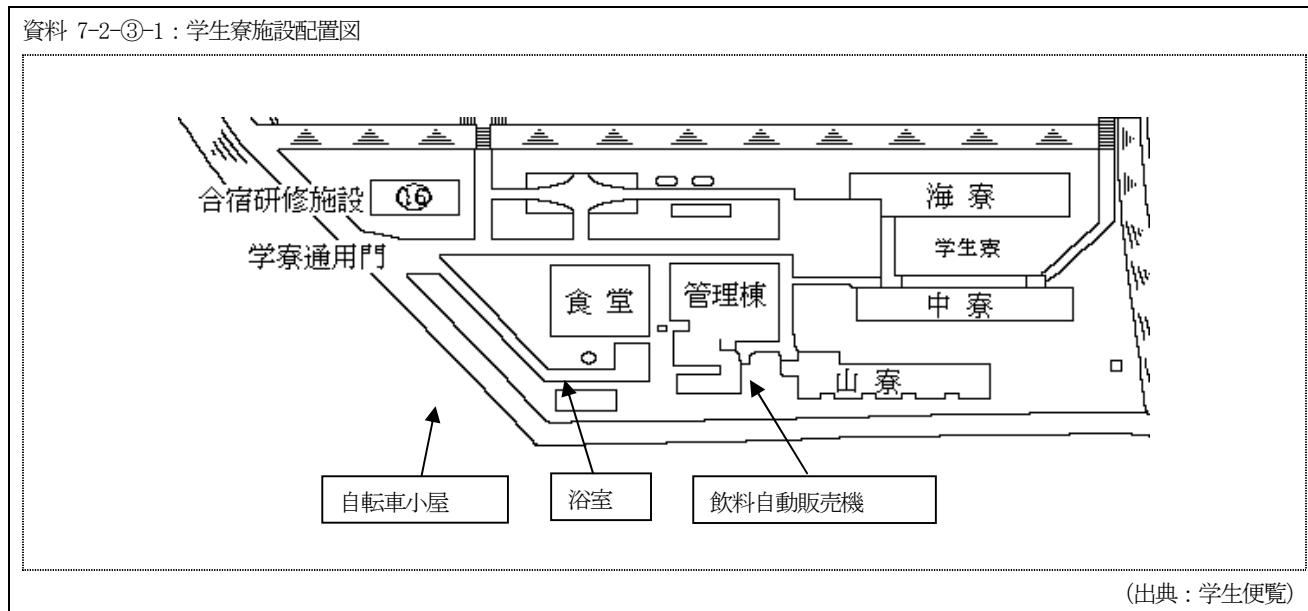
(観点に係る状況)

1) 学生寮の整備状況

現在、男子寮2棟（中寮、海寮）、女子寮1棟（山寮）がある。このほか、敷地内には食堂、浴室、自転車小屋、飲料の自動販売機などが設置されている（資料 7-2-③-1）。収容可能人数は平成17年度までは男子186名、女子66名、合計252名であったが、ほぼ満室状態が続き、今後、男子入寮希望者が増えることが予想されたため、平成18年度から中寮に2段ベッドを導入して収容人数を増やし、男子218名、女子66名、合計284名となった（資料 7-2-③-2）。この改善により、通学時間90分以上で通学困難な学生で入寮を希望する者は全員入寮できるようになったが、依然として満室の状態が続いている。また、入浴設備も十分とはいえない。

各棟には補食談話室が設置され、レンジ、冷蔵庫、テレビ、空調が整備されている。コンピュータ室も設置され、インターネットに接続されたパソコン4台、プリンタ2台が自由に使用できる。各階にある洗面・洗濯室には乾燥機付自動洗濯機4台が設置され、生活環境は整っている（資料 7-2-③-3）。また、寮棟内には無線LANが整備され、居室からもインターネットに接続できる環境になっている（資料 7-2-②-4）。学生寮の経費は、3食付で月額34,940円であり、経済的にも保護者の負担は少ない（資料 7-2-③-5）。

- 資料 7-2-③-1：学生寮施設配置図
- 資料 7-2-③-2：入寮状況
- 資料 7-2-③-3：居室棟平面図
- 資料 7-2-②-4：学生寮無線LAN利用上の注意
- 資料 7-2-③-5：学生寮経費



資料 7-2-③-2 : 入寮状況

| 4月当初(単位：人) |    |     |    |    |    |    |    |     |     |
|------------|----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 年度         | 性別 | 定員  | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 小計  | 合計  |
| 15         | 男  | 186 | 39 | 39 | 30 | 45 | 31 | 184 | 245 |
|            | 女  | 66  | 15 | 17 | 12 | 12 | 5  | 61  |     |
| 16         | 男  | 186 | 46 | 43 | 37 | 23 | 36 | 185 | 244 |
|            | 女  | 66  | 14 | 15 | 14 | 8  | 8  | 59  |     |
| 17         | 男  | 186 | 53 | 46 | 38 | 30 | 18 | 185 | 237 |
|            | 女  | 66  | 11 | 12 | 13 | 9  | 7  | 52  |     |
| 18         | 男  | 218 | 30 | 45 | 43 | 34 | 24 | 176 | 233 |
|            | 女  | 66  | 11 | 11 | 12 | 14 | 9  | 57  |     |
| 19         | 男  | 218 | 45 | 33 | 47 | 38 | 32 | 195 | 253 |
|            | 女  | 66  | 13 | 13 | 10 | 9  | 13 | 58  |     |

(出典：寮務係保管資料)

資料 7-2-③-3 : 居室棟平面図

海寮 (男子個室)

|           |      |      |      |      |      |        |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|-----------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 補食<br>談話室 | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | [階梯] | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |      |
|           | 3114 | 3115 | 3116 | 3117 |      | 3118   | 3119 | 3120 | 3121 | 3122 | 3123 | 3124 | 3125 | 3126 | 3127 | 3128 | 3129 | 3130 | 3131 | 3132 |
| 1 階       | 玄関   |      |      |      | WC   | 洗面・洗濯室 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           |      |      |      |      |      | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |
|           |      |      |      |      | 寮室   | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |
|           |      |      |      |      | 寮室   | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |

|            |      |      |      |      |        |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| コンピ-タ<br>室 | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | [階梯]   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |
|            | 3214 | 3215 | 3216 | 3217 |        | 3218 | 3219 | 3220 | 3221 | 3222 | 3223 | 3224 | 3225 | 3226 | 3227 | 3228 | 3229 | 3230 | 3231 | 3232 |
| 2 階        | WC   |      |      |      | 洗面・洗濯室 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|            |      |      |      |      |        | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |
|            |      |      |      |      | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |
|            |      |      |      |      | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |

|      |     |      |      |      |        |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
|------|-----|------|------|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| [階梯] | 談話室 | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   |    |
|      |     | 3314 | 3315 | 3316 | 3317   | 3318 | 3319 | 3320 | 3321 | 3322 | 3323 | 3324 | 3325 | 3326 | 3327 | 3328 | 3329 | 3330 | 3331 |    |
| 3 階  | WC  |      |      |      | 洗面・洗濯室 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
|      |     |      |      |      |        | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室 |
|      |     |      |      |      | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室 |
|      |     |      |      |      | 寮室     | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室   | 寮室 |

中寮 (男子4人部屋)

|             |             |             |                 |            |             |             |             |             |             |             |             |             |             |            |
|-------------|-------------|-------------|-----------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1 階         |             |             |                 |            |             |             |             |             |             |             |             |             |             |            |
| 寮室<br>1111  | 寮室<br>1112  | 寮室<br>1113  | 玄関              | WC<br>洗面所  | 寮室<br>1114  | 寮室<br>1115  | 寮室<br>1116  | 寮室<br>1117  | 洗面・<br>洗濯室  | WC<br>洗面所   | 玄関          | 寮室<br>1118  | 寮室<br>1119  | 寮室<br>1120 |
| 自習室<br>1101 | 自習室<br>1102 | U<br>B      | U<br>B          | 補食・<br>談話室 | 自習室<br>1103 | 自習室<br>1104 | 自習室<br>1105 | 自習室<br>1106 | 自習室<br>1107 | 補食・<br>談話室  | 自習室<br>1108 | 自習室<br>1109 | 自習室<br>1110 |            |
| 2 階         |             |             |                 |            |             |             |             |             |             |             |             |             |             |            |
| 寮室<br>1213  | 寮室<br>1214  | 寮室<br>1215  | WC<br>洗面所       | 寮室<br>1216 | 寮室<br>1217  | 寮室<br>1218  | 寮室<br>1219  | 洗面・<br>洗濯室  | WC<br>洗面所   | 寮室<br>1220  | 寮室<br>1221  | 寮室<br>1222  |             |            |
| 自習室<br>1201 | 自習室<br>1202 | 自習室<br>1203 | コンピ<br>ュー<br>タ室 | 寮室<br>1204 | 寮室<br>1205  | 自習室<br>1206 | 自習室<br>1207 | 自習室<br>1208 | 自習室<br>1209 | 自習室<br>1210 | 自習室<br>1211 | 自習室<br>1212 |             |            |
| 3 階         |             |             |                 |            |             |             |             |             |             |             |             |             |             |            |
| 寮室<br>1313  | 寮室<br>1314  | 寮室<br>1315  | WC<br>洗面所       | 寮室<br>1316 | 寮室<br>1317  | 寮室<br>1318  | 寮室<br>1319  | 洗面・<br>洗濯室  | WC<br>洗面所   | 寮室<br>1320  | 寮室<br>1321  | 寮室<br>1322  |             |            |
| 自習室<br>1301 | 自習室<br>1302 | 自習室<br>1303 | 談話室             | 寮室<br>1304 | 寮室<br>1305  | 自習室<br>1306 | 自習室<br>1307 | 自習室<br>1308 | 自習室<br>1309 | 自習室<br>1310 | 自習室<br>1311 | 自習室<br>1312 |             |            |

山寮 (女子2人部屋)

|            |            |                 |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
|------------|------------|-----------------|------------|------------|------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1 階        |            |                 |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
| 玄関         | 補食室        | 廊下              |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
| 寮室<br>2101 | 寮室<br>2102 | 寮母室             | 寮室<br>2104 | 寮室<br>2105 | 寮室<br>2106 | WC | 洗面・<br>洗濯室 | 寮室<br>2107 | 寮室<br>2108 | 寮室<br>2109 | 寮室<br>2110 | 寮室<br>2111 | 寮室<br>2112 |
| 2 階        |            |                 |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
| コインロッカー    | 談話室<br>補食室 | 寮室<br>2201      | 寮室<br>2202 | 寮室<br>2203 | 寮室<br>2204 | WC | 洗面・<br>洗濯室 | 寮室<br>2205 | 寮室<br>2206 | 寮室<br>2207 | 寮室<br>2208 | 寮室<br>2209 | 寮室<br>2210 |
| 3 階        |            |                 |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
| 廊下         |            |                 |            |            |            |    |            |            |            |            |            |            |            |
| 寮室<br>2301 | 寮室<br>2302 | コンピ<br>ュー<br>タ室 | 寮室<br>2303 | 寮室<br>2304 | 寮室<br>2305 | WC | 洗面・<br>洗濯室 | 寮室<br>2306 | 寮室<br>2307 | 寮室<br>2308 | 寮室<br>2309 | 寮室<br>2310 | 寮室<br>2311 |

(出典：学生便覧)

## 資料 7-2-③-4 : 学生寮無線LAN利用上の注意

## 無線 LAN の利用者に

石川高専ではキャンパスの建物があるほぼ全域で無線 LAN のアクセスポイントが設置されており、無線 LAN カードを備えたパソコンから無線を利用してネットワークに接続することが可能です。従来のケーブルを接続するわずらわしさから開放され、特にノートパソコンではフレキシブルにネットワーク利用できるようになります。利用にあたっては、無線 LAN のクライアントソフトの設定は各自でお願いします。設定に必要な情報は以下の通りです。SSID や WEP パスワードは半角で入力してください。また大文字と小文字が区別されますので、注意してください。

| キャンパスでの無線 LAN |                | 学寮での無線 LAN |                |
|---------------|----------------|------------|----------------|
| SSID          | WEP パスワード (文字) | SSID       | WEP パスワード (文字) |
| Campus        | *****          | Dormitory  | *****          |

また、無線 LAN の利用にあたっては注意しなければならないこともあります。以下の事柄に十分注意して下さい。

## 無線 LAN を利用する皆さんへ

- 電波を利用しているため常に安定した通信ができるとは限らない。  
建物があるほぼ全域でアクセスポイントを設置していますが、電波はどこでも届くとは限りません。影になる部分も当然存在するため、そのような場所では通信が不安定になります。
- セキュリティに不安な面もある。  
電波を利用して通信を行っている以上、データが盗聴される可能性があります。本校では WEP による暗号化通信を導入していますが、完全とはいえません。重大な秘匿性を伴う通信は絶対に行わないで下さい。
- 無線 LAN はキャンパスのグループに属するものと学寮のグループに属するものがある。  
本校ではキャンパスのグループの属する無線 LAN (寮を除く部分) と寮のグループの無線 LAN があります。これら同一グループ内では一旦ネットワークに接続すると移動してもそのまま通信が途切れなく行えます (ローミング)。しかし異なるグループへ移動したら再接続する必要があります。

## 特に学生の皆さんへ

- ネットワークの不正利用は絶対に行わないこと。  
無線 LAN に限らずネットワークを利用して公序良俗に反する行為は絶対に行わないこと。ネットワークの利用はセンターでログに記録されています。
- 授業、実験、演習等において不正な利用をしないこと。  
授業中などに授業に関係ない無線 LAN 利用は絶対にしないこと。このような行為は発見次第無線 LAN 利用を停止します。
- 盗難に注意すること。  
無線 LAN の利用は、主にノートパソコンになると思います。ノートパソコンはコンパクトですが、非常に高価なので盗難に遭うことも少なくありません。各自盗難には細心の注意を払うようにして下さい。
- アカウント情報の管理は責任をもって行うこと。  
偶然知った他人のアカウント情報であっても第3者に教えたり、知ったパスワードでWebを利用したり、他人に成り済ます等の行為をするとたとえ実害がなくても刑法で罰せられます。自分のパスワードなどのアカウント情報は責任を持って管理してください。

(出典：情報処理センター保管資料)

資料 7-2-③-5 : 学生寮経費

## 4. 学寮経費

寮生活をするためには、月額で次の寄宿料と寮費が必要になります。

| 項 目     |       | 金 額 (月額)           | 備 考                                 |
|---------|-------|--------------------|-------------------------------------|
| 寄 宿 料   |       | 7 0 0 円<br>8 0 0 円 | 複数人部屋 (4月と10月に6か月分徴収)<br>1人部屋       |
| 寮 費     | 運 営 費 | 4,000円             | 光熱水費, 暖房用燃料費, その他<br>消耗品費等          |
|         | 給 食 費 | 29,920円            | 3食 (1か月分)                           |
| 寮 生 会 費 |       | 320円               | 4月と10月に1,600円ずつ徴収<br>(5年生の後期は徴収しない) |
| 合 計     |       | 年額 350,800円        | 複数人部屋 (1人部屋は1,200円加算)               |

(出典 : 寮生活のしおり)

### 2) 生活の場としての学生寮

学生寮の管理運営は、校長の命を受けた寮務主事、寮務主事補佐、寮務委員 (6名)、学生課長、寮務係長によって行われている (資料 7-2-③-6)。上記メンバーで構成される寮務委員会は管理運営に必要な事項を審議する (資料 7-2-③-7)。当直には、教職員全員が当番制で2人ずつ当たり、当直者マニュアル (資料 7-2-③-8) にしたがって、寮生の安全と健康を守っている (資料 7-2-③-9)。火災や事故など、非常事態が発生した時に備え非常時連絡網が整備されている (資料 7-2-③-10)。

自治組織として寮生全員で構成される寮生会があり、寮長が中心となって、寮生活の調和、規律および環境美化の維持を行っている (資料 7-2-③-11)。また、寮生の親睦を図る様々な寮生会行事も開催している (資料 7-2-③-12)。

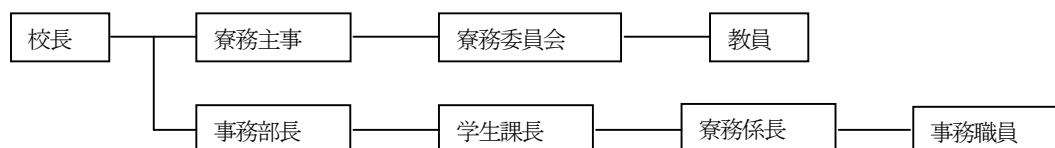
寮生の日課が定められており、毎日、7:30に起床・朝点呼、20:00から自習、21:00には夜点呼が行われている (資料 7-2-③-13)。朝点呼は寮管理棟で行い、夜点呼では当直教員が寮生の点呼当番と共に各棟を巡回して点呼をとる (資料 7-2-③-14)。点呼時不在の寮生に対しては自宅などに電話し、所在を確認している。また、毎月、寮務委員が点呼簿を検査し、点呼状況の悪い寮生に注意と指導を行っている。寮生が外泊するときは外泊願 (資料 7-2-③-15) を提出させ、外泊先を確認している。

日常の厚生補導は、主に、寮務主事、寮務委員が当たり、飲酒・喫煙など学生に相応しくない行為については寮務委員会で審議し、一定期間の自宅通学や退寮などの懲戒処分 (資料 7-2-③-16) を行っている。

- 資料 7-2-③-6 : 寮管理組織図
- 資料 7-2-③-7 : 寮務委員会規則
- 資料 7-2-③-8 : 当直者必携目次
- 資料 7-2-③-9 : 当直者勤務表
- 資料 7-2-③-10 : 学生寮の非常時における連絡網
- 資料 7-2-③-11 : 寮生会組織図
- 資料 7-2-③-12 : 寮生会行事一覧

- 資料 7-2-③-13 : 学生寮日課表
- 資料 7-2-③-14 : 点呼簿
- 資料 7-2-③-15 : 外泊願
- 資料 7-2-③-16 : 学生寮懲罰規定

## 資料 7-2-③-6 : 学生寮管理組織図



学生寮管理運営組織（下記，学生寮管理運営規則に基づき作成）

## ○石川工業高等専門学校学生寮管理運営規則

## （趣旨）

第1条 この規則は，石川工業高等専門学校学則に基づき学生寮の円滑適正な管理運営を図るため必要な事項を定める。

## （設置の目的）

第2条 学生寮は，学生の修学に便宜を供与し，適切な環境において規律ある共同生活を体験させ，これを通じて人間形成を助長し教育目標の達成に資することを目的とする。

## （管理運営）

第3条 学生寮の管理運営に関する重要事項は，寮務主事の助言を得て，校長が決定する。

## （寮務委員会）

第4条 寮生の厚生補導について審議し，その円滑な生活指導を図るとともに，学生寮の運営を適正に行うため，本校寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に必要な事項は，別に定める。

## （入寮）

第5条 入寮を希望する者は，校長に所定の入寮願を提出しなければならない。

第6条 入寮は，委員会の議を経て，校長が許可する。

第7条 入寮の許可を受けた者は，指定された書類を期限内に，寮務主事を経て校長に提出しなければならない。

2 校長は，入寮の許可を受けた者が前項の手続きを完了しないとき，又は入寮の選考にあたり虚偽の申し立てが判明したときは，当該入寮の許可を取り消すことがある。

## （寄宿料等）

第8条 寮生は，寄宿料を本校が指定する方法で所定の期日までに収入役に納入しなければならない。

2 寄宿料は，入退寮の日が月の途中であっても，1月分を納付しなければならない。

3 既納の寄宿料は，返納しない。

第9条 食費その他生活に必要な光熱水料等の経費は，寮生の負担とする。

2 寮生は，前項の光熱水料等の経費について，石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の定める額を本校が指定する方法で所定の期日までに校長の指定する者に納めなければならない。

## （施設保全の義務）

第10条 寮生は，居室，共同施設その他学生寮の施設設備を常に正常な状態において保全することに留意し，次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 居室を居室以外の目的に使用しないこと。
- (2) 居室には部外者を宿泊させないこと。
- (3) 居室及び附帯設備，許可なく工作を加えないこと。
- (4) 共同の施設は，常に良好な状態を保つよう連帯して保全すること。
- (5) 学生寮敷地内において許可なく，掲示，貼紙等をしないこと。
- (6) 故意又は過失により施設，設備を滅失，き損又は汚染したときは，その原状回復に必要な経費を弁償すること。
- (7) 防火管理，保健衛生管理，災害防止その他学生寮施設の管理運営上，学校が必要とした場合は，学校の指示に従い，積極的にこれに協力すること。

## （共同生活）

第11条 寮生は，学生寮の目的に従い，学生寮における日常生活上の具体的な問題を共同して処理し，自主的にこれを規律す

るため、校長の承認を得て、寮生全員を構成員とする組織を構成することができる。

- 2 前項に定める承認は、当該組織を本校の課外活動団体として認めるものであって、当該組織が学外の団体に加入しようとするときは、校長の許可を得なければならない。

(退寮)

第12条 退寮を希望する者は、寮務主事を経て校長に退寮願を提出して、その許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、退寮するに当たり、居室、その他居室に附属する設備等について原状に復帰させ、校長の指定する教職員の検査を受けなければならない。

(退寮命令)

第13条 寮生が、次の各項のいずれかに該当するときは、校長は、速やかに退寮を命ずるものとする。

- (1) 3月以上寄宿料又は第9条に規定する経費の納入を怠ったとき。
- (2) 風紀を乱す行為のあったとき。
- (3) 共同生活の秩序を著しく乱す行為のあったとき。
- (4) 疾病その他により保健衛生上共同生活に適しないと認めるとき。
- (5) 別に定める在寮期限を超えることとなったとき。
- (6) 退学（除籍を含む。）又は無期停学を命ぜられたとき。
- (7) その他学生寮の運営上著しく支障を来す行為のあったとき。

(懲戒)

第14条 寮務主事は校長の同意を得て、必要に応じて寮生に懲戒を科すことができる。

(寮生以外の者の宿泊)

第15条 学生寮には、寮生以外の者を宿泊させてはならない。ただし、寮生の父母等に限り、やむを得ない理由により特別の願い出があったときには、校長は、これを許可することがある。

(懇談会の開催)

第16条 寮務主事は、学生寮における日常的、具体的な問題の処理について意見を交換し、教職員及び学生の相互の理解を深めるため、適宜に懇談会を開催するものとする。

(その他)

第17条 この規則に定めるもののほか、必要な細則及び寮生心得は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 石川工業高等専門学校学校寮管理運営規則（昭和40年4月24日制定）は、廃止する。

(出典：学生便覧)

## 資料 7-2-③-7 : 寮務委員会規則

## ○石川工業高等専門学校寮務委員会規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校学生寮管理運営規則に基づき、石川工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

## (組織)

第2条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 寮務主事
- (2) 寮務主事補佐
- (3) 一般教育科及び各専門学科において選出した教員 各1人

2 前項第3号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。
- 3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員会に副委員長を置き、前条第1項第2号の委員をもってこれに充てる。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。
- 6 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 学生の入寮及び寮生の退寮に関する事。
- (2) 寮生の生活指導及び懲戒に関する事。
- (3) 寮生活上の企画・実施に関する事。
- (4) 寮生の福利厚生及び保健衛生に関する事。
- (5) その他学生寮の運営に関する事。

## (事務)

第5条 委員会の事務は、学生課において処理する。

## 附 則

この規則は、昭和53年2月16日から施行する。

## 附 則

この規則は、昭和54年4月13日から施行し、昭和54年4月1日から適用する。

## 附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)



資料 7-2-③-8 : 当直者必携目次

## 「有朋寮」当直者必携 目次

|                              |           |
|------------------------------|-----------|
| <b>1. 寮生の日課と当直者の勤務</b> ..... | <b>1</b>  |
| <b>2. 点呼の方法</b>              |           |
| (1) 点呼簿の保管場所 .....           | <b>2</b>  |
| (2) 平日夜点呼の取り方 .....          | <b>2</b>  |
| (3) 平日朝点呼の取り方 .....          | <b>3</b>  |
| (4) 休前日、休日夜点呼の取り方 .....      | <b>3</b>  |
| (5) 休前日、休日朝点呼の取り方 .....      | <b>3</b>  |
| (6) 外泊願 .....                | <b>3</b>  |
| (7) 課外活動早朝練習届 .....          | <b>3</b>  |
| (8) その他（当直室の鍵箱等） .....       | <b>4</b>  |
| <b>3. 山寮の防犯装置について</b>        |           |
| (1) 赤外線センサー .....            | <b>5</b>  |
| (2) 防犯ベル .....               | <b>6</b>  |
| <b>4. こんなときは・・・</b> .....    | <b>7</b>  |
| (1) 火災が発生したとき .....          | <b>8</b>  |
| (2) 不審者が進入したとき .....         | <b>10</b> |
| (3) 寮生が病気になったり、怪我をしたら .....  | <b>12</b> |
| (4) 盗難が発生したら .....           | <b>13</b> |
| (5) 停電になったら .....            | <b>14</b> |
| (6) 水道が止まるブザーがなったら .....     | <b>15</b> |
| <b>5. 寮内で禁止されている行為</b> ..... | <b>16</b> |
| <b>6. 持ち込みが禁止されている物品</b>     |           |
| (1) 持ち込みを厳禁しているもの .....      | <b>17</b> |
| (2) 許可を得て持ち込みできるもの .....     | <b>17</b> |
| <b>7. 電話番号簿</b> .....        | <b>18</b> |
| <b>8. その他</b>                |           |
| (1) 各棟内の消火器配置図 .....         | <b>19</b> |
| (2) 学生寮の非常時における連絡体制 .....    | <b>20</b> |
| (3) 食中毒の時の連絡体制 .....         | <b>21</b> |
| (4) 学校関係者の連絡先 .....          | <b>22</b> |
| (5) 学寮内懲罰規定 .....            | <b>23</b> |
| (6) テレビデオの貸出しおよび麻雀 .....     | <b>24</b> |

### 当直者の方々へ

- 寮務日誌の記入に際し、書名については、第1当直者は差欄に、第2当直者は右欄をお願いします。  
なお、寮務日誌は公文書ですので、鉛筆書きはしないでください。
- 当直者の自動車は、寮生の違反車両と間違われることのないよう、管理棟前の職員駐車場（白線標示の3台分）または食堂の裏に駐車してください。

(出典：寮務係保管資料)

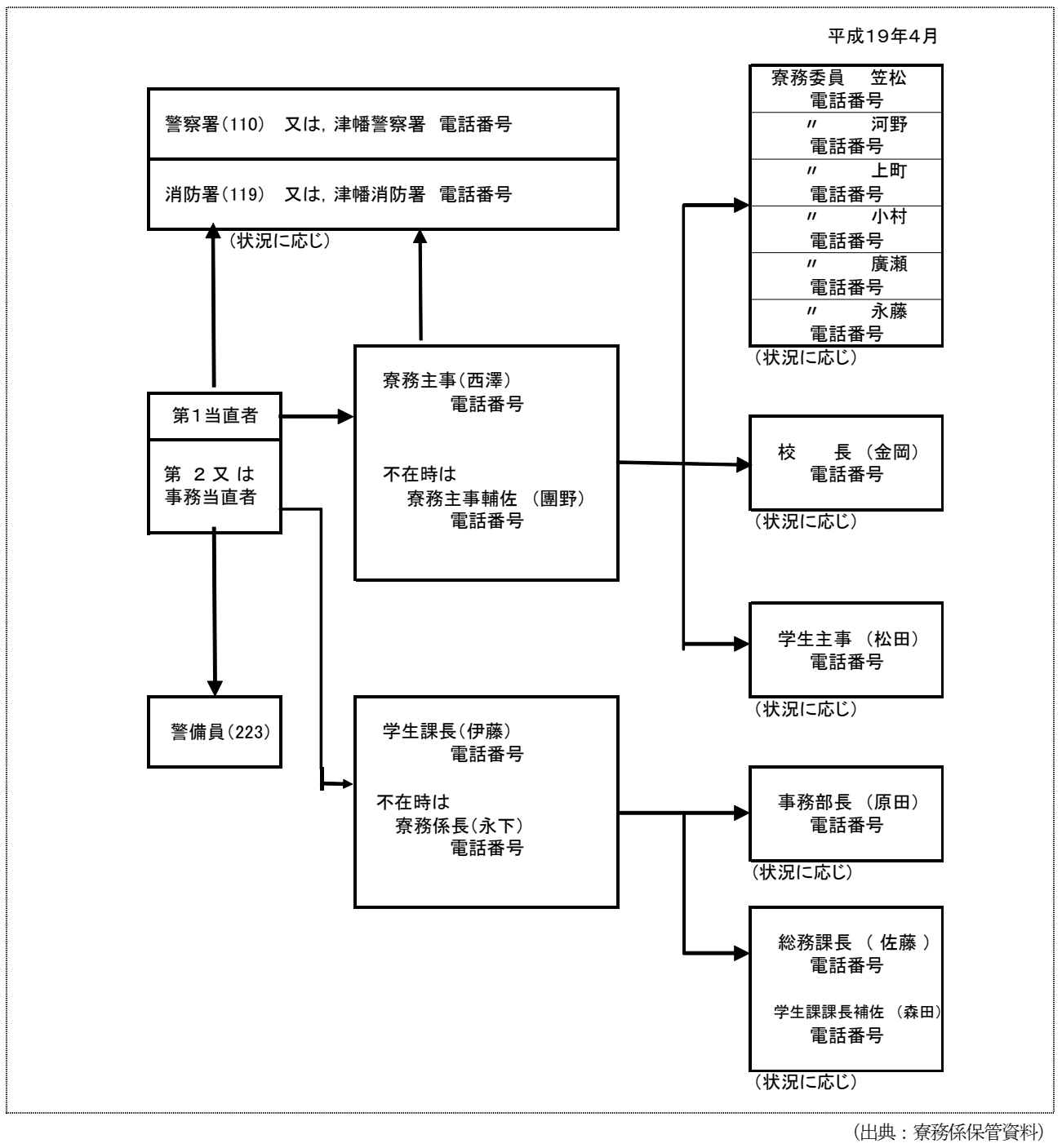
資料 7-2-③-9 : 当直者勤務表

## 1. 寮生の日課と当直者の勤務

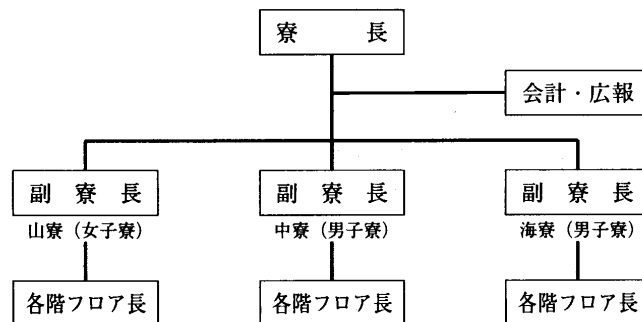
| 寮 生                                          |                          |                                                                                                                                                                                                                      | 当 直 者                     |                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時 刻                                          | 日 課                      | 留 意 点                                                                                                                                                                                                                | 時 刻                       | 留 意 点                                                                                                                                                                                                                        |
| 7:30 (チャイム)<br>(朝の音楽)                        | 起 床<br>洗 面               | 布団をたたみ、朝の身支度をす<br>る。                                                                                                                                                                                                 | 7:00<br>7:20              | (山寮防犯装置が解除される)<br>第二当直者は、検食して結果を検食簿に記入する。<br>第一当直者は、朝点呼の準備を行なう。                                                                                                                                                              |
| 7:45~8:15                                    | 点 呼                      | 朝の点呼当番は「多目的ホール」<br>にて各棟の点呼をとる。<br>各寮生は点呼場所に向き点呼を<br>済ませる。<br>点呼当番は15分交替とする。                                                                                                                                          | 7:45<br>~<br>8:15<br>8:30 | 第一当直者と第二当直者は、朝の点呼に交替しなが<br>ら立ち会う。前夜の所在不明者を確認する。<br>※朝食を適宜とり、必要ならば寮内を見回る。<br>第一当直者は、登校を促す放送をする。<br>寮務日誌を記入し、寮務係または日直者へ引き継ぐ。                                                                                                   |
| 7:30~8:20                                    | 朝 食                      |                                                                                                                                                                                                                      |                           |                                                                                                                                                                                                                              |
| 8:30 (チャイム)                                  | 登 校                      | 身のまわりを整理・整頓し、戸締<br>まりをする。<br>各自が遅刻防止に留意し、病気な<br>どで在寮する者があれば報告す<br>る。                                                                                                                                                 | 8:30                      | <日直の場合(土日曜、祝日等)><br>前夜の当直者から当直日誌および鍵箱を受け取り、<br>引継事項を確認する。<br>※適宜、寮内を見回る。                                                                                                                                                     |
| 8:50~12:20                                   | 授 業                      |                                                                                                                                                                                                                      | 12:10                     | 第二当直者は、検食して結果を検食簿に記入する。<br>昼食をとる。<br>※適宜、寮内を見回る。                                                                                                                                                                             |
| 12:20~13:25                                  | 昼 食                      |                                                                                                                                                                                                                      |                           |                                                                                                                                                                                                                              |
| 13:10~16:40                                  | 授 業                      |                                                                                                                                                                                                                      |                           |                                                                                                                                                                                                                              |
| 16:40~                                       | 課外活動                     | 課外活動には積極的に参加する。                                                                                                                                                                                                      | 17:15                     | 寮務日誌を記入後、宿直者に引き継ぐ。                                                                                                                                                                                                           |
| 18:00~19:30                                  | 夕 食                      | 19:30に食堂入り口を施錠するの<br>で、それまでに食事を終えるこ<br>と。                                                                                                                                                                            | 17:15<br>17:50            | 寮務係もしくは日直者から寮務日誌を受け取り、引<br>継事項を確認する。<br>第二当直者は、検食して結果を検食簿に記入する。                                                                                                                                                              |
| 17:15~20:50<br>(平日)<br>18:00~21:00<br>(土・祝日) | 入 浴                      | 浴槽内ではタオルを使わないこ<br>と。(シャワーは 7:00~8:30 お<br>よび<br>21:30~23:00 の間、使用可能)                                                                                                                                                 | 18:00<br>頃                | 第一当直者は、夕食をとる。<br>※適宜、寮内を見回る。                                                                                                                                                                                                 |
| 20:00~22:45<br>学習室                           | 自習時間                     | 自習に専念し、みだりに自室を離<br>れない。ラジオ等はイヤホンで聞<br>き、高声、放歌を慎み、ドアの開閉<br>等にも気をつけ、他人に迷惑をか<br>かさない。                                                                                                                                   | 20:30                     | 点呼簿を確認し、寮務係の受付時間外に外泊を届け<br>出た者に対して赤外印を押す。                                                                                                                                                                                    |
| 21:00 (チャイム)                                 | 門 限                      |                                                                                                                                                                                                                      |                           |                                                                                                                                                                                                                              |
| 21:00<br>(21:15)                             | 点 呼                      | 海寮：<br>必ず居室で待機し、点呼に支障の<br>ないようにする。<br>点呼当番は当直教官とともに点呼<br>をとり、点呼簿に記入する。終了<br>後、点呼簿を第一当直室へ返却<br>する。<br>中寮：山寮<br>居室前に整列し、点呼に支障のな<br>いよう待機する。<br>点呼当番は当直教官とともに点呼<br>をとり、点呼簿に記入する。終了<br>後、点呼簿を中寮は第一当直室<br>へ、山寮は第二当直室返却する。 | 21:00<br><br>(21:15)      | 点呼当番とともに点呼をとる。<br>第一当直者： 中寮→海寮<br>第二当直者： 山寮→海寮<br>海寮の点呼は、21:15 です<br>点呼簿により、在寮人員を把握し、未記入の場合は<br>点呼当番に督促する。<br>所在不明者に対しては館内放送および家庭への電<br>話連絡等で所在を確認する。それでも所在が確<br>認できない場合は、翌朝の朝点呼時に確認し、不在<br>の場合はその旨当直日誌に記入する。<br>※適宜、寮内を見回る。 |
| 23:00 (チャイム)                                 | 消 灯                      | やむなく延灯する時は、静かに行<br>う。                                                                                                                                                                                                | 23:00<br>23:05            | 消灯状況を見て、館内放送で消灯および就寝準備を<br>するよう放送する。<br>(山寮防犯装置がセットされる)                                                                                                                                                                      |
| 16:10~23:00                                  | 補食室<br>談話室<br>多目的<br>ホール | 使用後は後始末をし、調理品を居<br>室に持ち込まない。<br>使用時間を守り、使用後は後始末<br>をする。                                                                                                                                                              | 全般的                       | ・寮生の健康と安全に留意する。<br>・点呼簿で、常に在寮人員を確認する。<br>・寮生との話し合いに応ずる。<br>・適宜寮内を見回る。<br>・外来電話を受けて処理する。<br>・救急箱の使用に指示を与える。                                                                                                                   |

(出典：寮務係保管資料)

資料 7-2-③-10：学生寮の非常時における連絡網



## 資料 7-2-③-11：寮生会組織図



※ 3年生連絡委員，2年生連絡委員，1年生連絡委員とも，それぞれ男2名，女1名  
 なお，寮生会組織と直接関係はないが，生協理事も選出しています。

寮生会組織（以下の学生寮寮生会会則に基づく）

## ○石川工業高等専門学校学寮寮生会会則

## 第1章 総則

第1条 本会は，石川工業高等専門学校学寮寮生会（以下「本会」という。）と称する。

第2条 本会は，石川工業高等専門学校学寮運営細則に基づき，寮生相互の親睦を深め寮生の自主的な活動を通じて民主的で健全な団体生活を送ることを目的とする。

第3条 本会は，石川工業高等専門学校学寮の全寮生をもって構成する。

## 第2章 機関

第4条 第2条の目的を達成するため，次の機関を置くものとする。

- (1) 総会
- (2) 役員会
- (3) 連絡協議会
- (4) 委員会

第5条 各機関の会議は，構成員の4分の3以上の出席をもって成立する。

2 議決は出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数のときは議長が決するところによる。ただし，会則の改正については第32条の定めるところによる。

第6条 総会，役員会及び連絡協議会は寮長が召集し，委員会は各委員長が召集するものとする。

第7条 総会の議長及び副議長は，その都度寮長が指名する。

2 役員会及び連絡協議会の議長は寮長が当たり，委員会の議長は各委員長が当たるものとする。

第8条 次条に定める役員及び第20条に定める委員の任期は6ヶ月とし前期は4月1日から10月15日まで，後期は10月16日から翌年3月31日までとする。ただし，再任をさまたげない。

2 補欠により選出された役員及び委員の任期は，前任者の残任期間とする。

## 第3章 役員

第9条 本会に，次の役員を置く。

- (1) 寮長 1名
- (2) 副寮長 2名（高学年及び低学年から各1名）
- (3) 棟長 2名（各棟から1名）
- (4) 会計 2名
- (5) 書記 1名

第10条 役員の仕事は，次のとおりとする。

- (1) 寮長は寮生会を代表し，寮務主事の指導の基に寮生の融和と規律の保持に努め，寮生活の向上を図るものとする。
- (2) 副寮長は寮長を補佐し，寮長に事故あるときはその仕事を代行する。
- (3) 棟長は各棟を代表し，寮生活指針の決議に基づき，寮長と連携を保ち指導全般を行う。
- (4) 会計は，本会の予算及び決算に関すること並びに経理を所掌する。
- (5) 書記は，本会の庶務を処理するとともに，総会，役員会及び連絡協議会の記録を作成し，保管する。

## 第4章 総会

第11条 総会は，本会の最高議決機関であり，全寮生をもって構成する。

第12条 定期総会は，9月下旬と翌年2月上旬の2回開催する。

2 臨時総会は，次の各号の一に該当する場合は，遅滞なく開催しなければならない。

- (1) 寮長が特に必要と認めた場合

(2) 委員会の構成員の3分の2以上の要請があった場合

(3) 寮生の過半数以上の要請があった場合

第13条 総会は、次の事項を行うものとする。

(1) 規約の審議・決定

(2) 事業計画の承認

(3) 予算及び決算の承認

(4) その他本会の運営上重要な事項の審議・決定

#### 第5章 役員会

第14条 役員会は、寮長、副寮長、棟長、会計及び書記をもって構成する。

第15条 役員会は本会運営に関する事項を審議し、その執行に当たる。

第16条 役員会は、規約の制定・変更、事業計画及び収支予算について学校の承認を受けるものとする。また、事業報告及び収支決算諸を学校に提出するものとする。

#### 第6章 連絡協議会

第17条 連絡協議会は、第9条に定める役員及び第19条に定める各委員会の正・副委員長をもって構成する。

第18条 連絡協議会は、寮務主事及び寮務主事補の助言の基に、各委員会の連絡調整を行うものとする。

2 寮務主事が必要と認めた場合は、他の教職員を出席させることができる。

#### 第7章 委員会

第19条 本会に、次の委員会を置き、役割を分掌する。

(1) 企画委員会 本会の行う諸事業計画の立案、運営に関すること。

(2) 風紀第一委員会 点呼、あいさつ等生活一般のしつけに関すること。

(3) 風紀第二委員会 環境美化の維持及び施設の保全（風雨・積雪等の対応）に関すること。

(4) 風紀第三委員会 保安警備（火災、盗難、飲酒、喫煙等の予防）に関すること。

(5) 風紀第四委員会 自動車、バイクに関すること及び交通安全意識に関すること。

(6) 相談委員会 日常生活全般について諸相談に応じ、その指導に関すること。

第20条 各委員会は、委員長及び副委員長各1名の他10名程度の委員をもって構成する。

第21条 委員会の記録は、各委員会の副委員長が当たるものとする。

#### 第8章 役員、委員の選出及び解任

第22条 寮長及び副寮長の選出は、9月下旬と翌年2月上旬に、4年生の協議により候補者を選び、総会において信任を得たうえ、決定するものとする。

第23条 棟長、会計、書記及び各委員会委員長は寮長が指名し、また各委員会副委員長及び委員は各委員長が指名し連絡協議会に報告するものとする。ただし、複数の委員を兼ねることはできない。

第24条 全寮生の過半数の要求があるときは、寮長又は副寮長を解任することができる。

第25条 寮長が解任されたときは、役員会を解散しなければならない。

第26条 役員会が解散したときは、第22条の規定に準じ2週間以内に改選しなければならない。

#### 第9章 会計

第27条 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれに当てる。

第28条 本会の会費は、別に定める。

第29条 本会の会費は、前期にあつては4月21日から4月末日までに、後期にあつては10月20日から10月末日までに納入するものとする。

第30条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日をもって終る。

第31条 本会のすべての会計については、連絡協議会に報告し、総会に提出するものとする。

#### 第10章 会則の改正

第32条 会則の改正は、役員会の過半数の賛成があるとき役員会が発議し、総会において全寮生の3分の2以上の同意を必要とする。

#### 第11章 雑則

第33条 本会の運営に必要な細則は役員会が決定し、総会の承認を得るものとする。

##### 附 則

この会則は、昭和49年4月1日から施行する。

##### 附 則

この会則は、昭和52年4月1日から施行する。

##### 附 則

この会則は、昭和58年4月1日から施行する。

(出典：学生便覧)

資料 7-2-③-12 : 寮生会行事一覧

## 寮生会行事一覧(平成18年度 有朋寮行事予定表より抜粋)

| 前期 |    |    |                              | 後期 |    |    |                     |
|----|----|----|------------------------------|----|----|----|---------------------|
| 月  | 日  | 曜日 | 行事                           | 月  | 日  | 曜日 | 行事                  |
| 4  | 13 | 木  | 寮生会連絡協議会19:30～<br>寮生集会20:00～ | 10 | 16 | 月  | 寮生会連絡協議会20:00～      |
|    | 26 | 水  | 新入寮生歓迎会19:30～                |    | 19 | 木  | 寮生総会20:00～<br>月例清掃日 |
| 5  | 9  | 火  | 寮生総会 20:00～                  | 11 | 16 | 木  | 焼き芋大会・月例清掃日         |
|    | 25 | 木  | 月例清掃日                        | 12 | 21 | 木  | 月例清掃日・餅つき大会17:00    |
| 6  | 15 | 木  | 月例清掃日                        | 1  | 18 | 木  | 月例清掃日               |
| 7  | 13 | 木  | スイカ割り大会・月例清掃日                | 2  | 7  | 水  | 卒業生を送る会             |
| 9  | 28 | 木  | 月例清掃日                        |    | 22 | 木  | 月例清掃日               |

(出典：寮務係保管資料)

資料 7-2-③-13 : 学生寮日課表

## (2) 日常生活

## ○日 課

毎日の生活が規則正しく行われるように、以下の日課が定められています。

## [日課表]

| 区分  | 期 間                                                   | 留 意 点                                                                                    |
|-----|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 起 床 | 7:30                                                  | ●居室の清掃を行い、着替えを済ませる。                                                                      |
| 朝点呼 | 7:45～8:15                                             | ●管理棟・多目的ホールで各自、点呼当番に在寮を報告する。<br>●点呼当番は、7時40分までに多目的ホールに来る。<br>●点呼当番は、8時00分に交替する。          |
| 朝 食 | 7:30～8:20                                             | ●食事はセルフサービスで、速やかに移動する。<br>●時間内に食事を済ませる。<br>●欠食、食べ残しのないようにする。<br>●欠食する場合は、必ず欠食届を事務室に提出する。 |
| 登 校 | 8:30                                                  | ●早めに登校し、授業の準備をする。<br>●欠席、欠課、早退をしようとするときは、事前に当直者又は寮務係に申し出る。                               |
| 昼 食 | 12:20～13:25                                           | ●朝食と同様に、欠食、食べ残しのないようにする。                                                                 |
| 夕 食 | 18:00～19:30                                           | ●欠食する場合は、必ず欠食届を事務室に提出する。                                                                 |
| 入 浴 | 17:00～22:30<br>(金を除く平日)<br>18:00～21:00<br>(金・土と祝日の前日) | ●時間を厳守して、脱衣室を汚さないようにする。                                                                  |
| 門 限 | 21:00                                                 | ●点呼に遅れないように、帰寮する。                                                                        |
| 夜点呼 | 21:00～                                                | ●居室内(中寮・山寮は居室前に整列)で待機する。<br>●点呼当番は、点呼簿を取りに来る。<br>●当直者の立会いのもと、点呼を行う。                      |
| 自 習 | 20:00～22:45                                           | ●生活目標を達成するために、授業の予習・復習等をする。                                                              |
| 就 寝 | 23:00                                                 | ●健康のために、自習後は速やかに就寝する。                                                                    |

(出典：寮生活のしおり)

資料 7-2-③-14 : 点呼簿

(平成18年9月の例(具体的な氏名は削除した))

**中寮 1F** 17日以後は裏面です

| 部屋番号   | 学年<br>学科 | 日  | 8/31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |   |    |
|--------|----------|----|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|---|----|
|        |          | 曜日 | 木    | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |   |    |
|        |          | 点呼 | 朝    | 夜 | 朝 | 夜 | 朝 | 夜 | 朝 | 夜 | 朝 | 夜 | 朝  | 夜  | 朝  | 夜  | 朝  | 夜  | 朝  | 夜 | 朝  |
| 1111   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1111   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1111   | 1I       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1112   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1112   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1112   | 1I       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1113   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1113   | 1I       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1113   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1114   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1114   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1114   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1115   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1115   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1115   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1116   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1116   | 1A       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1116   | 1A       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1117   | 1M       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1117   | 1I       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1117   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1118   | 3C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1118   | 3C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1119   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1119   | 1E       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1119   | 1C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1120   | 3C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 1120   | 3C       | 氏名 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   | 氏名 |
| 点呼当番氏名 |          |    |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |   |    |

(出典：寮務係保管資料)

資料 7-2-③-15 : 外泊願

**外 泊 願 (記入例)**

寮務主事 殿 下記のとおり外泊したいので許可願います。

911号室 機械工 学科 5 学年 氏名 石高 太郎 (携帯 090-51xx-7xxx)

**記**

| 願出月日            | 月日              | 曜日           | 時間              | ～            | 月日              | 曜日           | 時間              | 理由               | 外泊先                                 | 許可 |
|-----------------|-----------------|--------------|-----------------|--------------|-----------------|--------------|-----------------|------------------|-------------------------------------|----|
| 10/8            | 10/9            | 土            | 8:00            | ～            | 10/10           | 日            | 17:00           | 帰宅のため            | 自宅<br>(Tel 076-288-8000)            |    |
| 10/13           | 10/14           | 木            | 17:00           | ～            | 10/15           | 金            | 8:00            | 就職活動             | ㈱太田重工<br>(Tel 030-22xx-xxxx)        |    |
| <del>11/5</del> | <del>11/6</del> | <del>土</del> | <del>7:00</del> | <del>～</del> | <del>11/8</del> | <del>月</del> | <del>7:30</del> | <del>帰宅のため</del> | <del>自宅</del><br>(Tel 076-288-8000) |    |
| /               | /               | :            | ～               | /            | :               |              |                 |                  | (Tel )                              |    |

(出典：寮務係保管資料)

資料 7-2-③-16 : 学生寮懲罰規定

## 7. 学生寮懲罰規定

### [退寮となる場合]

- ① 寮内への異性の立ち入りまたは連込み行為。
- ② 現金の盗難等悪質な窃盗行為。
- ③ 3か月以上の寮生経費の滞納。
- ④ 度重なる停寮処分を受けても改善の意志が認められない場合。

※その他、寮務主事および寮務委員会が退寮相当と判断した場合。

### [停寮となる場合]

- ① 喫煙・飲酒行為。
- ② 寮内への持込み禁止品の所持。
- ③ 通学生の寮内連込み行為。
- ④ 居室内麻雀を含め、騒音発生による学習環境および就寝時間帯の妨害行為。
- ⑤ 各居室内の改修および不整理・不整頓が度重なる場合、または改善の意志が認められない場合。
- ⑥ 理由なく「点呼遅れ」および「平日外泊」が続く場合。無断外泊も例外ではない。
- ⑦ 無許可アルバイト。
- ⑧ 無届け車両の所持。

※その他、寮務主事および寮務委員会が停寮相当と判断した場合。

(出典：寮生のしおり)

### 3) 勉学の間としての学生寮

日課表の中で自習時間が20:00～22:45に設定されている（既出資料 7-2-③-13）。平成17年度から自習体制を強化するため、学習室体制を整備し自学自習を支援している。平成18年度の学習室体制は、1、2年生を対象として、決められた時間に決められた場所（多目的室あるいは各自の自習室）で勉強するシステムである（資料 7-2-③-17）。3、4年生が当番制で PT (Peer Tutor) となり、巡回して学習指導にあたる（資料 7-2-③-18）。なお、3～5年生は、勉強机が置かれている居室で自習することになっている。

各寮棟のコンピュータ室には、インターネットに接続されたパソコン4台、プリンタ2台が設置され、報告書の作成やウェブ上の学習参考資料の収集に利用している。また、無線LANが整備され、居室でも自習にパソコンを活用できる体制が整っている。

資料 7-2-③-17 : 学習室体制運営要領

資料 7-2-③-18 : PTへの協力依頼



## 資料 7-2-③-17 : 学習室体制運営要領

## ○学習室体制運営要領

1. 開設時間 月曜日から木曜日 21:30～22:30
2. 学習対象者 1・2年生
3. 場所 1年生＝管理棟多目的室及び各自の自習室（女子は各居室）  
2年生＝各自の自習室（女子は各居室）

## 4. 開設形態

1年生＝日替わりで学科ごとに集団学習日を設定し、その日は管理棟多目的室（学習室）で学科ごとに全員集合して学習する。出席状況をPTがチェックする。学習室に待機しているPTには、勉強について質問できる。集団学習日以外の日（各自学習日）は各自の自習室で学習し、PTの巡回を受ける。

2年生＝学習室開設時間帯には、各自の自習室で学習に当たることとする。学科ごとの集団学習日には、PTの巡回を受ける。

## 5. 学習者行動表

| 時 間    | 1年生（集団学習日）                                                            | 1年生（各自学習日）                                  | 2年生                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 21:30  | 管理棟多目的室（学習室）に、勉強道具を持って集合。各自会場設定に協力する。備え付けの確認簿の各自のその日の出欠欄左側に○を記入する。    | 各自自習室（女子は居室）で学習開始。適宜学習室に待機しているPTに質問しに行ってよい。 | 各自自習室（女子は居室）で学習開始。適宜学習室に待機しているPTに質問しに行ってよい。 |
| 21:40～ | 学習時間中は適宜PTに質問し、また同級生同士で教えあう。                                          | PTの1回目の巡回。学習状況のチェックを受ける。                    | PTの1回目の巡回。学習状況のチェックを受ける。                    |
| 22:10～ |                                                                       | PTの2回目の巡回。学習状況のチェックを受ける。                    | PTの2回目の巡回。学習状況のチェックを受ける。                    |
| 22:30  | 学習終了。確認簿の各自のその日の出欠欄右側に○を記入し、会場を片付け、自分の部屋へ戻る。引き続き学習を希望する者は、各自の自習室で行なう。 | 学習終了。希望者は引き続き学習を続ける。                        | 学習終了。希望者は引き続き学習を続ける。                        |

- ※注意 ① 1・2年生は学習時間中の入浴をなるべく控え、やむを得ない場合は不足する学習時間を各自で補うこと（月～木は最低1時間の学習をノルマとする）。
- ② 学習室開設時間帯は寮全体として静粛を保ち、テレビ視聴その他の娯楽をなるべく控えること。
- ③ 消灯時間以後、中寮は居室の消灯を励行すること。

(出典：寮務係保管資料)

## 資料 7-2-③-18 : PTへの協力依頼

## ○寮学習室体制開設・実施のお知らせ

## PTの役割

1, 2年生に自学自習の習慣を付けてもらうために、学習室を開設します。学習室とは、決められた時間(21:30 から 22:30)に、決められた場所(多目的室あるいは自習室)で勉強するシステムです。PTは各自が自習しているかどうかを確認したり、勉強について質問を受けたり、相談にのってあげたりする役割です。今年度は3, 4年生全員にこのPTになってもらいます。その理由は、上級生全員で下級生の勉強の面倒をみるすばらしい寮の伝統を守りたいからです。またPTの勤めを果たすことにより、先輩としての自覚を新たにするとともに、自分自身も勉強する姿勢が持てます。

PTで最も重要な役目は後輩の勉強の相談にのってあげることです。単なる見張り番ではありません。また後輩のよき見本となることです。このことは、君たち自身にとっても貴重な経験となります。ぜひPTになって学習室の運営に協力してください。

## PTの仕事

| 時間    | 仕事の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 21:30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● PT 4名, 管理棟多目的室(学習室)に集合。</li> <li>● 第一当直室で確認簿を受け取り, 学習室を準備する。</li> <li>● 学習室を開始することを伝える「ただいまより学習室を開始します。1, 2年生は自習室あるいは学習室で自習してください。なお, 本日の学習室は〇〇学科です。すべての寮生は寮内が学習しやすいように静粛にしてください」</li> <li>● 学習者が学習室に来た際に, 学習者自身で各自の確認簿のその日の出欠欄左側に〇を記入するよう促す。</li> <li>● 以後PTは, 巡回時間以外は4名とも学習室に待機していること。</li> </ul>                                                                            |
| 21:40 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人は学習室にて質問, 相談にのる。</li> <li>● 残りのPTは手分けして自習室の見回りを行う(中寮1年生, 当番学科の2年生, および山寮1年生と当番学科の2年生)。自習しているかどうかを確認して, 確認簿にチェックする。</li> <li>● もし, 自習室にいない場合には, あとで学習室に来てチェックするように伝える。</li> <li>● 質問がないかどうか聞き, 質問があればわかる範囲でできる限り答える。</li> <li>● わからないことはわからないといってよい。また, 自分がわからなくても, その質問に答えてくれそうな先生や寮生を教えてあげてもよい</li> <li>● 勉強していない者がいたら, 勉強するように促す。<br/>勉強の邪魔となる行為があればやめるように注意する。</li> </ul> |
| 22:10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 二回目の巡回。21:40の一回目巡回と同じ要領で実施。PT間の話し合いで, 適宜巡回場所, 巡回要員と待機要員などを交替してよい。</li> <li>● 巡回時に受けた質問への応答が長引いて巡回に支障をきたしそうな場合は, 学習室待機のPTに聞くか, 集団学習日の際聞くように勧めたり, 質問に答えてくれる先生を紹介したりして質問受付を適当に切り上げ, 巡回を続行する。</li> </ul>                                                                                                                                                                           |
| 22:30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習室終了を宣言し, 学習者自身に各自の確認簿のその日の出欠欄右側に〇を記入させた後, 解散させる。</li> <li>● 第一当直室に確認簿を返却し, 学習者と協力して学習室を元に戻す。</li> <li>● 放送で学習室を終了したことを伝える。「22:30になりましたので, 学習室を終了します。希望者は引き続き各自の自習室で学習を続けてください。なお消灯時間になりましたら, 中寮の居室の消灯を励行してください」</li> </ul>                                                                                                                                                   |

(出典:寮務係保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮の施設の整備状況は、男子寮、女子寮とも通学困難な入寮希望者全員を収容できる定員を備えている。居室、自習室、談話室、学習室などにより、学生の生活や勉学の支援もなされている。また、寮務委員や当直教職員による日常の安全管理、健康管理、厚生補導が行われている。以上のことから、学生寮は生活および勉学の場として有効に機能している。

**観点 7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

1) 学校の進路指導体制

学生の職業指導および学生・卒業生の就職紹介業務の実施促進と円滑な運営をはかるため、就職対策委員会が置かれ、就職紹介業務に対する学校としての基本方針を協議している(資料 7-2-④-1)。

進路指導の体制は、学校、学科、進路担当教員の3つの取り組みに分けることができる。以下に、それぞれの活動について述べる。

□ 資料 7-2-④-1：就職対策委員会規則

資料 7-2-④-1：就職対策委員会規則

○石川工業高等専門学校就職対策委員会規則(抜粋)

(設置)

第1条 本校学生の職業指導及び学生・卒業生の就職あっせん業務の実施促進と円滑な運営をはかるため、本校に石川工業高等専門学校就職対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は次の各号に掲げる事項について、その基本方針を協議し校内における職業紹介業務の調整を図るものとする。

- (1) 職業指導及びキャリアガイダンスに関すること。
- (2) 求人及び求職に関すること。
- (3) 就職あっせん及び調査統計に関すること。
- (4) その他就職対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長(教務主事)
- (3) 学生主事
- (4) 研究主事
- (5) 図書情報主事
- (6) 各学科主任

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

2) 学校としての活動

進路指導ガイダンスと、進路関係書類の受付と処理を行う。

学生に対する進路指導ガイダンスとしては、第2学年に対して地域の企業や大学の学外見学を実施し、将来の就職進学を考える機会としている(資料 7-2-④-2)。就職・進学活動を始める直前の第4学年と専攻科第1学年には、外部の講師による講演会を実施し、就職・進学の心構えと面接試験の指導をしている(資料 7-2-④-3)。

求人申し込みや大学等からの学生募集要項の受付は学生課が窓口となり、関係学科の就職担当教員(学科主任)と進学指導教員(学級担任)に送付し、応募者の決定に伴い、必要な応募書類を準備する(資料 7-2-④-4)。学生募集要項については、学生課で一覧表(資料 7-2-④-5)を作成している。

また、進路状況の一覧表を作成し、本校ウェブページ（資料 7-2-④-6）、石川高専だより（資料 7-2-④-7）、学校要覧（資料 7-2-④-8）などで学生や保護者に情報を提供している。石川県内の産業の発展のため、卒業生の県下における再就職支援活動について相互に協力しあう協定を本校と石川県が締結し（資料 7-2-④-9）、求人情報の提供と技術講習・相談等の活動を必要に応じて行っている（資料 7-2-④-10）。本校ウェブページでもこの活動を紹介し、卒業生への周知を図っている。（資料 7-2-④-11）。

- 資料 7-2-④-2：2年生学外見学実施計画書
- 資料 7-2-④-3：進路指導・支援対策特別講演会
- 資料 7-2-④-4：職業紹介業務取扱要領
- 資料 7-2-④-5：募集要項受付一覧(抜粋)
- 資料 7-2-④-6：ウェブページに記載された進路状況
- 資料 7-2-④-7：石川高専だよりに記載された進路状況
- 資料 7-2-④-8：学校要覧に記載された進路状況
- 資料 7-2-④-9：再就職支援協定書
- 資料 7-2-④-10：再就職支援協定について
- 資料 7-2-④-11：ウェブページに記載された再就職支援協定

資料 7-2-④-2：2年生学外見学実施計画書

### 平成18年度2年生学外見学実施計画書

#### 《企画の目的》

を  
図ることを目的とする。

また、石川県庁及び金沢大学工学部の施設見学や学科紹介を通して将来の進学就職を考える一助とする。

#### 《企画内容》

##### 1. 日 時

平成18年11月8日(水)8:50学校発→15:20学校着

##### 2. 場 所

###### (1)金沢大学工学部(金沢市角間町)

工学部の機能機械工学科、人間機械工学科、電気電子システム工学科、情報システム工学科、土木工学科を5班に分かれて見学・説明を受ける。

電話:076-234-4553

###### (2)石川県庁(金沢市鞍月1丁目1番地〒920-8580)

石川県県民交流課 総合案内  
行政庁舎南側バスを降りて、守衛の指示で移動

電話:076-225-1111(内線6130) FAX:076-225-1363

#### 《A班》

8:50学校発→9:10金沢大学工学部着→9:30工学部見学・説明

11:20～11:50昼食(金大工学部生協)→13:00までキャンパス内

自由見学→13:00工学部発→

13:30石川県庁着→13:30見学、14:50県庁発→15:10学校着

『1号車 機械工学科 43名 2号車 電気工学科 42名

3号車 電子情報工学科 43名』

#### 《B班》

8:50学校発→9:10石川県庁着→9:30見学→10:50石川県庁発

11:20金沢大学着→11:20～11:50昼食(金大中央生協)13時ま

でキャンパス内自由見学

13:00工学部見学・説明→15:00工学部発→15:20学校着

『4号車 環境都市工学科 41名 5号車 建築学科 42名』

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-④-3 : 進路指導・支援対策特別講演会

石高専学第 59号  
平成18年12月21日

(株) 毎日コミュニケーションズ京都支社  
キャリアサポート課長 高橋 誠人 殿

石川工業高等専門学校長  
金岡 千嘉男

平成18年度 進路指導・支援対策特別講演会の講師について (依頼)

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から本校の教育活動に対し、格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本校では例年、進路指導・支援の一環として標記講演会を実施しており、本年についても下記のとおり実施する運びとなりました。

つきましては、ご多用中のところ誠に恐縮ですが当日の講師をお願いしたいと存じます。

なお、ご承諾の上はお手数ですが、1月10日(水)までに別紙「承諾書」・「振込依頼書」及び「履歴に関する調書」をご返送くださいますようお願いいたします。

#### 記

1. 日 時 平成19年 1月24日(水) 15:00~16:30
2. 場 所 石川工業高等専門学校 視聴覚室
3. 対 象 本校4年生及び専攻科1年生
4. 趣 旨 就職に関する情報と模擬面接により、今後の進路・就職開拓についての心構えと面接試験の指導を受ける。

(出典：学生課保管資料)

## 資料 7-2-④-4 : 職業紹介業務取扱要領

## ○石川工業高等専門学校職業紹介業務取扱要領

- 1 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における就職あっせんの取扱いは石川工業高等専門学校職業紹介業務運営規則（昭和44年石川工業高等専門学校規則）に定めるもののほか、この要領の定めるところによる。
- 2 学生に対する職業指導は、就職担当教員を中心に全教員がこれに当たる。
- 3 就職あっせん業務は、就職対策委員会において決定された基本方針に基づいて行う。
- 4 就職先の開拓は、次の各号のとおりとする。
  - (1) 求人先の開拓については、校長を中心にして全教員が常時これを心がけて努力するものとする。
  - (2) 就職開拓については各学科の情報を持ち寄り、同一地域の場合はそれぞれよく連絡をとり、能率的に就職開拓訪問業務を行うものとする。
  - (3) 就職開拓のため持参する資料は本校概要及びその他のものとし、なるべく事業先の採用担当部署等で面談し、以後の連絡が順調にいくような経路を拓くよう務めることとする。
- 5 求人申込受付については、次の各号のとおりとする。
  - (1) 求人申込受付の窓口は、学生課とする。
  - (2) 求人申込みは、所要事項を記入した求人票をもって受ける。
- 6 求人申込みの連絡及び通知については、次の各号のとおりとする。
  - (1) 学生課において求人票を受理したときは、速やかに関係の就職担当教員へ送付する。
  - (2) 学生への周知指導は、就職担当教員が口頭又は掲示によって行う。掲示板は、各学科が設置する。
  - (3) 学生課においては、求人状況及び応募状況のリストを作成し、常に就職あっせん業務の円滑な運営に資する。
- 7 求人申込みに対する推薦については、次の各号のとおりとする。
  - (1) 選考
 

求人申込みのあった会社等に対する推薦者の選考は、就職対策委員会で決定した方針に基づき当該学科において行う。ただし、同一会社等から複数学科等に対し求人申込みのあった場合は、必要に応じて関係学科において協議する。
  - (2) 応募文書等の作成、処理
 

ア 求職に際し必要な文書は、求職者が用意しなければならない。

イ 求職者が学校作成の書類を必要とするときは、就職担当教員を経て、学生課へ申請するものとする。
- 8 推薦後の措置については、次の各号のとおりとする。
  - (1) 就職試験のために授業を欠席したい者の取扱いは、別に定める。
  - (2) 採否の通知を学生課で受付けたときは、速やかに就職担当教員に通知するものとする。
  - (3) 就職担当教員は、常に採否状況の把握に努め、求職者から得た内定状況は速やかに学生課に通知するものとする。
  - (4) 求職者は採否の通知があったときは、速やかに就職担当教員に報告しなければならない。

## 附 則

この取扱要領は、昭和50年9月9日から施行し、昭和48年4月1日から適用する。

## 附 則

この取扱要領は、昭和56年5月25日から施行する。

## 附 則

この取扱要領は、昭和58年4月1日から施行する。

## 附 則

この要領は、平成17年4月1日から実施する。

(出典：石川工業高等専門学校規則集)

資料 7-2-④-5 : 募集要項受付一覧(抜粋)

平成19年度大学編入学学生募集要項受付一覧

| 番号   | 大学名  | 学部名  | 学科名                                                | 進路方法         | 試験科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 募集要項期間                         | 試験日                      | 合格発表                                | 備考書様切 |
|------|------|------|----------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|-------|
| 1001 | 北海道  | 工    | 応用理工系、機械知能工、環境社会工、応用理工系、情報工、ロボティクス、機械知能工、環境社会工     | 特別選抜<br>一般   | 国語書、小論文、口頭試験<br>英、数、物、化、口頭試問                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 5/23(火)~31(水)<br>7/14(金)~25(土) | 6/25(日)<br>8/24(木)~25(金) | 7/7(金)<br>9/4(月)                    |       |
| 1003 | 室蘭工業 | 工    | 建築システム工、機械システム工、情報工、電気電子工、材料物性工、応用化学               | 推薦<br>短期コース  | 面接(口頭試問含む)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 8/19(月)~22(木)                  | 7/6(木)                   | 7/2(金)                              |       |
|      |      |      |                                                    | 推薦<br>夜間主コース | ①(土)木コース②英、専門、面接(口頭試問含む)③英語コース④小論文、面接(口頭試問含む)⑤英、数、専門、面接(口頭試問含む)⑥英、数、専門、面接(口頭試問含む)⑦英、数、専門、面接(口頭試問含む)⑧英、数、専門、面接(口頭試問含む)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 9/11(月)~13(水)                  | 10/6(金)                  | 10/20(金)                            |       |
| 1007 | 北見工業 | 工    | 機械システム工、電気電子工、情報システム工、化学システム工、繊維材料工、土木関係工          | 推薦<br>学力     | 該当者のみ面接<br>物、数、英、専門、面接                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 5/1(木)~9(土)<br>5/19(月)~23(金)   | 6/2(木)<br>7/5(水)         | 6/2(木)<br>7/12(水)                   |       |
| 1008 | 弘前   | 理工   | 数理システム、物理解工、地球環境、電子情報システム、知能情報システム                 | 推薦<br>一般     | 面接(口頭試問)<br>面接(口頭試問)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 5/15(月)~19(金)<br>7/18(火)~21(金) | 6/8(土)<br>8/11(金)        | 6/12(月)<br>8/2(日)                   |       |
| 1009 | 岩手   | 工    | ①応用化学②材料物性工③電気電子工④情報工⑤建設環境工⑥情報システム工⑦福祉システム工        | 推薦           | ①②③④の面接(口頭試問)<br>⑤⑥面接                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 5/29(月)~31(水)                  | 6/8(木)                   | 6/19(月)                             |       |
|      |      |      |                                                    | 一般           | ①②③④⑤⑥⑦、英、専門、面接⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 5/29(火)~30(金)                  | 7/11(水)~12(木)            | 7/24(月)                             |       |
| 1010 | 東北   | 工    | 機械知能、航空工、電気情報、物理工、化学、バイオ工、材料科学総合、建築・社会環境工          | 一般           | 英、物、化、専門、英、面接                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 7/3(月)~7(金)                    | 8/22(水)~23(木)            | 9/6(水)                              |       |
| 1012 | 秋田   | 工学資源 | ①環境物質工<br>②材料工<br>③機械工<br>④情報工<br>⑤電気電子工<br>⑥土木環境工 | 推薦           | 面接試問                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 9/29(月)~10/2(金)                | 9/12(月)                  | 6/18(月)                             |       |
|      |      |      |                                                    | 一般           | ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺<br>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 5/26(月)~30(金)                  | 7/10(月)~11(火)            | 7/24(月)入学手続                         |       |
| 1012 | 秋田   | 工学資源 | ①環境物質工<br>②材料工<br>③機械工<br>④電気電子工<br>⑤土木環境工         | 一般<br>2次     | ①英、数、物、化又は他、面接②専門科目に関する試問(含む)③英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)④英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑤英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑥英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑦英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑧英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑨英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑩英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑪英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑫英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑬英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑭英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑮英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑯英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑰英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑱英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑲英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)⑳英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉑英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉒英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉓英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉔英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉕英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉖英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉗英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉘英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉙英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉚英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉛英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉜英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉝英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉞英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㉟英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊱英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊲英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊳英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊴英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊵英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊶英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊷英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊸英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊹英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む)㊺英、数、物、化、物、面接(専門科目の試問を含む) | 9/19(水)~25(月)                  | 10/2(月)                  | 10/13(水) 入学手続<br>10/28(木)~<br>27(金) |       |

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-④-6：ウェブページに記載された進路状況

## 就職

本校卒業者は基礎学力と実践力の両方をバランス良く学び、社会に出てすぐに役立つ技術を身につけているので、企業では大変高く評価されています。平成18年3月卒業者の約60%が就職し、求人倍率は13倍で、就職率は100%です。

### 主な就職先

|                |                                                                                                                              |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>機械工学科</b>   | 本田技研工業、デンソー、三菱重工業、川崎重工業、出光興産、JR西日本、松下通信工業、日本たばこ産業、ダイキン工業、日立ビルシステム、キャノン販売、オリンパス、参天製薬、日機装、北陸電力、不二越、澁谷工業、ニッコー、ソニーケミカル、トランテックス、他 |
| <b>電気工学科</b>   | 松下電器産業、松下通信工業、中部電力、関西電力、北陸電力、NHK、JR東海、ソニーEMCS幸田、NTTドコモ、東芝エレベータ、キャノンコピー販売、三谷産業、アイ・オー・データ機器、PFU、ナナオ、東京ドロウイング、北陸電気工事、他          |
| <b>電子情報工学科</b> | NTT西日本、NTTドコモ北陸、アルファシステムズ、オリンパス光学工業、ナナオ、パナソニック・オートモチブシステムズ社、リコーテクノシステムズ、別川製作所、伊藤忠テクノサイエンス、中部東芝エンジニアリング、富士通サポート&サービス、他        |
| <b>環境都市工学科</b> | 国土交通省、厚生労働省、石川県、金沢市、小松市、七尾市、日本道路公団、日本基礎技術、NIPPO コーポレーション、加州建設、大鉄工業、加賀建設、トスマク、中部地質、国土開発センター、日本海コンサルタント、クエストエンジニアリング、他         |
| <b>建築学科</b>    | 京都市、大阪市、小松市、七尾市、加賀市、野々市町、JR西日本、清水建設、大成建設、近藤工務店、表組、辻建設、NTTファシリティーズ、ニューハウス工業、大和ハウス、鈴木管工業、小松ウォール、大阪ガス、その他建築設計事務所、他              |

## 進学

高専卒業後、さらに高度な専門教育を受けるために大学や専攻科へ進学する学生が増えてきています。ほとんどの国公立大学では、高専や短大卒業生等を対象に3年次へ編入学する制度を設けています。また、編入学試験は、大学入試センター試験を受ける必要がなく、推薦入試制度もあるほか、各大学の試験日が異なる場合が多いので、高校3年卒業後大学1年に進学する場合に比べ、負担が軽く、機会が多いと言えるでしょう。

平成17年度は、卒業生192名のうち、進学者は74名(進学率約40%)となっています。

### 過去3年間の進学状況

| 大学等入学年度 | 平成16年度    |           |               |               |         | 平成17年度    |           |               |               |         | 平成18年度    |           |               |               |         | 計         |           |               |               |         |     |    |    |    |
|---------|-----------|-----------|---------------|---------------|---------|-----------|-----------|---------------|---------------|---------|-----------|-----------|---------------|---------------|---------|-----------|-----------|---------------|---------------|---------|-----|----|----|----|
| 学 科     | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 小 計 |    |    |    |
| 大学等名    | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 機 械 工 学 科 | 電 気 工 学 科 | 電 子 情 報 工 学 科 | 環 境 都 市 工 学 科 | 建 築 学 科 | 小 計 |    |    |    |
| 石川高専専攻科 | 3         | 5         | 8             | 6             | 5       | 27        | 5         | 3             | 10            | 8       | 5         | 31        | 3             | 4             | 6       | 6         | 6         | 25            | 11            | 12      | 24  | 20 | 16 | 83 |
| 金沢大     | 2         |           | 3             | 2             |         | 7         | 5         | 5             | 2             | 3       |           | 15        | 4             | 1             | 5       | 1         |           | 11            | 11            | 6       | 10  | 6  |    | 33 |
| 富山大     | 1         | 1         |               |               |         | 2         |           | 3             |               |         |           | 3         | 1             | 2             | 2       |           |           | 5             | 2             | 6       | 2   |    |    | 10 |
| 福井大     | 2         |           |               |               | 2       | 4         |           |               |               |         | 2         | 2         |               | 1             |         |           |           | 1             | 2             | 1       |     |    | 4  | 7  |
| 筑波大     |           |           |               |               |         |           |           |               |               |         |           |           |               |               | 2       |           |           | 2             |               |         | 2   |    |    | 2  |



|         |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 宇都宮大    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 1  | 2  |    | 1  |    |    | 1  | 2  |     |
| 千葉大     |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    | 2  | 2  |    |    |    |    | 3  | 3  |     |
| 東京大     |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |     |
| 東京農工大   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 1  |    |    | 1  |    |    | 1  |     |
| 東京工大    |    |    | 1  |    | 1  | 2  |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 1  |    |    | 2  |    | 1  | 3  |     |
| お茶の水女子大 |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 1  |     |
| 電気通信大   | 1  |    | 2  |    |    | 3  |    |    | 3  |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 5  |    |    | 6  |     |
| 新潟大     |    |    |    | 1  | 1  | 2  |    |    |    | 4  | 4  | 1  | 1  |    |    |    | 2  | 1  |    | 1  | 1  | 5  | 8  |     |
| 長岡技科大   |    | 1  |    | 4  |    | 5  | 4  | 1  | 1  | 1  |    | 7  | 1  | 2  |    | 2  |    | 5  | 5  | 4  | 1  | 7  | 17 |     |
| 山梨大     |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |     |
| 信州大     |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |     |
| 岐阜大     |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    | 2  | 2  |     |
| 名古屋大    |    | 1  |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 1  |     |
| 名古屋工大   |    |    | 1  |    |    | 1  |    | 2  |    |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    | 2  | 1  |    |    | 3  |     |
| 豊橋技科大   | 2  |    | 2  |    | 2  | 6  | 3  | 3  | 3  |    | 2  | 11 | 1  | 4  | 1  |    |    | 6  | 6  | 7  | 6  |    | 4  | 23  |
| 三重大     |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 2  | 3  |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    | 2  | 3   |
| 京都大     |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    | 2  | 1  | 1  |    |    | 1  | 3   |
| 大阪大     |    |    | 1  |    |    | 1  |    | 1  | 1  |    |    | 2  |    |    | 1  |    |    | 1  |    | 1  | 3  |    |    | 4   |
| 神戸大     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    | 2  |    |    | 1  | 1  |    | 2   |
| 九州大     |    | 1  | 1  |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    | 2   |
| 佐賀大     |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    | 1   |
| 愛知県立大   |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1   |
| 滋賀県立大   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    | 1  | 1   |
| 東京電機大   |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1   |
| 東京理科大   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    | 1  | 1   |
| 武蔵工業大   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    | 1  | 1   |
| 立命館大    | 1  |    |    | 2  |    | 3  |    |    | 1  | 2  |    | 3  |    |    | 1  | 1  |    | 2  | 1  |    | 2  | 5  |    | 8   |
| 大阪産業大   |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1   |
| 富山高専専攻科 |    | 1  |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    | 1   |
| その他     | 1  | 3  | 1  |    |    | 5  |    | 1  |    |    |    | 1  | 1  |    |    | 2  |    | 3  | 2  | 4  | 1  | 2  |    | 9   |
| 計       | 13 | 13 | 20 | 15 | 14 | 75 | 17 | 21 | 22 | 18 | 17 | 95 | 13 | 16 | 22 | 14 | 12 | 77 | 43 | 50 | 64 | 47 | 43 | 247 |

※この数字は合格者ではなく、実際の進学者の数です。

(出典：石川高専ウェブサイト)

資料 7-2-④-7 : 石川高専だよりに記載された進路状況

平成17年度進路状況

## 平成17年度進路状況

## ■就職・進学状況

| 学科等<br>区 分       | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子情報<br>工 学 科 | 環境都市<br>工 学 科 | 建築学科 | 専 攻 科 | 計     |
|------------------|-------|-------|---------------|---------------|------|-------|-------|
| 卒業・修了者数          | 43    | 35    | 39            | 39            | 36   | 28    | 220   |
| 就 職 者 数          | 29    | 19    | 17            | 23            | 23   | 23    | 134   |
| 進 学 者 数          | 12    | 16    | 22            | 12            | 12   | 4     | 78    |
| 各種学校等<br>入 学 者 数 | 1     | 0     | 0             | 2             | 0    | 0     | 3     |
| そ の 他            | 1     | 0     | 0             | 2             | 1    | 1     | 5     |
| 求人会社数            | 325   | 370   | 264           | 75            | 58   | 30    | 1,122 |
| 求人倍率             | 11.2  | 19.4  | 15.5          | 3.2           | 2.5  | 1.3   | 8.3   |

## ■地域別就職状況

| 学科等<br>地 域 | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子情報<br>工 学 科 | 環境都市<br>工 学 科 | 建築学科 | 専 攻 科 | 計   |
|------------|-------|-------|---------------|---------------|------|-------|-----|
| 石 川        | 14    | 11    | 5             | 11            | 16   | 14    | 71  |
| 富 山・福 井    | 3     | 3     | 2             | 1             | 1    |       | 10  |
| 東 北        |       |       |               | 1             |      |       | 1   |
| 関 東        | 6     | 3     | 6             | 7             | 2    | 5     | 29  |
| 甲 信 越      |       |       | 1             | 1             | 1    | 1     | 4   |
| 東 海        | 3     | 2     | 2             |               |      |       | 7   |
| 近 畿        | 2     |       | 1             | 2             | 3    | 3     | 11  |
| 四 国        |       |       |               |               |      |       |     |
| その他(国外)    | 1     |       |               |               |      |       | 1   |
| 計          | 29    | 19    | 17            | 23            | 23   | 23    | 134 |

## ■産業別就職状況

| 学科等<br>区 分      | 機械工学科          | 電気工学科 | 電子情報<br>工 学 科 | 環境都市<br>工 学 科 | 建築学科 | 専 攻 科 | 計   |    |
|-----------------|----------------|-------|---------------|---------------|------|-------|-----|----|
| 製<br>造<br>業     | 建 設            | 2     | 1             |               | 13   | 13    | 6   | 35 |
|                 | 食 品 等          | 2     | 1             |               |      |       |     | 3  |
|                 | 金属製品・<br>鉄鋼・非鉄 | 1     |               |               |      |       | 1   | 2  |
|                 | 印 刷 等          | 2     | 1             |               | 1    |       |     | 4  |
|                 | 一般機械           | 8     | 3             | 2             |      |       | 2   | 15 |
|                 | 電気機械           | 3     |               | 5             | 1    | 1     | 5   | 15 |
|                 | 電子機器           |       | 2             | 4             |      | 1     |     | 7  |
|                 | 輸送用機器          | 3     |               |               |      |       |     | 3  |
|                 | 精密機器           | 1     | 2             |               |      |       |     | 3  |
|                 | 化 学            | 3     | 1             | 1             |      |       | 1   | 6  |
| 卸売・小売業          |                |       |               | 2             | 2    |       | 4   |    |
| 運輸・通信・情報        |                | 2     | 4             |               | 2    | 4     | 12  |    |
| 電気・ガス・水道        |                | 4     |               |               | 1    | 1     | 6   |    |
| 不 動 産           |                |       |               |               | 2    |       | 2   |    |
| 各種技術<br>サ ー ビ ス | 4              | 2     | 1             | 4             |      | 2     | 13  |    |
| 公 務 員           |                |       |               | 2             | 1    | 1     | 4   |    |
| 計               | 29             | 19    | 17            | 23            | 23   | 23    | 134 |    |

23

(出典：石川高専だより)

資料 7-2-④-8 : 学校要覧に記載された進路状況

# 卒業生

GRADUATES

## 卒業生の進路状況

H.18.3.31 現在

| 区 分  | 機械工学科 |    |    | 電気工学科 |    |    | 電子情報工学科 |    |    | 環境都市工学科 |    |    | 建築学科 |    |    | 計   |     |     |
|------|-------|----|----|-------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|------|----|----|-----|-----|-----|
|      | 15    | 16 | 17 | 15    | 16 | 17 | 15      | 16 | 17 | 15      | 16 | 17 | 15   | 16 | 17 | 15  | 16  | 17  |
| 卒業生数 | 34    | 32 | 43 | 34    | 40 | 35 | 36      | 43 | 39 | 36      | 36 | 39 | 42   | 44 | 36 | 182 | 195 | 192 |
| 就職者数 | 21    | 15 | 29 | 21    | 19 | 19 | 16      | 20 | 17 | 20      | 18 | 23 | 27   | 23 | 23 | 105 | 95  | 111 |
| 進学者数 | 13    | 17 | 13 | 13    | 21 | 16 | 20      | 22 | 22 | 15      | 18 | 14 | 14   | 17 | 12 | 75  | 95  | 77  |
| その他  |       |    | 1  |       |    |    | 1       |    |    | 1       | 2  | 1  | 4    | 1  | 2  | 5   | 4   |     |

## 大学編入学等の状況

| 大 学 等 名    | 学 部 名  | 入 学 年 度 |    |    |
|------------|--------|---------|----|----|
|            |        | 16      | 17 | 18 |
| 石川工業高等専門学校 | 専攻科    | 27      | 31 | 25 |
| 金沢大学       | 工学部    | 7       | 14 | 10 |
| 金沢大学       | 理学部    |         | 1  | 1  |
| 富山大学       | 工学部    | 2       | 3  | 5  |
| 福井大学       | 工学部    | 4       | 2  | 1  |
| 新潟大学       | 工学部    | 2       | 4  | 2  |
| 東京大学       | 工学部    |         | 1  |    |
| 名古屋大学      | 工学部    | 1       |    |    |
| 京都大学       | 工学部    | 1       |    | 2  |
| 大阪大学       | 工学部    |         |    | 1  |
| 大阪大学       | 基礎工学部  | 1       | 2  |    |
| 九州大学       | 芸術工学部  | 2       |    |    |
| 東京工業大学     | 工学部    | 2       |    | 1  |
| 長岡技術科学大学   | 工学部    | 5       | 7  | 5  |
| 豊橋技術科学大学   | 工学部    | 6       | 11 | 6  |
| 筑波大学       | 第3学群   |         |    | 2  |
| 宇都宮大学      | 工学部    |         |    | 2  |
| 千葉大学       | 工学部    |         | 1  | 2  |
| 東京農工大学     | 工学部    |         |    | 1  |
| お茶の水女子大学   | 理学部    |         | 1  |    |
| 電気通信大学     | 電気通信学部 | 3       | 3  |    |
| 山梨大学       | 工学部    |         | 1  |    |
| 信州大学       | 工学部    | 1       |    |    |
| 岐阜大学       | 工学部    |         | 1  | 1  |
| 名古屋工業大学    | 工学部    | 1       | 2  |    |
| 三重大学       | 工学部    |         | 3  |    |
| 神戸大学       | 工学部    |         |    | 2  |
| 佐賀大学       | 理工学部   |         | 1  |    |
| 愛知県立大学     | 外国語学部  | 1       |    |    |
| 滋賀県立大学     | 環境科学部  |         |    | 1  |
| 東京電機大学     | 理工学部   |         | 1  |    |
| 東京理科大学     | 工学部    |         |    | 1  |
| 武蔵工業大学     | 工学部    |         |    | 1  |
| 立命館大学      | 理工学部   | 3       | 3  | 2  |
| 大阪産業大学     | 工学部    |         | 1  |    |
| 富山工業高等専門学校 | 専攻科    | 1       |    |    |
| その他        |        | 5       | 1  | 3  |
|            | 計      | 75      | 95 | 77 |



卒業証書・修了証書授与式

## 産業別就職状況

H.18.3.31 現在

| 産業別      | 学科         | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子情報工学科 | 環境都市工学科 | 建築学科 | 計   |
|----------|------------|-------|-------|---------|---------|------|-----|
|          |            |       |       |         |         |      |     |
| 製造業      | 建設業        | 2     | 1     |         | 13      | 13   | 29  |
|          | 食品等        | 2     | 1     |         |         |      | 3   |
|          | 金属製品・鉄鋼・非鉄 | 1     |       |         |         |      | 1   |
|          | 印刷等        | 2     | 1     |         | 1       |      | 4   |
|          | 一般機械       | 8     | 3     | 2       |         |      | 13  |
|          | 電気機器       | 3     |       | 5       | 1       | 1    | 10  |
|          | 電子機器       |       | 2     | 4       |         | 1    | 7   |
|          | 輸送用機器      | 3     |       |         |         |      | 3   |
|          | 精密機器       | 1     | 2     |         |         |      | 3   |
|          | 化学         | 3     | 1     | 1       |         |      | 5   |
| 卸売・小売業   |            |       |       | 2       | 2       | 4    |     |
| 運輸・通信・情報 |            | 2     | 4     |         | 2       | 8    |     |
| 電気・ガス・水道 |            | 4     |       |         | 1       | 5    |     |
| 不動産      |            |       |       |         | 2       | 2    |     |
| 各種技術サービス | 4          | 1     |       | 4       |         | 9    |     |
| 公務員      |            |       |       | 2       | 1       | 3    |     |
| その他      |            | 1     | 1     |         |         | 2    |     |
| 計        |            | 29    | 19    | 17      | 23      | 23   | 111 |

## 都道府県別就職状況（平成17年度）

| 所求<br>所在地<br>企業 | 石川<br>県 | 富山<br>県 | 福井<br>県 | 宮城<br>県 | 福島<br>県 | 茨城<br>県 | 埼玉<br>県 | 千葉<br>県 | 東京<br>都 | 神奈<br>川<br>県 | 新潟<br>県 | 山梨<br>県 | 長野<br>県 | 岐阜<br>県 | 静岡<br>県 | 愛知<br>県 | 京都<br>府 | 大阪<br>府 | 兵庫<br>県 | 和歌<br>山<br>県 | 岡山<br>県 | 広島<br>県 | 山口<br>県 | 愛媛<br>県 | その<br>他<br>外 | 計     |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------|---------|---------|---------|---------|--------------|-------|
| 求人企業            | 135     | 67      | 32      | 8       | 1       | 18      | 46      | 25      | 293     | 84           | 30      | 10      | 38      | 29      | 35      | 73      | 27      | 74      | 28      | 5            | 12      | 7       | 5       | 9       | 1            | 1,092 |
| 就職企業数           | 50      | 6       | 1       | 1       |         |         |         | 20      | 3       | 1            | 2       |         |         | 1       | 7       |         | 2       | 6       |         |              |         |         |         |         | 1            | 101   |
| 就職<br>人数        | 機械      | 14      | 3       |         |         |         |         | 5       | 1       |              |         |         |         |         | 3       |         | 1       | 1       |         |              |         |         |         |         | 1            | 29    |
|                 | 電気      | 11      | 3       |         |         |         |         | 2       |         |              |         |         |         | 1       | 2       |         |         |         |         |              |         |         |         |         |              | 19    |
|                 | 電子      | 5       | 1       | 1       |         |         |         | 4       | 2       |              |         | 1       |         |         | 2       |         |         | 1       |         |              |         |         |         |         |              | 17    |
|                 | 環境      | 11      | 1       |         | 1       |         |         |         | 7       |              |         |         | 1       |         |         |         |         |         | 2       |              |         |         |         |         |              | 23    |
|                 | 建築      | 16      | 1       |         |         |         |         |         | 2       |              | 1       |         |         |         |         |         |         |         | 1       | 2            |         |         |         |         |              | 23    |
| 計               | 57      | 9       | 1       | 1       |         |         |         | 20      | 3       | 1            | 2       |         | 2       | 1       | 7       |         | 2       | 6       |         |              |         |         |         |         | 1            | 111   |

(出典：学校要覧)

資料 7-2-④-9 : 再就職支援協定書

## 石川工業高等専門学校の卒業生の再就職支援に関する協定書

石川県（以下「甲」と称する。）と独立行政法人国立高等専門学校機構石川工業高等専門学校（以下「乙」と称する。）双方は、石川県の産業の発展のためには相互の密接な協力が不可欠であるとの認識に立ち、乙の卒業生にかかる再就職支援について、下記のとおり協定を締結する。

## 記

## （目的）

1. 甲と乙は、石川県の産業の発展のため、乙の卒業生にかかる石川県下における再就職支援活動について、相互に協力しあうものとする。

## （情報の提供）

2. 甲は、乙の卒業生が石川県の企業に再就職を希望しているときは、これを支援するため、甲が実施する石川県産業人材サポートデスクの持つ求人情報のほか、甲の持つネットワークを通じて、石川県内の企業にかかる求人情報を広く収集し、乙に提供するものとする。

## （技術講習等の実施）

3. 甲と乙は、再就職を希望する卒業生に対し、双方の施設を活用し技術講習、相談その他再就職のために必要な支援を行うものとする。

## （再就職支援窓口）

4. 甲と乙は、双方に再就職支援窓口を設けるものとし、甲にあっては商工労働部産業人材政策室が、乙にあっては再就職支援室がその任にあたる。

## （協定の期間）

5. この協定の有効期間は、協定締結の日から2年間とする。ただし、甲乙から異議の申し出がない限り、2年毎に自動更新されるものとする。

この協定書は2通作成し、署名の上、各1通を所持する。

平成19年1月26日

（甲）石川県商工労働部長

上肥淳一

（乙）独立行政法人国立高等専門学校機構  
石川工業高等専門学校長

金岡子嘉男

（出典：総務課保管資料）

資料 7-2-④-10：再就職支援協定について

### 石川工業高等専門学校の卒業生の再就職支援に関する協定の締結について

#### 1. 目的

本県の課題である県内企業の高度産業人材を確保するため、石川県と石川工業高等専門学校が連携し、高度な知識・技術を有する同校の卒業生の再就職を支援する協定を締結する。

#### 2. 協定の内容

石川県の産業人材確保のため、石川工業高等専門学校の卒業生の再就職支援について下記の内容の支援を行う。

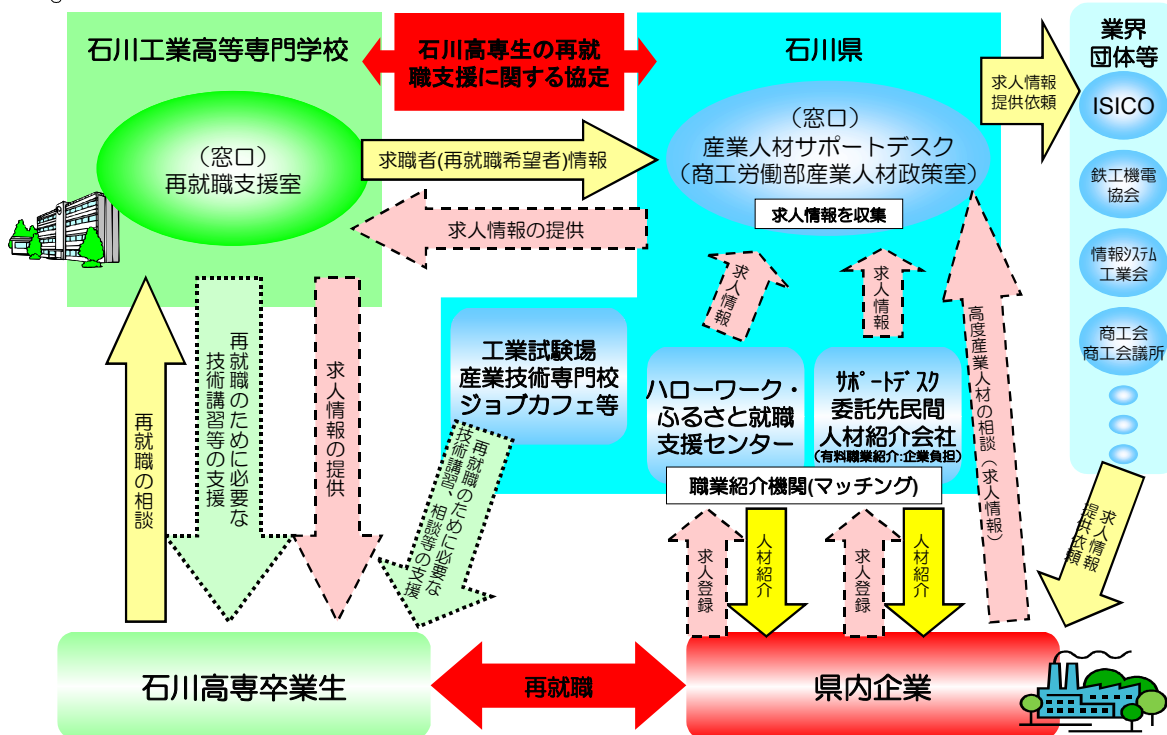
- ・ 県は、産業人材サポートデスクやふるさと就職支援センターのほか、県のネットワークを通じて県内企業の求人情報を広く収集し、石川高専に提供する。
- ・ 双方の施設を活用し、技術講習、相談その他再就職のために必要な支援を行う。
- ・ 双方に再就職支援窓口を設ける。

県：商工労働部産業人材政策室      石川高専：再就職支援室

- ・ 協定締結期間：2年間（自動更新）

#### <協定内容のイメージ>

石川県の産業発展に資するため、石川工業高等専門学校の卒業生の再就職について支援を行う。



(出典：総務課保管資料)

資料 7-2-④-11 : ウェブページに記載された再就職支援協定

The screenshot shows the website of Ishikawa National College of Technology. The main headline reads "石川県と協定締結 「卒業生の再就職を支援」" (Agreement signed with Ishikawa Prefecture to support graduates' re-employment). The article text states that the college and the prefecture signed an agreement on January 26th regarding re-employment support for graduates. It mentions that the agreement aims to support graduates by providing information and technical training, and that the college will utilize its facilities and equipment to provide necessary technical training opportunities. The agreement was signed in a ceremony at the college, attended by the college president and the prefectural labor and industry department head. The article also notes that the support project is highly valued by local companies and will start in the following month.

石川工業高等専門学校 - Mozilla Firefox  
 http://www.ishikawa-nct.ac.jp/

Ishikawa National College of Technology 〒929-0392石川県河北郡津幡町北中条タ1  
 Tel: 076-288-8000, FAX 076-288-8014  
 Kitacyujio, Tsubata, Kahoku-gun, Ishikawa, 929-0392 JAPAN

INDEX  
 Top page  
 学校案内  
 学科紹介  
 専攻科紹介  
 JABEE  
 学生生活  
 行事予定  
 入学案内  
 地域連携  
 施設案内  
 広報室より  
 情報公開  
 リンク集  
 全て開く全て閉じる

平成19年1月29日  
 石川工業高等専門学校

石川県と協定締結  
 「卒業生の再就職を支援」

本校と石川県は1月26日、「石川高専卒業生の再就職支援に関する協定」を締結しました。これは、県内における産業の振興と発展を目指し、県下における再就職支援活動について相互に協力し合うという内容のもので、求人情報提供と技術講習・相談等によるサポートが主な活動となります。

求人については、卒業生から本校に県内での再就職相談があった場合、本校窓口から県のサポートデスクへ依頼し、ふるさと就職支援センターや業界団体などを通じて収集された県内企業の情報について提供を受けるというもの。また、技術講習では、本校をはじめ、県の工業試験場や職業訓練校といった各種施設・設備を活用して、再就職時に必要となる技術の習得機会を広げ、優れた人材の県内定着を図るものです。

石川県庁で行われた調印式では、金岡千嘉男校長と土肥淳一県商工労働部長が協定書に署名して握手を交わし、今後の協力を約束しました。

今回の支援事業は、高度な専門技術を持った人材を求める県内企業からも大いに注目されており、本格始動は来月1日からです。本校における窓口は、新たに設置した「再就職支援室」が担当することとなります。

協定締結式  
 左から土肥商工労働部長、金岡校長

再就職支援室  
 左から金岡校長、前田副校長、松田学生主事(再就職支援室長)

javascript:youji(8);

(出典：石川高専ウェブサイト)

## 3) 学科としての活動

ガイダンスの実施と進路情報の蓄積・提供を行う。

毎年、学科ごとに第3学年の学級担任が地域の企業や大学等の見学会を計画・実施し、学生の進路選択を支援している(資料7-2-④-12)。第4学年では、県外遠方の企業等へ見学旅行(5日間)を行っている(資料7-2-④-13)。平成17年度からは、毎年1つの学科だけであるが、学生交流と国際性豊かな人材の育成ため海外への見学旅行を実施しており、平成18年度においては学術交流協定を締結している中国杭州職業技術学院を訪問した。このほか、学科によっては第1, 2学年にも工業展示会や企業などの見学を実施し、学生の進路決定への意識を啓発している。

進路情報としては、求人の一覧表(資料7-2-④-14)、採用試験・入学試験の受験情報等が学科ごとに作成・保管され、印刷物による掲示(資料7-2-④-15)やウェブページ(資料7-2-④-16)により学生の閲覧に供されている。

- 資料 7-2-④-12 : 合宿研修一覧表
- 資料 7-2-④-13 : 見学旅行見学先一覧表
- 資料 7-2-④-14 : 学生閲覧用求人先一覧表抜粋 (電子情報工学科)
- 資料 7-2-④-15 : 進路情報の掲示・閲覧 (電子情報工学科)
- 資料 7-2-④-16 : 進路情報のウェブページ (電子情報工学科)

資料7-2-④-12 : 合宿研修一覧表

## 3年生合宿研修(研修先一覧)

期間 : 平成17年11月10日(木)~11日(金)

| 学 科                                     | 研 修 先                                                                                                           |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機 械 工 学 科<br>[研修施設: 宿泊]<br>富山県黒部青少年の家   | ワシマイヤー株式会社(富山県高岡市)<br>株式会社日平トヤマ(富山県南砺市)<br>Y K K 株式会社黒部事業所(富山県黒部市)                                              |
| 電 気 工 学 科<br>[研修施設: 宿泊]<br>富山県二上青少年の家   | 富山新港火力発電所(富山県新湊市)<br>エネルギー科学館(富山市)<br>ハリタ金属株式会社(西砺波郡福岡町)                                                        |
| 電子情報工学科<br>[研修施設: 宿泊]<br>石川県立白山ろく少年自然の家 | 株式会社P F U(石川県かほく市)<br>株式会社N T T ドコモ松島ビル⇄金沢西都ビル<br>株式会社別川製作所(白山市)                                                |
| 環境都市工学科<br>[研修施設: 宿泊]<br>国立立山少年自然の家     | 相倉民族館(富山県南砺市)<br>立山カルデラ砂防博物館(富山県中新川郡)<br>称名滝, 資料館(富山県中新川郡)                                                      |
| 建 築 学 科<br>[研修施設: 宿泊]<br>松任青少年宿泊研修センター  | 金沢木材共同組合(金沢市)<br>バリアフリー体験住宅・時雨邸(金沢市)<br>山島台ニュータウン(白山市)<br>九谷焼美術館(大聖寺地方町)<br>北前船の里資料館(橋立町)<br>中谷宇吉郎雪の科学館(加賀市潮津町) |

(出典 : 学生課保管資料)



資料7-2-④-13：見学旅行見学先一覧表

| 学科・実施期間                                              | 見学先(住所)                                                                                                                                                                                    | 引率者                                             |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 機械工学科 41名<br>(内女子 1名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日)   | アイシン精機株式会社(愛知県刈谷市)<br>トヨタ自動車株式会社 トヨタ会館(愛知県豊田市)<br>ヤマザキマザック株式会社(岐阜県美濃加茂市)<br>三菱重工業株式会社名古屋誘導推進システム製作所(愛知県小牧市)<br>愛知製鋼株式会社(愛知県東海市)<br>産業技術記念館(愛知県名古屋市)<br>名古屋城(愛知県名古屋市)                       | 教授 鶴崎明<br>講師 堀純也                                |
| 電気工学科 41名<br>(内女子 7名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日)   | 産業技術総合研究所(茨城県つくば市)<br>筑波宇宙センター(茨城県つくば市)<br>高エネルギー加速器研究機構(茨城県つくば市)<br>富士通株式会社川崎工場(神奈川県川崎市)<br>三菱みなとみらい技術館(神奈川県横浜市)<br>ANA機体メンテナンスセンター(東京都大田区)<br>日本科学未来館(東京都江東区)<br>ソニーエクスプローラーサイエンス(東京都港区) | 助教授 徳井直樹<br>助手 東亮一                              |
| 電子情報工学科 37名<br>(内女子12名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日) | 日本テレコムネットワークオペレーションセンター(東京都渋谷区)<br>フジテレビジョン(東京都港区)<br>NTTドコモR&DWHARF(神奈川県横須賀市)<br>三菱みなとみらい技術館(神奈川県横浜市)<br>富士通株式会社川崎工場(神奈川県川崎市)<br>NHK放送センター(東京都渋谷区)<br>ソニーショールーム(東京都中央区)                   | 講師 長岡健一<br>助手 河村泰之                              |
| 環境都市工学科 36名<br>(内女子15名)<br>11月7日(火)～11日(土)<br>(4泊5日) | 中之島新線工事(大阪市北区)<br>道頓堀川整備事業(大阪市中央区)<br>大阪南港港湾工事<br>関西新空港(大阪市泉州市)<br>阪神高速道路大阪管理部管制センター(大阪市中央区)<br>阪神高速2号淀川左岸島屋工区(大阪市中央区)<br>明石海峡大橋, 鳴門大橋<br>神戸震災記念館(神戸市中央区)                                  | 教授 小泉徹<br>技術職員1名                                |
| 建築学科 41名<br>(内女子24名)<br>11月7日(火)～12日(日)<br>(5泊6日)    | 杭州職業技術学院, 六和塔, 西湖(中国 杭州市)<br>上海環球金融中心インフォメーションセンター(中国 上海市)<br>東方明珠テレビ塔, 豫園, 新天地( " )<br>上海科学技術館および芸術センター( " )<br>都市計画展示館, 上海博物館( " )<br>虎丘, 刺繍研究所, 寒山寺, 拙政園(中国 蘇州市)                        | 教授 金木健<br>教授 北田幸彦<br>助手 内田伸<br>助手 森原崇<br>事務職員2名 |

(出典：学生課保管資料)

資料7-2-④-14：学生閲覧用求人先一覧表抜粋（電子情報工学科）

| 平成19年度 求人一覧 |                          | 2007/5/18                                          |                                                               |
|-------------|--------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| No          | 求人企業                     | 勤務先                                                | 職種・職務内容                                                       |
| 1           | 沖通信システム(株)               | -                                                  | -                                                             |
| 2           | (株)KDDIテクニカルエンジニアリングサービス | 全国(札幌, 仙台, 東京, 小山, 長野, 金沢, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 他) | 電気通信設備の工事設計, 施工, 保守, 携帯基地局の設計, 同設備の工事設計, 施工, 保守               |
| 3           | 三菱電機システムサービス(株)          | 全国(中部(金沢支店), 大阪)                                   | -                                                             |
| 4           | 三谷産業(株)                  | 東京, 金沢, 他事業所                                       | SE/NE, システム営業ほか                                               |
| 5           | CTCテクノロジー(株)             | 東京, 大阪, 名古屋, 九州, ほか全国                              | カスタマエンジニア, テクニカルサポートエンジニア                                     |
| 6           | (株)明電舎                   | 東京, 大田(群馬), 沼津(静岡), 名古屋, 甲府, 大阪他                   | 技術系, メンテナンス系                                                  |
| 7           | (株)日立アドバンステジタル           | 本社・横浜地区, 茨城地区                                      | ソフトウェア, ハードウェア設計開発エンジニア, 機械・構造設計エンジニア, 品質保証                   |
| 8           | (株)コスモサミット               | 金沢, 東京                                             | システムエンジニア, セールスエンジニア                                          |
| 9           | ネクストウェア(株)               | 東京, 大阪, 名古屋地区(スタート時の勤務地は希望に沿う)                     | SE, プログラマ                                                     |
| 10          | ソニーイーエムシーエス(株)(長野テック)    | 長野テック(転勤の可能性有り)                                    | 電気回路設計, ソフトウェア設計, 機構筐体設計, 製造技術ほか                              |
| 11          | 江守商事(株)                  | 本社及び各事業所                                           | システムエンジニア                                                     |
| 12          | (株)日立プラントテクノロジー          | 本社, 各事業部および各支社                                     | 研究開発, 設計開発, 施工, 生産技術, 品質保証, システムエンジニア, セールスエンジニアなど            |
| 13          | (株)トヨタコミュニケーションシステム      | 愛知県名古屋, 伏見事業所, 葵分室, 名駅分室, 愛知県豊田市                   | システムエンジニア                                                     |
| 14          | (株)タマデック                 | 愛知, 東京                                             | 電気・電子設計, 三次元CAD                                               |
| 15          | (株)カネカ                   | 全事業所                                               | 製造技術者(三交替勤務), プラントエンジニア, システムエンジニア                            |
| 16          | (株)ティー・エス・ジーTSG          | 本社                                                 | 電気設計, 機構設計及びソフト開発                                             |
| 17          | (株)ホギメディカル               | 本社及び全国                                             | コンサルティング営業                                                    |
| 18          | セコム(株)                   | セキュリティスタッフ(関西, 関東, 中部など), IT系スタッフ(東京, 大阪, 名古屋)     | セキュリティスタッフ, IT系スタッフ                                           |
| 19          | ムラテック販売(株)               | 東京, 大阪, 名古屋など全国各拠点                                 | フィールドエンジニア(ファクシミリ, OA機器の保守メンテナンス), サービスインストラク                 |
| 20          | ムラテックC.C.S               | 愛知, 京都, 兵庫, 石川, 広島ほか                               | 工事施工管理及びアフターサービス, コンサルティング業務                                  |
| 21          | (株)JALアビテック              | 本社工場, 成田事業所, 羽田事業所                                 | 航空機電気・機械部品整備, 航空機機体装備部品整備                                     |
| 22          | (株)ナナオ                   | 本社, 東京, 大阪, 名古屋, 仙台, 福岡, 海外                        | 開発エンジニア, 生産エンジニア, システムエンジニアほか                                 |
| 23          | ソーバル(株)                  | 東京都大田区, 神奈川県川崎市ほか                                  | ソフトウェアエンジニア, ハードウェアエンジニア, オフィススタッフ(一般事務では無い評価, 検証, エンジニアサポート) |
| 24          | (株)エステンイン京都              | 京都                                                 | ソフトウェア開発, 研究, 品質管理                                            |
| 25          | TMCシステム                  | 川崎市                                                | 電子回路エンジニア, ソフトウェアプログラマー                                       |
| 26          | CJ                       | 横浜及び東京, 札幌, 名古屋, 大阪                                | システムエンジニア                                                     |
| 27          | 日本精工(株)                  | -                                                  | 技術職(生産管理, 製品開発・設計, 製造技術, 生産技術ほか)                              |
| 28          | (株)科学情報システム              | 横浜, 東京, 大阪                                         | システムエンジニア・プログラマー                                              |
| 29          | NECインフロンティア              | 東京, 高津, 全国                                         | システムエンジニア, 保守業務など                                             |
| 30          | (株)リアサーキット               | 石川, 東京, 神奈川                                        | 技術職(組込系プログラマー, ハードウェア担当)                                      |
| 31          | (株)日立エンジニアリング・アンド・サービス   | 日立市, ひたちなか市, 東京, 全国                                | プラントエンジニア, システムエンジニア, フィールドエンジニアほか                            |
| 32          | セイコーインスツル(株)             | 全国                                                 | 研究, 技術開発, 機構設計, 回路設計, 生産技術, 技術営業, 品質管理など                      |
| 33          | 戸田テクノロジーサービス(株)          | 全国(希望考慮)                                           | エレクトロニクス系エンジニア(自動車・OA機器製品等の設計・評価)                             |
| 34          | DTS                      | 首都圏                                                | アプリケーションエンジニア, 基盤エンジニア                                        |
| 35          | (株)シークス                  | 愛知, 静岡, 福岡                                         | 機械・電気・電子・システム設計技術者, CADオペレータ                                  |
| 36          | 池上通信機(株)                 | 大田区, 川崎市, 藤沢市, 宇都宮市                                | 研究・開発, 設計, 品質保証                                               |
| 37          | 三機工業(株)                  | 本社, 各支店他事業所                                        | 企画・設計・施工管理・研究開発・生産管理, 各種エンジニアリング                              |
| 38          | (株)ケーヒン                  | 各開発センター・工場(宮城県角田市, 栃木県高根沢町, 神奈川県川崎市ほか)             | 技術職(研究開発, 生産技術, 品質管理ほか)                                       |
| 39          | (株)ブロードリーフ               | システム開発(東京, 札幌, 福岡), コンサルティング営業(全国)                 | システム開発, コンサルティング営業                                            |
| 40          | 住友大阪セメント(株)              | 全国, 海外事業所                                          | セメント生産部門                                                      |
| 41          | ユニチカグラスファイバー(株)          | 京都工場, 垂井工場                                         | 生産管理, 生産技術, 技術開発, 商品開発, 加工開発など                                |
| 42          | ユニチカ(株)                  | 本社, 工場, 研究所など各事業所                                  | 生産管理, 生産技術, 商品開発, 設計, 設備技術, 環境関連など                            |
| 43          | (株)NTTデータフロンティア          | 品川, 豊洲ほか東京23区内                                     | システムエンジニア                                                     |
| 44          | (株)鷺宮製作所                 | 狭山市, 所沢市                                           | 生産技術, 生産管理, 開発技術                                              |
| 45          | デンソーテクノ(株)               | 技術センター(愛知県大府市), (株)デンソー内(愛知県刈谷市・幸田他)               | ソフトウェア開発, 電子設計・IC設計・機器設計                                      |
| 46          | キャデム(株)                  | 首都圏, 中部地区, 関西地区ほか                                  | システムエンジニア・プログラマー, CAD/CAMシステム設計開発エンジニアほか                      |
| 47          | NOK(株)                   | 全国                                                 | 製品設計, 研究, 開発, 生産技術, 品質管理, 技術営業, システムほか                        |
| 48          | (株)マイスターエンジニアリング         | 関西, 東海, 北九州, 首都圏ほか                                 | 機械設計, 電子・電気設計, 装置フィールドエンジニア, 建築設備メンテナンス                       |
| 49          | (株)エム・ディ・エス              | -                                                  | ソフトウェア開発, 制御設計技術者                                             |
| 50          | (株)アルバック                 | 茅ヶ崎, 裾野, 愛知, 東京, 千葉, 筑波                            | 電気設計, 技術, 製造・検査, プロセス開発ほか                                     |
| 51          | アルプス電気(株)                | 全国                                                 | 製品開発, 生産設計, 製造技術, 自動機設計, 製造, システム開発など                         |
| 52          | (株)ミクシィ                  | -                                                  | エンジニア職, 総合職                                                   |
| 53          | 三菱自動車エンジニアリング(株)         | 愛知県岡崎市, 京都府京都市, 岡山県倉敷市ほか                           | 開発設計, 試験, 生産技術, ITなど                                          |

(出典：電子情報工学科保管資料)

資料7-2-④-15 : 進路情報の掲示・閲覧 (電子情報工学科)



(a) 求人情報の掲示版



(b) 閲覧用の求人パンフレット収容トレイ、ファイル(一部進学情報有り)

(出典：電子情報工学科進路情報揭示・閲覧場所)

資料7-2-④-16：進路情報のウェブページ（電子情報工学科）

## 電子情報工学科(学内専用)

| 就職情報                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 進学情報                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>📄 <a href="#">今年度の求人ページ</a>NEW</li> <li>◆ 就職先一覧</li> <li>📄 <a href="#">平成18年度就職先一覧(平成19年度入社)</a>NEW</li> <li>📄 <a href="#">平成17年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成16年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成15年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成14年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成13年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成12年度就職先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成11年度就職先一覧</a></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 過去の進学先一覧</li> <li>📄 <a href="#">平成18年度進学先一覧</a>NEW</li> <li>📄 <a href="#">平成17年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成16年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成15年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成14年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成13年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成12年度進学先一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">過去5年間の進学先一覧</a>NEW</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 求人一覧</li> <li>📄 <a href="#">平成18年度求人一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成17年度求人一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成16年度求人一覧</a></li> <li>📄 <a href="#">平成15年度求人一覧</a></li> </ul>                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

(出典：電子情報工学科ウェブサイト)

#### 4) 進路担当教員の活動

第4学年の春季休業中に学生、保護者、学科主任、第5学年学級担任が面談を行い、進路相談と就職先、進学先の希望を調査している（資料 7-2-④-17）。学科主任は企業からの求人者と面談し、学生に就職先に関する情報の提供・説明を行う。第5学年学級担任は大学などの学生募集要項や過去の進学先等の情報を学生に提供し、学生の進学先決定を助ける。最終的な進路の決定・受験は、個々の学生の能力や性格等を充分考慮し、学生に合った進路を勧めるため、学生個人との面談にはどの進路担当教員も多くの時間を割いている（資料 7-2-④-18）。学生が進路を決めたら、就職・進学の応募書類作成と面接試験の指導を行う。

このほか、第1～4学年の学級担任は、必要に応じて、特別活動の時間に進路指導を行ったり、7月に行われる保護者懇談会の際に進路相談に応じたりしている。また、進路担当教員以外の教員も、学生の求めに対して快く進路相談に応じている。

- 資料 7-2-④-17：4者面談の開催
- 資料 7-2-④-18：学級担任活動報告書例



## 資料 7-2-④-17：4者面談の開催

## 平成18年度 4者面談開催日

| 学 科 | 機械工学科               | 電気工学科                            | 電子情報工学科              | 環境都市工学科                         | 建築学科                            |
|-----|---------------------|----------------------------------|----------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 開催日 | 3月31日(土)<br>4月1日(日) | 3月10日(土)<br>3月11日(日)<br>3月12日(月) | 3月17日(土)<br>3月18日(日) | 3月3日(土)<br>3月10日(土)<br>3月11日(土) | 2月24日(土)<br>3月3日(土)<br>3月10日(土) |

## 保護者への通知文書（電子情報工学科）

平成19年 2月 15日

電子情報工学科 4年 保護者 各位

平成19年度電子情報工学科主任  
金寺 登  
平成19年度5年生学級担任  
長岡 健一

## 4者懇談会個別面談の開催について

拝啓 保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、ご子息におかれましては5年生への進級、進路の決定など大変重要な時期にさしかかってきました。そこでこれらのことにつきまして本人、保護者の皆様と電子情報工学科主任および学級担任との間で下記のように懇談会を開催したいと思っております。

年度末の時期に大変お忙しいことと存じますが、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

敬具

## 記

日時： 3月17日(土)・18日(日) いずれも9時～17時

会場： 石川工業高等専門学校 電子情報工学科棟(5号館)  
2階 会議室

出欠： 学生本人を通じ、学級担任にご連絡願います。  
又は xxxxxxx@ishikawa-nct.ac.jp 宛メールでお知らせください。

(出典：学生課保管資料)

資料 7-2-④-18 : 学級担任活動報告書例

## 学級担任の活動状況報告書 (2) 個別指導等

| 年度          | 学年  | 学科 | 担任名                                                                                                                                                                                                               | 教務記入 |
|-------------|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2006        | 5   | C  | 〇〇〇〇                                                                                                                                                                                                              |      |
| 開始時間        | 時間  | 対象 | 指導内容                                                                                                                                                                                                              | 備考   |
| 8/17/9:00   | 4   | 2  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>公務員試験用模擬試験の問題を作成       |      |
| 8/18/10:00  | 2   | 2  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>模擬試験の実施                |      |
| 9/6/13:00   | 2   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input checked="" type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>高専大会報告会への参加指導          |      |
| 9/5/10:00   | 0.2 | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>学生の進路の迷いについて父兄と相談      |      |
| 9/7/10:00   | 1   | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>学生の進路の迷いについて学生本人と話しあう  |      |
| 9/13/9:30   | 0.5 | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>学生の進路の迷いについて母親と電話で話し合う |      |
| 9/13/11:00  | 1   | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>学生の進路の迷いについて本人と話し合う    |      |
| 9/26/15:00  | 1   | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>進路について学生と母親と一緒に話し合う    |      |
| 10/18/10:00 | 3   | 20 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input checked="" type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>球技大会での学生の応援            |      |
| 11/15/15:00 | 2   | 25 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>学生と共にマナー講習会に参加         |      |
| 12/17/13:00 | 3   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒業研究中間発表のプログラム作成       |      |
| 12/18/15:00 | 2   | 67 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒業研究中間発表の司会            |      |
| 1/12/10:00  | 2   | 15 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>クラスの学生の父親の葬儀に参列        |      |
| 2/15/10:00  | 3   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒研発表のプログラム作成           |      |
| 2/22/13:00  | 4   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒研発表の司会                |      |
| 2/23/13:00  | 4   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒研発表の司会                |      |
| 2/26/10:00  | 3   | 27 | <input type="checkbox"/> 成績 <input type="checkbox"/> 進路 <input checked="" type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> その他<br>卒研発表の成績整理              |      |
| 2/27/12:00  | 1   | 1  | <input type="checkbox"/> 成績 <input checked="" type="checkbox"/> 進路 <input type="checkbox"/> 教育環境 <input type="checkbox"/> 課外活動 <input type="checkbox"/> 生活<br>進路について父兄、学生と話しあう                                    |      |

- ・ 学生の勉学意欲を増進する指導や学生の要望に対する指導を行った場合、記入してください。  
(必要がなければ指導内容は記入しなくても構いません。)
- ・ 指導内容を報告した場合は報告先を備考欄に記載してください。
- ・ 定期試験の成績提出時に教務係へ提出してください。
- ・ 学級からの要望の場合は、学生氏名欄にクラスと記入してください。
- ・ 個人的な相談等で氏名の記入が必要な場合は出席番号で (no. 18) のように記入してください。

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

低学年時から企業や大学の見学会、講演会などにより進路に関するガイダンスを実施している。学生は整理された進路資料を随時閲覧できる。保護者とは懇談会等を通じて、緊密に連携を図っている。進路の決定に際しては、進路担当教員による学生とのきめ細かな面談指導が行われている。卒業生に対する再就職支援について本校と石川県が協定を締結し、特色のある活動を行っている。

以上のことから、進路指導を行う体制が整備され機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 補充講義時間として比較的自由に利用できるように正規カリキュラムに組み込まれた「特別講義」が設定されている。
- ・ 第3学年や専攻科入学時期など時宜を得た各種ガイダンスが整備され、実施されている。
- ・ 定期試験時期における自学自習推進策の一つとして、「朝の学習室」を開設している。
- ・ 学生寮で学習室体制が整備され、低学年生の自学自習を支援している。
- ・ 生活協同組合があり、食堂・売店の経営、教科書販売などで学生生活をサポートしている。
- ・ 卒業生に対する再就職支援について本校と石川県が協定を締結し、特色のある活動を行っている。

(改善を要する点)

- ・ 今後は、障害者のある学生を受け入れる場合に備えて、スロープ、エレベータ、トイレなどの施設・設備を充実する必要がある。

## (3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上で、各教員のオフィスアワーの設定、「特別講義」として補充講義を行うなどの相談・助言体制が整備され、機能している。さらに、自主的学習を進めるための支援施設も十分に整備され、有効に活用されている。また、学習支援については、ホームルームなどを通じた日常的な指導や授業アンケート等によって、学生のニーズを把握しながら、常に改善に努めている。

TOEICに代表されるような資格試験や検定試験のための支援体制が整備され、機能している。

現在の本校における特別な学習支援が必要な者である留学生および編入学生については、それぞれチューター制度や特別なカリキュラムの編成および入学前の登校日の設定など、学習支援体制が整備され機能している。

学生の課外活動については、その自主性を尊重しつつ、物心両面からなる指導および支援体制が整備され、機能している。

生活に関わる指導・相談・助言には、多くの教職員が整備された体制の下で取り組んでいる。経済面に関わる相談・助言も、学級担任・補導委員・学生課職員が連携して取り組んでいる。

留学生に対しては、教員や学生チューターによる生活支援・指導体制が整えられ、居住する学生寮には留学生に配慮した設備も整備されている。また、障害のある学生のための施設・設備が一部校舎に設置されており、必要があれば校内全域に設置する用意がある。

学生寮の整備状況は、男子寮、女子寮とも通学困難な入寮希望者全員を収容できる定員を備えている。居室、自習室、談話室、学習室などにより、学生の生活や勉学の支援もなされている。また、寮務委員や当直教職員による日常の安全管理、健康管理、厚生補導が行われている。

進路指導については、低学年時から企業や大学の見学会、講演会などにより進路に関するガイダンスを実施している。学生は整理された進路資料を随時閲覧できる。保護者とは懇談会等を通じて、緊密に連携を図っている。進路の決定に際しては、進路担当教員による学生とのきめ細かな面談指導が行われている。卒業生に対する再就職支援について本校と石川県が協定を締結し、特色のある活動を行っている。



## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

#### 1) 設置基準に対する施設整備状況

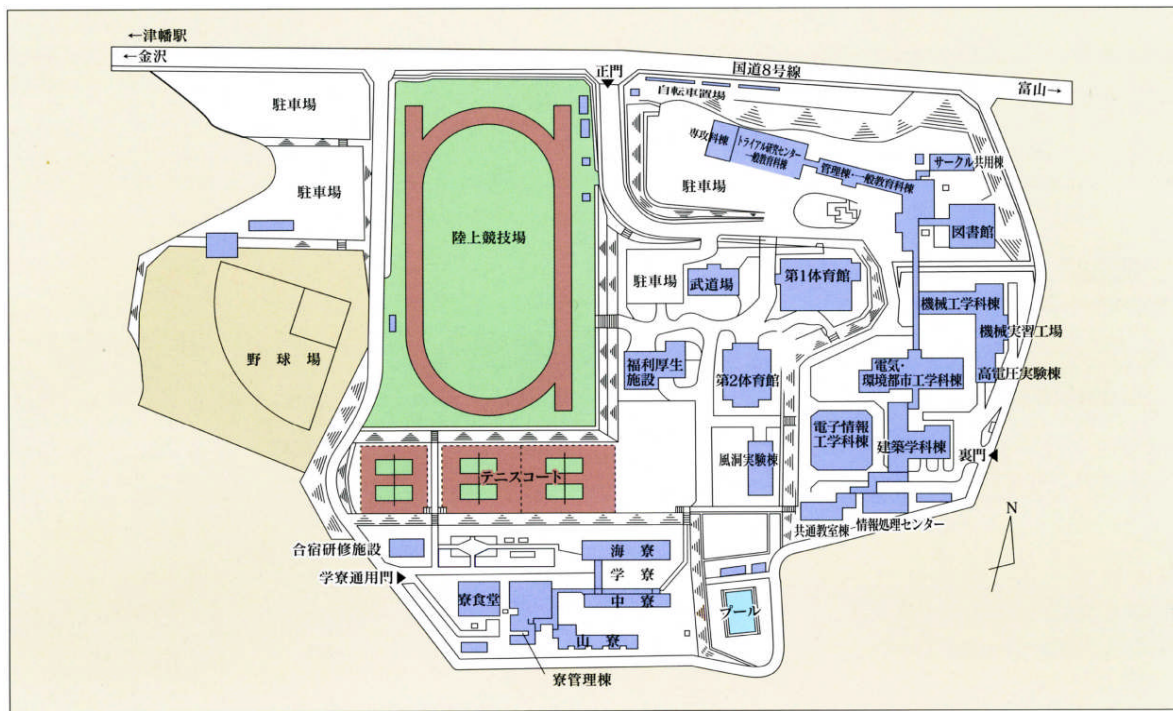
本校の配置図、土地・建物面積の概況を示す。敷地総面積は124,175 m<sup>2</sup>、建物総面積は30,730 m<sup>2</sup>（必要面積は 31,198 m<sup>2</sup>）であり、教育研究を行う環境は十分に整備されている。本校の主要な施設は管理棟・一般教育科棟、機械工学科棟、電気・環境都市工学科棟、建築学科棟、電子情報工学科棟、共通教室棟、専攻科棟、トライアルセンター・一般教育科棟（低学年棟）、情報処理センター、機械実習工場、高電圧実験棟、図書館、風洞実験棟、サークル共用棟、合宿研修施設、福利施設棟、第1・2体育館、武道場、学寮その他があり、屋外施設として陸上競技場、野球場、テニスコート、プールがあり、設置基準に謳われている必要な施設が設置されている。各施設の教室、実験室、研究室等の配置および各施設の収容人員を資料で示す（資料8-1-①-1～4）。

校舎等については平成13年度以降耐震補強および教室の狭隘化解消等を目的として改修工事を実施した。その結果、教室の狭隘化解消のみならず、すべての教室・研究室等に冷暖房設備、情報コンセント・アクセスポイント、液晶プロジェクター、スクリーン等の設置がなされ、学習環境の改善が図られるとともに、パソコンを利用した講義が実施されている（資料8-1-①-5）。

また、これらの施設・設備を維持し有効に活用するとともに、教育環境の向上を目的とした保守や整備・点検も行われている。

- 資料8-1-①-1：本校の配置図
- 資料8-1-①-2：本校の土地面積
- 資料8-1-①-3：本校の建物面積
- 資料8-1-①-4：各施設の収容人員
- 資料8-1-①-5：校舎等の設備

資料8-1-①-1：本校の配置図



(出典：学校要覧)

資料8-1-①-2：本校の土地面積

| 土地        |                       |
|-----------|-----------------------|
| 区分        | 面積                    |
| 校舎敷地      | 50,083 m <sup>2</sup> |
| 学寮（寄宿舍）敷地 | 10,981                |
| 運動場敷地     | 37,456                |
| 横浜宿舍敷地    | 1,869                 |
| 職員会館敷地    | 370                   |
| その他       | 23,416                |
| 計         | 124,175               |

(出典：学校要覧)

資料8-1-①-3：本校の建物面積

## 建物

| 区分          | 面積                    | 区分     | 面積                 | 区分      | 面積                   |
|-------------|-----------------------|--------|--------------------|---------|----------------------|
| 校舎          | 16,854 m <sup>2</sup> | 合宿研修施設 | 220 m <sup>2</sup> | 学寮（寄宿舍） | 4,638 m <sup>2</sup> |
| 機械実習工場      | 794                   | 福利施設   | 712                | 物品庫     | 63                   |
| 高電圧実験棟      | 292                   | 第1体育館  | 1,239              | 横浜宿舍    | 660                  |
| 図書館         | 1,584                 | 第2体育館  | 894                | 職員会館    | 205                  |
| 情報処理センター    | 299                   | 武道場    | 331                | その他     | 647                  |
| トライアル研究センター | 631                   | 体育器具庫  | 171                |         |                      |
| 風洞実験棟       | 171                   | プール附属棟 | 74                 |         |                      |
| サークル共用棟     | 240                   | シャワー室等 | 11                 | 合計      | 30,730               |

(出典：学校要覧)

資料8-1-①-4：各施設の収容人員

## 各施設の収容人員

| 施設名称           | 面積 (m <sup>2</sup> ) | 収容人員  | 備 考        |
|----------------|----------------------|-------|------------|
| 教室 (25室)       | 1,897                | 1,000 |            |
| 合併教室           | 113                  | 86    |            |
| 語学演習室          | 85                   | 46    |            |
| CAD演習室         | 40                   | 10    |            |
| デザイン演習室        | 161                  | 42    |            |
| 情報処理演習室 (4号館)  | 145                  | 45    |            |
| 情報処理演習室 (5号館)  | 105                  | 46    |            |
| 講義室 (専攻科)      | 130                  | 60    |            |
| 基礎情報教育演習室      | 80                   | 42    |            |
| ゼミ室 (専攻科)      | 80                   | 40    |            |
| 製図室            | 173                  | 50    |            |
| 演習室 (情報処理センター) | 126                  | 46    |            |
| 視聴覚教室          | 180                  | 204   |            |
| 閲覧室 (図書館)      | 279                  | 94    | キャレル14含む   |
| 福利施設食堂         | 179                  | 144   |            |
| 学生寮            | 4,638                | 252   | 男子186、女子66 |

(出典：総務課保管資料)

資料8-1-①-5 : 校舎等の設備

| 更新年月日        | 品目                    | 学科等         | 金額 (千円) |
|--------------|-----------------------|-------------|---------|
| 2000. 6. 30  | ガス濃度測定装置              | 機械工学科       | 1,470   |
| 2000. 7. 31  | スペクトラムアナライザー          | 電気工学科       | 1,500   |
| 2000. 10. 3  | 乗用自動車                 | 庶務課         | 2,350   |
| 2000. 10. 6  | EMI測定装置               | 電気工学科       | 1,276   |
| 2000. 10. 25 | 電界波形観測装置              | 電気工学科       | 2,520   |
| 2001. 3. 5   | ロボット                  | 専攻科         | 1,134   |
| 2001. 3. 13  | 超音波非破壊試験機             | 環境都市工学科     | 1,344   |
| 2001. 3. 14  | 卓上試験機万能試験機            | 専攻科         | 1,300   |
| 2001. 3. 14  | 動弾性係数測定器              | 環境都市工学科     | 1,596   |
| 2001. 3. 16  | 加工機                   | 専攻科         | 1,418   |
| 2001. 3. 19  | 3相安定化交流電源装置           | 専攻科         | 2,131   |
| 2001. 3. 23  | 電波試験機                 | 電子情報工学科     | 2,199   |
| 2001. 3. 27  | 円筒研削盤                 | 実習工場        | 6,867   |
| 2001. 3. 27  | バスケットボール板             | 学生課         | 2,861   |
| 2001. 3. 27  | ワークステーション             | トライアル研究センター | 1,080   |
| 2001. 3. 31  | 行政文書管理ファイル            | 共通          | 3,990   |
| 2001. 11. 8  | CAE・制御流体工学実験システム      | 機械工学科       | 33,080  |
| 2002. 3. 25  | 呼吸代謝測定システム            | 一般教育科       | 3,885   |
| 2002. 3. 25  | 図書館業務用電子計算機システム       | 図書館         | 5,150   |
| 2002. 3. 26  | 遮音ユニット                | 専攻科         | 1,007   |
| 2002. 3. 26  | 排風機                   | 専攻科         | 1,304   |
| 2002. 3. 29  | NCフライス盤               | 実習工場        | 7,476   |
| 2002. 3. 29  | ギガビットイーサネット及びVLANシステム | 共通          | 47,250  |
| 2002. 4. 14  | 風車運転制御装置              | 機械工学科       | 1,827   |
| 2003. 1. 10  | 分析計                   | 建築学科        | 1,374   |
| 2003. 1. 21  | 乗用自動車                 | 庶務課         | 1,452   |
| 2003. 3. 28  | モータ制御実習装置             | 電気工学科       | 1,575   |
| 2003. 9. 24  | 乗用自動車                 | 庶務課         | 2,369   |
| 2004. 1. 30  | 排風機                   | 一般教育科       | 1,489   |
| 2004. 1. 30  | 排風機                   | 環境都市工学科     | 1,489   |
| 2004. 1. 30  | 排風機                   | 電気工学科       | 1,393   |
| 2004. 8. 19  | 万能試験機                 | 機械工学科       | 1,799   |
| 2005. 3. 24  | 語学演習装置                | 情報処理センター    | 5,460   |
| 2005. 3. 31  | 監視カメラ装置               | 学生課         | 1,586   |
| 2005. 3. 31  | スチームコンベクションオープン       | 学生課         | 1,333   |
| 2005. 12. 12 | 倒立振り制御実験装置            | 電気工学科       | 1,995   |
| 2006. 2. 28  | 自動一軸C B R試験装置         | 環境都市工学科     | 2,709   |
| 2006. 3. 1   | 内燃機関性能総合試験装置 (リース)    | 機械工学科       | 7,550   |
| 2006. 9. 14  | 加工機                   | トライアル研究センター | 2,467   |
| 2006. 9. 22  | 小型FWDシステム             | 環境都市工学科     | 1,285   |

(出典：総務課保管資料)

## 2) 施設の学習活動への活用状況

授業については基本的には固定教室であり、低学年の教室はトライアル研究センター・一般教育科棟に、高学年は各専門学科棟に配置され、その利用率は高い。授業によっては視聴覚教室、合併教室、語学演習室、その他の特別教室が使われている（資料 8-1-①-6）。各特別教室は授業を中心としてよく利用されている。また、講演会あるいは課外活動、公開講座等などにも利用されている。各学科棟の主要設備（資料 8-1-①-7）、ならびに福利厚生施設の概略を示す（資料 8-1-①-8）。

- 資料 8-1-①-6：特別教室の利用状況
- 資料 8-1-①-7：各学科等の主要な実験設備
- 資料 8-1-①-8：福利厚生施設利用案内

資料 8-1-①-6：特別教室の利用状況

| 特別教室の利用状況           |   |           |           |      |              |   |   |   |   |           |                |     |
|---------------------|---|-----------|-----------|------|--------------|---|---|---|---|-----------|----------------|-----|
| 棟名称                 | 階 | 室名        | 面積<br>(㎡) | 主用途  | カリキュラム等使用コマ数 |   |   |   |   | 合計<br>コマ数 | 使用<br>率<br>(%) | 備 考 |
|                     |   |           |           |      | 月            | 火 | 水 | 木 | 金 |           |                |     |
| 一般教育<br>科棟（1<br>号館） | 3 | 合併教室      | 113       | 講義   | 2            | 3 | 3 | 1 |   | 9         | 45             |     |
|                     |   |           |           |      | 2            | 2 | 3 | 1 | 1 | 9         |                |     |
|                     | 4 | 語学演習室     | 85        | 演習   | 2            | 2 | 3 |   |   | 7         | 33             |     |
|                     |   |           |           |      |              | 2 | 2 |   | 2 | 6         |                |     |
| 機械工学<br>科棟          | 4 | CAD演習室    | 40        | 演習   | 2            |   | 3 | 2 |   | 7         | 40             |     |
|                     |   |           |           |      | 3            | 1 | 1 | 3 | 1 | 9         |                |     |
| 建築学科<br>棟           | 2 | デザイン演習室   | 161       | 演習   |              | 2 | 3 | 1 |   | 6         | 35             |     |
|                     |   |           |           |      | 2            | 2 | 3 | 1 |   | 8         |                |     |
|                     | 2 | 情報処理演習室   | 145       | 演習   | 3            | 4 | 3 | 4 | 4 | 18        | 85             |     |
|                     |   |           |           |      | 3            | 3 | 2 | 4 | 4 | 16        |                |     |
| 電子情報<br>工学科棟        | 4 | 情報処理演習室   | 105       | 実験実習 | 5            | 5 | 5 | 5 | 5 | 25        | 103            |     |
|                     |   |           |           |      | 3            | 3 | 3 | 4 | 3 | 16        |                |     |
| 専攻科棟                | 2 | 講義室       | 130       | 講義   | 2            |   | 1 | 1 | 3 | 7         | 40             |     |
|                     |   |           |           |      | 2            | 2 | 1 | 2 | 2 | 9         |                |     |
|                     | 2 | 基礎情報教育演習室 | 80        | 演習   |              |   | 2 | 4 |   | 6         | 38             |     |
|                     |   |           |           |      | 2            | 3 | 2 | 2 | 9 |           |                |     |
|                     | 2 | ゼミ室       | 80        | 演習   | 2            | 3 | 2 | 3 | 3 | 13        | 53             |     |
|                     |   |           |           |      | 1            | 2 | 1 | 2 | 2 | 8         |                |     |
| 共通教室棟               | 3 | 製図室       | 173       | 実験実習 | 1            | 1 |   | 1 | 2 | 5         | 20             |     |
|                     |   |           |           |      |              | 1 |   | 1 | 1 | 3         |                |     |
| 情報処理<br>センター        | 3 | 演習室       | 126       | 演習   | 5            | 5 | 5 | 5 | 5 | 25        | 103            |     |
|                     |   |           |           |      | 3            | 4 | 3 | 3 | 3 | 16        |                |     |
| 図書館                 | 1 | 視聴覚教室     | 180       | 講義   | 2            | 1 | 2 | 2 |   | 7         | 35             |     |
|                     |   |           |           |      | 2            | 1 | 2 | 1 | 1 | 7         |                |     |

(カリキュラム等使用コマ数の上段は平成18年度前期、下段は平成17年度後期)

(出典：総務課保管資料)

資料 8-1-①-7 : 各学科棟の主要な実験設備

| 更新年月日       | 品目             | 学科等         | 金額 (千円) |
|-------------|----------------|-------------|---------|
| 1999. 8. 9  | 顕微鏡            | 一般教育科       | 2,160   |
| 2002. 3. 25 | 呼吸代謝測定システム     | 一般教育科       | 3,885   |
| 2004. 1. 30 | 排風機            | 一般教育科       | 1,489   |
| 2002. 4. 14 | 風車運転制御装置       | 機械工学科       | 1,827   |
| 2004. 8. 19 | 万能試験機          | 機械工学科       | 1,799   |
| 2006. 3. 1  | 内燃機関性能総合試験装置   | 機械工学科       | 7,550   |
| 2000. 3. 30 | 旋盤             | 実習工場        | 4,746   |
| 2001. 3. 27 | 円筒研削盤          | 実習工場        | 6,867   |
| 2002. 3. 29 | NCフライス盤        | 実習工場        | 7,476   |
| 2000.10.25  | 電界波形観測装置       | 電気工学科       | 2,520   |
| 2003. 3. 28 | モータ制御実習装置      | 電気工学科       | 1,575   |
| 2005.12.12  | 電界波形観測装置       | 電気工学科       | 2,520   |
|             | 倒立振子制御実験装置     | 電気工学科       | 1,995   |
| 2000. 3. 29 | 真空装置           | 電子情報工学科     | 4,037   |
| 2001. 3. 25 | 分析計            | 電子情報工学科     | 1,839   |
| 2001. 3. 23 | 電波試験機          | 電子情報工学科     | 2,199   |
| 2001. 2. 14 | 動弾性係数測定器       | 環境都市工学科     | 1,596   |
| 2006. 2. 28 | 自動一軸C B R 試験装置 | 環境都市工学科     | 2,709   |
| 2006. 9. 22 | 小型FWDシステム      | 環境都市工学科     | 1,285   |
| 2004. 3. 30 | 歪計             | 建築学科        | 1,805   |
| 2004. 3. 23 | 疲労試験機          | 建築学科        | 25,441  |
| 2003. 1. 20 | 分析計            | 建築学科        | 1,374   |
| 2000. 3. 28 | レーザー装置         | トライアル研究センター | 1,713   |
| 2000. 3. 28 | 分析計            | トライアル研究センター | 1,575   |
| 2006. 9. 14 | 加工機            | トライアル研究センター | 2,467   |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 8-1-①-8：福利厚生施設利用案内

福利厚生施設「養高館」  
Welfare Building (Yoko-kan)

昭和56年2月に完成の複合厚生施設である。館内には、食堂・売店を始めとして、共同談話室、学生会連絡室、保健室、学生相談室があり、生活面での利便のみならず、文化活動の面においても幅広く利用されている。また、平成16年4月からは生活協同組合がスタートして福利厚生機能が強化され、ますます充実した施設となっている。



(出典：学生便覧)

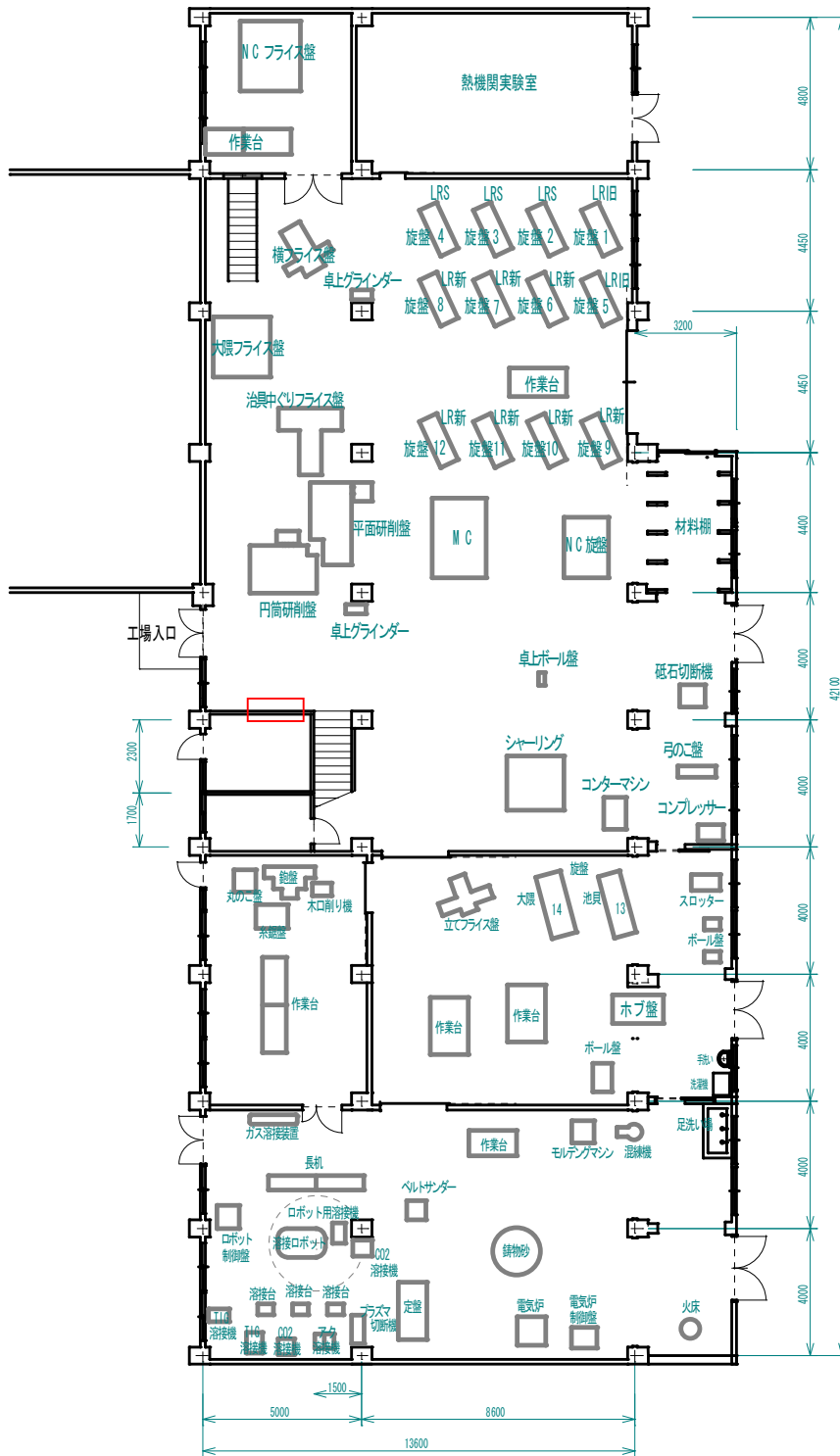
## 3) 実験室・実習工場等の学習活動への活用状況

専門学科実験室・研究室は、それぞれ学生実験、本科卒業研究、専攻科特別研究等に利用し、必要な実験研究機材を備えている。各実験室の設備については学科ごとに改善努力をしており、十分な設備が備えられている。これら以外に独立した実験棟として風洞実験棟及び高電圧実験棟がある。いずれも、卒業研究あるいは特別研究等に利用されている（資料 8-1-①-9～11）。

実習工場は実践的な技術者教育を目指す高専には必要不可欠な施設であり、安全教育を含めた学生の工作実習、工学実験、卒業研究、専攻科特別研究等に使用されている。また、ロボコン等を目的としたメカトロニクス分野での製作に広く実習工場を利用している（資料 8-1-①-12～14）。工場入口には大型の液晶パネルが設置され、工場内の各所が映し出されるようになっており、安全性に配慮している。資料 8-1-①-9 に赤枠で示した。

- 資料 8-1-①-9：実習工場機械配置図（赤枠は液晶パネル）
- 資料 8-1-①-10：実習工場利用案内
- 資料 8-1-①-11：実習工場利用状況
- 資料 8-1-①-12：械工学科実習工場職員の配置状況とその役割
- 資料 8-1-①-13：実習工場授業内容例
- 資料 8-1-①-14：実習工場安全への配慮利用案内

資料 8-1-①-9 : 実習工場機械配置図



(出典：機械実習工場資料)



## 資料 8-1-①-10：実習工場利用案内

## 1. 実習工場を安全に利用する為に

## 1) 実習工場へお越しの方へ（安全対策として）

1. 工場に御用の方は、2階の実習事務室へお越しください。
2. 工場内には危険なものが多くあります。無断で工場内へ立ち入らないでください。
3. 工場内に入る時は、許可を得て、備え付けの帽子を着用してください。
4. 工場内で大声を発したり、走らないでください。
5. みだりに工場内のものに、手を触れないでください。

## 2) 実習工場の施設を利用される方へ（安全対策として）

実習工場に連絡し、使用許可を

## 一般的事項

1. 事前に作業内容、利用日時などを実習工場に連絡し、許可を得てください。
2. 作業服、作業靴、作業帽を着用してきてください。
3. その他、服装は自分で判断せず、指導員の指示に従ってください。
4. 作業によっては、防護具が必要です。必ず着用してください。
5. 必ず指導員と相談の上、作業してください。
6. 機械実習時における安全心得を遵守してください。

## 機械科以外の学生の利用

担当の指導者判断で使用許可を

1. 担当教員（責任者）からの依頼があり、担当の指導者が可能と判断した作業については、許可する場合があります。事前に実習工場まで相談してください。
2. 一般的事項を遵守の上、作業指導員の指示に従ってください。
3. 服装、作業態度など不適切な場合は断ることがあります。事前に相談してください。
4. 機械実習など工場を利用する授業及びその前後は、準備やミーティングのため、お断りします。

## 課外活動（ロボコン他）での利用

指導員に相談、使用許可を

1. 担当教官を通じて、工場利用申し込みをしてください。
2. 一般的事項を遵守してください。
3. 工場の機械・器具を使用する場合は、必ず指導員に許可を得てください。
4. 作業を始める場合自分で判断せず、指導員に相談してください。
5. 作業終了毎に整理整頓を行ってください。
6. 隣の機械の工具を勝手に使用しないこと。工具のない場合は指導員に連絡してください。
7. 機械付属の工具をその機械以外で使用しないこと、また勝手に持ち出さないでください。
8. 作業途中疑問が生じたら、必ず指導員に相談してください。
9. 工具の破損、異常などは指導員に連絡してください。
10. 工場への出入の際は、各人が工場事務室へ連絡してください。
11. 授業中の工場には入らないでください。

## 工場を使用する授業での利用

安全使用心得

1. 機械実習Ⅰ、機械実習Ⅱで工場実習を行う場合は機械工作実習指導書Ⅰ、機械工作実習指導書Ⅱの冒頭の、機械実習時における安全心得を遵守してください。
2. 機械実習Ⅲで工場実習を行う場合は、開始時配付の資料、機械実習時における安全心得を遵守してください。
3. 卒研、創造工学演習、特別研究で工場を利用する場合、担当教官から安全教育を受けた上で、機械実習時における安全心得を遵守してください。
4. 機械実習中は工場の使用はできません。

（出典：機械実習工場資料）

## 資料 8-1-①-11 : 実習工場利用状況

## 授業における実習工場利用状況

機械工学科が機械実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、機械工学実験の各科目で、また各学科の5年生が卒業研究で、専攻科の学生が特別研究や創造工学演習で、資料の製作や装置の製作において実習工場を利用している。さらに課外授業では校外のイベントに参加するチームの展示品その他の製作等で利用される。その他には各教員の研究資料や研究装置の製作や修理等での利用がある。また平成18年度のオープンカレッジには、マシニングセンターや手仕上げ工場が利用され、デモンストレーションやものづくり体験が行われた外、石川県ニッチトップ企業人材育成事業では10月3日(火)と10月7日(土)の両日9時から16時まで、旋盤6台フライス盤3台を使用して旋削加工とフライス加工の実習が行われた。以下に平成17年度実習工場の利用状況を示す。

## 平成17年度

## ◎授業における利用状況

| 学年        | 利用学科等   | 科目名等   | 時間(週当たり) | 利用形態       |
|-----------|---------|--------|----------|------------|
| 1年        | 機械工学科   | 機械実習Ⅰ  | 前期2H     | クラス全員      |
| 1年        | 機械工学科   | 機械実習Ⅰ  | 後期4H     | クラス全員      |
| 2年        | 機械工学科   | 機械実習Ⅱ  | 通年3H     | クラス全員      |
| 3年        | 機械工学科   | 機械実習Ⅲ  | 通年3H     | クラス全員      |
| 5年        | 機械工学科   | 機械工学実験 | 前期4H     | 2班(14~16人) |
| 5年        | 機械工学科   | 卒業研究   | 通年7.5H   | 一部学生       |
| 専攻科2年     |         | 創造工学演習 | 後期4H     | 5~10名      |
| 専攻科1年, 2年 |         | 特別研究   | 通年8H     | 3~5名       |
|           | 電気工学科   | 卒業研究   | 後期3H     | 一部学生       |
| 学生        | 電子情報工学科 | 卒業研究   | 後期3H     | 一部学生       |
|           | 環境都市工学科 | 卒業研究   | 後期3H     | 一部学生       |
|           | 建築学科    | 卒業研究   | 後期3H     | 一部学生       |

## ◎授業外における利用状況

|    |         |      |           |      |
|----|---------|------|-----------|------|
|    | 機械工学科   | 学術研究 | 通年10H     | 一部教員 |
|    | 電気工学科   | 学術研究 | 通年3H      | 一部教員 |
| 教員 | 電子情報工学科 | 学術研究 | 通年3H      | 一部教員 |
|    | 環境都市工学科 | 学術研究 | 通年3H      | 一部教員 |
| 課外 | ホココンチーム | 製作活動 | 6~11月 60H | 一部学生 |
| 利用 | 各種イベント  | 製作活動 | 通年合計30H   | 一部学生 |
|    | 参加者他    |      |           |      |

## 参考

## 期間

[ 人材育成教員 H18.09.13 ~ H18.12.08 ]

(出典：機械実習工場資料)

資料 8-1-①-12：械工学科実習工場職員の配置状況とその役割

機械工学科教員

|      |                      |                                             |                                    |                   |                              |
|------|----------------------|---------------------------------------------|------------------------------------|-------------------|------------------------------|
| 担当教員 | 黒崎<br>河野<br>旭吉<br>藤岡 | 機械工学科主任<br>3年機械実習担当<br>2年機械実習担当<br>1年機械実習担当 | 工場全般<br>機械実習全般<br>機械実習全般<br>機械実習全般 | 予算<br>CAD<br>旋盤実習 | 安全管理<br>安全管理<br>安全管理<br>安全管理 |
|------|----------------------|---------------------------------------------|------------------------------------|-------------------|------------------------------|

第一グループ技術職員の学生指導の担当内容

|      |       |      |       |    |            |           |
|------|-------|------|-------|----|------------|-----------|
| 技術職員 | 北山 登  | 安全管理 | 溶接    | 研削 | 実習事務       | 予算その他連絡調整 |
|      | 山下忠雄  | "    | 手仕上   | 旋盤 |            |           |
|      | 中田登志夫 | "    | 鍛造・鋳造 | MC |            |           |
|      | 浦井 誠  | "    | 機械加工  |    | 実習事務(予算執行) |           |
|      | 大門弘明  | "    | 機械加工  | 溶接 | 鋳造         |           |
|      | 荒崎武智  | "    | 機械加工  | 研削 |            |           |

機械実習における技術職員の授業担当および指導内容

| 項目<br>学年 | 技術職員  | 授業    | 指導内容  |
|----------|-------|-------|-------|
| 3年       | 北山 登  | 機械実習Ⅲ | 溶接    |
|          | 山下忠雄  | "     | 旋盤    |
|          | 中田登志夫 | "     | 旋盤    |
|          | 浦井 誠  | "     | フライス盤 |
|          | 大門弘明  | "     | フライス盤 |
|          | 荒崎武智  | "     | ホブ盤   |

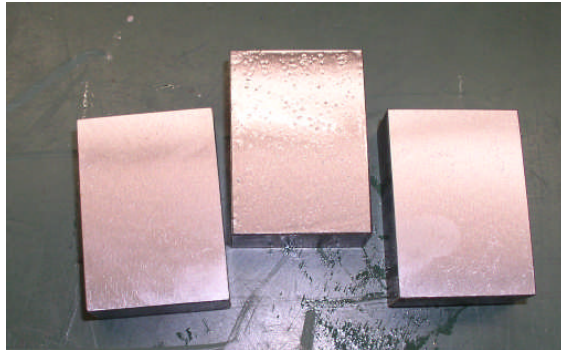
| 項目<br>学年 | 技術職員  | 授業    | 指導内容         |
|----------|-------|-------|--------------|
| 2年       | 北山 登  | 機械実習Ⅱ | 研削盤・板金       |
|          | 山下忠雄  | "     | 汎用旋盤Ⅱ        |
|          | 中田登志夫 | "     | マシニングセンター・鋳造 |
|          | 浦井 誠  | "     | 機械仕上げ        |
|          | 大門弘明  | "     | フライス盤        |
|          | 荒崎武智  | "     | 研削盤・ホブ盤      |

| 項目<br>学年 | 技術職員  | 授業    | 指導内容  |
|----------|-------|-------|-------|
| 1年       | 北山 登  | 機械実習Ⅰ | 旋盤・溶接 |
|          | 山下忠雄  | "     | 手仕上げ  |
|          | 中田登志夫 | "     | 鍛造・旋盤 |
|          | 浦井 誠  | "     | フライス盤 |
|          | 大門弘明  | "     | 溶接・鋳造 |
|          | 荒崎武智  | "     | CNC機械 |

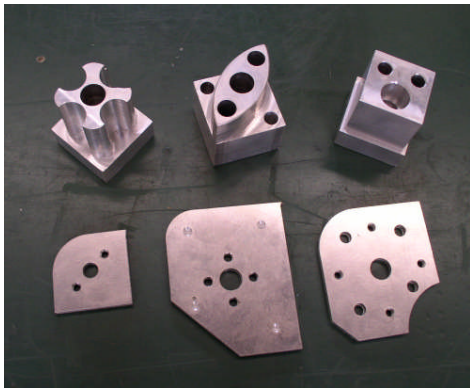
(出典：機械実習工場資料)

資料 8-1-①-13 : 実習工場での授業内容例

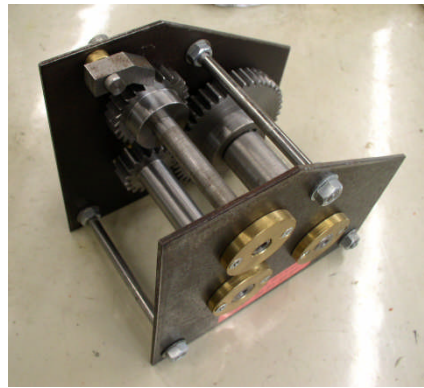
◎ 2年機械実習Ⅱ (研削盤)



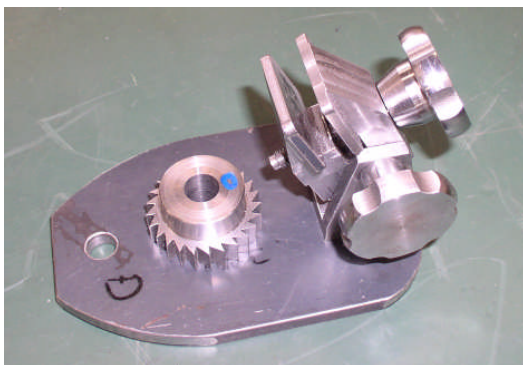
◎ 2年機械実習Ⅱ (マシニングセンター)



◎ 2年機械実習Ⅱ (ホブ盤)



◎ 2年機械実習Ⅱ (フライス盤)



◎ 2年機械実習Ⅱ (汎用旋盤)



(出典：機械実習工場資料)

## 資料 8-1-①-14：実習工場の安全への配慮

## 実習工場での安全作業を考えて

- 1 年実習時，初回到教室講義で実習全般に関する安全教育を行っている。
- 2 年においては，実習開始時に安全に関する注意を行った後，実習を行っている。
- その時，機械実習指導書Ⅰ・Ⅱに明記してある安全心得をテキストとして使用している。

## 機械実習時における安全心得（以下テキスト明記文）

## 1) 共通事項

1. 服装を整える。  
帽子を深くかぶる。靴ひもを強く結ぶ。かかとを踏まない。袖口，胸元のボタンを留める。腰ベルトをす  
る。鍛造・溶接以外では手袋をしない。
2. 実習中ポケットに手を入れたり，私語を言わない。
3. 工場内のものにみだりに手を触れない。特に機械のスイッチやレバーに手や衣類が触れないように注意す  
る。
4. 操作方法を熟知した上で，一人で機械操作をする。
5. 実習中は危険であることを念頭に置き，集中して作業を行う。
6. 指示されない作業を勝手に行わない。
7. 作業中の仲間に話しかけない。
8. 回転するもの，動くものに手を触れない。
9. 機械や作業台に寄り掛からない。
10. 機械に備え付けの工具はその機械のみで使用し，隣の機械の工具を使用しない。
11. ボルトナットは確実に締め付ける。
12. 作業中，工具・その他を整理整頓して置き，作業場所を乱雑にしない。
13. 工具や工作物を，落とさない。乱暴に扱わない。切り屑の上に置かない。刃物と測定具を接触させない。
14. スパナをハンマー代わりに使うような，工具本来の目的以外の使い方をしない。
15. ボルト・ナット・マシンパイプ・スクロールチャックなどをゆるめる時は，スパナやハンドルを深く差し込  
み，ゆるむ方向のガタを無くしておいて，手のひらで強く殴るようにする。（スパナが外れたり，ゆるんだ  
瞬間に勢い余って，手を強打することを避けるため。）
16. ハンマーを使用するときは，柄のゆるみを確認する。
17. テーブルや，滑り面，足下の切り屑・その他を必要に応じて掃除する。
18. テーブルや，滑り面に直接工具を置かない。木製の板を敷いて置く。
19. 機械操作中（自動送りを掛けた時など）は機械から離れない。
20. 作業終了後は整理整頓をし，指導員の点検を受ける。
21. 停電や緊急の時はスイッチを切り初期状態に戻し，指導員の指示を待つ。
22. 20kg 以上のものを持つ時は安全靴を履く。2人以上で持ち1人の持ち分が20kg 以下になるようにする。

（以下略。数ページにわたるので訪問調査にて提示する）

（出典：機械実習工場資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校の施設設備に関しては、学校配置図や施設設備の現況の説明から明らかなように、本校の教育目標達成にふさわしいものとして整備されている。特に、教室は先に行われた改修工事によって面積および耐震性はもちろん冷暖房設備や、プロジェクターの設置など充実した教育環境として整備されている。また、情報処理センターや図書館等共同利用施設についても設備の充実が図られ、有効に活用されている。また、その他の特別教室等には、授業はもちろん学生の課外活動あるいは講演会などに利用されている。

バリアフリー化にあっては、トライアル棟入りロスロープ、自動ドア、エレベーターの設置のほか、各専門学科棟玄関のスロープ化を施しており、施設のバリアフリー化に順次取り組んでいる。また、入学時における障害を持つ学生に関する情報を関係する職員で共有し、支援体制を構築している。

以上のことより、本校は高等専門学校設置基準を満たしており、教育課程に対応して施設、設備が整備され、有効に活用されている。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

この観点では、情報ネットワークの整備状況、情報セキュリティポリシー、活用状況、利用促進のための取組および情報ネットワーク満足度調査によって分析を行う。

1) 情報ネットワークの整備状況

充実した教育・研究環境の実現のため、また管理運営の効率化および学生の学習支援などのため情報ネットワークは高等教育機関における中枢施設として必要不可欠なものとなっている。このようなことから、本校では、セキュリティに配慮しながら、多様化するネットワークへのニーズおよびトラフィック増加に対応して情報ネットワークの整備に努めている。さらに本校の立地条件を活かし Scinet と 100M という非常に高速な接続を実現している（高専では全国第2位）。

学内情報ネットワークの構築および管理運営は情報処理センターがあたることになっており、センターの管理運営を円滑に行うため、情報処理センター委員会が設置されている（資料 8-1-②-1, 2）。

本校における情報ネットワークは「高セキュリティギガビットイーサネットおよび無線LANシステム」として構築されている。このシステムは情報処理センターに設置されたコアスイッチを核とし、完全二重化された光ファイバー網で各学科棟のエッジスイッチとスター状に構成されている。また、事務部ネットワークはセキュリティを重視し、学内LANとの接続点にファイアウォールが設置されている（資料 8-1-②-3～5）。

校内ネットワークに接続する端末はすべて情報処理センターもしくはサーバ別に登録され、適切に管理されている。このうち、授業内外で学生の利用可能なパソコンは情報処理演習室などに設置されているものを中心に140台に上る。

一方、これら以外に電子情報工学科では学生を対象とした学習用のノートパソコンの個人購入を実

施しており、これらのパソコンがアクセスポイントを介して無線LANに接続している。同様に、学寮においても寮生の学習支援のため、寮内無線LANへ個人所有のパソコンの接続を認めている。この場合、セキュリティ対策のため、接続希望者に対して講習会を実施し、一定の要件を満たした者にのみ接続を認めている（資料 8-1-②-6）。

- 資料 8-1-②-1：情報処理委員会の役割
- 資料 8-1-②-2：情報処理センター管理体制
- 資料 8-1-②-3：ギガビットネットワークシステム
- 資料 8-1-②-4：イーサネット・無線LANシステム
- 資料 8-1-②-5：教育用電子計算機システム
- 資料 8-1-②-6：無線LANへの接続規定

## 資料 8-1-②-1：情報処理委員会の役割

## ○石川工業高等専門学校情報処理センター委員会規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校情報処理センター規則にも基づき、石川工業高等専門学校情報処理センター委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

## (組織)

第2条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 図書情報主事
- (2) 情報処理センター長
- (3) 情報処理センター次長
- (4) 情報処理センター員
- (5) 総務課長及び学生課長
- (6) 校長が指名する技術職員
- (7) その他校長が特に必要と認める教職員

## (委員長等)

第3条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

(一部略)

## (任務)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、また、推進及び調整を図ることを任務とする。

- (1) 情報処理センター（以下「センター」という。）の管理、運営に関する事。
- (2) 電子計算機（以下「電算機」という。）による情報処理教育に関する事。
- (3) 電算機の利用及びセンターの将来計画に関する事。
- (4) 教育、研究及び事務の情報処理に関する調査、研究、企画立案及び啓蒙に関する事。
- (5) 学内の情報ネットワークの構築及び管理、運営に関する事。
- (6) 学内外の情報ネットワークの連絡、調整に関する事。
- (7) 総合的情報処理化に関する事。
- (8) その他委員長が必要と認める事。

## (専門委員会)

第5条 委員長は、専門的事項を審議するために必要と認めた場合は、委員会の議を経て、委員会の中に専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員は、委員長が委嘱し、その任期は、委員長が定める。

3 委員長は、必要と認めた場合は、委員以外の教職員を専門委員会に出席させることができる。

## (事務)

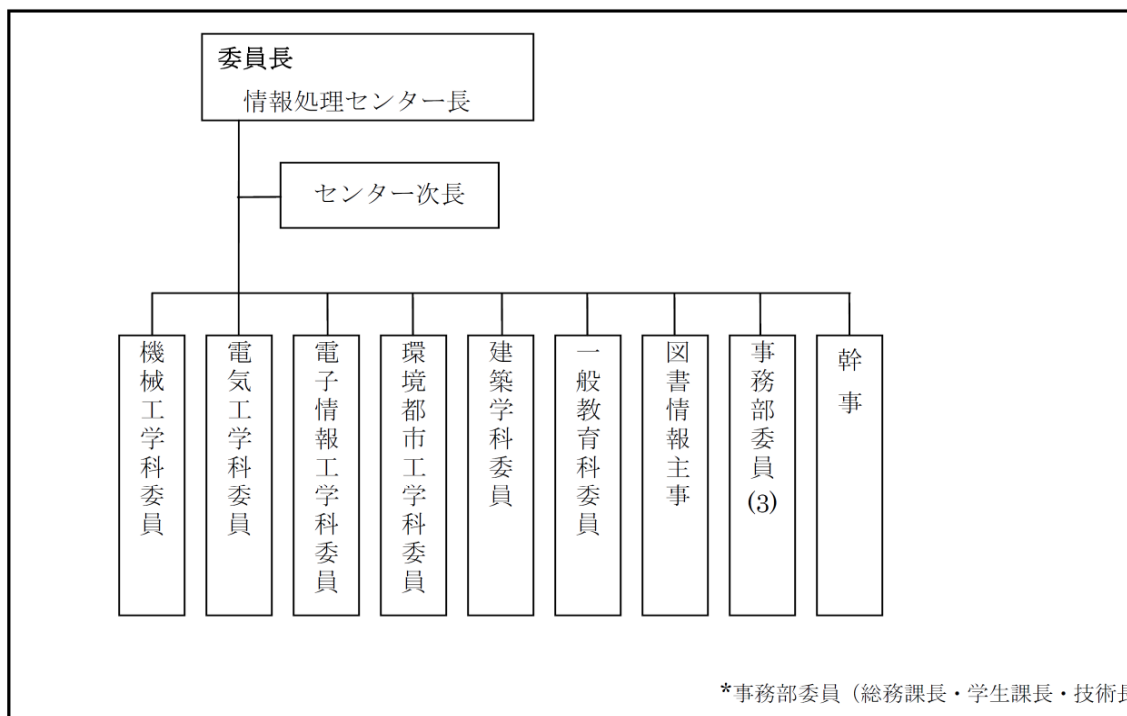
第6条 委員会の事務は、総務課において処理する。

(出典：情報処理委員会規則)



## 資料 8-1-②-2：情報処理センター管理体制

## 1. 情報処理センターにおける委員会組織図



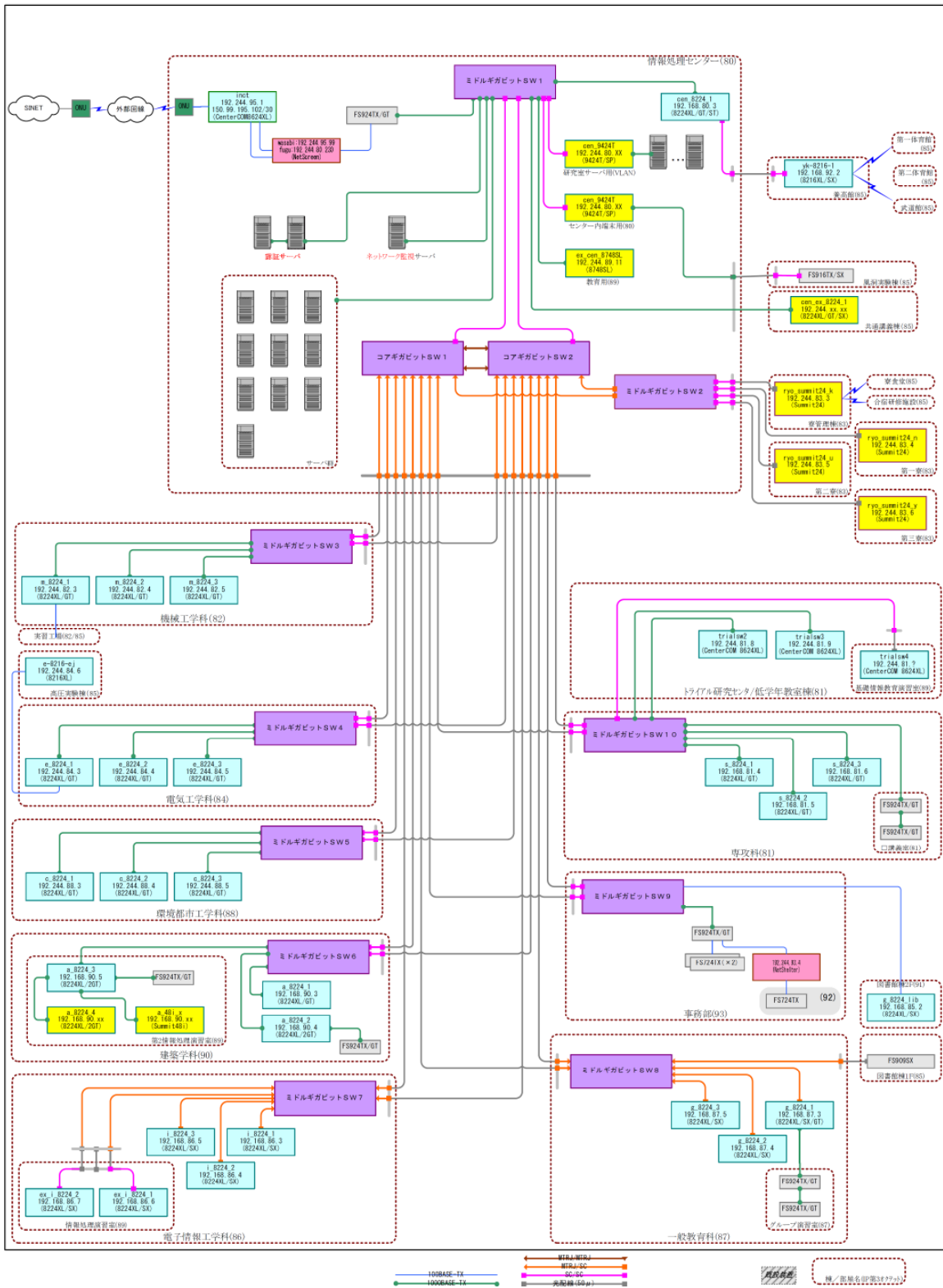
## 2. 情報処理センター業務の分担について

| 分担             | 主な分担内容          | 担当者<br>(筆頭者は連絡担当者) |
|----------------|-----------------|--------------------|
| 総括（連絡調整）       | 企画・立案、予算要求      | 金寺センター長、山田悟次長      |
| 広報部会           | ニュース、広報、Web     | 越野、東、船戸            |
| ネットワーク・サーバ管理部会 | ネットワーク・サーバの管理運営 | 石田、荒牧              |
|                | 無線 LAN の管理運営    | 越野、荒牧、山畑           |
|                | ユーザー登録          | 越野、山畑              |
|                | 業者連絡            | 山畑、荒牧              |
|                | 学生のメール設定        | 各科センター委員           |
|                | 校内基幹ネットワーク機器    | P F U              |
|                | 基幹サーバの保守        | P F U              |
| セキュリティ対策部会     | セキュリティ対策        | 船戸、越野、荒牧           |
|                | 教育用パソコン保守       | 日立製作所              |
| 演習室部会          | パソコン演習室の管理      | 豊田、小熊、山畑           |

(出典：情報処理センター保管資料)

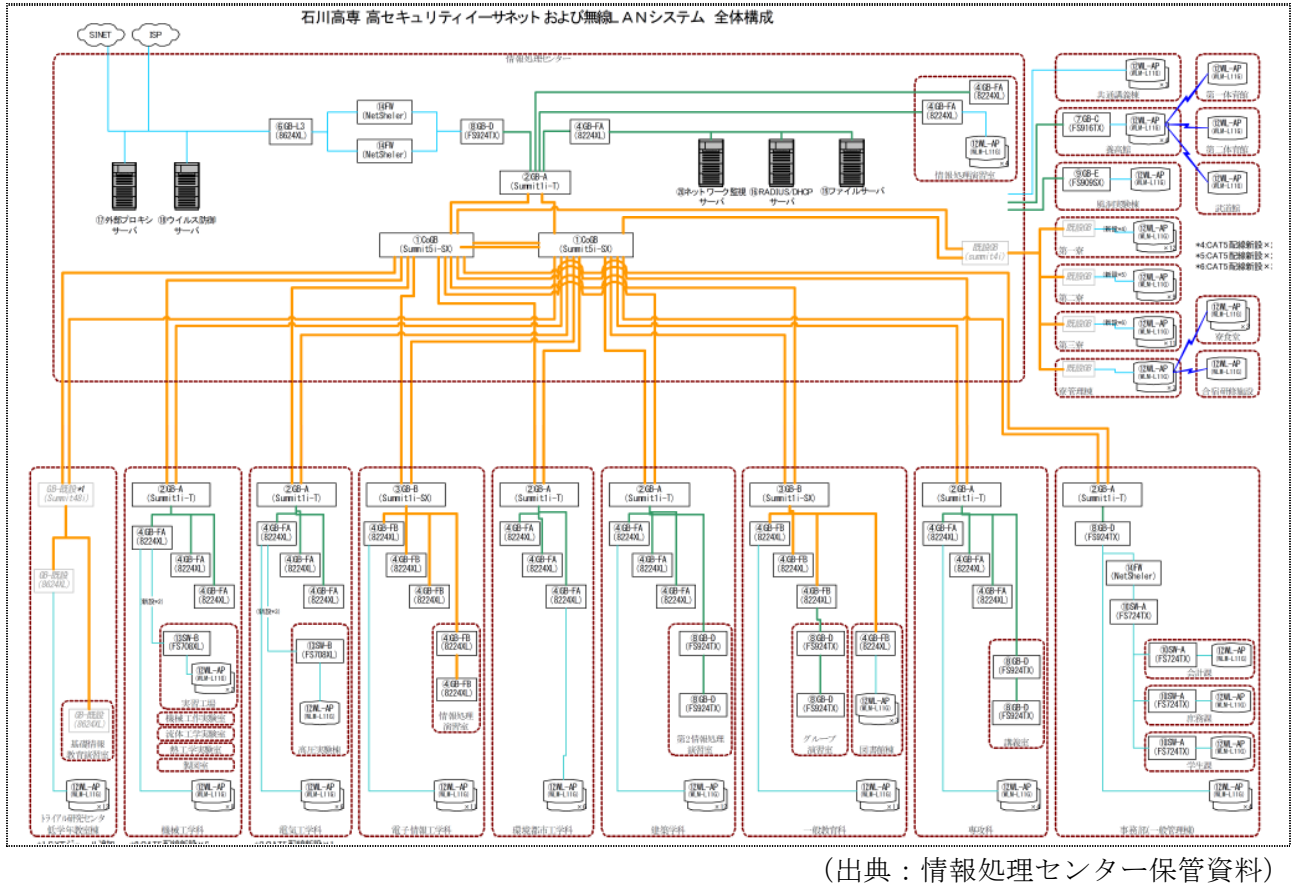
資料 8-1-②-3 : ギガビットネットワークシステム全体構成図

高セキュリティギガビットネットワークシステム構成図(H19.04.01~)



(出典：情報処理センター保管資料)

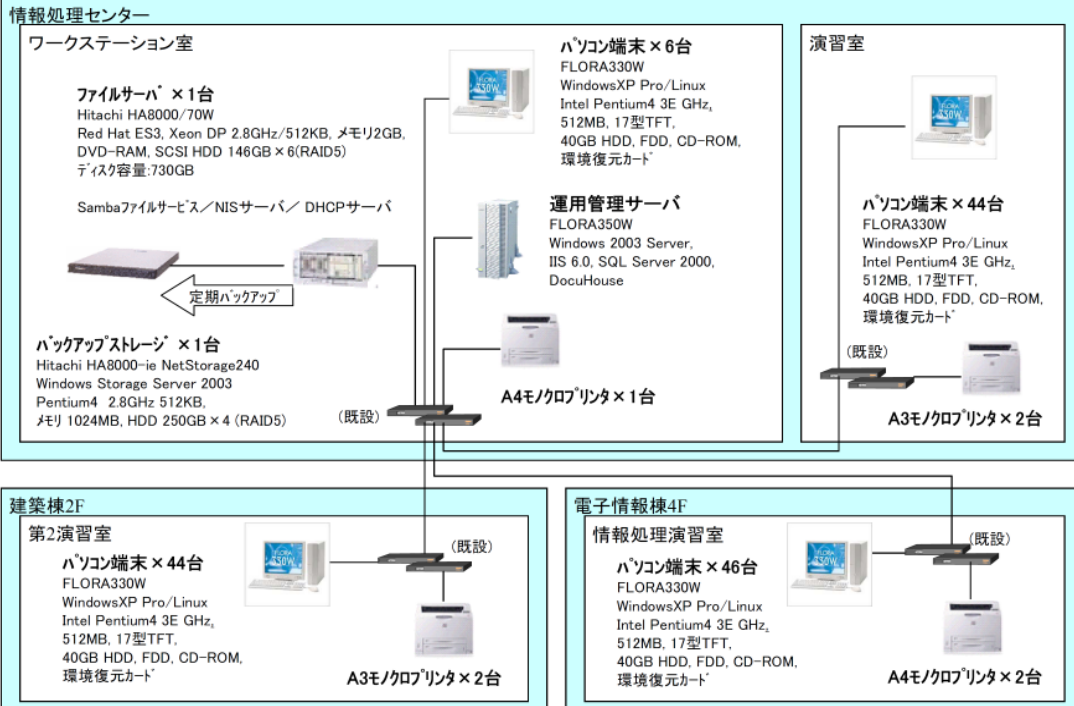
資料 8-1-②-4 : イーサネット・無線LANシステム全体構成図



資料 8-1-②-5 : 教育用電子計算機システム

新教育用電子計算機システム 構成

2005.10.01



(出典：情報処理センター保管資料)

## 資料 8-1-②-6：無線LANへの接続規定

## 無線LAN登録願

平成 年 月 日

情報処理センター長 殿

以下の機器を校内無線LANに接続したいので登録くださるようお願いいたします。  
 なお、利用に際しては利用規則等を遵守いたします。

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| フリガナ                         | 学科（本科・専攻科・教職員）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 1. 利用者の氏名                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2. 利用者アカウント<br>（電子メールアドレス）   | @ishikawa-nct.ac.jp                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 3. PCメーカー・機種名<br>および<br>利用OS | Windows                  MacOS                  Linux                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 4. 無線LANカードの<br>メーカー・型名      | 内臓（PCに標準内臓設置）<br>外付 メルコ（WLI-        -        ）、IO データ（WN-        /        ）                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 5. 無線LANカードの<br>マックアドレス      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| 6. 利用形態                      | 無線LANのみで利用 ・ 有線LANとの共用利用                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 7. 主な利用場所                    | 自室研究室・教室演習室・屋外・学寮    寮生は部屋番号（        ）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 8. 確認担当者（区分）<br>氏 名          | （指導教官・担任・寮務主事補・センター委員）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

1. 申請者が教職員の場合は、確認担当者の記述は必要ありません。
2. 登録完了・接続開始の案内は確認担当者を通じて行いますので、半券受取り後利用を開始して下さい。
3. 学生利用者の有効期間は、届出のあった年度末日です。

(出典：情報処理センター保管資料)

## 2) 情報ネットワークのセキュリティポリシー

本校におけるセキュリティポリシーは平成15年度に制定され、平成18年度に改正され、現在に至っている（資料 8-1-②-7, 8）。セキュリティポリシーはウェブページ上で校内に公開され、その解説版として「情報セキュリティ全校個人マニュアル」が教職員および学生に配布され周知徹底が図られている（資料 8-1-②-9）。

本校における情報ネットワークのセキュリティシステムは、ネットワークを教育・研究LANと事務LANに論理的に分け、各LANとインターネットの接続点にファイアウォールを設け、学業成績等の個人情報保護に配慮し、構築している。また、学術情報ネットワーク（SINET）に接続しているほか、商用ネットワークにも接続しており、一方のネットワークに事故が生じた場合にも対応ができるようにしている。

- 資料 8-1-②-7：情報セキュリティ委員会
- 資料 8-1-②-8：情報セキュリティポリシー
- 資料 8-1-②-9：情報セキュリティ全校個人マニュアル目次

## 資料 8-1-②-7：情報セキュリティ委員会

## (設置)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、高度情報化社会において、本校の情報資産のセキュリティを確保し、盗難、侵入、破壊、改ざん等の脅威から守るため、石川工業高等専門学校情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号の職員を委員として組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事，寮務主事，研究主事及び図書情報主事
- (4) 一般教育科主任及び各専門学科主任
- (5) 情報処理センター長
- (6) 広報委員会副委員長
- (7) 事務部長
- (8) 総務課長及び学生課長
- (9) その他校長が特に指名する者

2 前項第9号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

## (委員長等)

第3条 委員会に委員長を置く。

- (1) 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれにあてる。
- (2) 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- (3) 委員長は、必要と認める場合は、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる審議を行う。

- (1) 情報セキュリティポリシーの策定及び改訂に関すること。
- (2) 本校の情報セキュリティポリシーの遵守励行及び違反に対する措置に関すること。
- (3) 教育研究活動におけるネットワーク利用ルールの策定及び改訂に関すること。
- (4) 情報セキュリティに関する啓発及び教育に関すること。
- (5) その他情報セキュリティに関すること。

## (システム管理部会)

第5条 委員会に、本校の情報システム及びセキュリティ管理を行うため、システム管理部会を置く。

2 システム管理部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## (事務)

第6条 委員会の事務は、事務情報化推進室において処理する。

(出典：石川高専規則集)

## 資料 8-1-②-8：情報ネットワークのセキュリティポリシー

## I 石川工業高等専門学校情報セキュリティ基本方針

## 1. 情報セキュリティの基本方針

現在、インターネットの急速な普及など、高度情報化社会において、本校が教育・研究活動を高めようとするためには、情報基盤の整備に加えて、本校の情報資産のセキュリティを確保することが不可欠である。このことから、情報セキュリティの大切さを本校の利用者に十分意識させ、情報資産を確固として守るため、「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（平成12年7月18日情報セキュリティ対策推進会議決定）」における「政府の情報セキュリティの基本的な考え方」を踏まえ、次の事項を内容とする情報セキュリティポリシーを策定し、情報資産をあらゆる脅威から守るよう最大限取り組むこととする。

- (a) 情報セキュリティに対する侵害を阻止。
- (b) 校内外の情報セキュリティを損ねる加害行為を抑止。
- (c) 情報資産に関し、重要度による分類とそれに見合った管理。
- (d) 情報セキュリティに関する情報の取得を支援。

当該セキュリティポリシーは、本校の運営戦略を反映するために最高情報セキュリティ責任者（CISO）の統括下で策定し、維持管理していくものとする。

このポリシーにおいて、それぞれの用件がどの程度重要であるかを明確にするため、次のような用語を使用している。

しなければならない：最低限実施すべきであることを示す。

すべきである：可能な限り早期に実施すべきであることを示す。

することが重要である：即座に実施しなくても優先的に実施すべきであることを示す。

することが望ましい：実施または考慮することが望ましいことを示す。

（以下略。大部にわたるため本文は訪問調査で提示）

（出典：情報処理センター保管資料）

## 資料 8-1-②-9 : 情報セキュリティ全校個人マニュアル目次

|    |                             |    |
|----|-----------------------------|----|
| 一章 | 情報セキュリティポリシーの理解             |    |
|    | (1) 私たちを取り巻くインターネット環境の変化    | 6  |
|    | (2) ネットワークからの脅威             | 7  |
|    | (3) 被害者のつもりが加害者になってしまうケース   | 8  |
|    | (4) セキュリティ確保は個人の意識が重要       | 9  |
| 二章 | 情報ネットワーク利用に関する基本原則          |    |
|    | (1) 情報ネットワークを利用する際の一般的な注意事項 | 11 |
|    | (2) 情報ネットワーク利用に関する禁止事項について  | 12 |
|    | (3) 情報発信に伴う発信者の責任とリスク       | 13 |
|    | (4) 受信者としての自己防衛             | 14 |
|    | (5) トラブルの解決                 | 15 |
| 三章 | 個人の情報セキュリティ対策               |    |
|    | (1) 学校が保有する情報の取扱について        | 17 |
|    | (2) ユーザ ID とパスワードの管理について    | 18 |
|    | (3) 管理しやすいパスワードの作り方         | 19 |
|    | (4) コンピュータウィルス対策について        | 21 |
|    | (5) データの保全対策について            | 24 |
| 四章 | 電子メールの利用                    |    |
|    | (1) 電子メールシステムの利用制限について      | 26 |
|    | (2) 電子メールのマナーについて           | 27 |
|    | (3) メーリングリストについて            | 28 |
|    | (4) 覚えのない電子メールには要注意         | 29 |
| 五章 | WWW 等の利用                    |    |
|    | (1) WWW の利用制限や注意事項について      | 31 |
|    | (2) 電子掲示板を利用する際の注意事項について    | 32 |
|    | (3) 危険なホームページと信頼できるホームページの例 | 33 |
|    | (4) ブラウザの推奨設定例              | 34 |

(出典：情報セキュリティ全校個人マニュアル)

## 3) 情報ネットワークの活用状況

学生に対する情報倫理教育は各学科とも第1学年のコンピュータリテラシーの授業を利用して行われている。センター利用に際しては情報処理センター利用細則が定められており（資料 8-1-②-10）、情報ネットワーク利用に際しては本校のセキュリティポリシーを遵守することになる。

情報ネットワークを利用した授業の一覧を示す（資料 8-1-②-11）。また、情報処理センターは授業の他、学生の自学自習にも活用されている。無線LANの活用状況については、その接続状況を示す（資料 8-1-②-12）。



- 資料 8-1-②-10：情報処理センター利用細則
- 資料 8-1-②-11：授業における情報処理センター演習室の利用状況
- 資料 8-1-②-12：無線LANへの接続

**資料 8-1-②-10：情報処理センター利用細則**

(趣旨)

第1条 本校の情報処理センター（以下「センター」という。）の利用については、この細則の定めるところによる。

(利用者の範囲)

第2条 センターを利用できるものは、次の各号に該当する者とする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) その他特に情報処理センター長（以下「センター長」という。）の許可を得た者

(電子計算機の操作及び利用方法)

第3条 電子計算機（以下「電算機」という。）を操作できるものは、前条の各号に該当する者とし、原則としてオープン利用とする。ただし、サーバー用電算機の起動及び停止を含む操作は、センター長の承認を得なければならない。

2 ワークステーションの利用は、原則として許可を必要としない。ただし、その利用が正規の授業以外の場合及び故障等の場合は、その利用を制限することがある。

3 パーソナルコンピュータを操作できるものは、前条の各号に該当する者とし、原則としてオープン利用とする。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、8時30分から17時までとする。ただし、保守、故障及び管理運用上必要がある場合は、センター長が利用時間を制限し、又は延長することがある。

2 前項の利用時間以外に利用しようとするものは、あらかじめ所定の使用願をセンター長に提出し、許可を得なければならない。

3 センターを使用した日の最後の利用者は、終了後、所定の事務処理をした上センター員又は当直者に連絡するものとする。

(出典：石川高専規則集)

## 資料8-1-②-11：情報処理センター演習室利用状況

## 第1演習室（情報処理センター棟）平成19年度前期時間割

|        | 月                  | 火              | 水                  | 木                 | 金                  |
|--------|--------------------|----------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| 1<br>2 | 1 E<br>基礎英語 I (0C) | 4 M<br>情報処理 II | 2 C<br>情報処理        | 1 E<br>リテラシー      | 1 EM・AC<br>画像工学    |
| 3<br>4 | 1 M<br>リテラシー       | 1 C<br>リテラシー   | 1 I<br>基礎英語 I (0C) | 3 M<br>情報処理 I     | 1 A<br>基礎英語 I (0C) |
| 5<br>6 | 1 C<br>基礎英語 I (0C) | 3 C<br>プログラミング |                    | 2 E<br>プログラミング I  | 1 M<br>基礎英語 I (0C) |
| 7<br>8 | 特別講義               |                |                    | 3 E<br>プログラミング II |                    |

## 第2演習室（A棟）平成19年度前期時間割

|        | 月               | 火               | 水                | 木                       | 金                 |
|--------|-----------------|-----------------|------------------|-------------------------|-------------------|
| 1<br>2 | 4 A             | 1 A<br>リテラシー    | 3 A<br>建築環境工学 I  | 3 A / 4 A<br>建築設計 III / | 5 A<br>建築環境工学 III |
| 3<br>4 | 建築設計 IV         | 5 A<br>建築環境工学演習 | 3 A<br>建築 CAD 応用 | 建築設計 IV                 | 4 E<br>電気工学実験 I   |
| 5<br>6 | 4 M<br>機械工学実験 I | 5 A<br>建築計画演習   | 5 M<br>機械工学実験 II | 5 I<br>制御工学 II          |                   |
| 7<br>8 |                 |                 |                  |                         |                   |

## 第3演習室（I棟）平成19年度前期時間割

|        | 月                   | 火                  | 水              | 木                  | 金                 |
|--------|---------------------|--------------------|----------------|--------------------|-------------------|
| 1<br>2 | 5 I<br>デジタル信号処理     | 2 EM・AC<br>計測制御工学  | 5 I<br>データベース  | 1 EM<br>創造工学演習 I   | 5 I<br>画像情報処理     |
| 3<br>4 | 1 I<br>電子情報工学実験 I   | 4 I<br>ソフトウェア工学    | 3 I<br>アーキテクチャ |                    | 5 I<br>集積回路       |
| 5<br>6 | 3 I<br>電子情報工学実験 III | 5 I<br>情報通信 III    | 4 I<br>数値解析 II | 2 I<br>電子情報工学実験 II | 5 I<br>電子情報工学実験 V |
| 7<br>8 |                     | 4 I<br>電子情報工学実験 IV |                |                    |                   |

(出典：情報処理センター保管資料)

## 資料 8-1-②-12：無線 LAN への接続（MAC アドレス登録数内訳）

本校では平成 14 年 3 月、学内 LAN をギガビットネットワークに更新したが、学内 LAN の高速化とともにネットワーク利用の全学的利便性を向上させる目的で、学寮を含むキャンパスほぼ全域をカバーする無線 LAN システムも同時に導入し、今日に至っている。

無線 LAN は不正アクセスや通信内容の漏えい等セキュリティ面での問題点が指摘されている。特にアクセス制限をしない場合、学外の不特定ユーザからの不正アクセスを許してしまう危険性がある。そこで、本校では RADIUS サーバを利用した MAC アドレス認証方式を導入することとした。

その後、利用状況の変化に対応し、またより信頼性のあるネットワーク環境を構築するため平成 19 年 1 月にはプロキシサーバを更新し、寮学生向けに NTT 西日本の「B フレッツ光 100MB」を導入した。

| 内訳  |            | 登録数 (2004/01/28) | 登録数 (2007/01/31) |
|-----|------------|------------------|------------------|
| 教職員 | 教員（非常勤を含む） | 67               | 135              |
|     | 職員（事務・技術）  | 16               | 28               |
|     | その他（管理業者等） | 2                | 2                |
|     | 計          | 85               | 165              |
| 学生  | 通学生        | 15               | 261              |
|     | 寮生【入寮者数】   | 【239】144         | 【236】160         |
|     | （必須登録学生）*  | —                | 127              |
|     | 計          | 159              | 421              |
| その他 | 演習室端末      | 25               | 25               |
|     | 計          | 25               | 25               |
| 総合計 |            | 269              | 611              |

\*平成16年(2005)4月より、電子情報工学科は新1年生に携帯用ノートPCを持つことを義務付けており、以後順次実施されています。今年度は3年生までの全員が登録済みです。

(出典：情報処理センター保管資料)

## 4) 情報ネットワーク利用促進のための取組

情報ネットワークの利用に先立ち、「すまいる 石川工業高等専門学校ネットワークマナー」なる冊子を学生向けに配布し（資料 8-1-②-13）、情報ネットワーク利用の際の注意を喚起している。一般的な情報ネットワークの利用に対しては本校ホームページに情報処理センター利用案内を置いて便宜を図っている（資料 8-1-②-14）。また学内向け利用者へのサービスとして情報処理センター学内向けのページを作成している（資料 8-1-②-15）。

- 資料 8-1-②-13：ネットワークマナーに関する冊子「すまいる」
- 資料 8-1-②-14：情報処理センター利用案内
- 資料 8-1-②-15：情報処理センター学内向けサービス

資料 8-1-②-13 : ネットワークマナーに関する冊子「すまいる」



すまいる

すてきに まもって いんたーねっと るーる

石川工業高等専門学校ネットワークマナー

(出典：石川高専ネットワークマナー集)

資料8-1-②-14 : 情報処理センター利用案内

## 石川工業高等専門学校 情報処理センター



[トップ](#) | [概要](#) | [利用案内](#) | [学内向け](#) | [リンク](#)

### 演習室のPCの利用

演習室のパーソナルコンピュータ(PC)は

- 情報処理センター演習室・小演習室（情報処理センター内）
- 第2演習室（建築学科棟2階）
- 第3演習室（電子情報工学科棟4階）

で利用できます。

授業（授業の利用時間割は[こちら](#)）で利用していなければ、開館時間中は自由に利用できます。利用する際は申し出る必要はありません。

### 演習室の利用状況（授業時間割）

授業における演習室の利用状況は[こちら](#)をご覧ください。

### 演習室のプリンタの利用

各演習室に設置されているプリンタの利用ができます。用紙切れの場合、管理室に申し出て下さい。

### 学内LANの利用

教員室や実験室などのPCを学内LANに接続して利用することができます。利用に当たっては、各科の情報処理センター委員にお問い合わせ下さい。

また、個人のPCを学内や寮の無線LANに接続して利用することができます。学生の利用も可能です。

### 機器が故障している場合

情報処理センター内の機器が故障していることを発見したら、速やかに管理室に申し出て下さい。

[トップ](#) | [概要](#) | [利用案内](#) | [学内向け](#) | [リンク](#)

Copyright© Ishikawa National College of Technology. All rights reserved.

（出典：学生便覧，センター保管資料）

## 資料8-1-②-15 : 情報処理センター学内向けサービス

for members

トップ 概要 利用案内 **学内向け** リンク

---

■ クイックリンク

- 全ユーザ向け
  - [ウェブメールシステム\(Squirrel Mail\)](#)
  - [パスワード変更フォーム](#)
  - [ウイルス対策ソフト提供のページ\(事務サーバ JSRV2\)](#)
- 教職員向け
  - デジタル学習システム(CaLabo EX)マニュアル [[html形式スライド](#)]
  - [eラーニングシステム\(Web Class\)](#) マニュアル [[PDF\(3.2MB\)](#)]
  - [ウェブ版シラバス\(編集\)](#) マニュアル [[PDF\(1.3MB\)](#)]
  - [教育素材共有システム](#)
  - [図書購入, 文献複写・貸借\(LINUS/LC\)](#)
  - [Windowsサービスバック, 各種ツールなど\(事務サーバ JSRV2\)](#)
  - [情報証跡ソフト提供のページ\(事務サーバ JSRV2\)](#)
- 学生向け
  - [eラーニングシステム\(Web Class\)](#) マニュアル [[PDF\(642KB\)](#)]
  - [語学自学自習支援システム\(TOEIC対策ソフト\)](#)
  - [ウェブ版シラバス\(閲覧\)](#)
  - [石川高専図書館ホームページ](#)

---

■ 各種登録方法

- 新規利用者登録 [[PDF\(114KB\)](#) | [WORD\(62KB\)](#)]
- 無線端末登録 [[PDF\(24KB\)](#)]
- 有線端末登録 [[PDF\(91KB\)](#)]

---

■ 各種マニュアル

- Webページの更新方法 [[PDF\(394KB\)](#)]
- パスワード変更方法 [[PDF\(816KB\)](#)]
- 新語学演習システム(CaLabo EX)、語学自学自習支援システムの紹介 [[PDF\(732KB\)](#)]
- 新システムの概要(端末スペックと主要なインストールソフトウェア) [[PDF\(201KB\)](#)]
- [電子メールの利用上の注意](#)
- Windowsのパスワード設定方法 [[PDF\(1.3MB\)](#)] **New (2006.09.22)**
- SPAMメール対策マニュアル(Thunderbirdでメールを快適に) [[PDF\(1.1MB\)](#)] **New (2006.11.02)**

---

■ 各種案内

- 学生向けネットワーク利用手引書「すまいる」 [[PDF\(584KB\)](#)]
- 広報(Vol. 7) [[PDF\(777KB\)](#)]
- セキュリティポリシー [[PDF\(532KB\)](#)]
- 非常時の避難経路 [[JPG\(362KB\)](#)]
- 証跡システム内規 [[PDF\(162KB\)](#) | [WORD\(60KB\)](#)] **New (2006.09.22)**
- [Thunderbirdの添付ファイルに関する不具合を回避するパッチ](#) **New (2007.03.08)**

(出典：石川高専ホームページ)

## 4) 情報ネットワーク満足度調査

情報処理センター委員会では本校教員および学生に対して本校ネットワークに関してアンケート調査を行い（資料 8-1-②-16, 17），その結果をまとめた。教員に比べると学生の満足度はやや落ちるものの、全体としては満足度が高いという結果を得ている（資料 8-1-②-18）。

- 資料 8-1-②-16：学生の情報ネットワーク等満足度調査項目
- 資料 8-1-②-17：教員の情報ネットワーク等満足度調査項目
- 資料 8-1-②-18：情報ネットワーク等満足度調査結果

## 資料 8-1-②-16：学生のパソコン・ネットワーク等満足度調査項目

1 3 情報処理センターの演習室の、パソコンやプリンタなどの機器の整備状況に満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

1 4 Web による情報検索など情報ネットワークの整備状況に満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

(出典：在校生アンケート)

## 資料 8-1-②-17：教員の情報ネットワーク等満足度調査項目

(4.1) 教育・研究を行う上で、情報ネットワークの整備状況に満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

(出典：教員アンケート)

## 資料 8-1-②-18：情報ネットワーク等満足度調査結果

学生アンケート結果

| 学生         | 1年   | 2年   | 3年   | 4年   | 5年   | 準学士課程 | 専攻科課程 |
|------------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 情処センター設備満足 | 3.52 | 3.07 | 2.95 | 2.83 | 2.68 | 2.96  | 2.82  |
| ネットワーク検索満足 | 3.49 | 2.91 | 2.82 | 2.82 | 2.72 | 2.72  | 2.85  |

教員アンケート結果

| 常勤  |          | 1 | 2 | 3  | 4  | 合計 | 平均   |
|-----|----------|---|---|----|----|----|------|
| 4.1 | ネットワーク整備 | 1 | 8 | 26 | 34 | 69 | 3.35 |

(出典：教員・在学生アンケート結果)

(分析結果とその根拠理由)

本校にはギガビットイーサーネットが完備し、校内全域において無線 LAN が利用可能になっている。このネットワークは情報処理センター委員会が管理しており、Scinet と 100M という非常に高速な接続を実現している。またそのセキュリティは情報セキュリティ委員会が担当し、セキュリティ方針に沿って利用者のためのセキュリティマニュアルを配布している。

このネットワークは授業における各教室からの利用、授業および課外における情報処理演習室からの利用に供している。授業における利用率は非常に高く、3つの演習室はほとんど空き時間がないほどである。利用に対する便宜としてインターネットマナー集『すまいる』を発行し、また、ホームページには利用案内、学外向けeラーニングシステム、各種マニュアル、各種案内などが揃っている。

ネットワークの完備状況に対する学生アンケート、教員アンケートでは、教員に比べると学生の満足度はやや落ちるものの、全体としては満足度が高いという結果を得ている。

以上のことより、本校における情報ネットワークは十分なセキュリティの管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

**観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。**

(観点到に係る状況)

この観点では、図書館資料の整備状況、図書館の利用状況、利用促進のための取組および図書館満足度調査によって分析を行う。

1) 図書、学術雑誌、視聴覚資料の整備状況

本校に備え付けられている図書資料は図書館備え付け図書と教員室備え付け図書に大別される。このうち、教員室備え付け図書は、教員の教育研究の必要性に応じて、教員個々が自己の研究費により購入備え付けたものであり、図書館備え付けの図書は図書館選定分（学生の希望図書を含む）の他、一般教育科を含めた各学科に推薦を依頼し、購入されたものである。図書館備え付けの図書購入については図書館委員会で審議され、購入計画が策定されている（資料 8-2-①-1, 2）。

視聴覚資料も図書館委員会で購入計画が審議され、それにあわせて整備されている。近年は、電子ジャーナルの定期購読やデータベースの利用サービスの体制の充実に努めている。また、LANによる蔵書検索も可能である。

図書館棟は、閲覧室、書庫、マルチメディアルーム及び視聴覚教室等で構成されている。収集している資料は、理工系分野の図書・雑誌はもとより、各分野の専門書や一般教養書、レーザーディスク、CD、DVD等多岐にわたっている。また、電子ジャーナルや文献検索データベースの利用も可能である（資料 8-2-①-3~7）。

視聴覚教室は204席を保有し、第1学年を一同に収容できる規模となっている。こちらには、最新の視聴覚機材が導入されておりビデオサーバーに映像や音声を蓄積したり、またこれらを校内のパソコンを介して見たり聞いたりすることができる。視聴覚教室は適切に整備され、講義や講演会の他、課外活動、各種説明会等幅広く利用されている。



- 資料 8-2-①-1：図書館委員会
- 資料 8-2-①-2：平成18年度の図書館資料費執行計画
- 資料 8-2-①-3：図書館蔵書および視聴覚教材収蔵件数
- 資料 8-2-①-4：分類別図書所蔵総数
- 資料 8-2-①-5：平成18年度雑誌受入れ種類数
- 資料 8-2-①-6：視聴覚教材収蔵件数
- 資料 8-2-①-7：電子ジャーナルの定期購読やデータベースの利用サービス

## 資料 8-2-①-1：図書館委員会

○石川工業高等専門学校図書館委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校図書館規則に基づき、石川工業高等専門学校図書館委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 図書情報主事（図書館長）
- (2) 一般教育科において選出した教員 2人
- (3) 各専門学科において選出した教員 各1人
- (4) 総務課長
- (5) その他校長が必要と認める職員

(委員長等)

第3条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもってこれに充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の教職員の出席を求め意見を聴くことができる。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 図書館運営に関する事。
- (2) 図書の予算に関する事。
- (3) 図書の選定に関する事。
- (4) 視聴覚教室に関する事。
- (5) その他図書館に関する事。

(事務)

第5条 委員会の事務は、総務課において処理する。

(出典：石川高専規則集)

資料 8-2-①-2 : 平成18年度の図書館資料費執行計画

| 予算1名称     | 予算年度 | 予算額       | 決算額       |
|-----------|------|-----------|-----------|
| 図・機械推薦    | 2006 | 330,000   | 320,565   |
| 図・電気推薦    | 2006 | 330,000   | 343,784   |
| 図・環境推薦    | 2006 | 330,000   | 312,992   |
| 図・情報推薦    | 2006 | 330,000   | 314,396   |
| 図・建築推薦    | 2006 | 330,000   | 331,498   |
| 図・一般教育科推薦 | 2006 | 518,000   | 503,377   |
| 図・図書      | 2006 | 832,000   | 874,323   |
|           |      | 3,000,000 | 3,000,930 |

(出典：図書館保管資料)

資料 8-2-①-3 : 図書館蔵書件数

| 年度  | 図書     |       |        | 雑誌    |      |       |
|-----|--------|-------|--------|-------|------|-------|
|     | 和(冊)   | 洋(冊)  | 合計(冊)  | 和(冊)  | 洋(冊) | 合計(冊) |
| H16 | 63,568 | 9,519 | 73,087 | 1,089 | 298  | 1,387 |
| H17 | 64,396 | 9,554 | 73,950 | 1,152 | 305  | 1,457 |
| H18 | 68,719 | 9,745 | 78,464 | 1,173 | 319  | 1,492 |

(出典：図書館保管資料)

資料 8-2-①-4 : 視聴覚資料所蔵状況

| 年度             | LD<br>枚 | DVD<br>枚 | ビデオテープ<br>本 | CD<br>枚 | CR-ROM<br>DVD-ROM<br>枚 | カセットテープ<br>本 | レコード<br>枚 | 合計    | 増加数 |
|----------------|---------|----------|-------------|---------|------------------------|--------------|-----------|-------|-----|
| 2000 (H12) 未現在 | 773     | 46       | 234         | 448     | 26                     | 171          | 160       | 1,858 |     |
| 2001 (H13) 未現在 | 773     | 66       | 259         | 454     | 33                     | 171          | 160       | 1,916 | 58  |
| 2002 (H14) 未現在 | 773     | 129      | 275         | 461     | 33                     | 171          | 160       | 2,002 | 86  |
| 2003 (H15) 未現在 | 773     | 202      | 285         | 461     | 35                     | 171          | 160       | 2,087 | 85  |
| 2004 (H16) 未現在 | 773     | 255      | 290         | 461     | 37                     | 171          | 160       | 2,147 | 60  |
| 2005 (H17) 未現在 | 773     | 338      | 300         | 511     | 50                     | 171          | 160       | 2,303 | 156 |
| 2006 (H18) 未現在 | 773     | 433      | 300         | 532     | 52                     | 171          | 160       | 2,421 | 118 |

(出典：図書館保管資料)

## 資料 8-2-①-5 : 平成18年度雑誌受入れ種類数

| 純種類数  | 購入（純種）  |    |     | 寄贈（純種）  |   |     | 合計（純種）  |    |     |
|-------|---------|----|-----|---------|---|-----|---------|----|-----|
|       | 和       | 洋  | 合計  | 和       | 洋 | 合計  | 和       | 洋  | 合計  |
|       | 167     | 22 | 189 | 292     | 8 | 300 | 459     | 30 | 489 |
| 延べ種類数 | 購入（延べ種） |    |     | 寄贈（延べ種） |   |     | 合計（延べ種） |    |     |
|       | 和       | 洋  | 合計  | 和       | 洋 | 合計  | 和       | 洋  | 合計  |
|       | 187     | 22 | 209 | 292     | 8 | 300 | 479     | 30 | 509 |

(出典：図書館保管資料)

## 資料 8-2-①-6 : 文献複写規則

第1条 石川工業高等専門学校図書館における文献複写のうち職員の私費によるもの又は学生及び校外者の依頼にかかるものは、この規則の定めるところによる。

第2条 前条の文献複写は、教育又は研究の用に供することを目的とする場合に限り受託することができる。

第3条 文献複写を依頼しようとする者は、あらかじめ別紙様式の申込書を校長に提出しなければならない。

第4条 文献複写申込者は、文献複写料金を前納しなければならない。

2 一旦納付した料金は、いかなる理由があっても還付しない。

第5条 文献複写料金は、別表のとおりとする。

別表 文献複写料金表

| 種別              | 単位    | 料金  |     | 備考 |
|-----------------|-------|-----|-----|----|
|                 |       | 校内  | 校外  |    |
| 電子複写<br>(A3判以下) | 1枚につき | 20円 | 35円 |    |

(出典：石川高専規則集)

資料 8-2-①-7 : 電子ジャーナルの定期購読やデータベースの利用サービス

二次（検索型）データベース、電子ジャーナル（全文型）の整備状況

| 品名<br>(料金体系) | 二次データベース (Online) |                 |                    |                        |                |                    |                     | 全文型データベース (Online) |                                 |                        |                            |
|--------------|-------------------|-----------------|--------------------|------------------------|----------------|--------------------|---------------------|--------------------|---------------------------------|------------------------|----------------------------|
|              | JOIS<br>(従量制)     | JDream<br>(定額制) | NACSIS-IR<br>(従量制) | NACSIS-IR/ELS<br>(定額制) | CiNii<br>(定額制) | SweetScan<br>(定額制) | MathSciNet<br>(定額制) | AIP/APS<br>(定額制)   | SD (Science<br>Direct)<br>(定額制) | 聞蔵<br>(朝日新聞オ<br>ンライン版) | 北国新聞<br>「新聞デー<br>タ<br>ベース」 |
| 平成8年以前       | ○                 |                 | ○                  |                        |                |                    |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成 9年 1997   | ○                 |                 | ○                  |                        |                |                    |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成10年 1998   | ○                 |                 | ○                  |                        |                | ○                  |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成11年 1999   | ○                 |                 | ○                  |                        |                | ○                  |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成12年 2000   | ○                 |                 | ○                  |                        |                | ○                  |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成13年 2001   | ○                 |                 | ○                  |                        |                | ○                  |                     |                    |                                 |                        |                            |
| 平成14年 2002   | ○                 |                 | ○                  |                        |                | ○                  |                     | ○                  |                                 |                        |                            |
| 平成15年 2003   | ○                 |                 | ○                  | ○                      |                |                    |                     | ○                  | ○                               |                        |                            |
| 平成16年 2004   | ○                 | ○               | ○                  | ○                      |                |                    | ○                   | ○                  | ○                               |                        |                            |
| 平成17年 2005   | ○                 | ○               |                    |                        |                | ○                  | ○                   | ○                  | ○                               | ○ (10月～)               | ○ (10月～)                   |
| 平成18年 2006   | ○                 | ○               |                    |                        |                | ○                  | ○                   | ○                  | ○                               | ○                      | ○                          |

JDream, SweetScan, MathSciNet, AIP/APS, SD は長岡技大が窓口となって形成しているコンソーシアムに参加して利用している。  
 2002、2003年の MathSciNet, AIP/APS, SD 経費は利用を希望した教員の研究費から負担し、その他は図書館経費で支払った。  
 2004年のMathSciNet, AIP/APS, SD 経費は校長裁量経費で負担し、その他は図書館経費で支払った。  
 2005.4から、国立情報学研究所の「NACSIS-IR」「NACSIS-IR/ELS」は、新しい検索システム「CiNii」の名称で提供を開始した

(出典：図書館保管資料)

2) 図書館の利用状況

本校図書館の開館時間は図書館規則によって定められ、月～金曜日が 8:30～20:00、土曜日が 12:30～16:30（ただし、休業期間中は月～金曜日 8:30～17:15、土曜日休館）となっている（資料 8-2-①-8）。実際の開館日数（表の「内時間外」は時間外開館をした日数を示す）、貸出状況、視聴覚資料の利用状況（館内での利用のみ）は資料に示すとおりである（資料 8-2-①-9, 10）。

- 資料 8-2-①-8：図書館規則
- 資料 8-2-①-9：図書館利用状況
- 資料 8-2-①-10：視聴覚資料利用状況

## 資料 8-2-①-8 : 図書館規則

(趣旨)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校学則第11条に基づき、石川工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の管理運営に必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 図書館は、教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、保存し、主として石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員及び学生の利用に供するとともに、必要な学術情報を提供する。

(図書館資料)

第3条 図書館は、次の図書館資料（以下「図書」という。）を管理する。

- (1) 図書類
- (2) 視聴覚資料
- (3) 新聞、雑誌等逐次刊行物
- (4) 記録類
- (5) その他図書館資料として適当と認めるもの

(利用者の範囲)

第4条 図書館を利用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) 図書館の利用を申し出た一般の利用者

(休館日)

第5条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 春季・夏季・秋季・冬季及び学年末休業期間中の土曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- (4) 12月28日から翌年1月4日までの日（前号に掲げる日を除く。）
- (5) 校長が特に必要と認めた日

(開館時間)

第6条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日から金曜日まで 8時30分から20時まで
  - (2) 土曜日 12時30分から16時30分まで
- 2 前項の規定にかかわらず、春季・夏季・秋季・冬季及び学年末休業期間中の開館時間は、8時30分から17時15分までとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、図書館長が必要と認めたときは、臨時に開館時間を変更することができる。

(以下略)

(出典：石川高専規則集)

資料 8-1-①-9 : 図書館の利用状況

| 年度  | 開館日数 |      | 入館者数   |        | 貸出     |       |                 |
|-----|------|------|--------|--------|--------|-------|-----------------|
|     | 総日数  | 内時間外 | 総数     | 内時間外   | 冊数     | 人数    |                 |
| H16 | 277  | 208  | 59,755 | 10,140 | 10,434 | 5,302 | *8月は空調工事のため休館した |
| H17 | 256  | 210  | 60,853 | 10,818 | 10,368 | 5,001 |                 |
| H18 | 278  | 214  | 61,146 | 11,860 | 10,602 | 5,234 |                 |

(出典：図書館保管資料)

資料 8-2-①-10 : 視聴覚資料利用状況 (館内利用のみ)

| 年度   |       | LD  | DVD   | ビデオテープ | CD | CD-ROM<br>DVD-ROM | カセットテープ | レコード | 合計    |
|------|-------|-----|-------|--------|----|-------------------|---------|------|-------|
| 2004 | (H16) | 308 | 1,516 | 40     | 19 | 0                 | 0       | 0    | 1,883 |
| 2005 | (H17) | 94  | 907   | 21     | 7  | 0                 | 2       | 0    | 1,031 |
| 2006 | (H18) | 7   | 1,024 | 50     | 8  | 0                 | 0       | 0    | 1,089 |

(出典：図書館保管資料)

## 3) 図書、学術雑誌、視聴覚資料の活用状況

図書館の利用促進に向けた取組として図書館利用案内のリーフレットが発行されている(資料 8-2-①-11)。毎年入学時には新入学生向けの図書館利用方法の説明が行われるが、さらに図書館委員によるクラス別図書館利用ガイダンスも実施されている(資料 8-2-①-12)。さらに、図書館閲覧室の各テーブルに電子辞書を備え付け、図書利用の便を図っている。

一方、広報活動の一環として図書館報「灯火」が昭和52年度から毎年発行され、100号を突破するに至っている(資料 8-2-①-13, 14)。また、学生の読書活動を奨励するために企画された「文芸コンクール」も昭和58年から21年間にわたって企画・開催され、優秀な作品は校長表彰を受けるとともに毎年2月に発行される図書館報『灯火別冊』に掲載される(資料 8-2-①-15)。さらに学外者の図書館利用も行っており、図書館の利用促進が図られている(資料 8-2-①-16)。

- 資料 8-2-①-11 : 図書館利用案内リーフレット
- 資料 8-2-①-12 : 図書館利用ガイダンス資料
- 資料 8-2-①-13 : 図書館報『灯火』100号記念号
- 資料 8-2-①-14 : 文芸コンクール応募状況
- 資料 8-2-①-15 : 図書館報「灯火」別冊 (訪問調査時に提示)
- 資料 8-2-①-16 : 学外者の図書館の利用

資料 8-2-①-11：図書館利用案内リーフレット

**館内閲覧**

図書・雑誌は館内で自由に閲覧できますが、研究室等に貸出中になっている資料は、閲覧できない場合があります。最近3ヶ月分の新聞は図書館1階のロビーにあります。

**館外貸出**

**■借用**

図書、雑誌を借りたいときは、資料と一緒に学生証(教職員の場合は身分証明書)を閲覧カウンターに提示して下さい。返却が遅れている資料がある場合は借りることはできませんのでご注意ください。

館外に貸し出すことのできる資料の種類、期間、冊数は次のとおりです。

| 資料の種類   | 学生    |       | 教職員         |       |
|---------|-------|-------|-------------|-------|
|         | 期間    | 冊数    | 期間          | 冊数    |
| 一般図書*   | 14日以内 | 10冊以内 | 14日以内       | 10冊以内 |
| 雑誌**    | 7日以内  | 10冊以内 | 7日以内        | 10冊以内 |
| 参考図書**  | 1日以内  | 3冊以内  | 1日以内        | 3冊以内  |
| 視聴覚資料   | 館内利用  | 1点    | 必要な期間       | 必要な数  |
| 卒業研究用貸出 | 60日以内 | 3冊以内  | (卒業生・修了生のみ) |       |

\* 休業期間中には長期貸出を行っています。

\*\* 新着雑誌や参考図書の貸出は、放課後から翌日9時までです。

**■返却**

資料を返却するときは閲覧カウンターに置いておくだけで結構です。図書館閉館中に返却する場合は、入口のブックポストに入れて下さい。

**■貸出期間の更新**

借用中の図書は、予約者がいなければ継続して借りることができます。資料を閲覧カウンターまで持ってきて下さい。

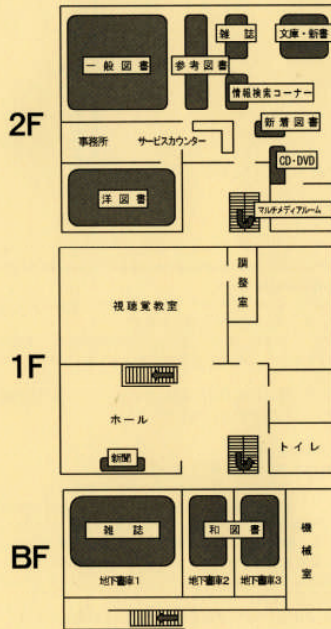
**■予約**

利用したい本が貸出中になっている場合は、予約することができます。閲覧カウンターに申し込んで下さい。

**■紛失した場合**

借用した資料を紛失、破損、汚損したときは、閲覧カウンターまで申し出て下さい。同一資料で弁償していただきます。

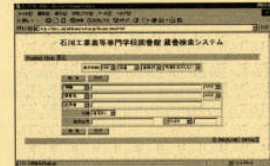
**館内案内図**



書庫に入りたい時は閲覧カウンターに申し込んで下さい。

**資料の探し方**

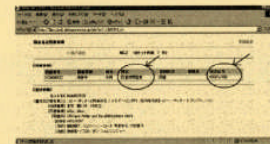
石川高専で所蔵している図書・雑誌はオンライン目録(OPAC)で検索できます。図書館ホームページから接続すると次のような画面が表示されますので、検索枠の中に検索したい言葉を入れて「検索」ボタンを押して下さい。



■ 図書・雑誌、視聴覚資料を同時に検索できます。

■ 書名の中の単語やフレーズ、著者名、出版者名、ISBN などいろいろな項目から検索することができます。書名、著者名は漢字でもヨミでも探せます。外国人の場合は原綴でも探せます。

■ 本は「背」のラベルに書いてある「請求記号」の順に並んでいます。検索結果の「所在」と「請求記号」欄を見て探して下さい。例えば、『ハリー・ポッターと賢者の石』の場合は「閲覧室」「933/Ro78/1」(英米文学)の書架にあります。



**文献検索**

■ 論文検索: CiNii, JDreamII, MathSciNet

■ 電子ジャーナル: SD(Science Direct), AIP/APS

■ 新聞データベース: 北國新聞, 朝日新聞

\* 校内のパソコンから接続して下さい。

\* 図書館ホームページにリンクがあります。

(出典：図書館保管資料)

## 資料 8-2-①-12 : 図書館利用ガイダンス資料

新入生の皆さんへ (2007.4)

入学おめでとうございます。図書館の簡単な説明をします。

これからは、宿題をしたり、調べ物をしたり、リラックスしたり…、お昼休みや放課後、土曜日の午後などにどんどん利用してください。

1. 本の「背」に貼ってあるラベルは何？

- ・ラベルの数字には意味があります（裏面を見てください）。

2. 文庫本、新書、雑誌、新着図書はまとめて置いています。

3. 視聴覚資料もたくさんあります。

- ・CDは貸出できます。
- ・VT(Video Tape), LD(Laser Disc), DVDは図書館のマルチメディアルームで見てください。

4. 新聞は1階のホールにあります。

- ・北陸中日新聞、北国新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、Fuji Sankei Business I, Herald Tribune(ヘラルト トリビューン)があります。朝刊のみです。
- ・北国新聞、朝日新聞はインターネットで読むこともできます。北国新聞は「縮刷版」もあります。

5. インターネットで本探し、図書館ホームページを活用して下さい。

- ・石川高専にどんな本があるか、書名(本の題名)、著者名(本を書いた人)などから調べることができます。 - OPAC
- ・インターネットを使って、石川県立図書館や全国の大学図書館、国立国会図書館がどんな本を持っているか調べることができます。 - WebcatPlus, NDL-OPAC
- ・どんな本が売られているかも調べることができます。 - Books.or.jp など
- ・どんな論文が、どんな雑誌に発表されたかも調べることができます。 - JDreamII, CiNii など

6. 石川県立図書館や市町村立図書館から本を借りる。

- ・インターネットで調べて読みたい本があったら、毎週金曜日に県立図書館から届きます。無料ですが、人気のある本はなかなか借りることができません。

7. 読みたい本があったらリクエスト！

- ・高専図書館に置いて欲しい本があったら、「リクエスト用紙」に書いてカウンターまで届けてください。先生と相談して、予算が許す範囲内で購入します。

8. 文芸コンクールがあります。

- ・毎年「文芸コンクール」を行っています。夏休み前にテーマを発表しますので、奮ってご参加ください。

9. 無線 LAN が使えます。

- ・図書館には無線 LAN のアクセスポイントが設置されています。情報処理センターで登録されたパソコンなら無線 LAN が利用できます。動作音などに気をつけてどんどん利用してください。

10. コピーをする時はご注意！

- ・「著作権」という言葉を聞いた事がありますか？ 本を丸ごと1冊コピーするのは法律違反ですから、一部分だけにしてください。

(以下略)

(出典：図書館保管資料)



資料 8-2-①-13 : 図書館報『灯火』100号記念号

## 巻頭言

一〇〇号に感謝する

石川高専図書館報『灯火』が本号で一〇〇号を迎えた。創刊は、昭和五二年（一九七七）一月二〇日である。創刊号は、「石川高専図書館報」という誌名で、『灯火』の名がついたのは、同年度三月三日発行の第二号からである。足かけ三〇年の間、本校の図書館とその利用者をつなぐ役割を果たしてきたことになる。

この間に、図書館をとりまく環境も、大きく変化してきた。それにともなつて、広報活動にも、新しい方法が次々と展開されてきたのである。そうした中で、いわゆる活字印刷の誌面が、一〇〇号まで脈々と続いてきた意義は大きい。これまでの関係者みなさんのご労苦を多とし、改めて感謝したい。

## 新しい時代の広報をめざして

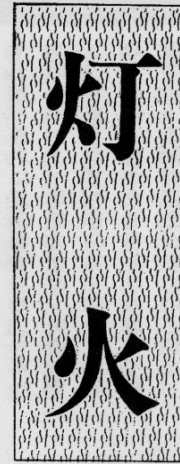
—『灯火』一〇〇号に寄せて—

図書館長 高島 要

### 新しい時代の中で

本誌の創刊号の「創刊の辞」には、「図書館と利用者とは密接なるコミュニケーションを築いていくために館報をお届けする」という趣旨のことが述べられている。館報は、図書館からの情報発信であると同時に、利用者の声を受け止め、それを伝える意義ももっている。そして、このことは今も勿論変わらない。利用者の中から、何を、どう広報していくか。図書館のあり方を含めて、そこに広報活動の絶え間ない課題がある。

この三〇年の間の最大の変化は、電子メディアの普及である。図書館でも、今やホームページや電子メールによる広報活動は、一日として停止できない重要なものとなった。さらに、各種デー



第 100 号

2006年2月24日

発行者

石川工業高等専門学校

図書館

〒929-0392

石川県河北郡津幡町

北中条タ1

TEL: 076-288-8015

FAX: 076-288-4130

e-mail: tosy0@ishikawa-nct.ac.jp

http://www.ishikawa-nct.ac.jp/tosyo/

(出典：図書館報『灯火』100号記念号)

資料 8-2-①-14 : 文芸コンクール応募状況

| 年度   | 回数   | 応募数 | 二次<br>審査 | 入賞数 |    |      |      |    | 灯火別冊     |      |
|------|------|-----|----------|-----|----|------|------|----|----------|------|
|      |      |     |          | 最優秀 | 優秀 | 佳作   | 館長賞  | 計  |          |      |
| S 58 | 1983 | 1   | ?        |     | 3  |      |      | 5  | 灯火32, 33 |      |
| S 59 | 1984 |     |          |     |    |      |      |    |          |      |
| S 60 | 1985 | 2   | 50?      |     | 4  |      |      | 15 | 1        |      |
| S 61 | 1986 | 3   | 80?      | 2   | 1  | (12) |      | 15 | 2        |      |
| S 62 | 1987 | 4   | 78       | 3   | 4  | (18) |      | 25 | 3        |      |
| S 63 | 1988 | 5   | 70       | 23  | 4  | 5    | (14) | 23 | 4        |      |
| H 01 | 1989 | 6   | 52       |     | 4  | 5    | (14) | 23 | 5        |      |
| H 02 | 1990 | 7   | 60       |     | 4  | 5    | (10) | 19 | 6        |      |
| H 03 | 1991 | 8   | ?        |     | 5  | 7    | (11) | 23 | 7        |      |
| H 04 | 1992 | 9   | ?        |     | 4  | 3    | (9)  | 16 | 8        |      |
| H 05 | 1993 | 10  | 49       |     | 4  | 4    | (11) | 19 | 9        |      |
| H 06 | 1994 | 11  | 37       |     | 3  | 5    | 8    | 1  | 17       | 10   |
| H 07 | 1995 | 12  | 70       |     | 2  | 5    | 14   |    | 21       | 11   |
| H 08 | 1996 | 13  | 57       | 33  | 2  | 5    | 11   |    | 18       | 12   |
| H 09 | 1997 | 14  | 85       | 34  | 2  | 7    | 11   |    | 20       | 13   |
| H 10 | 1998 | 15  | 34       | 25  | 1  | 7    | 11   |    | 19       | 14   |
| H 11 | 1999 | 16  | 80       | 30  | 3  | 6    | 11   |    | 20       | 15   |
| H 12 | 2000 | 17  | 13       | 13  | 2  | 1    | 2    |    | 5        | 灯火90 |
| H 13 | 2001 | 18  | 91       | 16  | 2  | 7    | 7    |    | 16       | 16   |
| H 14 | 2002 | 19  | 35       | 20  | 2  | 6    | 7    |    | 15       | 17   |
| H 15 | 2003 | 20  | 39       | 19  | 2  | 7    | 7    |    | 16       | 18   |
| H 16 | 2004 | 21  | 61       | 23  | 2  | 4    | 14   |    | 20       | 19   |
| H 17 | 2005 | 22  | 137      | 47  | 2  | 10   | 5    |    | 17       | 20   |
| H 18 | 2006 | 23  | 129      | 44  | 2  | 3    | 12   |    | 17       | 21   |

(出典：図書館保管資料)

資料 8-2-①-15 : 図書館報『灯火』別冊

(訪問調査時に提示)

(出典：図書館保管資料)

## 資料 8-2-①-16 : 学外者の図書館の利用

(趣旨及び目的)

第1条 この内規は、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育及び研究に使用のない範囲内で、石川工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）を一般市民等の利用に供するため、その利用について必要な事項を定める。

(利用者の範囲)

第2条 この内規にいう一般市民等とは、石川工業高等専門学校図書館規則（以下「図書館規則」という。）第3条第3号に定める「本校以外の者で調査研究を目的としている者」（以下「利用者」という。）のことをいう。

(入館)

第3条 利用者は、図書館の受付で氏名を校外者記入簿に記入して入館することができる。

(利用の範囲)

第4条 利用者は、館内では以下のサービスを利用できるものとする。

- (1) 図書館所蔵資料の館内閲覧
- (2) 図書館所蔵資料の複写
- (3) 参考調査質問
- (4) 検索用端末の利用
- (5) 視聴覚資料の館内での鑑賞

(館外貸出)

第5条 利用者は、図書館所蔵資料の館外貸出を希望する場合には、図書館貸出券の発行を申請しなければならない。

2 図書館貸出券は、以下の利用者に発行することができる。

- (1) 本校卒業生及び元教職員
- (2) 津幡町立図書館の利用者
- (3) 本校教職員の紹介状を持つ者
- (4) 金沢地区大学図書館協議会共通閲覧証を持つ利用者

3 図書貸出券の発行に関し、それぞれ身分の確認を行うものとする。

- (1) 本校卒業生及び元教職員  
同窓会名簿及び元教職員の指名が掲載されている職員録
- (2) 津幡町立図書館の利用者  
津幡町立図書館の図書館利用券及び公的機関発行の身分証明書（運転免許証、健康保険証等）等現住所及び責任の所在が確認できる書類
- (3) 本校職員発行の紹介状を持つ者  
当該紹介状
- (4) 金沢地区大学図書館協議会共通閲覧証を持つ利用者  
当該閲覧証

4 図書貸出券の有効期限は、利用を許可した年度内とする。

(以下略)

(出典：図書館一般市民等利用内規)

## 4) 学生および教員による図書館満足度調査

図書館委員会では本校教職員および学生に対して図書館に対するアンケート調査を行い、その結果をまとめた（資料 8-2-①-17～19）。全体としては高い満足度を示したものの、専攻科課程の学生だけはやや満足度が低いという結果を得た。この点についてはその理由を調べて的確な対応が望まれる。

- 資料 8-2-①-17：在学生の図書館満足度調査項目
- 資料 8-2-①-18：教員の図書館満足度調査項目
- 資料 8-1-①-19：図書館満足度調査結果

## 資料 8-2-①-17：在学生の図書館満足度調査項目

(4.2) 教育・研究を行う上で、図書館の蔵書や資料の整備状況に満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

(4.3) 電子ジャーナルの閲覧など図書館の検索システムの整備状況に満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

(出典：在校生アンケート)

## 資料 8-2-①-18：教員の図書館満足度調査項目

15 図書館の蔵書や資料などに満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

16 電子ジャーナルの閲覧などを含む図書館の検索システムに満足していますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 不満である    | 2. やや不満である |
| 3. やや満足している | 4. 満足している  |

(出典：教員アンケート)

## 資料 8-2-①-19：図書館満足度調査結果

学生アンケート結果

| 学生         | 1年   | 2年   | 3年   | 4年   | 5年   | 準学士課程 | 専攻科課程 |
|------------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 図書蔵書満足     | 3.33 | 2.90 | 2.70 | 2.82 | 2.71 | 2.95  | 2.45  |
| 図書検索システム満足 | 3.36 | 2.95 | 2.78 | 2.89 | 2.64 | 2.64  | 2.81  |

教員アンケート結果

|     |          | 常勤 |    |    |    | 合計 | 平均   |
|-----|----------|----|----|----|----|----|------|
|     |          | 1  | 2  | 3  | 4  |    |      |
| 4.2 | 図書等整備    | 3  | 18 | 25 | 20 | 66 | 2.94 |
| 4.3 | 検索システム整備 | 3  | 9  | 28 | 26 | 66 | 3.17 |

(出典：教員・在学生アンケート結果)

(分析結果とその根拠理由)

図書館の運営は総務課図書係と図書情報主事所轄の図書館委員会の連携によって運営されている。図書館の基本である図書資料の購入は、教員の教育研究の必要性に応じた各学科の推薦に基づいて、さらに学生の希望に応じて図書館委員会によって決定されており、高等専門学校として技術者教育および研究に必要とされる十分な数および内容の図書資料が整備されている。

図書館の開館日数、開館時間等も適切に保たれ、また、利用促進のための活動も活発に行われている。図書館の利用および電子ジャーナル等の検索システムの整備に関する調査では全体としては高い満足度を示したものの、専攻科課程の学生だけはやや満足度が低いという結果を得た。この点についてはその理由を調べて的確な対応が望まれる。

以上より図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- 各教室は狭隘化解消が図られ、すべての教室・研究室等に冷暖房設備、情報コンセント・アクセスポイント、液晶プロジェクター、スクリーン等の設置がなされ、教育環境の改善が図られるとともに、パソコンを利用した講義が実施されている。
- 情報処理演習室がセンター棟に設置されているのはもちろん、その他の校舎棟にセンターが管理する演習室が2室、計3室の演習室が設置され、3演習室に合計140台の最新の演習用パーソナルコンピュータが導入されている。これらは校内ネットワークの「高セキュリティギガビットイーサネットおよび無線LANシステム」に接続されている。
- 本校においては早くからセキュリティポリシーが制定され、平成18年度の改正を経て、現在に至っている。セキュリティポリシーはウェブ上で校内に公開され、その解説版として「情報セキュリティ 全校個人マニュアル」が教職員および学生に配布され周知徹底が図られている。
- 図書館利用ガイダンスの実施、利用案内の配布、広報誌の発行、文芸コンクールの実施など、さまざまな図書館利用の取組がさまざまな形で行われている。
- 平成17年度に閲覧室の閲覧机及び椅子、空調設備を全面的に更新、これに伴って天井や照明などの設備も一部更新され、利用しやすく明るく快適なものとなった。

(改善を要する点)

- 特になし。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の施設設備に関しては、学校配置図や施設設備の現況の説明から明らかなように、本校の教育目標達成にふさわしいものとして整備されている。特に、教室は先に行われた改修工事によって面積および耐震性はもちろん冷暖房設備や、プロジェクターの設置など充実した教育環境として整備されている。また、情報処理センターや図書館等共同利用施設についても設備の充実が図られ、有効に活用されている。また、その他の特別教室等には、授業はもちろん学生の課外活動あるいは講演会などに利用されている。

バリアフリー化にあつては、トリアル棟入りロスロープ、自動ドア、エレベーターの設置のほか、各専門学科棟玄関のスロープ化を施しており、施設のバリアフリー化に順次取り組んでいる。また、入学時における障害を持つ学生に関する情報を関係する職員で共有し、支援体制を構築している。

本校にはギガビットイーサネットが完備し、校内全域において無線 LAN が利用可能になっている。このネットワークは情報処理センター委員会が管理しており、Scinet と 100M という非常に高速な接続を実現している。またそのセキュリティは情報ネットワークセキュリティ委員会が担当し、セキュリティ方針に沿って利用者のためのセキュリティマニュアルを配布している。

このネットワークは授業における各教室からの利用、授業および課外における情報処理演習室からの利用に供している。授業における利用率は秘奥に高く、3つの演習室はほとんど空き時間がないほどである。利用に対する便宜としてインターネットマナー集『すまいる』を発行し、また、ホームページには利用案内、学外向けe-ラーニングシステム、各種マニュアル、各種案内などが揃っている。

ネットワークの完備状況に対する学生アンケート、教員アンケートでは、教員に比べると学生の満足度はやや落ちるものの、全体としては満足度が高いという結果を得た。

図書館の運営は総務課図書係と図書情報主事所轄の図書館委員会の連携によって運営されている。図書館の基本である図書資料の購入は、教員の教育研究の必要性に応じた各学科の推薦に基づいて、さらに学生の希望に応じて図書館委員会によって決定されており、高等専門学校として技術者教育および研究に必要とされる十分な数および内容の図書資料が整備されている。

図書館の開館日数、開館時間等も適切に保たれ、また、利用促進のための活動も活発に行われている。図書館の利用および電子ジャーナル等の検索システムの整備に関する調査では全体としては高い満足度を示したものの、専攻科課程の学生だけはやや満足度が低いという結果を得ており、この点については的確な対応が望まれる。

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

教育活動の実態を示すデータや資料として、授業の計画と実施に関するもの(シラバス、成績評価資料など)、学生の活動に関するもの(課外活動、進路状況など)、教員に関するもの(授業評価アンケート、研究活動など)、学校の体制に関するもの(教育課程、入学試験など)を挙げる。

#### 1) 授業関係の教育活動の実態を示す資料やデータの収集・蓄積

授業の計画と実施に関するものとしては、シラバス、教科書、配付資料、学生による授業評価アンケート結果などがある。シラバスは教務委員会が所管し、次年度が始まる 2、3 ヶ月前に、各教員が学内ウェブ上に構築されたシラバス入力システムにより担当科目のシラバスを入力する。入力されたシラバスは自動的に収集・蓄積され、ウェブページ上で公開されている(資料 9-1-①-1~3)。シラバスに示された教科書は担当教員の協力によって図書館に配架され、他の教員および学生が必要に応じて参考とすることができる。授業配付資料のうち重要なものは成績評価エビデンスとともに保管されるが、基本的には各教員が保管している。また学生による授業評価アンケート結果は教務係が保管・学内のウェブページに掲示され、学科ごと(一般教育科は科目ごと)に閲覧可能となっている(資料 9-1-①-4)。

成績の評価に関するものは、成績評価エビデンスとして教務係が管理している。成績評価エビデンスの収集方法は全教員に周知されている(資料 9-1-①-5)。概略は次のとおり。

#### A. 成績評価表

#### B. 成績評価の配点ごとに評価方法が分かる資料(下記はその詳細)

定期試験問題とその模範回答、採点方法を示す答案サンプル

小テストの問題とその模範回答(採点方法が明白なものは答案サンプルは必要としない)

レポート・製図作品などの課題の内容とその採点方法が分かる資料

学生の学習達成度(成績)に関するものは学生課教務係が保管している。成績と出欠状況は、各教員が定期試験終了後、ウェブ上に構築された教務事務管理システムにより入力し、自動的に蓄積・収集されるようになっている。進級・卒業・修了認定はそれぞれ、その結果を受けて進級判定会議、卒業判定会議、専攻科の修了判定会議が行われるが、その資料は学生課教務係で作成・保管される。

各教員から提出されたシラバスのチェックは、学習目標の設定に関することは認証評価部会、成績評価に関することはJABEE部会、その他の項目に関することは教務委員会が担当する。学生による授業評価アンケートは年2回、FD委員会の所管においてに行われる(平成18年度は前期、後期の終了時点)。また、成績評価のうち定期試験問題の妥当性については、FD委員会の所管で、定期試験問題を回覧・検討することによって相互チェックがなされる体制となっている。

- 資料 9-1-①-1：シラバス作成に関する資料
- 資料 9-1-①-2：シラバスの公開と蓄積状況
- 資料 9-1-①-3：シラバス（訪問調査時に提示）
- 資料 9-1-①-4：教科書（訪問調査時に提示）
- 資料 9-1-①-5：成績評価資料（成績エビデンス）の収集方法

#### 資料 9-1-①-1：シラバス作成に関する資料

##### 平成19年度シラバス原稿作成要領

原稿作成にあたっては、シラバスシステムマニュアル（ログイン後、出力可能です。）を参照のうえ、以下の事項に留意ください。

なお、詳細について不明な点がありましたら、項目2・3については認証評価部会委員又はJABEE部会委員、項目8の数学科目については教員間ネットワーク委員会委員、全般については教務委員会委員又は教務係にお問合せください。

#### 1. 記載全般について

①シラバスは、授業方法や成績評価に関して学校と学生との間に交わされる契約内容を示すものです。学生が誤って理解することのないよう曖昧な記述、表現は避けてください。

②作成にあたり、当該科目に対応する学習目標は、次の資料を参照してください。

（サイボウズに掲載しております。サイボウズ→ファイル管理→教務関連→シラバス作成資料）

- i. 準学士課程（本科）の学習目標 『教育課程－学習目標対応表』
- ii. 専攻科課程の学習目標 『創造工学プログラムの科目と教育目標との対応表』  
（創造工学プログラムの教育目標）

- ・ 1年次～3年次 平成22年度専攻科入学者用
- ・ 4年次・5年次、専攻科1年次 平成19年度専攻科入学者用
- ・ 専攻科2年次 平成18年度専攻科入学者用

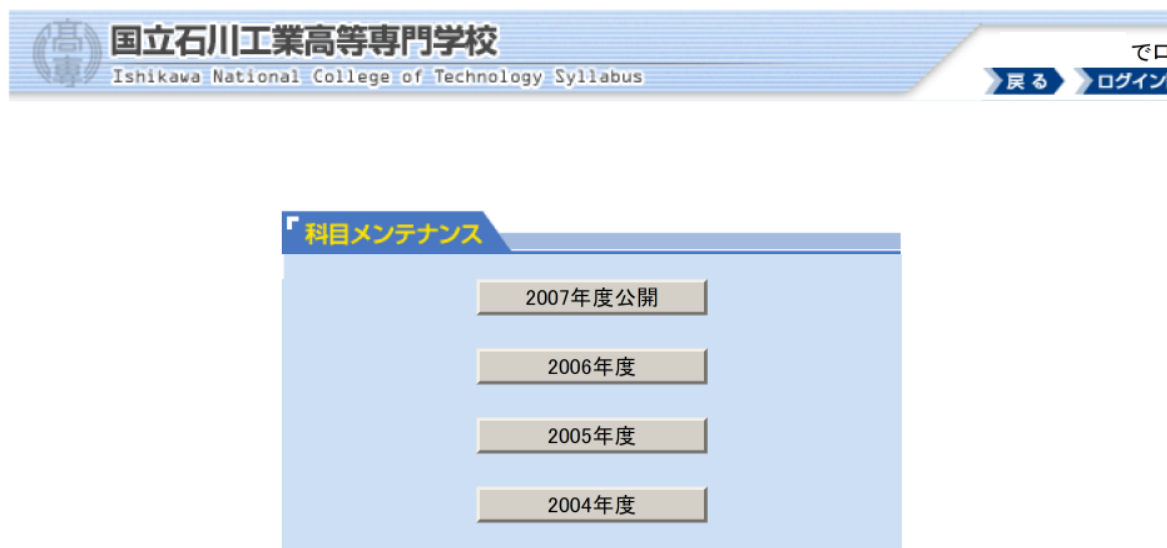
③「単位数」欄に単位の名称が表示されますので、確認の上シラバスを作成してください（「学修単位」又は「履修単位」）。なお、専攻科の科目については表示されません。

④各項目には、文字数制限があります。半角は、0.5文字となります。

（出典：シラバス原稿作成要領）



資料 9-1-①-2 : シラバス公開と蓄積状況



(出典：石川高専ホームページ)

資料 9-1-①-3 : シラバス

(訪問調査時に提示)

(出典：学生課保管資料)

資料 9-1-①-4 : 教科書

(訪問調査時に提示)

(出典：図書館・担当教員教員室)

## 資料 9-1-①-5：成績評価資料（成績エビデンス）の収集方法

| ◎授業科目の達成度評価のエビデンス                                     |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 該当科目                                                  | 創造工学プログラムの開講科目                                                                                                                                                                                            | 左記以外の科目                                                                                          |
| シラバス                                                  | ・シラバス（授業内容のわかる資料）                                                                                                                                                                                         | ・シラバス（授業内容のわかる資料）                                                                                |
| 定期試験                                                  | ・試験問題<br>・模範解答（配点を明記すること）<br>・合格最低レベル（Cレベル：60～69点）の答案用紙、又はそのコピーを全部（合格最低レベルが無い場合、上位レベルを数部提出）<br>・S、A、B、Dレベルの答案用紙、又はそのコピーを各1部ずつ（該当がない場合は不要）<br>50点以上の最低得点の答案を含むこと。<br>（注）保管は別の媒体でも可能だが実地審査時にはプリントアウトして紙で提示。 | ・試験問題<br>・模範解答（配点を明記すること）<br>・S、A、B、C、Dレベルの答案用紙、又はそのコピーを各1部ずつ（該当がない場合は不要）<br>50点以上の最低得点の答案を含むこと。 |
| レポート                                                  | ・課題<br>・各課題における合格最低レベルのレポート・作品・製図等、又はそのコピーを全部（合格最低レベルが無い場合、上位レベルを数部提出）<br>・S、A、B、Dレベルのレポート・作品・製図等、又はそのコピーを1部ずつ（該当がない場合は不要）<br>（注）達成度評価の割合が小さい場合、数部でも良い                                                    | ・課題<br>・レポート・作品・製図・実験・実習レポート、又はそのコピーを採点基準が分かるよう適宜数部ずつ                                            |
| 作品・製図<br>実験・実習レポート                                    | （注）製図図面、建築模型等で提出が困難な場合は、写真としてプリントアウトしたものや電子ファイルを整理して提出。なお、現物はできる限り数部保管。                                                                                                                                   |                                                                                                  |
| 小テスト                                                  | ・テスト問題<br>・各テストにおける合格最低レベルの答案用紙、又はそのコピーを全部（合格最低レベルが無い場合、上位レベルを数部提出）<br>（注）達成度評価の割合が小さい場合、テスト問題のみを提出                                                                                                       | ・テスト問題                                                                                           |
| 授業への取組方                                               | ・取組方の評価方法（宿題なども含む。教員手帳の該当部分のコピーなど）                                                                                                                                                                        | ・取組方の評価方法（宿題なども含む。教員手帳の該当部分のコピーなど）                                                               |
| 卒業研究<br>特別研究<br>創造工学演習Ⅱ（前期）<br>創造工学演習Ⅰ<br>創造工学演習Ⅱ（後期） | ・概要、報告書<br>・成績評価項目毎に評価した記録の成績一覧表<br>・発表状況（発表状況は、写真や電子ファイルで残す）<br>（注）卒業研究は各科で、特別研究・創造工学演習は専攻主任でまとめる                                                                                                        |                                                                                                  |
| 成績一覧表                                                 | ・ガイダンスの資料<br>・シラバス（15週の授業内容のわかる資料）<br>・成績の算出方法が分かる計算式を一覧表に明示する<br>（注）シラバスに記されている割合であること<br>（注）一覧表は出席番号順で表示、学生名は消してもよい                                                                                     |                                                                                                  |
| 作成時間と保存期間                                             | ・春期休業終了時までに教務係に提出、最近の2年間分を保存                                                                                                                                                                              |                                                                                                  |
| ファイリング方法                                              | ・ファイリングの方法の詳細とチェックシートは、サイボウズの「教務関連」に掲載<br>（注）チェックシートは、各自で印刷またはダウンロードする                                                                                                                                    |                                                                                                  |
| 実地審査                                                  | ・教科書<br>・副教材<br>・授業ノート、配布資料<br>・卒業論文、修了論文                                                                                                                                                                 |                                                                                                  |

(出典：教務係保管資料)

## 2) その他のデータや資料の収集と蓄積

課外活動の状況、進学や就職に関する状況、奨学金や授業料免除に関する事など、学生の活動に関するものは主として学生課学生係が収集・蓄積している。

教員に関するものはその種類によって異なる。授業評価アンケートはFD委員会の主導で行われ、学生課教務係が資料を保管、公開している。科研費取得状況や研究論文発表状況などの研究活動のデータは総務課総務係が収集・保管している。授業の工夫や配付資料などについては明確な取り決めはなく、各教員室に収集・保管している。

学習目標やアドミッション・ポリシーの制定は総合企画会議、主任会議を経て決められるが、審議過程を示す議事録は同会議の担当である総務課総務係が保管している。教育課程や入学試験の体制などの案件も同様である。それに関連して、卒業・修了生、就職先企業関係者、卒業・修了予定者、教員、在学生などに対するアンケート結果など、自己点検評価、JABEE、認証評価に必要な資料収集は総務課企画室が収集・蓄積を行っている。また、外部有識者による運営協議会の資料および教育業績評価委員会による教員の評価に関する資料は総務課が収集・蓄積を行っている。また学位授与機構による専攻科審査に対する資料収集は専攻科委員会がその役割を担っている。

## 3) 教育活動の評価を行う体制

基本的には将来構想計画委員会が各種の評価を行うが、それぞれ評価によって別の部会が担当している。各委員会の役割の概要はつぎの通りである（資料 9-1-①-6～13）。

|              |                                     |
|--------------|-------------------------------------|
| 将来構想計画委員会    | 点検評価に関係する部会・委員会からの自己点検評価に基づき、総合的に評価 |
| 中期計画・評価部会    | 高専機構の中期計画の視点から評価                    |
| 自己点検評価部会     | 校内の視点から総合的に評価                       |
| 認証評価部会       | 独立行政法人大学評価・学位授与機構の評価視点から総合的に評価      |
| JABEE部会      | JABEE の定める視点から総合的に評価                |
| 施設点検評価委員会    | 本校の施設・設備の有効利用という視点から評価              |
| FD委員会        | 教員の教育に関する資質と能力を高めるという視点から評価         |
| 教員間ネットワーク委員会 | 教員間の連携を推進し、教育効果の改善・向上を図るという視点から評価   |

- 資料 9-1-①-6：将来構想計画委員会の役割
- 資料 9-1-①-7：中期目標・中期計画部会の役割
- 資料 9-1-①-8：自己点検評価部会の役割
- 資料 9-1-①-9：認証評価部会の役割
- 資料 9-1-①-10：JABEE部会の役割
- 資料 9-1-①-11：施設点検評価委員会の役割
- 資料 9-1-①-12：FD委員会の役割
- 資料 9-1-①-13：教員間ネットワーク委員会の役割

## 資料 9-1-①-6：将来構想計画委員会の役割

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 戦略的 school 運営の企画・立案に関する事。
- (2) 教育研究の組織・編成に関する事。
- (3) 中期計画及び年度計画の策定に関する事。
- (4) 学校教育法に基づく認証評価に関する事。
- (5) 施設及び設備の拡充整備計画に関する事。
- (6) 社会貢献及び国際交流に関する事。
- (7) その他学校運営計画に関する事。

(部会)

第5条 委員会に、次の部会を置く。

- (1) 中期計画・評価部会
- (2) 自己点検評価部会
- (3) 認証評価部会
- (4) J A B E E 部会

(出典：将来構想計画委員会規則)

## 資料 9-1-①-7：中期目標・中期計画部会の役割

(任務)

第4条 部会は、次の事項を審議し、審議内容を委員会に報告する。

- (1) 中期計画及び年度計画の策定に関する事。
- (2) 中期計画及び年度計画の点検評価に関する事。
- (3) その他中期計画及び年度計画に関する事。

(出典：中期目標・中期計画部会規則)

## 資料 9-1-①-8：自己点検評価部会の役割

(審議事項)

第4条 部会は、次の各号に掲げる事項を審議し、審議内容を委員会に報告する。

- (1) 点検及び評価の基本方針に関する事。
- (2) 点検及び評価の具体的な実施方法に関する事。
- (3) 点検評価実施報告書の作成及び公表に関する事。
- (4) その他点検及び評価に関する事。

(出典：自己点検評価部会規則)

## 資料 9-1-①-9：認証評価部会の役割

## (審議事項)

第4条 部会は、次の各号に掲げる事項を審議し、審議内容を委員会に報告する。

- (1) 認証評価の受審に関すること。
- (2) 認証評価の評価基準に対する自己点検に関すること。
- (3) 5年ごとの認証評価を受けるためのデータベースの構築に関すること。
- (4) その他認証評価に関すること。

## (各種委員会への付託)

第5条 部会は、必要と認めた場合、認証評価の評価基準に対する自己点検について各種委員会に付託することができる。

(出典：認証評価部会規則)

## 資料 9-1-①-10：JABEE部会の役割

## (審議事項)

第4条 部会は、次の各号に掲げる事項を審議し、審議内容を石川工業高等専門学校将来構想計画委員会に報告する。

- (1) JABEE の認定審査に関すること。
- (2) JABEE 基準に対する自己点検に関すること。
- (3) その他 JABEE の認定・評価に関すること。

## (各種委員会への付託)

第5条 部会は、必要と認めた場合、JABEE 審査に必要な点検項目に対する資料等について各種委員会に付託することができる。

## (他の委員会との連携)

第6条 部会は、教務委員会及び専攻科委員会との連携を密にするものとする。

(出典：JABEE部会規則)

## 資料 9-1-①-11：施設点検評価委員会の役割

## (審議事項)

第4条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) 施設、設備、環境整備の点検・評価に関すること。
- (2) 施設、設備の有効活用に関すること。
- (3) 点検・評価等調査結果による使用面積の再配分等、校長に対する提言に関すること。
- (4) その他校長が必要と認めること。

(出典：施設点検評価委員会規則)

## 資料 9-1-①-12：FD委員会の役割

(任務)

第4条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 教育の資質向上に関する事。
- (2) 教育プログラムの学習・教育目標を達成させる仕組みの策定に関する事。
- (3) 教育プログラムの学習・教育目標を達成させる教育の実施に関する事。
- (4) 研修会及び講習会等によるFDの企画等に関する事。
- (5) 学外における研修会及び講習会への参加・報告に関する事。
- (6) FD報告書の作成に関する事。
- (7) その他、FDの推進及び教育改善に関する事。

(出典：FD委員会規則)

## 資料 9-1-①-13：教員間ネットワーク委員会の役割

(任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 専門科目と一般科目の連携を図ること。
- (2) 各専門基礎科目の連携を図ること。
- (3) 同系科目間の連携を図ること。
- (4) 非常勤講師との連携を図ること。
- (5) その他教員間ネットワークに関する事。

(出典：教員間ネットワーク委員会規則)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示すデータや資料は、授業の計画と実施に関するもの(シラバス、成績評価資料など)、学生の活動に関するもの(課外活動、進路状況など)、教員に関するもの(授業評価アンケート、研究活動など)、学校の体制に関するもの(教育課程、入学試験など)と分類され、それぞれの性質に応じて学生課教務係・学生係、総務課総務係・企画室を中心に、定められた部署が収集保管している。

また、収集・蓄積されたデータや資料に基づき、様々な視点から教育活動の実態を適切に評価できる体制が整備されている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。また、その評価を実施できる体制が十分整備されている。

**観点 9-1-②：** 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

1) 学生の意見の聴取の実施状況

本校では、学生による「授業方法改善のためのアンケート」を、年 2 回、全ての科目について実施している。これらのアンケートはFD委員会で集計され、各担当教員にフィードバックされている。集計結果は、自己点検評価報告書『明日へ向けて』でも報告される。

学生の満足度などに関する意見聴取は 4 月に行う。調査項目を資料として示す(資料 9-1-②-1, 2)。

これまでは学生の意見を聴取する具体的な活動は行われていなかったため、自己点検評価報告書の第 4 報まではそれに関する反映は行われていない。しかし、平成 19 年度中に発刊が予定されている第 5 報にはその結果と分析、およびその対策を記述することにし、その分析を急いでいる。授業評価アンケートはFD委員会が担当しており、その効果については後出の観点 9-2-①に示す。また学生の満足度調査に対する分析内容についてはすでに基準 7 で示したとおりであるので、ここでは集計結果のみを示す(資料 9-1-②-3)。

- 資料 9-1-②-1 : 授業評価アンケートの調査項目
- 資料 9-1-②-2 : 生活環境・生活支援に対する満足度調査項目
- 資料 9-1-②-3 : 生活環境・生活支援に対する満足度調査の集計結果

資料 9-1-②-1 : 授業評価アンケートの調査項目

|      |    |                 |
|------|----|-----------------|
| シラバス | 1  | 目的目標を把握できたか     |
| 授業法  | 2  | 教員の言葉は聞き取れたか    |
|      | 3  | 板書・OHP 等は見易かったか |
|      | 4  | 進め方の速さは適切か      |
|      | 5  | 質問し易い雰囲気だったか    |
|      | 6  | 理解度への配慮を感じたか    |
|      | 7  | 準備・工夫を感じたか      |
| 学修姿勢 | 8  | 自分は真剣に取り組んだか    |
|      | 9  | 学生全体の態度は        |
|      | 10 | 授業時間外の学修は       |
| 理解度  | 11 | 授業全体は理解できたか     |
| その他  | 12 | 知的刺激を受けましたか     |
|      | 13 | その他1            |
|      | 14 | その他2            |

(出典：教務係保管資料)

## 資料 9-1-②-2：生活環境・生活支援に対する満足度調査項目

## 3. 生活環境・生活支援について

- 7 図書館、情報処理センター演習室などの自習環境に満足していますか。
- 8 食堂、売店、自販機コーナーなどの厚生施設に満足していますか。
- 9 顧問、予算など課外活動（部活動）への支援に満足していますか。
- 10 学生会活動（球技大会・紀友祭など）への支援に満足していますか。
- 11 学生相談室や保健室など生活面に対する配慮に満足していますか。
- 12 奨学金制度や授業料免除制度があることを知っていますか。
- 13 情報処理センターの演習室の、パソコンやプリンタなどの機器の整備状況に満足していますか。
- 14 ウェブによる情報検索など情報ネットワークの整備状況に満足していますか。
- 15 図書館の蔵書や資料などに満足していますか。
- 16 電子ジャーナルの閲覧などを含む図書館の検索システムに満足していますか。

以上すべての項目は次のうちから選択して回答

1. 不満である    2. やや不満である    3. やや満足している    4. 満足している

（出典：学生アンケート調査項目，平成19年4月）

## 資料 9-1-②-3：生活環境・生活支援に対する満足度調査の集計結果

|            | 1年計  | 2年計  | 3年計  | 4年計  | 5年計  | 準学士課程 | 専攻科課程 |
|------------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 自習環境満足     | 3.49 | 2.98 | 2.78 | 2.73 | 2.39 | 2.9   | 2.5   |
| 厚生施設満足     | 3.50 | 3.00 | 2.76 | 2.84 | 2.64 | 3.0   | 2.7   |
| 課外活動支援     | 3.20 | 2.70 | 2.60 | 2.68 | 2.58 | 2.8   | ---   |
| 学生会活動      | 3.39 | 2.84 | 2.77 | 2.86 | 2.63 | 2.9   | ---   |
| 生活面配慮      | 3.22 | 2.88 | 2.91 | 2.98 | 2.85 | 3.0   | 2.8   |
| 経済的支援周知    | 0.81 | 0.92 | 0.90 | 0.91 | 0.91 | 89%   | 100%  |
| 情報センター設備満足 | 3.52 | 3.07 | 2.95 | 2.83 | 2.68 | 3.0   | 2.8   |
| ネットワーク検索満足 | 3.49 | 2.91 | 2.82 | 2.82 | 2.72 | 3.0   | 2.8   |
| 図書蔵書満足     | 3.33 | 2.90 | 2.70 | 2.82 | 2.71 | 2.9   | 2.5   |
| 図書検索システム満足 | 3.36 | 2.95 | 2.78 | 2.89 | 2.64 | 2.9   | 2.8   |

（出典：自己点検評価報告書第5報（予稿・抜粋））

## （分析結果とその根拠理由）

学生の意見聴取は、「授業方法改善のためのアンケート」として毎年2回全ての科目について実施されている。また、アンケートの集計結果は各教員にフィードバックされ、授業方法を改善してきている。学生の満足度調査も本年度から定期的に行われるようになり、集計結果は自己点検評価報告書で公開するなどして、情報開示にも積極的に取り組むことにしている。

以上のことから、学生の意見の聴取が適切に行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。



観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

1) 準学士課程卒業生、専攻科修了生の意見の聴取の実施状況

本校では、準学士課程の卒業生、専攻科修了生に対するアンケートを3年に1度の周期で行うこととし、最初のアンケートは平成18年12月（回収は翌年1月上旬）に実施した（資料 9-1-③-1～4）。併せて、そのアンケート結果も自己点検評価報告書に掲載することになっている。

このアンケート調査項目には学科構成や設定された学習目標の妥当性を問う項目や、また、卒業してから必要性を感じている教科目についての項目が含まれている。これらの意見に対する取組は将来構想計画委員会で検討されるが、本校の学習目標は平成18年3月に定められたものであることから、それらの見直しは少なくとも次回のアンケート結果を参考にしてからのことになろう。

ここでは学科・専攻の構成と学習目標の妥当性についてのアンケート結果を示す（資料 9-1-③-5）。

- 資料 9-1-③-1：準学士課程卒業生アンケートの調査項目
- 資料 9-1-③-2：専攻科課程修了生アンケートの調査項目
- 資料 9-1-③-3：準学士課程卒業生就職先企業関係者アンケートの調査項目
- 資料 9-1-③-4：専攻科課程卒業生就職先企業関係者アンケートの調査項目
- 資料 9-1-③-5：学外関係者の意見集計結果報告

## 資料 9-1-③-1：準学士課程卒業生アンケートの調査項目

2. 石川高専の学科構成についてどうお考えでしょうか。

1. 妥当な構成である
2. 時代に即応した新たな学科を作るべきである。

上記について具体的な意見がございましたらお寄せください。

( )

3. 石川高専の学習目標について

石川高専は卒業生が身に付けるべき学力、資質・能力として、次のような学習目標を掲げました。これらの学習目標は今年度に定められましたが、これらは石川高専が、長年にわたって養成すべきであると考えていることを明文化したものです。

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身に付ける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる

(3-1) 本校の学習目標についてどうお考えですか。

1. 妥当な目標である
2. 妥当な目標であるとはいえない

(3-2) 就職・進学している立場から、4つの学習目標のうち、どれがより身につけておくべきとお考えですか。重要と思われる順に2つだけ選び番号でお答えください。

1. もっとも身につけておきたい学習目標 ( )
2. 次に身につけておきたい学習目標 ( )

(3-3) 本校の学習目標以外に、是非とも身につけておくべきだと考える学力、能力・資質についてのご意見があればお書きください。(自由記述)

5. 石川高専のカリキュラムについて

次の中から選んで、該当する番号を○で囲んでください。

←現状でよい                      より充実すべき→

|          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 国語，社会    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 数学，理科    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 保健体育，芸術  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 英語       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 専門必修科目   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 実験，実習，製図 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 卒業研究     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 専門選択科目   | 1 | 2 | 3 | 4 |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 9-1-③-2：専攻科課程修了生アンケートの調査項目

2. 石川高専の専攻科は、現在、2つの専攻で構成されていますが、この構成についてどうお考えでしょうか。

1. 妥当な構成である
2. 時代に即応した新たな専攻を作るべきである。

上記について具体的な意見がございましたらお寄せください。（自由記述）

3. 石川高専専攻科の学習目標について

石川高専専攻科は修了生が身に付けるべき学力、資質・能力として、次のような学習目標を掲げております。

- A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。
- F. いくつかの工学の知識を修得し、幅広い考察ができる。

(3-1) 専攻科の学習目標についてどうお考えですか。

1. 妥当な目標である
2. 妥当な目標であるとはいえない

(3-2) 就職・進学している立場から、5つの学習目標のうち、どの目標をより身につけておくべきとお考えですか。重要と思われる順に2つだけ選びA～Eの記号でお答えください。

1. もっとも重要な学習目標 ( )
2. 次に重要な学習目標 ( )

(3-3) 本校専攻科の学習目標以外に、是非とも身につけておくべきだと考える学力、能力・資質についてのご意見があればお書きください。（自由記述）

5. 石川高専専攻科のカリキュラムについて

(5-1) 次の中から選んで、該当する番号を○で囲んでください。

←現状でよい                      より充実すべき→

|             |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|
| 専攻科一般科目     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 専門共通科目      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 専門展開科目      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 創造工学演習（Ⅱ）後期 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 特別研究        | 1 | 2 | 3 | 4 |

(5-2) 石川高専専攻科では、平成18年度から、専攻科1年生のインターンシップの期間を3ヶ月にしました。ご自身のインターンシップの経験ならびにその後の就職、進学の経験を踏まえて、インターンシップとして適切な期間を次の中から選んでください。

1. 2週間
2. 1ヶ月
3. 2ヶ月
4. 3ヶ月

（出典：総務課保管資料）

## 資料 9-1-③-3：準学士課程卒業生就職先企業関係者アンケートの調査項目

## 2. 石川高専の学科構成について

石川高専は機械工学科，電気工学科，電子情報工学科，環境都市工学科，建築学科から構成され，各学科とも定員は40名となっています。

(2-1) 貴社が最近3年間（平成15年度から17年度）に採用した卒業生の出身学科とその人数は何人ですか。

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. 機械工学科（           人） | 2. 電気工学科（           人） |
| 3. 電子情報工学科（       人）   | 4. 環境都市工学科（       人）   |
| 5. 建築学科（           人）  |                        |

(2.2) 石川高専の学科構成についてどうお考えでしょうか。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. 妥当な構成である | 2. 妥当な構成ではない |
|-------------|--------------|

上記について具体的な意見がございましたらお寄せください。（自由記述）

## 3. 石川高専の学習目標について

石川高専は卒業生が身に付けるべき学力，資質・能力として，次のような学習目標を掲げました。これらの学習目標は今年度に定められましたが，これらは石川高専が，長年にわたって養成すべきであると考えていることを明文化したものです。

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身に付ける。
2. 意欲的・実践的に，ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し，社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し，公正に意見を交換することができる

(3-1) 本校の学習目標についてどうお考えですか。

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1. 妥当な目標である | 2. 妥当な目標であるとはいえない |
|-------------|-------------------|

(3-2) 貴社としては，4つの学習目標のうち，どれを身に付けていることを望みますか。望む順に2つだけ選び番号でお答えください。

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. もっとも身に付けて欲しい学習目標（     ） | 2. 次に身に付けて欲しい学習目標（     ） |
|----------------------------|--------------------------|

(3-3) 企業として学生を採用する際に，本校の学習目標以外に望まれる学力，能力・資質についてのご意見があればお書きください。（自由記述）

（出典：総務課保管資料）



## 資料 9-1-③-5：学外関係者の意見集計結果報告

## 学科構成の妥当性

## 平成16年度準学士課程卒業生

|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| 妥当である     | 34 | 83% |
| 新たな学科作るべき | 7  | 17% |
| 合計        | 41 |     |

## 平成15～17年度専攻科修了生

|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| 妥当である     | 17 | 85% |
| 新たな専攻作るべき | 3  | 15% |
| 合計        | 20 |     |

## 専攻構成の妥当性

## 平成16年度準学士課程卒業生就職先企業

|           |     |     |
|-----------|-----|-----|
| 妥当である     | 99  | 98% |
| 新たな学科作るべき | 2   | 2%  |
| 合計        | 101 |     |

## 平成15～17年度専攻科修了生就職先企業

|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| 妥当である     | 20 | 95% |
| 新たな専攻作るべき | 1  | 5%  |
| 合計        | 21 |     |

## 準学士課程学習目標の評価

## 平成16年度準学士課程卒業生

|       |    |     |
|-------|----|-----|
| 妥当である | 40 | 95% |
| 妥当でない | 2  | 5%  |
| 合計    | 42 |     |

## 平成15～17年度専攻科修了生

|       |    |     |
|-------|----|-----|
| 妥当である | 17 | 89% |
| 妥当でない | 2  | 11% |
| 合計    | 19 |     |

## 専攻科課程学習目標の評価

## 平成16年度準学士課程卒業生就職先企業

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 妥当である | 101 | 99% |
| 妥当でない | 1   | 1%  |
| 合計    | 102 |     |

## 平成15～17年度専攻科修了生就職先企業

|       |    |      |
|-------|----|------|
| 妥当である | 23 | 100% |
| 妥当でない | 0  | 0%   |
| 合計    | 23 |      |

(出典：総務課保管資料)

## (分析結果とその根拠理由)

卒業生や進路先の企業からの意見の聴取を行っており、次に公開される自己点検評価報告書にはその結果が反映されることとなっている。

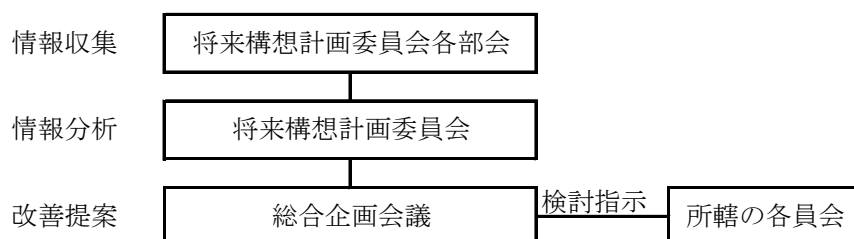
以上のことから、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

**観点 9-1-④：** 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

## (観点に係る状況)

1) 各種の評価の結果を教育の質の向上に結びつけるシステム

学生による満足度評価、学習目標達成度評価などの結果の集計とその分析、改善指示は基本的に次の手順による。



情報収集は関連する項目を所轄する将来構想計画委員会の下部組織である部会が行い、将来構想計画委員会に報告する。将来構想計画委員会ではその情報を分析し、必要であれば総合企画会議の検討事項として取り上げる運びとなる。この場合、将来構想計画委員会を開く必要がないと委員長（校長）が判断した事項は、そのまま総合企画会議で検討に入る場合もある。総合企画会議で改善の必要があると判断された事項は、所轄の主事を通じて委員会、さらには各学科の意見を求めた上で対策や改善策が検討され、主任会議を経て教員会議や学科会議で各教員に周知・実行される。

昨年度までの本校の教育改善システムは若干の不備があり、将来構想計画委員会の下部組織であるJABEE部会と認証評価部会によって検討され、修正された（資料 9-1-④-1, 2）。

- 資料 9-1-④-1：教育点検改善システムの修正についての提案書
- 資料 9-1-④-2：教育点検改善システム図

#### 資料 9-1-④-1：教育点検改善システムの修正についての提案書

平成 19 年 2 月 7 日

教育点検・改善システムについて

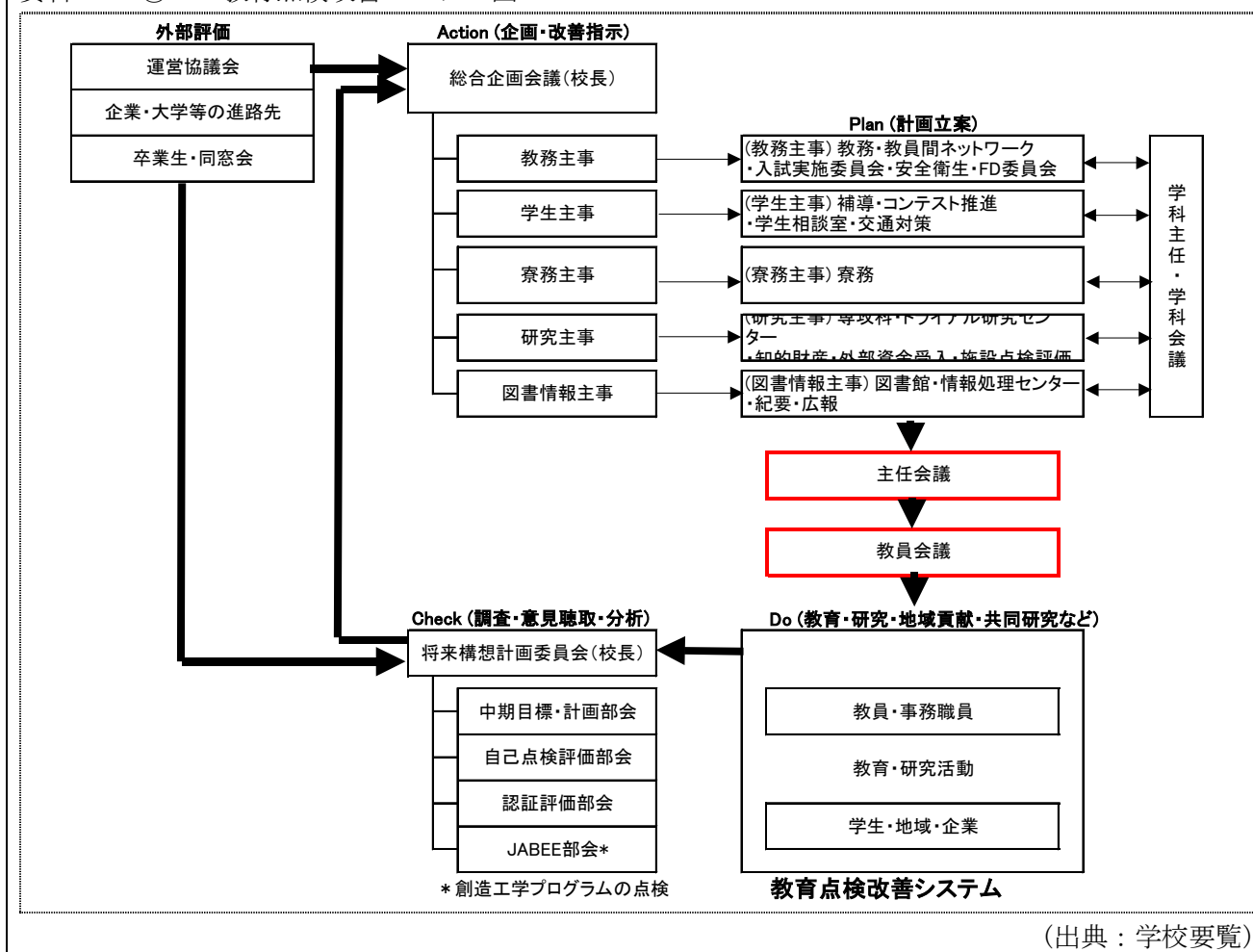
JABEE 部会・認証評価部会

昨年の JABEE 審査の結果、基準 6 に関して以下の指摘があった。このうち、役割と関連についてわかりにくいと指摘された教育改善システムについて見直しを行った。教育改善システムについては、HP、学校要覧等に開示されており、見直し後は、差し替えが必要となる。

なお、認証評価部会でも教育点検改善システムの提示が必要であり、見直しは両部会で共同で行った。

(出典：総務課保管資料)

資料 9-1-④-1：教育点検改善システム図



以上のシステムが実際に機能していることを 2 つの評価「卒業生・修了生および就職先企業からの教育課程の評価」および「卒業予定者・修了予定者による学習達成度評価」を受けての改善の動きを例にとって示す。

2) 学外関係者 (卒業生・修了生および就職先企業) からの教育課程の評価による改善

卒業・修了生および就職先企業を対象にして、本校の教育課程に関する調査を行ったのは平成 18 年 12 月である。ここではまずその結果を示し、それが将来構想計画委員会で報告された (資料 9-1-④-3, 4)。しかし、本校は近い将来に学科編成の改変等が行われる可能性があり、教育課程の変更はそれを待って行われることになっている。したがっていまの段階では、同調査結果を教育課程編成の参考にされるというに留める。

- 資料 9-1-④-3：学外関係者への教育課程に関する調査項目
- 資料 9-1-④-4：学外関係者の教育課程に関する調査結果



## 資料 9-1-④-3：学外関係者への教育課程に関する調査項目（準学士課程卒業生）

## 5. 石川高専のカリキュラムについて

次の中から選んで、該当する番号を○で囲んでください。

|          | ←現状でよい |   | より充実すべき→ |   |
|----------|--------|---|----------|---|
|          | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 国語，社会    | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 数学，理科    | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 保健体育，芸術  | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 英語       | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 専門必修科目   | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 実験，実習，製図 | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 卒業研究     | 1      | 2 | 3        | 4 |
| 専門選択科目   | 1      | 2 | 3        | 4 |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 9-1-④-4：学外関係者の教育課程に関する調査結果

## 準学士課程卒業生による科目の充実希望

| より充実させるべき科目群は | 1  | 2  | 3  | 4  | 合計 | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均  |
|---------------|----|----|----|----|----|------|------|------|------|-----|
| 国語，社会         | 14 | 8  | 12 | 6  | 40 | 0.35 | 0.20 | 0.30 | 0.15 | 2.3 |
| 数学，理科         | 15 | 10 | 10 | 5  | 40 | 0.38 | 0.25 | 0.25 | 0.13 | 2.1 |
| 保健体育，芸術       | 22 | 9  | 6  | 3  | 40 | 0.55 | 0.23 | 0.15 | 0.08 | 1.8 |
| 英語            | 5  | 7  | 9  | 19 | 40 | 0.13 | 0.18 | 0.23 | 0.48 | 3.1 |
| 専門必修科目        | 9  | 8  | 15 | 8  | 40 | 0.23 | 0.20 | 0.38 | 0.20 | 2.6 |
| 実験，実習，製図      | 12 | 6  | 12 | 10 | 40 | 0.30 | 0.15 | 0.30 | 0.25 | 2.5 |
| 卒業研究          | 7  | 5  | 18 | 10 | 40 | 0.18 | 0.13 | 0.45 | 0.25 | 2.8 |
| 専門選択科目        | 7  | 10 | 14 | 9  | 40 | 0.18 | 0.25 | 0.35 | 0.23 | 2.6 |

(出典：総務課保管資料)

## 3) 卒業・修了予定者による学習達成度評価による改善

次に卒業・修了予定者自身による学習達成度評価の結果を改善に結びつけるシステムの展開例を時系列で示す。

卒業・修了予定者による学習達成度評価は平成19年3月（卒業・修了証書授与式当日）に行われた（資料9-1-④-5, 6）。この結果は平成19年度の第1回将来構想計画委員会で報告され、各学科・各専攻において検討の必要があることが確認された（資料9-1-④-7）。これを受けて、主任会議に調査結果報告と検討の提案がなされた。学生による学習目標達成度評価は学科によって多少のずれがあり、各学科はその結果に対する対策を示すこととなった（資料9-1-④-8）。これを受けて、各学科での検討が行われ（資料9-1-④-9, 10）、主任会議において報告がなされた（資料9-1-④-11）。

- 資料9-1-④-5：卒業予定者による学習達成度評価結果
- 資料9-1-④-6：修了予定者による学習達成度評価結果
- 資料9-1-④-7：卒業・修了予定者による学習達成度評価結果の総合企画会議報告
- 資料9-1-④-8：主任会議における評価結果報告
- 資料9-1-④-9：学科による検討（機械工学科）
- 資料9-1-④-10：学科による検討（電子情報工学科）
- 資料9-1-④-11：主任会議における検討結果報告と協議

## 資料 9-1-④-5：卒業予定者による学習達成度評価結果

平成18年度準学士課程卒業予定者

合計・無効回答

| 5M | 1 | 2  | 3  | 4 | 40 |
|----|---|----|----|---|----|
| 1  | 1 | 11 | 22 | 6 | 0  |
| 2  | 1 | 4  | 27 | 8 | 0  |
| 3  | 1 | 9  | 21 | 9 | 0  |
| 4  | 1 | 12 | 18 | 9 | 0  |

| 5M | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.03 | 0.28 | 0.55 | 0.15 | 2.8 |
| 2  | 0.03 | 0.10 | 0.68 | 0.20 | 3.1 |
| 3  | 0.03 | 0.23 | 0.53 | 0.23 | 3.0 |
| 4  | 0.03 | 0.30 | 0.45 | 0.23 | 2.9 |

| 5E | 1 | 2  | 3  | 4 | 35 |
|----|---|----|----|---|----|
| 1  | 2 | 19 | 12 | 2 | 0  |
| 2  | 2 | 12 | 16 | 5 | 0  |
| 3  | 4 | 8  | 20 | 3 | 0  |
| 4  | 2 | 15 | 13 | 5 | 0  |

| 5E | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.06 | 0.54 | 0.34 | 0.06 | 2.4 |
| 2  | 0.06 | 0.34 | 0.46 | 0.14 | 2.7 |
| 3  | 0.11 | 0.23 | 0.57 | 0.09 | 2.6 |
| 4  | 0.06 | 0.43 | 0.37 | 0.14 | 2.6 |

| 5I | 1 | 2  | 3  | 4 | 36 |
|----|---|----|----|---|----|
| 1  | 4 | 12 | 19 | 1 | 0  |
| 2  | 2 | 10 | 20 | 4 | 0  |
| 3  | 2 | 12 | 18 | 4 | 0  |
| 4  | 2 | 17 | 15 | 2 | 0  |

| 5I | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.11 | 0.33 | 0.53 | 0.03 | 2.5 |
| 2  | 0.06 | 0.28 | 0.56 | 0.11 | 2.7 |
| 3  | 0.06 | 0.33 | 0.50 | 0.11 | 2.7 |
| 4  | 0.06 | 0.47 | 0.42 | 0.06 | 2.5 |

| 5C | 1 | 2  | 3  | 4 | 27 |
|----|---|----|----|---|----|
| 1  |   | 11 | 15 | 1 | 0  |
| 2  |   | 7  | 17 | 3 | 0  |
| 3  | 1 | 9  | 15 | 2 | 0  |
| 4  |   | 11 | 13 | 3 | 0  |

| 5C | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.00 | 0.41 | 0.56 | 0.04 | 2.6 |
| 2  | 0.00 | 0.26 | 0.63 | 0.11 | 2.9 |
| 3  | 0.04 | 0.33 | 0.56 | 0.07 | 2.7 |
| 4  | 0.00 | 0.41 | 0.48 | 0.11 | 2.7 |

| 5A | 1 | 2  | 3  | 4 | 41 |
|----|---|----|----|---|----|
| 1  | 2 | 15 | 22 | 2 | 0  |
| 2  |   | 14 | 22 | 4 | 1  |
| 3  |   | 18 | 18 | 5 | 0  |
| 4  |   | 13 | 23 | 4 | 1  |

| 5A | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.05 | 0.37 | 0.54 | 0.05 | 2.6 |
| 2  | 0.00 | 0.35 | 0.55 | 0.10 | 2.8 |
| 3  | 0.00 | 0.44 | 0.44 | 0.12 | 2.7 |
| 4  | 0.00 | 0.33 | 0.58 | 0.10 | 2.8 |

| 準全 | 1 | 2  | 3   | 4  | 179 |
|----|---|----|-----|----|-----|
| 1  | 9 | 68 | 90  | 12 | 0   |
| 2  | 5 | 47 | 102 | 24 | 1   |
| 3  | 8 | 56 | 92  | 23 | 0   |
| 4  | 5 | 68 | 82  | 23 | 1   |

| 準全 | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| 1  | 0.05 | 0.38 | 0.50 | 0.07 | 2.6 |
| 2  | 0.03 | 0.26 | 0.57 | 0.13 | 2.8 |
| 3  | 0.04 | 0.31 | 0.51 | 0.13 | 2.7 |
| 4  | 0.03 | 0.38 | 0.46 | 0.13 | 2.7 |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 9-1-④-6 : 修了予定者による学習達成度評価結果

平成18年度専攻科課程修了予定者

合計・無効回答

| EM | 1 | 2  | 3  | 4 | 18 |
|----|---|----|----|---|----|
| A  |   | 5  | 10 | 3 | 0  |
| B  | 1 | 4  | 12 | 1 | 0  |
| C  | 2 | 10 | 6  |   | 0  |
| D  |   | 6  | 10 | 2 | 0  |
| E  | 1 | 5  | 8  | 4 | 0  |
| F  | 1 | 4  | 9  | 4 | 0  |

| EM | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| A  | 0.00 | 0.28 | 0.56 | 0.17 | 2.9 |
| B  | 0.06 | 0.22 | 0.67 | 0.06 | 2.7 |
| C  | 0.11 | 0.56 | 0.33 | 0.00 | 2.2 |
| D  | 0.00 | 0.33 | 0.56 | 0.11 | 2.8 |
| E  | 0.06 | 0.28 | 0.44 | 0.22 | 2.8 |
| F  | 0.06 | 0.22 | 0.50 | 0.22 | 2.9 |

| CA | 1 | 2 | 3 | 4 | 12 |
|----|---|---|---|---|----|
| A  | 1 | 4 | 5 | 2 | 0  |
| B  |   | 2 | 7 | 3 | 0  |
| C  | 3 | 5 | 3 | 1 | 0  |
| D  | 1 | 3 | 6 | 2 | 0  |
| E  |   | 1 | 7 | 4 | 0  |
| F  | 2 | 4 | 4 | 2 | 0  |

| CA | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| A  | 0.08 | 0.33 | 0.42 | 0.17 | 2.7 |
| B  | 0.00 | 0.17 | 0.58 | 0.25 | 3.1 |
| C  | 0.25 | 0.42 | 0.25 | 0.08 | 2.2 |
| D  | 0.08 | 0.25 | 0.50 | 0.17 | 2.8 |
| E  | 0.00 | 0.08 | 0.58 | 0.33 | 3.3 |
| F  | 0.17 | 0.33 | 0.33 | 0.17 | 2.5 |

| 専全 | 1 | 2  | 3  | 4 | 30 |
|----|---|----|----|---|----|
| A  | 1 | 9  | 15 | 5 | 0  |
| B  | 1 | 6  | 19 | 4 | 0  |
| C  | 5 | 15 | 9  | 1 | 0  |
| D  | 1 | 9  | 16 | 4 | 0  |
| E  | 1 | 6  | 15 | 8 | 0  |
| F  | 3 | 8  | 13 | 6 | 0  |

| 専全 | 1    | 2    | 3    | 4    | 平均値 |
|----|------|------|------|------|-----|
| A  | 0.03 | 0.30 | 0.50 | 0.17 | 2.8 |
| B  | 0.03 | 0.20 | 0.63 | 0.13 | 2.9 |
| C  | 0.17 | 0.50 | 0.30 | 0.03 | 2.2 |
| D  | 0.03 | 0.30 | 0.53 | 0.13 | 2.8 |
| E  | 0.03 | 0.20 | 0.50 | 0.27 | 3.0 |
| F  | 0.10 | 0.27 | 0.43 | 0.20 | 2.7 |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 9-1-④-7：卒業・修了予定者による学習達成度評価結果の総合企画会議報告

## 平成19年度第1回総合企画会議議事要録

日 時 平成19年4月4日（水） 13時30分から17時10分まで

場 所 校長室

（中略）

## I. 認証評価部会からの議題

- 自己評価書作成に係る依頼事項について

阿蘇認証評価部会長から、席上配付資料に基づき、自己評価書作成に係る日程説明及び依頼事項の確認があり、各基準担当責任者は資料補完等に遺漏のないよう作業を進めることとなった。

- （主な説明・質問）

- 学生に対する学習目標の周知状況アンケートを4月25日に実施すること。

- 学習目標を教室に貼っておかなくてはならない。

- 成績、進級判定システムの整備について、本校の規則には条文がないので、条項を作成し入れる必要がある。

- 「訪」は訪問調査の際に使用する資料を指している。

- 「卒業生・修了生アンケート」の調査結果がまとまった。各学科・専攻科において今後の対応を検討することが必要である。

（出典：総合企画会議議事要録）

## 資料 9-1-④-8：主任会議における評価結果報告

## 平成19年度第1回主任会議議事要録

日 時：平成19年4月11日（水） 午後1時40分から午後5時50分まで

場 所：校長室

(中略)

## 6. 図書情報主事所掌事項

(中略)

## (4) 認証評価関連について

資料11に基づき、認証評価に関し、卒業生・修了生アンケートの調査結果への対応について説明があり、調査結果内容を各学科・専攻科の教育活動へ活かすことについての意見を次回（5月）主任会議で報告するよう協力依頼があった。

(出典：主任会議事録)

## 9-1-④-9：学科による検討（機械工学科）

「石川高専の学習目標とその達成状況について」の調査結果の検討

平成17年5月16日

機械工学科

## 1. 18年度準学士過程卒業予定者

・5Mの平均点が他学科に比べ、高めである。この学年は、必ずしも勉学に熱心であったわけではないので若干驚いている。このような結果が出たのは、学生の満足度が高いことを意味し、その要因としては、「学生のニーズやレベルに合わせた教育を行っている」ことが考えられる。今後とも、一定のレベルは確保した上で、学生のニーズ、レベルに合わせた教育を心がけていく。

・全目標ともまったく達成されていないと回答したものが1名いる。同一人物であるかどうかは不明だが、自学自習システムの充実等でこのような落ちこぼれ学生を0としたい。

## 2. 18年度専攻課程修了予定者

・JABEEは、目標をすべて達成した学生のみをプログラム修了生とすることを要求している。目標をまったく達成されていないと回答した学生が少数とはいえ存在することは、教員側の認識と相違があることを示している。

・A～Fの目標の中ではCが明らかに低い。この要因は、15～17年度修了生でも同様である。15～17年度修了生についてはもう1段細かいアンケートが行われているのでそこで検討する。

## 3. 17年度準学士課程卒業生

・全目標とも平均は2.5前後で大きなばらつきはない。ばらつきが少ない中で、統計的有意性があるかどうか不明だが、最高は、目標2の課題解決への意欲、粘り強さであり、真面目さがうかがわれる。一方、最低は、目標4の自分の考えの正確な表現、公正な意見の交換であり、コミュニケーション能力の向上が必要。

## 4. 15～17年度専攻課程修了者

・目標 C と D が、他の目標と比較してかなり低いことが目立つ。その中でも語学力と地域の課題への対処が 1 点台である。語学力については、専攻科だけで解決する問題ではなく準学士課程の段階から改善が必要。地域の課題への対処については、創造工学演習 2 で積極的に地域の課題を取り上げるなどの工夫が必要。

## 5. 16年度準学士課程卒業生就職企業

・全般に、学生自身よりも、就職企業の評価が高いのは喜ばしい。

・評価が 3 点台なのは目標 1 の基礎学力と専門知識、目標 2 の課題解決への意欲、粘り強さである。目標 2 については学生の評価と傾向が似ているが、目標 1 については異なっている。その要因について検討する。

－就職先企業では、大学卒業者と比較していると思われるが、高専と比較して学科あたりあるいは教員あたりの学生数が多く、きめ細かい教育が行われていない。

－機械工学科の卒業生は、生産技術部門への配属が多く、研究・開発、設計への配属が少なく、比較が生産技術部門内で行われている。

－16 年度卒業生の場合、就職して 2 年未満であり、この段階では、実践的な教育を受けている高専生の評価が高いが、5 年後などでは、企画・応用力、語学力などで評価が厳しくなる恐れもある。

## 6. 15～17年度専攻科修了生就職先企業

－すべての目標について評価 1 の回答が無かった。

－学生の評価よりも企業の評価が高いことは喜ばしい。しかし、その背景については、準学士課程の場合と同様検討が必要。

－評価が 2 点台は、語学力、実践的な体験、地域の課題への対処、計画性であり改善が必要。

(出典：平成19年度第2回主任会議資料)

## 9-1-④-10：学科による検討（電子情報工学科）

卒業生アンケートに対する検討と今後の対策について

電子情報工学科

平成 18 年度末に実施された卒業生アンケートにおいて、学習目標 1～4 の内、学習目標 1 及び 4 に対する達成度感の平均値がわずかに 2.5 を下回った。そこで、学科会議(4/12)において以下のように検討した。

- 学習目標 1：技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。

【要因案】・専門分野が幅広い。

・情報分野については、学問としての歴史が浅く、教授内容が各高等教育機関で統一されていない。

【対策案】・より基礎科目を重視したカリキュラムへの改正を検討する。

- 学習目標 4：自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

【要因案】・各学年の授業・実験において、多くの発表や質疑応答を経験させている。しかし、複数の発表が重なり準備不足になったために、自信がなくなっているのかもしれない。

・学習目標 4 に対する学生の理解が十分でなかったのかもしれない。

【対策案】・発表させる場合には、他の授業の計画を事前に調査し、発表日を調整するように心がける。

・日頃から学習目標との関連を説明するように心がける。

(出典：平成19年度第2回主任会議資料)



## 資料 9-1-④-11：主任会議における検討結果報告と協議

平成19年度第2回主任会議議事要録（案）

日 時：平成19年5月16日（水） 午後1時40分から午後5時25分まで

場 所：校長室

出席者：金岡（校長），櫻野（副校長），松田（学生主事），西澤（寮務主事），  
畑（研究主事），高島（図書情報主事），太田（伸）（一般），黒崎（機械），  
深見（電気），金寺（電子情報），小泉（環境都市），金木（建築），  
原田（事務部長）

陪席者：総務課長，学生課長，企画室長，総務課課長補佐，学生課課長補佐

幹 事：総務係長

議 事：

## I. 報告事項

（中略）

## （5）その他

認証評価に関し，基準9対応担当として前回主任会議で依頼した，「卒業生・修了生アンケート」の調査結果内容を各学科・専攻科の教育活動へ活かすことについての意見の回答状況について報告があり，検討の結果，未提出の学科についても5月23日までに書面により回答することとなった。

（出典：平成19年度第2回主任会議事録）

## 4) 中期計画を受けた教育課程の改善

自己点検評価の周期は約3年となるが，実施・運用している学科や委員会等で常に自己点検しており，問題があれば校長に報告し，総合企画会議で検討され，随時，改善・見直しが行われている。教育課程の改定にあたっては中期計画に基づく項目が導入された（資料9-1-④-12）。このうち数学では総合数学，英語では総合英語の科目が新設されるなど，数学，英語，物理の単位増がなされた（資料9-1-④-13）。なお，教育課程の改善とは直接の関連はないが，平成18年度から，教員間ネットワーク委員会の主導の下で，物理の教育内容を学科によって異なるものとするのが実現されている。

- 資料9-1-④-12：中期目標・中期計画に記載された科目の充実
- 資料9-1-④-13：新教育課程制定の考え方

## 資料9-1-④-12：中期目標・中期計画に記載された科目の充実

- 特に次の科目の充実を図る。
- ・ 数学，物理（専門科目を学ぶための基礎学力）
- ・ 英語（コミュニケーション能力，読解力，文法，作文）

（出典：本校中期目標・中期計画）

## 資料 9-1-④-13：新教育課程制定の考え方

新カリキュラムの主な骨子は以下のとおりである。

## (1) 中学校新学習指導要領への対応

「ゆとりある教育」に向けて 2002 年度より学校完全 5 日制が導入され、さらに、総合的な学習の導入により、中学校での各教科の教育内容が従来より約 3 割削減された。すでに、平成 12 年 4 月より移行措置のカリキュラムが実施されており、実効的な影響は表れている。

特に、数学、理科における内容削減は本校の教育に大きな影響を与えることから、これに対応するための数学、物理の単位数増を考える。

## (2) 総合数学と総合英語の導入による学力の定着

高等専門学校では 5 年一貫教育であり、高校から大学へ進む場合の大学入試に相当する厳しいハードルがない。このため、3 年次までの数学、英語の知識を整理、復習するための時間を設け、この単位の修得を重視することにより学力の定着を図っていくことを目的とする。

## (3) 高学年で幅広い教養を目指す

大学 1、2 年に相当する高学年において、一般教養科目として社会生活に有用な幅の広い科目を用意し、自由に選択できるようにする。

## (4) 一般科目と専門科目の相互選択を可能にする

高等専門学校の設置基準に合わせて一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上、合わせて 167 単位以上の単位修得を卒業要件にする。このためには従来、一般科目がほとんど必修であったのを選択制の導入により、一般科目の単位を多く修得して 167 単位を満たして卒業することが可能となり、個性化を進めることになる。

## 2-3-2 新カリキュラムの骨子

平成 15 年 12 月の教務委員会で新しいカリキュラムの骨子として次の項目が承認された。

- (1) 「数学、物理、英語の学力向上」を目的に、単位数増を基本として進めること。
- (2) 「総合数学と総合英語の新設」を図ること。
- (3) 「単位数の枠組み」について
  - ・総単位数は現行の 167 単位のままとすること。
  - ・一般科目の必修を 75 単位とし、計 77 単位以上修得させること。
  - ・専門科目の必修を 82 単位とし、計 86 単位以上修得させること。

この項目を基本として、今後検討を進め平成 15 年度中に一般科目の大枠を決定し、平成 17 年度からの実施に向けてさらに検討を続けていく。

(出典：自己点検・評価報告書第4報)

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価を教育の質の向上に結びつけるシステムは将来構想計画委員会各部会、将来構想計画委員会、総合企画会議という一連の流れがそれに相当する。現在のところ、そのような評価を受けて教育課程の改善を行ったという明確な資料はないが、次期教育課程の改定に向けての準備が行われている。また、学生による達成度評価による教育の見直しも行われている。現在の教育課程は中期目標・中期計画の考え方に基づいて定められた。

以上のことから、教育改善システムが十分に整備され、具体的かつ継続的な方策が講じられている。

**観点 9-1-⑤：** 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

1) 各種評価の、個々の教員へのフィードバック体制

評価のうち学生による授業評価は、その結果がFD委員会によって集計され、各担当教員に示される。授業評価アンケート結果は専門学科にあつては学科内、一般教育科にあつては科目内の教員間で公開されている。FD委員会は教員に対する6つの評価項目のすべての評価が2.5以下の科目の担当教員に対して授業改善報告書の提出を求める。改善状況に関してはファカルティ・ディベロップメントに関する観点 9-2-①、9-2-②で述べる。さらに改善状況が見られないと判断した科目については、FD委員会委員長が当該学科に対して検討およびその回答を求める場合もある（この改善検討勧告は文書で行わないことにしており、その資料は作成されていない。必要であれば訪問調査の際に、事例を口頭で説明する）。また、校長はすべての授業評価アンケート結果を閲覧し、校長による授業参観の資料としており、学校として改善状況の把握に努めている。

2) 特別研究経費による教育改善の支援

本校では特別研究制度を設け、授業内容の改善、教材の開発などに対する経費の支援を行っている。本年度からこの経費は特別教育研究経費と教材開発経費の2本立てとなり（資料 9-1-⑤-1, 2）、ヒアリングを経て配分が決定される（資料 9-1-⑤-3）。募集要項にもあるとおり、年度末には成果報告書の提出と発表会が義務づけられており、これによって各教員の教育に対する工夫等の成果が共有され、また、学校が改善状況を把握することにつながっている。

- 資料 9-1-⑤-1：特別教育研究経費の募集要領
- 資料 9-1-⑤-2：教材開発経費の募集要領
- 資料 9-1-⑤-3：特別研究経費・教材開発経費ヒアリング日程

## □ 資料 9-1-⑤-1：特別教育研究経費の募集要領

平成19年 4月 2日

## 平成19年度 特別教育研究経費の募集要領

## 1. 趣 旨

教員等による教育研究活動を積極的に推進し、高専の教育力を一層充実強化することを目的に、平成19年度予算においても校長裁量経費から特別教育研究経費の枠を5,000千円設定する予定である。

## 2. 申請内容等

申請内容は、原則として競争的資金を獲得するための調査・研究費（準備等経費）又は研究活動費を対象とする。なお、企業研究者を含めることも可能とする。（本校技術振興交流会会員の企業研究者であれば、なお望ましい。）

申請は、「特別教育研究計画書」（別紙様式①）の提出により行うこととし、学科内及び学科を超えた複数者による共同申請を優先し、複数の申請も可能とする。

## 3. 1件当たりの経費要求

経費の要求は、同計画書で行うが、原則として1件当たり500千円～1,000千円程度とする。

## 4. 審査及び採択等

申請された計画書は、第1次で書類審査を行い、第2次でヒアリングによる審査を実施し、採択を決定する。

## 5. 「特別教育研究成果報告書」の提出と研究成果等の発表

当該資金の配分を受けた者は、平成20年4月末までに「特別教育研究成果報告書」（別紙様式②）を提出するとともに、トライアル研究センターが主催する発表会に於いて発表することとする。

## 6. 競争的資金（科学研究費補助金等）の申請

当該資金の配分を受けた者は、競争的資金（科学研究費補助金等）の申請を必ず行うものとするが、成果報告書の提出時までに競争的資金の申請がなされていない場合は、その理由、今後の予定等を記載するものとする。

なお、競争的資金の申請に際しては、事前に申請書写しを提出するものとする。

## 7. 計画書の取りまとめ等

当該経費募集にかかる「特別教育研究計画書」及び「特別教育研究成果報告書」の取りまとめは、総務課において行う。

なお、当該経費にかかる細部の取り扱い、本要領によるほかは校長が決定する。

以上

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 9-1-⑤-2：教材開発経費の募集要領

平成19年 4月 2日

## 平成19年度 教材開発経費の募集要領

## 6. 趣 旨

本校で学ぶ学生の教育効果を向上させるため、教員等による教育用教材の開発活動を積極的に支援し、もって石川高専の教育力を一層充実強化することを目的として、校長裁量経費から教材開発経費の枠を1,000千円設定し、募集する。

ただし、この予算額は応募件数により変更となる場合がある。

## 7. 申請内容等

申請内容は、原則として通常の授業、自学・自習の教育効果を上げるための優れた教科書、参考書以外の教材（テキスト類も含む）を独自に開発するための調査、準備、作成のための経費を対象とする。

## 8. 1件当たりの経費要求等

経費の要求は、「教材開発計画書」（別紙様式）により行うが、原則として1件当たり200千円以内とする。

## 9. 審査及び採択等

申請された計画は、書類審査(第1次)及びヒアリング審査(第2次)を実施し、採択を決定する。

## 10. 採択予定件数

平成19年度においては5～10件以内を予定。

## 11. 「教材開発成果報告書」の提出と研究成果等の発表、展示

当該資金の配分を受けた者は、当該年度中に教材を完成もしくは完成直前であることを条件とし、平成20年4月末日までに、教育的効果・成果及び活用状況を記した任意様式の成果報告書に開発した教材を添えて提出するとともに、FD研修会等に於いて発表、学内において展示することとする。

## 7. 教材の教育現場における実践等

当該資金の配分を受け教材を作成した者は、当該教材を実際の教育現場において使用することとするが、成果報告書の提出時までに実際に使用させることができない場合は、その理由及び今後の予定等を記載するものとする。

なお、その際にも速やかに実践使用における教育効果の検証を行った時点で、成果報告書を再提出するものとする。

## 8. その他

当該経費にかかる細部の取り扱いは、本要領によるほか校長が決定する。

(出典：総務課保管資料)

## □ 資料 9-1-⑤-3：特別教育研究経費・教材開発経費ヒアリング日程

平成19年度 特別教育研究経費・教材開発経費ヒアリング日程表

1. 開催日 平成19年6月21日(木)  
 2. 時間(下表) 13時10分から16時50分まで  
 3. 場所 校長室

| No. | 学科等     | 研究者名      | 区分       | 研究課題                                                          | 時間          |
|-----|---------|-----------|----------|---------------------------------------------------------------|-------------|
| 1   | 建築学科    | 森原 崇      | 特別教育研究経費 | 北陸新幹線沿線地区での生活環境に対する事前調査                                       | 13:10～13:20 |
| 2   | 一般教育科   | 澤田 功      | 教材開発経費   | 半透明シートを用いた数物融合教材の開発                                           | 13:20～13:30 |
| 3   | 電気工学科   | 上町 俊幸     | 特別教育研究経費 | 競技用電気自動車の開発                                                   | 13:30～13:40 |
| 4   | 電気工学科   | 上町 俊幸, 河合 | 教材開発経費   | ロボット製作実習に関する教材開発と試作                                           | 13:40～13:50 |
| 5   | 機械工学科   | 堀 純也      | 教材開発経費   | 機構ブロック(機構模型)システム                                              | 13:50～14:00 |
| 6   | 電気工学科   | 山田 悟, 大坪  | 特別教育研究経費 | レーザリフトオフ法による強誘電体薄膜上への金属配線パターンニング                              | 14:30～14:40 |
| 7   | 電気工学科   | 山田 悟, 河合  | 教材開発経費   | H8マイクロコンピュータを用いた組み込み型ソフトウェア教材の開発                              | 14:40～14:50 |
| 8   | 電子情報工学科 | 長岡 健一     | 教材開発経費   | 情報基礎教育におけるe-Learningシステム用「コンピュータ・リテラシ」自学自習コンテンツ               | 14:50～15:00 |
| 9   | 一般教育科   | 奥田 浩司     | 特別教育研究経費 | 有島武郎の『或る女』研究—文化研究の視座から—                                       | 15:00～15:10 |
| 10  | 一般教育科   | 奥田 浩司     | 教材開発経費   | e-learningを活用した、漢字の自学自習システムの開発                                | 15:10～15:20 |
| 11  | 電気工学科   | 河合 康典     | 特別教育研究経費 | 安全性を考慮したネットワーク型バイラテラル遠隔操作システムの開発                              | 15:30～15:40 |
| 12  | 電気工学科   | 瀬戸 悟      | 特別教育研究経費 | 結晶性低分子有機薄膜の高移動度化に関する研究                                        | 15:40～15:50 |
| 13  | 機械工学科   | 黒崎正大 他10名 | 特別教育研究経費 | 就職・学外実習支援事業                                                   | 15:50～16:00 |
| 14  | 機械工学科   | 黒崎正大 他10名 | 教材開発経費   | 自学自習および教育資産の継承を目的とした教育教材の共有化                                  | 16:00～16:10 |
| 15  | 電子情報工学科 | 竹下 哲義     | 特別教育研究経費 | 非晶質中の結晶粒SiCの構造解析                                              | 16:10～16:20 |
| 16  | 一般教育科   | 太田 伸子     | 教材開発経費   | 英語コミュニケーション力育成のための談話分析とプレゼンテーション                              | 16:20～16:30 |
| 17  | 一般教育科   | 高島 要      | 特別教育研究経費 | 近世漢詩総集『日本詩選』についての基礎的研究                                        | 16:30～16:40 |
| 18  | 一般教育科   | 富山 正人     | 教材開発経費   | 授業用プリント『基礎数学A』, 授業用プリント『基礎数学B』, 授業用プリント『解析学I』, 授業用プリント『解析学II』 | 16:40～16:50 |

(出典：総務係保管資料)

## 3) 個々の教員の授業の工夫

本校では、本年度、各教員が「正規の授業における工夫や特色ある授業方法(現在も実践中のもののみ)」の申請を行うこととした。これにより教員相互の授業力のアップに供している。資料として授業工夫事例を2例だけ挙げる(資料 9-1-⑤-4)。

## □ 資料 9-1-⑤-4：個々の教員の授業の工夫

## □ 資料 9-1-⑤-4：個々の教員の授業の工夫

- |                                                       |                                           |
|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫 |
| <input type="checkbox"/> 少人数授業                        | <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業         |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                     | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用          |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮              | <input type="checkbox"/> その他 ( )          |

|          |                                                  |
|----------|--------------------------------------------------|
| 学年・学科・科目 | 1E「基礎数学 A」, 1I「基礎数学 B」,<br>2A「解析学 I」, 3A「解析学 II」 |
|----------|--------------------------------------------------|

|       |      |
|-------|------|
| 実施教員等 | 富山正人 |
|-------|------|

|        |                  |
|--------|------------------|
| 工夫・内容等 | 毎授業においてプリント数枚を配布 |
|--------|------------------|

目標・内容・効果等： 学生が板書をノートに写す時間を節約することで、授業中の解説と演習に時間をかける。また、復習用の問題を多数与えることで自学自習をしやすくする。これらのことにより学習の定着をはかる。

- |                                                                  |                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> PBL (Problem Based Learning) | <input type="checkbox"/> 教材の工夫               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数授業                        | <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 |
| <input type="checkbox"/> フィールド型授業                                | <input type="checkbox"/> 情報機器の活用             |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮                         | <input type="checkbox"/> その他 ( )             |

|          |                     |
|----------|---------------------|
| 学年・学科・科目 | 創造工学演習Ⅱ（後期）平成 18 年度 |
|----------|---------------------|

|       |      |
|-------|------|
| 実施教員等 | 深見哲男 |
|-------|------|

|        |             |
|--------|-------------|
| 工夫・内容等 | 中波ラジオの設計・試作 |
|--------|-------------|

目標・内容・効果等：中波ラジオをどのような観点から用いることから初め、その目的に合ったラジオを設計試作した。学生は、機械工学出身 1 名、電気工学出身 1 名、電子情報工学出身 2 名、環境都市工学出身 1 名、建築学科出身 1 名の計 6 名がプロジェクトをくみ、母学科の特徴を活かしながら外装を含め製作した。今回のラジオは、「ふろらじ」と命名し、入浴時にスイッチが ON するものを作った。

(出典：総務係保管資料 (2例のみ抜粋) )

## (分析結果とその根拠理由)

個々の教員はそれぞれに授業の質の向上を図り、授業方法の改善等を行っている。本校には特別教育研究経費、教材開発費の制度が敷かれ、その応募状況も活発である。これらの制度は、教員の授業改善を支援するとともに、学校がその状況を把握する役割を果たしている。その報告会も行われ、それに伴って、それぞれの授業の工夫や開発した教材などを収集する体制が整いつつある。

## 観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

## 1) 専門分野の研究による教育の質の改善

専門学科における研究の成果は、自ずと卒業研究や専攻科特別研究の指導に反映していると考えられる。また、教員がそれぞれの専門分野の研究に取り組んでいることで授業に深みが生まれることは、全教員が等しく感じていることである。本校はその立場に立って、各教員の研究を奨励している。それに関連して、各教員の研究テーマと卒業研究のテーマを一覧表にして示す(資料 9-1-⑥-1)。

## □ 資料 9-1-⑥-1：教員の研究分野と卒業研究テーマ一覧

資料9-1-⑥-1：教員の研究分野と卒業研究・特別研究テーマ一覧

| 指導教員 | 研究分野                                                      | 卒業研究題目                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 鶴崎 明 | 軸対称荷重を受ける有孔無限板問題                                          | 曲げ試験によるガラス板の引張強さ評価法 (part III)                                                                       |
| 黒崎正大 | 超小型電動航空機の開発<br>軸流圧縮機のアクティブストール制御                          | インドアプレーンの製作とプロペラ特性の研究                                                                                |
| 松田 理 | 炭酸ガス吸収, ミスト流による伝熱促進                                       | ゼオライトによる水質浄化に関する研究<br>能登珪藻土を利用した炭酸ガス吸収システムに関する研究                                                     |
| 松崎良男 | 静的メタルシールの密封特性—接触面顕微鏡を用いた接触状態の観察—                          | 再使用可能な円すい内側シールの基礎研究<br>ボルト軸力の測定に関する基礎研究                                                              |
| 割澤 泰 | 多指ロボットハンドの研究、小型風車の研究                                      | 油圧実験装置の性能試験<br>野外実験用小型プロペラ風車ブレードの製作<br>ソーラーカーの設計・製作                                                  |
| 八田 潔 | 繊維工場における自動化・省力化に関する研究<br>空気流を利用した糸の操作に関する研究               | 空気流を組み合わせた糸の操作に関する研究                                                                                 |
| 石田博明 | 分子動力学シミュレーションによる金属材料の物性評価<br>固体材料の相転移現象<br>金属材料の量子化学と合金設計 | 残像効果を用いた回転型LED表示機の設計・製作<br>DLPを用いたディスプレイの基礎研究<br>加速度センサーを用いた水平維持機構の設計・製作<br>LANを介したマスタスレーブ制御の基礎研究 II |
| 堀 純也 | 機械・機構システムの設計<br>繊維, 繊維機械の運動・力学解析                          | 巻糸体の内部状態<br>ウオーム減速機用性能試験機の開発                                                                         |
| 旭吉雅健 | 電子デバイス用はんだの疲労・クリープ<br>疲労寿命評価に関する実験力学的検証                   | インナーサイトレーニングマシンの製作および同マシンを用いたトレーニング効果の検証<br>低サイクル疲労試験支援ソフトの開発<br>はんだ接合部の熱疲労強度評価に関する実験力学的検証           |
| 藤岡 潤 | 計測システムの開発<br>ロボットの軌道計画                                    | 感圧編物による体圧分布計測シーツの開発<br>遺伝的アルゴリズムにより歩行方法を獲得する芋虫型二軸ロボットに関する研究                                          |

(出典：総務課保管資料)

## 2) 教育方法等の研究による教育の質の改善(教科書, 教育論文の執筆等)

ここでは直接的に教育改善に関係のある研究の事例を挙げる。

教科書の執筆は専門分野の研究や教育教材の研究の成果であり、それを用いて授業を行うことは、



研究成果の授業における実践としてもっとも適切な例である。また、必ずしも出版されていないが教科書としての機能を果たしている教材も上記と同様に考えられるであろう。

教員と学生との共著論文の執筆は教員の研究の過程として行われていることであり、それを学生とともに発表することは、研究内容の教授のみならず、学生の発表力や表現力の伸長に寄与する。

論文集『高専教育』，『工学教育』その他の教育学会への投稿論文などの教育論文は、教育研究の成果をまとめたものであるから、そのための授業改善等が行われていると判断できる。また、教育関係の口頭発表（高専教員研究集会，教育学会の発表など）も、前項に準ずるものと考えられる（資料 9-1-⑥-2～8）。

- 資料 9-1-⑥-2：教科書等執筆状況
- 資料 9-1-⑥-3：学生と共著の論文等執筆状況（専攻科課程）
- 資料 9-1-⑥-4：学生と共著の論文等執筆状況（準学士課程 1）
- 資料 9-1-⑥-5：学生と共著の論文等執筆状況（準学士課程 2）
- 資料 9-1-⑥-6：教育論文等執筆状況
- 資料 9-1-⑥-7：教育学会・教育研究集会等での口頭発表状況(1)
- 資料 9-1-⑥-8：教育学会・教育研究集会等での口頭発表状況(2)

資料9-1-⑥-2：教科書等執筆状況

| 番号  | 種別  | 著者                           | 書名                                                         | 出版社等            | 出版年月日        |
|-----|-----|------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------|--------------|
| 1.  | 問題集 | 阿蘇和寿<br>富山正人<br>森田健二ほか       | ドリルと演習シリーズ『基礎数学』                                           |                 | 2005. 3. 31  |
| 2.  | 問題集 | 森田健二<br>富山正人<br>阿蘇和寿ほか       | ドリルと演習シリーズ『微分積分』                                           |                 | 2007. 3. 31  |
| 3.  | 問題集 | 富山正人<br>森田健二<br>阿蘇和寿ほか       | ドリルと演習シリーズ『線形代数』                                           |                 | 2007. 3. 31  |
| 4.  | 教科書 | 阿蘇和寿<br>沢田 功<br>富山正人<br>森田健二 | 技術者のための微分積分学                                               | 森北出版            | 2005. 12. 31 |
| 5.  | 教科書 | 阿蘇和寿ほか                       | 高専の数学 1～3                                                  | 森北出版            |              |
| 6.  | 問題集 | 阿蘇和寿ほか                       | 高専の数学問題集 1～3                                               | 森北出版            |              |
| 7.  | 教科書 | 佐々木香織ほか                      | 平成18年度研究領域横断型カリキュラム事業<br>《金沢「まちなか」の文化資源を活用した新しい能楽学入門科目の創出》 | 成果報告書<br>別冊「能面」 | 2007. 2      |
| 14. | 教科書 | 深見哲男                         | 電気電子工学基礎実験Ⅱ                                                | 実験指導書電<br>気工学科  | 2007         |
| 15. | 教科書 | 深見哲男                         | 電気電子工学実験ⅠとⅡ                                                | 実験指導書電<br>気工学科  | 2007         |
| 16. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 土木用語辞典                                                     | 技報堂出版           | 1999         |
| 17. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 構造工学第2版                                                    | 技報堂出版           | 1999         |
| 18. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 構造工学の基礎と応用第3版                                              | 技報堂出版           | 2003         |
| 19. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 構造実験指導書                                                    | 土木学会            | 2003         |
| 20. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 橋梁工学第2版                                                    | 技報堂出版           | 2004         |
| 21. | 教科書 | 永藤壽宮ほか                       | 情報リテラシー第2版                                                 | 技報堂出版           | 2004         |

(出典：総務課保管資料)

## 資料9-1-⑥-3：学生と共著の論文等執筆状況（専攻科課程）

| 番号 | 著者                           | 題名                              | 発表誌                                   | 年度   |
|----|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|------|
| 1. | 深見哲男<br>山下耕司                 | 石川高専における中波短波帯電界強度測定             | 平成16年度電気関係学会北陸支部連合大会                  | 2004 |
| 2. | 越野 亮<br>高 大輔<br>久保裕子         | 時間枠付き配送計画問題におけるアントコロニー最適化の研究    | 石川工業高等専門学校紀要,<br>Vol. 37, pp. 127-135 | 2005 |
| 3. | 向奈津美<br>金寺 登<br>北口 直<br>荒井隆行 | ミュージカル映画中の音声区間検出                | 石川高専紀要                                | 2006 |
| 4. | 本田祐一郎<br>村田一也                | アルヴァーアールトのマイレア邸における内外空間の関係性について | 日本建築学会北陸支部研究報告集                       | 2007 |

(出典：総務課保管資料)

資料9-1-⑥-4 : 学生と共著の論文等執筆状況 (準学士課程-1)

| 番号  | 著者                                                                                        | 題名                                                       | 発表誌                                                                                     | 年度       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 1.  | 山岸大輔<br>八田 潔<br>旭吉雅健                                                                      | 道路標示貼付シート用足形成型機の開発                                       | 石川高専紀要                                                                                  | 2006     |
| 2.  | 八田 潔<br>旭吉雅健<br>堀 純也<br>藤岡 潤                                                              | 機械工学科における情報技術教育の改善と評価について                                | 高専教育                                                                                    | 2004     |
| 3.  | 松崎良男<br>長谷川聡ほか                                                                            | 金属平形ガスケットの密封特性—PC薄膜を用いた接触状態の観察—                          | トライボロジスト、<br>第51巻、第4号<br>pp. 308～315                                                    | 2006     |
| 4.  | 松崎良男<br>長谷川聡ほか                                                                            | PC薄膜を用いた金属平形ガスケットの接触状態の観察と密封特性                           | トライボロジー会議予稿集<br>鳥取pp. 419～420                                                           | 2004. 11 |
| 5.  | 松崎良男<br>長谷川聡ほか                                                                            | PC薄膜を用いたガスケット面の接触状態の観察と漏れ量の予測                            | 日本機械学会北陸信越支部第41期総会講演会講演論文集、pp. 147～148.                                                 | 2004     |
| 6.  | 長谷川聡<br>松崎良男ほか                                                                            | 金属平形ガスケットの密封特性、                                          | 日本機械学会 北陸信越支部第41期総会講演会 講演論文集、pp. 145～146                                                | 2004     |
| 7.  | 松田理<br>新元翔太                                                                               | 能登珪藻土を利用した炭酸ガス吸収に関する研究                                   | 石川工業高等専門学校紀要NO. 39<br>P. 1-7                                                            | 2006     |
| 8.  | 割澤泰<br>三宅正浩                                                                               | ワイヤ駆動方式の多指ロボットハンドの開発                                     | 石川工業高等専門学校紀要37号                                                                         | 2004     |
| 9.  | 西川裕美<br>深見哲男                                                                              | パラボラ反射体形スピーカ特性のFDT解析                                     | 石川高専紀要                                                                                  | 2004     |
| 10. | 宮崎大輔<br>瀬戸 悟                                                                              | 化学気相輸送法によるZnO単結晶成長                                       | 石川工業高等専門学校紀要                                                                            |          |
| 11. | 酒井 祐一<br>徳井直樹                                                                             | 音声データの電子透かしの試作                                           | 石川工業高等専門学校紀要                                                                            | 2004     |
| 12. | 杉浦恭平<br>徳井直樹                                                                              | 空間における音響の伝達特性の測定                                         | 石川工業高等専門学校紀要                                                                            | 2004     |
| 13. | 村田裕章<br>越野 亮<br>木村春彦                                                                      | 履歴反復深化A*探索 —マルチプルアライメントへの適用—                             | 情報科学技術レターズ、vol. 3,<br>pp. 103-106                                                       | 2004     |
| 14. | 越野 亮<br>村田裕章<br>白山政敏<br>木村春彦                                                              | 様々な最適解探索手法のマルチプルアライメントへの適用と性能評価                          | 電子情報通信学会論文誌D-I,<br>Vol. J88-D-I,<br>No. 4, pp. 757-766                                  | 2005     |
| 15. | 越野 亮<br>村田裕章<br>木村春彦                                                                      | Particle Swarm Optimizationの改良とポートフォリオ選択への応用             | 電子情報通信学会論文誌A,<br>Vol. J89-A, No. 1,<br>pp. 48-60                                        | 2006     |
| 16. | 越野 亮<br>大谷隆浩<br>高 大輔<br>白山政敏                                                              | DNA配列決定におけるMAX-MIN Ant Systemの適用と改良                      | 電子情報通信学会論文誌D,<br>Vol. J89-D, No. 5,<br>pp. 911-918                                      | 2006     |
| 17. | 村田裕章<br>越野 亮<br>白山政敏<br>林 貴宏<br>木村春彦                                                      | 改良集団と改悪集団による進化的停滞を避ける遺伝的アルゴリズムと時間枠つき配送計画問題への適用           | 情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用、Vol. 47,<br>No. SIG 14<br>(TOM15), pp. 1-8                          | 2006     |
| 18. | 金寺 登<br>隅田飛鳥<br>池端孝夫<br>船田哲男                                                              | ビデオ教材作成支援を目的とした講義音声によるシーン分割                              | 電子情報通信学会論文誌DI                                                                           | 2005     |
| 19. | Noboru<br>Kanedera<br>Asuka Sumida<br>Takao<br>Ikehata<br>Tetsuo<br>Funada                | Subtopic Segmentation in the Lecture                     | SpeechProceedings of<br>International<br>Conference on<br>Spoken Language<br>Processing | 2004     |
| 20. | Noboru<br>Kanedera<br>Asuka Sumida<br>Jyun Jikeya<br>Takao<br>Ikehata<br>Tetsuo<br>Funada | Lecture Video Segmentation derived from speech using ICA | The 18th<br>International<br>Congress on<br>Acoustics                                   | 2004     |

(出典：総務課保管資料)

資料9-1-⑥-5 : 学生と共著の論文等執筆状況 (準学士課程-2)

|     |                                                        |                                                                             |                                                              |         |
|-----|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------|
| 21. | 向奈津美<br>金寺 登<br>北口 直<br>荒井隆行                           | ミュージカル映画中の音声区間検出 石川高専紀要                                                     |                                                              | 2006    |
| 22. | 中町幸仁<br>金寺 登<br>飯田忠夫<br>田中永美                           | PIC演習システムの開                                                                 | 発石川高専紀要                                                      | 2006    |
| 23. | 宮西亜弥子<br>山田洋士                                          | TMS320C6701を用いた能動騒音制御装置の拡張と性能評価                                             | 石川高専紀要                                                       | 2006. 3 |
| 24. | 高領博典<br>山田洋士                                           | インターネット上でのデジタルフィルタ設計サービスのインターフェース改善                                         | 石川高専紀要                                                       | 2006. 3 |
| 25. | 重松宏明<br>東 真吾<br>林 宗平<br>池村太伸<br>澤本洋平<br>能澤真周           | 黄鉄鉱に起因する酸性化が粘性土の変形強度に及ぼす影響                                                  | 第 6 回環境地盤工学シンポジウム発表論文集, pp. 73-78                            | 2005    |
| 26. | 重松宏明<br>東 真吾<br>池村太伸<br>澤本 洋平<br>林宗平<br>能澤真周<br>八嶋 厚   | 黄鉄鉱に起因する酸性化が粘性土の土質特性に及ぼす影響評価                                                | 土木学会論文集 C, Vol. 62, No. 2, pp. 429-439                       | 2006    |
| 27. | H. Shigematsu<br>S. Higashi<br>M. Nozawa<br>A. Yashima | Geotechnical properties of cohesive soil acidified by pyrite inclusion      | 5th ICEG Environmental Geotechnics, pp. 644-650, Cardiff, UK | 2006    |
| 28. | 天徳寺圭介<br>竹本邦夫                                          | 骨材の含水状態がコンクリートの諸特性に及ぼす影響                                                    | 石川高専紀要                                                       | 2006. 3 |
| 29. | 福島由香利<br>畑 時男                                          | 非線形二相混合モデルにおける非線形次数の効果について                                                  | 石川工業高等専門学校紀要第37号                                             | 2005    |
| 30. | 鈴木洋之<br>田中晋平                                           | 津幡川における平水時水質の現地計測                                                           | 石川高専紀要                                                       | 2006    |
| 31. | 小島徹也<br>鈴木洋之ほか                                         | 流出モデルと貯水位平滑化フィルタを用いたダム流入量推定法の検討                                             | 土木学会中部支部研究発表会                                                | 2005    |
| 32. | 野田真士<br>金木 健                                           | 金沢市におけるプレハブ集合住宅と若年世帯動向の相関に関する研究                                             | 日本建築学会北陸支部研究論文集                                              | 2006. 3 |
| 33. | 金木 健<br>北田幸彦<br>内田 伸<br>森原 崇                           | 海外研修旅行の効果と課題－事例：2006年11月中国研修旅行－                                             | 石川高専紀要                                                       | 2007. 3 |
| 34. | 中菽 愛<br>村田一也<br>内田 伸                                   | 都市環境における街路空間に関する研究 2－「Image-Impression」からみた景観構成要素に関する考察－                    | 石川高専紀要第37号, pp. 201-208                                      | 2005. 3 |
| 35. | 澤井峰春<br>佐藤英代<br>内田 伸                                   | 高度経済成長期に建設された郊外住宅地の今後の動向に関する研究                                              | 石川高専紀要第37号, pp. 181-189                                      | 2005. 3 |
| 36. | 村田一也<br>河内浩志<br>内田 伸<br>船戸慶輔<br>佐藤英代                   | ものづくりワークショップ」を通じた地域との連帯による実践的建築教育の試み                                        | 日工協 工学工業教育研究講演会講演論文集, pp. 369-370                            | 2004. 7 |
| 37. | 河内浩志<br>村田一也<br>熊澤栄二<br>内田 伸<br>佐藤英代<br>船戸慶輔           | 身近な地域を主題としたデザイン教育と地域環境施設整備計画 (案) の取り組み－住みよいまちづくり構想「津幡町シビックキャンパスプロジェクト」での試み－ | 日工協 工学工業教育研究講演会講演論文集, pp. 517-518                            | 2004. 7 |
| 38. | 内田 伸ほか                                                 | ベンチ制作ワークショップによる建築設計教育の試み                                                    | 日工協工学工業教育研究講演会講演論文集, pp. 287-288                             | 2004. 7 |
| 39. | 熊澤栄二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸           | 津幡町シビックキャンパス」構想にもとづくデザイン教育と地域環境整備計画への取り組み                                   | 全国高専テクノフォーラムポスタープレゼンテーション用梗概 p. 99                           | 2004. 7 |
| 40. | 熊澤栄二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸           | まちづくり」をテーマとした設計教育における実践的な「ものづくり教育」の取り組み                                     | 高等専門学校 教育教員研修集会発表梗概                                          | 2004. 8 |

(出典：総務課保管資料)

資料9-1-⑥-6：教育論文等執筆状況

| 番号  | 著者                                           | 題名                                                                        | 発表誌                                                | 年度       |
|-----|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------|
| 1.  | 岩竹 淳<br>北田耕司<br>川原繁樹ほか                       | ドロップジャンプとスプリント走パフォーマンスに及ぼす足関節テーピングの影響                                     | 論文集「高専教育」<br>30：161-166                            | 2007     |
| 2.  | 岩竹 淳                                         | 身体重心の移動に着目したスプリント走の技術指導                                                   | 論文集「高専教育」<br>27：55-59                              | 2004     |
| 3.  | 太田伸子                                         | 「オーラルコミュニケーション：発話のメカニズムの学習を題材としたプレゼンテーションの学習」『高等教育における英語授業の研究?授業実践事例を中心』  | 大学英語教育学会<br>全国授業学研究委員会松柏社                          | 2006     |
| 4.  | 太田伸子                                         | 「語用論的知識を活用した英語コミュニケーション力育成について」                                           | 全国高等専門学校<br>英語教育学会研究<br>論集第26号                     | 2006     |
| 5.  | 太田伸子                                         | 「発話のメカニズムを題材とした口頭発表指導の試み」                                                 | 『全国高等専門学校<br>英語教育学会研究<br>論集』第24号                   | 2004     |
| 6.  | 太田伸子                                         | 「特活と授業指導の連携的教育に向けて?表現力と英語教育?」                                             | 論文集『高専教育』第28号                                      | 2004     |
| 7.  | 深見哲男<br>米沢邦男                                 | 電気工学系における創造的実験テーマ（正弦波発振回路とそのプレゼンテーション）                                    | 平成16年度工学工業<br>教育研究講演会<br>講演論文集                     | 2004     |
| 8.  | 田中永美<br>越野 亮                                 | EGOロボットによる組込みソフトウェア技術者教育                                                  | 高専教育, No. 30,<br>pp. 59-64                         | 2007     |
| 9.  | 竹下哲義<br>濱口裕樹                                 | 分子動力学法教育のための動画を用いた教育効果に関する考察                                              | 高専教育                                               | 2004     |
| 10. | 竹下哲義<br>濱口裕樹                                 | 過剰Siを含む多結晶SiCの構造                                                          | 石川工業高等専門学校<br>学校紀要                                 | 2004     |
| 11. | 金寺 登<br>山田 悟<br>石田博明<br>飯田忠夫                 | 教育素材共有システムの開発                                                             | 論文集「高専教育」                                          | 2005     |
| 12. | 金寺 登<br>山田 悟<br>石田博明                         | 教材共有システムの開発                                                               | 石川高専紀要                                             | 2004     |
| 13. | 山田洋士                                         | Open-Contentに基づく信号画像処理教育用コンテンツの開発                                         | 映像情報メディア<br>学会                                     | 2005. 12 |
| 14. | 山田洋士                                         | 全国高等専門学校における信号処理教育への取り組み                                                  | 第6回DSPS教育者<br>会議講演論文集                              | 2004. 1  |
| 15. | 山田洋士                                         | ConnexionsプロジェクトによるDSP教育用コンテンツの開発                                         | 第7回DSPS教育者<br>会議講演論文集                              | 2005. 9  |
| 16. | 古川万寿夫<br>永藤壽宮ほか                              | 移動する科学博物館をイメージした屋台形式と授業形式による出前授業「移動技術科学館」                                 | 高専教育                                               | 2005     |
| 17. | 河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>内田 伸                 | 「建築ワークショップ」を通してみた「ものづくり」教育の実践について                                         | 石川工業高等専門学校<br>学校紀要, 第36<br>号, pp. 113-121          | 2004. 3  |
| 18. | 熊澤英二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸 | 「津幡町シビックキャンパス」構想にもとづくデザイン教育と地域環境整備計画への取り組み                                | 全国高専テクノ<br>フォーラムポス<br>タープレゼンテ<br>ーション用梗概,<br>p. 99 | 2004. 7  |
| 19. | 村田一也<br>河内浩志<br>内田 伸<br>船戸慶輔<br>佐藤英代         | 「ものづくりワークショップ」を通じた地域との連携による実践的建築教育の試み                                     | 工学工業教育研究<br>講演会講演論<br>文集, pp. 369-370              | 2004. 7  |
| 20. | 河内浩志<br>村田一也<br>熊澤英二<br>内田 伸<br>佐藤英代<br>船戸慶輔 | 身近な地域を主題としたデザイン教育と地域環境施設整備計画（案）の取り組み一住みよいまちづくり構想「津幡町シビックキャンパスプロジェクト」での試み一 | 工学工業教育研究<br>講演会講演論<br>文集, pp. 517-518              | 2004. 7  |
| 21. | 熊澤英二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸 | 「まちづくり」をテーマとした設計教育における実践的な「ものづくり教育」の取り組み                                  | 高等専門学校教育<br>教員研修集会発表<br>梗概                         | 2004. 8  |
| 22. | 熊澤英二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸 | 地域交流をともなった教育マスタープランにおける設計デザイン科目の研究                                        | 高専教育, 第28<br>号, pp. 149-154                        | 2005. 3  |

(出典：総務課保管資料)

資料9-1-⑥-7：教育学会・教育研究集会等での口頭発表状況(1)

| 番号  | 発表者                  | 発表題名                                                 | 学会・研究会等                    | 年度   |
|-----|----------------------|------------------------------------------------------|----------------------------|------|
| 1.  | 沢田 功<br>笠松健一         | A method for measuring the spring power of your legs | 物理教育国際会議 (ICPE2006) (東京)   | 2006 |
| 2.  | 沢田 功<br>笠松健一         | 垂直跳びによる脚力の精密測定法                                      | 第7回理科授業・実験のつぼ研究会 (富山)      | 2006 |
| 3.  | 川原繁樹                 | これからの高専における課外活動のあり方について                              | 高専機構教育教員研究集会               | 2006 |
| 4.  | 太田伸子                 | 「語用論的知識を活用した英語コミュニケーション力育成について」                      | 全国高等専門学校英語教育学会             | 2006 |
| 5.  | 太田伸子                 | 「発話のメカニズムを題材とした口頭発表指導の試み」                            | 全国高等専門学校英語教育学会             | 2004 |
| 6.  | 太田伸子                 | 「特活と授業指導の連携的教育に向けて?英語が「使える」高専生育成の試み?」                | 全国高等専門学校教育講演会              | 2004 |
| 7.  | 太田伸子ほか               | 「英語教育の現状と取り組みについて：中学、高校、大学における事例と連携」                 | 金沢大学英文学会                   | 2004 |
| 8.  | 太田智加子ほか              | 「卒業生調査からみる就労と高専教育」                                   | 高専機構教育教員研究集会               | 2006 |
| 9.  | 沢田 功ほか               | 綱引きの新しい勝ち方を提案する実験教材                                  | 日本物理学会年次大会                 | 2004 |
| 10. | 沢田 功                 | ヒットを打つコツ                                             | 第1回理科授業実験のつぼ研究会            | 2005 |
| 11. | 沢田 功                 | 半透明シートの枚数と明るさ                                        | 第4回理科授業実験のつぼ研究会            | 2006 |
| 12. | 鈴木康文                 | 「法と道徳の間---自殺(権)について考える」                              | 第4回現代西洋倫理学研究会              | 2006 |
| 13. | 深見哲男<br>米沢邦男         | 電気工学系における創造的実験テーマ(正弦波発振回路とそのプレゼンテーション)               | 平成16年度工学工業教育研究講演会講演論文集     | 2004 |
| 14. | 越野 亮<br>田中永美         | LEGOロボットのプログラミング教育への導入について                           | 平成18年度高専教育講演論文集, pp. 75-78 | 2006 |
| 15. | 濱口裕樹<br>竹下哲義         | 分子動力学法を用いたSiCの欠陥に関する解析                               | 電気関係学会学生による発表会             | 2004 |
| 16. | 濱口裕樹<br>山本泰久<br>竹下哲義 | SiC微結晶粒中の欠陥解析                                        | 電気関係学会北陸支部連合大会             | 2005 |
| 17. | 山本泰久<br>竹下哲義         | 立方晶SiC中に存在する欠陥の構造                                    | 電気関係学会学生による発表会             | 2005 |
| 18. | 松森清直<br>竹下哲義         | Siフォトリック結晶中の線欠陥導波路                                   | 電気関係学会学生による発表会             | 2005 |

(出典：総務課保管資料)

資料9-1-⑥-8：教育学会・教育研究集会等での口頭発表状況(2)

|     |                                              |                                                                                            |                                             |        |
|-----|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------|
| 19. | 山本泰久<br>竹下哲義                                 | 微結晶粒SiC の欠陥構造に関する研究<br>－ 微結晶粒を構成する粒子数依存性 －                                                 | 電気関係学会北陸<br>支部連合大会                          | 2006   |
| 20. | 松森清直<br>竹下哲義                                 | ナノシリコンを用いるためのSiフォト<br>ニック結晶の基礎検討                                                           | 電気関係学会学生<br>による発表会                          | 2006   |
| 21. | 山本泰久<br>竹下哲義                                 | 微結晶SiC の欠陥構造に関する研究                                                                         | 電気関係学会学生<br>による発表会                          | 2006   |
| 22. | 瀬戸寿美枝<br>奥田浩司<br>竹下哲義                        | 文学と音楽が刺激する感性データの解析                                                                         | 電気関係学会学生<br>による発表会                          | 2006   |
| 23. | 竹下哲義<br>濱口裕樹                                 | 分子動力学法教育のための動画を用いた<br>教育効果に関する考察                                                           | 高専教育                                        | 2004   |
| 24. | 金寺 登                                         | 全国高専の教育素材共有について                                                                            | 高専機構教育教員<br>研究集会                            | 2006   |
| 25. | 金寺 登<br>飯田忠夫                                 | 創造性教育プレゼンテーション入門コー<br>ス(現代GP)の開発と高専間教育素材共有                                                 | 高等専門学校情報<br>処理教育委員会第<br>26回研究発表会論<br>文集     | 2006年  |
| 26. | 金寺 登ほか                                       | 現代GPによるe-Learning 創造性教育<br>コースの開発について                                                      | 高等専門学校情報<br>処理教育委員会第<br>26回研究発表会論<br>文集     | 2006   |
| 27. | 金寺 登ほか                                       | E-learning 教材「ソフトウェア開発に<br>おけるプロジェクト管理とプレゼンテ<br>ーション」の開発について                               | 高等専門学校情報<br>処理教育委員会第<br>26回研究発表会論<br>文集     | 2006   |
| 28. | 金寺 登                                         | 高専間教育素材共有システムの開発                                                                           | 高等専門学校情報<br>処理教育委員会第<br>25回研究発表会論<br>文集     | 2005   |
| 29. | 金寺 登ほか                                       | 16回目を迎える全国高専プログラミン<br>グコンテスト                                                               | 高等専門学校情報<br>処理教育委員会第<br>25回研究発表会論<br>文集     | 2005   |
| 30. | 村田一也<br>河内浩志<br>内田 伸<br>船戸慶輔<br>佐藤英代         | ものづくりワークショップ」を通じた地<br>域との連帯による実践的建築教育の試み                                                   | 日工協 工学工業<br>教育研究講演会                         | 2004.7 |
| 31. | 河内浩志<br>村田一也<br>熊澤栄二<br>内田 伸<br>佐藤英代<br>船戸慶輔 | 身近な地域を主題 としたデザイン教育<br>と地域環境施設整備計画(案)の取り組<br>み―住みよいまちづくり構想「津幡町<br>シビックキャンパスプロジェクト」での<br>試み― | 日工協 工学工業                                    | 2004.7 |
| 32. | 内田 伸                                         | ベンチ制作ワークショップによる建築設<br>計教育の試み                                                               | 日工協工学工業<br>教育研究講演会                          | 2004.7 |
| 33. | 熊澤栄二<br>河内浩志<br>村田一也<br>船戸慶輔<br>佐藤英代<br>内田 伸 | 「まちづくり」をテ ーマとした設計教<br>育における実践的な「ものづくり教育」<br>の取り組み                                          | 高等専門学校 教<br>育教員研修集会                         | 2004.8 |
| 34. | 内田 伸                                         | ハンズオンワークショップによる建築設<br>計教育                                                                  | 日本建築学会近畿<br>優れた建築教育教<br>材の共有化を目指<br>して研究懇談会 | 2005.9 |
| 35. | 内田 伸                                         | 事例報告 町との連携「地域に密着した<br>高専のあり方について」                                                          | 平成18年度東海北<br>陸地区国立高等専<br>門学校教員研究集<br>会      | 2006.9 |

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究分野を活かした卒業研究・特別研究が行われていること、教科書等の執筆状況、学生と共著の論文発表の状況、教育学会および教育研究集会等での発表状況により研究活動が教育の質の改善に寄与しているといえることができる。



観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

1) ファカルティ・ディベロップメントの実施体制

本校のファカルティ・ディベロップメントは FD 委員会が担当し、学生による教員の評価の分析と対応、教員研修会、授業公開の活動など、適切に実施している(資料 9-2-①-1)。

□ 資料 9-2-①-1：ファカルティ・ディベロップメント体制 (出典：FD委員会規則)

#### 資料 9-2-①-1：ファカルティ・ディベロップメント体制

(設置)

第1条 石川工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、教員の教育、特に授業に関する資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取り組み(以下「FD」という。)を行うため、石川工業高等専門学校 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の教職員を委員として組織する。

- (1) 本校の教員の中から校長が指名する者
- (2) 副校長(教務主事)
- (3) 教務主事補佐
- (4) 一般教育科及び各専門学科において選出した教員 各1人

(委員長等)

第3条 委員会に委員長を置き、委員長は校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 4 委員長は、必要に応じて委員以外の教職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(任務)

第4条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 教育の資質向上に関すること。
- (2) 教育プログラムの学習・教育目標を達成させる仕組みの策定に関すること。
- (3) 教育プログラムの学習・教育目標を達成させる教育の実施に関すること。
- (4) 研修会及び講習会等によるFDの企画等に関すること。
- (5) 学外における研修会及び講習会への参加・報告に関すること。
- (6) FD報告書の作成に関すること。
- (7) その他、FDの推進及び教育改善に関すること。

(出典：FD委員会規則)

## 2) ファカルティ・ディベロップメントの実施状況（研修会，教員相互の授業見学等）

教員研修会は平成 16 年度，17 年度に 1 泊 2 日の日程で各 1 回行われている。平成 18 年度には学内での半日の研修会を 4 回開催することとなった。その内容の記録と参加人数，およびその開催通知を示す（資料 9-2-①-2，3）。また授業公開は，年に 1 回，各 1 週間の日程で行われ，その期間中は保護者への授業公開とともに，教員相互の授業公開期間ともなっている（資料 9-2-①-4）。教員相互の授業公開に参加した者は授業参観報告書を書くこととなっており，学生課教務係が保管している（資料 9-2-①-5）。（参観記録では参観教員および授業担当者の氏名を削除して掲載したが，訪問調査での提示は可能である）

- 資料 9-2-①-2：平成 18 年度に開催された教員研究集会一覧
- 資料 9-2-①-3：教員研究集会開催の通知
- 資料 9-2-①-4：保護者への授業公開案内
- 資料 9-2-①-5：教員の相互授業参観報告書

## 資料9-2-①-2：平成 18 年度に開催された教員研究集会一覧

|     | 日程・内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 参加人数 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第1回 | 平成18年8月25日(金) 視聴覚室<br>1. 特別講演会(13:10~14:50)<br>講師 北海道薬科大学客員教授<br>元大学評価・学位授与機構高等専門学校機関別認証評価委員会委員<br>元函館工業高等専門学校長<br>東 市 郎<br>演題 法人化後の高専が果たす役割について<br>2. 教職員研修会(15:00~16:40)<br>協議題<br>JABEE受審結果の「Wをなくし、Cを向上させるために」                                                                                                                                                                               | 52名  |
| 第2回 | 平成18年10月5日(木) 大会議室<br>討議(13:10~14:50)<br>テーマ: 学生のアルバイトに関して                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 49名  |
| 第3回 | 平成18年12月7日(木) 視聴覚室<br>1. シラバスの記入方法について【教員対象】<br>時間 13:40~<br>2. 特別講演会【教職員対象】<br>時間 14:00~16:00<br>講師 認証評価・学位授与機構 教授<br>野澤 庸則 氏<br>演題 認証評価を受審にあたって注意すべきこと                                                                                                                                                                                                                                        | 66名  |
| 第4回 | 平成19年3月8日(木) 大会議室<br>1. 講演会(13:30~15:30)<br>講師 親業シニアインストラクター<br>藤田香津恵 氏<br>演題 教師学<br>2. 研修会(班別討議)(15:45~17:00)<br>(1) 討議課題<br>A班 「50分授業の是非」 (場所: 大会議室)<br>B班 「低学年・高学年に対して同一の教育でよいのか」 (場所: ゼミ室)<br>C班 「担任の役割」 (場所: 専攻科講義室)<br>(2) 討議方法<br>・班別討議は、参加者をA班, B班, C班に分けて実施する。<br>・1時間程度の班別討議の後, 班別討議報告及び全体討論を行い, 今後の行動計画の確認を行う。<br>・司会・記録は, FD委員会委員が行う。<br>・校長, 主事及び司会・書記以外のFD委員会委員は, 全ての班への参加を可能とする。 | 67名  |

(出典：教務係保管資料)

## 資料9-2-①-3 : 教員研究集会開催の通知

Date: Mon, 26 Feb 2007 16:30:50 +0900  
 From: 教務係 山口 <kyomu2@ishikawa-nct.ac.jp>  
 To: t-staff@ishikawa-nct.ac.jp,  
 gakuse-ka@ishikawa-nct.ac.jp  
 Subject: 第4回教員研修会の開催について  
 + 班別名簿.xls

平成19年2月26日

教職員各位

FD委員長

第4回教員研修会の開催について

このことについて、下記のとおり詳細が決定しましたので、必ずご参加  
 願います。

なお、前回と場所を変更しておりますので、ご注意ください。

記

日時:平成19年3月8日(木) 13:30~17:00

場所:大会議室

内容:1. 講演会(13:30~15:30)

講師 親業シニアインストラクター

藤田香津恵 氏

演題 教師学

2. 研修会(班別討議)(15:45~17:00)

(1) 討議課題

A班 「50分授業の是非」 (場所:大会議室)

B班 「低学年・高学年に対して同一の教育でよいのか」

(場所:ゼミ室)

C班 「担任の役割」 (場所:専攻科講義室)

(2) 討議方法

- ・班別討議は、参加者をA班, B班, C班に分けて実施する。
- ・1時間程度の班別討議の後, 班別討議報告及び全体討論を行い, 今後の行動計画の確認を行う。
- ・司会・記録は, FD委員会委員が行う。
- ・校長, 主事及び司会・書記以外のFD委員会委員は, 全ての班への参加を可能とする。

(3) 班別討議名簿

別添のとおり(主事及びFD委員会委員を除く。)

- ・やむを得ず参加できない場合は, 事前にFD委員長又は学生課教務係に連絡してください。
- ・班別討議名簿は, 人数均等の関係で予め作成しております。討議課題により班の変更を希望する場合は, 学科内での入れ替えを認めますので, 調整の後, 3月7日(水)までに学生課教務係へ連絡してください。

(出典:教務係保管資料)

## 資料 9-2-①-4：保護者への授業公開案内

平成18年5月1日

保護者各位

石川工業高等専門学校長

金岡 千嘉男

## 授業参観のご案内

日頃より、本校の教育指導等につきましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年度より、学校での授業状況を保護者の方々にご覧頂く機会を設けることとしました。

期間中は、いずれの授業も参観いただけますので、別添の時間割を参考に授業参観願います。

授業については通常のとおり実施し、実験設備や施設等保護者の方への説明は特に行いませんのでご理解願います。

また、学級担任との個別面談等については、7月21日(金)・22日(土)に保護者懇談会を予定していますので、その際にお願います。

なお、来校された際は授業参観に先立ち学生課にて受付願います。名札をお渡ししますので着用願います。

駐車場については、別添配置図の所定の駐車場をご利用下さい。

## 記

授業参観期間 平成18年5月24日(水)～5月30日(火)

参観対象授業 上記期間全ての授業

授業時間帯 1・2限 8:50～10:30 3・4限 10:40～12:20

5・6限 13:10～14:50 7・8限 15:00～16:40

(出典：学生課保管資料)

資料 9-2-①-5：教員の相互授業参観報告書

|                      |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                               |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 報 告 者                | 所 属                                                                                                                                                                      | 機 械 工 学 科                                                                                                                     |
|                      | 氏 名                                                                                                                                                                      |                                                                                                                               |
| 見学した授業               | 授 業 目 的                                                                                                                                                                  | 基 礎 数 学 A                                                                                                                     |
|                      | 日 付                                                                                                                                                                      | 平成18年 5月24日 (木曜日)                                                                                                             |
|                      | 時 間                                                                                                                                                                      | 7, 8限目                                                                                                                        |
|                      | ク ラ ス                                                                                                                                                                    | 環境都市工学科 1年                                                                                                                    |
|                      | 担 当                                                                                                                                                                      | 一 般 教 育 科                                                                                                                     |
| 教 員                  |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                               |
| 授 業 の 参 考 に した かった 点 | <input type="checkbox"/> 教員の言葉<br><input type="checkbox"/> 進め方の適切さ<br><input checked="" type="checkbox"/> 理解への配慮<br><input type="checkbox"/> その他 ( )                     | <input type="checkbox"/> 板書などの見やすさ<br><input checked="" type="checkbox"/> 質問のしやすさ<br><input type="checkbox"/> 準備工夫            |
| 見学して参考になったと感じた点      | <input type="checkbox"/> 教員の言葉<br><input checked="" type="checkbox"/> 進め方の適切さ<br><input checked="" type="checkbox"/> 理解への配慮<br><input type="checkbox"/> その他 ( )          | <input type="checkbox"/> 板書などの見やすさ<br><input checked="" type="checkbox"/> 質問のしやすさ<br><input checked="" type="checkbox"/> 準備工夫 |
| そ の 他                | 1年生の数学で、非常に丁寧な授業をされているということで参考にさせていただきました。教科書、問題集とは別に演習課題を毎回準備され、学生の理解に努められている様子がよくわかりました。問題→指名・回答→解説→確認というテンポのよい繰り返しが退屈さを感じさせません。「質問がないか」という再三の確認も、理解への配慮が行き届いていると思います。 |                                                                                                                               |

FD 委員会

\* 学生課教務係へ提出してください。

(出典：学生課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントはFD委員会が中心となって行っており、その主な活動は、FD研修会の開催、学生による授業評価アンケートとそのフィードバック、公開授業とそのフィードバックなどであり、組織として実施されている。

**観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。**

(観点に係る状況)

1) ファカルティ・ディベロップメントによる教育改善への取り組み

ファカルティ・ディベロップメントのうち、教員研修会では、毎回テーマを限定しての問題点の発掘と改善策の検討が行われている。

ファカルティ・ディベロップメント活動のうち、授業参観およびその報告書の作成はそれぞれに教育の質の改善に寄与していると思われる。報告書は授業担当者にも送付されるので、参観者、授業者ともに参考になる面が多いと判断している。

明示的な改善計画を促す取組は、学生による授業評価アンケートによるものである。FD委員会では授業評価が一定の基準に満たないものについて、授業改善計画書の提出と授業見学・報告書の提出を義務づけている(資料9-2-②-1, 2)。その結果、一定の基準に満たないものの減少が顕著である(資料9-2-②-3)。

FD委員会のもうひとつの取組は、試験問題の相互公開の制度化であり、これによってシラバスとおりの適切な試験問題の出題が保証されることになった(資料9-2-②-4)。

- 資料9-2-②-1：授業評価アンケートによる授業改善
- 資料9-2-②-2：授業改善計画書
- 資料9-2-②-3：授業評価アンケートによる授業改善効果
- 資料9-2-②-4：試験問題相互公開による改善

## 資料9-2-②-1：授業評価アンケートによる授業改善

平成19年2月15日

FD委員会委員 各位

委 員 長

平成18年度第9回FD委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

期 日 平成19年1月25日（木） 17時00分～18時40分  
 場 所 第2小会議室  
 出席者 深見，八田，大坪，河村，豊田，内田，中村  
 （室屋，津島，山口）  
 欠席者 前田，割澤

（中略）

## （1）授業方法改善のためのアンケートについて

## ①授業方法改善のためのアンケートの結果で2.5以下が2回以上となる教員の取扱いについて

各委員から、授業方法改善のためのアンケート結果でレーダーチャートの項目すべてが2.5以下の科目を有し、かつ、同一科目で2回以上該当した教員に対する更なる改善効果が得られる方法について、学科意見の報告があり、協議を行った。主な意見は次のとおり。

- ・互いに助け合う必要がある。そのためにも、学科内で結果を公開すればよいのではないかと。それ以上は管理職に一任する。
- ・研究授業を行う。

協議の結果、連続することで科目の達成度にも関わってくるため、これらの意見の実施について学科に意見を求めることとなった。

## ②平成18年度前期授業方法改善のためのアンケート結果について

委員長から、平成18年度前期授業方法改善のためのアンケート結果におけるレーダーチャートの項目すべてが2.5以下の科目について、資料に基づき説明があり、協議の結果、次のとおり行うこととなった。

- ・今回の2.5以下の科目を有する教員の措置について、本校の教員には1年以内の授業見学を義務付け、その連絡は委員長が行う。非常勤講師には授業改善計画書の提出のみとし、今後学科又は教科で検討をする。
- ・次年度の集計においては、合同で行っている5年次「ドイツ語演習」及び専攻科の共通科目をクラス別とせず、一括して行う。

なお、提出された授業改善報告書は、教務主事預かりとなることが確認された。

また、委員長から、授業見学を行った場合は授業見学報告書を提出することについて、改めて依頼があった。

（出典：FD委員会議事録）





## 資料9-2-②-3：授業評価アンケートによる授業改善効果

以下の項目を4段階で評価した場合、すべての項目が 2.5 以下である科目数の推移

1. この授業で、教員の言葉がはっきりと聞こえましたか
2. この授業の、板書や OHP 等は見やすかったですか
3. この授業で、進め方の速さは適切でしたか
4. 授業中や放課後は、質問しやすい雰囲気でしたか
5. この授業で、教員は学生の理解度に気を配っていると感じましたか
6. この授業で、学生が理解できる用は準備や工夫を感じましたか

|          |    |
|----------|----|
| 平成16年度前期 | 50 |
| 平成16年度後期 | 45 |
| 平成17年度前期 | 51 |
| 平成17年度後期 | 25 |
| 平成18年度前期 | 18 |
| 平成18年度後期 | 8  |

(出典：FD委員会保管資料)

## 資料9-2-②-4：試験問題相互公開による改善

平成18年12月5日

FD委員会委員 各位

委員長

平成18年度第7回FD委員会の記録について（通知）

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

期 日 平成18年11月16日（木） 17時00分～18時30分

場 所 第1小会議室

出席者 深見，八田，大坪，河村，豊田，内田，中村  
(室屋，津島，山口)

欠席者 前田，割澤

(中略)

(1) 学習目標と試験内容の確認について

各委員から、前期末試験における学習目標と試験内容の確認について、ファイリング等の実施状況の報告があった。報告の結果、ファイリングが完了していない学科があり、今後定常化するために、改めて各委員が学科にファイリングを促すこととなった。

また、次回委員会で各委員に再度ファイリング等の実施状況の報告を求めることとなった。

(出典：FD委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントの一環である授業評価アンケートに基づいて各教員が授業を改善していくシステムが整っており、その改善効果も著しい。

以上のように、ファカルティ・ディベロップメントが本校の改善に資するものであるということが出来る。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 特別教育研究経費，教材開発経費の制度があり，学校として教育能力の向上や，各教員の教育の状況を学校が把握することに寄与している。
- ・ ファカルティ・ディベロップメントの一環である授業評価アンケートによる授業改善の効果が著しい。

(改善を要する点)

- ・ 特になし。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータや資料は，授業の計画と実施に関するもの(シラバス，成績評価資料など)，学生の活動に関するもの(課外活動，進路状況など)，教員に関するもの(授業評価アンケート，研究活動など)，学校の体制に関するもの(教育課程，入学試験など)と分類され，それぞれの性質に応じて学生課教務係・学生係，総務課総務係・企画室を中心に，定められた部署が収集保管している。また，収集・蓄積されたデータや資料に基づき，様々な視点から教育活動の実態を適切に評価できる体制が整備されている。

学生の意見聴取は，「授業方法改善のためのアンケート」として毎年 2 回全ての科目について実施されている。また，アンケートの集計結果は各教員にフィードバックされ，授業方法を改善してきている。学生の満足度調査，卒業生や進路先の企業からの意見の聴取なども定期的に行われるようになり，集計結果は自己点検評価報告書で公開するなどして，情報開示にも積極的に取り組むことにしている。

各種の評価を教育の質の向上に結びつけるシステムは将来構想計画委員会各部会，将来構想計画委員会，総合企画会議という一連の流れがそれに相当する。現在のところ，そのような評価を受けて教育課程の改善を行ったという明確な資料はないが，次期教育課程の改定に向けての準備が行われている。また，学生による達成度評価による教育の見直しも行われている。現在の教育課程は中期目標・中期計画の考え方に基づいて定められた。

個々の教員はそれぞれに授業の質の向上を図り，授業方法の改善等を行っている。本校には特別教育研究経費，教材開発費の制度が敷かれ，その応募状況も活発である。これらの制度は，教員の授業改善を支援するとともに，学校がその状況を把握する役割を果たしている。その報告会も行われ，それに伴って，それぞれの授業の工夫や開発した教材などを収集する体制が整いつつある。

教員の研究分野を活かした卒業研究・特別研究が行われていること，教科書等の執筆状況，学生と共著の論文発表の状況，教育学会および教育研究集会等での発表状況が示されている。

ファカルティ・ディベロップメントはFD委員会が中心となって行っており、その主な活動は、FD研修会の開催、学生による授業評価アンケートとそのフィードバック、公開授業とそのフィードバックなどである。これらは組織として実施されており、その一環である授業評価アンケートに基づいて各教員が授業を改善していくシステムが整っており、その改善効果も著しい。

## 基準10 財務

## (1) 観点ごとの分析

観点10-1-①：学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点到に係る状況)

本校における教育研究活動を安定して遂行するために、平成16年4月の独立行政法人化に伴い必要な資産を国から継承して有している。

平成19年3月末現在におけるその資産現在高は、資料(資料10-1-①-1)のとおりである。

また、債務については貸借対照表(資料10-1-①-2)に示すとおり運営費交付金等の範囲内で運営しており債務はない。

- 資料10-1-①-1：資産現在高
- 資料10-1-①-2：貸借対照表(抜粋)

## 資料10-1-①-1：資産現在高

平成19年3月31日現在

| 種類     |      | 数量      | 単位             | 金額(円)         |
|--------|------|---------|----------------|---------------|
| 土地     |      | 124,175 | m <sup>2</sup> | 2,662,600,000 |
| 建物     | 延べ面積 | 30,810  | m <sup>2</sup> | 2,285,701,115 |
| 構築物    |      | 1       | 式              | 265,101,404   |
| 工具器具備品 |      | 1       | 式              | 81,116,558    |
| 車両運搬具  |      | 1       | 式              | 1,377,467     |
| その他    |      | 1       | 式              | 2,016,101     |
| 合計     |      |         |                | 5,297,912,645 |

(出典：財務会計システムより抜粋)

## 資料10-1-①-2：貸借対照表（抜粋）

## 貸借対照表（抜粋）

平成19年3月31日

（単位：円）

| 資産の部          |               |
|---------------|---------------|
| 科 目           | 本 年 度 末       |
| 流動資産          | 236,785,893   |
| 普通預金          | 236,710,866   |
| その他           | 75,027        |
| 固定資産          | 5,297,912,645 |
| 有形固定資産        | 5,297,809,544 |
| 建物            | 2,780,977,399 |
| 建物減価償却累計額     | △ 495,276,284 |
| 構築物           | 452,171,030   |
| 構築物減価償却累計額    | △ 187,069,626 |
| 車両運搬具         | 5,642,321     |
| 車両運搬具減価償却累計額  | △ 4,264,854   |
| 工具器具備品        | 156,931,260   |
| 工具器具備品減価償却累計額 | △ 75,814,702  |
| 土地            | 2,662,600,000 |
| その他           | 1,913,000     |
| 無形固定資産        | 33,001        |
| 電話加入権         | 33,000        |
| その他           | 1             |
| 投資その他の資産      | 70,100        |
| 資産の部合計        | 5,534,698,538 |

| 負債の部     |               |
|----------|---------------|
| 科 目      | 本 年 度 末       |
| 流動負債     | 272, 252, 693 |
| 運営費交付金債務 | 8, 443, 347   |
| 授業料債務    | 0             |
| 預り寄附金    | 42, 348, 770  |
| 前受共同研究費  | 960, 000      |
| 未払金      | 209, 688, 180 |
| 未払費用     | 10, 812, 396  |
| 固定負債     | 157, 871, 008 |
| 資産見返負債   | 155, 518, 998 |
| 長期未払金    | 2, 352, 010   |
| 負債の部合計   | 430, 123, 701 |

| 資本の部         |                  |
|--------------|------------------|
| 科 目          | 本 年 度 末          |
| 資本金          | 5, 301, 046, 329 |
| 政府出資金        | 5, 301, 046, 329 |
| 資本剰余金        | △ 198, 345, 871  |
| 資本剰余金        | 525, 482, 368    |
| 損益外減価償却累計額   | △ 699, 452, 005  |
| 損益外減損損失累計額   | △ 88, 000        |
| 損益外固定資産除売却差額 | △ 24, 288, 234   |
| 利益剰余金        | 1, 555, 469      |
| 当期末処分利益      | 1, 555, 469      |
| 資本の部合計       | 5, 104, 255, 927 |

| [本支店勘定] |            |
|---------|------------|
|         | 本 年 度 末    |
| [本支店勘定] | △ 318, 910 |

|           |                  |
|-----------|------------------|
| 資産の部合計    | 5, 534, 379, 628 |
| 資本・負債の部合計 | 5, 534, 379, 628 |

(出典：財務会計システムより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

資産現在高で示すように、本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するために必要な資産を有している。

また、長期又は短期の借入金はなく、貸借対照表に示すように健全な運営をしている。

**観点 10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。**

(観点に係る状況)

本校の経常的収入は、「運営費交付金等」「授業料・入学料・検定料」及び「外部資金等」に分類される。「外部資金等」は、共同研究、受託研究、受託試験、寄附金、科学研究費補助金等からなる。

「授業料・入学料・検定料」は、収入の状況(資料 10-1-②-1)に示すように過去5年間の平均で約2億5,000万円である。一方、「外部資金等」は、約4,100万円である。

□ 資料 10-1-②-1：収入の状況

資料 10-1-②-1：収入の状況

収入の状況

(単位:円)

|          | 平成14年度      | 平成15年度      | 平成16年度      | 平成17年度      | 平成18年度      | 平均          |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 授業料      | 222,844,500 | 227,523,300 | 200,706,400 | 239,076,950 | 237,532,500 | 225,536,730 |
| 入学料      | 20,473,200  | 20,642,400  | 20,727,000  | 20,304,000  | 20,473,200  | 20,523,960  |
| 検定料      | 8,068,500   | 7,311,600   | 6,369,000   | 6,699,000   | 5,643,000   | 6,818,220   |
| 受託研究費    | 1,930,000   | 2,532,000   | 3,525,000   | 4,465,000   | 6,337,000   | 3,757,800   |
| 共同研究費    | 800,000     | 0           | 0           | 1,032,500   | 4,020,000   | 1,170,500   |
| 受託試験料    | 374,100     | 454,700     | 57,800      | 3,521,100   | 1,744,100   | 1,230,360   |
| 寄附金      | 9,003,678   | 11,400,000  | 34,492,376  | 16,237,754  | 12,062,032  | 16,639,168  |
| 科学研究費補助金 | 13,300,000  | 8,640,000   | 10,630,000  | 12,880,000  | 18,320,000  | 12,754,000  |
| 雑入       | 4,870,463   | 4,541,583   | 6,938,575   | 6,033,153   | 5,568,097   | 5,590,374   |
| 計        | 281,664,441 | 283,045,583 | 283,446,151 | 310,249,457 | 311,699,929 | 294,021,112 |

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

以上のことから、経常的収入の合計は、本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するために継続的に確保されているといえる。

授業料・入学料・検定料については、入学定員を上回っており、安定した収入が確保されている。



一方、受託・共同研究、受託試験、寄附金、科学研究費等の外部資金等は、年度ごとに変動はあるものの、安定した収入が確保されている。なお、今後、経常的収入を安定して確保する努力を行う必要がある。

**観点 10-2-①：** 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点到に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標、中期計画及び本校の教育研究活動上の目標・目的を達成するための本校の財務上の基礎となる予算は、校長のリーダーシップのもとに定められた予算編成方針(資料10-2-①-1)に基づき、各収入財源額を適切に見極めた上、教育研究目的を達成するために効果的に配分を行っている。(資料10-2-①-2)

その予算は総合企画会議及び主任会議において審議・決定されたのち、各学科主任、事務部長を通じて全教職員に公表・明示される。(資料10-2-①-3)、(資料10-2-①-4)

また、その際には、本校の教育研究活動上の目的を達成するための予算であること、さらに有限な資源であるため適切・効率的な執行に努める必要があることの周知・徹底を図っている。

- 資料 10-2-①-1：平成 19 年度予算編成に係る基本方針
- 資料 10-2-①-2：平成 19 年度予算科目（支出）
- 資料 10-2-①-3：予算の審議（総合企画会議）
- 資料 10-2-①-4：予算の審議（主任会議）

## 資料 10-2-①-1：平成 19 年度予算編成に係る基本方針

## 1. 平成 19 年度予算編成に係る基本方針

- (1) 平成 19 年度の予算編成に当たり、「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」の基本理念の元に、平成 19 年度の国の予算編成方針を踏まえて、本校の経費の見直し、効率化・合理化を行い、教育、研究、社会貢献上の特色を出す予算配分とする。
- (2) 1%の業務の効率化は、管理運営に関する経費を中心に具体的な合理化を策定し、一層きめ細かな経費の削減を実行することで、積極的に推進する。
  - ・中期計画 I 業務運営の効率化・・・「高等専門学校設置基準により、必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、・・・毎事業年度につき 1%の業務の効率化を図る。」
- (3) 予算配分にあたっては、従来の方針を尊重しつつも国立高等専門学校機構の年度計画に添い、一層の重点化を進め、効率的、効果的な予算配分とする。
- (4) 教育研究基盤校費の基礎額は、校長裁量経費の額と合わせて機構本部からの配分額を確保する。
- (5) 執行に際しては、学科別、個人別に配分された額は、年度内（物品等の請求は翌年の 2 月中旬を目途）に、各々の責任において執行残が無いように計画的に執行する。
- (6) 教員の研究等にかかる旅費は、教育研究基盤校費に含めて配分する。執行に際しては前年度並みの教員一人 10 万円程度を執行可能額とするが、説明責任の観点から適切かつ効果的に執行する。  
教員の会議等にかかる旅費は所要額を確保する。
- (7) 校長裁量経費は、教育研究の活性化を推進するため及び学校運営の改善に主体的に取り組むために必要とする経費であるため、他の経費が効率化等により削減されている状況下ではあるが、その必要性から前年度予算額を確保する。
- (8) 非常勤講師にかかる人件費は、機構本部の配分方法を踏まえつつ、本校において見直したうえで所要額を確保するが、執行にあたっては、その必要性を十分に審査して効率化を図ることとする。
- (9) 機構本部からの追加予算にかかる学内予算配分にあたっては、その目的に沿い、校長の判断により、適切かつ効果的な配分を行う。

(出典：総務課保管資料)

資料 10-2-①-2 : 平成19年度予算科目 (支出)

| 区 分      |           | 19年度<br>当初予算額 | (単位:千円)<br>摘 要     |
|----------|-----------|---------------|--------------------|
| 業務費      |           | 1,394,339     |                    |
|          | 人件費       | 1,127,955     |                    |
|          |           | 677,319       | 教員人件費              |
|          |           | 450,636       | 職員人件費              |
|          | 教育研究経費    | 156,426       |                    |
|          | 教育研究基盤校費  | 61,580        |                    |
|          |           | 39,599        | 教育研究実施経費           |
|          |           | 1,981         | 教育研究実施経費(特別教育研究経費) |
|          |           | 20,000        | 校長裁量経費             |
|          | 教育研究事業費   | 45,727        |                    |
|          |           | 4,956         | 特殊装置維持費            |
|          |           | 1,369         | 公開講座等経費            |
|          |           | 767           | 入学卒業経費             |
|          |           | 686           | 入試経費               |
|          |           | 7,530         | 正課教育経費             |
|          |           | 2,164         | 留学生経費              |
|          |           | 2,687         | 学生生活経費             |
|          |           | 1,293         | 学生保健衛生経費           |
|          |           | 1,938         | 寄宿舎経費              |
|          |           | 1,139         | 教育改善経費             |
|          |           | 13,670        | 教育改善経費(教育充実設備費)    |
|          |           | 4,891         | 旅費交通費              |
|          |           | 2,637         | 非常勤講師等旅費           |
|          | 教育研究管理費   | 24,327        |                    |
|          |           | 24,033        | 管理運営費              |
|          |           | 294           | 雑費その他              |
|          | 教育等施設基盤経費 | 24,792        |                    |
|          |           | 10,664        | 維持管理費              |
|          |           | 12,211        | 業務委託費及び保守等経費       |
|          |           | 900           | 校地維持・整備費           |
|          |           | 1,017         | 寄宿舎費               |
|          | 教育研究支援経費  | 26,844        |                    |
|          | 支援基盤経費    | 7,704         |                    |
|          |           | 7,704         | 支援実施経費             |
|          | 支援事業費     | 14,290        |                    |
|          |           | 585           | 旅費交通費              |
|          |           | 11,005        | 支援設備等充実費           |
|          |           | 2,700         | 図書等購入費             |
|          | 支援管理費     | 2,887         |                    |
|          |           | 2,867         | 管理運営費              |
|          |           | 20            | 雑費その他              |
|          | 教育等施設基盤経費 | 1,963         |                    |
|          |           | 510           | 維持管理費              |
|          |           | 1,453         | 業務委託費及び保守等経費       |
|          | 一般管理費     | 83,114        |                    |
|          | 一般業務費     | 35,376        |                    |
|          |           | 6,320         | 消耗品費               |
|          |           | 1,350         | 備品費                |
|          |           | 2,196         | 印刷製本費              |
|          |           | 1,070         | 赴任旅費               |
|          |           | 4,104         | 旅費交通費              |
|          |           | 5,170         | 通信運搬費              |
|          |           | 1,041         | 賃借料                |
|          |           | 2,726         | 車両燃料費              |
|          |           | 1,017         | 福利厚生費              |
|          |           | 140           | 会議費                |
|          |           | 200           | 諸謝金費               |
|          |           | 1,882         | 事務電算機経費            |
|          |           | 2,839         | 学生募集経費             |
|          |           | 5,321         | 雑費その他              |
|          | 施設管理費     | 18,320        |                    |
|          |           | 9,174         | 水道光熱費              |
|          |           | 88            | 修繕費                |
|          |           | 612           | 租税公課               |
|          |           | 8,446         | 雑費その他              |
|          | 教育等施設基盤経費 | 29,418        |                    |
|          |           | 22,795        | 維持管理費              |
|          |           | 4,522         | 業務委託費及び保守等経費       |
|          |           | 1,021         | 生活廃水処理施設           |
|          |           | 880           | 校地維持・整備費           |
|          |           | 200           | 寄宿舎費               |
| 寄附金等事業費  |           | 12,062        |                    |
| 産学連携等研究費 |           | 12,101        |                    |
| 施設整備費    |           | 43,050        |                    |
| 合 計      |           | 1,461,552     |                    |

(出典：総務課保管資料)

## 資料10-2-①-3：予算の審議（総合企画会議）

## 平成19年度第2回総合企画会議議事要録

日 時 平成19年5月9日（水） 13時30分から16時40分まで  
 場 所 校長室  
 出席者 金岡（校長），櫻野（副校長），松田（学生主事），西澤（寮務主事），  
 畑（研究主事），高島（図書情報主事），  
 原田（事務部長），佐藤（総務課長），伊藤（学生課長）  
 陪席者 菊澤（企画室長），紙田（総務課課長補佐），森田（学生課課長補佐）  
 幹 事 総務係長

## 議 事

## I. 協議題

## 1. 中期計画及び平成19年度計画について

## 2. 平成19年度予算配分（案）について

総務課課長補佐から，資料2に基づき，平成19年度予算配分案について説明があり，検討の結果，次週の主任会議で諮ることとなった。

（主な説明・質問）

- ・19年度当初予算は18年度予算と比較して約1900万円の減額を見込んでいたが，実際は約1200万円の減額で済んだので，計画していた旅費相当配分と校長裁量経費の減額は実施しないこととした。
- ・専攻科へ追加配分するため，創造工学演習経費としての要求書を作成することとし，予算は校長裁量経費により配分することとする。
- ・各学科等への配分額についても学生当たり積算単価の改正により，前年度と比較しアップした。

（出典：総合企画会議議事録）

## 資料 10-2-①-4：予算の審議（主任会議）

## 平成19年度第2回主任会議議事要録

日 時：平成19年5月16日（水） 午後1時40分から午後5時25分まで

場 所：校長室

出席者：金岡（校長），櫻野（副校長），松田（学生主事），西澤（寮務主事），  
畑（研究主事），高島（図書情報主事），太田（伸）（一般），黒崎（機械），  
深見（電気），金寺（電子情報），小泉（環境都市），金木（建築），  
原田（事務部長）

陪席者：総務課長，学生課長，企画室長，総務課課長補佐，学生課課長補佐

幹 事：総務係長

議 事：

## I. 報告事項

## II. 協議題

(1) 中期計画及び平成19年度計画について

(2) 諸規則等の一部改正について

(3) 平成19年度予算配分（案）について

資料7に基づき，総務課課長補佐（財務担当）から，平成19年度予算配分計画について説明があり，協議の結果，原案どおり了承された。

（主な説明・質問）

- ・ 19年度当初予算は18年度予算と比較して約1900万円の減額を見込んでいたが，実際は約1200万円の減額で済んだので，計画していた旅費相当配分と校長裁量経費の減額は実施しないこととした。
- ・ 各学科等への配分額にあつては，学生当たり積算単価の改正により，前年度と比較しアップした。
- ・ 昨年は暖冬で除雪経費をほとんど支出していないと思われるが，余剰分というものはあるのか。（特に当初から多額の予算を見込んであるわけではなく，必要時に予備的予算から支出した後，機構へ予算要求を行う。）
- ・ 教育研究経費と教育研究支援経費の違いは何か。（財務会計上の区分であり，現実の学校業務上に線が引かれているわけではない。）
- ・ 実習工場の経費分類が変更になったことに伴い，会計書類上も変更があるのか。（変更がある。請求伝票その他で変更が必要なので担当係で確認して欲しい。）

（出典：主任会議議事録）

(分析結果とその根拠理由)

本校においては中期目標、中期計画を達成するための基盤となる予算について、適切な収支バランスの把握のもと総合企画会議及び主任会議で活発に審議し、関係者に予算の面からも学校の活動方針を明示しているところである。

その方針の明示、財務上の裏づけのもと、着実に本校の目的・目標が達成されている。

以上のことから、本校においては、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。

**観点10-2-②：** 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点到係る状況)

本校においては、総合企画会議等で予算について協議し、それに基づき予算を配分し予算の範囲内で執行を行っている。支出については、財務会計システムで一元管理されている。(資料10-2-②)

□ 資料10-2-②：損益計算書

## 資料 10-2-②-1：損益計算書(1)

事業年度： 18年度  
 支部： 20\_石川工業高等専門学  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

|                 |            | (単位：円)      |               |
|-----------------|------------|-------------|---------------|
| 銀行手数料           | 194,099    |             |               |
| その他手数料          | 12,600     | 206,699     |               |
| 租税公課            |            |             |               |
| 自動車重量税          | 113,400    |             |               |
| 固定資産税           | 322,950    |             |               |
| 収入印紙代           | 16,200     |             |               |
| 消費税等            | 0          |             |               |
| その他の租税公課        | 0          | 452,550     |               |
| 減価償却費           |            | 2,175,068   |               |
| 貸倒損失            |            | 0           |               |
| 貸倒引当金繰入額        |            | 0           |               |
| 徴収不能引当金繰入額      |            | 0           |               |
| 雑費              |            |             |               |
| 環境整備費           | 3,134,861  |             |               |
| 移設撤去費           | 0          |             |               |
| 雑役務費            | 20,936,625 | 24,071,486  | 77,627,460    |
| 財務費用            |            |             |               |
| 財務費用            |            |             |               |
| 支払利息            |            | 115,486     |               |
| その他の財務費用        |            | 0           | 115,486       |
| 雑損              |            |             |               |
| 雑損              |            |             | 0             |
| [経常費用] 合計       |            |             | 1,420,877,127 |
| [経常収益]          |            |             |               |
| [経常収益] 運営費交付金収益 |            |             | 1,096,883,422 |
| [経常収益] 授業料収益    |            |             |               |
| [授業料収益] 授業料収益   |            | 233,126,233 |               |
| [授業料収益] 講習料収益   |            | 222,800     | 233,349,033   |
| [経常収益] 入学金収益    |            |             | 20,473,200    |
| [経常収益] 検定料収益    |            |             | 5,643,000     |
| [経常収益] 受託研究等収益  |            |             |               |
| 受託研究収益          |            |             |               |
| 国又は地方公共団体       | 452,000    |             |               |
| その他             | 5,885,000  | 6,337,000   |               |
| 共同研究収益          |            |             |               |
| 国又は地方公共団体       | 450,000    |             |               |

(出典：財務会計システムより抜粋)

## 資料 10-2-②-1：損益計算書(2)

事業年度： 18年度  
 支部： 20 石川工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

|                  |           | (単位：円)     |               |
|------------------|-----------|------------|---------------|
| その他              | 2,610,000 | 3,060,000  |               |
| [経常収益] 受託事業等収益   |           |            |               |
| 国又は地方公共団体        |           | 0          |               |
| その他              |           | 1,744,100  | 1,744,100     |
| [経常収益] 補助金等収益    |           |            | 4,476,000     |
| [経常収益] 寄附金収益     |           |            | 14,324,502    |
| [経常収益] 施設費収益     |           |            | 3,042,619     |
| [経常収益] 資産見返負債戻入  |           |            |               |
| 資産見返運営費交付金等戻入    |           | 6,432,092  |               |
| 資産見返補助金等戻入       |           | 0          |               |
| 資産見返寄附金戻入        |           | 928,983    |               |
| 資産見返物品受贈額戻入      |           | 12,332,768 |               |
| 特許権仮勘定見返運営費交付金戻入 |           | 0          |               |
| 特許権仮勘定見返補助金等戻入   |           | 0          | 19,693,843    |
| [経常収益] 財務収益      |           |            |               |
| 受取利息             |           | 57,674     |               |
| その他の財務収益         |           | 0          | 57,674        |
| [経常収益] 雑益        |           |            |               |
| 財産貸付料収入          |           | 5,262,813  |               |
| 文献複写料            |           | 24,160     |               |
| 物品受贈益            |           | 0          |               |
| 債権受贈益            |           | 0          |               |
| 承継剰余金債務戻入        |           | 0          |               |
| 間接経費収入           |           | 0          |               |
| その他の雑益           |           | 650        | 5,287,623     |
| [経常収益] 合計        |           |            | 1,414,372,016 |
| 経常利益             |           |            | -6,505,111    |
| [臨時損失]           |           |            |               |
| [臨時損失] 固定資産除却損   |           |            | 0             |
| [臨時損失] 固定資産売却損   |           |            | 0             |
| [臨時損失] 災害損失      |           |            | 0             |
| [臨時損失] 減損損失      |           |            | 0             |
| [臨時損失] その他の臨時損失  |           |            | 3,231,418     |
| [臨時損失] 合計        |           |            | -3,231,418    |
| [臨時利益]           |           |            |               |
| [臨時利益] 固定資産売却益   |           |            | 0             |

(出典：財務会計システムより抜粋)



## 資料 10-2-②-1：損益計算書(3)

事業年度： 18年度  
 支部： 20\_石川工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

|                 |            | (単位：円) |
|-----------------|------------|--------|
| [臨時利益]貸倒引当金戻入   | 0          | 0      |
| [臨時利益]徴収不能引当金戻入 | 0          | 0      |
| [臨時利益]退職給付引当金戻入 | 0          | 0      |
| [臨時利益]資産見返負債戻入  |            |        |
| 資産見返運営費交付金等戻入   | 0          |        |
| 資産見返補助金等戻入      | 0          |        |
| 資産見返寄附金戻入       | 0          |        |
| 資産見返物品受贈額戻入     | 0          | 0      |
| [臨時利益]その他引当金戻入  | 0          | 0      |
| [臨時利益]その他の臨時利益  | 3,287,098  | 0      |
| [臨時利益]合計        | 3,287,098  | 0      |
| [当期純利益(純損失)]    | -6,449,431 | 0      |
| [目的積立金取崩額]      | 8,004,900  | 0      |
| [当期総利益(総損失)]    | 1,555,469  | 0      |

(出典：財務会計システムより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

収支については、財務会計システムで一元管理されており、収入に基づき予算を配分し、予算の範囲内で執行を行っているため、支出超過となっていない。

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

本校における教育研究活動予算については、本校の目的・目標を最も効果的に達成するために、校長が決定した予算編成方針により配分計画案を作成し、総合企画会議及び主任会議にて審議のうえ決定している。

本校の教育研究活動の目的・目標を効果的に達成するための予算である「校長裁量経費」はその最も顕著なものであるが、その内容の主なものには「特別教育研究経費」及び「学科傾斜配分経費」等があり、教員及び各学科等への公募により、校長及び副校長が審査・配分決定を行う等、適切かつ競争的な環境のもとに学校の目的を達成するための資源配分を行っている。

また、施設・設備の整備についても、学校の目的を達成するために必要不可欠なものであるため、運営費交付金による財源を有効に活用しているが、比較的大規模・高額なものについては概算要求を行い、補助金等にも積極的に応募し、その獲得整備に努めている。

□ 資料 10-2-③-1：特別研究経費の募集要領

## 資料 10-2-③-1：特別研究経費の募集要領

平成19年 4月 2日

## 平成19年度 特別教育研究経費の募集要領

## 1. 趣旨

教員等による教育研究活動を積極的に推進し、高専の教育力を一層充実強化することを目的に、平成19年度予算においても校長裁量経費から特別教育研究経費の枠を5,000千円設定する予定である。

## 2. 申請内容等

申請内容は、原則として競争的資金を獲得するための調査・研究費(準備等経費)又は研究活動費を対象とする。なお、企業研究者を含めることも可能とする。(本校技術振興交流会会員の企業研究者であれば、なお望ましい。)

申請は、「特別教育研究計画書」(別紙様式①)の提出により行うこととし、学科内及び学科を超えた複数者による共同申請を優先し、複数の申請も可能とする。

## 3. 1件当たりの経費要求

経費の要求は、同計画書で行うが、原則として1件当たり500千円～1,000千円程度とする。

## 4. 審査及び採択等

申請された計画書は、第1次で書類審査を行い、第2次でヒアリングによる審査を実施し、採択を決定する。

## 5. 「特別教育研究成果報告書」の提出と研究成果等の発表

当該資金の配分を受けた者は、平成20年4月末までに「特別教育研究成果報告書」(別紙様式②)を提出するとともに、トライアル研究センターが主催する発表会に於いて発表することとする。

## 6. 競争的資金(科学研究費補助金等)の申請

当該資金の配分を受けた者は、競争的資金(科学研究費補助金等)の申請を必ず行うものとするが、成果報告書の提出時までに競争的資金の申請がなされていない場合は、その理由、今後の予定等を記載するものとする。

なお、競争的資金の申請に際しては、事前に申請書写しを提出するものとする。

## 7. 計画書の取りまとめ等

当該経費募集にかかる「特別教育研究計画書」及び「特別教育研究成果報告書」の取りまとめは、総務課において行う。

なお、当該経費にかかる細部の取り扱いは、本要領によるほかは校長が決定する。

以上

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

予算については、校長のリーダーシップのもとに配分案が策定され、総合企画会議及び主任会議で審議のうえ適切な資源配分がなされている。

観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の財務活動を示す財務諸表等は、高専機構共通の財務会計システムにより、また、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第43条、第44条(資料10-3-①-1)及び独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則17条、18条、19条、20条(資料10-3-①-2)の規定に基づき作成している。

その財務諸表等は、機構理事長に提出し、機構全体として財務諸表等を作成し、主務大臣に提出され公表されることになっている。

- 資料 10-3-①-1：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則(抜粋)
- 資料 10-3-①-2：独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則(抜粋)

資料 10-3-①-1：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則(抜粋)

○ 独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

(月次決算)

第43条 出納命令役は、毎月末日において総勘定元帳を締め切り、月次の財政状況を明らかにするため、合計残高試算表を作成し、翌月15日までに理事長に提出しなければならない。

(年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則)

## 資料 10-3-①-2：独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則（抜粋）

## ○ 独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則

## （月次決算）

第17条 出納命令役は、会計規則第43条の規定による合計残高試算表を提出する場合は、予算執行状況集計表を添付しなければならない。

2 出納命令役は、月次決算にあたり、次の各号の事項を実行しなければならない。

- 一 預金残高、借入金残高について、通帳等の残高と預金出納帳等の残高との照合を行う。
- 二 固定資産について、資産管理システムと財務会計システムのデータの照合を行い、取得、売却、廃棄及び異動等の処理が適切になされていることの検証を行う。
- 三 運営費交付債務及び授業料債務については、収益化の基準により処理を行う。
- 四 債権・債務及び仮勘定の内容について検証を行う。

## （年度末決算）

第18条 出納命令役は、毎事業年度末における資産、負債及び資本並びに収益及び費用について、次の各号に掲げるところにより年度末決算を行わなければならない。

- 一 預金残高及び借入金残高について、金融機関等から残高証明書を取り寄せ、残高を確かめ、預金出納帳等と照合する。差異があるときは、銀行等勘定調整表を作成し、必要に応じて修正する。
- 二 棚卸資産について、実際にその在高を検証する。
- 三 償却を要すべき固定資産については、定額法を採用するものとし、毎事業年度において減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）別表を考慮のうえ減価償却を行うものとする。
- 四 経過勘定項目について、必要に応じた計算を行い、振替伝票により決裁を受けるものとする。
- 五 運営費交付金債務及び授業料債務については、収益化の基準により処理を行う。
- 六 その他決算整理に関する修正処理について、振替伝票により決裁を受けるものとする。

## （様式等）

第19条 会計規則第44条第3項に規定する書類（第六号による附属明細書を除く）は、次の各号に掲げるとおりとする。なお、その様式については、電子媒体によるものを含み、別に定めるものとする。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書

2 会計規則第44条第2項第六号による附属明細書は、それぞれ担当する会計機関で作成する。

## （財務諸表及び決算報告書）

第20条 機構本部の出納命令役は、年度末決算の結果を取りまとめ、財務諸表及び決算報告書を作成し、会計規則第44条に規定する年度末決算に必要な決算書類を作成し、翌事業年度5月末日までに理事長に提出しなければならない。

（出典：独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則）

(分析結果とその根拠理由)

機構本部に本校の財務諸表を提出し、適切な形で公表されている。

**観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。**

(観点到係る状況)

本校においては、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条(資料10-3-②-1)の規定に基づいて、内部監査要領等(資料10-3-②-2, 資料10-3-②-3)を策定し、会計経理についての内部監査、物品検査等を定期的を実施してその実態を把握することにより、常に適正かつ効率的に財務処理を行う体制が整っている。

- 資料 10-3-②-1：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則 (抜粋)
- 資料 10-3-②-2：石川工業高等専門学校会計監査の実施要領 (抜粋)
- 資料 10-3-②-3：石川工業高等専門学校物品検査の実施要領 (抜粋)
- 資料 10-3-②-4：監査結果報告書

**資料 10-3-②-1：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則 (抜粋)**

○ 独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則)

## 資料 10-3-②-2：石川工業高等専門学校会計監査の実施要領（抜粋）

## （趣旨）

第1 この要領は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則34号。）第45条に基づき、石川工業高等専門学校における会計監査（以下「監査」という。）の実施について定めるものとする。

## （監査の種類）

第2 監査は、書類及び実地について行うものとする。

## （監査の区分）

第3 監査は、次の区分により行うものとする。

- 一 定期監査：原則として毎会計年度1回（9月）、第8各号に掲げるすべての事項について行う。
- 二 臨時監査：校長が必要と認める場合において、第8各号に掲げるすべての事項又はその一部の事項について行う。

## （監査事務の総括）

第4 監査に関する事務は、事務部長がこれを総括するものとする。

## （監査員）

第5 校長は、監査員任命簿（別紙様式1）により、その都度監査員を命ずるものとする。

## （監査補助員）

第6 校長は、必要があるときは監査補助員を指定することができる。

## （監査員等の権限）

第7 監査員及び監査補助員は、監査上必要な限度において、書類若しくは物件の呈示を求め、又は関係者に質問し、若しくは説明を求めることができる。

## （監査事項）

第8 監査は、次に掲げる事項について、実施するものとする。

- 一 財務会計に関する法令等の適用に関する事項
- 二 予算決算に関する事項
- 三 収入支出に関する事項
- 四 債権に関する事項
- 五 物品に関する事項
- 六 不動産に関する事項
- 七 契約に関する事項
- 八 旅費に関する事項
- 九 寄付金に関する事項
- 十 帳簿及び証拠書類に関する事項
- 十一 その他校長が必要と認める事項

## （監査実施計画）

第9 監査員は、監査実施にあたってはあらかじめ次の各号に掲げる事項について、監査実施計画を作成して事務部長の承認を得たのち必要事項について、関係者に通知しなければならない。

- 一 監査の方針に関すること。
- 二 監査の重点事項

## 三 監査事項

## 四 実施時期

## 五 その他監査に関して必要と認める事項

(監査実施細目)

第10 監査は、別に定める監査実施細目によりこれを行うものとする。ただし、これにより難しい場合は、監査員の判断により監査を実施することができるものとする。

(監査の立会)

第11 監査の実施にあたっては、関係者はこれに立ち会わなければならない。

(監査の結果報告)

第12 監査員は、監査実施後すみやかに別紙様式2による会計監査結果報告書を事務部長を経由して校長に提出しなければならない。この場合において必要があるときは事務部長は、意見を付するものとする。

(是正措置の命令)

第13 校長は、第12の規定による報告により会計監査については是正すべき事項があると認めるときは、事務部長に対して是正を命ずるものとする。

(意見聴取等)

第14 事務部長は監査の結果について、独立行政法人国立高等専門学校機構その他の関係官庁等の意見又は指示を求める必要があると認めるときは、当該事項について意見を聴取し又は指示をうけるものとする。

(準用)

第15 科学研究費にかかる経理、監査については、この要項を準用するものとする。

(その他)

第16 監査の実施についてこの要項により難しい場合は、校長の指示するところによるものとする。

## 附 則

- 1 この要領は、平成18年9月1日から実施する。
- 2 石川工業高等専門学校会計監査の実施要領(昭和54年12月1日施行)は、廃止する。
- 3 石川工業高等専門学校会計監査の実施要項(平成16年4月1日施行)は、廃止する。

(出典：総務課保管資料)



## 資料 10-3-②-3：石川工業高等専門学校物品検査実施要領（抜粋）

## ○石川工業高等専門学校物品検査の実施要領

## （趣旨）

第1 この要領は、独立行政法人国立高等専門学校機構物品管理規則（平成16年高専機構規則第39号。）第35条に基づき、本校における物品検査（以下「検査」という。）の実施について定めるものとする。

## （検査員）

第2 校長は、物品検査員任命簿（別紙様式1）により、その都度検査員を命ずるものとする。  
2 校長は、必要があるときは補助員を指定することができる。

## （検査事項）

第3 検査は、次に掲げる事項について実施するものとする。

- 一 法令等の適用に関する事項
- 二 分類に関する事項
- 三 管理換に関する事項
- 四 取得、供用、保管及び処分に関する事項
- 五 寄託及び貸付等に関する事項
- 六 帳簿その他関係証拠書類の整理に関する事項
- 七 その他、校長が必要と認める事項

## （検査の時期）

第4 定期的に行う検査（毎事業年度5月末日現在の物品の管理の実態）は、6月に1回 行うものとする。  
2 物品管理役、物品出納役又は物品供用役が交替するとき、又はその廃止があった場合の検査は、随時行うものとする。  
3 その他、校長が必要と認めた場合は、随時検査を行うものとする。

## （検査の報告）

第5 検査員は、検査を完了したときは、石川工業高等専門学校物品管理に関する事務取扱要項に定める物品検査書及び検査報告書を、校長に提出するものとする。


## 附 則

1 この要領は、平成18年10月1日から実施する。  
2 石川工業高等専門学校物品検査の実施要領（昭和54年12月1日施行）は、廃止する。

（出典：総務課保管資料）

資料 10-3-②-4 : 監査結果報告書

別紙様式第13号

|                                                 |             |                                                                                           |
|-------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 独立行政法人国立高等専門学校機構物品管理規則第35条に基づく物品検査<br>検 査 報 告 書 |             |                                                                                           |
| 検 査 部 署 名                                       | 日 時         | 検 査 員                                                                                     |
| 電子情報工学科                                         | 平成18年 6月 8日 | 荒 木 一  |

|               |
|---------------|
| 指摘事項について      |
| 1. 物品管理状況     |
| 特に問題なし        |
| 2. 帳簿の保管状況    |
| 特に問題なし        |
| 3. 現品と帳簿との照査  |
| 特に問題なし        |
| 4. 亡失, 損傷の有無  |
| 特に問題なし        |
| 5. 証拠書類の整理の状況 |
| 特に問題なし        |
| 6. その他の事項     |
| 特に問題なし        |
|               |
|               |
|               |

(出典：総務課保管資料)

資料 10-3-②-4 : 監査結果報告書(続き)

別紙様式第2

会計内部監査結果報告書(定期・臨時)

平成18年9月28日

監査員 紙田 修吉 ㊟

監査補助員 下出千恵美 ㊟

監査部署 電子情報工学科

| 監査実施年月日          | 平成18年9月27日～平成18年9月27日 |                               |
|------------------|-----------------------|-------------------------------|
| 報 告              |                       |                               |
| 監査事項及び<br>監査実施細目 | 報 告 事 項               |                               |
|                  | 適・否                   | 記 事                           |
| 本年度購入の備品         | 適                     | 3点について使用状況・備品ラベルの表示について確認・・・良 |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |
|                  |                       |                               |

事務部長意見

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の会計監査等は、平成18年1月に東海北陸地区の国立高専相互会計監査、平成18年12月に機構本部による監事監査及び内部監査、平成19年2月に会計監査人の監査を実施し、さらに本校職員による監査として、平成18年9月に会計経理についての監査及び平成19年6月に物品検査を実施している。

以上のことから、本校の財務活動に対して会計監査等が適正に行われている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・ 教育研究活動を安定して遂行するために、外部資金の獲得にも積極的に取り組んでおり、その成果が見られる。
- ・ 校長裁量経費の内容の主なものとして「特別教育研究経費」及び「学科傾斜配分経費」があり、教員及び各学科等への公募により、校長及び副校長が審査・配分決定を行う等、適切かつ競争的な環境のもとに資源の配分を行っている。

### (改善を要する点)

- ・ 特になし

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校では、教育研究活動を安定して遂行するために必要な資産を有しており、「授業料・入学金・検定料」収入と年度ごとに変動はあるものの「外部資金等」収入、更に「運営費交付金等」を加えた経常的収入については、継続的に確保されている。

財務上の基礎となる予算については、適切な収支バランスの把握のもと総合企画会議及び主任会議で活発に審議し、関係者に明示している。また、収支については、財務会計システムで一元管理されており、収入に基づき予算を配分し、予算の範囲内で執行を行っているため、支出超過となっていない。さらに、教育研究活動の目的・目標を効果的に達成するために校長裁量経費を設け、その内容の主なものとして「特別教育研究経費」及び「学科傾斜配分経費」があり、教員及び各学科等への公募により、校長及び副校長が審査・配分決定を行う等、適切かつ競争的な環境のもとに資源の配分を行っている。

財務諸表等については、機構本部に提出し、適正な形で公表されている。また、機構本部による監事監査及び内部監査等、財務に対しての会計監査等が適正に行われている。

## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

#### 1) 校長、主事、委員会等の役割

校長の職務については、学校教育法第70条の7「校長は、校務を掌り、所属職員を監督する」と定められているとおり、本校学則上では特に規定していないが、校長が名実ともに学校運営の責任者であることは明白である。

本校では、本校規則集「第2章 組織・運営、石川工業高等専門学校教員組織規則」に基づき、教務主事、学生主事、寮務主事、研究主事、図書情報主事の5主事を置き、その役割を定めている。本校では同規則に定めてあるとおり、校長の職務を補佐するため、副校長を置き、学校運営全般について校長を補佐することとしており、教務主事をもってこれに充てている(資料 11-1-①-1)。さらに教務主事を除く、学生主事、寮務主事、研究主事、図書情報主事が校長補佐として校長の職務を補佐することとしている。また教務主事、学生主事、寮務主事を補佐するために主事補佐が置かれている。

また、5主事が分掌するそれぞれの委員会が置かれ、各委員会規則によりその役割が定められている。各委員会での審議結果は各主事を通じて総合企画会議で検討・承認され、承認を受けたものは各学科を代表する学科主任が構成する主任会議で決定、教員会議や学科会議で周知・実行される。

将来構想計画委員会は校長が議長となり、教育・研究ならびに管理運営に関するさまざまな情報の収集とその対応を検討し、総合企画会議において方策を決定、必要ならば改善の指示等を行う。

各主事の役割を示した規則、意思決定の手順に関する組織図を示す(資料 11-1-①-2)。

資料 11-1-①-1：副校長・校長補佐・主事の役割

資料 11-1-①-2：教員組織相互関連図

## 資料 11-1-①-1：副校長・校長補佐・主事の役割

## 第2章 職務分掌

## (職)

第3条 本校に次の職を置き、教員はそれぞれの職を分掌するものとする。

- (1) 副校長
- (2) 校長補佐
- (3) 主事
- (4) 専攻科長
- (5) 図書館長
- (6) 学科主任
- (7) 専攻主任
- (8) 情報処理センター長
- (9) トライアル研究センター（地域共同テクノセンター）長
- (10) 学生相談室長
- (11) 学年主任及び学級担任
- (12) 課外活動指導教員

## (副校長)

第3条の2 副校長は、校長の職務を補佐し、教務主事をもってこれに充てる。

## (校長補佐)

第3条の3 校長補佐は、校長の職務を補佐し、主事（教務主事を除く。）をもってこれに充てる。

## (主事)

第4条 主事の職務は、次のとおりとする。

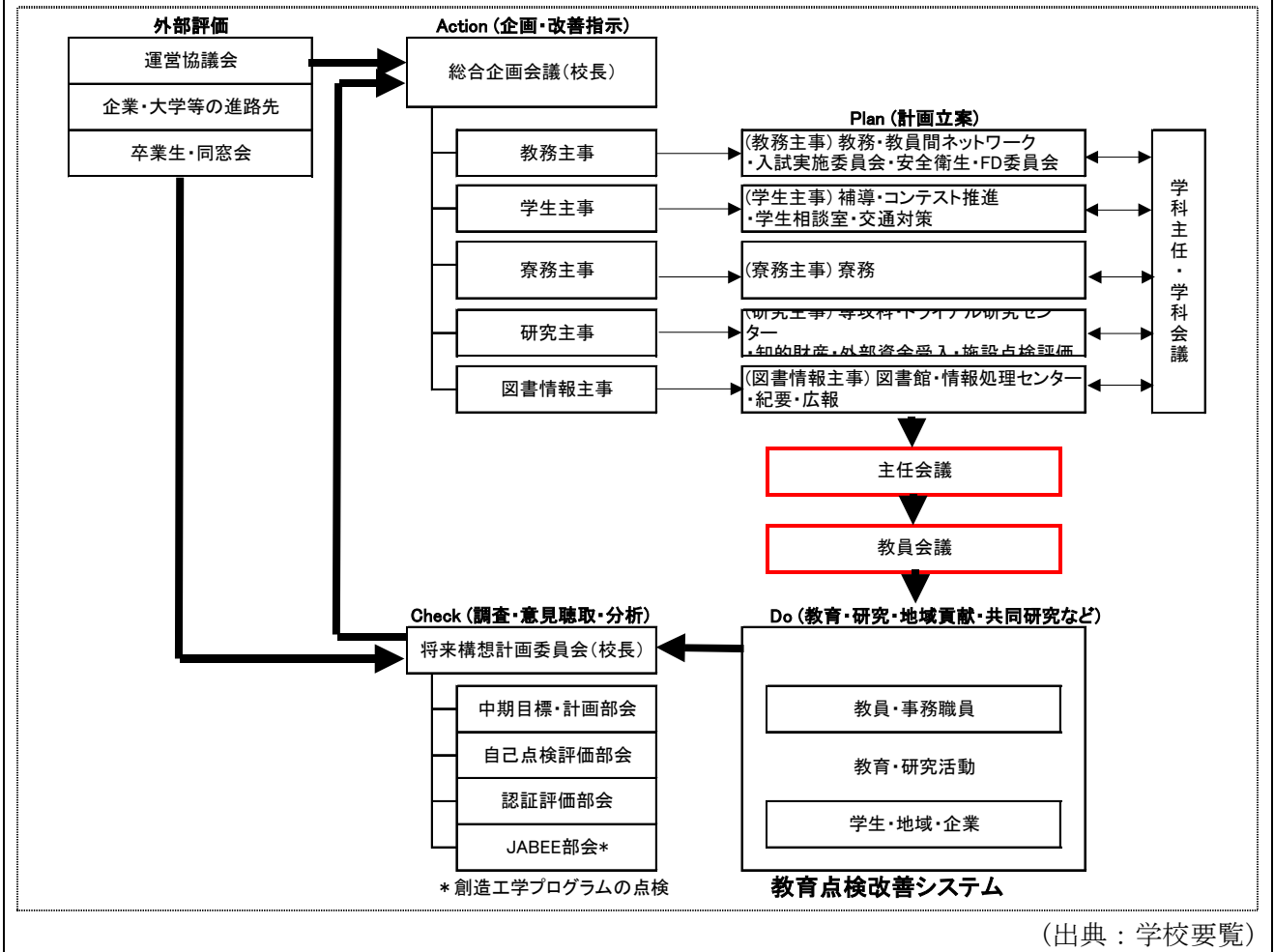
- (1) 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- (2) 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関することを（寮務主事の所掌に属するものを除く。）掌理する。
- (3) 寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
- (4) 研究主事は、校長の命を受け、専攻科の教務、研究、地域連携に関することを掌理する。
- (5) 図書情報主事は、校長の命を受け、図書館、情報処理センター及び本校の刊行物に関することを掌理する

2 各主事の職務を補佐するため、校長が必要と認めたときは主事補佐を置くことができる。

(以下略)

(出典：教員組織規則)

資料 11-1-①-2：教員組織相互関連図（PDCA組織図）



2) 意思決定体制

総合企画会議は管理運営を円滑に推進するために置かれている。具体的には、将来構想計画委員会などから提案される，本校の重要案件について最初に検討を行うのがこの会議である。必要であれば，主事を通じて所掌する委員会に対応策の検討を指示し，提案された検討策が妥当であるかどうかを審議する。主任会議はこれを受けて，管理運営の重要事項について審議・決定する。さらに教務，学生支援などの必要な事項について連絡調整し，また校長の諮問事項について直接に審議するため，全教員が出席する教員会議が置かれている（資料 11-1-①-3）。

□ 資料 11-1-①-3：総合企画会議・主任会議・教員会議・委員会の役割

## 資料 11-1-①-3：総合企画会議・主任会議・教員会議・委員会の役割

## (総合企画会議)

第14条 管理運営を円滑に推進するため、本校に総合企画会議を置く。

- 2 総合企画会議について必要な事項は、別に定める。

## (主任会議)

第15条 管理運営の重要事項について審議するため、本校に主任会議を置く。

- 2 主任会議について必要な事項は、別に定める。

## (教員会議)

第16条 教務、厚生補導及びその他必要な事項について連絡調整し、又は校長の諮問事項について審議するため、本校に教員会議を置く。

- 2 教員会議は、校長、教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。
- 3 教員会議は、校長が主宰し、その議長となる。

## (各種委員会)

第17条 運営に必要な諸問題を審議するため、本校に委員会を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：教員組織規則（抜粋）)

## (分析結果とその根拠理由)

校長をトップとして、役割が規則で定められている5主事と主事を補佐する主事補佐が配置されている。学校運営の重要事項については主任会議と総合企画会議で審議されて、必要ならば各主事を通じて所掌する各委員会において検討される。それらの審議を経て決定された事項は教員会議または学科会議で周知徹底され、実行に移される。

以上のことから、学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっている。



観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

1) 管理運営に関する事務部門の役割

本校の事務部門は、平成18年度から総務課および学生課の2課体制となり、事務部長の指揮監督の下、学校の管理運営に参画している。2課体制に再編するにあたり、業務の合理化と効率化を図るため、総務課内に企画室を設置した。企画室には、企画・地域連携係を配置し、地域連携、研究活動支援、知財管理のほか、将来構想計画委員会にも対応している。

総合企画会議には事務部長が委員として、また、主任会議には事務部長および各課長が委員として参画するほか、室長、課長補佐も陪席し、本校の管理運営上重要な事項の検討に参画している。

また、所掌する委員会には担当課長が構成員として出席し、最新の学校の現状における問題点を検討するほか、その検討内容を随時事務部内に周知し、事務部全体が学校運営の現状を把握できる体制を構築している。また、校内に組織されている委員会には事務部から幹事として、所掌する事務係の担当者が参加しており、問題点の解決に支障が生じないようにしている。

2) 管理運営に関する委員会の役割

本校には管理運営のために各種委員会が組織されている。これらの委員会には、基本的には一般教育科と専門学科から1名の委員と、さらに関連する事務組織からも委員として参画している。重要委員会においては月1回の会議を開催し、委員会での決定事項を委員で分担して実行に移している。平成19年度の主な委員会の構成員一覧を示す(資料11-1-②-1, 2)。また、後述するように、年度当初に開かれる拡大将来構想計画委員会において、各委員会および部会が取り組むべき課題の抽出と任務分担の割り振りを行っている(後出資料11-3-②-3)。

資料 11-1-②-1：平成19年度役職者名簿Ⅰ

資料 11-1-②-2：平成19年度役職者名簿Ⅱ

## 資料 11-1-②-1 : 平成19年度役職者名簿 I

平成19年度役職者名簿 I

2007/4/1 現在

|                        | 主事等  | 主事補佐・センター員・室員等                                                                  |
|------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 副校長                    | 櫻野仁志 |                                                                                 |
| 教務主事                   | 櫻野仁志 | 八田潔 竹下哲義 内田伸 富山正人                                                               |
| 学生主事                   | 松田理  | 旭吉雅健 村田一也 川原繁樹                                                                  |
| 寮務主事                   | 西澤辰男 | 團野光晴                                                                            |
| 研究主事（専攻科長）             | 畑時男  |                                                                                 |
| 電子機械工学専攻主任             | 森田義則 |                                                                                 |
| 環境建設工学専攻主任             | 竹本邦夫 |                                                                                 |
| 図書情報主事（図書館長）           | 高島要  |                                                                                 |
| 情報処理センター長              | 山田悟  | 石田博明 東亮一 小村良太郎 豊田剛 森原崇 奥田浩司                                                     |
| 情報処理センター次長             | 長岡健一 |                                                                                 |
| トライアル研究センター長           | 割澤泰  | 河野顕臣 森田義則 越野亮 鈴木洋之 村田一也 澤田功                                                     |
| トライアル研究センター次長          | 熊澤栄二 |                                                                                 |
| 地域等交流推進室長              | 櫻野仁志 | 河野顕臣 森田義則 越野亮 鈴木洋之 村田一也 澤田功                                                     |
| 学生相談室長                 | 河合秀泰 | 堀純也 森田義則 越野亮 高野典礼 村田一也 佐々木香織<br>干場佳美（学生課看護師）                                    |
| セクシュアル・ハラスメント<br>苦情相談員 |      | 太田伸子 石田博明 團野光晴 太田智加子 佐々木香織<br>干場佳美（学生課看護師）西浦かおる（人事労務係長）<br>橘信広（経理係長） 小森恵美子（教務係） |
| 学科主任                   |      |                                                                                 |
| 機械工学科                  | 黒崎正大 |                                                                                 |
| 電気工学科                  | 深見哲男 |                                                                                 |
| 電子情報工学科                | 金寺登  |                                                                                 |
| 環境都市工学科                | 小泉徹  |                                                                                 |
| 建築学科                   | 金木健  |                                                                                 |
| 一般教育科                  | 太田伸子 |                                                                                 |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 11-1-②-2 : 平成19年度役職者名簿 II

平成19年度役職者名簿II

◎は委員長, △は委員長代理, ○は副委員長, □は構成員を示す。

2007/4/1

| 委員会等名        | 委員               |                     |                      |                      |                |                       |              |             |
|--------------|------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------|-----------------------|--------------|-------------|
| 将来構想計画委員会    | ◎ 校長             | 教務主事<br>黒崎正大        | 学生主事<br>阿蘇和寿         | 寮務主事<br>事務部長         | 研究主事<br>総務課長   | 図書情報主事<br>学生課長        |              |             |
| 中期計画・評価部会    | ◎ 教務主事           | 学生主事<br>黒崎正大        | 寮務主事<br>阿蘇和寿         | 研究主事<br>事務部長         | 図書情報主事<br>総務課長 | 学生課長                  |              |             |
| 自己点検評価部会     | ◎ 阿蘇和寿           | 松崎良男<br>事務部長        | 瀬戸悟<br>総務課長          | 堀田素志<br>学生課長         | 竹本邦夫           | 北田幸彦                  | 鈴木康文         |             |
| 認証評価部会       | ◎ 阿蘇和寿           | 松崎良男<br>事務部長        | 瀬戸悟<br>総務課長          | 堀田素志<br>学生課長         | 竹本邦夫           | 北田幸彦                  | 鈴木康文         |             |
| J A B E E 部会 | ◎ 黒崎正大           | 堀純也<br>事務部長         | 瀬戸悟<br>総務課長          | 山田洋士<br>学生課長         | 富田充宏           | 北田幸彦                  | 阿蘇和寿         | 深見哲男        |
| 教務委員会        | ◎ 教務主事<br>△ 八田潔  | 竹下哲義<br>藤岡潤         | 内田伸<br>徳井直樹          | 富山正人<br>山田健二         | (主事補佐) 鈴木洋之    | 森田義則(専攻科委員会委員)<br>内田伸 | 太田智加子        | 森田健二        |
| FD委員会        | ◎ 竹下哲義<br>○ 内田伸  | 藤岡潤                 | 大坪茂                  | 竹下哲義                 | 重松宏明           | 石渡博                   | 中村繁          |             |
| 教員間ネットワーク委員会 | ◎ 出村禧典<br>○ 小熊猛  | 八田潔<br>石田博明         | 大坪茂                  | 竹下哲義                 | 重松宏明           | 江口清                   | 河合秀泰         |             |
| 入試広報・分析委員会   | ◎ 教務主事<br>○ 富山正人 | 学生主事<br>藤岡潤         | 寮務主事<br>徳井直樹         | 長岡健一                 | 富田充宏           | 森原崇                   | 紺谷雅樹         |             |
| 学生支援委員会      | ◎ 学生主事<br>○ 川原繁樹 | 寮務主事<br>記才智美        | 河合康典                 | 山田健二                 | 和田匡司           | 村田一也                  | 鈴木康文         | 各学年主任       |
| コンテスト推進委員会   | ◎ 学生主事<br>○ 旭吉雅健 | 記才智美<br>学生課長        | 河合康典<br>技術職員         | 越野亮                  | 廣瀬康之           | 熊澤栄二                  | 岩竹淳          |             |
| 学生相談室委員会     | ◎ 河合秀泰           | 学生主事<br>堀純也         | 寮務主事<br>森田義則         | 越野亮                  | 高野典礼           | 村田一也                  | 佐々木香織        | 看護師         |
| 寮務委員会        | ◎ 寮務主事<br>○ 團野光晴 | 河野顕臣                | 上町俊幸                 | 小村良太郎                | 廣瀬康之           | 永藤壽宮                  | 笠松健一         |             |
| 専攻科委員会       | ◎ 研究主事           | 森田義則<br>事務部長        | 河野顕臣                 | 森田義則                 | 山田洋士           | 竹本邦夫                  | 石渡博          | 小熊猛         |
| 地域等交流推進委員会   | ◎ 割澤泰<br>○ 熊澤栄二  | 研究主事<br>事務部長        | 河野顕臣<br>総務課長         | 森田義則<br>学生課長         | 越野亮<br>技術長     | 鈴木洋之                  | 村田一也         | 澤田功         |
| 知的財産委員会      | ◎ 研究主事           | 黒崎正大                | 深見哲男                 | 金寺登                  | 小泉徹            | 金木健                   | 太田伸子         | 事務部長        |
| 外部資金受入委員会    | ◎ 研究主事           | 黒崎正大                | 深見哲男                 | 金寺登                  | 小泉徹            | 金木健                   | 太田伸子         | 事務部長        |
| 図書館委員会       | ◎ 図書情報主事         | 石田博明<br>学生課長        | 東亮一                  | 白山政敏                 | 出村禧典           | 森原崇                   | 松島敏夫         | 佐々木香織       |
| 情報処理センター委員会  | ◎ 山田悟<br>○ 長岡健一  | 研究主事<br>森原崇         | 図書情報主事<br>奥田浩司       | 石田博明<br>学生課長         | 東亮一<br>総務課長    | 小村良太郎                 | 豊田剛          |             |
| 紀要委員会        | ◎ 図書情報主事         | 校長<br>黒崎正大          | 教務主事<br>深見哲男         | 学生主事<br>金寺登          | 寮務主事<br>小泉徹    | 研究主事<br>金木健           | 総務課長<br>太田伸子 | SCHOFIELDP. |
| 広報委員会        | ◎ 河内浩志<br>堀純也    | 図書情報主事<br>総務課長      | 学生課長                 | 山田悟                  | 岡野修一           | 豊田剛                   | 山岸英樹         | SCHOFIELDP. |
| 防災対策委員会      | ◎ 校長             | 教務主事<br>黒崎正大        | 学生主事<br>深見哲男         | 寮務主事<br>金寺登          | 研究主事<br>小泉徹    | 図書情報主事<br>金木健         | 太田伸子         |             |
| 入学試験委員会      | ◎ 校長             | 教務主事<br>黒崎正大        | 学生主事<br>深見哲男         | 寮務主事<br>金寺登          | 研究主事<br>小泉徹    | 図書情報主事<br>金木健         | 太田伸子         |             |
| セクシャル・ハラスメント | ◎ 校長             | 教務主事                | 学生主事                 | 寮務主事                 | 研究主事           | 図書情報主事                |              |             |
| 情報セキュリティ委員会  | ◎ 校長             | 教務主事<br>山田悟<br>事務部長 | 学生主事<br>黒崎正大<br>総務課長 | 寮務主事<br>深見哲男<br>学生課長 | 研究主事<br>金寺登    | 図書情報主事<br>小泉徹         | 金木健          | 太田伸子        |
| 就職対策委員会      | ◎ 校長             | 教務主事<br>黒崎正大        | 学生主事<br>深見哲男         | 寮務主事<br>金寺登          | 研究主事<br>小泉徹    | 図書情報主事<br>金木健         | 太田伸子         |             |
| 教育業績評価委員会    | ◎ 校長             | 教務主事                | 学生主事                 | 寮務主事                 | 研究主事           | 図書情報主事                |              |             |

(出典：総務課保管資料)

## 2) 管理運営に関する事務組織の役割

現在、事務組織は事務部長以下、総務課・学生課の2課体制で運用されている。

総務課に22人、学生課に10人が配置され、職務内容は事務分掌細則に明記されている（資料 11-1-②-3）。また、技術職員組織は学生課に所属し、15名が3グループ（機械系、電気・電子・情報系、建設・環境・物質系）に分かれて学生の授業や実習支援にあたり、その職務および所掌事務は技術職員組織規則に明記されている（資料 11-1-②-4）。併せて学校全体の事務組織の構成を示す（資料 11-1-②-5）。

- 資料 11-1-②-3：事務分掌細則
- 資料 11-1-②-4：技術職員組織細則
- 資料 11-1-②-5：事務組織図

## 資料 11-1-②-3：事務分掌細則

資料 3-3-①-2（1～12）にあり。大部になるので重複掲載を避ける。

（出典：総務課保管資料）

## 資料 11-1-②-4 : 技術職員組織細則

## (目的)

第1条 この規則は、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教室系技術職員（以下「技術職員」という。）に関し、その能力及び資質等の向上と業務の改善を図り、もって本校の教育研究の充実に資するため、必要な事項を定める。

## (組織)

第2条 本校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するため、学生課に次の表に掲げる技術グループを組織して技術職員を置き、教育研究にかかる専門的業務を処理させる。

| 区 分    | 業 務 の 分 野         |
|--------|-------------------|
| 第1グループ | 機 械 系             |
| 第2グループ | 電 気 ・ 電 子 ・ 情 報 系 |
| 第3グループ | 建 設 ・ 環 境 ・ 物 質 系 |

## (技術専門員及び技術専門職員)

第3条 本校に、技術専門員及び技術専門職員を置く。

第4条 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

2 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

3 前2項に定める職員の選考は別に定めるところによる。

## (技術長)

第5条 技術に関する業務を総括管理するため、技術長を置く。

2 技術長は、技術専門職員の中から校長が任命する。

## (グループ長)

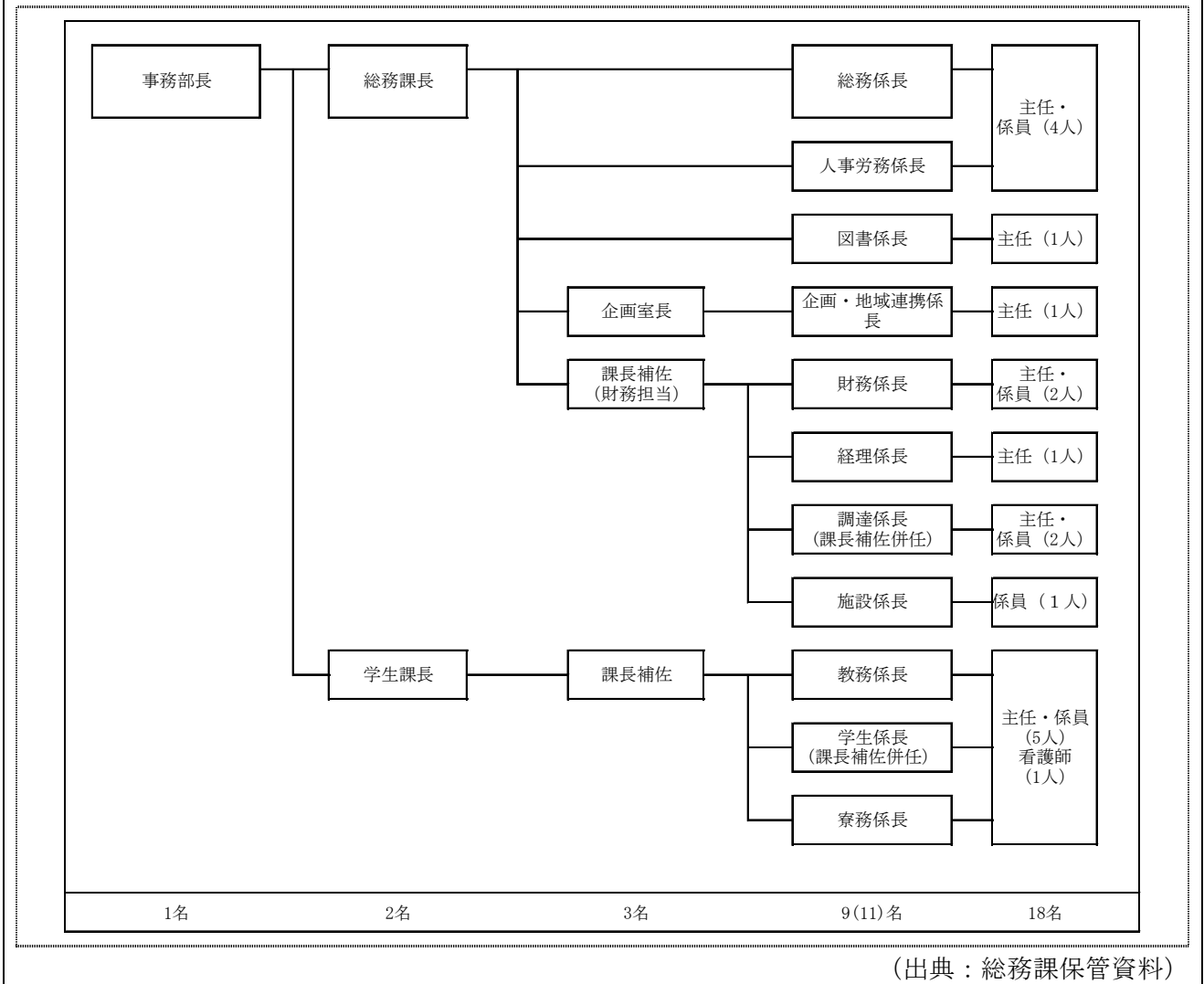
第6条 業務遂行に関し連絡調整を行うため、各技術グループにグループ長を置く。

2 グループ長は、技術専門職員の中から校長が任命する。

第7条 この規則の実施に関し必要な事項は別に定める。

(出典：総務課保管資料)

資料 11-1-②-5：事務組織図



(分析結果とその根拠理由)

学校の管理運営を担う委員会は定期的開催され、また、各委員会には事務職員が参加して委員会の審議結果が事務組織にも反映されるようになっている。

各課係には、分掌業務を担当する事務職員が適切に配置され、事務部長および各課長からの指示の下に業務を遂行している。また、定例会議の運営や予算の適切な執行等にあっても教職員間の密接な連携を保っており、迅速かつ効果的な対応が図られている。技術職員についても、学生の教育や技術支援の体制が適切に整えられている。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

1) 管理運営の諸規定の整備

学則をはじめ、管理運営に関する諸規則が規則集で定められている（資料 11-1-③-1）。これら諸規則は学内ウェブページに公開され、全教職員が必要に応じていつでも閲覧できるようになっている（資料 11-1-③-2）。また諸規則の改定があった場合は、全教職員にメールで通知している（資料 11-1-③-3）。

- 資料 11-1-③-1：管理運営諸規定一覧
- 資料 11-1-③-2：ウェブ上での諸規則一覧ページ
- 資料 11-1-③-3：諸規則改定の周知

資料 11-1-③-1：管理運営諸規則一覧

|              |               |                     |
|--------------|---------------|---------------------|
| FD委員会規則      | 地域等交流推進委員会規則  | 教員組織規則              |
| JABEE部会規則    | 外部資金受入委員会規則   | 教員間ネットワーク委員会規則      |
| コンテスト推進委員会規則 | 学生相談室委員会規則    | 教育業績評価委員会規則         |
| 中期計画・評価部会規則  | 学生相談室規則       | 施設点検・評価委員会規則        |
| 主任会議規則       | 安全衛生委員会規則     | 環境管理委員会規則           |
| 事務分掌細則       | 寮務委員会規則       | 知的財産委員会規則           |
| 事務情報化委員会規則   | 専攻科委員会規則      | 紀要委員会規則             |
| 事務組織規則       | 将来構想計画委員会規則   | 総合企画室規則             |
| 交通対策委員会規則    | 就職対策委員会規則     | 自己点検評価部会規則          |
| 入学試験委員会規則    | 広報委員会規則       | 補導委員会規則             |
| 入学試験実施委員会規則  | 情報セキュリティ委員会規則 | 認証評価部会規則            |
| 四十周年史編纂委員会   | 情報処理センター委員会規則 | 運営協議会規則             |
| 図書館委員会規則     | 技術職員組織規則      | 防災対策委員会規則           |
|              | 教務委員会規則       | セクシャル・ハラスメント防止委員会規則 |

(出典：総務課保管資料)

資料 11-1-③-2：ウェブ上での諸規則一覧ページ



(出典：石川高専ウェブサイト)

## 資料 11-1-③-3： 諸規則改定の周知

Date: Tue, 20 Feb 2007 16:18:25 +0900  
 From: 石川高専総務係長 <s-somu0@ishikawa-nct.ac.jp>  
 To: staff@ishikawa-nct.ac.jp  
 Subject: 諸規則等の制定について（お知らせ）

平成19年2月20日

教職員 各位

校長

諸規則の制定について（お知らせ）

このことについて、下記規則等を新たに制定しましたのでお知らせ  
 します。  
 規程文についてはサイボウズに掲載してありますので、御覧ください。

記

規則関係

1. 石川工業高等専門学校客員教授等選考規則  
 サイボウズ⇒ファイル管理⇒石川高専規則集⇒第3章庶務・人事

<http://jsrv2.jim.ishikawa-nct.ac.jp/cybozu/ag.exe?page=FileIndex&gi>

内規等

1. 石川工業高等専門学校教員顕彰実施要項
2. 石川工業高等専門学校再就職支援室設置要項
3. 石川工業高等専門学校在外研究員等選考内規

サイボウズ⇒ファイル管理⇒石川高専規則集⇒内規等

<http://jsrv2.jim.ishikawa-nct.ac.jp/cybozu/ag.exe?page=FileIndex&gi>

（出典：規則の制定を連絡するメール）

（観点に係る状況）

管理運営に関する諸規則が規則集で定められており、これら諸規則は学内のウェブサイト（学内限定）に公開され、全教職員が必要に応じていつでも閲覧できるようになっている。また諸規則の改定があった場合は、全教職員にメールで通知している。

これらのことから、管理運営の諸規定は適切に整備されている。



**観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

## 1) 外部有識者の意見の聴取

本校では、平成16年12月に、広く学外有識者から意見を求めるために、学外有識者から構成される運営協議会を設置し、年一回開催しており、その役割が定められている(資料 11-2-①-1, 2)。運営協議会の内容はその都度、冊子にまとめられて参加者等に配布されている(資料 11-2-①-3)。

運営協議会での委員からの提言は、該当する主事およびその所掌の委員会において審議・検討を経て学校の管理・運営に生かされている。運営協議会からの提言は、それだけを取り出してまとめるということはないが、報告書本文中に記載されている(資料 11-2-①-4, 5)。その内容を受けて、第3回運営協議会では、テーマを「石川高専ブランド力向上への取り組み」と定め、石川高専で行われている関連の取り組みについて発表および議論を行った(資料 11-2-①-6)。上記テーマに取り組むことについての校長の意思表示とそれに応じた発表テーマを示す(資料 11-2-①-7, 8)。

- 資料 11-2-①-1：運営協議会の役割
- 資料 11-2-①-2：第2回運営協議会のメンバー構成
- 資料 11-2-①-3：第2回運営協議会報告書(日程のページ)
- 資料 11-2-①-4：第2回運営協議会からの提言(報告書から抜粋)
- 資料 11-2-①-5：第1回～第3回運営協議会報告書(訪問調査時に提示)
- 資料 11-2-①-6：第3回運営協議会のメンバー構成および日程
- 資料 11-2-①-7：運営協議会における提言に対する取り組み
- 資料 11-2-①-8：第3回運営協議会発表テーマ

## 資料 11-2-①-1：運営協議会の役割

## 運営協議会規則「運営協議会の役割」

## (趣旨)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者から意見を求めるため、石川工業高等専門学校運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

## (任務)

第2条 運営協議会は、本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、並びに校長に対して助言又は提言を行う。

## (組織)

第3条 運営協議会は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

## (議長)

第4条 運営協議会の議長は、委員の互選により定める。

## (運営協議会の開催)

第5条 運営協議会は、校長が招集する。

2 運営協議会は、年1回以上開催するものとする。

3 運営協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(出典：運営協議会議規則)

## 資料 11-2-①-2：第2回運営協議会のメンバー構成

## 運営協議会委員（50音順・敬称略）

尾 田 十 八（金沢大学工学部長）

駒 井 謙治郎（福井工業高等専門学校長）

土 肥 淳 一（石川県商工労働部長）

西 納 幸 伸（同窓会会長（澁谷工業(株)プラント生産統括本部技術本部  
ボトリングシステム技術部長））

別 川 稔（技術振興交流会会長（株別川製作所代表取締役社長）

○牧 島 亮 男（北陸先端科学技術大学院大学副学長）

松 井 正（石川県中学校校長会会長、金沢市立紫錦台中学校長）

村 隆 一（津幡町長）

(出典：総務課保管資料)

資料 11-2-①-3 : 第2回運営協議会日程 (報告書作成を示す資料)

## 運営協議会日程

- 1 日時 平成18年2月28日(火) 14:00～17:10
- 2 場所 石川工業高等専門学校 大会議室
- 3 日程
  - 14:00 開会 (校長挨拶, 出席者紹介, 議長選出, 日程説明)
  - 14:10 1. 教育・研究環境視察 (専攻科・トライアル研究センター棟,  
電気工学科瀬戸助教授 研究紹介)
  - 14:40 議事  
テーマ「石川高専の教育と相互人材育成について」
  - 16:15 全体討論及び講評
  - 17:10 閉会 (校長謝辞)

### ○事前配付資料

- 1 石川工業高等専門学校運営協議会規則
- 2 石川工業高等専門学校運営協議会委員名簿
- 3 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標
- 4 独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 (平成17年度)
- 5 石川工業高等専門学校における中期計画・年度計画について
- 6 石川工業高等専門学校における中期計画要約
- 7 平成17年度電源地域における雇用促進対策調査事業 (経済産業省委託事業) の概要
- 8 平成18年度特別教育研究経費事業概要
- 9 創造工学プログラム複合工学修得コース自己点検書 (抜粋)
- 10 石川工業高等専門学校学校要覧 (平成17年度版)

### ○当日配付資料

- 1 スライド説明資料 (写)
- 2 独立行政法人国立高等専門学校機構概要
- 3 石川工業高等専門学校地域との協同教育・共同研究のための技術シーズ
- 4 石川工業高等専門学校学生便覧 (平成17年度版)
- 5 石川工業高等専門学校学校案内2006
- 6 その他 (図書館利用案内, 情報処理センター案内, 学生相談室案内, ネットワークマナーすまいる)

(出典: 第2回運営協議会報告書)

## 資料 11-2-①-4 : 第2回運営協議会からの提言

石川県商工労働部長 土肥淳一氏：（学生の確保のための活動について）その場合に、特に石川高専はこういう点で魅力があるのだよというような、ポイントを絞った説明はされているのでしょうか？

（中略）

福井高専校長 駒井謙治郎氏：我々も模索中なのですが、「学生自らが問題意識を持ち、授業に参加していく教育」を多分実施されていると思うのですが、具体的にはどのような授業を実際に行っているのでしょうか。

（中略）

技術振興交流会会長・別川製作所代表取締役社長 別川稔氏：進学の話でして、大学もそうなのですが、企業としては、大学卒、院卒ばかりでは会社は成り立たないのですね。やはり、現業絡みの生産管理をやろうとするとどうしても現業の方への配属を、実務やらなんやらを体験させての話ですけれども、そういうところが必要になるのですね。当社としても、大学卒、院卒を採用しようとするとしても、設計の技術とかですね、そういうところに配置をしがちで、何年かすると適性を見ながら、生産現場の管理者、いずれは生産管理の製造部長というような仕事をさせるわけですけれども、やはりそれには、高専を20歳ぐらいで卒業して、実務的なことを最初から経験させた上で、育てていかなければと痛感するのです。

（中略）

同窓会会長 西納幸伸氏：ものづくりに直結したような技術や知識、考え方を身に付けていただけるのが高専の一つの特徴ではないかと思えますし、我々企業側の人間から見ても、それが大切なところでないかなと思えます。

（中略）

金沢大学工学部長 尾田十八氏：これは大学も同じなのですが、相対的に学力が以前の学生よりも全体的に落ちているのではないかと。

（中略）

石川高専校長（今後の取り組み）：我々の学校の目的といいますか、どういう目的で作られたかという原点に立ち返るべきなのかなと思います。いたずらに大学進学ということだけを狙うのではなく、どういう能力を持った学生を我々が育てられるのか、それが社会のニーズに応えられるのかということを考えながら教育したいと思っています。

（出典：運営協議会議報告書（抜粋））

## 資料 11-2-①-5 : 第1回～第3回運営協議会報告書

（訪問調査時に提示）

（出典：総務課保管資料）

資料 11-2-①-6：第3回運営協議会のメンバー構成および日程

第3回石川工業高等専門学校運営協議会日程

1. 日時 平成19年3月14日(水) 14:00~17:00
2. 場所 石川工業高等専門学校 大会議室
3. 委員
- |             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| 尾田 十 八      | 金沢大学工学部長                            |
| (欠席) 牧島 亮 男 | 北陸先端科学技術大学院大学副学長                    |
| (欠席) 新家 久 司 | 技術振興交流会会長<br>(株式会社国土開発センター代表取締役社長)  |
| 下 島 学       | 石川工業高等専門学校同窓会会長<br>(福島印刷株式会社 専務取締役) |
| 村 隆 一       | 津幡町長                                |
| 松 井 正       | 石川県中学校校長会会長<br>(金沢市立紫錦台中学校校長)       |
| 米 田 政 明     | 富山工業高等専門学校校長                        |
| 土 肥 淳 一     | 石川県商工労働部長                           |
| (欠席) 澁 谷 進  | 澁谷工業株式会社取締役副会長                      |
4. 本校出席者
- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 校長                           | 金 岡 千 嘉 男       |
| 副校長(教務主事)                    | 前 田 勉 理         |
| 校長補佐(学生主事)                   | 松 田 澤 辰 男       |
| 校長補佐(寮務主事)                   | 西 澤 野 仁 志       |
| 校長補佐(研究主事・専攻科長・トライアル研究センター長) | 櫻 野 岸 英 要       |
| 校長補佐(図書情報主事・図書館長)            | 高 山 鶴 樹 明       |
| 一般教育科主任                      | 山 崎 深 哲 男       |
| 機械工学科主任                      | 深 見 山 哲 政 邦     |
| 電気工学科主任                      | 白 石 本 渡 夫       |
| 電子情報工学科主任                    | 竹 石 金 寺 登 寿 大 二 |
| 環境都市工学科主任                    | 阿 蘇 崎 田 健 忠 弘   |
| 建築学科主任                       | 原 佐 藤 守         |
| 情報処理センター長                    |                 |
| 自己点検評価部会長・認証評価部会長            |                 |
| JABEE部会長                     |                 |
| 事務部長                         |                 |
| 総務課長                         |                 |
| 学生課長                         |                 |
5. 日程
- |         |                                                                                          |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14:00   | 【開 会】 校長挨拶, 出席者の紹介, 日程説明, 議長選出                                                           |
| 14:10   | 教育研究環境視察<br>・電気工学科高電圧実験棟(櫻野仁志教授研究紹介)<br>・建築学科棟製図室                                        |
| (14:40) | (コーヒーブレイク)                                                                               |
| 14:50   | 議事<br>テーマ 「石川高専ブランド力向上への取り組み」<br>【説明者】<br>校長<br>副校長<br>学生主事<br>寮務主事<br>情報処理センター長<br>研究主事 |
| 16:15   | 全体討論及び講評                                                                                 |
| 17:00   | 【閉 会】 校長謝辞                                                                               |

(出典：総務課保管資料)

## 資料 11-2-①-7：第2回運営協議会の提言に対する取り組み

石川高専校長 金岡千嘉男：今回の運営協議会につきましては、テーマとして「石川高専ブランド力向上への取り組み」ということを挙げさせていただきました。これは昨年の運営協議会の折に、こういうようなことを言われました。「石川高専の目玉、あるいは教育の方向性について考えろ」とのことです。非常に大きなテーマというか宿題をいただきまして、さて、どうしようと思いましたが、現在、我々高専、国立高専全てがそうなんですけれども、厳しい状況に置かれておりまして、我々自身がどういう具合にブランド力、それから教育力を高めるか、という面で非常に重要な時期にさしかかっていると思っております。それを我々が取り出すことができるのは学生さんです。その学生さんがどういう具合に評判を高めてくれるか、ということが結局「ブランド力」という言い方になるのかもしれないなと思いました。1～2年でできることとは思いませんが、この方向に向かって歩み始めるということで、こういうことについて色々ご提言を賜ればと思っております。

(出典：第3回運営協議会報告書(抜粋))

## 資料 11-2-①-8：第3回運営協議会発表テーマ

14:50 議事

テーマ 「石川高専ブランド力向上への取り組み」

## 【説明者】

校長 (前回運営協議会指摘事項の状況報告及び現状と課題について概略説明)

副校長 石川高専の在り方検討委員会からの話題

学生主事 新しい教育システムへの取り組み状況と今後の計画

寮務主事 学生寮における自学自習支援体制について

情報処理センター長 eラーニングを用いた自学自習支援について

研究主事 人材育成事業, 長期インターンシップ, 津幡町との連携の話題

(出典：第3回運営協議会実施要領)

(分析結果とその根拠理由)

外部有識者からの提言・評価を念頭においた運営協議会が設置されており、これまでに活動を記録した報告書を3回刊行している。これらの提言は外部からの貴重な意見として学校運営に活用されている。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

1) 自己点検・評価の実施状況

平成3年の高等専門学校設置基準の改正に基づき、自己点検・評価制度が導入された。これをうけて、本校においても平成3年11月に自己点検・評価実施体制検討委員会規則を制定し、平成4年4月から自己点検評価委員会を発足させた（資料 11-3-①-1）。現在は将来構想計画委員会の中の自己点検評価部会として活動を継続している（資料 11-3-①-2）。これまでに4報の自己点検評価報告書を刊行し、学外の主要関係団体のほか全教員および係長以上の事務職員などにも配布している（資料 11-3-①-4）。また石川高専のウェブサイトでも外部から閲覧可能となっている（資料 11-3-①-5）。自己点検・評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われていることを示すために、点検項目一覧を挙げる（資料 11-3-①-6）。

- 資料 11-3-①-1：自己点検評価委員会の沿革
- 資料 11-3-①-2：自己点検評価部会の役割
- 資料 11-3-①-3：自己点検評価報告書（訪問調査時に提示）
- 資料 11-3-①-4：自己点検評価報告書の配布状況
- 資料 11-3-①-5：自己点検評価報告書のウェブページによる公表
- 資料 11-3-①-6：自己点検評価報告書点検項目

## 資料 11-3-①-1：自己点検評価委員会の沿革

## 1. これまでの点検評価の実施状況

本校のこれまでの「点検評価」に関する組織的な実施状況は、以下のとおりである。

- ・平成3年11月，自己点検・評価実施体制検討委員会規則制定。
- ・平成4年4月，点検評価委員会発足。
- ・平成7年3月30日，『明日へ向けて－自己点検評価報告書－』発行。これは「平成6年度中に過去3年間（4年度，5年度，6年度）についての点検評価の報告書を提出すること」（あとがき）になり，6年度末に報告書を発行したものである。
- ・平成9年7月31日，『明日へ向けて－自己点検評価報告書－』発行。「その後2カ年経過して，（中略）より一層の高専の点検評価が求められることになった」（あとがき）として実施，報告されたものである。
- ・平成10年，『外部評価報告書』発行。
- ・平成12年12月22日，『明日へ向けて－自己点検評価報告書－（第3報）』発行。「第3報は，平成9年度から11年度の自己点検評価の報告である」（あとがき）。
- ・平成14年7月，『外部評価報告書（第2報）運営懇話会を中心に』（『石川工業高等専門学校外部評価報告書（第2報）』）発行。

以上，「自己点検評価」は3度実施され，「外部評価」は2度実施されてきた。

## 2. 平成15年度における「自己点検評価」の実施について

点検評価委員会では，以上の本校におけるこれまでの点検評価実施状況に鑑み，今年度の点検評価は「自己点検評価」を実施することとし，第1回点検評価委員会において，以下のように実施要領を定めた。

- ・点検評価は平成15年10月を目安に実施するが，平成12年度から14年度についてもデータの提示及び諸活動の変遷を捕捉する視点から点検評価を行うこと。
- ・点検評価に際しては，データの提示・現状・問題点・改善点・課題・展望などの観点を随時用いて，総合的な評価を行うこと。その際，特にコメントを必要としない項目については省略し，新たな課題となる点，強調すべき点は詳細に評価すること。
- ・点検は各部署，委員会の長及び統括担当の事務を中心に行うこと。
- ・結果は，文章及び統計データの提示で報告すること。
- ・各センター等で既刊の刊行物は，資料として有効に活用し，またそれに委ねるなどして重複を避けるよう配慮すること。

（出典：出典：自己点検評価報告書第4報「前言」）



資料 11-3-①-2：自己点検評価部会の役割

(設置)

第1条 石川工業高等専門学校将来構想計画委員会（以下「委員会」という。）規則第5条第2項の規定に基づき、石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）が自ら点検及び評価を行い、本校の教育・研究水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するために自己点検評価部会（以下「部会」という。）を置く。

(中略)

(審議事項)

第4条 部会は、次の各号に掲げる事項を審議し、審議内容を委員会に報告する。

- (1) 点検及び評価の基本方針に関すること。
- (2) 点検及び評価の具体的な実施方法に関すること。
- (3) 点検評価実施報告書の作成及び公表に関すること。
- (4) その他点検及び評価に関すること。

(点検・評価項目)

第5条 点検及び評価する項目は、別表のとおりとする。

(点検評価の実施)

第6条 部会は、おおむね3～5年に1回、点検及び評価を実施する。

(報告書の作成)

第7条 部会は、点検及び評価の結果を取りまとめ、点検評価実施報告書を作成するものとする。

(出典：自己点検評価部会規則)

資料 11-3-①-3：自己点検評価報告書

(訪問調査時に提示)

(出典：総務課保管資料)

## 資料 11-3-①-4：自己点検評価報告書の配布状況

## 自己点検・評価報告書 送付先一覧

|       |      |                                                                                                                |
|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 校外部局  | 15部  |                                                                                                                |
| 文部科学省 | 5部   | 文部科学省高等教育局長<br>専門教育課長<br>専門教育課長補佐<br>専門教育課高等専門学校係<br>研究振興局研究・環境・産学連携技術移転推進室長                                   |
| 機構    | 4部   | (独) 高等専門学校機構 2部<br>(独) 大学評価・学位授与機構 2部                                                                          |
| 石川県   | 2部   | 石川県高等教育振興室<br>金沢市教育委員会事務局                                                                                      |
| 大学    | 4部   | 金沢大学工学部<br>北陸先端科学技術大学院大学<br>長岡科学技術大学<br>豊橋科学技術大学                                                               |
| 校内配布先 | 102部 |                                                                                                                |
| 全教員   | 78部  |                                                                                                                |
| 事務部   | 22部  | 事務部長 1部<br>庶務課長 1部, 専門職員 2部, 各係長 3部<br>会計課長 1部, 各係長 4部<br>学生課長 1部, 専門員 1部, 各係長 3部, 保健室 1部<br>技術長 1部, 技術グループ 3部 |
| センター等 | 2部   | トライアル研究センター 1部, 情報処理センター 1部                                                                                    |
| 会議用   | 60部  |                                                                                                                |
| 予備    | 23部  |                                                                                                                |
| 合計    | 200部 |                                                                                                                |

(出典：総務課保管資料)

資料 11-3-①-5：自己点検評価報告書のウェブページによる公表

Ishikawa National College of Technology 〒929-0392石川県河北郡津幡町北中条タ1  
Tel: 076-288-8000, FAX 076-288-8014  
石川工業高等専門学校 Kitacyujo, Tsubata, Kahoku-gun, Ishikawa, 929-0392 JAPAN

サイト

INDEX

- Top page
- 学校案内
- 学科紹介
- 専攻科紹介
- JABEE
- 学生生活
- 行事予定
- 入学案内
- 地域連携
- 施設案内
- 広報室より

- 証明書の申請方法
- 高専Q&A
- お知らせ
- 教職員公募の案内
- 刊行物
- 契約

情報公開

リンク集

全て開く 全て閉じる

石川工業高等専門学校

自己点検評価報告書

(第4報)

巻頭言

目次

本編

前言

1. [教育理念](#)
2. [教育活動](#)
3. [専攻科](#)
4. [学套](#)
5. [研究活動](#)
6. [教官組織](#)
7. [施設の整備と共同利用施設](#)
8. [国際交流](#)
9. [地域社会との連携](#)
10. [教育運営・財政](#)

資料編

# 明日へ向けて

—自己点検評価報告書—

(第4報)

平成16年3月

石川工業高等専門学校

(出典：石川高専ウェブサイト)

## 資料 11-3-①-6：自己点検評価報告書点検項目一覧

## 1 教育理念・目標等

本校の教育理念・目標の設定

教育理念・目標の点検・見直し

本校の将来構想

教育研究の活性化・充実のためのこれまでの取組み

## 2 教育活動

(学生の受入れ)

学生募集・入学者選抜の方針

学生定員充足状況（志願者数，合格者数，入学者数，在学者数等）

編入学，推薦入学の方針と状況

(学生活動への配慮)

厚生補導（奨学金制度，授業料免除，補導，行事）

学生生活（学生相談，保健衛生，補導，行事）

課外活動（活動状況，予算，施設設備）

学生会活動（活動状況，予算，施設整備）

(カリキュラムの編成)

カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係

一般教育の内容とカリキュラム全体における位置付け

専門教育の内容とカリキュラム全体における位置付け

カリキュラムの編成及び見直しの方法・体制

(教育指導の在り方)

各授業科目ごと授業計画（シラバス）の作成状況

カリキュラム・ガイダンスの実施状況

教育設備（教室の大きさ，編成状況）

教員1人当たりの授業時間数

各授業科目担当者間での授業内容の調整

演習，実験，実習等の実習状況

視聴覚教育，LL教育の実施状況

他学科聴講の方針と状況

転学科の方針と状況

単位互換の方針と状況

職業資格取得に係る指導と取得状況

進級状況（留年，休学，退学）

(教授方法の工夫・研究)

教育方法の工夫・研究のための取組み

教員の教育活動に対する評価の工夫（学生による授業評価等）

(成績評価・単位認定)

成績評価，単位認定の在り方・基準

(卒業生の進路指導)

卒業生の就職指導と就職状況

卒業生の大学への進路指導と編入学状況

### 3 学生寮生活

教育寮としての在り方と運営

寮生定員充足状況

寮生会活動（指導体制）

学生寮施設と設備状況

### 4 研究活動

構成員による研究成果の発表状況

研究誌の発行状況と編集方針

共同研究の実施状況

研究費の財源（学外からの資金の導入状況，科学研究費補助金の採択状況等）

研究費の配分状況

学会活動への参加状況

### 5 教員組織

専任教員，非常勤講師の配置状況

教育研究補助者の配置状況

出身大学の編成

年齢構成

採用，昇任の手順・基準

教員の兼職方針と状況

教員人事についての長期計画

### 6 施設設備

施設設備の整備・運用状況

建物及び環境整備・管理

図書館の整備・活用状況

学術情報システムの整備・活用状況

情報処理センターの整備・利用状況

### 7 国際交流

留学生の受入れ状況（受入数，奨学金，宿舎等），指導体制

在学生の海外留学・研修の方針と状況

教員の在学研究の方針と状況

海外からの研究者の招致状況

海外からの大学等との交流協定の締結状況と活用状況

(出典：出典：自己点検評価部会規則)

## 2) 第三者評価の実施状況

外部評価システムとして、国際的に通用する技術者を育成できるよう、教育プログラムを審査し認定するJABEE認定プログラムの評価が日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education：略称JABEE）により実施されているが、本校でも、準学士課程4、5年生と専攻科課程からなる「創造工学プログラム」を設定し、学校の管理運営の見直しを含む、技術者教育の更なる充実・改善に取り組んでおり、平成17年度にJABEE認定プログラムの工学（融合複合・新領域）関連分野として認定を受けた（資料 11-3-①-7）。JABEEプログラムの詳細と認定結果に関しては本校ウェブページで公開している。

□ 資料 11-3-①-7：創造工学プログラムの JABEE による認定

資料 11-3-①-7：創造工学プログラムの JABEE による認定



(出典：JABEE 認定証)

(分析結果とその根拠理由)

自己点検評価の取り組みは平成4年から継続して行われており、これまでに4回の報告書を刊行し、教職員に配布している。また本校ウェブサイトにも最近の報告書を公表している。また平成17年度にJABEE認定を受けている。

以上のことから、自己点検・評価（や第三者評価）が学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されている。

**観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。**

(観点到係る状況)

1) 拡大将来構想計画委員会による改善報告

本校では年度ごとに、各部局および各委員会が取り組んだ結果を報告する体制がとられている。資料として平成18年3月20日における開催通知と報告事項（資料 11-3-②-1, 2）を挙げる。各委員長等から提出された資料を示す（資料 11-3-②-3）。

- 資料 11-3-②-1：平成18年度拡大構想計画委員会の開催
- 資料 11-3-②-2：平成18年度拡大構想計画委員会報告一覧
- 資料 11-3-②-3：平成18年度拡大構想計画委員会資料（訪問調査時に提示）

## 資料 11-3-②-1 : 平成18年度拡大構想計画委員会の開催

X-Original-To: kikaku0@ishikawa-nct.ac.jp  
 Delivered-To: kikaku0@uni.cen.ishikawa-nct.ac.jp  
 Reply-To: kikaku0@ishikawa-nct.ac.jp  
 X-Mailer: QUALCOMM Windows Eudora Version 7J rev1.0  
 Date: Thu, 01 Mar 2007 12:04:37 +0900  
 To: syourai@ishikawa-nct.ac.jp, fukami@ishikawa-nct.ac.jp, demura@ishikawa-nct.ac.jp, ohta@ishikawa-nct.ac.jp, kane@ishikawa-nct.ac.jp, hishi@ishikawa-nct.ac.jp  
 From: 総務課企画室長 <kikaku0@ishikawa-nct.ac.jp>  
 Subject: 拡大将来構想委員会（委員長連絡会議）の開催について

平成 19年3月1日

各委員会（部会）  
 委員（部会）長 各位

校 長

拡大将来構想計画委員会（委員長連絡会議）の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますので出席願います。

なお、都合により出席できない場合は代理の方を出席させていただきますようお願いします。

## 記

1. 日 時        3月20日（火） 13:30～
2. 場 所        校長室
3. 議 題        今年度の活動状況及び課題について  
                   （各委員会（部会）から説明，課題等について意見交換）
4. その他        今年度の各委員会の業務内容（役職者名簿Sheet1参照），課題及び任務分担表を添付  
                   しますので，この項目を中心に活動状況，課題等をまとめた資料を3月16日（金）  
                   までに総務課企画室（kikaku0）までメールで提出願います。

（出典：総務課保管資料）



資料 11-3-②-2：平成18年度拡大構想計画委員会報告一覧

| 委員会等       | 報告者  | テーマ                                                        |
|------------|------|------------------------------------------------------------|
| 教務主事       | 前田 勉 | 教務委員会・安全衛生委員会報告                                            |
| 研究主事       | 桜野仁志 | 長期インターンシップについて<br>修了生アンケートの実施など                            |
| 地域等交流委員会   | 桜野仁志 | 地域等交流推進委員会・知的財産委員会・外部資金受入委員会報告<br>技術振興交流会<br>津幡町との連携事業について |
| 図書情報主事     | 高島 要 | 図書館委員会・広報委員会・紀要委員会報告<br>「大学コンソーシアム石川」への参加状況                |
| 教員間ネットワーク委 | 出村禧典 | 科目間連携不備点改善手順<br>平成18年度改善項目                                 |
| FD委員会      | 深見哲男 | JABEE 改善指摘項目への取り組み<br>授業アンケートの実施について<br>FD 研修会の開催について      |
| 情報処理センター長  | 金寺 登 | 情報処理センター委員会報告<br>情報セキュリティ委員会システム管理部会報告<br>来年度の改善項目         |
| 学生相談室長     | 太田伸子 | 学生相談室委員会報告<br>学生相談室の活動・今後の課題                               |
| 入学試験実施委員会  | 石渡 博 | 推薦選抜入学者数の検討<br>学力選抜方法の検討<br>入試倍率低下についての調査                  |
| JABEE部会    | 富田充広 | JABEE 改善項目について今年度の取り組みと今後の課題                               |
| 認証評価部会     | 阿蘇和寿 | 今年度受審に向けた経過報告と今後の取組                                        |

(出典：総務課保管資料)

資料 11-3-②-3：平成18年度拡大構想計画委員会資料

(訪問調査時に提示)

(出典：総務課保管資料)

## 2) 拡大将来構想計画委員会による取り組むべきテーマの設定

年度末に行われた運営協議会からの提言や拡大構想計画委員会での報告を受け、次年度に行われるべき改善項目、取り組むべきテーマを設定して協議するのが、年度初めに行われる拡大将来構想計画委員会である。この委員会は本校の解決すべき課題を確認し、その改善状況の把握のために昨年度から設けられたものであり、各種の評価結果を改善に結びつけるシステムとなっている。

資料 11-3-②-4：平成19年度拡大構想計画委員会における改善項目の決定

## 資料 11-3-②-4：平成19年度拡大構想計画委員会における改善項目の決定

## 平成19年度 課題と任務分担

| 課 題            |      | 項 目 等                                                                            | 担当者                  |
|----------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 本校の(簡単な)教育方針   |      | 意識改革<br>規範意識の向上と自学自習の習慣化                                                         | 将来構想計画委              |
| 中期目標・中期計画      |      | 年度計画各事項の実行と評価、第2期中期目標・中期計画の検討開始                                                  | 将来構想計画委              |
| 運営協議会          |      | 認証・評価自己点検報告書完成後の7月あるいは8月と来年2or3月、                                                | 総合企画会議               |
| 認証評価自己評価書      |      | 受審準備、再質問への回答作成、エビデンス収集                                                           | 副校長・認証評価部会           |
| 自己点検評価報告書      |      | 報告書完成 運営協議会に向けた準備                                                                | 副校長・自己点検評価部会         |
| J A B E E再審査   |      | PDCA担当委員会<br>改善事項、達成目標及び実施                                                       | 副校長・JABEE部会          |
| 本科と専攻科の教務事務、行事 |      | 本科と専攻科教務事務、行事担当委員会の統合と仕分け                                                        | 総合企画会議、教務委員会・専攻科委員会  |
| 志望者増加の方策と実践    |      | 志願倍率増、中学校長会・進学担当教員への広報方法の工夫、中学・大手学習塾訪問の時期・回数、配布物、発言マニュアル、その他(地域担当者?、進学担当教員の見学会?) | 入試委・教務委              |
| オープンカレッジ       |      | 実施内容; 学校全体としてのテーマ、学科ごとのテーマ 対象                                                    | 入試委・教務委              |
| 体験入学           |      | 学科間でオーバーラップのないように                                                                | 入試委・教務委              |
| 入学試験           | 追跡調査 | 推薦入試・学力試験成績 中学の成績・評価、入学後の成績、学科間、追跡調査とシミュレーション 入試情報の公開                            | 入試広報・分析委             |
|                | 実施方法 | 推薦入試 評価項目、評価法、試験方法(広報・分析委との協力)、その他<br>学力試験 学科別、グループ、一括採用?、第2志望                   | 入試委<br>入試委           |
| 学科再編           |      | 基本方針、地域、産業構造、ニーズ調査。学生(入学者の希望、地域特性。卒業時における動向)、教職員(専門、年齢構成)                        | 総合企画会議・在り方検討委        |
| FD             |      | 教員資質向上(授業法、学生指導法)、学生の規範意識向上                                                      | FD委                  |
| 教員間ネットワーク      |      | 一般科一専門科の協調・協力 高専機構達成度試験への対応、結果の利用<br>学科別基礎科目の達成目標、達成法<br>カリキュラムの連続性、副担任          | 教員間ネットワーク委           |
| 自学自習(基礎学力の充実)  |      | 全校化への方法論、対象教科、カリキュラム編成、部屋、担当、オフィスアワーの充実                                          | 教務委・寮務委・学生支援委        |
| 大学単位と100分授業    |      | 効果の評価、そのための準備、カリキュラム編成 100分授業と50分授業                                              | 教務委                  |
| 安全教育           |      | ハード、ソフト                                                                          | 教務委・安全衛生委            |
| 学生指導 学生会       |      | ロボコン、プロコン、デザコン 強化の方策、低学年、高学年、制服、あいさつ 表彰、学生(留学生含む)交流活動の充実                         | 教務委・学生支援委            |
| 学生意見の反映        |      | 校長と学生の懇談会 意見箱の設置                                                                 |                      |
| 運動部            |      | 安全指導マニュアル                                                                        | 学生支援委                |
| 自発性            |      | オンリーワンプロジェクト                                                                     | 学生支援委                |
| 寮              |      | 寮生会の強化 先輩から後輩への伝統の継承<br>自学自習<br>新寮概算要求? 出身地、希望者、入学生などと寮生との相関(入試広報・分析委員会との連携)     | 寮務委                  |
| 長期インターンシップ     |      | 産官との協調体制、事前・事後教育法・体制の確立                                                          | 専攻科委                 |
| 地域貢献、地域との交流    |      | 津幡町、企業、人材育成 出前授業                                                                 | 地域等交流推進委             |
| 産学連携           |      | 技術振興交流会の活性化(セミナー、共同研究の促進)、外部資金獲得(科研費の申請増)、オーバーヘッド                                | 企画室・地域等連携推進委・外部資金受入委 |
| 公開講座           |      | 予算、責任体制 収益の還元                                                                    | 企画室・地域等連携推進委         |
| 図書・情報          |      | 図書 情報一元化への考え方<br>アーカイブ化(研究論文、著書、卒論、特別研究・・・)<br>図書・情報センター構想、情報セキュリティ              | 図書館委・情報処理センター委       |
| 校内施設整備と活用      |      | 施設の有効利用、多人数教室、養高館整備、建物、施設、新設、改修、歴史的物品等の保管                                        | 施設整備委                |
| 教育と構内施設配置の関係   |      | 高学年・低学年の定義と教育領域と件領域の配置<br>低学年 講義室、演習室、教員室等の配置                                    | 総合企画会議               |

(出典：総務課保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価結果を改善に結びつけるシステムとして拡大将来構想計画委員会が設置されている。この委員会は年2回開催される。年度末に行われる第2回委員会において当該年度の活動報告がなされ、それを踏まえて、今後、本校が取り組むべき事項への対応が協議され、同時に改善の指示が行われる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 学校を管理運営するために、校長を中心とし、それを補佐する主事・委員会体制および事務組織が確立されている。
- ・ 学内LANにより、教職員はいつでも委員会議事録が閲覧可能な状態になっている。また重要な情報に関してはメールで通知している。
- ・ 自己点検・評価および外部評価（有識者の意見を求める運営協議会やJABEE）を継続的に実施し、報告書等を刊行している。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

## (3) 基準11の自己評価の概要

校長をトップとして、役割が規則で定められている5主事と主事を補佐する主事補佐が配置されている。学校運営の重要事項については総合企画会議と主任会議で審議されて、必要ならば各主事を通じて所掌する各委員会において検討される。それらの審議を経て決定された事項は教員会議または学科会議で通知され、実行に移される。

学校の管理運営を担う委員会は定期的で開催され、また、各委員会には事務職員が参加して委員会の審議結果が事務組織にも反映されるようになっている。

各課係には、分掌業務を担当する事務職員が適切に配置され、事務部長および各課長からの指示の下に業務を遂行している。また、定例会議の運営や予算の適切な執行等にあっても教職員間の密接な連携を保っており、迅速かつ効果的な対応が図られている。技術職員についても、学生の教育や技術支援の体制が適切に整えられている。

管理運営に関する諸規則が規則集で定められており、これらの諸規則は学内のウェブサイト（学内限定）に公開され、全教職員が必要に応じていつでも閲覧できるようになっている。また諸規則の改定があった場合は、全教職員にメールで通知している。

外部有識者からの提言・評価を念頭においた運営協議会が設置されており、これまでに活動を記録した報告書を3回刊行している。これらの提言は外部からの貴重な意見として学校運営に活用されている。

自己点検評価の取り組みは平成4年から継続して行われており、これまでに4回の報告書を刊行し、教職員に配布している。また本校ウェブサイトにも最新の報告書を公表している。平成17年度にはJABEE認定を受けている。

各種の評価結果を改善に結びつけるシステムとして拡大将来構想計画委員会が設置されている。この委員会は年2回開催される。年度末に行われる第2回委員会において当該年度の活動報告がなされ、

それを踏まえて、今後、本校が取り組むべき事項への対応が協議され、同時に改善の指示が行われる。